新潟県埋蔵文化財調査報告書　第210集

北陸新幹線関係発掘調査報告書XV

荒町南新田遺跡

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

北陸新幹線関係発掘調査報告書XV

荒町南新田遺跡
（あらまちみなみしんでん）

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

北陸新幹線は、東京駅を基点に上越新幹線高崎駅で分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・福井県小浜市を経て、大阪市に至る工事延長 600km の新幹線鉄道です。全面開通により、北陸地方と関東圏・関西圏は短時間で結ばれ、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

本書は、この北陸新幹線建設に伴って実施した上越市大字荒町に所在する荒町南新田遺跡の発掘調査報告書です。発掘調査によって、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が見つかり、集落が営まれていたことが分かりました。

平成 19 年度に発掘調査を行った隣接の北新田遺跡と合わせると、弥生時代後期、古墳時代前期～後期、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代にかけて、断続的ながら多時期の集落の移り変わりやそれぞれの生活の様相を知ることができました。また、これに伴い、さまざまな時期の多様な遺物が出土しました。

これらの発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に対し、多大な御協力と御理解を頂きました上越市教育委員会、並びに地元の方々、また発掘調査から本書の作成まで格別な御配慮を頂きました独立行政法人鉄道建設・運輸施設支援機構鉄道建設本部北陸新幹線建設局、同上越鉄道建設所に対し厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

新潟県教育委員会

教 育 長　武藤　克己

例　　言

1　本報告書は、新潟県上越市大字荒町字南新田 286 番地ほかに所在する荒町南新田遺跡の発掘調査記録である。

2　この調査は北陸新幹線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道運輸機構）から受託したものである。

3　発掘調査は県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社ノガミに委託し、埋文事業団の管理・監督のもと平成 20 年 4 月から 11 月にかけて株式会社ノガミが実施した。発掘調査面積は 12,021m^2 である。

4　整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成 20・21 年度に埋文事業団の管理・監督のもと株式会社ノガミがこれに当った。

5　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含観察データ）は、一括して県教委が保管・管理している。データの有無や閲覧希望は、県教委に問い合わせ願いたい。

6　遺物の注記は荒町南新田遺跡の略記号を「アラマ」として、遺構名、出土地点や層位を続けて記した。

7　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。

8　遺物番号は種別に関りなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

9　本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

10　自然科学分析（樹種同定分析・種実遺体分析・寄生虫卵分析・放射性炭素年代測定）はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行い、原稿は再編集したものを掲載した。

11　遺物実測図のデジタルトレースについては、株式会社セビアスに委託した。

12　遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

13　調査成果の一部は『埋文にいがた』63・66 号、『平成 20 年度　新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本報告書をもって正式報告とする。

14　本書の執筆は高橋保雄（埋文事業団調査課課長代理）の指導のもと、金内　元（株式会社ノガミ埋蔵文化財調査部　調査員）、小村正之（同　調査員）、宮　宏明（同　調査員）、竹内順一（同　調査員）、村端和樹（同　調査員）がこれにあたり、墨書土器に関しては相沢　央（新潟市教育委員会）、多字一石経の釈文に関しては前嶋　敏（新潟県立歴史博物館）の各氏に執筆して頂いた。第Ⅱ章 1 は新潟県埋蔵文化財調査報告書第 197 集『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』に掲載したものを一部改変した上で再掲した。編集は金内が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ章 1…高橋、2・3…金内　　第Ⅱ章 1…小村、2…村端　　第Ⅲ章…竹内

第Ⅳ章 1・2…金内、3…小村・宮・竹内・村端・金内

第Ⅴ章 1…金内・村端、2…金内、3 ～ 5…村端、6…宮

第Ⅵ章…千葉博俊・高橋　敦・斎藤崇人・松元美由紀（パリノ・サーヴェイ株式会社）

第Ⅶ章 1・2・5…金内、3…相沢、4…前嶋

15　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を頂いた。ここに記して厚く御礼を申し上げる。（敬称略　五十音順）

植田　真　　金子　拓男　　川崎　義雄　　草間　敬子　　小池　義人　　笹沢　正史　　高橋　理彦

高橋　道房　　田中　耕作　　津田　憲司　　鶴巻　康志　　中西　聡　　野村　忠司　　水澤　幸一

湯原　勝美　　上越市大字上中田町内会　　上越市大字大和三丁目町内会　　上越市教育委員会

上越市整備部新幹線建設対策課

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理の経過 …… 1

A　試 掘 調 査 …… 1

B　本発掘調査 …… 3

C　整　　理 …… 5

3　調査・整理体制 …… 5

A　試 掘 調 査 …… 5

B　本発掘調査・整理 …… 6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 7

1　地理的環境 …… 7

2　歴史的環境 …… 9

第Ⅲ章　調査の概要 …… 13

1　グリッドの設定 …… 13

2　基 本 層 序 …… 14

第Ⅳ章　遺　　構 …… 15

1　概　　要 …… 15

2　記 述 方 法 …… 15

3　遺 構 各 説 …… 17

A　弥生時代後期の遺構 …… 17

B　古墳時代前期～古墳時代中期の遺構 …… 21

C　古墳時代後期の遺構 …… 24

D　古代の遺構 …… 29

E　中世の遺構 …… 40

F　時期不明の遺構 …… 63

G　自 然 流 路 …… 75

第Ⅴ章　遺　　物 …… 76

1　概　　要 …… 76

2　土器・土製品・陶磁器 …… 79

A　土器・陶磁器の分類 …… 79

B　遺構内出土 …… 85

C　自然流路出土 …… 94

D　遺構外出土 …… 96

3　石器・石製品 …… 97
A　弥生時代後期・古墳時代 …… 97
B　古　　代 …… 98
C　中　　世 …… 98
4　ガラス製品 …… 99
5　金 属 製 品 …… 99
6　木　製　品 …… 100
A　自然流路出土 …… 100
B　遺構内出土 …… 100
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 102
1　試　　料 …… 102
A　土壌試料・種実遺体 …… 102
B　木　製　品 …… 102
C　炭　化　材 …… 102
2　分 析 方 法 …… 103
A　放射性炭素年代測定 …… 103
B　寄生虫卵分析 …… 103
C　種 実 同 定 …… 104
D　樹 種 同 定 …… 104
3　結　　果 …… 104
A　放射性炭素年代測定 …… 104
B　寄生虫卵分析 …… 104
C　種 実 同 定 …… 106
D　樹 種 同 定 …… 111
4　考　　察 …… 112
A　トイレ遺構の検討 …… 112
B　古植生及び植物利用 …… 113
第Ⅶ章　ま　と　め …… 120
1　北新田遺跡・荒町南新田遺跡における遺構の変遷 …… 120
2　古墳時代後期竪穴住居出土の楕円礫について …… 127
3　墨書土器について …… 130
4　SE916 出土多字一石経の釈文 …… 133
5　SE916 出土多字一石経について …… 135
A　新潟県内の一石経 …… 135
B　中世の井戸から出土する石造物について …… 139
《要　　約》 …… 141
《引用・参考文献》 …… 142
《遺構観察表・遺物観察表》 …… 145

挿図目次

第 1 図　北陸新幹線の路線と遺跡の位置……2
第 2 図　試掘トレンチ配置図……3
第 3 図　遺跡とその周辺の地形……8
第 4 図　遺跡と旧河川流路図……8
第 5 図　御館と春日山城……10
第 6 図　中世の遺跡・石造物等の分布図……11
第 7 図　グリッド設定図……13
第 8 図　小グリッド模式図……13
第 9 図　基本土層位置図……13
第 10 図　基本土層図……14
第 11 図　遺構の平面形状の分類……16
第 12 図　遺構の断面形状の分類……16
第 13 図　覆土の堆積形状の分類……16
第 14 図　土器・陶磁器出土分布図（1）……77
第 15 図　土器・陶磁器出土分布図（2）……78
第 16 図　器種分類図（弥生時代後期～古墳時代中期）……80
第 17 図　器種分類図（古墳時代後期）……81
第 18 図　器種分類図（古代）……83
第 19 図　器種分類図（中世）……84
第 20 図　花粉化石群集……105
第 21 図　寄生虫卵・花粉化石・種実遺体（1）…117
第 22 図　種実遺体（2）・木材・炭化材（1）……118
第 23 図　木材・炭化材（2）……119
第 24 図　遺構の変遷（1）……121
第 25 図　遺構の変遷（2）……123
第 26 図　遺構の変遷（3）……126
第 27 図　楕円礫出土分布図……128
第 28 図　楕円礫長重分布図……129
第 29 図　墨書土器出土分布図……131
第 30 図　北新田遺跡出土墨書土器……132
第 31 図　荒町南新田遺跡出土墨書土器……133
第 32 図　多字一石経 1 の釈文……134

表　目　次

第 1 表　土器・土製品・陶磁器種類別出土一覧表……76
第 2 表　放射線炭素年代測定結果……105
第 3 表　暦年較正結果……105
第 4 表　寄生虫卵分析結果……106
第 5 表　種実分析結果……107
第 6 表　樹種同定結果（木製品）……111
第 7 表　樹種同定結果（炭化材）……111
第 8 表　新潟県の一石経（1）……136
第 9 表　新潟県の一石経（2）……137
第 10 表　掘立柱建物柱穴観察表（1）……145
第 11 表　掘立柱建物柱穴観察表（2）……146
第 12 表　掘立柱建物柱穴観察表（3）……147
第 13 表　掘立柱建物柱穴観察表（4）……148
第 14 表　掘立柱建物柱穴観察表（5）……149
第 15 表　掘立柱建物柱穴観察表（6）……150
第 16 表　掘立柱建物柱穴観察表（7）……151
第 17 表　掘立柱建物柱穴観察表（8）……152
第 18 表　掘立柱建物柱穴観察表（9）……153
第 19 表　掘立柱建物柱穴観察表（10）……154
第 20 表　掘立柱建物柱穴観察表（11）……155
第 21 表　掘立柱建物柱穴観察表（12）……156
第 22 表　掘立柱建物柱穴観察表（13）……157
第 23 表　掘立柱建物柱穴観察表（14）……158
第 24 表　掘立柱建物柱穴観察表（15）・杭列柱穴観察表（1）……159
第 25 表　杭列柱穴観察表（2）……160
第 26 表　道観察表……161
第 27 表　畑作溝観察表……162
第 28 表　土器・土製品・陶磁器観察表（1）……163
第 29 表　土器・土製品・陶磁器観察表（2）……164
第 30 表　土器・土製品・陶磁器観察表（3）……165
第 31 表　土器・土製品・陶磁器観察表（4）……166
第 32 表　土器・土製品・陶磁器観察表（5）……167
第 33 表　土器・土製品・陶磁器観察表（6）……168
第 34 表　土器・土製品・陶磁器観察表（7）……169
第 35 表　土器・土製品・陶磁器観察表（8）……170
第 36 表　石器・石製品ほか観察表……171
第 37 表　木製品観察表……172

図版目次

〔図面図版〕
図版 1　北新田遺跡・荒町南新田遺跡　遺構配置図
図版 2　遺構分割図 1
図版 3　遺構個別図 1　SB840、SE914、SK803
図版 4　遺構個別図 2　SE797・809、SD807・808・902

図版 5　遺構分割図 2
図版 6　遺構個別図 3　SB844・851・912・928・1716・1201、SA936、SE806・820
図版 7　遺構個別図 4　SE817・901・903、SK816・904
図版 8　遺構個別図 5　SB864、SE915・916、SK821・841・842・940
図版 9　遺構分割図 3
図版 10　遺構個別図 6　SB1266・1270・1275・1701、SE824、SK917・1181・1187
図版 11　遺構個別図 7　SK1261・1264・1278・1280、SX1263、SD518・815・1180・1192・1262・1265
図版 12　遺構分割図 4
図版 13　遺構個別図 8　SB1104・1160、SK1170・1171・1174、SD357
図版 14　遺構分割図 5
図版 15　遺構個別図 9　SB1114・1154・1215
図版 16　遺構個別図 10　SB1155・1230、SA1198
図版 17　遺構個別図 11　SE1102・1103、SK1242
図版 18　遺構分割図 6
図版 19　遺構個別図 12　SB110・390
図版 20　遺構個別図 13　SB125・130・137・701・1918
図版 21　遺構個別図 14　SE120・1101、SK105・122・147
図版 22　遺構分割図 7
図版 23　遺構個別図 15　SB201
図版 24　遺構個別図 16　SB151・174・175、SE159・163
図版 25　遺構個別図 17　SE290・671・672、SX199
図版 26　遺構分割図 8
図版 27　遺構個別図 18　SB480・493・782、SE789、SK798・800
図版 28　遺構個別図 19　SX951、SD461 ～ 464・466 ～ 471・473・518・790 ～ 796・902・1724
図版 29　遺構分割図 9
図版 30　遺構分割図 10
図版 31　遺構分割図 11
図版 32　遺構個別図 20　SB725・944、SE799・913、SD357・475 ～ 479・518
図版 33　遺構個別図 21　SB360・770、SE358・359・389、SK367・368・370 ～ 372・1184・1185、SD357・369・733
図版 34　遺構分割図 12
図版 35　遺構個別図 22　SB711、SE200・251
図版 36　遺構個別図 23　SB279・1940、SA252・266
図版 37　遺構分割図 13
図版 38　遺構個別図 24　SB301
図版 39　遺構個別図 25　SB51
図版 40　遺構個別図 26　SB75・84・335・341・1930、SK93・94
図版 41　遺構個別図 27　SE91・92、SK98・99
図版 42　遺構分割図 14
図版 43　遺構個別図 28　SB13・22・31・346、SE12・20、SK11、SX1・7、SD10・73・96・97
図版 44　遺構分割図 15
図版 45　遺構個別図 29　SX8、SD2 ～ 6・9・21
図版 46　遺構分割図 16
図版 47　遺構個別図 30　SI501
図版 48　遺構個別図 31　SI519
図版 49　遺構個別図 32　SB531・952、SK504、SD357・505・516
図版 50　遺構個別図 33　SI521、道Ⅰ群
図版 51　遺構分割図 17
図版 52　遺構個別図 34　SB583・681・1057、SD602・666・1027
図版 53　遺構個別図 35　SK506・564・594・596・598 ～ 600・698・1006・1054・1393
図版 54　遺構個別図 36　道Ⅱ群
図版 55　遺構分割図 18
図版 56　遺構個別図 37　SB668・1715、SA663、SK603・617・618、SD601・602・607・665
図版 57　遺構個別図 38　SE604・605、SK619・626、SX662
図版 58　遺構分割図 19
図版 59　遺構個別図 39　SX430・431
図版 60　遺構個別図 40　SI438、SB377・1708、SK734・736、SD437・606
図版 61　遺構個別図 41　SE426 ～ 428・448 ～ 451
図版 62　遺構分割図 20
図版 63　遺構個別図 42　SB408・415・439・919・1414
図版 64　遺構個別図 43　SB1782、SK404・406・407・1401、SX1748、SD403・429・1295・1296
図版 65　遺構分割図 21
図版 66　遺構個別図 44　SX1080
図版 67　遺構個別図 45　SI1356・1395

図版 68　遺構個別図 46　SI1305、SB1840、SA1302
図版 69　遺構個別図 47　SE1082・1083・1085・1086・1399、SK1081・1084・1396
図版 70　遺構個別図 48　SK1802 ～ 1807・1817、SX1336・1339・1369
図版 71　遺構分割図 22
図版 72　遺構個別図 49　SI1820・1821、SK1640・1839
図版 73　遺構個別図 50　SI1615、SB1626・1887
図版 74　遺構個別図 51　SB1452・1760
図版 75　遺構個別図 52　SB1460・1482、SE1853・1854・1864、SX1823
図版 76　遺構個別図 53　SK1562・1620・1822・1824・1886・1899、SD1601・1602、道Ⅲ群
図版 77　遺構分割図 23
図版 78　遺構個別図 54　SB1500・1750・1762
図版 79　遺構個別図 55　SB1440・1470・1761、SA1711、SD1296
図版 80　遺構個別図 56　SB1905、SA1265・1281・1423・1797・1901、SK885・1285・1289・1293・1745、SD1290
図版 81　遺構個別図 57　SK1405、SX1404・1406、SD607・879・893・1409
図版 82　遺構分割図 24
図版 83　遺構個別図 58　SI900・1510
図版 84　遺構個別図 59　SI1604
図版 85　遺構個別図 60　SI1604 カマド
図版 86　遺構個別図 61　SB880・1954、SE871・872・882・1060・1061、SK878・883
図版 87　遺構個別図 62　SK884・1505・1508・1524・1541・1551・1559・1614、SD1502・1503・1607 ～ 1609・1613
図版 88　遺構個別図 63　SE503・1199、SX1570・1801
図版 89　遺構分割図 25
図版 90　自然流路・杭列セクション図
図版 91　遺構出土土器 1（SI）
図版 92　遺構出土土器 2（SI）
図版 93　遺構出土土器・土製品 3（SI）
図版 94　遺構出土土器・土製品 4（SI）
図版 95　遺構出土土器・土製品 5（SI）
図版 96　遺構出土土器・土製品 6（SI）
図版 97　遺構出土土器 7（SX1080・SB）
図版 98　遺構出土土器・陶磁器 8（SB・SE）
図版 99　遺構出土土器 9（SE）
図版 100　遺構出土土器・陶磁器 10（SE）
図版 101　遺構出土土器・陶磁器 11（SE・SK）
図版 102　遺構出土土器・陶磁器 12（SK）
図版 103　遺構出土土器・陶磁器 13（SX・SD）
図版 104　遺構出土土器・陶磁器 14（SD）
図版 105　自然流路出土土器 1（弥生・古墳時代）
図版 106　自然流路出土土器･土製品 2（古墳時代後期･古代）
図版 107　自然流路出土土器 3（古代・縄文）、遺構外出土土器 1（弥生時代後期）
図版 108　遺構外出土土器･土製品 2（弥生･古墳時代）
図版 109　遺構外出土土器 3（古代）
図版 110　遺構外出土土器・土製品 4（古代）
図版 111　遺構外出土土器・陶磁器 5（中世）
図版 112　石器・石製品 1
図版 113　石器・石製品 2
図版 114　石器・石製品 3
図版 115　石器・石製品 4、ガラス製品、金属製品
図版 116　木製品 1
図版 117　木製品 2
図版 118　木製品 3
図版 119　木製品 4
〔写真図版〕
図版 120　調査区遠景・全景
図版 121　SI501・1305
図版 122　SI1604
図版 123　SX1080、道
図版 124　SB201・301
図版 125　SE916、自然流路
図版 126　基本層序、SI501
図版 127　SI519・521・438
図版 128　SI1356・1395・1305
図版 129　SI1820・1821、SK1822・1839
図版 130　SI1821・1615
図版 131　SI900
図版 132　SI1510
図版 133　SI1604
図版 134　SX1570、SB840・844・851・912・928・1716・1201
図版 135　SB1266・1270・1275・1701・1104・1160
図版 136　SB1215・1230・1114・1154・1155・110・390・701・1918・137・130・125、SA1198
図版 137　SB201
図版 138　SB151・174・175・782・480
図版 139　SB493・944・725・360・770・711・1940・279・301
図版 140　SB301

図版 141　SB51・335・1930・75
図版 142　SB341・84・346・31・22・13
図版 143　SB952・531
図版 144　SB1057・681
図版 145　SB583・668・1715・1708
図版 146　SB377
図版 147　SB439・415・408・919・1414・1782・1840・1626
図版 148　SB1887・1760
図版 149　SB1452・1460
図版 150　SB1482・1500・1750
図版 151　SB1761・1470・1440・1905・880、SA1711・936
図版 152　SA252・266・663・1302・1281・1797・1901・1265・1423
図版 153　SE797・809・806・820
図版 154　SE817・901・903・915、SK904
図版 155　SB864、SE916・824・1102
図版 156　SE1103・120・1101・159
図版 157　SE163・290・671・672・799
図版 158　SE358・359・389・200
図版 159　SE251・91・92・12
図版 160　SE20・604・605・449・451
図版 161　SE450・426・427・428
図版 162　SE448・1082・1086・1399
図版 163　SE1083・1085・1853・1864・1854・871
図版 164　SE872・882・1060・1061
図版 165　SE503・1199・914、SK803
図版 166　SK816・821・841・842・940
図版 167　SK917・1181・1187・1261・1280・1264、SD1180
図版 168　SK1278・1171・1170・1242・122・105・147
図版 169　SE789、SK798・800・913・367・368
図版 170　SK370・371・372・1184・1185・94・93
図版 171　SK98・99・11・504・506・596・564・594
図版 172　SK598・599・600・698・1054・1006・1393・603
図版 173　SK617・618・619・626・734・736・404
図版 174　SK406・1401・1081・1802 ～ 1807・1817・1084・1839・1886
図版 175　SK1824・1822・1899・1562・1620・1285
図版 176　SK1293・885・878・1559・883・1505
図版 177　SK884・1508・1524・1541・1551・1614、SX1263
図版 178　SX199・951・1・7・8・662・407
図版 179　SX430・431
図版 180　SX1080・1339・1369・1336
図版 181　SK1405、SX1823・1404・1406・1801、SD801・802・814・902
図版 182　SD807・808・518・1192・1262・357・369
図版 183　SD357・471・473・475・478・476・477・733・96・97・73
図版 184　SK11、SD10・2・3 ～ 6・9・21・666・1027・601・602・665
図版 185　SD607・606・437・429・403・1295・1370
図版 186　SD1428・1601・1602・1409・879・893・1502・1503
図版 187　SD1613・461 ～ 470・790 ～ 796・1724・1725・742 ～ 755、道
図版 188　道、自然流路
図版 189　自然流路
図版 190　遺構出土土器 1
図版 191　遺構出土土器 2
図版 192　遺構出土土器・土製品 3
図版 193　遺構出土土器・土製品 4
図版 194　遺構出土土器・土製品 5
図版 195　遺構出土土器・土製品 6
図版 196　遺構出土土器・陶磁器 7
図版 197　遺構出土土器・陶磁器 8
図版 198　遺構出土土器・陶磁器 9
図版 199　遺構出土土器・陶磁器 10
図版 200　遺構出土土器・陶磁器 11
図版 201　自然流路出土土器・土製品 1
図版 202　自然流路出土土器 2
図版 203　自然流路出土土器 3、遺構外出土土器 1
図版 204　遺構外出土土器・土製品 2
図版 205　遺構外出土土器 3
図版 206　遺構外出土陶磁器、石器・石製品 1
図版 207　石器・石製品 2
図版 208　石器・石製品 3
図版 209　石器・石製品 4、ガラス製品、金属製品、木製品 1
図版 210　木製品 2
図版 211　木製品 3
図版 212　木製品 4

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

北陸新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設される新幹線鉄道である。上越新幹線高崎駅で分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を経由し、東京都と大阪市を結ぶ路線である。総延長 700km のうち、高崎・長野間は既に平成 9（1997）年 10 月に開業している。その後、長野市を基点とし、長野県飯山市を経て上越市に至る長野・上越間の延長 60km は、昭和 47（1972）年に基本計画が、翌年に整備計画が決定され、平成 10 年 3 月に長野・上越間の工事実施計画が認可された。これを受けて、日本鉄道建設公団（以下「鉄建公団」という）北陸新幹線建設局と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の分布調査・試掘確認調査等に関する協議が本格化した。

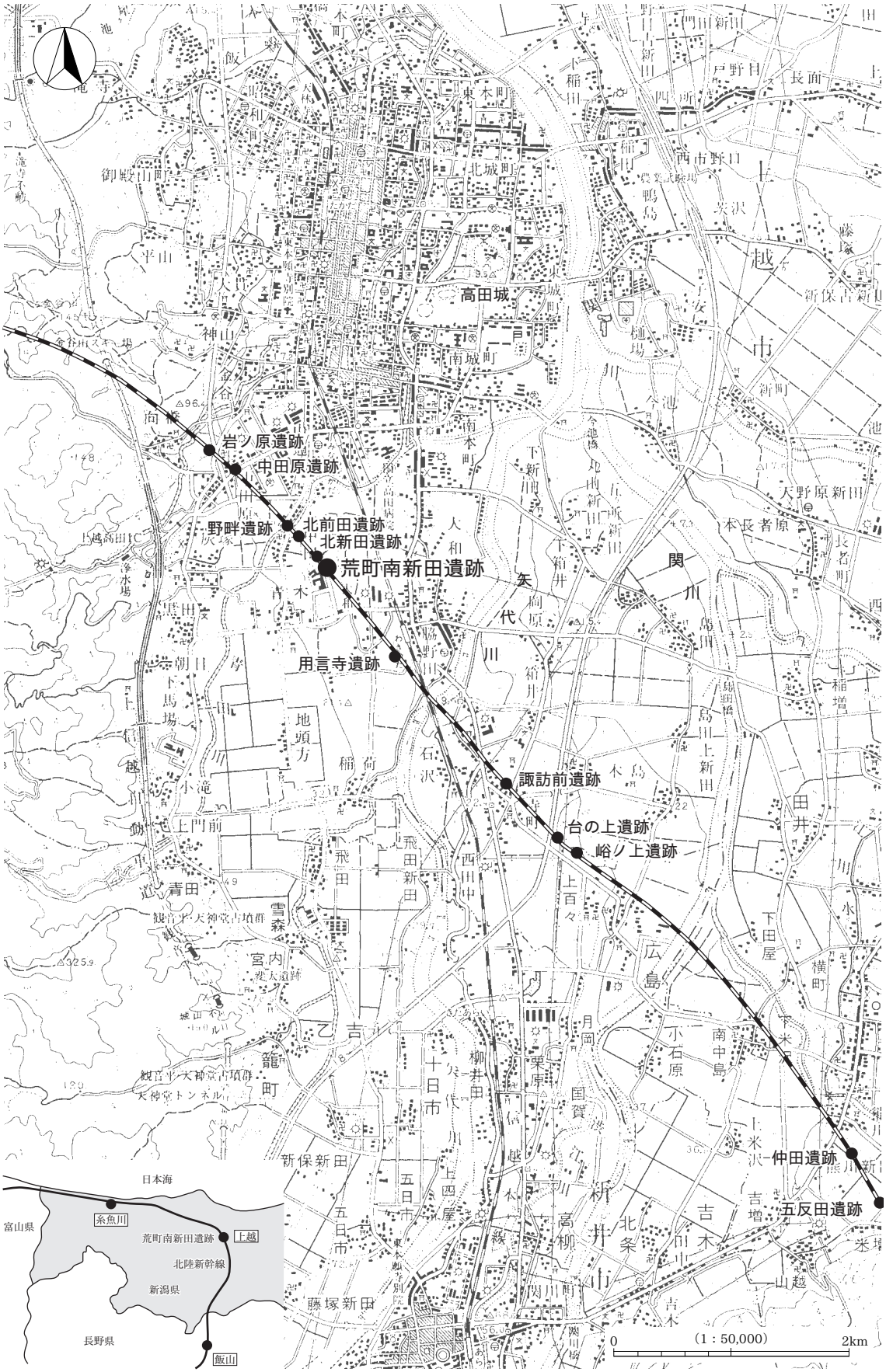
平成 10 年 9 月、鉄建公団から分布調査の依頼を受けた県教委は、平成 10 年 11 月に調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の具体的な規模・内容等は不明であるものの、今後、試掘確認調査を実施して取り扱いを判断する必要があると回答した。平成 18 年 3 月、鉄道運輸機構から上越市内の試掘確認調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。平成 18 年 11 月に上越市上中田地区の試掘調査を行ったところ、3 区域から遺構・遺物が認められ、新遺跡として「北前田遺跡」「北新田遺跡」「荒町南新田遺跡」をそれぞれ周知した。新幹線本線部分、保守基地、消雪基地の建設予定地に係る北前田遺跡は 4,850m^2、北新田遺跡は 6,800m^2 の本発掘調査が必要とした。荒町南新田遺跡は一部未買収地があるため、調査面積の確定には至らなかった。平成 19 年 11 月、用地買収の完了を待って再度確認調査を実施し、11,850m^2 の本調査必要面積が確定した。

試掘確認調査の結果を受けて、鉄道運輸機構は県教委に対して早期に発掘調査の実施を要望した。その結果、工事工程の関係から平成 19 年度に北前田遺跡・北新田遺跡の調査を実施した。さらに平成 20 年 3 月、鉄道運輸機構から荒町南新田遺跡の本発掘調査の依頼を県教委が受託し、同年 4 月から埋文事業団が調査に着手した。本調査依頼面積は 11,850m^2 である。

2　調査と整理の経過

A　試 掘 調 査

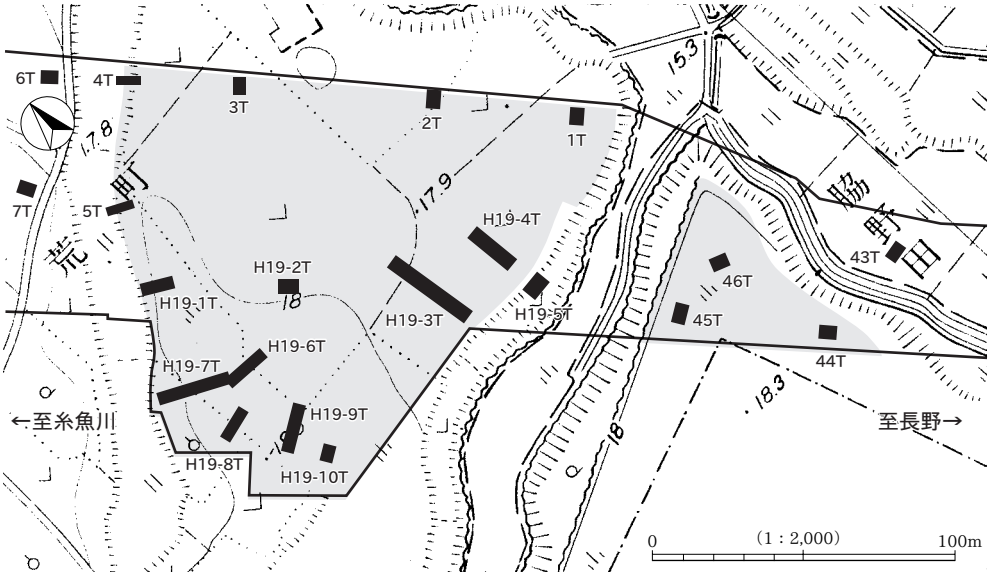
上越市大字荒町字南新田における北陸新幹線建設予定地の試掘調査は、平成 18 年 11 月 13 ～ 30 日に実施した。調査対象範囲にトレンチを任意に設定し、バックホー及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。ただし、この時点では未買収地が多かったので、試掘トレンチを牧草地に 5 か所（トレンチ 1 ～ 5）、沢を挟んだ県立上越養護学校サッカー場のバックネット裏に 3 か所（トレンチ 44 ～ 46）設定しただけである（第 2 図）。この結果、トレンチ 1・2・3・44・45 で井戸・土坑・溝等を検出し、遺物はトレンチ 1 で中世土師器皿、トレンチ 2 で土師器椀、トレンチ 44 で珠洲焼片口鉢、トレンチ 45 で土師器がそれぞれ出土した。このため周辺と比べて標高の一段高い平坦面を新遺跡として、「荒町南新田遺跡」と命名した。



第１図　北陸新幹線の路線と遺跡の位置

［国土地理院発行「高田東部」「高田西部」1：50,000 原図］

平成 19 年 11 月 14 ～ 15 日には残りの区域の確認調査を行い、トレンチを 10 か所（トレンチ H19-1 ～ 10）設定した（第 2 図）。同時期に行った北新田遺跡の発掘調査では旧青田川と考えられる自然流路を検出しており、荒町南新田遺跡にはその続きがあることが予想された。そのため、自然流路と遺跡の境界を検出するように努めた。結果、トレンチ H19-1 ～ 4・6 ～ 8・10 で土坑・ピット等を検出し、トレンチ H19-6・8 では自然流路の右岸を確認した。遺物はトレンチ H19-1 ～ 4・6・7・9・10 で古墳時代、古代、中世の土師器や古代の須恵器等が出土した。以上の結果、荒町南新田遺跡の本発掘調査必要面積は、遺構・遺物が認められないトレンチ H19-5 周辺を除く 11,850m² とした。



第 2 図　試掘トレンチ配置図（S=1/2,000、アミは本発掘調査必要範囲）

B　本発掘調査

4 月　17 日、県立上越養護学校サッカー場のバックネット裏（49 ～ 55･G ～ K グリッド）からバックホーによる表土除去を行う。包含層は残存していないため、遺構検出面までバックホーで掘削することとした。23 日、49 ～ 55･G ～ K グリッドの表土除去終了。沢を挟んで北側の牧草地に移動し、再び表土除去を行う。28 日、作業員を投入する。調査区際にトレンチを設けて、遺跡の内容確認を行う。30 日、49 ～ 55・G ～ K グリッド及び牧草地南側（43 ～ 47・D ～ H グリッド）から遺構検出を行う。この結果、中世の掘立柱建物・井戸・溝等を検出する。

5 月　12 日、同グリッドの遺構掘削を開始する。26 日、39 ～ 46・G ～ K グリッドの遺構検出を行う。この結果、弥生時代の平地建物・溝及び古代～中世の掘立柱建物・井戸等を検出する。28 日、49 ～ 54・G ～ K グリッドの遺構掘削を終了する。

6 月　2 日、39 ～ 46・G ～ K グリッドの遺構掘削を開始する。4 日、43 ～ 47・D ～ H グリッドの遺構掘削を終了する。39 ～ 43･D ～ F グリッド及び 35 ～ 43･L ～ O グリッドを残して表土除去をいったん終了する。5 日、34 ～ 38・D ～ K グリッドの遺構検出を行う。この結果、古墳時代の竪穴住居・土坑及び中世の区画溝・井戸等を検出する。10 日、同グリッドの遺構掘削を開始する。43 ～ 55・D ～ K グリッドについて県教委に終了確認の検査を受ける。17 日、39 ～ 42・G ～ K グリッドの遺構掘削を終了する。19 日、43 ～ 47・D ～ F 及び 39 ～ 55・G ～ K グリッドの航空写真撮影を行い、平面測量

も終了する。25 日、39 ～ 42・G ～ K グリッドについて県教委に終了確認の検査を受ける。30 日、43 ～ 55・D ～ K グリッドを鉄道運輸機構に引き渡す。

7 月　7 日、39 ～ 43・D ～ F グリッドの表土除去を行う。15 日、同グリッドの表土除去を終了し、遺構検出を行う。この結果、中世の掘立柱建物・井戸等を検出する。16 日、35 ～ 38・L ～ O グリッドの表土除去を行う。17 日、同グリッドの表土除去を終了する。23 日、39 ～ 43・D ～ F グリッドの遺構掘削を開始する。28 日、34 ～ 38・D ～ K グリッドの遺構掘削を終了する。30 日、同グリッドの航空写真撮影を行い、平面測量も終了する。35 ～ 38・L ～ O グリッドの遺構検出を行う。この結果、北側に隣接する北新田遺跡の続きと考えられる自然流路、古墳時代の竪穴住居・円形周溝状遺構等を検出する。

8 月　1 日、34 ～ 38・D ～ K グリッドについて県教委に終了確認の検査を受ける。18 日、35 ～ 38・L ～ O グリッドの遺構掘削を開始する。39 ～ 43・L ～ O グリッドの表土除去を行う。この地区は包含層が確認されるため、包含層上面までバックホーで掘削することとした。26 日、39 ～ 43・L ～ O グリッドの表土除去を終了し、表土除去はすべて終了した。引き続き同グリッドの包含層掘削を人力で行う。31 日、34 ～ 42・G ～ K グリッドを鉄道運輸機構に引き渡す。

9 月　2 日、39 ～ 43・D ～ F グリッドの遺構掘削を終了し、県教委に終了確認の検査を受ける。5 日午前、県教委主催の埋蔵文化財講座（遺跡見学会）を行う。参加者 40 名。10 日午前、上越市立黒田小学校生徒（6 年生）発掘体験学習を行う。参加者 33 名。16 日、自然流路をバックホーで掘削する。18 日、バックホーによる自然流路の掘削を終了する。39 ～ 43・D ～ F グリッドの航空写真撮影を行い、平面測量も終了する。25 日、39 ～ 43・L ～ O グリッドの包含層掘削を終了し、遺構検出を行う。この結果、古墳時代の竪穴住居、古代の掘立柱建物・溝、中世の井戸・溝等を検出する。29 日、同グリッドの遺構掘削を開始する。

10 月　1 日午前、現地説明会に関する報道公開を行う。3 日、自然流路の航空写真撮影を行う。4 日、現地説明会を開催する。見学者 180 名。31 日、34 ～ 42・D ～ F グリッドを鉄道運輸機構に引き渡す。

11 月　15 日、39 ～ 43・L ～ O グリッドの遺構掘削を終了する。21 日、同グリッドの航空写真撮影を行い、県教委に終了確認の検査を受ける。28 日、平面測量を終了し、本発掘調査はすべて終了した。調査面積は 12,021m^2 である。

9 月 5 日に行われた県教委主催の埋蔵文化財講座

C　整　　理

平成 20 年度

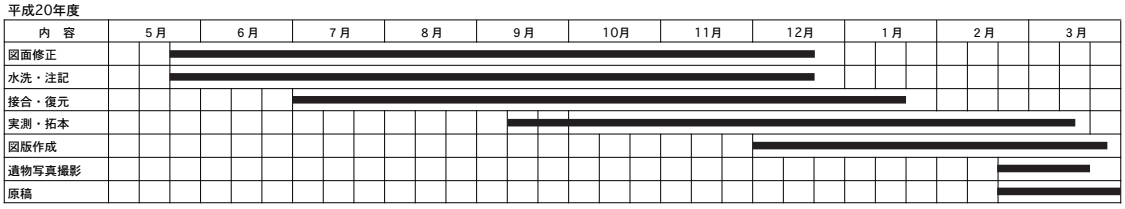
現地作業棟では図面・写真の整理及び出土遺物の水洗・注記を平成 20 年 5 月から行った。株式会社ノガミ亀田整理所では遺物の接合・復元を 7 月から、遺物実測図・拓本の作成を 10 月から、それぞれ本発掘調査と並行して行った。

本発掘調査終了後の平成 20 年 12 月から同整理所で、本格的な整理作業を実施した。遺構図面図版組み、遺構写真図版作成、遺物図面図版組みを 12 月から平成 21 年 3 月上旬にかけて行い、遺物写真撮影、第Ⅰ～Ⅴ章の原稿執筆を 2 月末から 3 月にかけて行った。

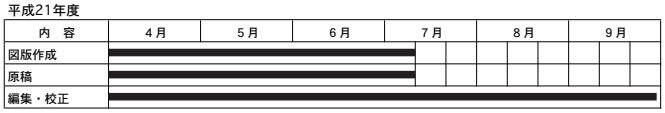
平成 21 年度

株式会社ノガミ亀田整理所において遺物写真図版組み、第Ⅳ～Ⅶ章の原稿執筆を 4 月から 7 月にかけて行い、4 月から 9 月にかけて編集・校正を行った。主な流れは下記のとおりである。

平成20年度



平成21年度



3　調査・整理体制

A　試 掘 調 査

平成 18 年度

調査期間　平成 18 年 11 月 13 日～ 11 月 30 日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管　　理　波多　俊二（事務局長）

斎藤　　栄（総務課長）

庶　　務　長谷川　靖（　同　班長）

調査指導　藤巻　正信（調査課長）

調査担当　田海　義正（　同　試掘確認調査担当課長代理）

調査職員　田中　一穂（　同　嘱託員）

平成 19 年度

調査期間　平成 19 年 11 月 14 日～ 11 月 15 日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
　管　　理　木村　正昭（事務局長）
　　斎藤　　栄（総務課長）
　庶　　務　長谷川　靖（　同　班長）
　調査指導　藤巻　正信（調査課長）
　調査担当　高橋　保雄（　同　本発掘調査担当課長代理）

B　本発掘調査・整理

平成 20 年度

調査期間　平成 20 年 4 月 17 日～平成 20 年 11 月 28 日
整理期間　平成 20 年 12 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
　管　　理　木村　正昭（事務局長）
　　斎藤　　栄（総務課長）
　　藤巻　正信（調査課長）
　庶　　務　長谷川　靖（総務課班長）
　監　　督　高橋　保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）
　　調査組織　株式会社ノガミ
　　現場代理人　伊藤　正紀（埋蔵文化財調査部）
　　調 査 指 導　戸根与八郎（　同　調査室長）
　　調 査 担 当　金内　　元（　同　調査員）
　　調　査　員　小村　正之（　同　調査員）
　　宮　　宏明（　同　調査員）
　　竹内　順一（　同　調査員）
　　村端　和樹（　同　調査員）

平成 21 年度

整理期間　平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日
整理主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
整　　理　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
　管　　理　木村　正昭（事務局長）
　　斎藤　　栄（総務課長）
　　藤巻　正信（調査課長）
　庶　　務　長谷川　靖（総務課班長）
　監　　督　高橋　保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）
　　整理組織　株式会社ノガミ
　　整理指導　戸根与八郎（埋蔵文化財調査部調査室長）
　　整理担当　金内　　元（　同　調査員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

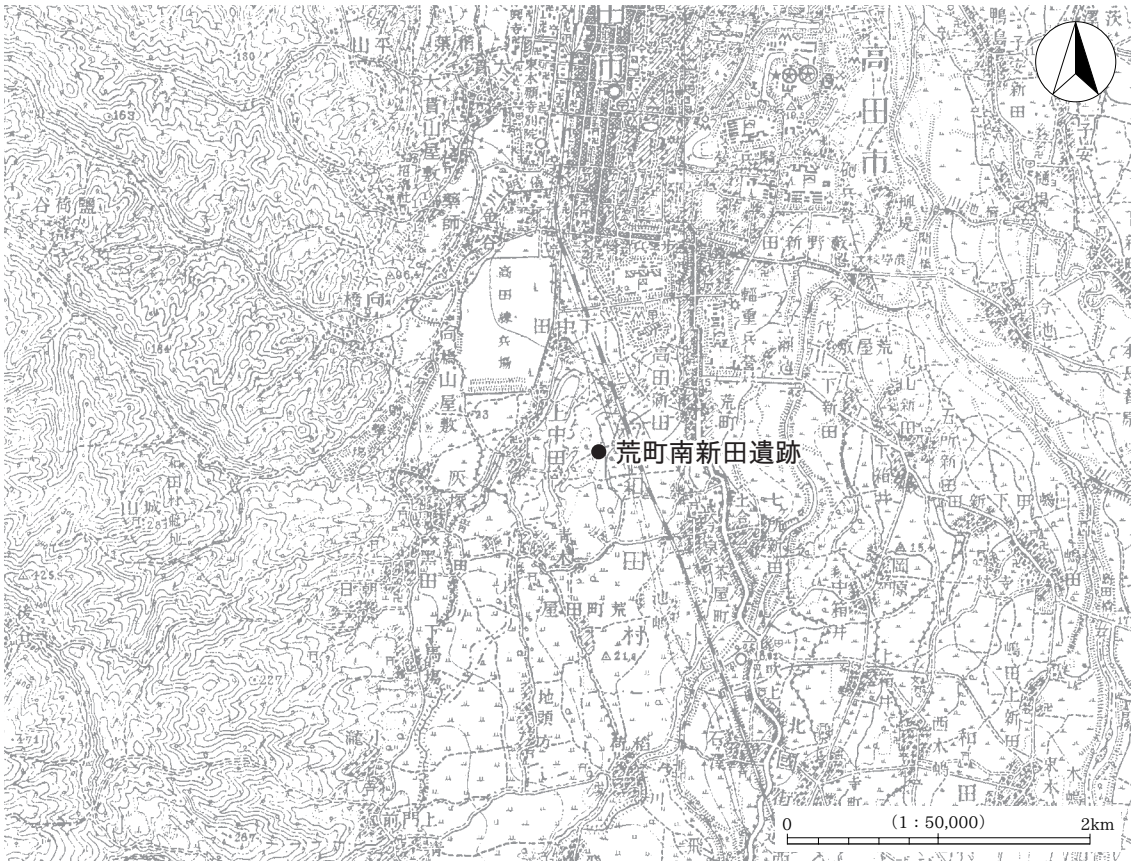
荒町南新田遺跡が所在する高田平野は、新潟県の南西部に位置する。

高田平野の周辺を概観すると、北側は海岸砂丘である潟町砂丘を隔てて日本海と接する。北東～南東側は東頸城丘陵を隔てて、標高 993m の米山を主峰とする米山山地や、標高 1,000m 前後の山が連なる関田山脈がある。南側は富士火山帯の北端部にあたる妙高・黒姫・飯縄・焼山の各火山、南西～西側は標高 2,462m の火打山から同 949m の南葉山（青田難波山）に至る西頸城山地、西～北西側は西頸城丘陵がある。

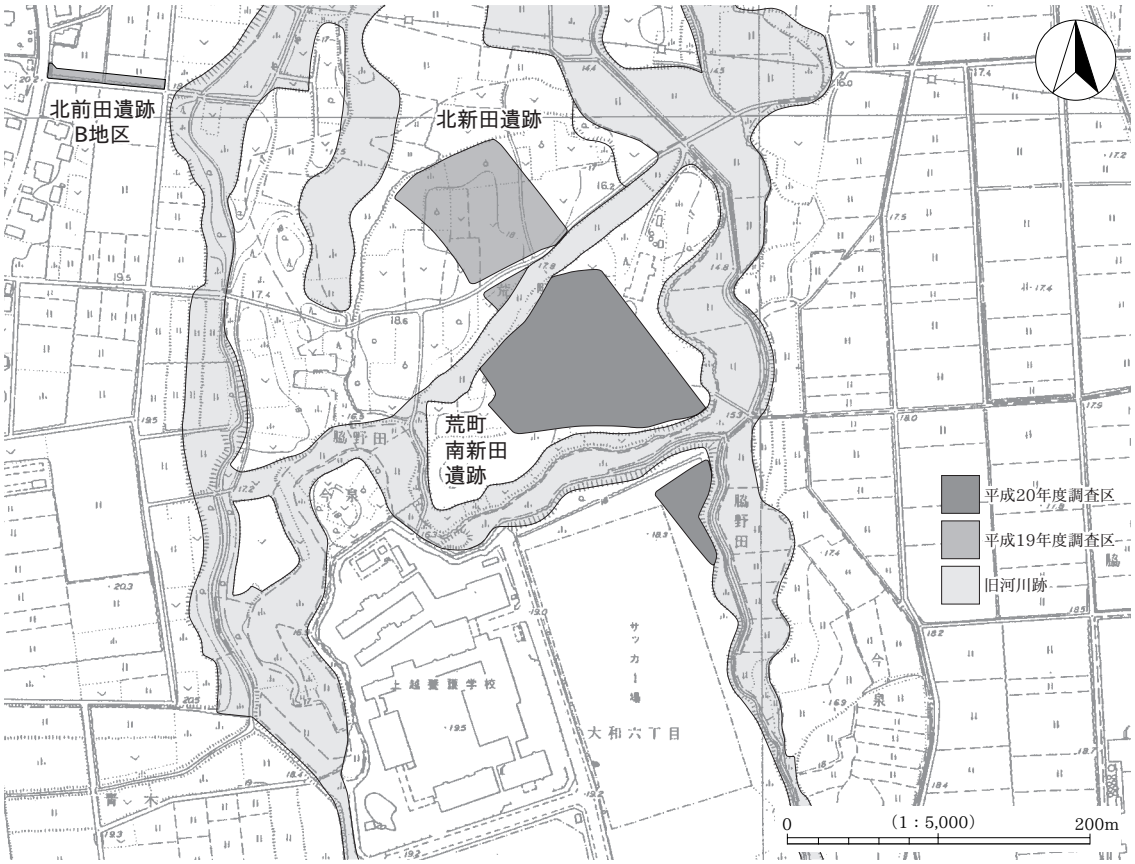
高田平野で最大の河川である関川は、西頸城山地や信越国境の山々を水源として信越国境沿いを東へ流れ、野尻湖から流れ出た池尻川と合流後、北東に向きを変え、妙高市で平野に入って扇状地を形成し、平野部の西寄りを北へ貫流して直江津で日本海に注ぎ込む。その途上には多くの支流が平野部で扇状地を形成して合流する。そのうち本遺跡が所在する関川の左岸では、遺跡の南側を流れる矢代川が西頸城山地を水源として、高田城の東側で関川と合流する。本遺跡のすぐ北西側を流れる青田川やさらにその北西に流れる儀明川はいずれも西頸城丘陵から流れ出し、高土町付近で両河川が一本となり、さらに関川に流れ込む。関川・青田川・儀明川は、近世初頭の高田城築城の際に付け替え工事が行われ、関川は現在の稲田橋付近の旧蛇行部分をカットして、外堀として利用され、青田川や儀明川もこの時にほぼ現在の流路となっている［高野 2004］。

高田平野は約 80 万～ 1 万年前の氷河期に形成された洪積台地と、約 1 万年前以降の完新世に形成された沖積低地に大別される。このうち沖積低地は平野の大部分を占め、標高が高く形成時期が古い面から順に高田面・関川面に分けられる。高田面は、平野の沖積面で最も広い面積を占める。高田面を構成する高田層は、最終氷期であるヴュルム氷期の最盛期（2 万～ 1 万 8 千年前）以降、海面水位の上昇によって低地を埋積させた関川やその支流による堆積物と考えられる。高田層は下位から下部高田層、中部高田層及び上部高田層に分けられる。最上位の上部高田層は粘土層とシルト層を主体としている。その堆積時期は約 1 万年前以降の完新世である［高野 2004］。その後、約 6,000 年前をピークとする縄文海進期を経て、海面水位の低下に伴って弥生時代には高田面が段丘化したと考えられる。関川面はその高田面を関川が侵食して一段低い段丘面ができ、その上を氾濫原性堆積物である関川層が覆うことによって、中世末頃に形成された。したがって、その分布域は関川及びその支流に沿っており、ごく狭小である［高田平野団体研究グループ 1981］。

本遺跡は高田平野の西縁部、青田川の右岸、高田面上の標高 17 ～ 19m に立地する。西側に隣接する上中田集落は標高 20m 前後の青田川扇状地端部にあり、本遺跡より 1 ～ 3m 高い。本遺跡を含む約 500m 四方は大規模なほ場整備が行われなかったこともあり、かつての青田川の流路と考えられる浅い谷状の地形が多く残っている（第 4 図）。その中で、島状に残された高い部分は標高 17 ～ 19m で主に畑になっている。谷状の低地部分は標高 14 ～ 16m で関川面に相当し、水田になっている。荒町南新田遺跡は旧河川に囲まれ、島状に取り残されたところに立地し、調査前の地目は畑（牧草地）並びに荒地である。



第３図　遺跡とその周辺の地形　［大日本陸地測量部発行「高田西部」「高田東部」1：50,000 明治44年］



第４図　遺跡と旧河川流路図［金子拓男氏から提供。S=1：5,000、上越市役所発行１：2,500 地図に加筆修正］

2　歴史的環境

荒町南新田遺跡からは、主に弥生時代から中世の遺構・遺物が検出された。古墳時代から古代における歴史的環境については『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか2008］を参照されたい。ここでは新たに発見された中世集落跡に関連する歴史的環境について述べる。分布図に示したのは鎌倉時代から織豊政権期にかけての遺跡や石造物群である。寺院・神社に関しては、中世に遡る伝世品等の文化財を所蔵しているものを取り上げた。分布図には近世における街道も示した。分布図に示した北国街道･加賀街道･花ヶ崎街道のルートは近世に確立したものであるが、中世における人々の往来もそれに近いルートが想定される。花ヶ崎街道については、京都醍醐寺（真言宗）の僧と推定される一行の旅の記録「永禄六年（1563）北国下リノ遺足」［山本・小島1992、大家2003］に詳しい。松之山街道は上杉謙信により関東経営のために「軍道」として整備され、室町時代後期に成立した道である［新潟県教育委員会編1992］（第6図）。

城館跡は丘陵上に多く、集落跡、遺物包含地・散布地は高田平野の関川を中心とする河川の自然堤防上に多く立地する。寺院･神社は平野部、山間部に関係なく分布するが、特に直江津、高田周辺に多い。塚･墳墓・墓地跡は平野周縁部もしくは平野に面した丘陵先端部に多く分布する。数は少ないが経塚も同様な分布を示す。石造物は平野部では集落周囲に点在する。特に東頸城丘陵の先端部や山間部に数多く分布する。石造物は分布図で示している以外に寺院・神社に所在するものが数多くある。集落、遺物包含地・散布地は、高田・直江津の市街地では少ない。これについては、市街化が早く進んだために未発見の遺跡が多数存在したことが予想される。東頸城丘陵には多くの石造物が分布する反面、集落や遺物包含地・散布地が少ない。しかし、広範に存在する石造物群は、その付近に集落が存在していたことを示唆する。

荒町南新田遺跡（1）の「荒町」は江戸時代初期の正保年間（1644～1647年）に作成された「正保国絵図」に「新町村」としてみえる。高田城下の南に接し、北国街道の入り口にあたり、次の宿である新井宿や関川関所を越え、信濃方面に向かう基点となる村で、「高田新田」→「新町村」→「脇野田村」→「今泉村」→「石沢村」と続く。北国街道として確立する以前も越後から信濃へ結ばれる往来は多くの人々によって行われていることが様々な文献から確認されており、中世における本集落も国府のある直江津から信濃を結びつける重要な村であったことが想定される。荒町南新田遺跡の南側に位置する用言寺遺跡（2）は鎌倉時代から室町後期に至る集落跡で、白磁の一括出土や用言寺という地名から一般的な集落とは異なる機能が想定されている。荒町南新田遺跡同様、用言寺遺跡の所在する「今泉村」は、北国街道延長線上に位置する。重川沿いには「横曽根保」の可能性が指摘［水澤2003］されている横曽根Ⅲ遺跡（3）、関川沿いには､互いに建物軸を共有する子安遺跡（4)･今池遺跡（5）や木田遺跡（6）等がある。飯田川沿いには、下割遺跡（7）があり、溝に区画された屋敷地が集まり、集落を構成している。また高田平野南東部では、村落構造が把握された高柳遺跡群（8）や集落の変遷が具体的に捉えられた仲田遺跡（9）が位置する。仲田遺跡では、至徳寺跡等の国衙関連施設の遺物と共通した特徴を持つものが含まれており、一般の集落ではなく、国衙と密接な関係を有する遺跡の可能性が指摘［高橋2004］されている。東頸城丘陵に面した低地に位置する吉川区樋田遺跡（10）、古町Ｂ遺跡、寺町遺跡、頸城区水久保遺跡（11）では、大規模な集落跡が検出され、散村から集村へという集落構造の変化が指摘されている［坂井1997］。これらの遺跡は荒町南新田遺跡の中世村落を評価するうえで重要な比較資料となると考えられる。

中世都市として発展した直江津には上杉氏の居館である御館跡（12)･安国寺跡（13)･至徳寺跡（14）等、

越後府中の中心的機能を果たしたものと考えられる遺跡が存在する。御館は上杉謙信により、弘治年間（1555 ～ 1558）に設立された。土坑が多数検出され、饗宴に用いられたと考えられる多量の土師質土器が出土している。御館は謙信の跡目を養子の景勝と景虎が争った「御館の乱」で景虎側の拠点となり、天正七年（1578 年）に落城したことで知られる。

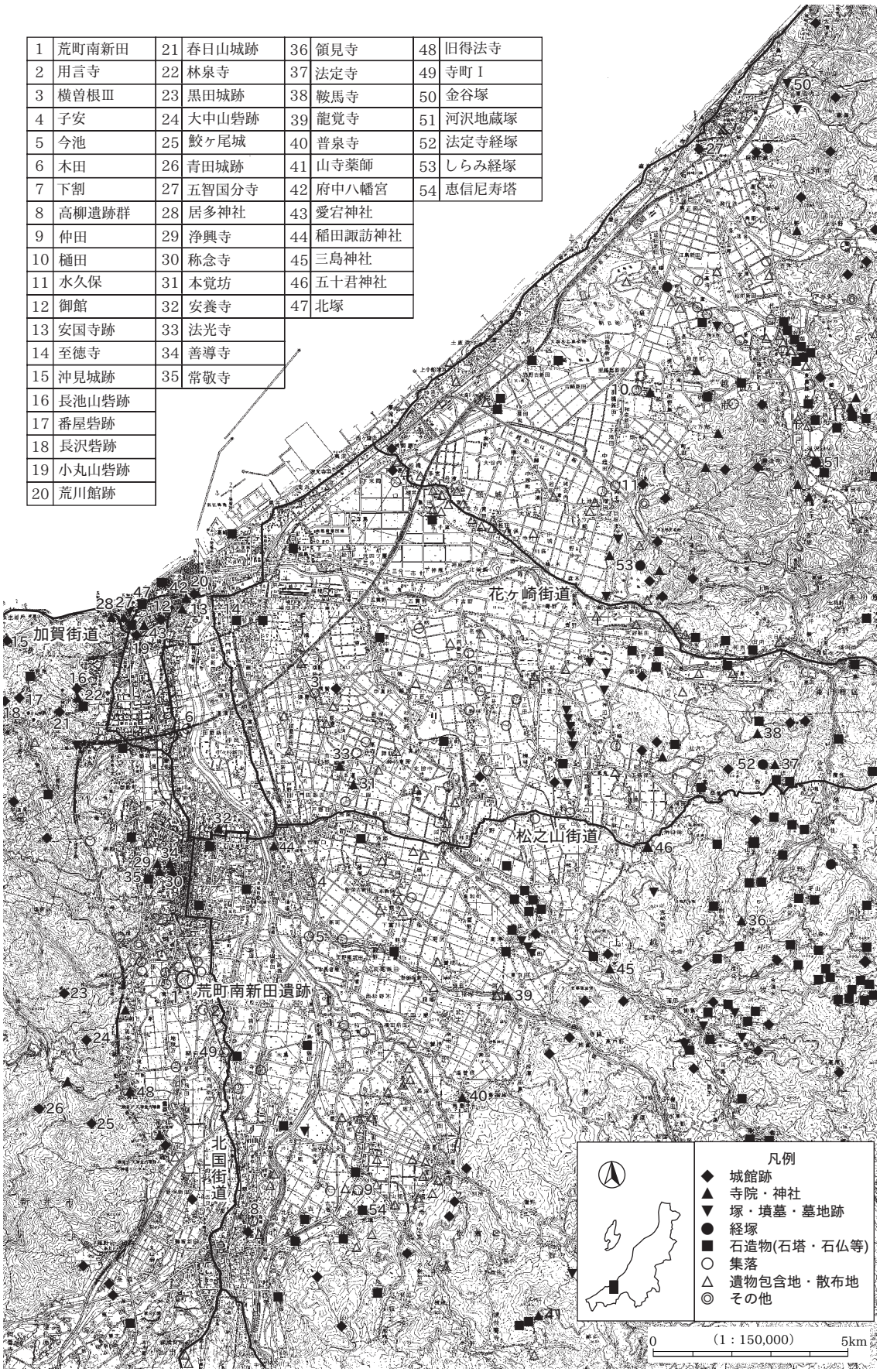
至徳寺跡では 11 ～ 13 世紀前半、14 世紀末～ 16 世紀初頭の遺構や中国製陶磁器が多量に出土している。また、中世後期に属する大規模な堀が検出され、府中の中心施設として守護所に比定されている［小島 1983､笹沢・水澤 2001］。

第 5 図　御館と春日山城（『上越市史　通史編 2　中世』から転載）

応仁の乱（1467 年）に始まる戦国争乱期に突入すると、越後でも「永正の乱」（1507 年～）を経て守護代長尾景虎（後の謙信）が戦国大名化するが、該期に築城・改修されたと考えられる多くの中世城館が確認されている。春日山周囲には沖見城跡（15）、長池山砦跡（16）、番屋砦跡（17）、長沢砦跡（18）、小丸山砦跡（19）、荒川館跡（20）等があり、春日山城（21）と一体となって機能していたと考えられている［花ヶ前 1986］。謙信により春日山城が整備されると政治的中心は府中から春日山に移り、林泉寺（22）やその周囲に城下集落が形成された。荒町南新田遺跡の西側、南西側の西頸城丘陵上には黒田城跡（23）・大中山砦跡（24）・鮫ヶ尾城跡（25）・青田城跡（26）がある。そのほか高田平野から外へ通じる街道の要所には番城が築かれ、中・下越地方に通じる米山峠を守るために顕法寺城（吉川区）・旗持城（柿崎区）が、関東地方へ通じる松之山街道沿いには直峰城（安塚区）・松代城（十日町市）などが築かれている。

寺院・神社には中世における人々の信仰を考える上で、重要な伝世品等の文化財が多数残されている。上杉謙信が再興し現在に至る五智国分寺（27）には伝親鸞聖人坐像（室町前期）、銅造聖観音立像が残されている。また境内からは地鎮具である護摩匙、三鈷杵、錫杖、独鈷杵、鋺などが出土している。国分寺の付近に所在する居多神社（28）は親鸞が越後国府に流刑になり、最初に参拝した神社として有名である。同神社には、長尾為影願文、上杉謙信制札、居多神社文書（室町期以降）などがある。親鸞により開山したと伝えられる浄興寺（29）には多くの文化財がある。建造物では、親鸞聖人本廟及び唐門、絵画では絹本著色親鸞聖人御絵伝（明応 3 年、1494）・絹本著色親鸞聖人等身真影（室町期）・絹本著色法然上人絵伝（鎌倉末期）・絹本著色少康和尚像（室町初期）・絹本著色二尊連座像（文明 15 年、1483）、工芸品では宝珠文刺衲袈裟並横被（鎌倉期以前）・梵鐘（応永末～永享、室町初期）・屈輪香合（南宋～元、13 世紀）、書跡典籍では真宗古写聖教類（室町初期）・親鸞自筆六字名号（建長 7 年、1255）・専修念仏張文日記（鎌倉中期）、古文書では二枚起請文（室町中期）・本願寺歴代門主書状（室町期）等が残されている。時宗称念寺（30）には木造一鎮上人倚像（南北朝期、14 世紀後半）が残されている。林泉寺（22）には、上杉謙信の居城である春日山城の裏門を移築したものと伝えられる林泉寺惣門があり、上越市最古の建造物とされている。そのほか、上杉謙信筆「第一義」額、上杉謙信筆「春日山」、上杉謙信書翰などが残されている。本覚坊（31）には宗祖蓮如にまつわる書跡、絵画が残されており、蓮如上人真筆六字名号・蓮如上人木像・絵本著色蓮如上人絵

1	荒町南新田	21	春日山城跡	36	領見寺	48	旧得法寺
2	用言寺	22	林泉寺	37	法定寺	49	寺町Ⅰ
3	横曽根Ⅲ	23	黒田城跡	38	鞍馬寺	50	金谷塚
4	子安	24	大中山砦跡	39	龍覚寺	51	河沢地蔵塚
5	今池	25	鮫ヶ尾城	40	普泉寺	52	法定寺経塚
6	木田	26	青田城跡	41	山寺薬師	53	しらみ経塚
7	下割	27	五智国分寺	42	府中八幡宮	54	恵信尼寿塔
8	高柳遺跡群	28	居多神社	43	愛宕神社		
9	仲田	29	浄興寺	44	稲田諏訪神社		
10	樋田	30	称念寺	45	三島神社		
11	水久保	31	本覚坊	46	五十君神社		
12	御館	32	安養寺	47	北塚		
13	安国寺跡	33	法光寺				
14	至徳寺	34	善導寺				
15	沖見城跡	35	常敬寺				
16	長池山砦跡						
17	番屋砦跡						
18	長沢砦跡						
19	小丸山砦跡						
20	荒川館跡						



第６図　中世の遺跡・石造物等の分布図
（国土地理院発行「高田西部」「高田東部」「柿崎」1:50,000原図）

伝などがある。安養寺（32）には親鸞の門侶である覚善の持仏とされる金銅阿弥陀如来立像（平安末～鎌倉初期）、法光寺（33）には木造地蔵菩薩立像（室町期）、善導寺（34）には木造善導大師立像（鎌倉中期）、常敬寺（35）には木造聖徳太子立像（鎌倉後期）、領見寺（36）には木造如来坐像（室町期）がある。松之山街道沿いに位置する法定寺（37）は、平安末・鎌倉時代以降は真言密教の大寺として栄えたが、現在は浄土真宗の寺院となっている。石造阿弥陀如来坐像・金銅五鈷鈴・金銅五鈷杵（鎌倉期）、打鐘（室町期）等多くの文化財がある。法定寺釈迦堂には、阿弥陀如来石仏が多く、同様な石仏は三和区、牧区などの周辺地域に分布し、法定寺石仏群と言われている。この石仏群は、古代山岳仏教の系譜を引くものとされるが、近世以降は､雨乞地蔵として信仰の対象になっている。鞍馬寺（38）には､銅造千手観音菩薩立像（南北朝期）がある。龍覚寺（39）には懸仏（鎌倉期）、普泉寺（40）には地鎮具である五鈷鈴、火舎、六器（鎌倉中期）がある。山寺薬師（41）には明徳～応永年間（1390 ～ 1427）に作られた木造薬師如来坐像・木造釈迦如来坐像・木造阿弥陀如来坐像がある。府中八幡宮（42）には「文安三年六月□日」（1446）の銘がある鰐口、愛宕神社（43）には上杉謙信のものと伝えられる軍配（室町期）がある。松之山街道入り口に当たる稲田諏訪神社（44）には「池上大明神　弘安元年（1278）十一月二十三日」の銘がある青銅菊花文和鏡（鎌倉期）がある。三島神社（45）には木造男神坐像・木造女神坐像（鎌倉初期）、五十君神社（46）には金銅虚空蔵菩薩懸仏（鎌倉末期）等がある。

中世に入ると一般庶民層まで葬礼の場あるいは墓地に対する穢れ観念が広まり、土を高く盛り上げ、土饅頭状にした塚が作られる。該期にはそのほかに土坑墓、火葬墓など様々な形態の墓が作られ、富裕層・一般庶民層などの階層性、仏教各派の様式などが墓の形態に関わり、複雑な様相を示していることが指摘されている。塚、墳墓の調査事例は少ないが代表的な例をあげてみたい。

北塚（47）は居多神社の寛元３年（1245）以前に成立したと考えられる「居多神社四至絵図」等にも記載されている。塚の規模は、直径 15m・高さ 4m の円形である。遺物は和鏡・古銭・鉦鼓・硯・刀・鉄鍋・曲物・人間の毛髪等が発見され、出土遺物は 15 ～ 16 世紀に比定される。旧得法寺跡（48）では、火葬墓が検出されている。寺町Ⅰ遺跡（49）では、14 世紀に比定される完形の珠洲焼壺が２点採集されており、経筒外容器あるいは骨蔵器、埋蔵銭容器として使用された可能性が指摘されている［鶴巻 1998］。金谷塚（車地塚）（50）では 13 世紀前半～中葉に比定される骨蔵器の珠洲焼壺や片口鉢、碁石、数珠玉、銭貨、刀子が出土し、河沢地蔵塚（51）でも 14 世紀に比定される骨蔵器の珠洲焼壺･珠洲焼片口鉢が出土している。虫川城跡（浦川原区）では 15 世紀代に比定される骨蔵器の珠洲焼大甕が出土している。

平安時代の末に流布した末法思想に基づき造営された経塚には、紙本経などの仏教経典に、和鏡や刀身･合子・銭貨などの副葬品が収められることが多い。法定寺経塚（52）では外容器の越前焼甕や経筒、しらみ経塚（53）では、骨蔵器として珠洲焼甕・片口鉢や経筒、硯、青白磁合子が出土している。

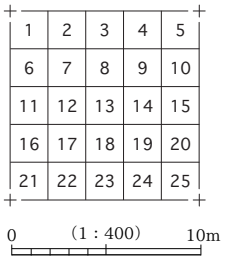
石造物には五輪塔・一石五輪塔・宝篋印塔・層塔・板碑・石仏など多くの種類がある。そのなかでも五輪塔や石仏が多くを占める。東頸城丘陵には多くの石造物群があり、花ヶ崎街道や松之山街道周辺に点在するが、丘陵部の河川の開析する谷筋には広範囲にわたって分布する。これらの谷筋は現在の道路や集落が存在する部分でもある。文禄４年（1595）から慶長２年（1597）に作成された「越後国頸城郡絵図」にも村々は描かれている。現在、遺物包含地・散布地はあまり確認されていないものの、多数の石造物群が存在することから、中世において、そこには集落の存在や、人々の往来があったことは確かである。なお、現在でも信仰の対象となっている恵信尼寿塔（54）（五輪塔・鎌倉時代中期）は、親鸞の妻である恵信尼の供養塔であり、墓所として整備されている。

第Ⅲ章　調査の概要

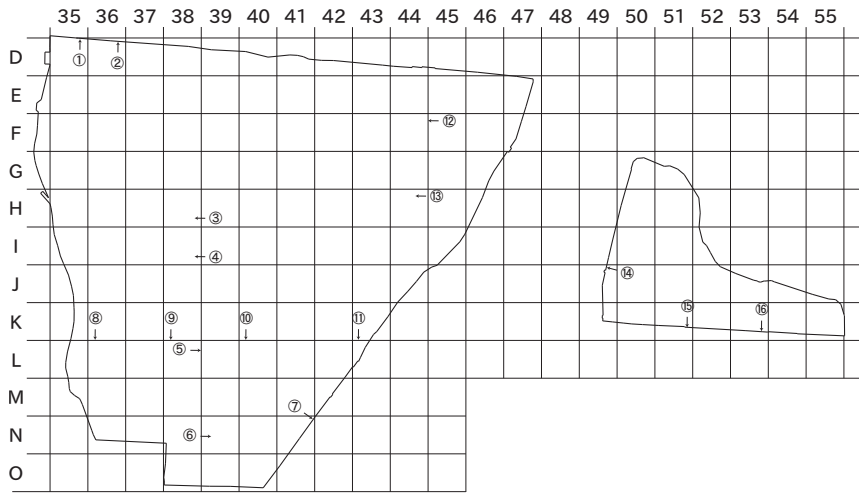
1　グリッドの設定

荒町南新田遺跡のグリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか2008］のグリッドを延長して設定した。大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。南新田遺跡は横軸が大グリッド34～56、縦軸が大グリッドC～Oである（第7図）。両者を組み合わせて「40I」のように表記した。小グリッドは第8図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「40I15」のように表記した。グリッド軸は真北方向に対して、46°46′05″東偏する。

第7図　グリッド設定図



第8図　小グリッド模式図



第9図　基本土層位置図

2 基本層序

本遺跡は青田川左岸の沖積面に立地する。調査前標高 17.5 ～ 18.5m、遺構検出面標高 17.2 ～ 18.0m を測る。遺構検出面は基本的に平坦面であるが、中央部から縁辺部に向かって比高差 80cm の傾斜が見られる。遺物包含層（Ⅱ・Ⅲ層）は調査区南西側のＬグリッド以南で確認できた。このことは調査区北側の大部分が、中世以降の耕作等によって削平されたためと考えられる。

Ⅰａ層：灰黄褐色シルト（10YR4/2） しまり中、粘性中。（現耕作土）

Ⅰｂ層：褐色シルト（7.5Y4/1）＋黄褐色シルト（2.5Y6/3） しまり中、粘性中。（近世以降耕作土）

Ⅰｃ層：褐色シルト（10YR4/4）しまり弱、粘性弱。（中世以降耕作土）

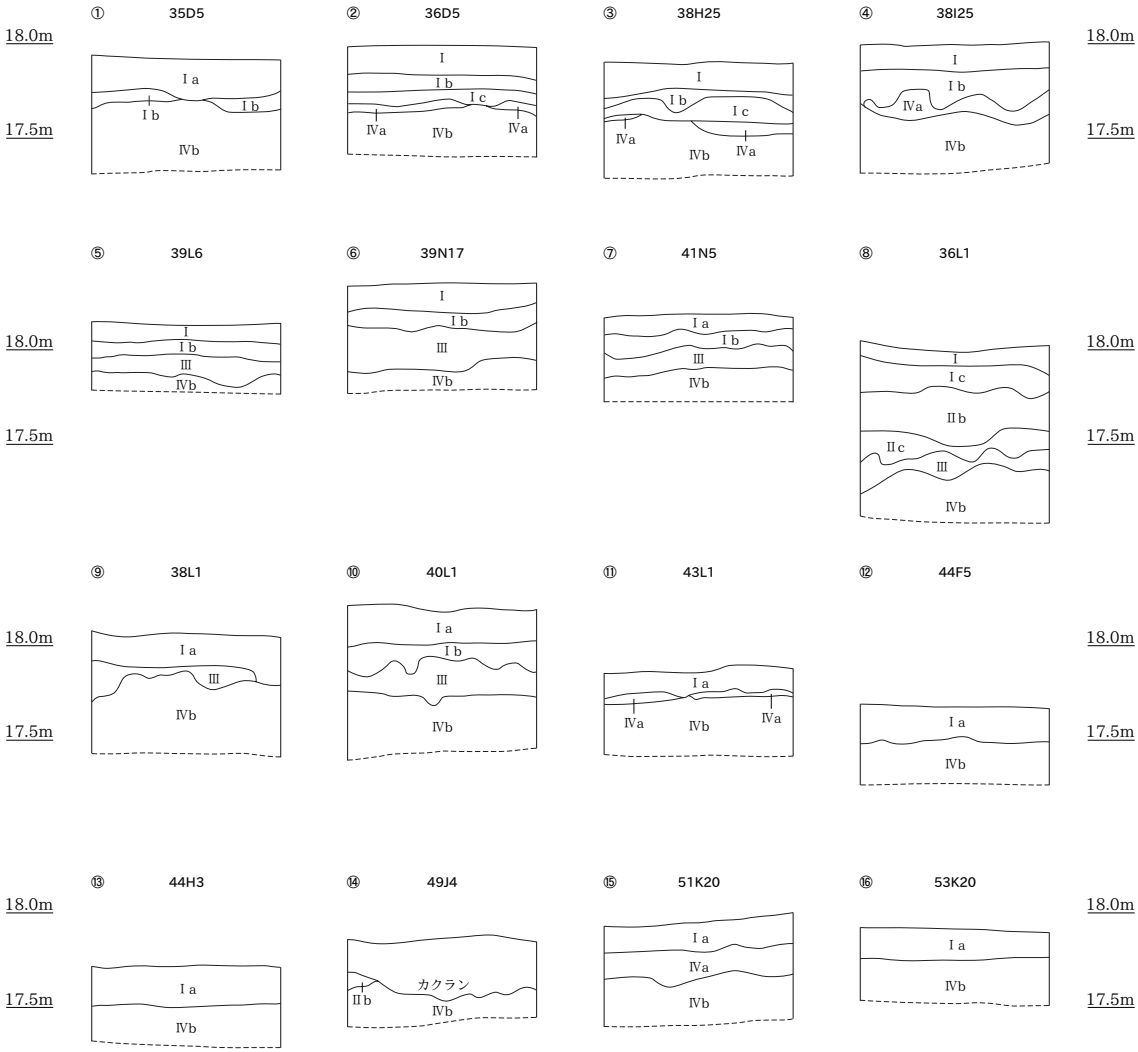
Ⅱａ層：オリーブ褐色シルト質粘土（2.5Y4/4） しまり中、粘性中。炭化物微量含む。（遺物包含層）

Ⅱｂ層：灰黄褐色シルト質粘土（10YR5/2） しまり中、粘性中。炭化物少量含む。（遺物包含層）

Ⅲ　層：黒褐色シルト（7.5YR3/1） しまり中、粘性中。炭化物を多く含む。（遺物包含層）

Ⅳａ層：にぶい黄褐色シルト（10YR4/3） しまり中、粘性中。リモナイト多く含む。（地山）

Ⅳｂ層：にぶい黄褐色シルト質粘土（10YR4/3） しまり中、粘性中。リモナイト少量含む。（地山）



第 10 図　基本土層図

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

荒町南新田遺跡は基本層序Ⅳ層（地山）を遺構検出面として、竪穴住居 13 棟、平地建物 2 棟、円形周溝状遺構 3 基、掘立柱建物 80 棟（柱穴 770 基・雨落ち溝 6 条）、杭列 12 基、井戸 57 基、井戸の上屋 3 棟（柱穴 11 基）、土坑 92 基、道 3 条（路床 87 基）、溝（区画溝含む）51 条、畑作溝 66 条、性格不明遺構 15 基を検出した。このほかに自然流路 1 条を検出した。

遺構の分布状況は、調査区南西側（38 ～ 40・L ～ O グリッド、以下南西部遺構集中区）に竪穴住居、円形周溝状遺構、掘立柱建物、井戸等が、調査区北側（34 ～ 38・D ～ I グリッド、以下北部遺構集中区）及び東側（43 ～ 47・E ～ H グリッド、以下東部遺構集中区）では掘立柱建物、井戸等がそれぞれ集中して見られ、それ以外は遺構数が希薄である。なお北部及び東部遺構集中区では、太平洋戦争後に構築された範囲 10 ～ 20m 程のカクランによって一部の遺構が欠損、削平されていた。

遺構内もしくはその周辺から出土した土器の年代から判断できる遺構の構築時期は、南西部遺構集中区は竪穴住居、円形周溝状遺構が弥生・古墳時代、掘立柱建物が古代に限定され、中世の遺構は井戸、溝等を確認した。北部・東部遺構集中区は中世の遺構が大多数を占める。

2　記 述 方 法

遺構の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いた。

遺構名　遺構種別ごとに略号を用い、番号は遺構種別に関係なく検出順に通し番号を付けた。ただし検出段階で遺構番号を付したが調査の結果、後世のカクランと判断したものなどは、その番号を欠番とした。したがって遺構番号の数は遺構数と一致しない。掘立柱建物、それを構成する柱穴はそれぞれに上記の手順に基づいて略号と番号を付した。

遺構の略号は以下のとおりである。SI：竪穴住居、SB：掘立柱建物・井戸の上屋、SA：杭列、SE：井戸、SK：土坑、SX：円形周溝状遺構・平地建物・性格不明遺構・焼土遺構、SD：溝（区画溝・畑作溝を含む）・道の路床・自然流路、P：ピット

本文　時期ごとや遺構種別ごとの概要は第Ⅶ章 1 で後述することとし、ほかの遺構との関連が認められない単独のピット、一部の溝を除き、原則として個別に記述した。遺構各説及び遺構観察表に記載した遺構の平面及び断面の分類表記は、和泉 A 遺跡［荒川・加藤 1999］に準拠する（第 11 ～ 13 図）。規模は 1m 以上のものはメートル、1m 以下のものはセンチメートルで表した。時期区分は『上越市史　通史編 1』及び『上越市史叢書 8　考古－中・近世資料－』［上越市 2003］に準拠した。西暦で表すと古墳時代前期：3 世紀後半～ 4 世紀、古墳時代中期：5 世紀、古墳時代後期：6 世紀～ 7 世紀、古代：8 世紀～ 12 世紀末、中世：12 世紀末～ 16 世紀末となる。遺構の長軸方向は、長径を基準に真北からの角度を測定し、［N － 37° － W］のように記載した。ただし、古墳時代後期の竪穴住居はカマドを持つものが多く、その大部分が東側に位置していることから、東西方向を主軸として、長軸方向は記述しないこととした。

遺構観察表　掘立柱建物・杭列の柱穴及び道の路床、畑作溝については観察項目を設けて記載した。観察項目は、柱穴が位置・平面形・断面形・標高・規模・柱間寸法、溝が位置・規模・断面形・覆土・方向・切り合い関係などである。遺構の新旧関係は、「＜」・「＞」・「＝」の記号を用いた。「A ＜ B」は「A は B より古い」、「A ＞ B」は「A は B より新しい」、「A ＝ B」は「A と B の切り合い関係は不明」である。

図面図版　遺構図面は配置図・分割図・個別図で構成される。個別図は分割図ごとに竪穴住居、円形周溝状遺構・平地建物、掘立柱建物、杭列、井戸、土坑、性格不明遺構、溝の順で掲載した。掘立柱建物、杭列、溝の平面図は配置図・分割図に示し、個別図には断面図のみを掲載した。しかし廂を有する、もしくは重複の激しい掘立柱建物及び一部の溝に関しては個別図に平面図と断面図を併せて掲載した。

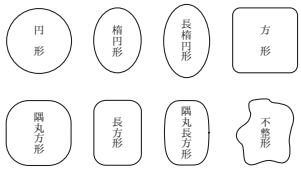
重複する遺構の表示は、切り合い関係が明確であるものに限り、切っている遺構を実線で表示し、切られる遺構は残存している部分を破線で表示した。

図面の縮尺は基本的には以下のとおりである。遺構配置図：1 /500、遺構分割図：1 / 100、竪穴住居・平地住居の平面図、断面図：1 / 60、円形周溝状遺構・掘立柱建物・杭列・溝（平面図と断面図を併せて掲載するもの）の平面図・断面図・エレベーション図：1 / 80、井戸・土坑・性格不明遺構・溝（断面図のみ掲載するもの）：1 / 40 である。ただし、状況に応じて前記の縮尺でない遺構もある。

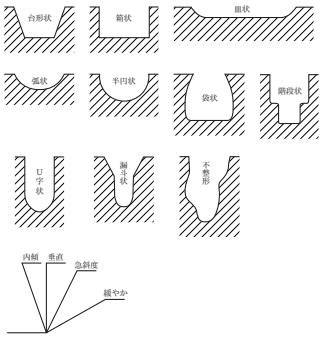
写真図版　遺構図面に掲載した遺構を中心に掲載した。竪穴住居は完掘状況・カマド及びカマド遺物出土状況などを優先し、掘立柱建物は、完掘状況・柱穴の土層断面などを優先的に掲載した。

平面形状

円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角のあるもの。
隅丸方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角に丸みがあるもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角のあるもの。
隅丸長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角に丸みがあるもの。
不整形	凸凹が激しく一定の平面形をもたないもの。 但し、おおよその形状のわかるものは不整円形、不整楕円形などと呼ぶ。



第 11 図　遺構の平面形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）



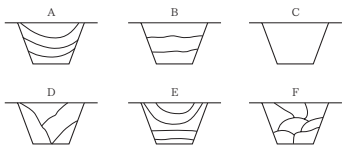
断面形状

台形状	底部に平坦面をもち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
皿状	溝を除いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面をもたない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの。
U字状	平面長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
不整形	凸凹で一定の断面形をもたないもの。

第 12 図　遺構の断面形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）

覆土堆積形状

A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積するもの。
B 水平	複数層が水平に堆積するもの。
C 単層	覆土が単一層のもの。
D 斜位	覆土が斜めに堆積するもの。
E 水平レンズ	覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積するもの。
F ブロック状	覆土がブロック状に堆積するもの。



第 13 図　覆土の堆積形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）

3　遺構各説

A　弥生時代後期の遺構

竪穴住居１棟、平地建物１棟、土坑 12 基、溝５条、性格不明遺構４基があり、南西部遺構集中区及びその周辺に位置している。

1）竪穴住居

SI1356（図版 65・67・128）

37･38L、37･38M グリッドに位置する。中央部付近では東西に横断するようにカクランを受けている。平面形は長方形を呈し、長径 4.26m、短径 3.47m、検出面から床面までの深さ 20cm、面積は 13.37m^2 を測る。長軸方向はＮ－ 7°－ W を示す。覆土はにぶい黄褐色シルト土からなり、本遺跡の他の竪穴住居のそれとは異なる。２層に識別され、レンズ状に堆積する。床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整形しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝・柱穴・炉は確認できなかった。出土土器の総重量は 2.885kg であり、すべて弥生時代後期に比定される。住居南東側から高杯（1）、鉢（2）、壺（3 ～ 5）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から弥生時代後期（新潟シンポ２期）と推定される。

2）平地建物

SX430（図版 58・59・179）

41K･L、42K･L グリッドに位置する。隅丸方形に巡る周溝と、その内側四隅に位置する柱穴４基（北東側から時計回りに P432・433・435・434）からなり、周溝の内側で建物を構成していたと考えられる。長軸方向の外径 6.04m・内径 3.62m、短軸方向の外径 5.30m・内径 3.29m を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ W を示す。

周溝の幅は 0.96 ～ 1.25m、検出面からの深さ 10 ～ 26cm を測る。周溝の南西側が最大深度となり、北東側は若干浅い。底面は凹凸を有する部分や平坦な部分もある。断面形は弧状～台形状を呈し、内縁側の立ち上がりがより急峻である。覆土は褐灰色シルトの単層である。建物は東西１間（2.66 ～ 2.81m）、南北１間（2.23m）の長方形で、面積は 5.90m^2 を測る。柱穴はいずれも掘形を持ち、規模は径 32 ～ 40cm、検出面からの深さ 35 ～ 45 cm を測る。覆土はいずれも褐灰色シルトの単層で、柱痕は確認できない。周溝と建物が接近しており、周溝を伴う平地建物の中では類例の少ない形態である。

SX431 は SX430 の内部で検出された。平面形は長楕円形で、長径 2.45m、短径 1.16m、検出面からの深さ 27cm を測る。長軸方向はＮ－ 13°－ W を示す。底面はほぼ平坦で、断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトと灰色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。SX430 とは覆土が近似しているが、長軸方向が異なっている。両者は近接した時期に存続したと思われるが、直接の関連はないと推定される。

遺物は SX430・431 共に覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

3）土　　坑

SK594（図版 51・53・171）

38J グリッドに位置する。北東側で SB1057-P1032、南西側で SB681-P682 と重複し、これらに切られる。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 2.04m、短径 1.45m、検出面からの深さ 38cm を測る。長軸方向はＮ－ 1°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。最下層の覆土 3 層は炭化物を多量に含む。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK596（図版 51・53・171）

38K グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。径 1.31 ～ 1.45m、検出面からの深さ 9cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK603（図版 55・56・172）

39K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.04 ～ 1.20m、検出面からの深さ 22cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄橙色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器（214・215）が出土した。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期（新潟シンポ 2 期）と推定される。

SK734（図版 58・60・173）

41I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 54 ～ 68cm、検出面からの深さ 14cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期と推定される。

SK736（図版 58・60・173）

41I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 70 ～ 73cm、検出面からの深さ 6cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器（216）が出土している。時期は出土土器の年代から弥生時代後期（新潟シンポ 2 期）と推定される。

SK1401（図版 62・64・174）

42L グリッドに位置する。SB1414-P1425 と重複し、これに切られる。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 2.38m、短径 96cm、検出面からの深さ 21cm を測る。長軸方向はＮ－ 85°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK1886（図版 71・76・174）

39M グリッドに位置する。西側で SK1824 と重複し、これを切っている。南側で SI1821 と重複し、これに切られる。平面形は長楕円形を呈すると推定される。長径 2.48m、短径 98cm 以上、検出面からの深さ 29cm を測る。長軸方向はＮ－ 60°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土

しているが、風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK1824（図版 71・76・175）

38・39M グリッドに位置する。東側で SK1886 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈すると推定される。長径 98cm 以上、短径 79cm、検出面からの深さ 9cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK1899（図版 71・76・175）

39･40L グリッドに位置する。SD893 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈する。長径 1.12m、短径 84cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 33°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK878（図版 82・86・176）

40N グリッドに位置する。北側半分はカクランを受け、欠損している。平面形は楕円形を呈すると推定される。径 1.54m、検出面からの深さ 14cm を測る。断面形は不整形を呈し、底面は凹凸がある。覆土は暗褐色粘土を主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SK1541（図版 82・87・177）

39N グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径 2.20m、短径 89cm、検出面からの深さ 17cm を測る。長軸方向はＮ－ 17°－ W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から弥生土器（217 ～ 219）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から弥生時代後期（新潟シンポ 2 期）と推定される。

SK1614（図版 82・87・177）

39O グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 61 ～ 65cm、検出面からの深さ 16cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色土の単層である。遺物は覆土から弥生土器(220)が出土している。時期は出土土器の年代から弥生時代後期（新潟シンポ 2 期）と推定される。

4）溝

SD437（図版 58・60・185）

41K グリッドに位置する。P436 と重複し、これに切られる。弧状に曲がる溝で、長さ 1.95m、幅 49 ～ 69cm、検出面からの深さ 10cm を測る。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土している。本遺構は SX430 の北東側約 1m 先に位置しており、覆土や出土土器の様相が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SD403（図版 62・64・185）

42・43K、42L グリッドに位置する。半円状に曲がる溝と考えられ、南側は調査区外に延びる。長さ 14.47m、幅 0.54 ～ 1.29m、検出面からの深さ 6 ～ 28cm を測り、底面標高は南から北に向かって低く

なる。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、2層に識別され、斜位に堆積するが、南側では覆土2層は見られず、覆土1層の単層となる。遺物は覆土から弥生土器（259～261）が多く出土したほか、砥石（495）・ガラス製の小玉（532）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から弥生時代後期（新潟シンポ2期）と推定される。

SD1370（図版65・70・185）

38Mグリッドに位置する。西側でSX1080と重複するが、新旧関係は不明である。長さ1.52m以上、幅38cm、検出面からの深さ10cmを測る。長軸方向はN－89°－Eを示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から弥生土器（258）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から弥生時代後期（新潟シンポ2期）と推定される。

SD879（図版77・81・186）

40M、41M・N、42Nグリッドに位置する。南側でSD1503と重複し、これを切っている。北側でSD893･1502と重複し、これに切られる。南側は調査区外に延びる。長さ17.24m以上、幅1.18～1.64m、検出面からの深さ11～51cmを測り、底面標高は北から南に向かって低くなる。長軸方向はN－29°－Eを示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、5層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が多く出土している。ほかに古代の須恵器が少量出土しているが、本遺構は古代の遺構と重複しているため、直接伴うものではなく後世の混入と考えられる。遺構の存続時期は出土遺物の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SD1503（図版82・87・186）

40N・Oグリッドに位置する。東側がSD879、中央でSB880と重複し、これらに切られる。長さ10.96m以上、幅1.25m、検出面からの深さ43cmを測る。長軸方向はN－90°を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

5）性格不明遺構

SX1570（図版82・88・134）

39Nグリッドに位置する。西側でSI1604、東側でSI1615・SB1626・SK1541・SK1551と重複し、これらに切られる。また東側・南側は削平を受けているため立ち上がり部分が確認できない。そのため平面形や規模は不明である。覆土は黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色粘土からなり、3層に識別される。規模の大きさや底面がほぼ水平を保っていることなどから竪穴住居の可能性も考えられるが、壁面の立ち上がりは北側でしか確認できず、柱穴や炉などの付帯施設も確認できないことから性格不明遺構とした。

遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。土器以外には砥石（496）が出土している。遺構の存続時期は切り合い関係や出土遺物の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

SX1748（図版62・64）

42L・Mグリッドに位置する。東側でSB1440-P1292と重複し、これに切られる。南側は調査区外に延びる。径3.40m、検出面からの深さ24cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は浅黄橙色シルトと暗褐色シルトの 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は切り合い関係や出土遺物の年代から弥生時代

後期～古墳時代と推定される。

SX1336（図版 65・70・180）

38M グリッドに位置する。東側で SI1305 と重複し、これに切られる。中央部付近で東西に横断するようにカクランを受ける。平面形は不整形を呈する。径 1.64 ～ 1.92m、検出面からの深さ 20cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層であるが、東側の覆土上面で焼土を確認した。遺物は覆土から弥生土器もしくは古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも風化が著しい。遺構の存続時期は切り合い関係や出土遺物の年代から弥生時代後期～古墳時代と推定される。

B　古墳時代前期～古墳時代中期の遺構

竪穴住居 3 棟、円形周溝状遺構・平地建物 4 棟、土坑 5 基があり、いずれも南西部遺構集中区の自然流路右岸に沿って位置している。

1）竪 穴 住 居

SI501（図版 46・47・121・126）

35・36J、36K グリッドに位置する。南側で道（SD551 ～ 553）と重複し、これに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 7.11m、短軸 6.90m、検出面から床面までの深さ 18cm、面積は 47.01m^2 を測る。長軸方向は N － 2° － E を示す。覆土は黒褐色シルト・オリーブ褐色シルト・にぶい黄褐色粘土・暗灰黄色シルトからなり、5 層に識別される。このうち、2 層は床面直上の覆土で、炭化物を多く含む。

床面はほぼ平坦で、Ⅳ b 層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は南東側で確認され、規模は幅 10 ～ 18cm、床面からの深さ 9cm を測る。柱穴は各コーナーに 1 基ずつ、合計 4 基存在する（北東側から時計回りに P561・557・554・559）。いずれも掘形を持ち、規模は長径 40 ～ 62cm、短径 37 ～ 53cm、床面からの深さ 42 ～ 55cm を測る。柱痕はすべてに認められ、太さ 13 ～ 17cm 程度の柱が据えられていたと推定される。

地床炉を中央部付近で 1 基確認した。平面形は楕円形を呈し、長径 28cm、短径 23cm を測る。火床部は赤化していた。住居に伴う施設はほかに土坑（SK578）と間仕切り状の溝がある。このうち、SK578 は住居の東辺中央にあり、壁面に接している。平面形は隅丸方形を呈し、径 1.10 ～ 1.24m、床面からの深さ 23cm を測り、底面の東寄りはさらに径 40cm の範囲で、深さ 10cm 程円形に掘り込む。覆土は暗灰黄色シルト・にぶい黄褐色粘土・オリーブ褐色シルトからなり、3 層に識別される。間仕切り状の溝は SK578 の南北側に 2 条確認できる。長さは南側で 1.63m、北側で 1.19m、幅は 15 ～ 24cm、床面からの深さ 5 ～ 7cm を測る。住居内からはこのほか小ピット 4 基（P558・562・556・560）を検出した。

出土土器の総重量は 11.281kg で、弥生時代後期、古墳時代中期、古墳時代後期の土器が混在している。弥生時代後期の土器は P556 から器台（7・10・11）、P560 から壺（14）、P562 から器台（12）、遺構覆土中から器台（6・8・9・13）がそれぞれ出土している。古墳時代中期の土器は SK578 から高杯（17・18・20）、P561 から高杯（19）、P557 から高杯（16）、P562 から鉢（21）、遺構覆土中から高杯（15）がそれぞれ出土している。古墳時代後期の土器は覆土上層から須恵器杯蓋（22）が 1 点出土した。後世の混入と考えられる。遺構の存続時期は、住居に伴う土坑や柱穴から古墳時代中期の土器が多く出土する一方、弥生時代後期の土器は遺構覆土中に多く見られ、後世の混入の可能性が高いこと、弥生時代後期の土器が出土した P556・560 の覆土が住居に伴う土坑や柱穴のそれと異なっており、住居に直接伴わない可能性が考えられるため、古墳時代中期と推定される。

SI1395（図版 65・67・128）

38L グリッドに位置する。南側で SB1887-P1313 や SK1396 と、北側で道（SD1363 ～ 1366）や SD1324・1325 と重複し、これらに切られる。平面形は長方形を呈し、長軸 6.18m、短軸 4.75m、検出面から床面までの深さ 11cm、面積は 25.25m² を測る。長軸方向は N － 46° － E を示す。覆土は黒褐色と黄褐色のシルトからなり、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。

床面はほぼ平坦で、Ⅳb 層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は確認できなかった。柱穴は西側に 1 基（P1808）検出した。掘形の規模は径 35 ～ 37cm、床面からの深さ 30cm を測る。柱痕が認められ、太さ 16cm 程度の柱が据えられていたと推定される。

中央部に床面を掘り込んだ炉（SX1809）を確認した。平面形は円形を呈し、径 39cm、床面からの深さ 11cm を測る。断面形は弧状である。火床部は赤化している。

出土土器の総重量は 2.089kg で、古墳時代前期と後期の土器が混在する。中央部付近から前期の土師器甕（34）・後期の甑？（35）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代と、カマドを持たず中央部に炉を持つ住居の形態から古墳時代前期と推定される。

SI1820（図版 71・72・129）

38・39M、39N グリッドに位置する。西側で SX1080 と重複し、これを切っている。また南側で SI1615･SB1626、東側で SI1821･SD1601･SD1602 と重複し、これらに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 7.49m、短軸 7.08m、検出面から床面までの深さ 28cm、面積は 50.41m² を測る。長軸方向は N － 4° － E を示す。覆土は黒褐色とにぶい黄褐色のシルトからなり、2 層に識別され、水平に堆積する。

床面はほぼ平坦で、Ⅳb 層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は北西隅で確認され、規模は幅 19cm、床面からの深さ 5cm を測る。柱穴は各コーナーに 1 基ずつ、合計 4 基存在する（北東側から時計回りに P1646・1639・1650・1641）。いずれも掘形を持ち、規模は P1650 が径 33cm であるほか、径 60 ～ 86cm である。床面からの深さは P1639 が 12cm のほか、いずれも 20cm である。柱痕は確認できなかった。また炉やカマドは確認できなかった。

住居に伴う施設は土坑（SK1640）がある。住居の中央東寄りにある。平面形は円形を呈し、径 1.10m、床面からの深さ 45cm で、断面形は階段状である。覆土は褐灰色・灰黄褐色・黒褐色シルトからなり、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。

出土土器の総重量は 11.420kg で、弥生時代後期、古墳時代前期の土器が混在している。住居に伴う土坑や柱穴からの出土は見られず、すべて覆土からの出土であるため住居廃棄後に混入した可能性が考えられる。弥生時代後期の土器は器台（23 ～ 26）・壺（27）・甕（28）が出土している。古墳時代前期の土器は土師器甕（30 ～ 33）が出土している。それ以外にも P1641 から管玉未成品（491・492）、住居中央部からヒスイ製玉類の未成品（493）が出土している。遺構の存続時期は、本遺構が古墳時代中期の遺構である SX1080 を切っており、古墳時代後期の遺構 SI1615・1821 に切られていることと、カマドを持たない形態であることから古墳時代中期と推定される。

2）円形周溝状遺構・平地建物

SX1080（図版 65・66・123・180）

38M･N、39M･N グリッドに位置する。東側で SI1820、西側で SK1084 と重複し、これらに切られる。また東側で SD1370 と重複するが、切り合い関係は不明である。円形に巡る溝で、外径約 10 ～ 11m、

内径約 7.5 ～ 7.8m を測る。溝の幅は 0.93 ～ 2.20m、検出面からの深さは 45 ～ 75cm を測る。西側で最大幅・最大深度を確認でき、東側は相対的に浅い。断面形は台形状を呈し、内縁側の立ち上がりがより急峻である。覆土は 9 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土 1 層は黒褐色シルトで遺物を多く含む。覆土 2 層は褐色シルトで覆土 3 層以下との漸移層である。覆土 3 ～ 9 層はⅣ b 層に近似する黄褐色シルトであり、周溝底部に厚く堆積する。ほとんど遺物は出土していない。

内側に柱穴などの施設は確認できなかったが、上越市津倉田遺跡 1 号平地住居［笹沢ほか 1999］や、胎内市西川内南遺跡 2 号円形周溝状遺構［野水ほか 2005］から SX1080 とほぼ同規模の周溝を持つ建物が確認されていることから、建物に伴う周溝と推定される。

遺物は覆土から弥生時代後期の高杯（117）、器台（118・119）、鉢（120）、壺（121 ～ 125）、甕（126）、古墳時代前期の高杯（127）、甕（133）、古墳時代中期の高杯（128・129）、壺（130・131）、甕（132）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の中で最も新しい年代から古墳時代中期と推定される。

SX1339（図版 65・70・180）

37・38M グリッドに位置する。北側半分をカクランにより欠損するが、円形に巡る溝と想定される。外径推定 3.20m、内径推定 2.30m を測る。溝の幅は 32 ～ 51cm、検出面からの深さ 9 ～ 12cm を測る。断面形は弧状～台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。本遺構は SX1080 の北側約 4.5m 先に位置しており、規模は異なるものの形態が近似しており、両者には何らかの関連があったものと考えられる。また SX1801 とはほぼ同規模と考えられることから、同様の機能を果たしていたものと推定できる。

SX1801（図版 82・88・181）

38O グリッドに位置する。南西側で自然流路（SD1200）と重複し、これに切られる。円形に巡る溝で、外径 3.00 ～ 3.10m、内径 2.20 ～ 2.40m を測る。溝の幅は 25 ～ 45cm、検出面からの深さ 6 ～ 10cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰黄褐色土主体の単層である。遺物は出土していない。本遺構は SX1080 の南西側約 2m 先に位置しており、規模は異なるものの形態が近似しており、両者には何らかの関連があったものと考えられる。また SX1339 とはほぼ同規模と考えられることから、同様の機能を果たしていたものと推定できる。

SD1409（図版 77・81・186）

41・42M グリッドに位置する。北側で SB1440-P1291・1407・1473、SD601、南側で SX1404 と重複し、これらに切られる。方形に巡る溝と溝のコーナー及び溝内外で検出した 7 基の柱穴（北東側から時計回りに P1948・1947・1946・1413・1945・1412・1949）で構成される壁立式の平地建物と考えられる。

方形に巡る溝は長軸 4.65m、短軸 4.05m 以上を測る。長軸方向は N － 85° － E を示す。溝の幅は 20cm、検出面からの深さ 4 ～ 11cm を測る。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。柱穴の規模は長径 23 ～ 29cm、短軸 16 ～ 22cm、検出面からの深さ 21 ～ 58cm を測る。

遺物は P1412 から古墳時代の土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器及び周辺の類例の年代から古墳時代前期～中期と推定される。

3）土　　坑

SK504（図版 46・49・171）

36I グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 1.94m、短径 1.57m、検出面からの深さ

24cmを測る。長軸方向はN－31°－Wを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器（225）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古墳時代中期と推定される。

SK598（図版51・53・172）

38Kグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.20m、短径93cm、検出面からの深さ16cmを測る。長軸方向はN－43°－Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古墳時代の土師器（226）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古墳時代中期と推定される。

SK599（図版51・53・172）

38Kグリッドに位置する。西側でSK600と重複し、これに切られる。平面形は不整形を呈し、長径1.96m、短径1.64m、検出面からの深さ40cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黄褐色シルトを主体とし、6層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古墳時代と推定される。

SK1006（図版51・53・172）

38Jグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径95cm、短径63cm、検出面からの深さ24cmを測る。長軸方向はN－43°－Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと黄褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器（227～231）が多く出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古墳時代中期と推定される。

SK1620（図版71・76・175）

39Nグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径1.06m、短径59cm、検出面からの深さ26cmを測る。長軸方向はN－82°－Eを示す。断面形は階段状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古墳時代中期と推定される。

C　古墳時代後期の遺構

竪穴住居8棟、溝1条があり、いずれも南西部遺構集中区の自然流路右岸に沿って位置している。

1）竪穴住居

SI519（図版46・48・127）

35Iグリッドに位置する。南西隅でSD357と重複し、これに切られる。平面形は方形を呈すると考えられ、長軸5.08m、短軸4.33m、検出面から床面までの深さ14cm、面積は20.98m^{2}を測る。主軸方向はN－71°－Eを示す。覆土は暗オリーブ褐色とオリーブ褐色のシルトの2層に識別される。

床面はほぼ平坦で、Ⅳb層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は確認できなかった。柱穴は各コーナーに1基ずつ、合計4基存在する（北東側から時計回りにP576・575・574・577）。いずれも掘形を持ち、規模は長径27～43cm、短径24～38cm、床面からの深さ34～54cmを測る。柱痕はP575以外に認められ、太さ9～12cm程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。焚口部から現存する煙道部先端までの長さ1.99m、両袖内側間の幅60cmであり、煙道部は1.15m住居外に延びる。袖部は暗オリーブ褐色・暗灰黄色・黒褐色のシルト

で構築され、左側の袖には芯材として用いられた石が残っていた。火床部は赤化していた。

出土土器・土製品の総重量は 5.893kg で、すべて古墳時代後期に比定される。カマド及び住居南東隅から多く出土しており、カマドからは土師器杯（43）・甕（44）・甑（47）及び須恵器杯（48）、住居南東隅からは土師器甕（45）･甑（46）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期（7 世紀前半）と推定される。

SI521（図版 46・50・127）

36・37J、36・37K グリッドに位置する。北から南にかけて本住居を横断するように道（SD522 ～ 530･541）に切られ、また多くのカクランを受けている。平面形は方形を呈すると考えられ、長軸 6.48m、短軸 6.44m、検出面から床面までの深さ 9cm、面積は 37.32m^2 を測る。主軸方向はＮ－ 81°－ Ｅを示す。覆土は暗褐色シルトの単層である。

床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は南辺の東寄りから東辺のカマド右袖部までと、同左袖から北辺を経て、西辺の北寄りまでほぼ連続して確認され、また南辺の西寄りに一部残存していた。規模は幅 15 ～ 68cm、床面からの深さ 5 ～ 10cm を測る。柱穴は各コーナーに 1 基ずつ、合計 4 基存在する（北東側から時計回りに P547・550・549・548）。いずれも掘形を持ち、規模は長径 35 ～ 56cm、短径 31 ～ 44cm、床面からの深さ 69 ～ 93cm を測る。柱痕は P547・550 に認められ、太さ 13cm 程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。南側袖部はカクランを受け、欠損している。火床部の長さは 75cm を測る。袖部は暗灰黄色粘質シルトで構築される。また住居中央部で地床炉を 1 基検出した。東側が小ピットに切られているが、径 40cm 程の円形を呈し、その範囲内が焼成により明赤褐色に変色する。

出土土器･土製品の総重量は 5.981kg で、すべて古墳時代後期に比定される。土師器杯（49）･甕（50）、須恵器杯蓋（51・52）・杯（53・54）がカマド及びその周辺から出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期（7 世紀前半）と推定される。

SI1305（図版 65・68・121・128）

38L、38・39M グリッドに位置する。西側で SX1336 と重複し、これを切っている。中央部で SB1840 と重複し、これに切られる。平面形は長方形を呈し、長軸 6.23m、短軸 5.22m、検出面から床面までの深さ 25cm、面積は 31.29m^2 を測る。主軸方向は短軸側でＮ－ 71°－ Ｅを示す。覆土は黒褐色･褐灰色・黄褐色のシルトからなり、4 層に識別される。いずれも炭化物や焼土を含み、水平に堆積する。このうち 3 層は貼り床に相当し、4 層は周溝の覆土である。

床面はほぼ平坦で、黄褐色と黒褐色のシルト土が斑状に混在する貼り床を 5 ～ 10cm の厚さで検出した。しまりは中程度で、硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は東辺のカマド北側から北辺の東寄りと西辺から南辺にかけて、それぞれ連続して検出した。規模は幅 13 ～ 20cm、床面からの深さ 3 ～ 10cm を測る。柱穴は検出できなかった。

カマドは東辺の南寄りに存在する。焚口部から現存する煙道部先端までの長さは 2.17m を測り、煙道部は 1.58m 住居外に延びる。袖部は北側のみが残存し、褐灰色シルトで構築され、内部から円筒形土製品（60･61）がほぼ垂直に突き刺さったような状況で検出した。また住居中央部で地床炉を 1 基検出した。径 36cm 程の円形を呈し、その範囲内が焼成により明赤褐色に変色する。住居床面直上からは焼土と炭化物を多く検出した。いずれも焼土の下に炭化物が薄く堆積していた。

出土土器・土製品の総重量は 15.649kg で、すべて古墳時代後期に比定される。カマド内からは土師器

甑（59）・土製支脚（62）、カマドの南側からは土師器杯（55）・壺（56）・甕（57・58）が出土している。ほかに凹石（482）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期と推定される。

SI1821（図版 71・72・129・130）

39L・M グリッドに位置する。北西隅で SK1886、西側で SI1820 と重複し、これらを切っている。南東隅で SK1839、北東隅で SK1822 と重複し、これらに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 6.57m、短軸 6.07m、検出面から床面までの深さ 30cm、面積は 39.07m^2 以上を測る。主軸方向はＮ－ 77°－Ｅを示す。覆土は灰黄褐色・褐色・にぶい黄褐色のシルトからなり、5 層に識別される。3 層は北側で部分的に堆積し、また 4 層は南壁に沿って斜めにブロック状に堆積している。5 層は周溝の覆土である。

床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は東辺と、北辺から西辺の北寄りにかけてと、南辺に断続的に設けられ、規模は幅 13 ～ 47cm、床面からの深さ 6 ～ 9cm を測る。柱穴は各コーナーに 1 基ずつ、合計 4 基存在する（北東側から時計回りに P1855・1857・1858・1856）。いずれも掘形を持ち、規模は径 28 ～ 37cm、床面からの深さ 58 ～ 64cm を測る。柱痕はすべてに認められ、太さ 10 ～ 14cm 程度の柱が据えられていたと推定される。カマドや炉は確認できなかった。

出土土器の総重量は 7.255kg で、古墳時代前期・後期、古代の土器が混在している。古墳時代前期の土器は壺（36）が出土しているが、後世の混入と考えられる。古墳時代後期の土器は土師器高杯（37・38）、須恵器杯蓋（39）、須恵器杯（40）がそれぞれ出土している。このうち 39 は床面直上から出土した。古代の土器は覆土上層から須恵器杯蓋（41・42）が出土した。本遺構を切っている SK1822 からも当該期の土器が出土しているため、後世の混入と考えられる。また住居南西側を中心に敲石（481）、凹石（484）のほか楕円形の自然礫が 6 点出土した。遺構の存続時期は床面直上から出土した遺物の年代から古墳時代後期（7 世紀中葉）と推定される。

SI1615（図版 71・73・130）

39N グリッドに位置する。SB1626 と重複し、これに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 4.07m、短軸 4.06m、検出面から床面までの深さ 25cm、面積は 15.22m^2 を測る。主軸方向はＮ－ 78°－Ｅを示す。覆土は黒褐色・灰黄褐色・褐灰色・橙色・にぶい赤褐色・灰褐色のシルトからなり、9 層に識別され、レンズ状に堆積する。このうち、1 ～ 3 層は住居本体の覆土、4・5 層は周溝の覆土である。6 ～ 9 層は西側で検出した土器集中区に相当し、住居本体の覆土とは区別される。

床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は全周し、規模は幅 10 ～ 20cm、床面からの深さ 9cm を測る。柱穴は南西側を除く各コーナーに 1 基ずつ、合計 3 基確認した（北東側から時計回りに P1634・1637・1635）。いずれも掘形を持ち、規模は径 27 ～ 36cm、床面からの深さは 4 ～ 14cm である。柱痕は確認できなかった。住居西側では土器や焼土がまとまって廃棄されていた。土器集中区の範囲は不整形を呈し、長径 2.10m、短径 1.44m を測る。土器は細かく破砕された上に風化が著しく、器形を復元できるものは少なかった。

出土土器・土製品の総重量は 11.630kg で、すべて古墳時代後期に比定される。土器集中区から土師器杯（63）・甕（64・65）・甑（66）、円筒形土製品（67）・土製支脚（68・69）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期と推定される。

SI900（図版 82・83・131）

40O グリッドに位置する。東側で SK883 にカマドの煙道部を切られる。南側は調査範囲外に延びる

ため明らかではないが、平面形は方形を呈すると考えられる。長軸 5.58m、短軸 5.41m、検出面から床面までの深さ 25cm、面積は 27.05m^2 以上を測る。主軸方向はＮ－ 96°－Ｅを示す。覆土は黒褐色と暗褐色の粘土からなり、3 層に識別される。このうち、3 層は西側の壁際でブロック状に堆積する。

床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は北辺の東寄りと西辺の北寄りでそれぞれ断続的に検出され、規模は幅 10 ～ 13cm、床面からの深さ 3 ～ 9cm を測る。柱穴は確認できなかった。カマドは東辺の北寄りに存在する。焚口部から現存する煙道部先端までの長さは 1.38m を測り、煙道部は 46cm 以上住居外に延びる。袖部は灰黄褐色粘土で構築され、左側の袖には芯材として用いられた石が残っていた。火床部は赤化していた。

住居に伴う施設として、カマドの南側で確認された小ピット（P1518）がある。平面形は不整形を呈し、長径 87cm、短径 49cm、床面からの深さ 6cm を測り、そのほぼ中央を径 43cm、深さ 51cm の範囲で円形に掘り込んでいる。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色・暗褐色・褐色・にぶい黄褐色の粘土からなり、ブロック状に堆積している。

出土土器・土製品の総重量は 12.752kg で、すべて古墳時代後期に比定される。カマド内から土製支脚（78）、住居北東隅から土師器甕（71 ～ 74･76）･甑（77）、カマドの南側から土師器甕（75）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期と推定される。

SI1510（図版 82・83・132）

39・40N グリッドに位置する。南東隅で SD1502 と、東側のカマド付近で SE882 と、中央部で SK1508 と重複し、これらに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 5.46m、短軸 5.28m、検出面から床面までの深さ 19cm、面積は 28.06m^2 を測る。主軸方向はＮ－ 89°－Ｅを示す。覆土は暗褐色シルトと暗褐色・にぶい黄褐色・黒褐色・褐色・にぶい赤褐色の粘土からなり、7 層に識別される。このうち、1・2 層は住居本体の覆土、5 層は東側や北側の壁際に見られる覆土、3・4・6・7 層は周溝の覆土である。

床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は断続的に存在し、規模は幅 15 ～ 20cm、床面からの深さ 6 ～ 10cm を測る。柱穴は北東隅に 1 基（P1539）を検出した。掘形を持ち、規模は径 48 ～ 53cm、床面からの深さ 39cm を測る。柱痕が認められ、太さ 18cm 程度の柱が据えられていたと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。遺構の重複が著しく、袖や煙道は確認できなかった。また焼土をカマドの南側（SX1542）、住居中央部（SX1526）、住居北辺（SX1534）でそれぞれ確認した。SX1542 は平面形が瓢型を呈し、長径 66cm、短径 40cm、床面からの深さ 10cm を測る。覆土中には焼土のほかに炭化物や灰が混入していたことから、カマド内の灰などを廃棄したと推定される。SX1526 は平面形が楕円形を呈し、長径 65cm、短径 40cm、床面からの深さ 5cm を測る。床面が比熱していることから地床炉と考えられる。SX1534 は床面より 10cm 程高い地点で検出したことから、本住居が廃絶した後に焼土を廃棄したものと考えられる。

出土土器・土製品の総重量は 18.511kg で、すべて古墳時代後期に比定される。カマド内からは円筒形土製品（91）・土製支脚（93）、SX1542 を含む住居南東隅からは甕（84 ～ 87）・甑（88・89）、円筒形土製品（90）、土製支脚（92）、住居西辺からは土師器壺（83）が出土している。また住居南側を中心に、石錘（471 ～ 473）や凹石（483）のほか楕円形の自然礫が 9 点出土した。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期と推定される。

SI1604（図版 82・84・85・122・133）

38・39N、38・39O グリッドに位置する。東側で SX1570、南側で SD1607 ～ 1609 と重複し、これらを切っている。南側で SE871 と重複し、これに切られる。平面形は方形を呈し、長軸 6.73m、短軸 6.56m、検出面から床面までの深さ 41cm、面積は 40.31m² を測る。主軸方向は短軸側で N － 106° － E を示す。覆土は浅黄橙色粘質シルトと褐灰色･灰黄褐色シルトからなり、全体的に炭化物粒を多く含む。5 層に識別され、レンズ状に堆積する。このうち、1 ～ 4 層は住居本体の覆土、5 層は周溝の覆土である。

床面はほぼ平坦で、Ⅳb 層を整地しており、貼り床や硬化面は認められない。壁面は急斜度に立ち上がる。周溝は東辺のカマド 1 とカマド 2 及び北西隅を除いて、ほぼ連続的に確認でき、規模は幅 14 ～ 30cm、床面からの深さ 5 ～ 6cm を測る。柱穴は各コーナーに 1 基ずつ、合計 4 基存在する（北東側から時計回りに P1616・1617・1618・1619）。いずれも掘形を持ち、規模は径 18 ～ 37cm、床面からの深さ 1.02 ～ 1.43m を測る。掘形の下部は袋状に膨らみ、底部の径は 30 ～ 48cm である。柱痕はすべてに認められ、太さ 12 ～ 15cm 程度の柱が据えられていたと推定される。また P1617 の柱痕底部は、掘形底面を突き抜けている。

カマドは東辺の北寄りにカマド 1、同南寄りにカマド 2 が存在する。カマド 1 は、焚口部から現存する煙道部先端までの長さ 2.58m、両袖内側間の幅 83cm であり、煙道部は 1.75m 住居外に延びる。袖部はにぶい黄褐色粘質シルトで構築される。火床部はよく焼けて赤化している。カマド 2 は袖部と火床部が確認できず、住居外に延びる煙道部だけが残っていた。現存する煙道部の長さ 1.33m、幅 35cm である。袖部は、カマド 1 が残っているのに対して、カマド 2 には残っていないことから、カマド 2 を廃絶してカマド 1 を新たに構築したものと考えられる。

床面直上から焼土ブロックと炭化材を多く検出した。いずれも住居中央から壁際にかけて放射状に分布している。炭化材は長さ 30 ～ 90cm、幅 6 ～ 20cm 程である。樹種はカエデ属もしくはオニグルミである。床面が被熱した痕跡は確認できなかった。焼土ブロックと炭化材を多く検出した竪穴住居は本遺跡に隣接する上越市北新田遺跡 SI201［金内ほか 2008］で確認できるが、住居の存続時期、焼土ブロックと炭化材の分布状況、炭化材の樹種がそれぞれ異なっており、両者の間に関連性は無いものと考えられる。

出土土器・土製品の総重量は 26.003kg で、すべて古墳時代後期に比定される。カマド 1 からは土師器杯（97）･甕（99）、敲石（479･480）が出土している。カマド 1 北側の床面直上から土師器杯（95 ＝正位）･甕（102・103 ＝横位、104 ＝逆位）・甑（107 ＝逆位）、須恵器杯（110 ＝正位）・平瓶（112 ＝正位）が完形でまとまって出土した。それ以外にも土師器甕（100・101）・把手付球胴甕（105）・甑（106・109）、須恵器短頸壺（111）・甕（113）、ミニチュア土器（114）・土製支脚（115）、石錘（475・476）・敲石（478）が出土している。カマド 2 の煙道部からは土師器杯（96）・甕（99）、周辺からは甑（108）、石錘（474）が出土している。このほか、住居南西側から土師器高杯（94）、北西隅から土製支脚（116）、南側で敲石（477）が出土している。また石錘等に用いられたと推定される楕円形の自然礫が 29 点出土した。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期（7 世紀前半）と推定される。

2）溝

SD607（図版 55・56・71・77・81・185）

40K ～ M、41・42M グリッドに位置する。北側から SD601・602、SB1500-P1431・1767、SB1750-P1459･1780、SB1762-P1453、SB1761-P1753、SA1265-P1917、SB1470-P1476 と重複し、これらに切られる。南側は調査区外に延び、南北方向に走り、40L グリッド以北からは北東方向に大き

く曲がる。長さ 29.64m 以上、幅 1.00 ～ 1.50m、検出面からの深さ 7 ～ 33cm を測り、底面標高は北から南にかけて低くなる。長軸方向はＮ－ 6 ～ 41°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積するが、北側では覆土 1 層の単層となる。遺物は覆土から古墳時代後期の須恵器（262）のほか、土師器が多量に出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から古墳時代後期（7 世紀前半）と推定される。

D　古代の遺構

掘立柱建物 26 棟、井戸 2 基、土坑 16 基、道 3 条、溝 7 条、性格不明遺構 5 基あり、南西部遺構集中区及びその周辺に位置している。

1）掘立柱建物

SB480（図版 26・27・138）

36G、35・36H グリッドに位置する側柱建物である。P491 が SB493P497 と重複するが、新旧関係は不明である。P482・490 が SD471、P485・486・489 が SD461・463・466 と重複し、これに切られる。桁行 4 間（7.00 ～ 7.13m）、梁行 2 間（3.88 ～ 4.01m）の長方形で、面積は 27.89m² を測る。長軸方向はＮ－ 89°－ E を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行・梁行方向ともに 1.80m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P482・486・489 以外の柱穴に認められ、太さ 16 ～ 24cm 前後の柱が据えられていたと推定される。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は P492・482・485・488 から土師器が出土している。本遺構は中世の区画溝（SD518・815）の内部に位置しているが、柱穴の覆土が区画溝のそれとは異なっており、近接した時期に存続していたものとは考えにくい。遺構の存続時期は古代と推定される。

SB725（図版 30・32・139）

39・40H、39・40I グリッドに位置する側柱建物である。桁行 2 間（5.11 ～ 5.31m）、梁行 2 間（4.68 ～ 4.82m）の長方形で、面積は 24.75m² を測る。長軸方向はＮ－ 88°－ E を示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られる。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB681 の東側約 12.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB952（図版 46・49・143）

36H、35・36I グリッドに位置する側柱建物である。P979 が SD518 と重複し、これに切られる。桁行 2 間（4.18 ～ 4.65m）、梁行 2 間（3.85 ～ 3.88m）の長方形で、面積は 17.06m² を測る。長軸方向はＮ－ 84°－ W を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向 2.10m、梁行方向 1.90m 前後である。柱穴の規模はばらつきがあるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB480 の南西側約 0.5m、SB531 の北側約 1.5m 先に位置しており、長軸方向及び柱穴の覆土が近似する。そのためこれらの建物は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB531（図版 46・49・143）

36I グリッドに位置する側柱建物である。P534 が SD505、P535 が SD602、P538・539 が SD518 と重複し、これらに切られる。桁行 3 間（5.86m）、梁行 2 間（4.26m）の長方形で、面積は 24.96m² を測る。長軸方向はＮ－ 86°－ W を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向 1.80m、梁行方向 2.10m 前後である。

柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、太さ 12 ～ 16cm 前後の柱が据えられていたと推定される。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は P536 から土師器が出土している。本遺構は SB952 の南側約 1.5m、SB480 の南南西側約 7.5m 先に位置しており、長軸方向及び柱穴の覆土が近似する。そのためこれらの建物は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB1057（図版 51・52・144・184）

37・38I、38J グリッドに位置する側柱建物である。P1032 が SK594 と重複し、これを切っている。南西側で SB681 と重複するが､新旧関係は不明である。桁行 5 間(7.83 ～ 8.10m)､梁行 3 間(4.34 ～ 4.42m)の長方形で､面積は 34.89m^2 を測る。長軸方向は N － 7° － W を示し､南北棟となる。柱間寸法は桁行方向･梁行方向ともに 2.20m 前後である。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。梁行方向は中間の柱がともに外側にずれる。遺物は P643・683・685・687・688 から土師器が出土している。

SD666 は 38I グリッドに位置する溝である。長さ 10.40m、幅 0.80 ～ 2.20m、検出面からの深さ 9 ～ 13cm を測る。長軸方向は N － 8° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は 4 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土から古墳時代後期の須恵器（136）、古代の土師器（137）が出土している。SB1057 と近接し、長軸方向がほぼ同一であることから同遺構の雨落ち溝である可能性が高い。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から古代と推定される。

SB681（図版 51・52・144）

38I、38・39J グリッドに位置する側柱建物である。P682 が SK594 と重複し、これを切っている。P685 が SD602 と重複し、これに切られる。桁行 3 間（6.31 ～ 6.53m）、梁行 2 間（4.36 ～ 4.60m）の亀甲形で、面積は 28.76m^2 を測る。長軸方向は N － 1° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向･梁行方向ともに 2.20m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。梁行方向は中間の柱がともに外側にずれる。遺物は P643・683・685・687・688 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SD1029 は 38I･J グリッドに位置する溝である。長さ 2.58m､幅 45cm､検出面からの深さ 4cm を測る。長軸方向は N － 0° を示す。断面系は孤状を呈する。覆土はオリーブ褐色～黄褐色シルトである。覆土から土師器が出土している。SB681 と近接し、長軸方向がほぼ同一であることから同遺構の雨落ち溝である可能性が高い。

SB583（図版 51・52・145）

37・38J、37K グリッドに位置する側柱建物である。P584 が SD602、P585 が SD1049 と重複し、これに切られる。桁行 3 間(5.28 ～ 5.31m)､梁行 2 間(4.47 ～ 4.57m)の亀甲形で､面積は 23.96m^2 を測る。長軸方向は N － 9° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 1.80m、梁行方向東側 2.30m 前後である。柱穴の規模はばらつきがあるが、いずれも掘形を持つ。梁行方向は中間の柱がともに外側にずれる。遺物は P585 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1715（図版 55・56・145）

39・40K グリッドに位置する側柱建物である。南西隅の柱穴は SD601 によって削平されたため確認できなかった。西側で SK613・SD602 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（4.32m）、梁行 2 間（3.48m）の長方形で、面積は 15.03m^2 を測る。長軸方向は N － 4° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきがあるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並

ぶ。遺物はP615から土師器が出土している。本遺構はSB1887の東側約7.5m先に位置しており、軸方向が近似する。そのためこれらの建物は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB377（図版58・60・146）

41・42I、41・42Jグリッドに位置する側柱建物である。P383がSD909、P385がSD908と重複するが、新旧関係は不明である。桁行4間（5.59～5.71m）、梁行1間（4.05～4.10m）の長方形で、面積は23.00m^{2}を測る。長軸方向はN－74°－Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は、桁行方向が1.40m、梁行方向4.00m前後である。柱穴の規模は長径62～91cm、短径49～68cm、検出面からの深さ42～63cmの長楕円形を呈し、隅柱は梁行方向、それ以外は桁行方向に長径を持つ。いずれも掘形を持つ。すべての柱穴で柱痕が確認され、15～25cm前後の柱が据えられていたと推定される。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はすべての柱穴から古墳時代及び古代の土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から古代と推定される。

SB415（図版62・63・64・147・185）

42J・Kグリッドに位置する側柱建物である。SB439と重複するが、新旧関係は不明である。桁行3間（5.77～5.81m）、梁行2間（3.40～3.66m）の長方形で、面積は20.44m^{2}を測る。長軸方向はN－78°－Wを示し、東西棟となる。柱間寸法は、桁行方向1.90m、梁行方向1.80m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも主軸方向に長径を持ち、掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はP418・424から土師器が出土している。

SD429は42Kグリッドに位置する。SB415の南東に立地し、同建物を囲うような円弧状を呈する。幅70cm、検出面からの深さ7～18cmを呈する。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が出土している。SB415の雨落ち溝である可能性が高い。

本遺構はSB377の南側約8m先に位置しており、軸方向が近似する。そのためこれらの建物は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB408（図版62・63・147）

42･43J、42･43Kグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間（3.80～4.14m）、梁行2間（3.23～3.80m）の不整長方形で、面積は13.95m^{2}を測る。長軸方向はN－11°－Eを示し、南北棟となる。柱間寸法はばらつきが見られるものの、柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はP410から古代の須恵器（138）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1414（図版62・63・147）

42K、42・43Lグリッドに位置する側柱建物である。P1423でSB1782-P1408と重複するが、新旧関係は不明である。桁行4間（10.81～11.14m）、梁行3間（4.33～4.73m）の不整長方形で、面積は52.91m^{2}を測る。長軸方向はN－6°－Wを示し、南北棟となる。柱間寸法は、桁行方向が2.70m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行は直線状に並ぶが、北側梁行のみ中間柱が外側にずれる。遺物は出土していない。本遺構の南側に隣接するSB1782とは軸方向が近似する。そのためこれらの建物は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は古代と推定される。

SB1782（図版62・64・147・185）

42・43L グリッドに位置する。P1408 で SB1414 と重複し、これを切っている。P1292 で SB1440 と重複し、これに切られる。北側以外の柱穴は調査区外に延びるため、確認できなかったが、周囲の状況から梁行 2 間（3.76m）の長方形を呈する建物である可能性が高い。軸方向はＮ－ 88°－ Ｅを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、軸方向に長径を持ち、いずれも掘形を持つ。遺物は P1292 から古代の須恵器（146）、また P1286 から土師器、古代の須恵器が出土している。

SD1295 は 42L グリッドに位置する溝である。長さ 4.97m、幅 80cm、検出面からの深さ 6cm を測る。長軸方向はＮ－ 90°を示す。断面系は孤状を呈する。覆土は暗褐色シルト層と淡黄褐色シルト層の 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器、古代の須恵器が出土している。SB1782 と近接し、軸方向が近似することから同遺構の雨落ち溝である可能性が高い。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1840（図版 65・68・147）

38L・M グリッドに位置する側柱建物である。SI1305 と重複し、これを切っている。桁行 3 間（4.39 ～ 4.46m）、梁行 2 間（2.81 ～ 3.31m）の長方形で、面積は 13.55m² を測る。長軸方向はＮ－ 10°－ Ｅを示し、南北棟となる。柱間寸法は、桁行方向が北側から 2.15m・1.20m・1.00m と北側が広い。梁行方向は北側 1.40m、南側 1.60m と南側が広くなっている。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶが、P1377 のみやや内側にずれる。遺物は P1386 から古代の須恵器（139）、P1322・1379・1380・1390 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半頃と推定される。

SB1626（図版 71・73・147）

39M･N グリッドに位置する側柱建物である。SI1604 と重複し、これを切っている。SD1601 と重複し、これに切られる。桁行 3 間（4.61 ～ 4.75m）、梁行 2 間（3.75m）の長方形で、面積は 17.55m² を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ Ｅを示し、東西棟となる。柱間寸法は、桁行方向 1.60m、梁行方向 1.80m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行･梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。遺物は P1631 から古代の須恵器（147）、P1603･1621･1627･1629･1630 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 9 世紀前葉頃と推定される。

SB1887（図版 71・73・148）

38・39L グリッドに位置する側柱建物である。北東隅の柱穴は検出できなかった。P1313 が SI1395 と重複し、これを切っている。P1890 が道(SD1600)と重複し、これに切られる。桁行 5 間(8.28 ～ 8.54m)、梁行 2 間（4.16 ～ 4.18m）の長方形で、面積は 35.07m² を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ Ｗを示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。遺物は P1816 から土師器が出土している。遺構の存続時期は切り合い関係から古代と推定される。

SB1760（図版 71・74・148）

39・40L、39・40M グリッドに位置する側柱建物である。P1776・1862 が SK1839、P1453 が SD607 と重複し、これを切っている。P1751 が SD893 と重複し、これに切られる。また南側で SB1452･1460 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 5 間(7.75 ～ 7.78m)、梁行 2 間(4.28 ～ 4.43m)の長方形で、面積は 33.82m² を測る。長軸方向はＮ－ 79°－ Ｗを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向の最も西側の間隔が 1.70m 前後であることを除いて、桁行･梁行方向ともに、2.10m 前後である。

柱穴の規模にはばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。また P1755・1757、P1924・1925 によって建物が 3 つに区画され、東西は各 1 間ほど、中央は 2 間ほどの間取りであった可能性が高い。

遺物は P1439 から古代の須恵器（142）、P1453 から土製支脚、また各柱穴から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半頃と推定される。

SB1452（図版 71・74・149・186）

40L・M グリッドに位置する側柱建物である。北側で SB1760、南側で SB1460 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（6.17 ～ 6.36m）、梁行 2 間（4.62 ～ 4.64m）の長方形で、面積は 29.01m^2 を測る。長軸方向は N － 78° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。すべての柱穴から柱痕が確認され、15 ～ 25cm 前後の柱が据えられていたと推定される。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。建物内の北東スペースから焼土（SX1474）が、遺構検出面より 5cm 程度高いレベルで検出されている。本遺構に伴うカマドなどの痕跡である可能性が高い。遺物は P1449 から古代の須恵器（140）、また各柱穴から土師器、須恵器が出土している。

SD1428 は 40M グリッドに位置する溝である。長さ 4.65m、幅 0.93 ～ 1.26m、検出面からの深さ 16 ～ 36cm を測る。長軸方向は N － 79° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器･須恵器が多量に出土している。SB1452 と近接し長軸方向がほぼ同一であることから、同遺構の雨落ち溝である可能性が高い。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半頃と推定される。

SB1460（図版 71・75・149）

40L、39・40M グリッドに位置する側柱建物である。北側で SB1760・1452 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（7.02 ～ 7.45m）、梁行 2 間（3.65 ～ 3.69m）の不整長方形で、面積は 26.55m^2 を測る。長軸方向は N － 68° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。P1461・1462・1465・1466 から柱痕が確認され、10 ～ 20cm 前後の柱が据えられていたと推定される。また P1462･1464･1468 によって建物が区画され、西側は 2 間、東側は 1 間の間取りであった可能性が高い。遺物は P1467 から古代の須恵器（141）、また各柱穴から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半頃と推定される。

SB1482（図版 71・75・150）

40L グリッドに位置する側柱建物である。P1485 が SD607 と重複し、これを切っている。桁行 2 間（2.43 ～ 2.70m）、梁行 1 間（1.97 ～ 2.00m）の不整長方形で、面積は 5.08m^2 を測る。長軸方向は N － 27° － W を示し、南北棟となる。柱間寸法や柱穴の規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。すべての柱穴から柱痕が確認され、10 ～ 15cm 前後の柱が据えられていたものと推定される。遺物は各柱穴から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1500（図版 77・78・150）

40L グリッドに位置する側柱建物である。西側で SD607 と重複し、これを切っている。東側で SD601・602、SX1427 と重複し、これに切られる。また南側で SB1750・1761・1762 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（5.29 ～ 5.61m）、梁行 2 間（4.40 ～ 4.78m）の不整長方形で、面積は 23.43m^2 を測る。長軸方向は N － 83° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。P1430・1436・1497・1498 から柱痕が確認され、10 ～ 20cm

の柱が据えられていたものと推定される。遺物は各柱穴から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1750（図版 77・78・150）

40・41L グリッドに位置する側柱建物である。西側で SD607 と重複し、これを切っている。東側で SD601、SX1427 と重複し、これに切られる。また北側で SB1500、南側で SB1761・1762 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（4.31 ～ 4.59m）、梁行 2 間（3.53 ～ 3.57m）の亀甲形で、面積は 15.80m² を測る。長軸方向は N － 75° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法はばらつきが見られるものの、柱穴の規模はほぼ同様の形態を示し、いずれの柱穴も掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。P1438・1458・1459・1490・1495 から柱痕が確認され、10 ～ 20cm 前後の柱が据えられていたものと推定される。P1441 は覆土中位に淡黄褐色シルトが水平に堆積していることから、柱を抜き取った後、埋め戻したものと考えられる。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。遺物は P1490・1459 から古代の須恵器（144・145）、また各柱穴から土師器が出土している。

SD1742 は 40・41L グリッドに位置する溝である。西側で SD607 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ約 4.13m、幅 72 ～ 97cm、検出面からの深さ 9cm を測る。長軸方向は N － 71° － W を示す。断面形は孤状を呈する。遺物は覆土から土師器、古代の須恵器（143）が出土している。SB1750 と近接し、長軸方向がほぼ同一であることから同遺構の雨落ち溝である可能性が高い。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半頃と推定される。

SB1762（図版 77・78）

40・41L、40M グリッドに位置する側柱建物である。西側で SD607 と重複し、これを切っている。北東側で SD601 と重複し、これに切られる。また北側で SB1500・1750、南側で SB1761、SD1742 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（3.83 ～ 3.99m）、梁行 2 間（3.91m）の不整方形で、面積は 15.29m² を測る。長軸方向は N － 70° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は P1752 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1761（図版 77・79・151）

40・41L、40M グリッドに位置する側柱建物である。西側で SD607 と重複し、これを切っている。また北側で SB1500・1750・1762 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（4.01 ～ 4.07m）、梁行 2 間（3.04 ～ 3.25m）の不整長方形で、北側の桁行 3 間・梁行 1 間、南側の桁行 1 間・梁行 1 間の 2 つの間取りからなる。面積は 13.04m² を測る。長軸方向は N － 70° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は P1494・1496・1753 から土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1470（図版 77・79・151）

41･42M、41N グリッドに位置する側柱建物である。P1476 が SD607 と重複し、これを切っている。南東側の柱穴は調査区外に延びるため、確認できなかったが、周囲の状況から桁行 3 間（5.28m）、梁行 2 間（4.18m）の不整長方形で、面積は 22.07m² を測るものと考えられる。長軸方向は N － 75° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向 1.80m 前後、梁行方向 2.10m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれの柱穴も掘形を持つ。建物の北側及び西側に L 字状の目隠し塀を持ち、長軸 5.14m 以上、短軸 4.84m を測る。遺物は P1471・1472・1476・1477・1478・1480 から土師器が出土して

いる。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SB1440（図版 77・79・151）

42L、41･42M グリッドに位置する側柱建物である。P1407･1473 が SD1409 と重複し、これを切っている。P1291 が SD601、P1294 が SD602 と重複し、これに切られる。また P1456 が SX1404、P1300 が SK1405 と重複するが、新旧関係は不明である。南東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱穴並びから東西棟と推定される。桁行 5 間（6.83m）、梁行 2 間（3.90m）の不整長方形で、面積は 26.64m^2 を測る。長軸方向は N － 64˚ － W を示す。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。建物内中央付近で焼土（**SX1406**）が検出面より 5cm 程度高いレベルで検出されている。本遺構に伴うカマドなどの痕跡の可能性が考えられる。遺物は P1288・1291・1407・1455・1456・1473 から土師器、P1287 から砥石（499）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SA1711 は 41M･42L グリッドに位置する杭列である。P1792 が SD602 と重複し、これに切られる。P1793 が SD1296 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 11.68m、柱間寸法 1.48 ～ 3.04m を測る。長軸方向は N － 65˚ － W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、ほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。SB1440 と近接し、長軸方向がほぼ同一であることから同遺構の廂もしくは目隠し塀と推定される。

2）井　　戸

SE605（図版 55・57・160）

39K グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 1.16m、短径 86cm、検出面からの深さ 1.74m を測る。長軸方向は N － 41˚ － E を示す。断面形状は台形状を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトを主体とし、7 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（158 ～ 161）、土師器が出土している。ほかに覆土 4 層を中心に搬入礫が 48 個（計 46.1kg）出土した。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SE450（図版 58・61・161）

42J グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.08 ～ 1.16m､検出面からの深さ 1.00m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器、須恵器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

3）土　　坑

SK800（図版 26・27・169）

35G グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 81 ～ 86cm、検出面からの深さ 92cm を測る。断面形は階段状を呈する。覆土は暗褐色シルトと暗黄褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土 3 層を中心に、古代の土師器（232 ～ 235）、土製品（236）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SK613（図版 55・56）

39・40K グリッドに位置する。SB1715-P631 と重複し、これを切っている。SD602 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈する。長径 1.21m、短径 84cm、検出面からの深さ 25cm を測る。長

軸方向はＮ－3°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から古代と推定される。

SK617（図版 55・56・173）

39I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 86 ～ 94cm、検出面からの深さ 74cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器（237）、須恵器、砥石（519）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SK1802（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1806・1807・1817 と重複し、これらを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径 2.04m、短径 1.25m、検出面からの深さ 28cm を測る。長軸方向はＮ－27°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器や須恵器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。また後述する SK1803 ～ 1807･1817 は覆土が近似することから、近接した時期に存続していたものと考えられる。

SK1803（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1806 と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、長径 1.54m、短径 1.18m、検出面からの深さ 32cm を測る。長軸方向はＮ－87°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1804（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1817 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 81 ～ 86cm、検出面からの深さ 36cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1805（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1806 と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径 1.64m、短径 1.02m、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－20°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1806（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1803・1805 と重複し、これらに切られる。平面形は円形と推定され、径 2.02 ～ 2.15m、検出面からの深さ 20cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1807（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1802 と重複し、これに切られる。平面形は円形と推定され、径 78cm 以上、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1817（図版 65・70・174）

37M グリッドに位置する。SK1802･1804 と重複し、これらに切られる。平面形は長楕円形と推定され、長径 1.06m 以上、短径 70cm 以上、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1839（図版 71・72・174）

39M グリッドに位置する。西側で SI1821 と重複し、これを切っている。東側で SB1760-P1776・1862 と重複し、これらに切られる。平面形は長楕円形を呈する。長径 4.62m、短径 2.76m、検出面からの深さ 43cm を測る。長軸方向は N － 27° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。最下層の覆土 6 層は炭化物を多量に含む。遺物は覆土から古代の須恵器（242）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SK1822（図版 71・76・175）

39L グリッドに位置する。南西側で SI1821 と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径 4.49m、短径 2.49m、検出面からの深さ 48cm を測る。長軸方向は N － 47° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトと黒褐色シルトを主体とし、6 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土 5 層は炭化物を多量に含む。遺物は覆土から古代の土師器（238）、須恵器（239 ～ 241）、中世の五輪塔（524）が出土している。五輪塔は覆土上層から出土しており、後世の混入と考えられる。

本遺構は SK1839 の北側約 1.2m 先に位置しており、規模や覆土の堆積状況が近似する。そのためこれらの土坑は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は出土土器の年代から 8 世紀前半と推定される。

SK1405（図版 77・81・181）

42M グリッドに位置する。SX1404、SB1440-P1300 と重複し、これらを切っている。平面形は不整形で、径 2.08 ～ 2.26m、検出面からの深さ 34cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。最下層の覆土 5 層は多量の焼土粒・炭化物を含んでおり、特に中央・北西側の底面で赤化した硬化面が見られる。遺物は覆土から土師器が出土しているが、二次焼成を受けた痕跡は確認できない。遺構の存続時期は切り合い関係等から古代と推定される。

SK1505（図版 82・87・176）

40N・O グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.96 ～ 2.23m、検出面からの深さ 28cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は褐色シルト、にぶい黄褐色粘土、暗灰黄色粘土、黒褐色粘土の 4 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器（221・222）、古代の須恵器（223・224）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 9 世紀中葉と推定される。

SK1508（図版 82・87・177）

40N グリッドに位置する。SI1510 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 80 ～ 91cm、検出面からの深さ 74cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、6 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器（245・246）、砥石（500）が出土している。ほかに覆土上層から搬入礫が 43 個（計 39.8kg）出土しており、大半が被熱している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 10 世紀末～ 11 世紀初頭と推定される。

SK1559（図版 82・87・176）

39・40O グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.19 ～ 1.40m、検出面からの深さ 17cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（243・244）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

4）道

調査区西側の 36J・K、37K・L、38 ～ 40L グリッドにかけて、87 基の溝状もしくはピット状の凹凸面が約 44.7m の長さに渡って、ほぼ南北方向に並んでいるのを検出した。それぞれの底面は平坦ではなく、大部分の覆土は褐灰色シルトの単層で、一部黄褐色シルト土が下層に堆積しているものも見られる。しまりは中程度であり、顕著な硬化面は確認できなかった。形状から道路の路床と考えられるため、ここでは道として扱う。

道はその配置から大きく 3 群に分けられ、北側から「道Ⅰ群」「道Ⅱ群」「道Ⅲ群」とした。いずれの群も路床の規模や覆土が近似しており、近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は切り合い関係及び出土土器の年代から古代と推定される。

道Ⅰ群（図版 46・50・123）

36J・K、37K グリッドに位置する SD もしくは P502、508 ～ 514、520、522 ～ 530、541 ～ 546、551 ～ 553 の計 27 基が相当する。SI501・521 と重複し、これらを切っている。約 16.3m の長さに渡って検出され、長軸方向は N － 9° － W を示す。路床の規模は長さ 1.24 ～ 2.90m、幅 27 ～ 75cm、検出面からの深さは本群南端の SD520 が 3cm である以外は、12 ～ 39cm を測る。遺物は SD512 から古代の須恵器（269）、SD527 から砥石（498）が出土している。

道Ⅱ群（図版 51・54・188）

37K・L、38L グリッドに位置する SD もしくは P1328 ～ 1335、1343 ～ 1347、1349 ～ 1350、1358 ～ 1368 の計 26 基が相当する。南側で SI1315 と重複し、これを切っている。東側で SD1324 と重複し、これに切られる。約 13.6m の長さに渡って検出され、長軸方向は北側の P1328 ～ P1334 までが N － 38° － W、SD1343 ～ 1366 までが N － 12° － W を示す。路床の規模は長さ 0.23 ～ 2.18m、幅 20 ～ 63cm、検出面からの深さは 4 ～ 32cm を測る。

道Ⅲ群（図版 71・76・187・188）

38 ～ 40L グリッドに位置する SD もしくは P1585 ～ 1593、1600、1810 ～ 1813、1825 ～ 1829、1832 ～ 1835、1842 ～ 1852 の計 34 基が相当する。北側で SB1887-P1890 と重複し、これを切っている。また南側で SD893 と重複し、これに切られる。約 14.8m の長さに渡って検出され、長軸方向は N － 33° － W を示す。路床の規模は長さ 0.20 ～ 2.42m、幅 15 ～ 55cm、検出面からの深さは 5 ～ 20cm を測る。

5）溝

SD357（図版 12・13・29 ～ 31・33・46・49・182）

37 ～ 43H、35 ～ 37・43I グリッドに位置する。SI519、SD369・733 と重複し、これを切っている。SE358、SD475 ～ 478・602 と重複し、これに切られる。調査区中央を南東－北西方向に走り、39H グリッド以北では西方向に大きく曲がる。長さ 85.12m 以上、幅 59 ～ 69cm、検出面からの深さ 13 ～ 39cm を測る。長軸方向は N － 40 ～ 97° － W を示す。断面形は弧状もしくは台形状を呈する。覆土は暗灰黄色シルト、黒褐色シルト、黄褐色シルトの 3 層に識別されるが、覆土 2 層及び 3 層は 35・36I グリッドにしか確認できず、これ以外は覆土 1 層の単層である。遺物は覆土から古墳時代後期の須恵器（263）、古代の須恵器（264 ～ 266）のほか、古墳時代及び古代の土師器が多く出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 9 世紀中葉頃と推定される。

SD369（図版 30・33・182）

38・39H グリッドに位置する。SD357 と重複し、これに切られる。長さ 8.26m 以上、幅 1.02m、検出面からの深さ 6cm を測る。長軸方向はＮ－ 5°－ W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと灰褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から古代と推定される。

SD733（図版 30・33・183）

38H グリッドに位置する。SD357 と重複し、これに切られる。長さ 5.26m 以上、幅 74cm、検出面からの深さ 9cm を測る。長軸方向はＮ－ 27°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は暗褐色粘土と暗黄褐色粘土の 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から古代と推定される。

SD601（図版 55・56・77・184）

39・40K、40・41L、41・42M グリッドに位置する。北側から SD607、SB1500-P1429・1749・1498、SB1750-P1763・1438・1759・1758、SK1293、SD601、SD1409、SB1440-P1291 と重複し、これらを切っている。また SX1404 と重複するが、新旧関係は不明である。南側は調査区外に延びる。長さ 39.12m 以上、幅 23 ～ 43cm、検出面からの深さ 5 ～ 9cm を測る。長軸方向はＮ－ 14°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトと褐灰色シルトの 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器（270）、須恵器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SD1296（図版 62・64）

42L グリッドに位置する。西側で SD602 と重複し、これに切られる。長さ 3.72m 以上、幅 39cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 86°－ E を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は暗灰色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器（271）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SD893（図版 71・77・81・186）

39L、40M・N、41M・N グリッドに位置する。北側から道（SD1848・1852）、SK1899、SB1760-P1751、SD1428、SD879、SD1502 と重複し、これらを切っている。南側が調査区外に延びる。長さ 31.78m 以上、幅 39cm、検出面からの深さ 3 ～ 15cm を測る。長軸方向はＮ－ 5°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色粘土とにぶい黄褐色粘土の 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（272）、土師器が多く出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SD1502（図版 82・87・186）

40・41N グリッドに位置する。東側で SD879、西側で SI1510 と重複し、これらを切っている。東側で SD893 と重複し、これに切られる。長さ 6.92m 以上、幅 29cm、検出面からの深さ 4 ～ 16cm を測る。長軸方向はＮ－ 82°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（273）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 9 世紀中葉頃と推定される。

6）性格不明遺構

SX951（図版 26・28・178）

36H グリッドに位置する。SB480-P491 と SB493-P497 と重複するが、新旧関係は不明である。単独の遺構なのか柱穴の一部であるのか判断できなかったため、性格不明遺構とした。平面形は不整形を呈する。長径 1.80m、短径 96cm、検出面からの深さ 12cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の覆土は SB480-P491 及び SB493-P497 のそれと近似しており、近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は古代と推定される。

SX407（図版 62・64・178）

42K グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。径 1.07 ～ 1.22m、検出面からの深さ 16cm を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は焼土を多量に含む灰黄褐色シルトの単層であるが、底面が焼成を受けた痕跡は認められない。遺物は覆土から古代の須恵器、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

SX1369（図版 65・70・180）

37・38L グリッドに位置する。北側が自然流路（SD1200）と接しているが、新旧関係は不明である。平面形は不整形を呈する。径 3.10m、検出面からの深さ 28cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から弥生土器（252）、古代の須恵器（253）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 8 世紀後葉と推定される。

SX1823（図版 71・75・181）

39L・M グリッドに位置する。西側で SE1853・1864 と重複し、これらに切られる。平面形はほぼ円形を呈する。径 1.35m、検出面からの深さ 24cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。最下層の覆土 4 層は赤褐色シルトの焼土層で、厚さ 0.5 ～ 1.0cm を測る。被熱によって形成されたものと考えられる。その直上の覆土 3 層は炭化物を多量に含む黒褐色シルト層である。覆土の堆積状況から何らかのものを燃やした焼成坑と推定される。遺物は覆土中から古墳時代及び古代の土師器が出土しているが、二次焼成を受けた痕跡は確認できない。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から古代と推定される。

SX1404（図版 77・81・181）

42M グリッドに位置する。北側で SD1409 と重複し、これを切っている。西側で SK1405 と重複し、これに切られる。また北側で SD601 と重複するが、新旧関係は不明である。南側は調査区外に延びる。平面形は方形を呈するものと考えられる。一辺 4.72m、検出面からの深さ 8cm を測る。軸方向は N － 80° － E を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色シルトと淡黄褐色シルトの 2 層に識別され、水平に堆積する。遺物は古代の須恵器（256・257）、土師器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から古代と推定される。

E　中世の遺構

掘立柱建物 40 棟、井戸 40 基、土坑 17 基、溝 18 条、畑作溝 1 群、性格不明遺構 4 基があり、その大部分は自然流路右岸から 15m 以上離れた北部・東部遺構集中区に位置している。

1）掘立柱建物

SB840（図版 2・3・5・134）

36D、35 ～ 37E グリッドに位置する側柱建物である。南側で SB912・1716 と重複するが、新旧関

係は不明である。南西隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行３間（10.57m）、梁行２間（8.01m）の長方形で、面積は84.67m² を測る。長軸方向はＮ－2°－Ｅを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB844（図版５・６・134）

36・37D、37E グリッドに位置する側柱建物である。P846 が SB851 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行２間（3.57m）、梁行１間（2.04 ～ 2.38m）の長方形で、面積は 7.88m² を測る。長軸方向はＮ－2°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行 1.80m 前後、梁行が北側 2.38m、南側 2.04m と桁行南側が狭くなる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ遺構の存続時期は中世と推定される。

SB912（図版５・６・134）

36・37E グリッドに位置する側柱建物である。北側で SB880・1716 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行２間（3.43 ～ 3.84m）、梁行２間（2.87 ～ 3.67m）の方形で、面積は 11.18m² を測る。長軸方向はＮ－80°－Ｅを示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行･梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝(SD518･802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB928（図版５・６・134）

37･38E グリッドに位置する側柱建物である。東側で SB1201 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行３間（4.45 ～ 4.79m）、梁行２間（4.33 ～ 4.65m）の方形で、面積は 20.46m² を測る。長軸方向はＮ－1°－Ｅを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1716（図版５・６・134）

36・37E グリッドに位置する側柱建物である。北側で SB880・912 と重複するが新旧関係は不明である。桁行２間（4.20 ～ 4.42m）、梁行２間（3.95 ～ 3.97m）の方形で、面積は 16.81m² を測る。長軸方向はＮ－7°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行･梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518･802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1275（図版９・10・135）

38D グリッドに位置する側柱建物である。SB1266・1270 と重複するが、新旧関係は不明である。南西隅部分のみ検出した。周囲の状況から南北に長軸を持つ建物の可能性が高く、長軸方向はＮ－3°－Ｗ

を示し、南北棟となる。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD815）の東側約 8m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1270（図版 9・10・135）

38D グリッドに位置する側柱建物である。SB1266・1275 と重複するが、新旧関係は不明である。南西隅部分のみ検出した。周囲の状況から南北に長軸を持つ建物の可能性が高く、長軸方向はＮ－ 3°－Ｗを示し、南北棟となる。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD815）の東側約 8m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1266（図版 9・10・135）

38D グリッドに位置する側柱建物である。SB1270・1275 と重複するが、新旧関係は不明である。南西隅部分のみ検出した。周囲の状況から南北に長軸を持つ建物の可能性が高く、長軸方向はＮ－ 9°－Ｗを示し、南北棟となる。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD815）の東側約 8m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1701（図版 9・10・135）

38D、38･39E グリッドに位置する側柱建物である。P1707 が SK1278 と重複し、これを切っている。南東隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 2 間（5.49m）、梁行 2 間（3.81m）の長方形で、面積は 20.75m² を測る。長軸方向はＮ－ 4°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶが、P1703 のみやや内側に位置する。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD815）の東側約 2.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1215（図版 14・15・136）

43･44F、43G グリッドに位置する総柱建物である。北側で SB1230、南西側で SB1940 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 5 間（7.25 ～ 8.48m）、梁行 3 間（6.35 ～ 7.07m）の不整長方形で、面積は 52.68m² を測る。長軸方向はＮ－ 89°－Ｗを示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模ともにばらつきが見られるがいずれも掘形を持つ。遺物は P1215 から土師質土器、P1240 から珠洲焼（148）が出土した。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB1114（図版 14・15・136）

43D・E グリッドに位置する総柱建物である。西側で SB1154 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（5.61 ～ 6.06m）、梁行 2 間（3.63 ～ 3.90m）の不整長方形で、面積は 21.85m² を測る。長軸方向はＮ－ 90°を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向が 3.0m 前後であるが、南西コーナー部分のみ 2.6m と短い。柱穴の規模はほぼ同様の形態を示し、いずれも掘形を持つ。桁行方向はほぼ直線状に並ぶが、梁行方向中間の柱 P1118・1122・1131 はいずれも東側にずれる。遺物は出土していない。本遺構は SB1215 の北東側約 5.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1154（図版 14・15・136）

43E グリッドに位置する総柱建物である。東側で SB1114 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（5.60 ～ 6.07m）、梁行 2 間（3.48 ～ 3.74m）の不整長方形で、面積は 21.37m² を測る。長軸方向はＮ－ 86°－ E を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向が 2.80m 前後であるが北西隅部分のみ 2.30m と短い。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行方向はほぼ直線状に並ぶが、梁行方向は中柱の P1129 が西側、P1124・1132 は外側にずれる。遺物は出土していない。本遺構は SB1215 の北北東側約 5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1230（図版 14・16・136）

43F グリッドに位置する総柱建物である。南側で SB1215 と重複し、これに切られる。桁行 3 間（5.61 ～ 5.84m）、梁行 2 間（5.38 ～ 5.65m）の方形で、面積は 31.28m² を測る。長軸方向はＮ－ 88°－ W を示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は P1231 から土師質土器が出土した。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SB1155（図版 14・16・136・152）

42・43E、42・43F グリッドに位置する側柱建物である。P1158・1159 が SE1103 と重複し、これに切られる。桁行 4 間（7.36 ～ 7.43m）、梁行 1 間（2.14 ～ 2.40m）の長方形で、面積は 16.78m² を測る。長軸方向はＮ－ 88°－ E を示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向が西側から 1.86m･2.21m･2.31m･1.06m と東西の区画が狭い。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SA1198 は 43E・F グリッドに位置する杭列である。長さ 5.40m、柱間寸法 1.25 ～ 2.17m を測る。長軸方向はＮ－ 89°－ E を示す。柱穴の規模にはばらつきが見られるが、ほぼ直線状に柱穴が並ぶ。SB1155 と近接し、長軸方向がほぼ同一であることから同遺構の目隠し塀と推定される。本遺構は SB1215 の北側約 5.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB110（図版 18・19・136）

44・45D、44・45E、45F グリッドに位置する総柱建物である。P117 が SK122、P150 が SE120 と重複し、これを切っている。桁行 4 間（8.90 ～ 8.95m）、梁行 2 間（3.87 ～ 4.17m）の長方形で、面積は 35.87m² を測る。長軸方向はＮ－ 1°－ W を示し、南北棟となる。桁行方向の柱間寸法は北側が 2.80m と広く、ほかは 2.00m 前後である。梁行方向は中間の柱穴が検出できなかった北側を除くと、2.00m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。

建物の北側・東側・西側に三面廂を持ち、長軸 9.97 ～ 10.65m、短軸 6.54m を測る。柱穴の配置はおおむね建物と一致する。遺物は P194 から珠洲焼（149）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB390（図版 18・19・136）

44F・G グリッドに位置する総柱建物である。SB701 と重複するが、新旧関係は不明である。南東隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 4 間（9.97m）、梁行 2 間（4.46m）の長方形で、面積は 44.78m² を測る。長軸方向はＮ－ 2°－ W を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 2.50m

前後、梁行方向 2.20m 前後である。柱穴の規模にはばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は P392 から青磁、P396 から土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SB701（図版 18・20・136）

44F・G グリッドに位置する総柱建物である。SB390 と重複するが、新旧関係は不明である。南東隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 4 間（8.96m）、梁行 2 間（3.68m）の長方形で、面積は 32.73m^2 を測る。長軸方向は N － 4° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 2.30m 前後、梁行方向 1.80m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB1215 の南東側約 2m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB1918（図版 18・20・136）

45・46E グリッドに位置する側柱建物である。桁行 2 間（4.15m）、梁行 2 間（3.67m）の長方形で、面積は 14.81m^2 を測る。長軸方向は N － 88° － W を示し、東西棟となる。柱間寸法は、桁行、梁行ともに 1.80m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB110 の東側約 0.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB137（図版 18・20・22・136）

45・46E、45・46F グリッドに位置する総柱建物である。桁行 3 間（5.45 ～ 5.53m）、梁行 3 間（4.80 ～ 5.21m）の不整方形で、面積は 27.42m^2 を測る。長軸方向は N － 86° － E を示し、東西棟となる。桁行方向の柱間寸法は東側 2.00m、西側 1.60m 前後と西側が狭い。梁行方向は 1.60m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB110 の南側約 2m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB130（図版 18・20・136）

44･45E､44･45F グリッドに位置する総柱建物である｡桁行２間(3.91 ～ 3.97m)､梁行２間(4.88 ～ 5.08m)の長方形で、面積は 19.62m^2 を測る。長軸方向は N － 3° － W を示し、南北棟となる。桁行方向の柱間寸法は、2.00m 前後、梁行方向は 2.40m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。

建物の北側と南側に二面廂を持ち、桁行方向にそれぞれ 1.20m 程延びる。遺物は出土していない。本遺構は SB110 の西側約 1.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB125（図版 18・20・136）

45F グリッドに位置する側柱建物である。南東隅の柱穴は確認できなかったものの､桁行 1 間(2.35m)､梁行 1 間(2.15m)の方形で､面積は 4.86m^2 以上を測る。長軸方向は N － 89° － W を示し､東西棟となる。柱穴の規模はほぼ同様で､いずれも掘形を持つ｡遺物は出土していない｡本遺構はSB110の南西側約5.5m先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺

構の存続時期は中世と推定される。

SB201（図版 22・23・124・137）

46E､46･47F､46G グリッドに位置する総柱建物である。南側は河川による破壊を受け残存していない。桁行 4 間以上（11.01m）、梁行 4 間（7.35 ～ 7.62m）の長方形で、面積は 84.47m² 以上を測る。長軸方向は N － 0° を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向が東西 1.80m、中央 2.00m 前後である。梁行方向は 2.80m 前後である。

柱穴はいずれも掘形を持つ。東西方向に 2 基並んでいるものが多く、最低 1 回は建て替えられたものと考えられるが、柱穴同士の切り合い関係が明確でないものが多く、建物の新旧関係を断定するまでには至らなかった。P246 を除く柱穴から柱痕が確認され､15 ～ 25cm 前後の柱が据えられていたと推定される。

建物の北側及び西側に二面廂を持ち、長軸 12.22m、短軸 7.48m を測る。柱穴はいずれも掘形を持つ。規模は建物のそれと比べて小さい。柱痕は P151・241・242・250 に認められ、太さ 15 ～ 20cm 前後の柱が据えられていたと推定される。遺物は P227 から土師質土器（152）、P123 から珠洲焼（153）、P220 から青磁（154）、P237 から土師質土器、P236 から青磁が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB151（図版 22・24・138）

46・47E グリッドに位置する側柱建物である。SB174・175 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 3 間（6.37m）､梁行 2 間（4.45m）の長方形で､北東隅は調査区外に延びる。面積は 28.46m² を測る。長軸方向は N － 1° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模ともにばらつきが見られるが、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は P154 から珠洲焼（150）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB174（図版 22・24・138）

46・47E グリッドに位置する側柱建物である。P160 が SX199 と重複し、これを切っている。SB151・175 と重複するが、新旧関係は不明である。東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱穴並びから東西棟と推定される。桁行 3 間以上（8.39m 以上）、梁行 2 間（6.60m）の長方形で、面積は 54.04m² 以上を測る。長軸方向は N － 88° － E を示す。柱間寸法・柱穴の規模ともにばらつきが見られるが、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は P164 から珠洲焼（151）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB175（図版 22・24・138）

47E グリッドに位置する側柱建物である。SB151・174 と重複するが、新旧関係は不明である。南側は河川による破壊を受け残存していないが、柱穴並びから南北棟と推定される。桁行 2 間以上（4.48m 以上）、梁行 3 間（6.24m）の長方形で、面積は 34.20m² 以上を測る。長軸方向は N － 1° － W を示す。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は SB201 の東側約 3.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB782（図版 26・27・138）

35F・G グリッドに位置する側柱建物である。P788・1721・1722 が SD796・1722 と重複し、これを切っている。北側の桁行 2 間（3.80m）、梁行 2 間（3.37 ～ 3.45m）の長方形と、南側の桁行 1 間（2.32 ～ 2.40m）、梁行 1 間（1.62 ～ 1.85m）の長方形の二つの建物で構成される。面積は 17.19m² を測る。長

軸方向はＮ－1°－Ｅを示し、南北棟となる。桁行方向の柱間寸法は北側の建物が1.90m、南側は2.30m前後である。梁行方向は1.70m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB711（図版34・35・139）

43・44G、44Hグリッドに位置する総柱建物である。北側でSB1940と重複し、これを切っている。南東側でSB279と重複するが、新旧関係は不明である。桁行４間（11.27m）、梁行２間（4.01～4.49m）の長方形で、面積は46.95m^{2}を測る。長軸方向はＮ－3°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向2.80m前後、梁行方向2.20m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。建物の東側及び南側にＬ字状の目隠し塀を持ち、長軸12.70m、短軸5.10mを測る。遺物はP1241から土師質土器（155）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から13世紀前半頃と推定される。

SB1940（図版34・36・139）

43・44Gグリッドに位置する総柱建物である。南側でSB711と重複し、これに切られる。北東側でSB1215と重複するが、新旧関係は不明である。桁行３間（8.24～8.34m）、梁行２間（4.04～4.53m）の長方形で、面積は35.99m^{2}を測る。長軸方向はＮ－0°を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向2.80m、梁行方向2.20m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構をSB711と比べると、長軸方向や梁行が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SB279（図版34・36・139）

44G、44･45Hグリッドに位置する側柱建物である。P284がSA266-P271と重複し、これに切られる。南東側でSB711と重複するが、新旧関係は不明である。桁行５間(8.95～9.05m)、梁行２間(3.35～3.62m)の長方形で、面積は31.19m^{2}を測る。長軸方向はＮ－1°－Ｅを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構をSB711と比べると、長軸方向が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SB301（図版37・38・124・140）

50I、49～51J、50・51Kグリッドに位置する側柱建物である。北西隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。P315がSB84-P89、P311がSE92と重複し、これに切られる。北側でSB75・335、西側でSB84、南東側でSB346、SE91、SD96・97と重複するが、新旧関係は不明である。桁行５間（11.66m）、梁行４間（7.94m）の長方形で、面積は90.93m^{2}を測る。長軸方向はＮ－10°－Ｗを示し南北棟となる。

柱間寸法は、桁行・梁行方向とも2.30m前後であるが、梁行方向の東西両端の間隔は1.70m前後と狭くなっている。柱穴は主軸方向に長軸を持つ隅丸長方形であり、規模はほぼ同様の形態を示し、いずれも掘形を持つ。すべての柱穴から柱痕が確認され、15～25cm前後の柱が据えられていたと推定される。またP304・305・306の柱痕内から根石と考えられる大形の円礫が出土している。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。建物の南側及び東側に二面廂を持ち、長軸13.96m、短軸9.70mを測る。柱穴は

側柱と比べ小形であるが、ほぼ同様の形態を示し、いずれも掘形を持つ。

遺物は各柱穴内から土師器もしくは土師質土器が出土したほか、P304 から青磁（156）、P303 から磨石（508）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SB51（図版 37・39・141）

50・51H、51I グリッドに位置する総柱建物である。北東隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 4 間（9.75 ～ 10.12m）、梁行 4 間（6.98 ～ 7.20m）の長方形で、面積は 70.00m^2 を測る。長軸方向は N － 5° － W を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 2.50m 前後、梁行方向は東西が 1.50m 前後、中央部が 2.10m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶが、南側の P55 ～ 57 はほかの柱穴と配置が異なることから、目隠し塀の可能性も考えられる。遺物は出土していない。本遺構は SB301 の東側約 10.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB335（図版 37・40・141）

49・50I、49・50J グリッドに位置する側柱建物である。南西隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。東側で SB1930、南側で SB301 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 5 間（8.14m）、梁行 2 間（2.34m）の長方形で、面積は 18.07m^2 を測る。長軸方向は N － 82° － E を示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきがあるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶが、P320 のみやや内側にずれる。南側の P1935・1936 は廂もしくは目隠し塀の可能性も考えられる。遺物は P318 から須恵器、P320 から土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から中世と推定される。

SB1930（図版 37・40・141）

50I グリッドに位置する側柱建物である。桁行 1 間（2.18 ～ 2.27m）、梁行 1 間（1.94 ～ 2.01m）の正方形で、面積は 4.39m^2 を測る。長軸方向は N － 9° － W を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきがあるが、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。本遺構は SB301 の北東側約 0.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB75（図版 37・40・141）

50J グリッドに位置する側柱建物である。SB301 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（3.07 ～ 3.20m）、梁行 1 間（1.78 ～ 1.98m）の長方形で、面積は 5.88m^2 を測る。長軸方向は N － 11° － W を示し、南北棟となる。柱間寸法は、桁行方向 1.50m 前後、梁行方向 1.80m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。また南側の梁行ライン上に P905・907 が位置しており、本遺構に関連する柱穴と考えられる。遺物は P76・77 から土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構を SB301 と比べると、長軸方向が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SB84（図版 37・40・142）

49・50J、50K グリッドに位置する側柱建物である。P89 が SB301P315 と重複し、これを切っている。北西隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 3 間（6.59m）、梁行 3 間（4.61m）

の長方形で、面積は30.21m² を測る。長軸方向はＮ－1°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法は、桁行方向が2.1m前後である。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はP82・83・87から土師器もしくは土師質土器、P83から須恵器が出土している。本遺構はSB335の南西側約2m先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB341（図版37・40・142）

49K、50Jグリッドに位置する。南側の桁行以外の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行3間（5.64m）、軸方向はＮ－90°を示す。柱間寸法は1.80m前後で、柱穴の規模はほぼ同様の形態を示し、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。本遺構はSB335の西側約4m先に位置しているものと推測でき、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SB346（図版42・43・142）

51Jグリッドに位置する側柱建物である。南西側でSB31、中央でSD97と重複するが、新旧関係は不明である。桁行3間（4.81～5.03m）、梁行1間（2.94～3.04m）の長方形で、面積は14.65m² を測る。長軸方向はＮ－89°－Ｅを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向1.60m、梁行方向3.00m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。本遺構をSB31と比べると、長軸方向が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SB31（図版42・43・142）

51J・Kグリッドに位置する側柱建物である。北東側でSB346、南側でSB22と重複するが、新旧関係は不明である。桁行1間（4.61～4.79m）、梁行2間（4.34～4.43m）の方形で、面積は20.61m² を測る。長軸方向はＮ－87°－Ｅを示し、東西棟となる。柱間寸法は桁行方向4.60m、梁行方向2.20m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はP39から珠洲焼（157）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から13世紀前半頃と推定される。

SB22（図版42・43・142）

51J、51・52Kグリッドに位置する側柱建物である。北側でSB31、南側でSB13と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱穴並びから東西棟と推定される。桁行3間以上（6.80m以上）、梁行2間（4.39m）の長方形で、面積は38.34m² 以上を測る。長軸方向はＮ－86°－Ｅを示す。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物はP30から土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構をSB31と比べると、長軸方向が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SB13（図版42・43・142）

51・52Kグリッドに位置する側柱建物である。北側でSB22と重複するが、新旧関係は不明である。桁行3間（5.50m）、梁行1間（3.33m）の長方形で、南西隅が調査区外に延びる。面積は17.80m² を測る。長軸方向はＮ－3°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向1.80m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土して

いない。本遺構をSB31と比べると、軸方向が近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

2）井　　戸

SE914（図版2・3・165）

36Eグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.16m、短径82cm、検出面からの深さ1.65mを測る。長軸方向はN－65°－Eを示す。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、4層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼、瀬戸美濃焼（249）、鉄滓が出土している。ほかに覆土3層を中心に搬入礫が36個（計26.8kg）出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE797（図版2・4・153）

35Fグリッドに位置する。南東側でSD902を重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径2.48～2.68m、検出面からの深さ2.49mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトを主体とし、19層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土している。遺構の存続時期は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置することや、切り合い関係から中世と推定される。

SE809（図版2・4・153・182）

36Eグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径1.94～2.18m、検出面からの深さ2.18mを測る。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトと褐色シルトを主体とし、9層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（169～171）、土師器もしくは土師質土器が出土している。ほかに覆土2層から搬入礫が11個(計1.6kg)出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

関連する遺構として、上場を取り囲むような形で南北方向に延びる2条の溝（SD807・808）がある。両者ともSB840・1716と重複するが、新旧関係は不明である。**SD807**は長さ9.60m、幅76cm、検出面からの深さ23cmを測る。**SD808**は長さ10.24m、幅66cm、検出面からの深さ22cmを測る。長軸方向はいずれもN－0°を示す。覆土はいずれも暗オリーブ褐色粘土を主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE806（図5・6・153）

36Eグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径88～96cm、検出面からの深さ2.00mを測る。断面形は袋状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、5層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（172）、土師器もしくは土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から14世紀後半頃と推定される。

SE820（図版5・6・153）

37・38Dグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径0.92～1.00m、検出面からの深さ1.08m以上を測る。断面形はU字状を呈するものと推定される。覆土は暗褐色粘土を主体とし、3層以上に識別され、ブロック状に堆積するものと推測される。遺物は覆土から土師質土器（173）、珠洲焼（174～176）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から14世紀後半頃と推定される。

SE817（図版5・7・154）

37Dグリッドに位置する。北西側でSK816と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈する。径

2.64m、検出面からの深さ 3.34m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土はにぶい黄褐色粘土やオリーブ褐色粘土を主体とし、10 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（162）、珠洲焼（163）、土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から中世と推定される。

SE901（図版 5・7・154）

37F グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 2.12 ～ 2.46m、検出面からの深さ 2.32m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、10 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土器片円板（177）、土師器もしくは土師質土器が出土している。ほかに搬入礫が 13 個（計 7.6kg）出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE903（図版 5・7・154）

37F グリッドに位置する。北西側で SK904 と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈する。径 1.12 ～ 1.22m、検出面からの深さ 2.44m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は灰色シルトや浅黄橙色シルトを主体とし、18 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師質土器が出土している。ほかに覆土中層を中心に搬入礫が 17 個（計 16.7kg）出土している。そのなかには砥石（518）が 1 点含まれる。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE915（図版 5・8・154）

36・37E グリッドに位置する。平面形は楕円形である。長径 1.37m、短径 1.06m、検出面からの深さ 2.51m を測る。長軸方向は N － 62° － E を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は褐灰色シルトや灰白色シルトを主体とし、11 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は珠洲焼（178）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE916（図版 5・6・8・125・151・155）

37E グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。長径 2.17m、短径 1.78m、検出面からの深さ 3.82m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、18 層に識別され、ブロック状に堆積する。検出面から約 1.60m 掘り下げた所から木製の井戸側（561 ～ 581）を検出した。平面形は方形を呈し、径 80cm を測る。軸方向は N － 5° － W を示す。縦板組隅柱横桟留［北陸中世土器研究会 2001］に属するもので、内側に曲物等の水溜施設は確認できなかった。遺物は覆土上層を中心に珠洲焼（179）のほかに搬入礫が 222 個（計 267kg）出土している。その中には多字一石経（530･531）が 2 点含まれる。更に覆土最下層から多数の植物遺体を検出した。

SB864 は 37E グリッドに位置する 4 基のピットが方形に並ぶ遺構である。南北 1 間（1.20 ～ 1.40m）、東西 1 間（1.80 ～ 2.00m）面積 2.47m^2 を測る。短軸方向は N － 10° － W を示し、井戸側の長軸方向と近似する。ピットは径 20 ～ 32cm、検出面からの深さ 24 ～ 36cm を測る。遺物は出土していない。SB864 は SE916 を覆うような位置で検出されており、SE916 の上屋と考えられる。

SA936 は 37E グリッドに位置する杭列である。長さ 7.28m、柱間寸法 1.88 ～ 3.15m を測る。長軸方向は N － 1° － W を示す。柱穴の規模はほぼ同様の形態を示し、直線状に並ぶ。SA936 は SE916 の東側約 0.7m 先に位置しており、長軸方向が SE916 の井戸側の軸方向と近似することから SE916 の目隠し塀である可能性が考えられる。

SE824（図版 9・10・155）

38E グリッドに位置する。西側で SD815 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径

1.16m、検出面からの深さ 2.08m を測る。断面形は袋状を呈する。覆土は灰色粘土や浅黄色粘土を主体とし、21 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

SE1102（図版 14・17・155）

43E グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 1.18m、短径 96cm、検出面からの深さ 1.32m を測る。長軸方向は N － 30° － W を示す。断面形は U 字状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトや黒褐色シルトを主体とし、4 層に識別されレンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（180）、土師質土器、青磁、砥石（515）、刀子（536）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半と推定される。

SE1103（図版 14・17・156）

42・43E グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 2.60 ～ 2.76m、検出面からの深さ 2.02m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトや明黄褐色粘質シルトを主体とし、22 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（180 ～ 184）、青磁（185）、土師器もしくは土師質土器、磨石（507）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半と推定される。

SE120（図版 18・21・156）

45E グリッドに位置する。北側で SB110-P150 と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈する。径 1.34 ～ 1.56m、検出面からの深さ 1.72m を測る。断面形は箱状を呈していたものと推定される。覆土はオリーブ褐色シルトや黄灰色粘土を主体とし、20 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から青白磁（186）、土師質土器、敲石（502）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 12 世紀末と推定される。

SE1101a・b（図版 18・21・156）

44D グリッドに位置する。2 基の井戸が重複しているものと考えられ、外側の井戸を SE1101a、内側の井戸を SE1101b とした。平面形はいずれも円形を呈する。SE1101a は径 1.72 ～ 1.89m、検出面からの深さ 1.88m を測る。SE1101b は径 92cm、検出面からの深さ 1.32m を測る。断面形はいずれも U 字状を呈する。SE1101a の覆土は灰褐色シルトやにぶい黄橙色粘質シルトを主体とし、14 層に識別され、水平に堆積する。SE1101b の覆土は灰褐色シルトを主体とし、10 層に識別され、水平に堆積する。遺物は a･b いずれの覆土から出土したものか不明だが、土師質土器、珠洲焼、青磁（187）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀前半と推定される。

SE159（図版 22・24・156）

46E グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 92cm、検出面からの深さ 1.48m を測る。断面形は袋状である。覆土は黒褐色シルトを主体とし、7 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はその建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SE163（図版 22・24・157）

47E グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.04m、検出面からの深さは 1.97m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SE290（図版 22・25・157）

46F グリッドに位置する。南西側で SB201-P246 と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈する。径 1.02 ～ 1.11m、検出面からの深さ 1.00m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトや暗褐色シルトを主体とし、6 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師質土器や鉄滓が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代及び切り合い関係から中世と推定される。

SE671（図版 22・25・157）

47D・E グリッドに位置する。西側は試掘調査の際に一部を切られ、東側は調査区外に延びるため、詳しい規模は不明であるが、径 1.28m 以上、検出面からの深さ 1.86m を測るものと推定される。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし、12 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（188）、土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE672（図版 22・25・157）

46・47E グリッドに位置する。試掘の際に上部を大きく掘削したため、底面付近しか残存していない。そのため詳しい規模は不明であるが、周辺の遺構検出面からの深さは 1.90m を測る。覆土は最下層（褐灰色シルト質粘土）のみを検出した。遺物は覆土から土師質土器（189・190）が出土した。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE789（図版 26・27・169）

36F・G グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径 80 ～ 84cm、検出面からの深さ 1.20m 以上を測る。断面形は U 字状を呈するものと推定される。覆土は暗褐色砂質シルトを主体とし、4 層以上に識別され、水平に堆積するものと推測される。遺物は覆土から土師質土器（191）・珠洲焼（192・193）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE799（図版 29・32・157）

36・37F グリッドに位置する。SD518、SB944-P945 と重複し、これらを切っている。平面形は円形を呈する。径 2.20 ～ 2.40m、検出面からの深さ 2.70m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、17 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器、土師質土器（199）、珠洲焼（200）が出土している。ほかに搬入礫が 5 個（計 2.4kg）が出土している。遺物の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 15 世紀前半と推定される。

SE389（図版 31・33・158）

43･44H グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径 1.44 ～ 1.48m、検出面からの深さ 2.04m を測る。断面形は袋状を呈する。覆土は淡褐色シルトや黒褐色粘土を主体とし、8 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（194 ～ 198）、土師器もしくは土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 12 世紀末と推定される。

SE200（図版 34・35・158）

44G グリッドに位置する。カクランのため上面を削平されるが、平面形は円形を呈するものと考えられる。径 88 ～ 94cm、周辺の遺構検出面からの深さは 1.40m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（201）、土師器もしくは土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE251（図版 34・35・159）

45G グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.40m、検出面からの深さ 2.38m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は黄褐色シルトを主体とし、14 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺

物は覆土から珠洲焼（202）、砥石（513）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SE251 の周囲には 3 基のピットがほぼ南北・東西方向に並ぶ（北東側から時計回りに P1950・1951・1952）。規模は径 28 ～ 32cm、検出面からの深さ 17 ～ 20cm を測り、ほぼ同様の形態を示す。柱間寸法は南北・東西方向共に 3.20m を測る。遺物は出土していない。北西側にピットが確認できなかったものの、P1950 ～ 1952 は SE251 を覆うような位置で検出されており、SE251 の上屋と考えられる。

SE91（図版 37・41・159）

51J グリッドに位置する。東側で SD97 と重複し、これを切っている。また SB301 と重複するが新旧関係は不明である。平面形は円形を呈する。径は 1.72 ～ 1.88m、検出面からの深さは 90cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は淡黄褐色シルトを主体とし、6 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（203・204）、土師器もしくは土師質土器が出土している。深さがほかの井戸と比べて浅いが、それ以外の規模・形態や配置状況が近似していることから、井戸として使用された可能性が高いと判断した。遺構の存続時期は出土土器の年代から 14 世紀末～ 15 世紀初頭と推定される。

SE92（図版 37・41・159）

50・51J グリッドに位置する。SB301-P311 と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈する。径 1.28 ～ 1.46m、検出面からの深さ 2.94m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトや淡黄色シルトを主体とし、24 層に識別され、レンズ状に堆積する。底面付近から木製の井戸側を検出した。桶を転用したものと考えられ、径 43cm を測り、高さは 10cm 程残存していた。桶はスギの柾目の側板 15 枚で構成されている。板は幅 4.5cm ～ 7.0cm、厚さ 0.7 ～ 0.8cm を測る。1 枚の側板には竹と見られる箍が付着しているが、他の側板には、箍の痕跡が凹んで残存しているのみである。遺存状態が悪いため、実測図等に掲載はしなかった。遺物は土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SE12（図版 42・43・159）

52K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 0.96 ～ 1.00m、検出面からの深さ 2.00m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SE20（図版 42・43・160）

51K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 84 ～ 94cm、検出面からの深さ 1.40m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SE448（図版 58・61・162）

41J グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径 1.22 ～ 1.30m、検出面からの深さ 87cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から珠洲焼（205）、瓷器系焼物（206）、土師質土器が出土している。ほかに覆土上層から搬入礫が 23 個（計 21.6kg）出土している。そのなかには砥石（516）が 1 点含まれる。遺構の存続時期は出土土器の年代から 14 世紀末と推定される。

SE449（図版 58・61・160）

41J グリッドに位置する。北東側で SE451 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 1.44 ～ 1.48m、検出面からの深さ 1.52m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土 1・3 層から搬入礫が 57 個（計 44.6kg）出土している。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

SE451（図版 58・61・160）

41J グリッドに位置する。南西側で SE449 と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈する。径 2.32 ～ 2.42m、検出面からの深さ 2.74m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと青灰色砂を主体とし、7 層に識別され、ブロック状に堆積する。底面付近から木製の井戸側を検出した。曲物を転用したものと考えられ、径 48 ～ 53.5cm、厚さ 0.5cm を測る。高さは 16.4cm 程残存していたが、覆土の状況から底面から 1.40m 以上の高さまで曲物を積み上げて井戸側を形成した曲物井と推定される。遺物は覆土から古代の土師器・須恵器（164）、珠洲焼（165）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から中世と推定される。

SE1086（図版 65・69・162）

37N グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.41m、検出面からの深さ 1.93m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は黄褐灰色シルトや黒褐色シルトを主体とし、7 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（207）が出土している。ほかに搬入礫が 3 個（計 4.2kg）出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 14 世紀末～ 15 世紀初頭と推定される。

SE1399（図版 65・69・162）

37N グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 0.93 ～ 1.00m、検出面からの深さ 1.54m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトや暗褐色シルトを主体とし、7 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼（208）、青磁（209）、瀬戸美濃焼（210）が出土している。ほかに搬入礫が 7 個（計 20.5kg）出土している。その中には器種不明石製品（526）が 1 点含まれる。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 14 世紀末と推定される。

SE1853（図版 71・75・163）

39L･M グリッドに位置する。東側で SX1823 と重複し、これを切っている。平面形は隅丸方形を呈する。径 92 ～ 96cm、検出面からの深さ 2.08m を測る。長軸方向は、N － 2° － E を示す。断面形は袋状を呈する。覆土は褐灰色粘土を主体とし、3 層に識別され、ブロック状に堆積する。覆土から搬入礫が 10 個（計 11.4kg）が出土している。そのなかには石臼（523）が 1 点含まれる。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE882（図版 82・86・164）

40N グリッドに位置する。西側で SI1510 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 2.30m、検出面からの深さ 2.88m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は暗褐色シルト質粘土を主体とし、7 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師質土器（211）、青磁（212）が出土している。ほかに覆土中層を中心に搬入礫が 110 個（計 33.4kg）出土している。その中には石臼（520 ～ 522）が含まれる。

SB1954 は 40N グリッドに位置する 4 基のピットが方形に並ぶ遺構である。南北 1 間（2.00 ～ 2.70m）、東西 1 間（2.00 ～ 2.20m）、面積 4.94m^2 を測る。短軸方向は N － 12° － E を示す。ピットは径 72 ～

96cm、検出面からの深さ 22 ～ 57cm を測り、ばらつきが見られる。遺物は出土していない。SB1954 は SE882 を覆うような位置で検出されており、SE882 の上屋と考えられる。遺構の存続時期は出土遺物の年代から 14 世紀末～ 15 世紀初頭と推定される。

SE872（図版 82・86・164）

40・41O グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。径 86 ～ 88cm、検出面からの深さ 1.93m を測る。長軸方向はＮ－ 0°を示す。断面形はＵ字状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から土師質土器が出土している。ほかに覆土 3 層から搬入礫が 2 個(計 13.8kg）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE1060（図版 82・86・164）

38O グリッドに位置する。自然流路(SD1200)と重複し、これを切っている。平面形は隅丸方形を呈する。径 84 ～ 92cm、検出面からの深さ 1.10m 以上を測る。長軸方向はＮ－ 9°－ Ｗを示す。覆土は灰オリーブ褐色シルトを主体とし、5 層以上に識別され、ブロック状に堆積するものと推定される。遺物は覆土から珠洲焼（213）が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE1061（図版 82・86・164）

38O グリッドに位置する。自然流路（SD1200）と重複し、これを切っている。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 1.37m、短径 90cm、検出面からの深さ 94cm 以上を測る。長軸方向はＮ－ 68°－ Ｅを示す。覆土は暗灰黄色シルトを主体とし、4 層以上に識別され、水平レンズ状に堆積するものと推定される。遺物は覆土から瀬戸美濃焼(166)が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SE1199（図版 88・89・165）

35L･M グリッドに位置する。自然流路(SD1200)と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 1.64 ～ 1.83m、検出面からの深さ 1.16m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐色粘質シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（167・168）、土師器が出土しているが、自然流路との切り合い関係から後世の混入と考えられる。ほかに覆土 3・4 層から搬入礫が 107 個（計 26.6kg）出土している。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

3）土　　坑

SK803（図版 2・3・165）

34・35D グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。長径 2.80m、短径 2.13m、検出面からの深さ 1.46m を測る。長軸方向はＮ－ 49°－ Ｅを示す。底面には凹凸があり、断面形は不整形を呈する。覆土は褐色シルトを主体とし、9 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から瀬戸美濃焼(247)、土師質土器が少量出土している。遺構の存続時期は出土遺物の年代から中世と推定される。

SK904（図版 5・7・154）

37F グリッドに位置する。北西側で SE903 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 1.06 ～ 1.11m、検出面からの深さ 46cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師質土器（248）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 15 世紀初頭と推定される。

SK816（図版 5・7・166）

37D グリッドに位置する。南西側で SE817 と重複し、これを切っている。平面形は隅丸方形を呈する。

径 1.03 ～ 1.16m、検出面からの深さ 40cm を測る。長軸方向はＮ－ 7°－Ｗを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗褐色砂質粘土を主体とし、6 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

SK940（図版 5・8・166）

37E グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 72 ～ 79cm、検出面からの深さ 80cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から青磁が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SK917（図版 9・10・167）

38E・F グリッドに位置する。SD518 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 1.30 ～ 1.46m、検出面からの深さ 34cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層で、底面付近に炭化物を多量に含む。遺物は覆土から刀子（535）が出土している。ほかに底面付近から搬入礫が 4 個（計 5.5kg）出土している。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

SK1187（図版 9・10・167）

39D グリッドに位置する。南側で SD518 と重複し、これを切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、長径 1.35m、短径 1.01m、検出面からの深さ 25cm を測る。長軸方向はＮ－ 30°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から青磁（250）、珠洲焼が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 15 世紀前半と推定される。

SK1280（図版 9・11・167）

38E グリッドに位置する。西側で SD815 と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈するものと推定され、長径 98cm、短径 80cm、検出面からの深さ 40cm を測る。長軸方向はＮ－ 36°－Ｅを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は覆土から土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から中世と推定される。

SK1242（図版 14・17・168）

43F グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 65 ～ 76cm、検出面からの深さ 38cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと暗黄褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。本遺構は SB1230 の内部に位置しており、これに伴う可能性がある。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK105（図版 18・21・168）

45E グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 72cm、短径 46cm、検出面からの深さ 14cm を測る。長軸方向はＮ－ 86°－Ｅを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は暗オリーブ褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK122（図版 18・21・168）

45E グリッドに位置する。SB110-P117 と重複し、これに切られる。平面形は不整形を呈する。径 2.20 ～ 2.34m、検出面からの深さ 92cm を測る。断面形は階段状を呈する。覆土は暗オリーブ褐色シルトと黄灰色シルトを主体とし、7 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世

と推定される。

SK147（図版 18・21・168）

44F グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 84cm、短径 54cm、検出面からの深さ 28cm を測る。長軸方向はＮ－ 5°－ E を示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗オリーブ褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK798（図版 26・27・169）

35G グリッドに位置する。SD794・795 と重複し、これらを切っている。平面形は方形を呈する。径 86 ～ 88cm、検出面からの深さ 53cm を測る。長軸方向はＮ－ 3°－ W を示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトを主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。最下層の覆土 3 層には炭化物が多く見られる。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

SK93（図版 37・40・170）

50J グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 78cm、短径 53cm、検出面からの深さ 26cm を測る。長軸方向はＮ－ 10°－ W を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK94（図版 37・40・170）

50K グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。長径 73cm、短径 57cm、検出面からの深さ 59cm を測る。長軸方向はＮ－ 3°－ W を示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師質土器（251）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の年代から 13 世紀初頭と推定される。

SK98（図版 37・41・171）

50K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 54 ～ 59cm、検出面からの深さ 19cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK99（図版 37・41・171）

50K グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径 41 ～ 49cm、検出面からの深さ 21cm を測る。長軸方向はＮ－ 10°－ W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はそれらの建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

SK11（図版 42・43・171）

52K グリッドに位置する。SD10 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈する。長径 1.30m、短径 1.08m、検出面からの深さ 28cm を測る。長軸方向はＮ－ 88°－ W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の周辺には中世の掘立柱建物が集中しており、本遺構はその建物群に伴う可能性が高い。遺構の存続時期は中世と推定される。

4）区　画　溝

SD518・801・802・815（図版 2・3・5・9・11・26・28・29・46・181・182・183）

調査区北側の 34E・F、35D ～ H、36D ～ I、37D ～ H、38E・F、39E・F グリッドに位置する。北西側は河川による破壊を受け残存していないが、方形に巡る溝と考えられる。長径 47.63m、短径 36.30m を測り、溝によって区画された範囲は 1698.08m^2 に及ぶ。

調査時の呼称をそのまま用いているため、北側（SD802）、南側（SD518 南溝）、東側（SD815）、西側（SD518 西溝）と異なる遺構番号を付しているが、一連の遺構である。また SD802 の南側に位置する SD801 や中央部を斜行する溝（SD518 中央溝）もその配置状況から一連の遺構として捉えられる。

SD802 は SD814 と重複し、これを切っている。東側は調査区外に延び、西側は河川による破壊を受け残存していない。長さ 22.94m 以上、幅 1.34m、検出面からの深さ 36 ～ 52cm を測り、底面標高が、東から西にかけて低くなる。長軸方向は N － 83° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色粘土及び黄褐色粘土を主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。**SD518 南溝**は中央部がカクランを受けて残存していない。長さ 47.62m 以上、幅 1.27m、検出面からの深さ 54cm を測る。長軸方向は N － 83° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は東側が暗褐色シルトを主体とし、3 ～ 6 層に識別され、レンズ状に堆積する。西側が灰黄褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。**SD815** は SE824 と重複し、これに切られる。また SB1201、SK1280 と重複するが、新旧関係は不明である。北側は調査区外に延び、南側はカクランを受けて残存していない。長さ 33.65m 以上、幅 1.31 ～ 1.65m、検出面からの深さ 35 ～ 41cm を測る。長軸方向は N － 18° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。**SD518 西溝**は SB531・952、SD602 と重複し、これらを切っている。北側は河川による破壊を受けて残存していない。長さ 22.26m 以上、幅 1.10m、検出面からの深さ 36 ～ 57cm を測る。長軸方向は N － 1° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。**SD518 中央溝**は西側で SD470 と重複し、これを切っている。東側で SK917、中央部で SE799 と重複し、これらを切っている。中央部で SB944 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 45.57m、幅 1.23m、検出面からの深さ 14 ～ 31cm を測る。長軸方向は N － 10° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。**SD801** は SD815 と重複し、これに切られる。西側は河川による破壊を受け、残存していない。長さ 26.10m 以上、幅 1.35m、検出面からの深さ 32 ～ 42cm を測り、底面標高が、東から西にかけて低くなる。長軸方向は N － 85° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は褐色及び暗褐色粘土を主体とし、3 ～ 5 層に識別され、レンズ状に堆積する。SD801 は SD802 の南側約 2.3m 先に位置しており、規模や長軸方向が近似する。両者の間には道路が敷設され、道路の側溝としての機能を果たしていた可能性も考えられる。

この区画溝に関連する遺構として **SD471・473** がある。SD471 は 36G、36・37H グリッドに位置する。SB480・493、SD462 ～ 465 と重複し、これらを切っている。方形に巡る溝で、北側の中央部が 65cm ほど途切れ、ブリッジ状を呈する。径は 6.32m を測り、長軸方向は N － 6° － W を示す。溝の幅は 0.61 ～ 1.05m、検出面からの深さ 7 ～ 13cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層で、SD518 の覆度と近似する。SD471 の類例を求めると、上越市用言寺遺跡［加藤ほか 2006］、新発田市宝積寺館跡［田中ほか 1990］等で確認できる。SD473 は SD471 の北側約 1m 先に位置する。長さ 1.67m、幅 64 ～ 77cm、検出面からの深さ 24cm を測る。長軸方向は N － 10° － W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層で、SD518 の覆土と近似する。SD471 の東西軸と長軸方向が近似し、

ブリッジ部の正面に位置することから一連の遺構である可能性が高い。区画溝の内側にはこれ以外にも掘立柱建物、井戸、土坑、畑作溝等の遺構が多数検出されており、その中の多くが区画溝に伴うものと推定される。

遺物は古代の須恵器（279）、土師質土器（280 ～ 282）、珠洲焼（283 ～ 292・297・298）、青磁（293 ～ 295）、白磁（296）、瀬戸美濃焼（299）、凹石（504 ～ 506）、砥石（510 ～ 512）が出土している。またSD801 の覆土から古代の須恵器（267・268）、土師器が出土しているが、出土状況から遺構に直接伴うものではなく、後世の混入と考えられる。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 15 世紀中葉頃と推定される。

SD6（図版 44・45・184）

53J、52・53K グリッドに位置する。南側で SD21 と重複し、これを切っている。また西側で SX7・8 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 17.69m 以上、幅 1.09m、検出面からの深さ 24cm を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。規模の大きさやほぼ東西方向を走ることから集落を区画する区画溝と考えられる。遺物は覆土から土師質土器（300）、珠洲焼（301）、青磁（302）のほか、土師器・須恵器が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 13 世紀前半頃と推定される。

SD21（図版 44・45・184）

53J･K グリッドに位置する。北側で SD6 と重複し、これに切られる。また南側で SD5 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 13.09m 以上、幅 62cm、検出面からの深さ 13cm を測る。長軸方向はＮ－ 90°を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は SD6 に隣接し、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD5（図版 44・45・184）

53K グリッドに位置する。北側で SD21、南側で SD3 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 2.30m 以上、幅 91cm、検出面からの深さ 15cm を測る。長軸方向はＮ－ 6°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は SD6 に隣接し、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD3（図版 44・45・184）

53J･K、54J グリッドに位置する。西側で SD5 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 16.61m 以上、幅 44 ～ 80cm、検出面からの深さ 23cm を測る。長軸方向はＮ－ 84°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。規模の大きさやほぼ東西方向を走ることから集落を区画する区画溝と考えられる。遺物は出土していない。本遺構は SD6 の南側約 3m 先に位置しており、長軸方向や覆土が近似する。両者の間には道路が敷設され、道路の側溝としての機能を果たしていた可能性も考えられる。

遺構の存続時期は SD6 との関連性から 13 世紀前半頃と推定される。

SD4（図版 44・45・184）

53K グリッドに位置する。長さ 6.68m 以上、幅 18 ～ 30cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 85°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は SD6 の南側約 4m 先に位置しており、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD9（図版 44・45・184）

54・55J、53 ～ 55K グリッドに位置する。長さ 19.54m 以上、幅 1.32 ～ 2.78m、検出面からの深さ 71cm を測る。長軸方向はＮ－ 75°－ W を示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、3 層に識別され、水平に堆積する。規模の大きさやほぼ東西方向を走ることから集落を区画する区画溝と考えられる。遺物は出土していない。本遺構は SD6 の南側約 5m 先に位置しており、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD2（図版 44・45・184）

54・55K グリッドに位置する。長さ 4.11m 以上、幅 66cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 86°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

本遺構は SD6 の南側約 18.5m 先に位置しており、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD602（図版 26・46・51・52・55・77・184）

34・35H、35 ～ 37I、37 ～ 39J、38 ～ 40K、40 ～ 42L、42M グリッドに位置する。北側で SD518・516 と重複し、これに切られる。北側から SB531-P535、SD357、SB583-P584、SB681-P685、SB1715-P631･629、SD607、SB1500-P1430、SB1440-P1294、SA1711-P1792 と重複し、これらを切っている。また SA1797 と重複するが、新旧関係は不明である。調査区西側を南北方向に走り、南側は調査区外に延びる。長さ 88.11m 以上、幅 1.08 ～ 1.52m、検出面からの深さ 7 ～ 17cm を測る。長軸方向はＮ－ 13°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、3 層に識別される。場所によって水平もしくはブロック状に堆積する。規模の大きさやほぼ南北方向を走ることから集落を区画する区画溝と考えられる。遺物は覆土から古代の土師器（274･275）、須恵器（276）、珠洲焼（277･278）が出土している。遺構の存続時期は出土土器の中で最も新しい年代から 13 世紀前半頃と推定される。

5）溝

SD814（図版 2・3・181）

35・36D グリッドに位置する。SD802 と重複し、これに切られる。長さ 5.27m 以上、幅 1.18m、検出面からの深さ 12cm を測る。長軸方向はＮ－ 85°－ W を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構の覆土は SD802 覆土 1 層と近似しており、両者は近接した時期に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は中世と推定される。

SD902（図版 2・4・26・28・181）

35F グリッドに位置する。SE797 と重複し、これに切られる。L 字状に曲がる溝で、長さ 11.0m、幅 1.23m、検出面からの深さ 7cm を測る。長軸方向はＮ－ 84°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD1180（図版 9・11・167）

39・40F グリッドに位置する。L 字状に曲がる溝で、長さ 4.50m、幅 45 ～ 54cm、検出面からの深さ 5 ～ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 86°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトと

灰黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD815）の南側約 7.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD475（図版 29・32・183）

37H グリッドに位置する。SD357 と重複し、これを切っている。また北側で SD518 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 4.10m 以上、幅 77cm、検出面からの深さ 26cm を測る。長軸方向は N － 10° － W を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし 3 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構は中世の区画溝（SD518）に隣接し、覆土・軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD476（図版 29・32・183）

36・37H、36・37I グリッドに位置する。SD357 と重複し、これを切っている。また北側で SD518 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 5.32m 以上、幅 0.98 ～ 1.50m、検出面からの深さ 17cm を測る。長軸方向は N － 9° － W を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし 2 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器、須恵器が出土している。本遺構は中世の区画溝（SD518）に隣接し、覆土・軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD477（図版 29・32・183）

36・37I グリッドに位置する。SD357 と重複し、これを切っている。長さ 3.39m、幅 64cm、検出面からの深さ 9cm を測る。長軸方向は N － 6° － W を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518）に隣接し、覆土・軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD478（図版 29・32・183）

37H グリッドに位置する。SD357 と重複し、これを切っている。長さ 2.93m 以上、幅 49cm、検出面からの深さ 20cm を測る。長軸方向は N － 9° － W を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518）に隣接し、覆土・軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD479（図版 29・32）

37H グリッドに位置する。SD475・478 と重複し、これに切られる。長さ 6.92m 以上、幅 40cm、検出面からの深さ 12cm を測る。長軸方向は N － 82° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518）に隣接し、覆土・軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SD505（図版 46・49）

36I グリッドに位置する。SB531-P534 と重複し、これを切っている。南側で SD516 と重複し、これに切られる。長さ 8.96m 以上、幅 44cm、検出面からの深さ 6cm を測る。長軸方向は N － 18° － W を

示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が出土している。本遺構は中世の区画溝（SD602）の西側約 0.5m 先に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

6）畑　作　溝

畑作溝Ⅰ群（図版 26・28・187）

区画溝 SD518・802・815 の内部に位置する畑作溝を一括した。Ⅰ－ 1 群（SD790 ～ 796・1724・1725）、Ⅰ－ 2 群（SD461 ～ 470）に細別する。

Ⅰ－ 1 群は 35F･G､36G グリッドに位置する。SB782､SK794 と重複し､これらに切られる。長さ 1.97 ～ 5.76m、幅 26 ～ 39cm、検出面からの深さ 4 ～ 7cm を測る。長軸方向はＮ－ 0 ～ 4°－ E を示す。断面形はいずれもは孤状を呈し、覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置しており、軸方向が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

Ⅰ－ 2 群は 35・36H グリッドに位置する。SB480 と重複し、これを切っている。SD471、SD518 中央溝と重複し、これらに切られる。長さ 1.98 ～ 6.38m、幅 26 ～ 98cm、検出面からの深さ 3 ～ 20cm を測る。長軸方向はＮ－ 22 ～ 31°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトが主体である。遺物は出土していない。本遺構は中世の区画溝（SD518・802・815）の内部に位置しているものの、軸方向が異なっており、一部が区画溝に切られる。そのため区画溝形成以前に存続していたものと考えられる。遺構の存続時期は切り合い関係から中世と推定される。

7）性格不明遺構

SX1263（図版 9・11・177）

38E グリッドに位置する。東側で SD815 と重複するものと考えられるが、その部分はカクランを受け欠損している。長径 2.40m 以上、短径 2.25m、検出面からの深さ 42cm を測る。長軸方向はＮ－ 87°－ E を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトを主体とし、11 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土している。本遺構は中世の区画溝(SD518･802・815）に隣接し、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

SX1（図版 42・43・178）

52・53K グリッドに位置する。北側で SX7 と重複するが、新旧関係は不明である。長径 1.40m 以上、短径 88cm､検出面からの深さ 10cm を測る。長軸方向はＮ－ 17°－ W を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古銭が 5 枚（537 ～ 540）まとまって出土している。いずれも二次焼成を受けた痕跡は確認できない。その中で最も新しいものは永楽通寶（初鋳年 1408 年）である。古銭は六道銭として埋納されたものと考えられ、本遺構は墓坑の可能性が高い。遺構の存続時期は出土遺物の中で最も新しい年代から 15 世紀前半と推定される。

SX7（図版 42・43・178）

52K グリッドに位置する。東側で SX1、SD6 と重複するが、新旧関係は不明である。西側は調査区外に延びる。長径 4.00m 以上、短径 2.56m、検出面からの深さ 51cm を測る。長軸方向は、Ｎ－ 83°－

Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器(254)、珠洲焼（255)、土師器もしくは土師質土器が出土している。遺構の存続時期は出土遺物の中で最も新しい年代から中世と推定される。

SX8（図版 44・45・178）

52・53K グリッドに位置する。南側で SD6 と重複するが、新旧関係は不明である。径 1.36m、検出面からの深さ 16cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。本遺構は SD6 に隣接し、覆土が近似する。そのため両者は近接した時期に存続していたものと考えられ、遺構の存続時期は中世と推定される。

F　時期不明の遺構

1）竪穴住居

SI438（図版 58・60・127）

41･42J グリッドに位置する。SB439 と重複するが､直接の切り合いが無いため新旧関係は不明である。平面形は方形を呈し、長軸 2.74m、短軸 2.69m、検出面から床面までの深さ 6cm、面積は 6.74m^2 を測る。長軸方向はＮ－ 5°－Ｗを示す。覆土は黒褐色シルトの単層である。床面はほぼ平坦で、Ⅳｂ層を整地しており､貼り床や硬化面は認められない。周溝や柱穴は確認できなかった。カマドや炉は確認できなかったが、西辺の中央やや北寄りに焼土を検出した。長径 43cm、短径 30cm 以上の範囲で床面が焼けており、東側は小ピットに切られている。出土土器の総重量は 73.88g で、すべて土師器である。風化が著しく時期は特定できない。

2）掘立柱建物

SB851（図版 5・6・134）

36・37D、36・37E グリッドに位置する側柱建物である。P846 が SB844 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（3.81 ～ 4.06m)､梁行 1 間（4.04 ～ 4.13m）の正方形で､面積は 16.06m^2 を測る。長軸方向はＮ－ 73°－Ｅを示し､東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが､いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB1201（図版 5・6・134）

37・38E グリッドに位置する側柱建物である。西側で SB928、東側で SD815 と重複するが新旧関係は不明である。南東隅の柱穴はカクランによって破壊されているため、検出できなかった。桁行 4 間（8.47m)､梁行 1 間（3.76 ～ 3.82m）の長方形で面積は 31.57m^2 を測る。長軸方向はＮ－ 8°－Ｗを示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 2.00m、梁行方向 3.80m 前後である。桁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB1104（図版 12・13・135）

41・42F グリッドに位置する総柱建物である。桁行 2 間（4.83 ～ 4.87m)、梁行 2 間（3.20 ～ 3.35m）の長方形で、面積は 15.85m^2 を測る。長軸方向はＮ－ 86°－Ｅを示し、東西棟となる。柱間寸法は東側 2.20m、西側 2.60m と東側区画の方が狭い。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB1160（図版 12・13・135）

41F グリッドに位置する総柱建物である。北西・南西隅の柱穴はカクランによって破壊され、検出できなかった。桁行 3 間（5.66m）、梁行 2 間（3.04 ～ 3.17m）の長方形で、面積は 17.80m² を測る。長軸方向は N － 3° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向が 2.60m の中央の区画が最も広く、梁行方向は 1.50m 前後である。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向はほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB493（図版 26・27・139）

35・36G、35・36H グリッドに位置する側柱建物である。P494 が SD471 と重複し、これに切られる。P497 が SB480-P491 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間（2.94 ～ 3.35m）、梁行 2 間（2.27 ～ 2.43m）の不整長方形で、面積は 8.13m² を測る。長軸方向は N － 10° － E を示し、南北棟となる。柱間寸法は桁行方向 1.50m、梁行方向 1.20m 前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともに中間柱が外側にずれ、平面形は樽形を呈する。遺物は出土していない。

SB944（図版 29・32・139）

36・37F、36G グリッドに位置する側柱建物である。P495 が SE799 と重複し、これに切られる。P498・499 が SD518 と重複するが、新旧関係は不明である。南東隅の柱穴はカクランによって破壊されているため、検出できなかった。桁行 2 間（3.50m）、梁行 2 間（2.40m）の長方形で、面積は 8.65m² を測る。長軸方向は N － 79° － E を示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。遺構の存続時期は切り合い関係から中世以前と推定されるが、詳しい年代は不明である。

SB360（図版 31・33・139）

42H・I グリッドに位置する側柱建物である。桁行 2 間（4.03 ～ 4.31m）、梁行 1 間（2.98 ～ 3.18m）の長方形で、面積は 12.75m² を測る。長軸方向は N － 88° － E を示し、東西棟となる。近接する SB770 と主軸方位や柱穴の規模がほぼ同様であることから、一連の建物である可能性が高い。柱間寸法はばらつきが見られるが、柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB770（図版 31・33・139）

42H・I グリッドに位置する側柱建物である。桁行 2 間（5.24 ～ 5.34m）、梁行 1 間（3.13 ～ 3.28m）の長方形で、面積は 16.95m² を測る。長軸方向は N － 6° － E を示し、南北棟となる。近接する SB360 と主軸方位や柱穴の規模がほぼ同様であることから、一連の建物である可能性が高い。柱間寸法はばらつきが見られるが、柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB668（図版 55・56・145・152）

39・40J グリッドに位置する側柱建物である。南東コーナーの柱穴は SK614 に削平され、検出できなかった。桁行 2 間（3.67m）、梁行 2 間（2.65m）の長方形で、面積は 9.31m² を測る。長軸方向は N － 6° － W を示し、南北棟となる。柱間寸法はばらつきがある。柱穴の規模はほぼ同様で、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は P659 から土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SA663 は 39J グリッドに位置する。長さ 4.38m、柱間寸法 2.00 ～ 2.38m を測る。長軸方向は N － 88° － E を示す。柱穴の規模はほぼ同様の形態で、直線状に並ぶ。SB668 と近接し、その北側の梁行の

延長線上に位置することから、同遺構に関連する可能性が高い。掘立柱建物の梁行の軸上に杭列が並ぶ例はSB75にも見ることができる。遺物はP620から土師器もしくは土師質土器が出土している。

SB1708（図版58・60・145）

40･41J､40･41Kグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間(5.14～5.38m)､梁行1間(3.93～4.27m)の不整長方形で、面積は20.62m^{2}を測る。長軸方向はN－9°－Wを示し、南北棟となる。柱間寸法は、桁行方向が北側から2.30m、2.90m前後と南側の方が広く、梁行方向は4.00m前後である。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行方向の中間柱はともにやや内側にずれる。遺物は出土していない。

SB439（図版62・63・147）

41･42J、41･42Kグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間（6.05m)、梁行2間（4.08～4.66m）の不整長方形で、面積は27.37m^{2}を測る。長軸方向はN－70°－Wを示し、東西棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB919（図版62・63・147）

42・43Kグリッドに位置する側柱建物である。南東隅の柱穴は検出できなかった。桁行2間（4.63m)、梁行2間（4.37m）の方形で、面積は20.68m^{2}を測る。長軸方向はN－2°－Eを示し、南北棟となる。柱間寸法・柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともにほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SB1905（図版77・80・151・152）

41L・Mグリッドに位置する側柱建物である。P1907がSD1290と重複するが、新旧関係は不明である。桁行2間（3.46～3.83m)、梁行2間（2.59～2.79m）の長方形で、面積は9.26m^{2}を測る。長軸方向はN－1°－Eを示し、南北棟となる。柱間寸法や柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行・梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SA1901は41L・Mグリッドに位置する杭列である。長さ3.53m、柱間寸法1.74～1.79mを測る。長軸方向はN－7°－Eを示す。柱穴の規模はほぼ同様で、ほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。SB1905と近接し、長軸方向が近似することから同遺構の目隠し塀と推定される。

SB880（図版82・86・151）

40・41N、40Oグリッドに位置する側柱建物である。P873・876がSD1503と重複し、これを切っている。桁行2間（3.82～4.00m)、梁行2間（3.47～3.81m）の長方形で、面積は14.04m^{2}を測る。長軸方向はN－74°－Wを示し、東西棟となる。柱間寸法や柱穴の規模にはばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。桁行･梁行方向ともほぼ直線状に並ぶ。遺物はP881から古墳時代前期の土師器（134)、P887から後期の須恵器（135)、P874・877から土師器が出土しているが、周囲の状況から遺構に直接伴うものではなく、後世の混入と考えられる。

3）杭　　列

SA252（図版34・36・152）

44・45Hグリッドに位置する。長さ8.44m、柱間寸法69～81cmを測る。長軸方向はN－16°－Wを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、ほぼ直線状に柱穴が並ぶ。SA266と柱間寸法や長軸方

向が近似することから、一連の遺構である可能性が高い。遺物は出土していない。

SA266（図版 34・36・152）

44・45H グリッドに位置する。P271 が SB279P284 と重複し、これを切っている。長さ 8.28m、柱間寸法 65 ～ 90cm を測る。長軸方向は N － 16° － W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、ほぼ直線状に柱穴が並ぶ。SA252 と柱間寸法や長軸方向が近似することから、一連の遺構である可能性が高い。遺物は P273 から土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SA252・266 共に SB279 の西側に隣接しているが、軸方向が異なるため、関連性はないものと考えられる。

SA1302（図版 65・68・152）

37・38N、38O グリッドに位置する。長さ 8.42m、柱間寸法 1.47 ～ 2.18m を測る。長軸方向は N － 6° － E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、ほぼ直線状に柱穴が並ぶ。遺物は出土していない。

SA1265（図版 77・80・152）

41M グリッドに位置する。P1917 が SD607 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 4.27m、柱間寸法 1.18 ～ 3.10m を測る。長軸方向は N － 84° － E を示す。柱穴の規模はほぼ同様で、ほぼ直線状に並ぶ。遺物は P1788 から土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SA1281（図版 77・80・152）

41L グリッドに位置する。長さ 5.82m、柱間寸法 2.76 ～ 3.06m を測る。長軸方向は N － 6° － W を示す。柱穴の規模はほぼ同様で、ほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

SA1423（図版 77・80・152）

41M グリッドに位置する。長さ 3.28m、柱間寸法 1.62 ～ 1.66m を測る。長軸方向は N － 11° － W を示す。柱穴の規模はほぼ同様で、直線状に並ぶ。各柱穴とも遺構検出面下 25cm ほどのところから円礫が出土している。出土レベルが近似することから根石である可能性が高い。遺物はいずれの柱穴からも土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SA1797（図版 77・80・152）

41L・M グリッドに位置する。SD602 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 5.99m、柱間寸法 1.74 ～ 1.79m を測る。長軸方向は N － 10° － W を示す。柱穴の規模はほぼ同様で、ほぼ直線状に並ぶ。遺物は出土していない。

4）井　　戸

SE913（図版 29・32・169）

37G グリッドに位置する。カクランのため上面が削平されているが、平面形は円形を呈するものと考えられる。径 62 ～ 66cm、周辺の遺構検出面からの深さは 1.40m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SE358（図版 31・33・158）

42H グリッドに位置する。SD357 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 82 ～ 88cm、検出面からの深さ 1.55m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は淡黄褐色シルトを主体とし、6 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器が出土しているが、遺構の切り合い関

係から直接伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SE359（図版 31・33・158）

42H グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 0.92 ～ 1.08m、検出面からの深さ 1.56m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器、槍鉋（534）が出土している。

SE604（図版 55・57・160）

39・40I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.18 ～ 1.38m、検出面からの深さ 1.78m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、11 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。ほかに覆土 1・2・6・8 層から搬入礫が 60 個（計 93.3kg）出土している。そのなかには砥石（517）が 1 点含まれる。

SE426（図版 58・61・161）

42J グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 82 ～ 88cm、検出面からの深さ 70cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SE427（図版 58・61・161）

41K・L グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 76cm、検出面からの深さ 1.28m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SE428（図版 58・61・161）

41K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.00 ～ 1.06m、検出面からの深さ 1.12m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE1082（図版 65・69・162）

38N グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。径 1.07 ～ 1.29m、検出面からの深さ 1.51m である。長軸方向は N － 20° － W を示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトや灰黄褐色シルトを主体とし、12 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。ほかに覆土中層を中心に搬入礫が 11 個（計 10.2kg）出土している。その中には敲石（503）が 1 点含まれる。

SE1083（図版 65・69・163）

38N グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。径 80 ～ 88cm、検出面からの深さ 1.60m を測る。長軸方向は N － 2° － W を示す。断面形は U 字状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE1085（図版 65・69・163）

38M グリッドに位置する。平面形は方形を呈する。径 0.96 ～ 1.05m、検出面からの深さ 1.28m を測る。長軸方向は N － 82° － E を示す。断面形は箱状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトを主体とし、5 層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から砥石（514）が出土している。

SE1864（図版 71・75・163）

38・39L、38・39M グリッドに位置する。南側で SX1823 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈する。長径 78cm、短径 58cm、検出面からの深さ 1.32m を測る。長軸方向は N － 20° － W

を示す。断面形はU字状を呈する。覆土は褐灰色粘土やにぶい黄橙色粘土を主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE1854（図版 71・75・163）

39Lグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径88～94cm、検出面からの深さ1.88mを測る。長軸方向はN－85°－Eを示す。断面形はU字状を呈する。覆土は黄褐色シルトと灰黄褐色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

SE871（図版 82・86・163）

39Oグリッドに位置する。SI1604と重複し、これを切っている。平面形は方形を呈する。径76～80cm、検出面からの深さ1.04mを測る。長軸方向は、N－86°－Wを示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色粘土と暗オリーブ褐色粘質シルトの2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は土師器もしくは土師質土器が出土している。

SE503（図版 88・89・165）

36Kグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径84～92cm、検出面からの深さ1.64mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は暗灰黄色シルトを主体とし、5層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

5）土　　坑

SK821（図版 5・8・166）

37Eグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.48m、短径1.08m、検出面からの深さ16cmを測る。長軸方向はN－59°－Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄褐色粘土を主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK841（図版 5・8・166）

37Dグリッドに位置する。南側はカクランを受けているため、平面形は不明である。径86cm、検出面からの深さは11cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SK842（図版 5・8・166）

38Eグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.02m、短径72cm、検出面からの深さ83cmを測る。長軸方向はN－57°－Wを示す。断面形は階段状を呈する。覆土はにぶい黄褐色粘土を主体とし、4層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1181（図版 9・10・167）

39Fグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径96～99cm、検出面からの深さ8cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1261（図版 9・11・167）

39Fグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.04m、短径86cm、検出面からの深さ12cmを測る。長軸方向はN－5°－Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は暗灰褐色粘土を主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1264（図版 9・11・167）

38D グリッドに位置する。平面形は円形でを呈する。径 72 ～ 85cm、検出面からの深さ 41cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗灰褐色粘土を主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1278（図版 9・11・168）

38D グリッドに位置する。北側で SB1701-P1707 と 重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 68 ～ 75cm、検出面からの深さ 8cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1170（図版 12・13・168）

41E・F グリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。径 1.44 ～ 1.50m、検出面からの深さ 20cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1171（図版 12・13・168）

41F グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 88cm、短径 71cm、検出面からの深さ 4cm を測る。長軸方向は N － 31° － E を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1174（図版 12・13）

40F･G グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.13 ～ 1.27m、検出面からの深さ 41cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK367（図版 30・33・169）

40H グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 65 ～ 67cm、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK368（図版 30・33・169）

39H グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 63 ～ 71cm、検出面からの深さ 21cm を測る。断面形は不整形を呈し、底面は凹凸がある。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK370（図版 30・33・170）

39H グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 61 ～ 62cm、検出面からの深さ 10cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK371（図版 30・33・170）

39I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 54 ～ 60cm、検出面からの深さ 19cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK372（図版 30・33・170）

38･39H グリッドに位置する。東側で SD369 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈する。長径 1.35m、短径 84cm、検出面からの深さ 7cm を測る。長軸方向は N － 72° － E を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK1184（図版 30・33・170）

39G グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.36 ～ 1.46m、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。

遺物は出土していない。

SK1185（図版 30・33・170）

39G グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 1.12 ～ 1.22m、検出面からの深さ 14cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK506（図版 51・53・171）

37I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 0.90 ～ 1.02m、検出面からの深さ 13cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK564（図版 51・53・171）

37I グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.68 ～ 1.88m、検出面からの深さ 34cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黄褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK600（図版 51・53・172）

38K グリッドに位置する。SK599 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 75 ～ 76cm、検出面からの深さ 39cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SK698（図版 51・53・172）

38I グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径 97cm、短径 48cm、検出面からの深さ 14cm を測る。長軸方向はＮ－ 10°－ W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は暗灰黄色シルト･オリーブ褐色シルト・黄褐色シルトの 3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1054（図版 51・53・172）

38 I グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 1.11m、短径 79cm、検出面からの深さ 16cm を測る。長軸方向はＮ－ 5°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から土師器もしくは土師質土器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK1393（図版 51・53・172）

38K・L、39K・L グリッドに位置する。平面形は不整形を呈する。径 1.40 ～ 2.09m、検出面からの深さ 20cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗灰黄色シルトと黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK618（図版 55・56・173）

39I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 60 ～ 61cm、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK614（図版 55・56）

39J グリッドに位置する。SB668 の南西隅の柱穴を切っている。平面形は楕円形を呈する。長径 89cm、短径 59cm、検出面からの深さ 22cm を測る。長軸方向はＮ－ 76°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK619（図版 55・57・173）

39J グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 86cm、短径 63cm、検出面からの深さ 8cm を測る。長軸方向はＮ－ 3°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK626（図版 55・57・173）

40 I グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 0.97m ～ 1.04m、検出面からの深さ 24cm を測る。断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が見られる。覆土は褐灰色シルト、灰白色シルト、にぶい黄橙色シルトの 3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK404（図版 62・64・173）

43K・L グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 71 ～ 82cm、検出面からの深さ 16cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK406（図版 62・64・174）

42K グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 80 ～ 90cm、検出面からの深さ 41cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。最下層の覆土 2 層は炭化物を多量に含む。遺物は出土していない。

SK1081（図版 65・69・174）

38N グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 91 ～ 94cm、検出面からの深さ 31cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトと明黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1084（図版 65・69・174）

38N グリッドに位置する。SX1080 と重複し、これを切っている。平面形は方形を呈する。径 52 ～ 57cm、検出面からの深さ 24cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1396（図版 65・69）

38L グリッドに位置する。SI1395 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈する。長径 1.50m、短径 1.15m、検出面からの深さ 48cm を測る。長軸方向はＮ－ 68°－Ｅを示す。断面形は半円状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1562（図版 71・76・175）

40M グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 1.11m、短径 90cm、検出面からの深さ 10cm を測る。長軸方向はＮ－ 74°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色粘土とにぶい黄橙色粘土の 2 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK1285（図版 77・80・175）

41L グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 80 ～ 91cm、検出面からの深さ 72cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK1289（図版 77・80）

41M グリッドに位置する。東側で SD1290 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈する。

長径 82cm、短径 54cm、検出面からの深さ 39cm を測る。長軸方向はＮ－ 46°－ E を示す。断面形は階段状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし 5 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1293（図版 77・80・176）

41L グリッドに位置する。西側で SD601 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈する。長径 88cm、短径 68cm、検出面からの深さ 67cm を測る。長軸方向はＮ－ 74°－ W を示す。断面形はＵ字状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK1745（図版 77・80）

41N グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 82 ～ 86cm、検出面からの深さ 26cm を測る。断面形は階段状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK885（図版 77・80・176）

41N グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 62 ～ 68cm、検出面からの深さ 49cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色粘土を主体とし、4 層に識別され、レンズ状に堆積する。覆土から搬入礫が 5 個（計 38.8kg）出土している。

SK883（図版 82・86・176）

40O グリッドに位置する。西側で SI900 カマドの煙道部と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 0.92 ～ 1.05m、検出面からの深さ 30cm を測る。断面形は不整形を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、6 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古墳時代の土師器、土製支脚が出土しているが、SI900 を切った際に混入したものと考えられる。

SK884（図版 82・87・177）

40O グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長径 96cm、短径 80cm、検出面からの深さ 46cm を測る。長軸方向はＮ－ 47°－ W を示す。断面形は半円状を呈する。覆土はにぶい黄褐色粘土を主体とし、6 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SK1524（図版 82・87・177）

40N・O グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径 83cm、短径 69cm、検出面からの深さ 58cm を測る。長軸方向はＮ－ 41°－ E を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、5 層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

SK1551（図版 82・87・177）

39N グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 0.96 ～ 1.14m、検出面からの深さ 19cm を測る。断面形は階段状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、5 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

6）溝

SD1192（図版 9・11・182）

39・40E、39F グリッドに位置する。SD1265 と重複するが、新旧関係は不明である。クランク状に曲がる溝で、長さ 11.10m、幅 40 ～ 80cm、検出面からの深さ 5 ～ 11cm を測る。断面形は台形状を呈

する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD1262（図版 9・11・182）

39D ～ F グリッドに位置する。SD1265 と重複し、これを切っている。長さ 14.70m、幅 58 ～ 86cm、検出面からの深さ 8 ～ 19cm を測る。長軸方向は N － 67 ～ 80° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと暗黄褐色シルトの 2 層に識別され、水平または斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SD1265（図版 9・11・182）

39E グリッドに位置する。SD1262 と重複し、これに切られる。また SD1192 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 5.42m 以上、幅 39 ～ 85cm、検出面からの深さ 4 ～ 7cm を測る。長軸方向は N － 71° － E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD388（図版 31・34）

43・44H、44・45I グリッドに位置する。長さ 20.58m 以上、幅 58 ～ 66cm、検出面からの深さ 6 ～ 15cm を測る。長軸方向は N － 4° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD735（図版 34）

44・45I グリッドに位置する。長さ 11.04m 以上、幅 41cm、検出面からの深さ 8cm を測る。長軸方向は N － 4° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD96（図版 42・43・183）

51J・K グリッドに位置する。北側で SB301-P310 と重複し、これに切られる。長さ 8.60m、幅 31 ～ 73cm、検出面からの深さ 6cm を測る。長軸方向は N － 15° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD97（図版 42・43・183）

51J グリッドに位置する。北側で SB301-P327・328 と南側で SB346-P349 と重複し、これらに切られる。長さ 8.89m、幅 0.40 ～ 1.06m、検出面からの深さ 6cm を測る。長軸方向は N － 15° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が少量出土しているが、周囲の状況から直接伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SD73（図版 42・43・183）

51・52I、51J グリッドに位置する。長さ 8.99m、幅 19 ～ 64cm、検出面からの深さ 4cm を測る。長軸方向は N － 87° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は灰褐色粘質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD10（図版 42・43・184）

52K グリッドに位置する。SK11 と重複し、これに切られる。長さ 4.98m、幅 58cm、検出面からの深さ 8cm を測る。長軸方向は N － 21° － W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD1027（図版 51・52・184）

38J・K グリッドに位置する。長さ 6.22m、幅 44cm、検出面からの深さ 9cm を測る。長軸方向は N － 74° － E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、水平に

堆積する。遺物は出土していない。

SD665（図版 55・56・184）

39J グリッドに位置する。SA663-P621 と重複し、これに切られる。長さ 3.10m、幅 59cm、検出面からの深さ 13cm を測る。長軸方向はＮ－ 80°－ W を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SD606（図版 58・60・185）

40K グリッドに位置する。長さ 2.80m、幅 65cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 1°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD1601（図版 71・76・186）

39･40M、39N グリッドに位置する。西側で SI1615･1820、SB1626 と重複し、これらを切っている。長さ 17.52m 以上、幅 28 ～ 52cm、検出面からの深さ 3 ～ 14cm を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は灰褐色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が少量出土しているが、周囲の状況から直接伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SD1602（図版 71・76・186）

39M グリッドに位置する。西側で SI1820 と重複し、これを切っている。長さ 5.08m、幅 39cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は灰褐色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が少量出土しているが、周囲の状況から直接伴うものではなく、混入したものと考えられる。

SD1290（図版 77・80）

41L･M グリッドに位置する。SK1289 と重複し、これに切られる。また SB1905-P1907 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 2.24m、幅 50cm、検出面からの深さ 9cm を測る。長軸方向はＮ－ 11°－ E を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD1613（図版 82・87・187）

39O グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。長さ 5.64m 以上、幅 32cm、検出面からの深さ 5cm を測る。長軸方向はＮ－ 22°－ E を示す。断面形は孤状を呈する。覆土は褐灰色シルトとにぶい黄褐色シルトの 2 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から土師器が少量出土しているが、周囲の状況から直接伴うものではなく、後世の混入と考えられる。

7）畑　作　溝

畑作溝Ⅱ群（図版 30・31・34・58・187）

調査区中央部に位置する畑作溝を一括した。Ⅱ－ 1 群（SD355・737 ～ 741・756 ～ 769・773 ～ 779・1195）、Ⅱ－ 2 群（SD742 ～ 755・908・909）に細別する。

Ⅱ－ 1 群は 39H、42 ～ 44H、43・44I グリッドに位置する。SD357 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 0.28 ～ 3.71m、幅 24 ～ 46cm、検出面からの深さ 3 ～ 14cm を測る。長軸方向はばらつきが多い。断面形はいずれも孤状を呈し、覆土は暗灰褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

Ⅱ－ 2 群は 40 ～ 42I、40 ～ 42J グリッドに位置する。SB377 と重複するが、新旧関係は不明である。長さ 1.13 ～ 6.14m、幅 22 ～ 43cm、検出面からの深さ 2 ～ 17cm を測る。長軸方向はＮ－ 56 ～ 86°－Ｅを示す。断面形はいずれも孤状を呈し、覆土は暗灰褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

8）性格不明遺構

SX199（図版 22・25・178）

46E グリッドに位置する。南側で SB174-P160 と重複し、これに切られる。平面形は不整形を呈する。長径 2.64m、短径が 2.32m、検出面からの深さ 1.70m を測る。断面形は不整形を呈する。覆土はにぶい黄橙色シルトを主体とし、13 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SX662（図版 55・57・178）

40J グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径 89cm、短径 44cm、検出面からの深さ 16cm を測る。長軸方向は N － 85° － W を示す。断面形は不整形を呈する。覆土は灰黄褐色粘質シルトを主体とし、3 層に識別され、斜位に堆積する。遺物は土師器が出土しているが、風化が著しく時期は特定できない。

G　自 然 流 路

SD1200（図版 1・89・90・125・188・189）

35K ～ N、36K ～ N、37K ～ O、38・39O グリッドに位置する。SX1369・1801 と重複し、これらを切っており、SE1060・1061・1086・1199・1399、SK1801 ～ 1806・1817 と重複し、これらに切られる。調査区西側を南から北にかけて蛇行しながら流下しており、北側に隣接する北新田遺跡の自然流路（SD1220）［金内ほか 2008］につながる。流下方向は 37 ～ 39O グリッドが N － 17° － W、37L ～ O グリッドが N － 42° － E、35K ～ 37L グリッドが N － 6° － W を示す。左岸は調査区外になるため、川幅と断面形状は不明である。検出面からの深さは 2.05m を測り、河岸は急斜度に立ち上がる。37L グリッドでは河岸が東方向に 6 × 4.6m の範囲で突出している。人工的に掘り込まれたものかは不明である。

覆土は 22 層に識別され、レンズ状に堆積する。このうち、覆土 1 ～ 9 層は灰色を主体に褐色や赤褐色の砂質シルトが堆積している。覆土 10 ～ 20 層は灰色粘質シルトを主体に灰白色粘質シルトや緑灰色・黒色砂質シルトが堆積する。覆土 21 層は青灰色砂質シルトを主体に黒色シルトが縞状に混入し、炭化材が多く含まれる。覆土 22 層は暗緑灰色粘質シルトが堆積し、植物遺体が多く含まれる。覆土下層に砂などの粒径の粗い堆積物が認められず、流れがほとんどない状態であったと考えられる。

36L 及び 37L・M グリッドでは木製杭を計 18 基確認した。36L グリッドでは**杭 967 ～ 978** の 12 基が存在し、そのうち 10 基が南北 3m、東西 3.5m の範囲で方形に並んでいる（北東隅から時計回りに杭 970・969・968・967・976・975・974・973・972・971）。また杭 969 の西側 0.5m 先に杭 978、杭 971 の北側 1.7m 先に杭 977 がある。杭 976 が横倒しになっていたほかは、標高 14.0 ～ 14.7m の深さまで打ち込まれていた。37L・M グリッドでは**杭 961 ～ 966** の 6 基が存在する。いずれも標高 14.9 ～ 15.5m の深さまで打ち込まれていた。杭列の存続時期は自然科学分析の結果から、古墳時代後期と推定される。

遺物は覆土 8・14・17・20 ～ 22 層から出土しているが、層位ごとの出土状況に際立った違いは認められない。縄文土器（359）、弥生土器（303）、古墳時代の土師器（304 ～ 326）・須恵器（327・328）・土製品（329）、古代の土師器（330 ～ 335）・須恵器（336 ～ 358）、管玉未成品（488）、凹石（497）、木製品（541 ～ 559）が出土している。自然流路の存続時期は出土遺物の年代から弥生時代後期～ 10 世紀後半と推定される。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

出土遺物を大別すると土器・土製品・陶磁器、石器・石製品、ガラス製品、金属製品、木製品がある。

土器・土製品・陶磁器を時代別に見ると、縄文時代から中世まで確認できる。縄文土器は自然流路から出土した１点のみ確認した。弥生土器はすべて後期に限定される。古墳時代の土器は土師器及び須恵器、土製品はカマドに伴う土製支脚と芯材に使われたと考えられる円筒形土製品がある。土師器は前期･中期･後期のものが確認できる一方、須恵器及び土製品は後期に限定される。古代の土器は土師器及び須恵器が確認できる。ほかにも古代のものと推定される鞴の羽口が出土した。時期は８世紀前半､９世紀前葉～中葉、10 世紀末～ 11 世紀初頭と断続的ではあるが、多時期に渡る。中世の土器･陶磁器は珠洲焼、土師質土器、瓷器系焼物、青磁、白磁、瀬戸美濃焼がある。これらは 12 世紀末～ 15 世紀中葉までのものが断続的に確認できる。

土器・土製品・陶磁器は種類別に重量を計測し、第１表にまとめた。また種類別の重量出土分布を第14・15 図に表した。弥生土器・土師器及び古墳時代・古代須恵器は調査区南西側のＬグリッド以南に多く見られ、対照的に珠洲焼、土師質土器、青磁・白磁はＬグリッド以北で目立つ。

石器は石錘・敲石・磨石・凹石等があり、石製品は管玉・砥石・硯・石臼・五輪塔・多字一石経がある。石錘・敲石は加工痕や使用痕が残されているものについて掲載した。古墳時代後期の竪穴住居から多く出土しており、敲石は中世の井戸からも出土している。凹石は古墳時代後期の竪穴住居や中世の溝などから出土しているが、前者と後者とでは形態が異なっている。管玉やヒスイ製品などの玉作関連資料は弥生～古墳時代のものと考えられるが、いずれも施溝分割などの弥生的製作技法は認められない。中世の石製品の中には五輪塔や多字一石経など人々の信仰をうかがえる資料もある。

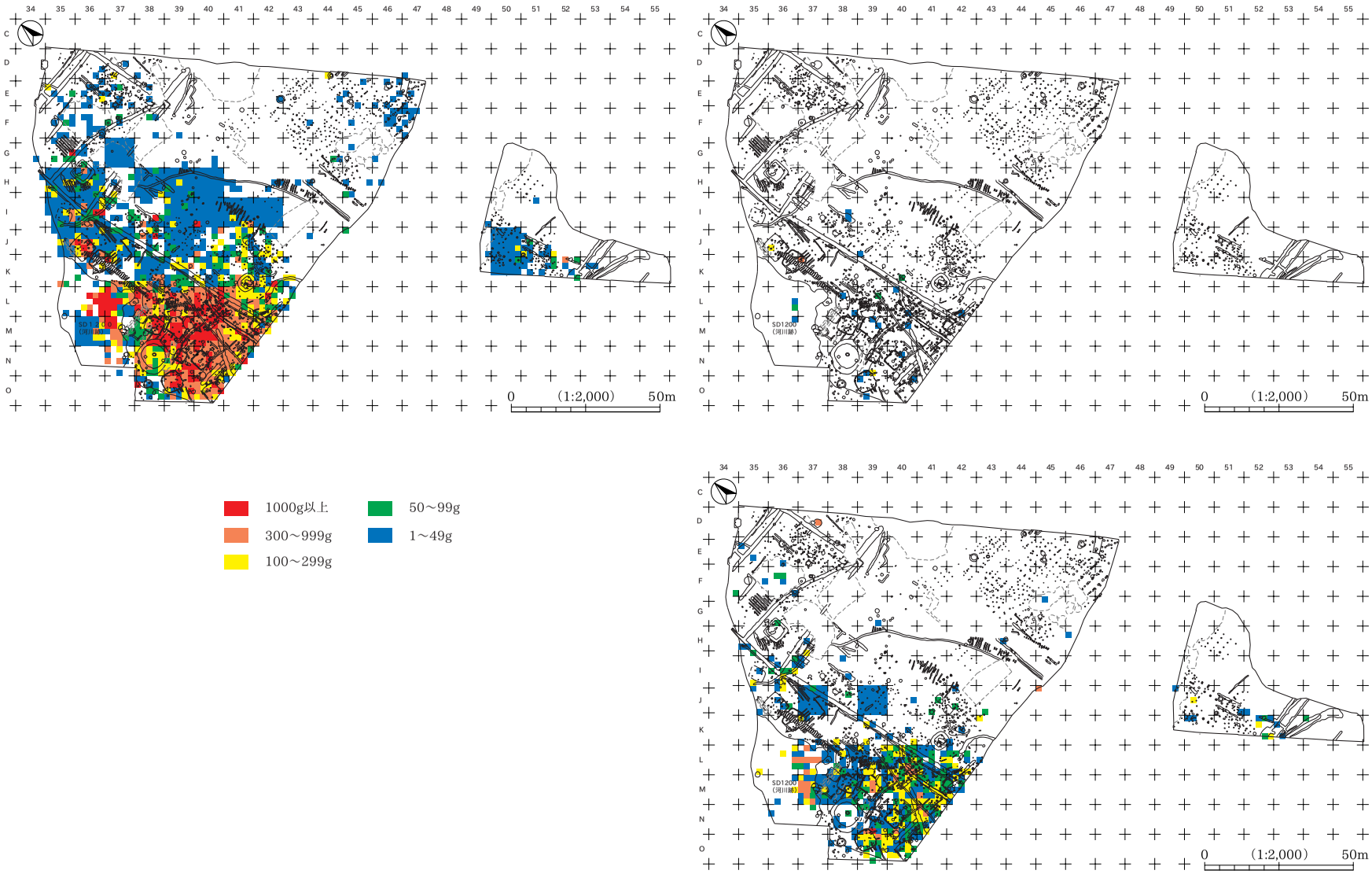
ガラス製品には弥生時代後期の小玉、金属製品には古墳時代後期の耳環や中世の槍鉋・刀子・銭貨がある。木製品は古墳時代の杭・曲柄平鍬、中世の井戸側・曲物等がある。

以下、出土遺物の説明を行うが土器・土製品・陶磁器は遺構内出土、自然流路出土、遺構外出土ごとに項を設け、遺構内出土は遺構別、それ以外は時代別に記述した。石器・石製品は共伴する土器の年代等で大まかな時期が判別できるものが多いことから、時代別に項を設け、種類別に記述した。ガラス製品、金属製品は種類別に記述した。木製品は自然流路出土、遺構内出土ごとに項を設け、自然流路出土は種類別、遺構内出土は遺構別に記述した。

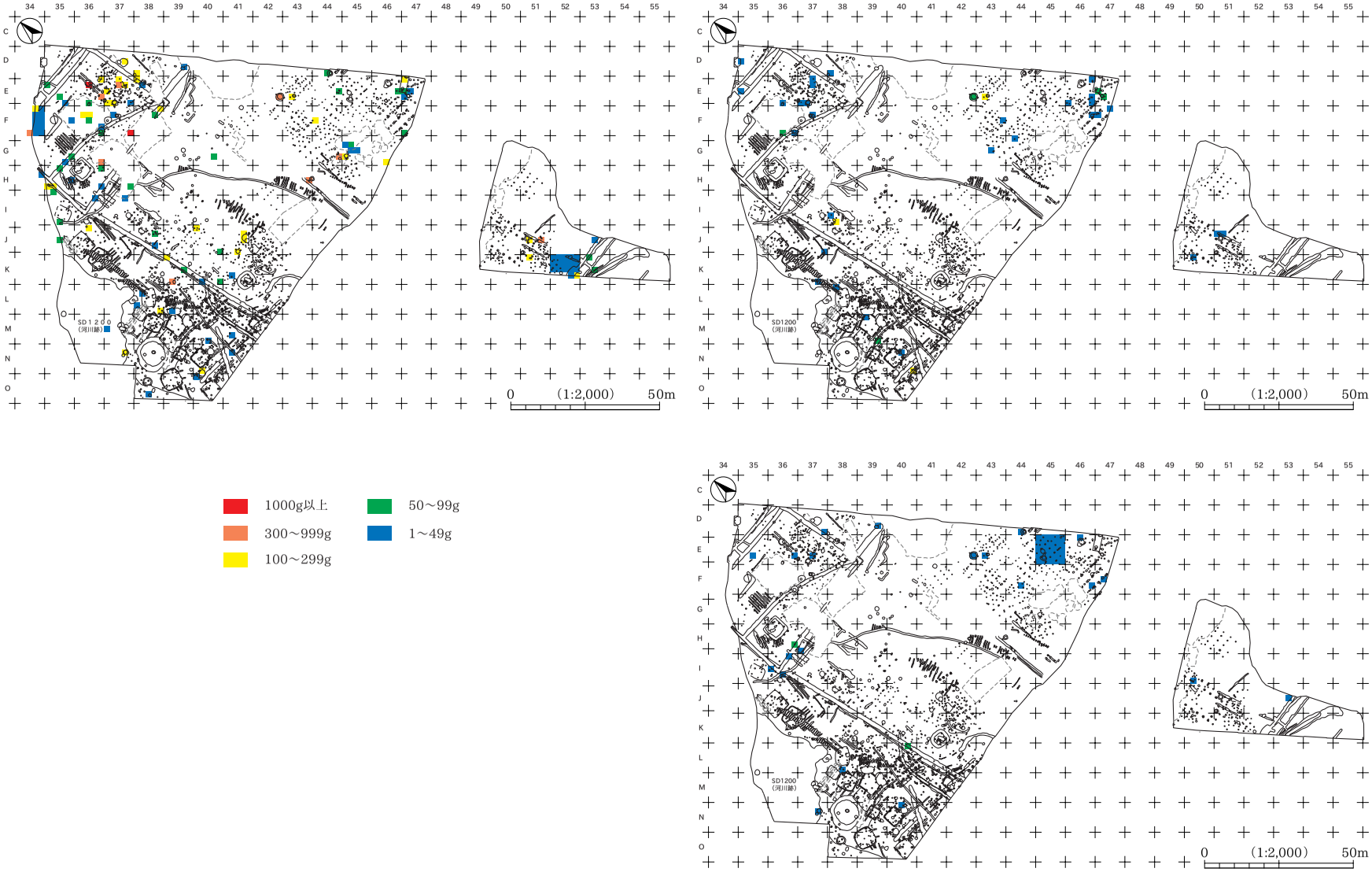
	弥生土器・土師器（円筒形土製品等含む）	古墳時代須恵器	古代須恵器	珠洲焼	土師質土器	青磁・白磁	その他	合計
遺構内出土	262.066	1.11	12.712	14.218	2.786	0.523	1.295	294.71
自然流路出土	69.122	0.1	7.083	0	0	0	0.049	76.354
遺構外出土	208.514	0.22	24.946	4.869	0.27	0.126	1.866	240.811
合計	539.702	1.43	44.741	19.087	3.056	0.649	3.21	611.875

（重量は kg）

第１表　土器・土製品・陶磁器種類別出土一覧表



第 14 図　土器・陶磁器出土分布図（1）（S=1/2,000、左上：弥生土器・土師器　右上：古墳須恵器　右下：古代須恵器）



第 15 図　土器・陶磁器出土分布図（2）（S=1/2,000、左上：珠洲焼　右上：土師質土器　右下：青磁・白磁）

2　土器・土製品・陶磁器

A　土器・陶磁器の分類

1）弥生時代後期～古墳時代中期の土器（第 16 図）

分類は新潟県考古学会シンポジウム『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』（以下、新潟シンポ）で発表された分類･変遷案［滝沢 2005b］を参考にした。弥生時代後期の時間軸は「新潟シンポ 2 期」というように新潟シンポで提示された編年案に沿うものとした。古墳時代前期及び中期に関しては、出土量が少なく、その大部分が他時期の土器と混在して出土していたことから、時間軸の細分を検討するまでには至らなかった。したがって「古墳時代前期後半～中期」というように大まかな記載にとどめた。

高杯（117・225・308・360・384）　A：弥生時代後期のものを一括した。脚部が「ハ」の字に開くものと棒状のものが確認できる。B：古墳時代前期のものを一括した。いわゆる小型高杯も含まれる。C：古墳時代前期後半～中期のものを一括した。脚部が膨らみを持ち、外側に大きく屈折する。畿内系と考えられる。

器台（10・23・25・127）　A：弥生時代後期のものを一括した。受部・裾部ともに有段のものが見られるが、破片資料が多く、全体的な様相が明らかでない。B：古墳時代前期～中期のものを一括した。破片資料であり、全体的な様相が明らかでない。

蓋（372）　環状のつまみを持つものがある。細別していない。

鉢（2・21・217・220）　器形ではA：有段口縁鉢、B：底部有孔鉢、C：短頸のものに細別した。A・Bは弥生時代後期、C は古墳時代前期～中期に比定される。

壺（3・14・123・222・315・317・374）　器形ではA：扁平な体部と直口する細長い口頸部を有するもの、B：有段の口縁部を持つもの、C：胴張短頸壺、D：大型の広口長頸壺、E：信州系の壺に細別した。いずれも弥生時代後期に比定される。またF：古墳時代前期後半～中期のものを一括した。

甕（32・132・133・215・216・231・259・260・305・318・382）　A：有段口縁擬凹線甕、B：有段口縁無文甕、C：在地系の甕、D：タタキ甕、E：東海系 S 字甕に細別した。A・B は弥生時代後期～古墳時代前期に、D・E は古墳時代前期にそれぞれ比定される。

2）古墳時代後期の土器（第 17 図）

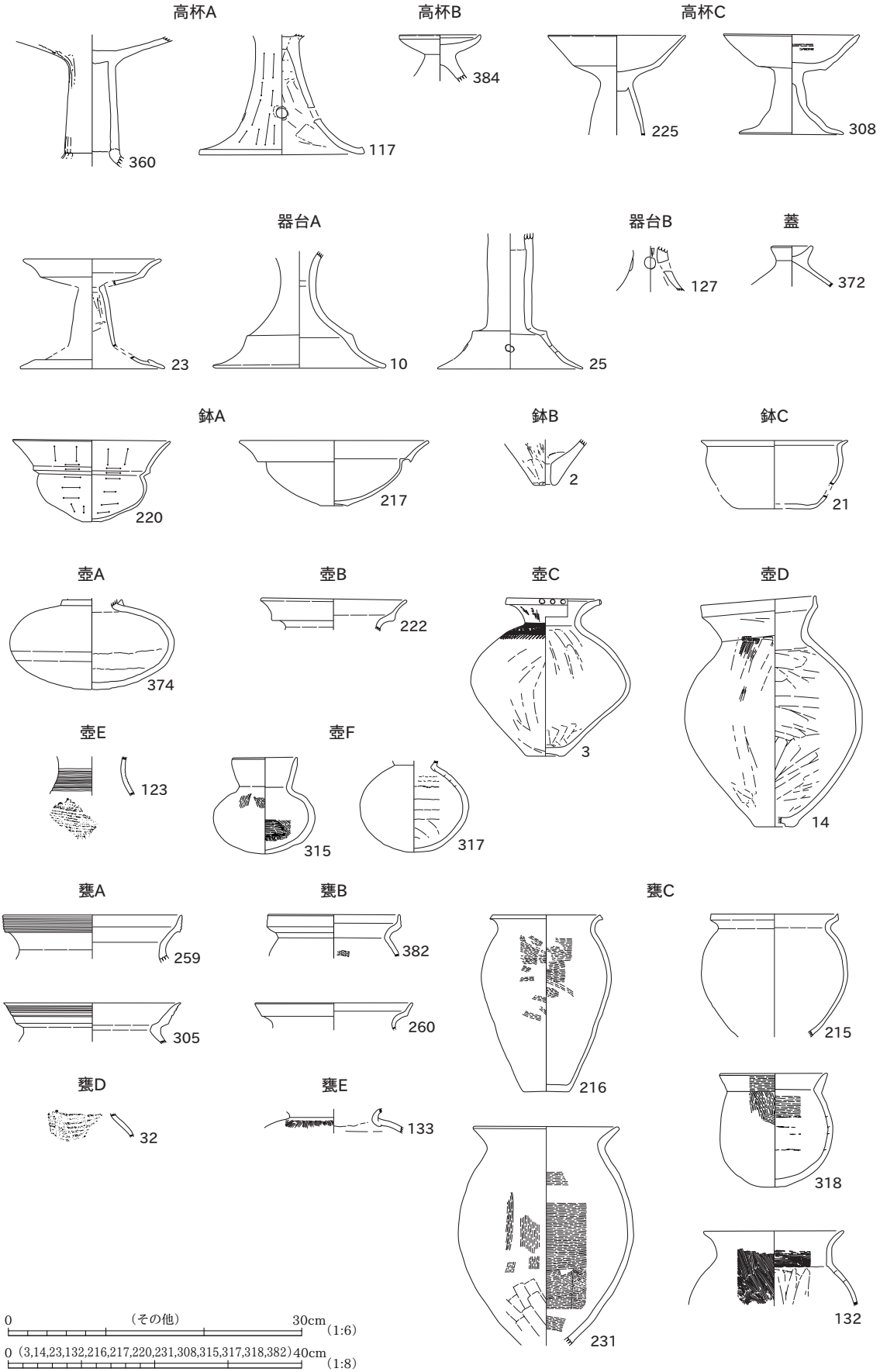
土師器・須恵器を確認した。分類は『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか 2008］を参考にした。時間軸は笹沢編年［笹沢 2003］を参考にした上で、「7 世紀前半」というように西暦で表した。

a　土　師　器

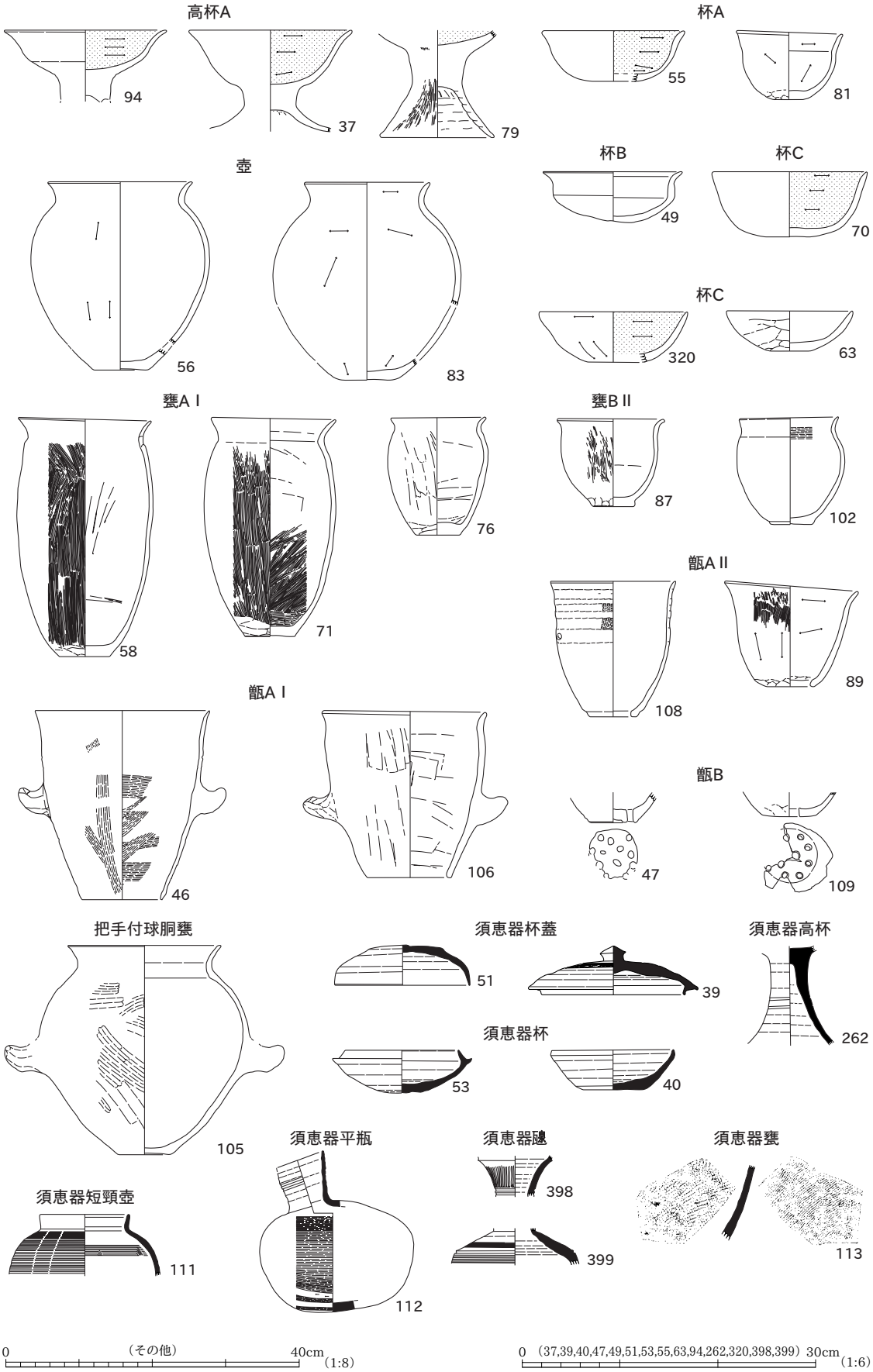
高杯（37・79・94）　杯部内面に黒色処理を施し、内湾する杯部と外反する口縁部からなるものがある。細別していない。

杯（49・55・63・70・81・320）　器形ではA：内湾する体部と外反する口縁部からなるもの、B：体部に稜を持ち、内湾する体部と外反する口縁部からなるもの、C：内湾する体部が屈曲せずに立ち上がるものに細別した。B は内面に黒色処理を施さず、A･C は内面に黒色処理を施すものと施さないものがある。

壺（56・83）　全体の様相をうかがえるものは少ない。細別していない。



第 16 図　器種分類図（弥生時代後期～古墳時代中期）



第 17 図　器種分類図（古墳時代後期）

甕（58・71・76・87・102）　器形ではA：長胴の体部を持つもの、B：球形の体部を持つものに細別した。また口径によりⅠ：15cm 以上、Ⅱ：12 ～ 15cm に細別した。

甑（46・47・89・106・108・109）　器形ではA：底部が筒抜けのもの、B：底部に多孔を穿つものに細別した。また口径によりⅠ：19cm 以上、Ⅱ：16 ～ 18cm に細別した。

把手付球胴甕（105）　1点のみ出土した。細別していない。

b　須　恵　器

出土数が少ないことから器種のみを提示し、その中での細別は行わないこととした。器種は**杯蓋**（39・51）・**杯**（40・53）・**高杯**（262）・**平瓶**（112）・**短頸壺**（111）・**𤭯**（398・399）・**甕**（113）が確認できる。

3）古代の土器（第 18 図）

土師器･須恵器を確認した。分類は『岩ノ原遺跡』［高橋ほか 2008］及び『北前田遺跡Ⅰ･北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか 2008］を参考にした。時間軸は［笹沢 2003］を参考にした上で「8 世紀前葉」「9 世紀中葉」というように西暦で表した。

a　土　師　器

出土数が少ないことから器種のみを提示し､その中での細別は行わないこととした。器種は無台椀(331･332・333)・**有台椀**（245・335）・**甕**（233・234）・**鍋**（235）・**甑**（406）が確認できる。

b　須　恵　器

杯蓋（41・239・336・337・338・407・408・409）　器形ではA：頂部の径が大きく平坦であり、器高が低いもの、B：頂部の径が小さく、器高が高いものとに細別した。また口端部径によりⅠ：17cm 以上、Ⅱ：14 ～ 17cm 前後、Ⅲ：12 ～ 14cm 前後、Ⅳ：10 ～ 12cm 前後に細別した。

有台杯（253・264・340・341・345・411・419・423）　器形ではA：器高 5cm 以下の低いもの、B：器高 5cm 以上の深身のものに細別した。また口径によりⅠ：16cm 以上、Ⅱ：13 ～ 16cm 前後、Ⅲ：11 ～ 13cm 前後、Ⅳ：9 ～ 11cm 前後に細別した。

無台杯（348・351・352・354・356・357・431・434）　器形ではA：底部の切り離しがヘラ切りの箱形を呈するものとB：底部の切り離しが糸切りで底部と体部の境に綾を持ち、「二段底」を呈するもの、C：糸切りの椀形を呈するものに細別した。また口径によりⅠ：13cm 以上、Ⅱ：11 ～ 13cm に細別した。

有台盤（441）　1点のみ出土した。細別していない。

長頸瓶（224・273）　体部がソロバン玉形を呈するものがある。細別していない。

横瓶（446）　全体の様相をうかがえるものは見られない。細別していない。

甕（358・448）　全体の様相をうかがえるものは見られない。細別していない。

4）中世の土器・陶磁器（第 19 図）

土師質土器・珠洲焼・瓷器系焼物・青磁・白磁・瀬戸美濃焼を確認した。器種分類・編年に関しては、土師質土器は［水澤 2005］、珠洲焼は［吉岡 1994］、青磁は［上田 1982］、白磁は［森田 1982］、瀬戸美濃焼は［藤沢 2008］の各論考を参考にし、時間軸は「13 世紀前葉」「15 世紀中葉」と西暦で表した。

第 18 図　器種分類図（古代）

a　土師質土器

皿（152・155・191・199・280）が確認できる。ロクロ成形したものと手づくねのものがある。

b　珠　洲　焼

甕（284・459）・**片口鉢**（163・182・288）・**壺**（287）が確認できる。前二者が大多数を占める。

c　瓷器系焼物

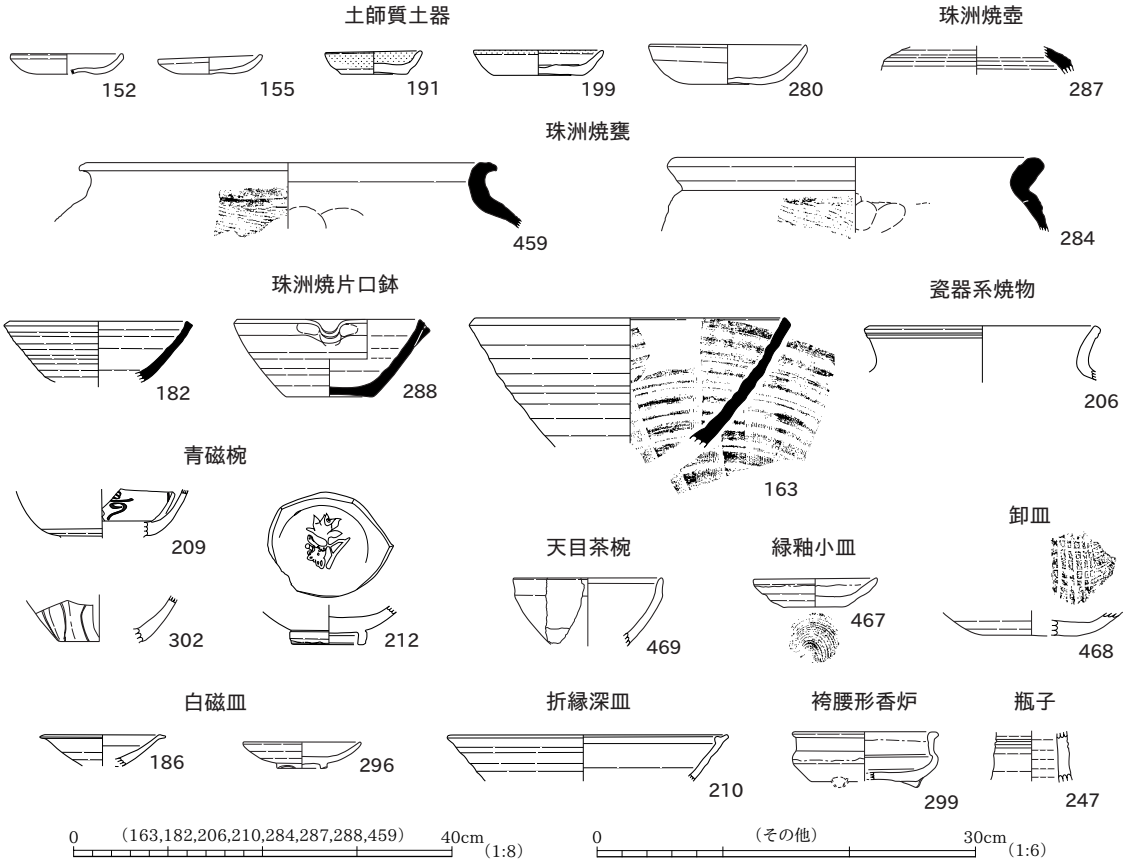
壺（206）が確認できる。

d　青磁・白磁

青磁は**椀**（209・212・302）に限定される。白磁（青白磁を含む）は**皿**（186・296）を 2 点確認した。

e　瀬戸美濃焼

天目茶椀（469）・**縁釉小皿**（467）・**卸皿**（468）・**折縁深皿**（210）・**袴腰形香炉**（299）・**瓶子**（247）がある。



第 19 図　器種分類図（中世）

B　遺構内出土

SI1356（図版 91-1 ～ 5、図版 190）

弥生時代後期の高杯（1）、鉢（2）、壺（3 ～ 5）が出土した。1 は裾部に透孔が 4 単位確認できる。2 は底部有孔鉢の底部である。3 ～ 5 はいずれも口縁が大きく外反するもので、壺 C に属する。3 は口縁部に 2 ～ 3 個並ぶ円形の貼付文が 4 単位確認できる。頸部には縦位、体部上半には横位に櫛描文・刺突文が描かれる。在地系の壺ではなく、北陸もしくは東海地方に類例が求められる。時期はいずれも新潟シンポ 2 期に比定される。

SI501（図版 91-6 ～ 22、図版 190）

弥生時代後期の器台もしくは高杯（6 ～ 13）、壺（14）及び古墳時代中期の高杯（15 ～ 20）、鉢（21）、古墳時代後期の須恵器杯蓋（22）が出土した。6 ～ 13 はいずれも色調が灰白～灰黄色を呈し、胎土が近似している。6 は受部、10・12・13 は裾部がそれぞれ有段である。13 は裾部外面に S 字状のスタンプ文が施され、透孔も確認できる。14 は口縁上端部がつまみあげられたように上方に延びるもので、壺 D に属する。6 ～ 14 の時期はすべて新潟シンポ 2 期に比定される。

15 ～ 21 はいずれも色調が橙色～黄橙色を呈し、胎土が近似している。15・16 は杯部で、口縁部が内湾して立ち上がる。17 ～ 20 は脚部が膨らみを持ち、外側に大きく屈折する。21 は頸部が短く、口径に比べて身が浅い。鉢 C に属する。

22 は内外面に自然釉が見られる。覆土上層から出土したことや、本遺構から古墳時代後期の遺物はこの 1 点しか確認できないことから、後世の混入と考えられる。

SI1820（図版 92-23 ～ 33、図版 190・191）

弥生時代後期の器台（23 ～ 26）、壺（27）、甕（28）、器種不明の破片（29）及び古墳時代前期の甕（30 ～ 33）が出土した。23 ～ 29 は色調が灰白～浅黄橙色を呈し、胎土が近似している。23 ～ 25 は受部もしくは裾部が有段である。27 は 3 と同様に口縁部に円形の貼付文が確認できる。28 は体部上半に刺突文が横位に巡る。29 は小破片のため、器種は不明であるが、細い沈線による鋸歯状文が見られる。

30・31 は在地系の甕で、甕 C に属する。30 の口縁端部はいわゆる付加状口縁で、31 は端部が丸く収まる。32・33 は同一個体で、外面にタタキ痕跡の残るいわゆるタタキ甕である。体部破片のみで全体的な様相は不明であるが、越後におけるタタキ甕の様相［滝沢 2007］から古墳時代前期の所産と考えられる。

SI1395（図版 92-34 ～ 35、図版 191）

古墳時代前期の甕（34）及び古墳時代後期の甑？（35）が出土した。34 は在地系と考えられる。

SI1821（図版 92-36 ～ 42、図版 191）

古墳時代前期の壺（36）及び古墳時代後期の土師器高杯（37・38）、須恵器杯蓋（39）、杯（40）、古代の須恵器杯蓋（41・42）が出土した。36 は形状から小型で脚部を有する無頸壺の底部と考えられる。本遺構から古墳時代前期の遺物はこの 1 点しか確認できないことから、後世の混入と考えられる。

37・38 はいずれも杯部内面に黒色処理を施し、杯部が内湾し、口縁部が外反する。39 は住居の床面直上から出土したもので、遺構に直接伴うものと考えられる。端部内面にかえりを持つ杯蓋で、つまみは高さのある擬宝珠形である。体部上半には横位の沈線を 2 条描き、その間には斜位のキザミが横位に並ぶ。40 は胎土に長石を多く含む。39・40 の時期は 7 世紀中葉（笹沢編年Ⅱ -1 期）に比定される。

41・42 はいずれも頂部の径は大きく平坦である。つまみは 41 が低いが径の大きな擬宝珠形、42 が低

めの擬宝珠形である。時期は 8 世紀前半（笹沢編年Ⅲ -1 期）に比定される。覆土上層から出土していることや、本遺構を切っている SK1822 からも当該期の須恵器が出土していることから、後世の混入と考えられる。

SI519（図版 92-43 ～ 46、図版 93-47 ～ 48、図版 191）

古墳時代後期の土師器杯（43）、甕（44・45）、甑（46・47）、須恵器杯（48）が出土した。43 は杯 C に属するもので、丸底である。内面の黒色処理は施されない。45 は甕 A、46 は甑 A、47 は甑 B にそれぞれ属する。45 の口径は 18.8cm、46 は 23.6cm を測り、共に法量Ⅰに属する。46 の体部には一対の把手が付く。47 の底部には孔が 12 個以上あったものと考えられる。

48 は口縁部のかえりが欠損している。色調は灰白色を呈し、焼成が不十分である。時期は 7 世紀前半（笹沢編年Ⅰ -3 期）に比定される。

SI521（図版 93-49 ～ 54、図版 191）

古墳時代後期の土師器杯（49）、甕（50）、須恵器杯蓋（51・52）、杯（53・54）が出土した。49 は杯 B に属するもので、体部に稜を持ち、体部上半が上方に立ち上がり、口縁部が外反する。内面の黒色処理は施されない。51 ～ 54 の時期はいずれも 7 世紀前半に比定される。51 の色調は灰白色を呈し、焼成が不十分である。

SI1305（図版 93-55 ～ 62、図版 192）

古墳時代後期の土師器杯（55）、壺（56･57）、甕（58）、甑（59）、円筒形土製品（60･61）、土製支脚（62）が出土した。55 は杯 A に属し、内面に黒色処理を施す。56・57 は内外面にミガキが施される。58 は甕 A に属する。58 の口径は 18.1cm、59 は 24.2cm を測り、共に法量Ⅰに属する。59 の体部には一対の把手が付く。

60・61 は横断面が楕円形を呈する。内外面にハケによる調整痕が見られるが、61 の内面には輪積痕が残る。上越市一之口遺跡 SI168［鈴木ほか 1994］、北新田遺跡 SI570［金内ほか 2008］にも類例が見られる。両者はカマドの両袖付近から出土した。カマドを構築する際の芯材と推定できる。62 は中実で円柱形を呈する。北新田遺跡 SI931 等で類例が見られる。カマド内部から出土したことから、カマドに設置した土器を下支えする支脚と推定できる。

SI1615（図版 93-63・64、図版 94-65 ～ 69、図版 192）

古墳時代後期の土師器杯（63）、甕（64・65）、甑（66）、円筒形土製品（67）、土製支脚（68・69）が出土した。63 は杯 C に属するもので、平底である。内面の黒色処理は施されない。68・69 は下部が「ハ」の字に開く土製支脚で、本遺跡ではこの 2 点のみを確認した。

SI900（図版 94-70 ～ 78、図版 192・193）

古墳時代後期の土師器杯（70）、甕（71 ～ 76）、甑（77）、土製支脚（78）が出土した。70 は杯 C に属する。口径が 21.2cm と大型で、内面に黒色処理を施す。71 ～ 73 は甕 A、76 は甕 B に属する。口径は 71 ～ 73 が 15 ～ 17cm を測ることから法量Ⅰに、76 は 12.9cm を測ることから法量Ⅱにそれぞれ属する。77 は甑 A に属する。口径は 20.5cm で法量Ⅰに属する。体部には一対の把手が付く。

SI1510（図版 94-79 ～ 82、図版 95-83 ～ 93、図版 193・194）

古墳時代後期の土師器高杯（79・80）、杯（81）、壺（82・83）、甕（84 ～ 87）、甑（88・89）、円筒形土製品（90・91）、土製支脚（92・93）が出土した。

79 は杯部内面に黒色処理を施す。81 は杯 A に属する。内面の黒色処理は施されない。83 は 56・57

と同様内外面にミガキが施される。84 ～ 86 は甕 A、87 は甕 B に属する。口径は 84 ～ 86 が 17.4 ～ 20.4cm を測ることから法量Ⅰに、87 は 14.6cm を測ることから法量Ⅱに属する。88･89 は甑 A に属する。88 は体部に一対の把手を持ち、口径は 21.4cm を測ることから法量Ⅰに属する。89 は体部に把手を持たず、口径は 18.3cm を測ることから法量Ⅱに属する。

90・91 は内外面にハケによる調整痕が見られ、内面には輪積痕が残る。60・61 と同様カマドを構築する際の芯材と推定できる。91 はカマド付近から出土している。92・93 は中実で円柱形を呈し、62 と同様土器を下支えする支脚と推定できる。93 はカマド内部から出土している。

SI1604（図版 95-94 ～ 98、図版 96-99 ～ 116、図版 194・195）

古墳時代後期の土師器高杯（94）、杯（95 ～ 97）、甕（98 ～ 103）、壺（104）、把手付球胴甕（105）、甑（106 ～ 109）、須恵器杯（110）、短頸壺（111）、平瓶（112）、甕（113）、ミニチュア土器（114）、土製支脚（115･116）が出土した。

94 の杯部は深く、口縁部が伸長している。6 世紀後半から 7 世紀前半にかけての比較的新しい様相［春日 2006］が見られる。95 ～ 97 は杯 C に属する。95 は平底で、内面に黒色処理を施す。96 は丸底で、内面の黒色処理は施されない。

98 ～ 101 は甕 A、102・103 は甕 B に属する。口径は 98 ～ 101 が 15.4 ～ 18.8cm を測ることから法量Ⅰに、102・103 は 13.3 ～ 13.8cm を測ることから法量Ⅱにそれぞれ属する。106 ～ 108 は甑 A、109 は甑 B に属する。106 は体部に一対の把手を持ち、口径は 22.5cm を測ることから法量Ⅰに属する。107・108 は体部に把手を持たず、口径は 16.5 ～ 16.6cm を測ることから法量Ⅱに属する。109 の底部には孔が 9 個以上あったものと考えられる。104 は内面に赤彩された痕跡が確認できる。

105 は口縁部が外反し、体部は球形を呈する。体部中央には一対の把手を持つ。外面にはミガキが施される。把手付球胴甕は、新潟県内では村上市三角点下住居跡出土土器［上原 1962］に類例が見られるだけだが、富山県及び長野県で出土例が確認できる［関 2001］。

110 は 48・51 と同様に色調が灰白色を呈し、焼成が不十分である。時期は 7 世紀前半に比定される。111 の体部にはカキメ調整が見られる。112 は上越市山畑遺跡 SI14 出土土器［小島 1979］に類例が見られる。口縁部が歪んでおり、体部外面にカキメ調整が見られる。

114 は手づくね成形によるミニチュア土器である。115・116 は一部欠損しているが、中実で円柱形を呈し、土器を下支えする支脚と推定できる。

SX1080（図版 97-117 ～ 133、図版 195）

弥生時代後期の高杯（117）、器台（118・119）、鉢（120）、壺（121 ～ 125）、甕（126）及び古墳時代前期の高杯（127）、甕（133）、古墳時代中期の高杯（128・129）、壺（130・131）、甕（132）が出土した。

117 は脚部が「ハ」の字状に開く。透孔は 4 単位確認できる。118 は有段の受部で、外面は擬凹線が施され、赤彩される。119 は裾部に 3 条の隆線が横位に巡り、その間に刺突文を施す。方形の透孔も確認できる。120 は鉢 A に属する。器高に比べて身が浅いものである。

121 は壺 B、122 は壺 D、123・124 は壺 E に属する。123・124 共に頸部～体部上半に櫛描文が施される。色調は橙色を呈し、浅黄橙色を呈する 117 ～ 122・125・126 とは胎土が異なる。信州箱清水系の長頸広口壺と考えられる。126 は甕 B に属する。頸部～体部にかけてヘラによる調整痕が見られる。117 ～ 126 の時期はすべて新潟シンポ 2 期に比定される。

127 は小型器台の脚部と考えられる。外面が赤彩され、透孔は 4 単位確認できる。128 ～ 132 は 15

～ 21 と同様、色調が橙色～浅黄橙色を呈し、胎土が近似している。128・129 は脚部が膨らみを持つ。133 は小型の甕で、色調はにぶい黄橙色を呈し、128 ～ 132 とは胎土が異なる。東海系 S 字口縁甕と考えられる。

SB880（図版 97-134・135、図版 195）

P881 から古墳時代前期の壺（134）、P887 から古墳時代後期の須恵器杯（135）が出土した。134 は有段口縁を呈するものの、口縁部には擬凹線は見られない。135 は口縁端部が欠損しているが、かえりを持つ杯である。時期は 7 世紀前半に比定される。

SB1057-SD666（図版 97-136・137、図版 195）

区画溝（SD666）から古墳時代後期の須恵器杯（136）及び古代の甑？（137）が出土した。136 は口縁端部が欠損しているが、かえりを持つ杯である。時期は 7 世紀前半に比定される。

SB408（図版 97-138、図版 195）

P410 から古代の須恵器甕（138）が出土した。外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる体部破片である。

SB1840（図版 97-139、図版 195）

P1386 から古代の須恵器無台杯（139）が出土した。無台杯 A に属し、底面が丸みを持つ。時期は 8 世紀前半に比定される。

SB1452（図版 97-140、図版 195）

P1449 から古代の須恵器無台杯（140）が出土した。無台杯 A に属し、底面が丸みを持つ。時期は 8 世紀前半に比定される。

SB1460（図版 97-141、図版 195）

P1467 から古代の須恵器杯（141）が出土した。時期は 8 世紀前半に比定される。

SB1760（図版 97-142、図版 195）

P1439 から古代の須恵器杯蓋（142）が出土した。つまみは非常に低い擬宝珠形である。時期は 8 世紀前半に比定される。

SB1750（図版 98-143 ～ 145、図版 196）

区画溝（SD1742）から古代の須恵器杯蓋（143）、P1490 から杯蓋（144）、P1459 から横瓶（145）が出土した。143 のつまみは低いが径の大きな擬宝珠形である。時期は 8 世紀前半に比定される。145 は外面にカキメ、内面に指頭圧痕が見られる。

SB1782（図版 98-146、図版 196）

P1292 から古代の須恵器甕（146）が出土した。径 18.8cm で小型の甕である。

SB1626（図版 98-147、図版 196）

P1631 から古代の無台杯（147）が出土した。無台杯 A に属し、底面が平底である。140・141 と比べて薄手の作りである。時期は 9 世紀前葉（笹沢編年Ⅴ -2 期）に比定される。

SB1215（図版 98-148、図版 196）

P1240 から中世の珠洲焼片口鉢（148）が出土した。時期は 13 世紀前半（珠洲Ⅱ期）に比定される。

SB110（図版 98-149、図版 196）

P194 から中世の珠洲焼片口鉢（149）が出土した。口縁部が内湾しながら立ち上がるような器形を呈する。時期は 13 世紀前半に比定される。

SB151（図版 98-150、図版 196）

P154 から中世の珠洲焼片口鉢（150）が出土した。内面に菊花文の押印が見られる。時期は 13 世紀前半に比定される。

SB174（図版 98-151、図版 196）

P164 から中世の珠洲焼片口鉢（151）が出土した。卸目は比較的細く鋭い。時期は 13 世紀前半に比定される。

SB201（図版 98-152 ～ 154、図版 196）

P227 から中世の土師質土器皿（152）、P123 から珠洲焼片口鉢（153）、P220 から青磁椀（154）が出土した。152 の口径は 8.8cm、器高 1.6cm を測り、土師質土器皿の法量の傾向［水澤 2005］等から時期は 12 世紀末～ 13 世紀初頭に比定される。153 の卸目は波状を呈する。時期は 13 世紀前半に比定される。154 は内外面共に無文である。

SB711（図版 98-155、図版 196）

P1241 から中世の土師質土器皿（155）が出土した。口径 8cm、器高 1.3cm を測り、時期は 13 世紀前半に比定される。

SB301（図版 98-156、図版 196）

P304 から中世の青磁椀（156）が出土した。体部外面に蓮弁文が見られる。時期は 13 世紀第 2 四半期に比定される。

SB31（図版 98-157、図版 196）

P39 から中世の珠洲焼片口鉢（157）が出土した。時期は 13 世紀前半に比定される。

SE605（図版 98-158 ～ 161、図版 196）

古代の須恵器壺（158･159）、甕（160･161）が出土した。160 は色調が青灰色を呈し、胎土が緻密である。佐渡小泊窯産と考えられる。

SE817（図版 98-162、図版 196）

古代の須恵器甕（162）が出土した。外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる。

SE817・SD815（図版 99-163、図版 196）

中世の珠洲焼片口鉢（163）が出土した。卸目が「米」字状に施されるものと考えられる。時期は 13 世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。

SE451（図版 99-164・165、図版 196）

古代の須恵器甕（164）、中世の珠洲焼甕（165）が出土した。164 は外面に格子状タタキ、内面に平行の当て具痕が見られる。

SE1061（図版 99-166、図版 196）

中世の瀬戸美濃焼（166）が出土した。皿と考えられ、底部の切り離しは糸切りである。

SE1199（図版 99-167・168、図版 196）

古代の須恵器甕（167）、瓶（168）が出土した。167 は外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる。

SE809（図版 99-169 ～ 171、図版 196）

中世の珠洲焼甕（169･170）、片口鉢（171）が出土した。169 の口縁部は「く」の字に外反し、頸部は短い。体部上半は撫で肩を呈している。時期は 13 世紀末～ 14 世紀初頭（珠洲Ⅲ期末～Ⅳ期初頭）に比定される。

SE806（図版 99-172、図版 197）

中世の珠洲焼片口鉢(172)が出土した。卸目が全面に施されるものと考えられる。時期は 14 世紀後半(珠洲Ⅳ期末～Ⅴ期初頭）に比定される。

SE820（図版 99-173 ～ 176、図版 197）

中世の土師質土器皿(173)、珠洲焼壺(174)、片口鉢(175･176)が出土した。173 は口径 7cm、器高 1.1cm を測る。175・176 の卸目は比較的太く鈍い。時期は 14 世紀後半（珠洲Ⅳ期末）に比定される。

SE901（図版 99-177、図版 197）

中世の土器片円板（177）が出土した。珠洲焼甕の体部をほぼ円形に打ち欠いたものと考えられる。

SE915（図版 99-178、図版 197）

中世の珠洲焼甕（178）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。

SE916（図版 99-179、図版 197）

中世の珠洲焼甕（179）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。時期は 14 世紀前半（珠洲Ⅳ期）に比定される。

SE1102・SE1103（図版 99-180、図版 197）

中世の珠洲焼片口鉢（180）が出土した。口縁部が内湾しながら立ち上がるような器形を呈し、卸目は波状を呈する。底部の切り離しは静止糸切りである。時期は 13 世紀前半に比定される。

SE1103（図版 100-181 ～ 185、図版 197）

中世の珠洲焼甕（181）、片口鉢（182 ～ 184）、青磁椀（185）が出土した。182・183 は共に口縁部が内湾しながら立ち上がる。182 に卸目は確認できず、183 の卸目は比較的細く鋭い。時期は 182 が 12 世紀末（珠洲Ⅰ期）、183 が 13 世紀前半（珠洲Ⅱ期）に比定される。185 は底部内面に劃花文が見られる。

SE120（図版 100-186、図版 197）

中世の青白磁皿（186）が出土した。口縁部が屈曲し、屈曲部の外面及び体部内面に回線が巡る。時期は 12 世紀末に比定される。

SE1101（図版 100-187、図版 197）

中世の青磁椀（187）が出土した。体部外面に蓮弁文が見られ、時期は 13 世紀第 2 四半期に比定される。

SE671（図版 100-188、図版 197）

中世の珠洲焼甕（188）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。

SE672（図版 100-189・190、図版 197）

中世の土師質土器皿（189・190）が出土した。189 は手づくね成形と考えられる。時期はいずれも 13 世紀前半に比定される。

SE789（図版 100-191 ～ 193、図版 197）

中世の土師質土器皿（191）、珠洲焼甕（192・193）が出土した。191 は口縁部の内外面にススが付着しており、灯明皿と考えられる。口径 7.5cm、器高 1.8cm を測り、時期は 14 世紀末～ 15 世紀初頭に比定される。

SE389（図版 100-194 ～ 198、図版 197）

中世の珠洲焼甕（194）、片口鉢（195 ～ 198）が出土した。195 は口縁部が内湾しながら立ち上がる。卸目は確認できなかった。時期は 12 世紀末に比定される。

SE799（図版 100-199・200、図版 197）

中世の土師質土器皿（199）、珠洲焼甕（200）が出土した。199 は口縁部にススが付着しており、灯明皿と考えられる。ロクロ成形で、底部切り離しは糸切りである。口径 10.2cm、器高 2cm を測り、時期は 15 世紀前半に比定される。

SE200（図版 100-201、図版 197）

中世の珠洲焼甕（201）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。

SE251（図版 100-202、図版 197）

中世の珠洲焼甕（202）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。

SE91（図版 100-203 ～ 204、図版 198）

中世の珠洲焼片口鉢（203 ～ 204）が出土した。204 の口縁断面は内側が肥厚し、先端が外側に狭まることで、三角形状を呈する。時期は 203 が 14 世紀前半（珠洲Ⅳ期）、204 が 14 世紀末～ 15 世紀初頭（珠洲Ⅴ期）に比定される。

SE448（図版 100-205・206、図版 198）

中世の珠洲焼片口鉢（205）、瓷器系壺（206）が出土した。205 は卸目が多条入り組みになるものと考えられる。時期は 14 世紀末に比定される。206 は色調が灰白色を呈し、胎土は粗い。産地は不明である。

SE1086（図版 101-207、図版 198）

中世の珠洲焼片口鉢（207）が出土した。口縁部には片口が付され、口縁端部の断面は三角形状を呈する。時期は 15 世紀前半に比定される。

SE1399（図版 101-208 ～ 210、図版 198）

中世の珠洲焼片口鉢（208）、青磁椀（209）、瀬戸美濃焼（210）が出土した。208 は卸目が全面に施される。底部の切り離しは静止糸切りである。時期は 14 世紀末（珠洲Ⅴ期）に比定される。209 は体部内面に劃花文が見られる。210 は折縁深皿である。時期は 14 世紀末（古瀬戸後期様式Ⅱ期）に比定される。

SE882（図版 101-211・212、図版 198）

中世の土師質土器皿（211）、青磁椀（212）が出土した。211 は口縁部内外面にススが付着しており、灯明皿と考えられる。212 は見込みに花文様のスタンプ文が見られる。時期は 14 世紀末～ 15 世紀初頭に比定される。

SE1060（図版 101-213、図版 198）

中世の珠洲焼甕（213）が出土した。外面に平行タタキ、内面に円形の当て具痕が見られる。

SK603（図版 101-214・215、図版 198）

弥生時代後期の壺（214）、甕（215）が出土した。214 は壺 D、215 は甕 C に属する。215 の口縁端部は面取りされており、体部は球形を呈する。時期はいずれも新潟シンポ 2 期に比定される。

SK736（図版 101-216、図版 198）

弥生時代後期の甕（216）が出土した。甕 C に属する。口縁端部は面取りされており、長胴の体部を持ち、底面は平底である。時期は新潟シンポ 2 期に比定される。

SK1541（図版 101-217 ～ 219、図版 198）

弥生時代後期の鉢（217）、甕（218・219）が出土した。217 は鉢 A に属する。口径に比べて身が浅いものである。外面は赤彩される。218 は甕 B に属する。時期はいずれも新潟シンポ 2 期に比定される。

SK1614（図版 101-220、図版 198）

弥生時代後期の鉢（220）が出土した。鉢 A に属する。口径に比べて身が深いものである。内外面はミ

ガキが施された後、赤彩される。時期は新潟シンポ 2 期に比定される。

SK1505（図版 101-221 ～ 224、図版 198）

弥生時代後期の壺（221 ～ 222）及び古代の須恵器有台杯（223）、長頸瓶（224）が出土した。222 は壺 B に属する。時期は新潟シンポ 2 期に比定される。224 は体部がソロバン玉状を呈するもので、上越市北新田遺跡［金内ほか 2008］に類例が見られる。時期は 9 世紀中葉に比定される。

SK504（図版 101-225、図版 198）

古墳時代中期の高杯（225）が出土した。口縁部が内湾して立ち上がり、脚部が膨らみを持つ。

SK598（図版 101-226、図版 198）

古墳時代中期の高杯（226）が出土した。脚部破片で、内面に縦方向のミガキ調整痕が見られる。

SK1006（図版 102-227 ～ 231、図版 199）

古墳時代中期の高杯（227・228）、甕（229 ～ 231）が出土した。いずれも色調が橙色を呈し、胎土が近似している。227・228 は同一個体と考えられる。229 ～ 231 は甕 C に属する。口縁端部はいずれも丸く収まる。

SK800（図版 102-232 ～ 236、図版 199）

古代の土師器甕（232 ～ 234）、鍋（235）、用途不明の土製品（236）が出土した。232 ～ 234 はいずれもロクロ成形であり、232 は体部外面下半が平行タタキ、内面下半には指頭圧痕が見られる。235 は口縁部と体部の間に 1 条の沈線が巡る。236 は中央に径 8mm の穴が貫通する。外面には指頭圧痕が見られる。

SK617（図版 102-237、図版 199）

古代と推定される土師器甕（237）が出土した。底部の切り離しは回転糸切りである。

SK1822（図版 102-238 ～ 241、図版 199）

古代の土師器甑（238）、須恵器杯蓋（239）、有台杯（240・241）が出土した。238 の底部には孔は 11 個以上あったと考えられる。239 は杯蓋 A Ⅱに属する。つまみは低いが径の大きな擬宝珠形である。240 は有台杯 A Ⅱに属する。高台は内端接地する。239・240 共に上越市今池遺跡 SK140 出土土器［坂井ほか 1984］に類例が見られることから、時期は 8 世紀前半（笹沢編年Ⅲ -1 期）に比定される。

SK1839（図版 102-242、図版 199）

古代の須恵器壺？（242）が出土した。体部破片で、外面に自然釉が見られる。

SK1559（図版 102-243・244、図版 199）

古代の須恵器杯蓋（243）、甕（244）が出土した。243 の外面上半はロクロケズリが施される。244 は外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる。

SK1508（図版 102-245・246、図版 199）

古代の土師器有台椀（245・246）が出土した。245・246 共に内面に黒色処理を施す。時期は 10 世紀末～ 11 世紀初頭に比定される。

SK803（図版 102-247、図版 199）

中世の瀬戸美濃焼（247）が出土した。瓶子の頸部と考えられる。

SK904（図版 102-248、図版 199）

中世の土師質土器皿（248）が出土した。ロクロ成形で、口径 6.6cm、器高 1.6cm を測る。時期は 15 世紀初頭に比定される。

SK914・SD815（図版 102-249、図版 199）

中世の瀬戸美濃焼（249）が出土した。皿と考えられる。

SK1187（図版 102-250、図版 199）

中世の青磁椀（250）が出土した。底部破片で、時期は 15 世紀前半に比定される。

SK94（図版 102-251、図版 199）

中世の土師質土器皿（251）が出土した。ロクロ成形で、口径 11cm を測る。時期は 13 世紀初頭に比定される。

SX1369（図版 103-252・253、図版 199）

弥生時代後期の器台（252）及び古代の須恵器有台杯（253）が出土した。252 は裾部が有段である。時期は新潟シンポ２期に比定される。253 は有台杯ＡⅡに属する。高台は内端接地する。時期は８世紀後葉（笹沢編年Ⅳ -1 期）に比定される。

SX7（図版 103-254・255、図版 199）

古代の須恵器杯蓋（254）及び中世の珠洲焼片口鉢（255）が出土した。255 の卸目は比較的細く鋭い。時期は 13 世紀前半に比定される。

SX1404（図版 103-256・257、図版 199）

古代の須恵器杯蓋（256）、有台杯（257）が出土した。257 の高台は外端接地する。

SD1370（図版 103-258、図版 199）

弥生時代後期の器台（258）が出土した。裾部が有段で、透孔が４単位確認できる。時期は新潟シンポ２期に比定される。

SD403（図版 103-259 ～ 261、図版 199）

弥生時代後期の甕（259 ～ 261）が出土した。259 は甕 A、260 は甕 B、261 は甕 C にそれぞれ属する。時期はいずれも新潟シンポ２期に比定される。

SD607（図版 103-262、図版 200）

古墳時代後期の須恵器高杯（262）が出土した。色調は灰白色を呈し、焼成が不十分である。時期は７世紀前半に比定される。

SD357（図版 103-263 ～ 266、図版 200）

古墳時代後期の須恵器杯（263）及び古代の須恵器有台杯（264・265）、甕（266）が出土した。264 は有台杯ＢⅣに属する。高台は内端接地する。時期は９世紀中葉に比定される。

SD801（図版 103-267・268、図版 200）

古代の須恵器杯蓋（267）、有台杯（268）が出土した。267 のつまみは低めの擬宝珠形である。

SD512（図版 103-269、図版 200）

古代の須恵器（269）が出土した。杯の底部と考えられ、外面にはヘラ状工具による調整痕が見られ、底部内面には回転糸切りの痕跡が見られる。

SD601（図版 103-270、図版 200）

古代の土師器無台椀（270）が出土した。底部の切り離しは回転糸切りである。

SD1296（図版 103-271、図版 200）

古代の須恵器杯（271）が出土した。底部が欠損しているが、器形から有台杯と考えられる。

SD893（図版 103-272、図版 200）

古代の須恵器無台杯（272）が出土した。底部の切り離しはヘラ切りである。比較的薄手の作りである。

SD1502（図版 103-273、図版 200）

古代の須恵器長頸瓶（273）が出土した。224 と同様に体部がソロバン玉状を呈する。体部上半外面にヘラ記号「×」が見られる。

SD602（図版 103-274 ～ 278、図版 200）

古代の土師器有台椀（274・275）、須恵器有台杯（276）及び中世の珠洲焼甕（277）、片口鉢（278）が出土した。274・275 共に内面に黒色処理を施す。時期は 10 世紀末～ 11 世紀初頭に比定される。

277 の口縁部は「く」の字に外反し、頸部は短い。時期は 13 世紀（珠洲Ⅱ～Ⅲ期）に比定される。278 の卸目は比較的細く鋭い。時期は 13 世紀前半（珠洲Ⅱ期）に比定される。

SD518・815（図版 104-279 ～ 296、図版 200）

古代の須恵器甕（279）及び中世の土師質土器皿（280 ～ 282）、珠洲焼甕（283 ～ 286）、壺（287）、片口鉢（288 ～ 292）、青磁椀（293 ～ 295）、白磁皿（296）が出土した。279 は体部破片で、外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる。283 の口縁部は「く」の字に外反し、頸部は短い。体部上半は撫で肩を呈している。時期は 13 世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。284 の口縁部は 283 のそれと比べて直立気味に立ち上がる。時期は 14 世紀末～ 15 世紀前半（珠洲Ⅴ期）に比定される。287 はロクロ成形である。時期は 13 世紀後半～ 14 世紀前半（珠洲Ⅲ～Ⅳ期）に比定される。

288・291 は共に口縁に片口部を持つ。288 は口縁部が内湾しながら立ち上がる。卸目は見られない。底部切り離しは回転糸切りである。時期は 13 世紀前半（珠洲Ⅱ期）に比定される。291 の卸目は比較的太く鈍い。時期は 14 世紀末～ 15 世紀前半に比定される。

293・294 は体部外面に蓮弁文が見られる。時期はいずれも 13 世紀に比定される。295 は見込みに花文様が見られる。時期は 15 世紀中葉に比定される。296 は小形の削り出し高台の皿で、高台には 4 か所の抉り込み、内面には 4 か所の重ね焼の痕が見られる。時期は 15 世紀中葉に比定される。

SD802（図版 104-297 ～ 299、図版 200）

中世の珠洲焼甕（297）、片口鉢（298）、瀬戸美濃焼（299）が出土した。299 は袴腰形香炉で、口縁部内面及び口縁部～体部上半外面に黒色釉が施される。時期は 14 世紀末～ 15 世紀前葉（古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期）に比定される。

SD6（図版 104-300 ～ 302、図版 200）

中世の土師質土器皿（300）、珠洲焼片口鉢（301）、青磁椀（302）が出土した。300 はロクロ成形で口径 8cm、器高 1.5cm を測る。302 は体部外面に蓮弁文が見られ、時期は 13 世紀第 2 四半期に比定される。

C　自然流路出土

弥生時代後期～古墳時代中期（図版 105-303 ～ 318、図版 201）

303 は弥生時代後期に比定される。高杯の脚部で、棒状を呈する。304 ～ 306 は古墳時代前期に比定され、304・305 は甕 A、306 は甕 B に属する。304・305 共に口縁端部が尖り、口縁部外面には擬凹線が巡る。北陸系と考えられる。

307 ～ 318 は古墳時代前期後半～中期に比定される。307 ～ 310 は高杯で、308 ～ 310 の脚部はいずれも膨らみを持ち、裾部は外側に大きく屈折する。畿内系と考えられる。313 は鉢 C に属する。内外面にはハケによる調整痕が見られる。314 ～ 317 は壺である。314 ～ 316 の口縁端部は丸く収まるか、面取りがきちんと行われていない。318 は甕 C に属する。口縁端部が丸く収められており、体部が球状、

底部が丸底を呈する。在地系と考えられる。

古墳時代後期（図版 105-319 ～ 326、図版 106-327 ～ 329、図版 201）

319 は高杯の脚部である。外面にハケメ、内面に輪積み痕が確認できる。320 ～ 323 は杯 C に属する。320･321 は内面に黒色処理を施した後、ミガキが施される。322 は内面に黒色処理が施されないが、ミガキが施される。323 は内面にキャタピラ状の刺突列が巡る。324 は甕 A に属し、口径が 14cm を測ることから、法量Ⅱに属する。325・326 は甑 A に属し、325 の口径は 19cm、326 は 19.4cm を測ることから、共に法量Ⅰに属する。325 は欠損しているものの、体部に一対の把手が付く。底部付近には孔が開けられる。326 は体部に把手を持たない。

327・328 は同一個体の須恵器横瓶と考えられる。328 の外面は平行タタキ後、ケズリが行われる。時期は 7 世紀前半に比定される。329 は土製支脚である。

古代（図版 106-330 ～ 351、図版 107-352 ～ 358、図版 202・203）

330 ～ 335 は土師器である。330 ～ 334 は無台椀である。330 は内面に黒漆が付着している。331 は底部の切り離しは回転糸切りである。330・331 共に上越市北新田遺跡 SK297 出土土器［金内ほか 2008］に類例が見られることから、時期は 9 世紀前半（笹沢編年Ⅴ -1 期）に比定される。335 は有台椀で、内面に黒色処理は施されない。時期は 10 世紀後半に比定され、自然流路出土土器の中では最も新しい。

336 ～ 358 は須恵器である。336 ～ 339 は杯蓋である。336 はつまみが非常に低い擬宝珠形で、器高が低く扁平である。内面に「大」の刻書が確認できる。時期は 8 世紀末（笹沢編年Ⅳ -2 期）に比定される。337 はつまみが高さのある擬宝珠形で、器高が高く山笠状を呈する。時期は 9 世紀中葉に比定される。339 は杯蓋の体部破片で、内面に墨痕が確認できる。転用硯として使用されていたものと考えられる。

340 ～ 345 は有台杯で、このうち 340 ～ 344 は細別 A、345 は細別 B に属する。340 は口径が 15cm を測り、法量Ⅱに属する。胎土から向橋窯産と考えられ時期は 8 世紀中葉（笹沢編年Ⅲ -2 期）に比定される。341 ～ 344 は口径が 11 ～ 11.8cm の範囲に収まり、法量Ⅲに属する。340 と比べて体部～口縁部にかけて直立気味に立ち上がり、箱状を呈する。341 ～ 343 の高台は外端接地する。時期は 9 世紀第 2 四半期（笹沢編年Ⅴ -2 期）に比定される。344 は底部外面に「公」の墨書が確認できる。345 は口径が 11.4cm を測り、法量Ⅲに属する。時期は 9 世紀第 2 四半期に比定され、底部外面に「丁」の墨書が確認できる。

346 ～ 357 は無台杯で、このうち 346 ～ 351 は細別 A、352 は細別 B、353 ～ 357 は細別 C に属する。346 ～ 351 は口径が 11 ～ 12.5cm の範囲に収まり、法量Ⅱに属する。347 は底部切り離し後、底面付近をヘラ状工具で調整した痕跡が認められる。時期は 9 世紀前半に比定される。350・351 は色調が青灰色を呈し、胎土が緻密である。佐渡小泊窯産と考えられ、時期は 9 世紀中葉に比定される。352 は口径が 12.2cm を測り、法量Ⅱに属する。時期は 9 世紀第 2 四半期に比定され、底部外面に「可」の墨書が確認できる。353 ～ 357 は口径が 11.8 ～ 12cm の範囲に収まり、法量Ⅱに属する。353 は時期が 9 世紀第 2 四半期に比定され、底部外面に「子茂」の墨書が確認できる。

358 は甕である。口径が 27cm を測り、中甕［小田ほか 2006］と考えられる。口縁端部は屈曲せず、面取りが行われる。体部外面には平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が見られる。

その他の時期（図版 107-359、図版 203）

359 は縄文土器である。深鉢の体部破片で、LR 縄文が縦方向に施文される。比較的薄手の作りであることから縄文時代後期に比定される。本遺跡から縄文時代の遺構は検出されず、当該期の遺物もこれ 1 点のみである。自然流路の存続時期に直接関わるものではなく、何らかの理由で混入したものと考えられる。

D　遺構外出土

弥生時代後期～古墳時代中期（図版 107-360 ～ 378、図版 108-379 ～ 391、図版 203・204）

360 ～ 383 は弥生時代後期に比定される。いずれも色調が浅黄橙色を呈し、胎土が近似している。360 は高杯である。脚部が棒状のものである。361 ～ 369 は器台もしくは器台と推定されるものである。361・362 は同一個体と考えられ、受部・裾部共に有段である。内外面にヘラ状工具によるミガキが施される。364 は外面に同心円状のスタンプ文が施される。366 は脚部と考えられ、刺突文が並ぶ隆帯が 3 条巡る。369 は裾部に 2 個一単位の透孔が四単位開けられていたものと考えられる。366・369 共に外面は赤彩される。

370・371 は鉢 A に属する。370 は口径に比べて身が浅く、371 は身が深いものである。370 は内外面に赤彩される。372・373 は蓋である。いずれも環状のつまみを持つ。

374 ～ 378 は壺である。374 は細別 A に属し、欠損しているものの直口する細長い口頸部を有していたものと考えられる。376 は口縁部に擬凹線が見られる。374・376 共に外面は赤彩される。378 は体部に突帯を持つもので、上越市下馬場遺跡 SI9 出土土器［尾崎 2005］に類例が見られる。379 ～ 383 は甕で、このうち 379・380 は細別 A、381 ～ 383 は細別 B に属する。383 の有段部は未発達である。

384 ～ 390 は古墳時代前期～中期に比定される。384・386・387 は高杯 B、385 は高杯 C に属する。384 はいわゆる小型高杯で、口縁部が内湾する。386・387 は同一個体で、脚部が「ハ」の字状に開く。388・389 は鉢 C に属する。388 は口径 27cm と大型のもので、内面に輪積み痕が見られる。390 は甕 C に属する。口縁端部は面取りされている。391 は甕の底部で、底面に木葉痕が見られる。

古墳時代後期（図版 108-392 ～ 402、図版 204）

392 ～ 394 は土師器である。392 は杯 C に属する。内面に黒色処理を施した後、ミガキが施される。393 は杯 A に属する。内面に黒色処理は施されず、ミガキが施される。394 は甕 A Ⅰに属する。

395 ～ 399 は須恵器である。396 は短頸壺で、体部外面にはカキメが施される。397 は瓶と考えられる口頸部で、2 条の沈線が巡る。398・399 は甕で、398 は頸部に縦位の櫛描文が施される。

400 はミニチュア土器で、手づくね成形である。401・402 は土製支脚である。

古代（図版 109-403 ～ 429、図版 110-430 ～ 454、図版 204・205）

403 ～ 406 は土師器である。403・404 は無台椀である。405 は甕で、ロクロ成形で製作されたものである。406 は甑で、末広がり状に外反し、内部は筒抜けになる底部である。上越市岩ノ原遺跡［高橋ほか 2008］に類例が見られる。

407 ～ 453 は須恵器である。407 ～ 410 は杯蓋である。407 は口端部径が 18cm を測り、法量Ⅰに属する。つまみは高さのある擬宝珠形で、頂部の径が大きく平坦である。409 は口端部径が 15cm を測り、法量Ⅱに属する。つまみは低いが径の大きな擬宝珠形で、頂部の径は小さい。体部上半部の内面は肥厚している。時期は 9 世紀前半（笹沢編年Ⅴ-1 期）に比定される。

411 ～ 429 は有台杯で、このうち 411 ～ 421 は細別 A、422・423 は細別 B に属する。411・412 は口径が 16cm を測り、法量Ⅰに属する。411 の高台は外端接地する。時期は 8 世紀前半（笹沢編年Ⅲ-1 期）に比定される。413 ～ 415 は口径が 13.6 ～ 14.2cm の範囲に収まり、法量Ⅱに属する。413 の高台は内端接地する。時期は 8 世紀前半に比定される。416･417 は口径が 11.6 ～ 11.8cm の範囲に収まり、法量Ⅲに属する。416 は底部の切り離しが回転糸切りで、高台は外端接地する。時期は 9 世紀前半に比

定される。418 ～ 421 は口径が 10 ～ 10.8cm の範囲に収まり、法量Ⅳに属する。418・419・421 の高台は外端接地、420 は内端接地する。時期はいずれも 9 世紀中葉に比定される。422・423 は口径が 15cm を測り、法量Ⅱに属する。423 の時期は 9 世紀中葉に比定される。425 は底部外面に「□」、426 は底部外面に「力」の墨書が確認できる。時期はいずれも 9 世紀前半に比定される。428 の内面には墨痕が見られ、転用硯として使用されたものと考えられる。

430 ～ 439 は無台杯で、このうち 430 ～ 433 は細別 A、434 ～ 436 は細別 B に属する。430・431 は口径が 13.2cm を測り、法量Ⅰに属する。430 は色調が灰白色を呈し、焼成が不十分である。底面が丸みを持ち、比較的厚手の作りである。時期は 8 世紀前半に比定される。431 は 430 と比べると底面は平底で、薄手の作りとなる。時期は 9 世紀前半に比定される。436 は底部外面に「人」の墨書が確認できる。

440 は底部破片で、底部の切り離しは回転糸切りである。厚底の鉢と考えられ、上越市滝寺古窯群 12 号窯出土土器［小田ほか 2006］に類例が見られる。441 は有台盤である。体部外面には自然釉が見られる。愛知県猿投古窯群出土土器［嘉見 2004］に類例が見られ、時期は 8 世紀中葉～ 9 世紀初頭に比定される。

442 ～ 445 は瓶類である。443 は体部外面に自然釉が見られる。445 の底部切り離しは回転糸切りである。446 は横瓶である。体部外面には格子状タタキ、内面には同心円の当て具が見られる。

448 ～ 452 は甕で、このうち 448 ～ 451 は口径が 20 ～ 25cm の範囲に収まる中甕、452 の口径が 11cm を測り、小甕［小田ほか 2006］に属する。448 の体部上半は撫で肩で、外面は格子状の工具でタタキを施した後、ヘラ状工具による横位の調整痕が見られる。453 は把手部である。内面に同心円の当て具が見られる。

454 は鞴の羽口である。外径は 6cm 程と推定される。

中世（図版 111-455 ～ 470、図版 205・206）

455 ～ 458 は土師質土器皿である。いずれも風化が著しい。459 ～ 464 は珠洲焼である。459・460 は甕で、口頸部は 459 が「コ」の字形、460 が「く」の字形をそれぞれ呈する。461 ～ 464 は片口鉢である。461 の口径は 18cm を測り、比較的小型のものである。462 は体部が内湾しながら立ち上がり、底部切り離しは静止糸切りである。463・464 の卸目は比較的細く鋭い。

465・466 は青磁椀である。466 は底部内面に劃花文が見られる。467 ～ 470 は瀬戸美濃焼である。467 は緑釉小皿で、口縁部内外面に緑釉が施される。底部の切り離しは回転糸切りである。時期は 14 世紀末（古瀬戸後期様式Ⅱ期）に比定される。468 は卸皿である。内面に格子状の卸目が施される。底部の切り離しは回転糸切りである。469・470 は天目茶椀である。内外面に鉄釉が施される。時期は 14 世紀末～ 15 世紀前葉（古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期）に比定される。

3　石器・石製品

A　弥生時代後期・古墳時代

石錘（図版 112-471 ～ 476、図版 206）

471 ～ 473 は SI1510 から出土した。いずれも扁平な楕円礫を使用している。471・472 は両側縁部に抉りが認められ、473 は一側縁のみに抉りが認められる。474 ～ 476 は SI1604 から出土した。474・476 は欠損しており、抉りは一か所のみ認められる。475 は右側縁部には敲打跡が認められる。

敲石（図版 112-477 ～ 481、図版 206）

477 ～ 480 はSI1604 から出土した。いずれもやや角張った棒状礫を素材とし、477・478 は片方の端部に479 は両端部に敲打痕が認められる。480 は上半部が欠損している。481 はSI1821 から出土した。長楕円礫を素材とし、その両側縁部に敲打跡が認められる。

凹石（図版 112-482 ～ 484、図版 206）

482 はSI1305、483 はSI1510、484 はSI1821 から出土した。いずれも表裏二単位の凹みが認められる。

玉作関係（図版 112-485 ～ 488、図版 113-489 ～ 494、図版 207）

485 は管玉で、39M7 グリッドⅡ層から出土した。下半部を欠損する。穿孔は両側から行われ、上からの穿孔を下からの穿孔が切っている。486 ～ 492 は管玉製作に関る資料で、486 は37K22 グリッドⅡ層、487 は39L1 グリッドⅡ層、488 はSD1200、489・490 がSD1349、491・492 はSI1820 － P1641 からそれぞれ出土している。いずれも角柱状素材と、その作出時の剥片である。487 は角柱状素材作出後、細かい側面調整が施される。491 も一部に細かい調整が認められる。485 ～ 492 の石材は緑色凝灰岩である。

493 はヒスイ製品の未成品である。全面研磨されている。形状から勾玉よりも垂玉の未成品である可能性が高い。494 は40L15 グリッドⅡ層から出土したヒスイ原石である。判然としないが若干研磨された可能性もある。

砥石（図版 113-496、図版 207）

496 はSX1570 から出土した。形状からこの時期に帰属せず、後世の混入である可能性も考えられる。

B　古　　代

凹石（図版 113-497、図版 207）

497 はSD1200 から出土した。表面に大きく浅い凹みを残す。出土層位から古代のものと考えられる。

砥石（図版 113-498 ～ 500、図版 207）

498 は道（SD527）から出土した。長方形に面取りされている。499 はSB1440 － P1287 から出土した。砥石として使用された後、礎盤に転用されていた。500 はSK1508 から出土した。被熱により破損している。

C　中　　世

石錘（図版 113-501、図版 207）

501 はSK1187 から出土した。右側縁部に抉りが認められる。

敲石（図版 113-502・503、図版 115-527、図版 207・209）

502 はSE120 から出土した。棒状礫の両端部に敲打痕が認められる。503 はSE1082 から出土した。上下両端、左側縁部に敲打痕が認められる。527 は37M25 グリッドⅡ層から出土した。表面、裏面には 2 単位の敲打痕が残り、側縁部は敲打痕が全周する。

凹石（図版 113-504 ～ 506、図版 207）

504 はSD801 から、505・506 はSD815 から出土した。扁平な礫の中央部に大きな凹みを形成している。

磨石（図版 113-507・508、図版 207）

507 はSE1103 から出土した。表面には大きくススの付着した範囲がある。磨面は側面部に顕著に認

められ、表面にも若干の磨面が観察される。508 は SB301 － P303 から出土した。円礫を素材としており、下部には赤色の付着物が観察される。

砥石（図版 114-509 ～ 519、図版 115-528、図版 208・209）

509 は 41J4 グリッドⅠ層から出土した。下部は丸く面取りされている。510 ～ 512 は SD815 から出土した。いずれも上部から下部にかけて幅、厚さを増す。513 は SE251 から出土した。表面には細かな凹凸が認められるが線状痕は目立たない。514 は SE1085 から出土した。縁辺部に線状痕が観察される。516 は SE448 から出土した。表面には密で細かい線状痕が観察される。517 は SE604 から出土した。被熱による剥落がある。528 は 40L6 グリッドⅡ層から出土した。顕著に線状痕が認められる。

石臼（図版 114-520 ～ 523、図版 208）

520 ～ 522 は SE882 から出土した。520・522 は上臼であり、521 は下臼である。520 と 521 の直径はほぼ同じである。521 は石皿状の大きな凹みがあり、ほかの用途に転用した可能性がある。520 ～ 522 の石材は安山岩だが、同一母岩ではない。523 は SE1853 から出土した。下臼である。

五輪塔（図版 115-524、図版 208）

524 は SK1822 から出土した。水輪で、種子等は観察されない。

器種不明石製品（図版 115-525・526、図版 209）

525 は SD518 から出土した。環状に巡り、一部に段差が認められる。

石硯（図版 115-529、図版 209）

529 は 40M21 グリッドⅡ層から出土した。縁には沈線が巡り、その区画内には波状文が上部には三単位、下部には二単位認められる。石材は黒色の粘板岩である。

多字一石経（図版 115-530・531、図版 209）

530・531 は SE916 から出土した。530 は表面、両側面、裏面に『妙法蓮華経従地涌出品第十五』から引用された句が書かれている。531 の釈文は不明である。

4　ガラス製品

小玉（図版 115-532、図版 209）

532 は SD403 から出土した。色彩はコバルトブルーである。表面、裏面共に平坦に面取りされる。共伴する土器の年代から弥生時代後期のものと考えられる。

5　金 属 製 品

耳環（図版 115-533、図版 209）

533 は 36J11 グリッドⅢ層から出土した。形状から古墳時代後期のものと考えられる。

槍鉋（図版 115-534、図版 209）

534 は SK359 から出土した。突起状のものは錆瘤である。形状から中世のものと考えられる。

刀子（図版 115-535・536、図版 209）

535 は SK917、536 は SE1102 から出土した。共伴する土器の年代等から中世のものと考えられる。

銭貨（図版 115-537 ～ 540、図版 209）

537～540はSX1から出土した。537は太平通寶(北宋·初鋳976年)、538は景徳元寶(北宋·初鋳1004年)、539は元祐通寶（北宋・初鋳1086年)、540は永楽通寶（明・初鋳1408年）である。ほかにも欠損が激しいため、実測図を掲載していないが、開元通寶（唐・初鋳621年）も出土している。

6 木 製 品

A 自然流路出土

木簡（図版116-541、図版209）

541は柾目板の側辺部に墨書が認められる。文字は不明である。

織機（図版116-542、図版209）

542は織機の中筒と見られる。両端のくびれ部は糸を結ぶ際、抜け落ちるのを防止する［酒野2006］ためと考えられる。

円形板（図版116-543・544・550、図版209・210）

543の径は16cmと推定される。周縁部の断面が斜めに削られているため、小型の曲物の底板と見られる。544の径は16.6cmと推定される。周縁部は斜めに削られていないため、蓋と見られる。550の径は29cmと推定される。周縁部の加工は不明であるが、蓋と見られる。

木製皿（図版116-545、図版209）

545の径は20cmと推定される。皿B[仲田1993]と分類されているものである。樹種はケヤキである。

曲柄平鍬（図版116-546、図版210）

546は刃部の右側面と刃縁［奈良国立文化財研究所1993］の一部を欠いている。軸頭から着柄軸にわたって、着柄の紐かけの痕跡が見られる。自然科学分析の結果から、古墳時代のものと考えられる。

部材（図版116-547～549、図版210）

547は粗割の板目材で、先端部には釿痕が認められる。矢板と見られる。548は板目材で、楯あるいは蹴放し［奈良国立文化財研究所1993］と分類されているものである。樹種はスギである。

杭（図版117-551～559、図版210）

551～559は自然流路底面に打ち込まれた状況で検出された。551・552は芯持丸木を加工したものである。556・558・559は角材を対角線上に割っており、断面が三角形となっている。555は、6×5cm程の枘穴が2か所ある部材を杭に転用したものと考えられる。樹種は554がオニグルミ、他はクリと見られる。自然科学分析の結果から、古墳時代後期のものと考えられる。

B 遺構内出土

SE451（図版117-560、図版211）

560は曲物積［北陸中世土器研究会2001］の井戸側で、曲物の側板である。径53.5×48.0cmを測る。幅16.4cm、厚さ5mm程の柾目の薄い板を折り曲げ、内面に1cm前後の間隔で縦位に123本、斜位はラフな間隔で20本程のケビキを入れる。端部外面には樹皮の留具(3.5×1cm前後)1か所が残存している。

SE916（図版118-561～571、図版119-572～581、図版211・212）

561～581は縦板組隅柱横桟留［北陸中世土器研究会2001］の井戸側を構築する部材である。遺存状態の悪い南側上段の横桟を除く21点を掲載した。

561 ～ 564 は隅柱である。芯持丸木が用いられて、563 の基部には鋸痕が、ほかの 3 本には鉄斧痕が認められる。上下二段、計四か所の枘穴を確認したが、上部の腐食が著しいため全体の様相は不明である。565 ～ 571 は横桟である。芯持丸木が用いられている。隅柱上段の枘穴に 565 ～ 567 が、下段の枘穴に 568 ～ 571 がそれぞれ組み込まれていた。572 ～ 581 は側板である。579 は柾目、残りは板目である。上部は腐食しているが、表裏面全体に槍鉋による調整痕が認められる。572・573 は西側、574・575 は南側、576 ～ 578 は東側、579 ～ 581 は北側に据えられていた。

第Ⅵ章　自然科学分析

荒町南新田遺跡の調査によって検出した遺構や遺物の年代観、トイレ遺構の可能性、井戸覆土における種実遺体の種類構成、木製品等の樹種及び木材利用の検討を目的として自然科学分析調査を実施する。

1　試　　料

試料は井戸覆土最下層から採取した土壌や、水洗選別によって抽出した種実遺体、井戸側部材や杭、木製品等の木質試料、竪穴住居床面から出土した炭化材等である。以下、各試料の概要を記す。

A　土壌試料・種実遺体

試料は、中世の井戸 3 基の覆土最下層から採取した土壌 3 点（SE872 覆土 3 層・SE916 覆土最下層・SE1853 覆土 3 層）である。SE872 覆土 3 層はにぶい黄褐色粘土～シルト、SE916 覆土最下層は暗褐色シルト、SE1853 覆土 3 層は黒褐色シルトからなる。なお SE916 覆土最下層は、上記した試料とは別に、種実遺体分析用に採取した土嚢袋入りの土壌 1 点と、水洗選別によって抽出した多数の種実単体を含む植物遺体試料 4 点（種子・桃種・ウリ科・桜皮）がある。

B　木　製　品

試料は、3 基の井戸（SE92・451・916）の井戸側部材、自然流路（SD1200）から出土した木製品、杭等の 10 点である。後述する放射性炭素年代測定試料とした杭（559）と曲柄平鍬（546）は、試料の由来（樹種）に関わる情報を得るため、併せて樹種同定を行っている。したがって、分析試料数は 12 点である。各試料の詳細は、結果とともに第 6 表に示す。

C　炭　化　材

試料は、SI521 及び SI1604 の床面から出土した炭化材 2 点である。SI521 炭化材は複数の炭化材が認められ、最大の炭化材は 3cm 角程度である。SI1604 炭化材は黄灰色泥質土からなる土壌塊表面に炭化材が貼り付いた状態のものと、それから剥落したと見られる炭化材片、さらに径 1.5cm 程度の棒状を呈する炭化材等が混在する状況が認められた。

これらの試料のうち、中世の井戸覆土最下層の土壌試料 3 点を対象に寄生虫卵分析、SE916 覆土最下層から採取した土壌試料と種実遺体を含む植物遺体試料を対象に種実遺体同定、木製品及び炭化材等の木質遺物を対象に樹種同定を行う。放射性炭素年代測定試料は、調査担当者によって上記した木質遺物から 4 点選択されている。このうち杭（559）は、残存する範囲内の最も外側の年輪を含む 2 ～ 3 年分から測定試料を採取している。曲柄平鍬（546）は 5 片に割れており、一部が欠損しているが、欠損部分は年輪の内側部分であり、一番外側の年輪が存在する部分には破損部が認められなかった。そのため年輪の外側に近い接合部品の接合面内から測定試料を採取している。肉眼観察所見では採取位置と観察範囲内で最も外側の年輪の間には、約 20 ～ 25 本の年輪が確認されている。炭化材については、SI521 は最大の炭化

材を抽出し観察範囲内における外側の年輪部分を測定試料とし、SI1604 は棒状を呈する炭化材を測定試料としている。

2　分析方法

A　放射性炭素年代測定

試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などで物理的に除去する。その後、HCl で炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH で腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl でアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸･アルカリ･酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta\ ^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、放射性炭素年代は、$\delta\ ^{13}C$ の値を用いて同位体効果の補正を行った値（補正値）と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を行う。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用いる。その際、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表す。暦年較正結果は、測定誤差 σ、2 σ（σ は統計的に真の値が 68%の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95%の確率で存在する範囲）を示す。また、表中の相対比（確立分布）とは、σ、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

B　寄生虫卵分析

試料 10cc を正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛, 比重 2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵及び花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現するすべての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。

結果は、寄生虫卵については堆積物 1cc 当りに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表とする。寄生虫卵の個数については有効数字を考慮し、10 の位を四捨五入して 100 単位として表示する。100 個体未満は

「<100」で表示し、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に 100 単位として表示する。なお、今回の分析調査では、検鏡時に認められた花粉・胞子化石も合せて同定し、計数結果を表に示す。

C　種実同定

土壌試料は、200cc（321.56g）を水に浸し、粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。篩内及び単体試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実を抽出する。

現生標本及び［石川 1994］、［中山ほか 2000］等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下観察による判別が困難な複数種間は、「－」で結んで表示する。試料中に確認された木の芽・樹皮・木材・炭化材・不明炭化物、昆虫は、抽出を「＋」として表示する。分析後は、種実遺体等を種類毎に容器に入れ、70%程度のエタノール溶液で液浸し保管する。

D　樹種同定

木製品は、木取りの観察を行った後、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、自然乾燥させた後、3 断面の割断面を作製し、双眼実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察する。各試料で観察された特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴については、［島地・伊東 1982］、［Wheeler ほか 1998］、［Richter ほか 2006］を、日本産木材の組織配列については、［林 1991］、［伊東 1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

3　結　　果

A　放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果を第 2 表、暦年較正結果を第 3 表に示す。同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、SI521 炭化材は 1,650 ± 30yrBP、SI1604 炭化材は 1,530 ± 30yrBP、杭（559）は 1,510 ± 30yrBP、曲柄平鍬（546）は 1,520 ± 30yrBP を示す。暦年較正結果（σ）は、SI521 炭化材は calAD347-432、SI1604 炭化材は calAD442-591、杭は calAD540-600、曲柄平鍬は calAD466-598 である。

B　寄生虫卵分析

結果を第 4 表に示す。SE916 覆土最下層から回虫卵、鞭虫卵が検出されたが、1cc 当りの含有量は回虫卵が 100 個未満、鞭虫卵が約 100 個程度と少ない。SE872 覆土 3 層及び SE1853 覆土 3 層からは、寄生虫卵は検出されない。

また、寄生虫卵分析時に確認された花粉の産状を第 4 表、第 20 図に示す。SE916 覆土最下層では、花粉化石が豊富に産出するが、保存状態は普通～やや不良である。花粉群集組成では、草本花粉が優占し、イネ科が最も多く産出する。次いで、栽培種であるベニバナ属が多く認められ、クワ科、ソバ属、アカザ科、ヨモギ属等を伴う。木本花粉では、スギ属が最も多く産出し、マツ属やブナ属、サワグルミ属、ハンノキ

試料		樹種	補正年代 (yrBP)	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 (yrBP)	測定機関 Code.
地点 / 遺構 / 器種	性状					
SI521	炭化材	オニグルミ	1,650 ± 30	-27.61 ± 0.73	1,690 ± 30	IAAA-82564
SI1604	炭化材	カエデ属	1,530 ± 30	-23.78 ± 0.55	1,510 ± 30	IAAA-82565
36L　SD1200　杭	生　材	クリ	1,510 ± 30	-26.42 ± 0.61	1,530 ± 30	IAAA-82566
36L　SD1200　曲柄平鍬	生　材	ケンポナシ属	1,520 ± 30	-30.61 ± 0.78	1,610 ± 30	IAAA-82567

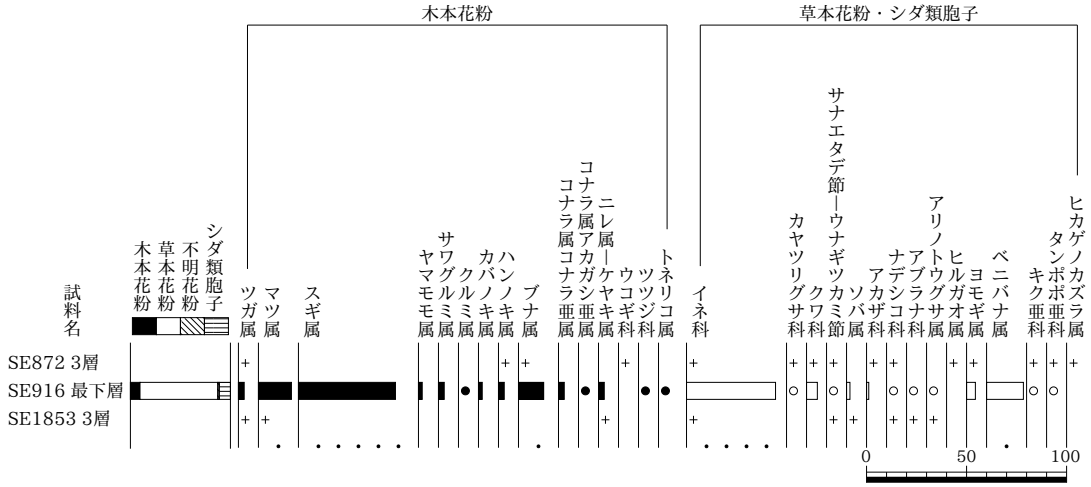
1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差 σ（測定値の 68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

第 2 表　放射性炭素年代測定結果

試料名	補正年代 (yrBP)	暦年較正年代（cal）			相対比	Code No.
SI521 床直 炭化材 (カエデ属)	1,645 ± 31	σ	cal AD 347 - cal AD 370	cal BP 1,603 - 1,580	0.175	IAAA-82564
			cal AD 378 - cal AD 432	cal BP 1,572 - 1,518	0.825	
		2 σ	cal AD 265 - cal AD 274	cal BP 1,685 - 1,676	0.015	
			cal AD 333 - cal AD 465	cal BP 1,617 - 1,485	0.843	
			cal AD 481 - cal AD 533	cal BP 1,469 - 1,417	0.142	
SI1604 床直 炭化材 (オニグルミ)	1,527 ± 31	σ	cal AD 442 - cal AD 451	cal BP 1,508 - 1,499	0.070	IAAA-82565
			cal AD 461 - cal AD 483	cal BP 1,489 - 1,467	0.191	
			cal AD 533 - cal AD 591	cal BP 1,417 - 1,359	0.739	
		2 σ	cal AD 432 - cal AD 497	cal BP 1,518 - 1,453	0.327	
			cal AD 502 - cal AD 602	cal BP 1,448 - 1,348	0.673	
36L SD1200　杭 (クリ)	1,506 ± 31	σ	cal AD 540 - cal AD 600	cal BP 1,410 - 1,350	1.000	IAAA-82566
		2 σ	cal AD 436 - cal AD 489	cal BP 1,514 - 1,461	0.131	
			cal AD 513 - cal AD 516	cal BP 1,437 - 1,434	0.003	
			cal AD 530 - cal AD 636	cal BP 1,420 - 1,314	0.866	
36L SD1200 曲柄平鍬 (ケンポナシ属)	1,521 ± 31	σ	cal AD 466 - cal AD 481	cal BP 1,484 - 1,469	0.122	IAAA-82567
			cal AD 533 - cal AD 598	cal BP 1,417 - 1,352	0.878	
		2 σ	cal AD 433 - cal AD 495	cal BP 1,517 - 1,455	0.268	
			cal AD 503 - cal AD 608	cal BP 1,447 - 1,342	0.732	

1）RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、2 σ は 95%である。
5）相対比は、σ、2 σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第 3 表　暦年較正結果



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として
百分率で算出した。●○は1％未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第 20 図　花粉化石群集

属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属等を伴う。

C 種実同定

1）種実遺体群の種類構成

SE916 覆土最下層試料の種実遺体分析結果を第 5 表に示す。栽培植物は、落葉広葉樹のスモモ 1 個、モモ 1 個、草本のイネ 84 個（穎 73 個、胚乳 11 個）、アワ－ヒエ 1 個、ヒエ近似種 1 個、オオムギ 1 個、コムギ 2 個、アサ 1547 個、ソバ 16 個、マメ類 24 個、トウガン 26 個、ヒョウタン類 4 個、メロン類 49 個（モモルディカメロン型 2 個、マクワ・シロウリ型 18 個、雑草メロン型 4 個を含む）の計 1757 個を検出し、アサが 88%を占める。栽培植物を除いた分類群は、木本 6 分類群（ブナ科、マタタビ属、サンショウ、ウルシ属、ブドウ属、ブドウ科）22 個、草本 18 分類群（エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、ツユクサ、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、ヒユ科、ナデシコ科、アオツヅラフジ、クサネム近似種、カタバミ属、エノキグサ、アリノトウグサ、サクラソウ科、シソ科、キカラスウリ）158 個を検出した。このほかに、アサ種子の可能性がある不明種実 17 個と、木の芽や樹皮、木材、炭化材、不明炭化物（木材組織が確認されない、種類・部位ともに不明の炭化物）、昆虫、動物遺存体等も確認した。以下に試料別種実検出状況を記す。

試料名 / 種　群	SE872 3 層	SE916 最下層	SE1853 3 層
寄生虫卵［個 /cc］			
回虫卵	0	<100	0
鞭虫卵	0	100	0
合計			
寄生虫卵	0	100	0
木本花粉			
ツガ属	1	3	2
マツ属複維管束亜属	-	2	-
マツ属（不明）	-	15	1
スギ属	-	50	-
ヤマモモ属	-	2	-
サワグルミ属	-	3	-
クルミ属	-	1	-
カバノキ属	-	2	-
ハンノキ属	1	3	-
ブナ属	1	13	-
コナラ属コナラ亜属	-	3	-
コナラ属アカガシ亜属	-	1	-
ニレ属－ケヤキ属	-	3	1
ウコギ科	1	-	-
ツツジ科	-	1	-
トネリコ属	-	1	-
草本花粉			
イネ科	32	469	11
カヤツリグサ科	2	8	-
クワ科	1	57	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	1	1	1
ソバ属	-	18	3
アカザ科	2	12	-
ナデシコ科	9	10	3
アブラナ科	-	2	1
アリノトウグサ属	-	1	1
ヒルガオ属	1	-	-
ヨモギ属	2	46	-
ベニバナ属	-	194	-
キク亜科	1	10	-
タンポポ亜科	1	2	-
不明花粉	6	15	1
シダ類胞子			
ヒカゲノカズラ属	1	-	-
他のシダ類胞子	51	120	15
合　計			
木本花粉	4	103	4
草本花粉	52	830	20
不明花粉	6	15	1
シダ類胞子	52	120	15
総計（不明を除く）	108	1053	39

第 4 表　寄生虫卵分析結果

土壌試料

栽培植物は、イネ穎 74 個（70 個･胚乳 4 個）、アワ－ヒエ、ヒエ近似種、アサ果実 22 個、メロン類（マクワ・シロウリ型）1 個、計 99 個を確認した。栽培植物以外は、木本 2 分類群（ブナ科、マタタビ属）3 個、草本 14 分類群（エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、ヒユ科、ナデシコ科、クサネム近似種、カタバミ属、エノキグサ、アリノトウグサ、サクラソウ科、シソ科）148 個を確認した。

単体試料

・種　子：栽培植物は、イネ 10 個（穎 3 個・胚乳 7 個）、オオムギ 1 個、コムギ 1 個、アサ 1525 個、ソバ 13 個、マメ類 24 個、計 1575 個を確認した。栽培植物以外は、木本 4 分類群（サンショウ、ウルシ属、ブドウ属、ブドウ科）19 個、草本 6 分類群（ツユクサ、ギシギシ属、タデ属、ナデシコ科、アオツヅラフジ、カタバミ属）8 個を検出した。

・桃　種：栽培植物は、モモ 1 個、スモモ 1 個、計 2 個を確認した。

・ウリ科：栽培植物は、ソバ 3 個、トウガン 26 個、ヒョウタン類 4 個、メロン類 48 個（モモルディカメロン型 2 個、マクワ・シロウリ型 17 個、雑草メロン型 4 個を含む）、計 81 個を確認した。栽培植物以外は、草本のキカラスウリ 1 個、クサネム近似種 1 個の計 2 個を確認した。

・桜　皮：樹皮が確認されるのみで、同定可能な種実は確認されない。

分類群	部位	状態			SE916 最下層 200cc 321.56g	単体試料 種子	単体試料 桃種	単体試料 ウリ科	単体試料 桜皮	備考
栽培種										
木本										
スモモ	核	完形			-	-	1	-	-	
モモ	核	完形			-	-	1	-	-	
草本										
イネ	穎	破片	基部		14	-	-	-	-	
		破片	基部	炭化	9	-	-	-	-	
		破片			41	3	-	-	-	
		破片		炭化	6	-	-	-	-	
	穎・胚乳	完形		炭化	-	2	-	-	-	
	胚乳	完形		炭化	-	5	-	-	-	
		破片		炭化	4	-	-	-	-	
アワ－ヒエ	胚乳	破片		炭化	1	-	-	-	-	
ヒエ近似種	穎・胚乳	破片		炭化	1	-	-	-	-	
オオムギ	胚乳	完形		炭化	-	1	-	-	-	
コムギ	胚乳	完形		炭化	-	2	-	-	-	
アサ	果実	完形			-	58	-	-	-	
		破片			22	1467	-	-	-	
ソバ	果実	破片			-	13	-	3	-	
マメ類	種子	完形		炭化	-	10	-	-	-	
		破片		炭化	-	14	-	-	-	2個アズキグループ（吉崎,1992）
トウガン	種子	完形			-	-	-	20	-	
		破片			-	-	-	6	-	
ヒョウタン類	種子	完形			-	-	-	2	-	
		破片			-	-	-	2	-	
メロン類（モモルディカメロン型）	種子	完形			-	-	-	1	-	
		破片			-	-	-	1	-	
メロン類（マクワ・シロウリ型）	種子	完形			1	-	-	12	-	
		破片			-	-	-	5	-	
メロン類（雑草メロン型）	種子	完形			-	-	-	4	-	
メロン類	種子	完形			-	-	-	8	-	
		破片			-	-	-	17	-	
栽培種を除く分類群										
木本										
ブナ科	果実	破片			2	-	-	-	-	
マタタビ属	種子	破片			1	-	-	-	-	
サンショウ	種子	完形			-	8	-	-	-	
		破片			-	1	-	-	-	
ウルシ属	核	完形			-	1	-	-	-	
ブドウ属	種子	完形			-	6	-	-	-	
		破片			-	2	-	-	-	
ブドウ科	種子	破片			-	1	-	-	-	
木の芽					-	+	-	-	-	
樹皮					-	-	-	-	+	
木材					+	-	-	-	-	
炭化材			炭化		+	+	-	-	-	
草本										
エノコログサ属	果実	破片			6	-	-	-	-	
イネ科	果実	完形			13	-	-	-	-	
		破片			14	-	-	-	-	
カヤツリグサ属	果実	完形			16	-	-	-	-	
カヤツリグサ科	果実	完形			2	-	-	-	-	
ツユクサ	種子	完形			-	1	-	-	-	
ギシギシ属	果実	完形			-	1	-	-	-	
タデ属	果実	完形			5	2	-	-	-	ボントクタデ近似・ヤナギタデ近似
		破片			3	-	-	-	-	
アカザ科	種子	完形			1	-	-	-	-	
ヒユ科	種子	完形			27	-	-	-	-	
		破片			9	-	-	-	-	
ナデシコ科	種子	完形			6	1	-	-	-	
アオツヅラフジ	核	破片			-	2	-	-	-	
クサネム近似種	果実	破片			2	-	-	1	-	
カタバミ属	種子	完形			32	1	-	-	-	
エノキグサ	種子	完形			2	-	-	-	-	
		破片			5	-	-	-	-	
アリノトウグサ	核	完形			2	-	-	-	-	
サクラソウ科	種子	完形			2	-	-	-	-	
シソ科	果実	完形			1	-	-	-	-	
キカラスウリ	種子	完形			-	-	-	1	-	
不明	種実？				-	17	-	-	-	アサの種子？
その他										
不明炭化物			炭化		-	+	-	-	-	
昆虫遺体		破片			+	+	-	-	-	
動物遺存体	歯・鱗				-	+	-	-	-	魚類

註）「+」は、検出を示す。

第５表　種実分析結果

2）種実遺体の記載

検出した種実の状態は比較的良好で、栽培植物のイネの一部とアワ－ヒエ、ヒエ近似種、オオムギ１個、コムギ、マメ類の計 55 個には炭化が認められた。以下に種実の形態的特徴等を栽培植物（木本・草本）、その他（木本、草本）の順に記す。

＜栽培種（木本）＞

・スモモ（*Prunus salicina* Lindley）バラ科サクラ属:核（内果皮）を検出した。灰褐色、長さ 1.8cm、幅 1.6cm、厚さ 1.1cm 程度のレンズ状広楕円体。基部は丸く臍点がある。1 本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則に見られる。

・**モモ**（*Prunus persica* Batsch）バラ科サクラ属：核（内果皮）を検出した。灰褐色、長さ 3.0cm、幅 2.0cm、厚さ 1.5cm 程度のやや扁平な広楕円体。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1 本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、粗いしわ状に見える。

＜栽培植物（草本）＞

・**イネ**（*Oryza sativa* L.）イネ科イネ属：胚乳と穎（果）の破片を検出した。穎（果）は淡 - 茶褐色、胚乳と一部の穎は炭化しており黒色。長楕円形でやや扁平。胚乳は長さ 4-5.5mm、幅 2.5-3.5mm、厚さ 1.5mm 程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3 本の隆条が縦列する。表面に穎が付着する個体も見られる。胚乳を包む穎（果）は完形ならば長さ 6-7.5mm、幅 3-4mm、厚さ 2mm 程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と 1 対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや扁平な長楕円形の稲籾を構成する。破片は大きさ 1-2.5mm 程度。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・**ヒエ近似種**（*Echinochloa* cf. *utilis* Ohwi et Yabuno）イネ科ヒエ属：穎が付着した胚乳の破片を検出した。炭化しており黒色、完形ならば長さ 1.8mm、幅 1.5mm、厚さ 1mm 程度の狭卵 - 半扁球体で、背面は丸みがあり腹面はやや平ら。果皮は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。胚乳は完形ならば長さ 1.8mm、幅 1.5mm、厚さ 1mm 程度。基部正中線上に縦長で馬蹄形の胚の凹みがある。破片は大きさ 1.5mm 程度。胚乳表面は粗面またはやや平滑。なお、穎の付着が認められず、エノコログサ属アワ（*Setaria italica*（L.） P.Beauv.）との区別が難しい胚乳をアワ－ヒエとしている。

・**オオムギ**（*Hordeum valgare* L.）イネ科オオムギ属：胚乳を検出した。炭化しており黒色、長さ 5mm、径 2.6mm 程度のやや扁平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く凹む。表面はやや平滑。

・**コムギ**（*Triticum aestivum* L.）イネ科コムギ属：胚乳を検出した。炭化しており黒色、長さ 3.5-4.5mm、径 2.5-3.2mm 程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く凹む。表面はやや平滑。

・**アサ**（*Cannabis sativa* L.）クワ科アサ属：果実を検出した。暗灰褐色、長さ 3.5-4.5mm、幅 3.5-4mm、厚さ 2.5-3mm 程度の歪な広倒卵体。縦方向に一周する稜に沿って半分に割れた破片も見られる。基部は切形、頂部に淡灰褐色径 1mm 程度の楕円形の突起がある。種皮表面は葉脈状網目模様があり断面は柵状。

・**ソバ**（*Fagopyrum esculentum* Moench）タデ科ソバ属：果実の破片を検出した。灰褐色、完形ならば長さ 6mm、径 4mm 程度の三稜状広卵体。三稜と頂部は鋭く尖り、面は凹む。破片は三稜に沿って割れた一片で、長さ 6mm、幅 3mm 程度。果皮表面はやや平滑。

・**マメ類**（Leguminosae）マメ科：種子を検出した。炭化しており黒色、長さ 3-6mm、径 2.5-4mm 程度の長楕円体。状態良好な完形個体には、腹面子葉の合わせ目上にササゲ属（*Vigna*）の特徴とされる、長さ 2mm、幅 0.5mm 程度の長楕円形で縁が隆起する細長い臍が確認される。子葉の合わせ目から割れた半分 2 個には、子葉内面に北大基準［吉崎 1992］の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する幼根や初生葉の状態が確認される。種皮表面はやや平滑で、焼け膨れ、表面が崩れているものもある。

・**トウガン**（*Benincasa hispida*（Thunb. ex Murray） Cogn.）ウリ科トウガン属：種子を検出した。灰褐色、長さ 1-1.2cm、幅 0.6-0.8cm、厚さ 1.5mm 程度の扁平な倒卵体。基部は切形で楕円形の臍がある。種子両面

の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅く、表面は粗面。

・ヒョウタン類（*Lagenaria siceraria* Standl.）ウリ科ヒョウタン属：種子を検出した。灰褐色、長さ 1.5-1.8cm、幅 6-7mm、厚さ 1.5mm 程度の扁平な倒広皮針体。頂部は切形で角張り、基部は切形で臍と発芽口がある。種皮表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜に 2 本の縫線がある。

・メロン類（*Cucumis melo* L.）ウリ科キュウリ属：種子を検出した。淡 - 灰褐色狭倒皮針形で扁平。長さ 4.7-9mm、幅 2.5-4mm、厚さ 1-1.5mm 程度と、[藤下 1984]の基準による小型の雑草メロン型（長さ 6.0mm 以下）、中粒のマクワ・シロウリ型（長さ 6.1-8.0mm）、大粒のモモルディカメロン型（長さ 8.1mm 以上）が確認される。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で縦長の細胞が密に配列する。

＜その他（木本）＞

・ブナ科（Fagaceae）：果実の破片を検出した。黒褐色、破片は長さ 1.2cm、幅 4mm 程度。丸みを帯びるが全形は不明。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。同定根拠となる頂部や基部を欠損するため、ブナ科にとどめている。

・マタタビ属（*Actinidia*）マタタビ科：種子の破片を検出した。黒褐色、完形ならば長さ 1.8-2.5mm、幅 1-1.8mm 程度の両凸レンズ状楕円体。基部は斜切形でやや突出する。破片は大きさ 1mm 程度。種皮は硬く、表面には円 - 楕円形の凹点が密布し、網目模様をなす。

・サンショウ（*Zanthoxylum piperitum* DC.）ミカン科サンショウ属：種子を検出した。黒褐色、長さ 3.5-4mm、幅 2.5-3mm、厚さ 2mm 程度のやや扁平な倒卵体。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。内果皮は硬く、表面には浅く細かな網目模様が見られる。

・ウルシ属（*Rhus*）ウルシ科：核（内果皮）を検出した。灰黄褐色、長さ 3.2mm、幅 3.9mm、厚さ 1mm 程度の横楕円体で扁平。背腹両面の中央が凹み、繭状。腹面中央に臍がある。内果皮表面はやや平滑。

・ブドウ属（*Vitis*）ブドウ科：種子を検出した。灰 - 黒褐色、長さ 3.5-4mm、径 2.5-3.5mm 程度の広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く凹んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。なお、種の同定根拠となる背面が欠損した破損個体を、ブドウ科（Vitaceae）とした。

＜その他（草本）＞

・エノコログサ属（*Setaria*）イネ科：果実の破片を検出した。淡 - 黄褐色、完形ならば長さ 2.5-3mm、径 1.5-2mm 程度の狭卵 - 半扁球体で、背面は丸みがあり腹面は扁平。破片は最大で長さ 2mm、径 1.2mm 程度。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・イネ科（Gramineae）：果実を確認した。栽培種やエノコログサ属以外の形態上差異のある複数種を一括した。淡 - 茶褐色、長さ 2.5-3mm、径 0.8-1mm 程度の狭卵 - 半扁球体で、背面は丸みがあり腹面は扁平。果皮表面は平滑で微細な縦長の網目模様が縦列する。

・カヤツリグサ属（*Cyperus*）カヤツリグサ科：果実を検出した。淡 - 黒褐色、長さ 1.2-1.5mm、径 0.5-0.7mm 程度の三稜状狭倒卵体。頂部の柱頭部分はやや伸び、基部は切形。表面には微小な疣状突起が密布する。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）：果実を検出した。カヤツリグサ属以外の形態上差異のある複数種を一括した。淡 - 黒褐色、径 0.8-1mm 程度のレンズ状。頂部の柱頭部分はやや伸び、基部は切形。果皮表面は粗面 - 微細な網目模様がある。

・ツユクサ（*Commelina communis* L.）ツユクサ科ツユクサ属：種子を検出した。灰褐色、長さ 2.7mm、径 3.8mm

程度の歪な半横長楕円体。背面は丸みがあり、腹面は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一側面の浅い円形の凹みに存在する。背面と側面の表面には、大きな擂鉢状の孔が散在する。ほかの面には円形の小孔が散在する。

・ギシギシ属（*Rumex*）タデ科：果実を検出した。暗灰褐色、長さ 4mm、径 1.8mm 程度の三稜状広卵体。三稜は鋭く明瞭で、両端は急に尖る。果皮表面はやや平滑。果実周囲には花被と花柄が残る。花被は灰褐色、径 4mm 程度の心円形で粗い網目模様をなし、縁には歯牙がある。中肋は瘤状に膨れる。花柄を含めた長さは 7mm 程度。

・タデ属（*Polygonum*）タデ科：果実を検出した。形態上差異のある複数の種を一括した。黒褐色、長さ 2.5-3mm、径 1.5-2.2mm 程度。頂部は尖り、花柱基部が短い突起状に残る。基部は切形で、萼が残存する個体も見られる。長さ 2.5mm、径 1.5mm 程度の三稜状広卵体で、果皮表面には明瞭な網目模様がある、ボントクタデ（*P.* pubescens *Blume*）に似る個体や、長さ 3mm、径 2.2mm 程度の背面正中線上に鈍稜のある広卵体で、表面には明瞭な網目模様がある、ヤナギタデ（*P. hydropiper* L.）に似る個体などが見られる。

・アカザ科（Chenopodiaceae）：種子を検出した。黒色、径 1.3mm 程度のやや扁平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・ヒユ科（Amaranthaceae）：種子を検出した。黒色、径 1.2mm 程度の扁平な円盤状。縁は稜状で、基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が配列し、光沢がある。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）：種子を検出した。淡 - 茶褐色、径 1-1.5mm 程度のやや扁平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く、表面には瘤 - 針状突起が臍から同心円状に配列する。

・アオツヅラフジ（*Cocculus orbiculatus* (L.) DC.）ツヅラフジ科アオツヅラフジ属：核の破片を検出した。灰褐色、完形ならば長さ 3.5mm、幅 4mm、厚さ 2.5mm 程度のやや扁平な扁円体。中央は大きく凹み、周囲の隆起一端が開いた馬蹄形。基部は切形。基部を除く縁には隆条が長軸に対し直角に列生する。核は硬く厚く、表面は粗面。破片は大きさ 4mm 程度。

・クサネム近似種（*Aeschynomene* cf. *indica* L.）マメ科クサネム属：果実（節果）の破片を検出した。灰褐色、完形ならば長さ 4cm 程度、幅 5-6mm、厚さ 1mm 程度の扁平な非対称な広線形で縁には筋があり、腹面方向にやや湾曲する。頂部と基部は伸びる。破片は 6-8 個程度の短軸方向の節に沿って分離しており、大きさ 6-8mm 程度の扁平な長方形や頂・基部は斜切形。果皮表面は粗面。

・カタバミ属（*Oxalis*）カタバミ科：種子を検出した。黒褐色、長さ 1.5mm、幅 1mm 程度の扁平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、表面には 4-7 列の肋骨状横隆条が配列する。

・エノキグサ（*Acalypha australis* L.）トウダイグサ科エノキグサ属：種子を検出した。黒褐色、長さ 1.5mm、径 1-1.3mm 程度の倒卵体。基部はやや尖り、Y 字状の稜がある。種皮は薄く硬く、表面には細粒状凹点が密布する。稜に沿って割れた個体も見られる。

・アリノトウグサ（*Haloragis micrantha*（Thunb.）R. Br.）アリノトウグサ科アリノトウグサ属：核を検出した。灰 - 黒褐色、長さ 1.2mm、径 1mm 程度の倒卵体。頂部は尖り、花柱が残存する個体も見られる。基部は切形。表面には顕著な 8 本の稜が縦列する。

・サクラソウ科（Primulaceae）：種子を検出した。灰褐色、径 1.2mm 程度の倒台形、背面は平らで楕円状、菱形状、円形状などの 4-5 角形。腹面は長軸方向に薄くなり稜状で、稜上の中央付近に広線形の臍がある。表面には 5-6 角形の凹みによる微細な網目模様がある。

・シソ科（Labiatae）：果実を検出した。灰褐色、長さ 1mm、径 0.8mm 程度の広倒卵体。背面は丸みがあり、

下端は舌状にわずかに突出する。腹面の正中線は鈍稜をなす。果皮表面は粗面。

・キカラスウリ（*Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. *japonica* （Miq.） Kitam.）ウリ科カラスウリ属：種子を検出した。黒褐色、長さ 9mm、幅 7mm、厚さ 2.5mm 程度の扁平な非対称倒卵体。基部は切 - 斜切形で倒「ハ」の字状の臍と円形の発芽孔がある。背腹両面の縁の内側を浅い帯状の溝が一周する。種皮表面は粗面。

D　樹 種 同 定

木製品の同定結果を第 6 表、炭化材の同定結果を第 7 表に示す。木製品は、針葉樹 2 分類群（カラマツ・スギ）と、広葉樹 5 分類群（オニグルミ・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ケヤキ・ケンポナシ属）に同定された。炭化材は、広葉樹 2 分類群（オニグルミ・カエデ属）に同定された。以下に各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・カラマツ（*Larix kaempferi* （Lamb.） Carriere）マツ科カラマツ属：軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は滑らかで、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1 分野に 3 ～ 5 個。放射組織は単列、1 ～ 20 細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica* （L. f.） D. Don）スギ科スギ属：軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 ～ 4 個。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* （Maxim.） Kitamura）クルミ科クルミ属：　散孔材で、道管径は比較的大径、単独または 2 ～ 3 個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1 ～ 3 細胞幅、1 ～ 40 細胞高。

遺構名	Gr	層位	遺物番号	器種 / 種別	時期	木取	樹種
SE92		23 層		井戸枠（桶）	中世	柾目	スギ
SE451		7 層	560	井戸枠（曲物側板）	中世	柾目	スギ
SE916		最下層	568	西側桟（下）	中世	芯持丸木	スギ
SE916		最下層	566	東側桟（上）	中世	芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
SE916		最下層	562	支柱	中世	芯持丸木	スギ
SE916		最下層	572	板	中世	柾目	カラマツ
SD1200	36L		559	杭	古墳時代	分割材	クリ *
SD1200	36L		552	杭	不明	芯持丸木	クリ
SD1200	36L		554	杭	不明	分割角材	オニグルミ
SD1200	36L	22 層	546	曲柄平鍬	古墳時代	柾目	ケンポナシ属 *
SD1200	37L6		545	皿	不明	横木地	ケヤキ
SD1200	36L	22 層	548	部材	不明	板目	スギ

＊放射性炭素年代測定試料

第 6 表　樹種同定結果（木製品）

遺構名	層位	遺物番号	時期	樹種
SI521	床直		古墳時代後期	オニグルミ *
				オニグルミ
SI1604	床直		古墳時代後期	カエデ属 *
				オニグルミ

＊放射性炭素年代測定試料

第 7 表　樹種同定結果（炭化材）

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*）ブナ科：環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）ブナ科クリ属：環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）ニレ科ケヤキ属:環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・カエデ属（*Acer*）カエデ科：散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独及び２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・ケンポナシ属（*Hovenia*）クロウメモドキ科：環孔材で、孔圏部は１～３列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または２個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、１～５細胞幅、１～40細胞高。

4　考　　察

A　トイレ遺構の検討

トイレ遺構の可能性の検討を目的として行った寄生虫卵分析の結果、SE916覆土最下層からは回虫卵や鞭虫卵が検出されたが､SE872覆土３層とSE1853覆土３層からは回虫卵･鞭虫卵共に検出されなかった。

寄生虫は、それに感染した中間宿主あるいは寄生虫卵に汚染されたものなどを摂取することで、終宿主（ヒト）に感染する。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例も報告されている［金原1992・1993、金原ほか1995a］。トイレ遺構の検証例については、福岡県の鴻臚館跡や石川県の大宮坊跡で報告されており、1cm^{3}当り１万～数万個の寄生虫卵が検出されている［金原1994、金原ほか1995a］。また、1cm^{3}当り100個未満については、ある程度の人口密度を持つ集落による汚染の範囲内とみなされている［金原ほか1995a・1995b］。

今回の分析結果では、SE916覆土最下層から回虫卵、鞭虫卵が検出されたが、1cc当り約100個程度であったことから、上記した汚染の範囲内の密度と判断される。また、同試料の種実分析結果においても、スモモ、モモ、イネ、アワ－ヒエ、ヒエ（近似種）、オオムギ、コムギ、アサ、ソバ、マメ類、トウガン、ヒョウタン類、メロン類等の栽培植物が検出されたが、モモやスモモは種ごと食べることは無く、イネ、アワ－ヒエ、ヒエ（近似種）、オオムギ、コムギ、マメ類等は体内で消化される可食部分が遺存する状況が確認された。これらの結果から、SE916のトイレ遺構の可能性は低いと考えられる。また、SE872やSE1853では、寄生虫卵は全く検出されず、検鏡時に確認された花粉の産状・産出状況も悪かった。寄生虫卵の分解に対する抵抗性は、花粉化石と同程度とされること［黒崎ほか1993］から、花粉と共に経年

変化等によって分解・消失した可能性もある。SE916 と同様の検討は困難であるが、寄生虫卵が検出されなかった点を考慮すると、これらの 2 遺構もトイレ遺構の可能性は低いと見られる。

B　古植生及び植物利用

1）古　植　生

上記した寄生虫卵分析を行った SE916 覆土最下層からは、保存状態は普通～やや悪い程度であったが、草本類が卓越する花粉群集を確認した。草本類では、開けた明るい場所を好む人里植物を多く含む分類群のイネ科が多産したほか、クワ科やアカザ科、ヨモギ属等が検出された。同試料から検出された種実遺体群においても、エノコログサ属やイネ科、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、ツユクサ、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、ヒユ科、ナデシコ科、アオツヅラフジ、クサネム近似種、カタバミ属、エノキグサ、アリノトウグサ、サクラソウ科、シソ科、キカラスウリ等の人里植物に属する分類群が多く確認されており、検出された花粉化石と共通する種類も多い。したがって、これらの草本類は遺構周辺や遺跡内に草地を形成していたと考えられる。また、種実遺体には、クサネム近似種等の水辺や湿地に生育する分類群が確認されたことから、周辺域に水湿地の存在も推定される。

木本類では、スギ属が多く、マツ属やブナ属等が伴うという産状が認められた。また、種実遺体群に認められた木本は、すべて広葉樹で、高木となる落葉または常緑のブナ科、サンショウやウルシ属などの中･低木類、マタタビ属やブドウ属、ブドウ科等の籐本類であった。このうち、ブナ属は、コナラ属コナラ亜属等と共に冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、周辺の丘陵や後背山地に生育していたと考えられる。花粉分析で僅かに検出されたサワグルミ属やクルミ属、ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属、トネリコ属等は、渓谷沿いや河畔、低湿地等の適湿地に林分を形成する種類を含む分類群であることから、丘陵の渓谷沿いや周辺河川の河畔等に生育していた可能性がある。種実遺体群に認められたサンショウやウルシ属、マタタビ属、ブドウ属等は、森林の林縁部に生育していたことが推定される。マツ属は、伐採地や崩壊地等の明るく開けた場所に先駆的に侵入する種類であり、土地の痩せた悪環境でも生育可能である。海岸砂丘や集落周辺の陽地等に生育していた可能性がある。

2）栽 培 植 物

SE916 覆土最下層からは、スモモ、モモ、イネ、アワ－ヒエ、ヒエ（近似種）、オオムギ、コムギ、アサ、ソバ、マメ類、トウガン、ヒョウタン類、メロン類（モモルディカメロン型、マクワ･シロウリ型、雑草メロン型）などの栽培植物の可食種実 1757 個が検出され、このうちアサが 88%（1547 個）を占めるという特徴が認められた。また同試料における花粉分析結果では、栽培種のベニバナ属が大量に検出されたほか、ソバ属も僅かに認められた。

上越市域における中世の井戸跡から検出された栽培植物をみると、海道遺跡ではモモやイネ、トウガン、用言寺遺跡ではモモ、ヒョウタン類、イネ、メロン類、マメ類、アサ、ナス科が確認されている［パリノ･サーヴェイ株式会社 2005a･2007、高橋 2005］。当該期の新潟県内における調査事例では、スモモ、モモ、イネ、オオムギ、アサ、ソバ、マメ類、エゴマ、ナス科、メロン類、ヒョウタン類、ベニバナ等の栽培植物や栽培種を含む分類群が確認されている［パリノ・サーヴェイ株式会社 2004・2008］。SE916 で確認された栽培植物の種実遺体群は、当該期の遺構等を対象とした調査結果から確認された種類構成と調和的であり、後述するようにアサの特異な検出状況も窺われるが、普遍的に利用されていた栽培植物を反映

していると考えられる。

またSE916覆土最下層から栽培種のソバ属とベニバナ属が検出されたことから、周辺域での栽培が推定される。特に、ベニバナ属は、日本には6世紀頃には渡来していたとされている。ベニバナ属は、虫媒花であることを考慮すると、井戸埋積物中にベニバナの花が混入した可能性や遺構周辺にベニバナが植えられていた可能性がある。果実が多量確認されたアサは、中央アジア原産の1年草であり、日本には中国から渡来したとされる。果実は、食用のほか油料等に利用され、茎からとれる繊維は衣料や縄用等に利用される。屋代遺跡群（長野県千曲市）では、古代の水路内からアサ果実の破片が多量出土したことから、圧縮し油を絞った残渣であることや、周辺で油利用植物として栽培されていたことが指摘されている［辻ほか1999］。SE916から検出されたアサの果実も、完形個体に比べ破片個体が多いという状況であったことから、アサ栽培やその利用が示唆される。

3）木材利用

木製品

分析対象とした木製品は、井戸側部材のほか、自然流路（SD1200）から出土した杭、部材、台付皿状木製品、曲柄平鍬である。

井戸側部材のうち、SE92の板材と井戸底の水溜施設とみられるSE451の曲物側板（560）は、いずれも柾目板であり、針葉樹のスギであった。スギは、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易であることから、これらの加工性等から利用されたと考えられる。また、SE916の井戸枠部材（隅柱･横桟･側板）では、隅柱（562）はスギ、桟木はコナラ節（566）とスギ（568）、縦板（572）はカラマツに同定された。コナラ節は重硬で強度が高いといった材質を有し、カラマツは針葉樹としては比較的重硬で強度が高く、耐水性がある。今回の分析結果から、3種類の木材が部材として利用され、強度・加工性・耐水性などを考慮した木材の選択性が推定される。

杭は、分割材（554・559）と芯持丸木（552）が認められ、分割材にクリとオニグルミ、芯持丸木にクリが確認された。いずれも重硬で強度が高い材質を有しており、強度の高い木材が選択された可能性がある。このうち､杭（559）の暦年代（σ）を参考とすると､6世紀中頃～6世紀末頃の伐採年代が推定される。上越市域では、同時期の杭を対象とした調査事例はほとんど無いが、一之口遺跡の古墳時代～平安時代とされる杭にクリや種類不明の広葉樹の利用が確認される［パリノ・サーヴェイ株式会社1994］。

自然流路から出土した木製品のうち、部材（548）は板目板状を呈し、樹種はスギであった。割裂性が高く加工が容易な木材が選択されたことが推定される。皿（545）は、いわゆる横木取りであり、広葉樹のケヤキであった。ケヤキは、重硬で強度が高く、ブナ属やトチノキと共に容器類の木地としてよく利用される木材の一つである。新潟県内における容器にケヤキが確認された事例では、新発田市青田遺跡の縄文時代の樹皮製曲物や樹皮製容器がある［荒川ほか2004］が、古墳時代にケヤキの利用は認められず、古代以降に多く認められる傾向にある。曲柄平鍬（546）は柾目板状であり、落葉広葉樹のケンポナシ属が認められた。ケンポナシ属は強度が比較的高いものの加工は容易であり、狂いや割れは少ないとされる。新潟県内では、これまでのところ曲柄鍬身の調査事例を確認することはできないが、弥生時代～中世の直柄鍬身の調査事例によれば、重硬で強度の高い広葉樹材（アカガシ亜属・クヌギ節・コナラ節・アサダ）の利用が目立ち、このほかに強度の低いトチノキや針葉樹のスギの利用も確認される［松葉2000、三村ほか2003、鈴木ほか2004、パリノ・サーヴェイ株式会社2005b・2006a・2006c、株式会社古環境研究所

2006、上越市教育委員会 2006]。現段階では、ケンポナシ属の利用は、直柄鍬身にも確認することはできないが、今回の分析結果から曲柄鍬身に利用されていたことが推定される。

炭化材

炭化材試料は、SI521 の壁際床面から出土した炭化材と、SI1604 の床面から出土した炭化材のうち、住居跡中央から壁際に向かって放射状を呈するように出土した炭化材である。これらの炭化材からは、SI521 炭化材は 4 世紀中頃～ 5 世紀中頃、SI1604 炭化材は 5 世紀中頃～ 6 世紀後半頃に相当する暦年代が得られた。放射性炭素年代測定試料とした炭化材は、前述したように試料中に確認された範囲内で外側年輪部分を対象とした。ただし、形状や木取り等の観察は不可能であったため、樹木伐採時の最外側年輪に相当する試料であるかは不明である。今回確認された暦年代については、各住居の出土遺物による年代観等からの評価・検討が必要と考えられる。

また、これらの放射性炭素年代測定試料とした炭化材から分割した試料と、このほかに認められた炭化材のうち遺存状況が良好な炭化材の 2 点ずつを対象とした樹種同定の結果、SI521 炭化材は 2 点ともオニグルミ、SI1604 炭化材はオニグルミとカエデ属に同定した。オニグルミやカエデ属は、いずれも重硬で強度が高い材質を有する。これらは河畔林等として普通に見られる種類であることから、より強度の高い木材を伐採、利用したと考えられる。

引用・参考文献

藤下典之　1984　「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』 古文化財編集委員会編　同朋舎　638-654.

林　昭三　1991　『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所

石川茂雄　1994　『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会　328p.

伊東隆夫　1995　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I」『木材研究・資料』31　京都大学木質科学研究所　81-181.

伊東隆夫　1996　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 II」『木材研究･資料』32　京都大学木質科学研究所　66-176.

伊東隆夫　1997　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 III」『木材研究・資料』33　京都大学木質科学研究所　83-201.

伊東隆夫　1998　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV」『木材研究・資料』34　京都大学木質科学研究所　30-166.

伊東隆夫　1999　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 V」『木材研究･資料』35　京都大学木質科学研究所　47-216.

上越市教育委員会　2006 『吹上遺跡』 新潟県上越地域振興局・上越市教育委員会　152p.

株式会社古環境研究所　2006 「自然科学分析」『用言寺遺跡 I』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　53-62.

金原正明・金原正子　1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－』 奈良国立文化財研究所　12-15.

金原正明・金原正子　1993 「史跡松江城二ノ丸番所跡 SK-04 内堆積土の分析」『史跡松江城発掘調査報告書』 松江市教育委員会　51-56.

金原正明・金原正子　1994 「鴻臚館跡の土坑（便所遺構）における寄生虫卵・花粉・種実の同定分析」『鴻臚館跡 4』 福岡市教育委員会　25-38.

金原正明・金原正子・中村亮仁　1995a 「大宮坊跡（厠跡）における自然科学的分析」『史跡石動山環境整備事業報告 II』石川県鹿島町教育委員会　51-70.

金原正明･金原正子･中村亮仁　1995b 「川合遺跡八反田地区 SE402･SE405 における寄生虫卵･植物遺体分析」『川合遺跡　八反田地区Ⅱ　本文編』 静岡県埋蔵文化財調査研究所　341-354.

黒崎　直ほか 1993　「糞便堆積物の分析－特に寄生虫卵分析について－」『日本文化財科学会第 10 回大会研究発表要旨集』 日本文化財科学会　115-116.

松葉礼子　2000　「平田遺跡出土木製品の樹種同定」『平田遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 100-104.

三村昌史・植田弥生　2003 「仲田遺跡出土木製品の樹種」『仲田遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 35-41.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会　642p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1994 「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物および種実遺体の同定」『一之口遺跡東地区』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　147-167.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1996 「吉田遺跡から出土した木製品の樹種および種実遺体の種類」『吉田遺跡発掘調査報告書』 新潟県三和村教育委員会　17-29.

パリノ･サーヴェイ株式会社　2004 「井戸出土種実遺体の自然科学分析」『下前川原遺跡』 新潟県豊栄市教育委員会･豊栄市博物館　53-60.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2005a 「自然科学分析」『海道遺跡・大塚遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 39-47.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2005b 「木製品樹種同定及び鉄滓成分分析」『東原町遺跡・下沖北遺跡 II』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　47-54.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2006c 「自然科学分析」『土居下遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 43-66.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2007 「自然科学分析」『用言寺遺跡Ⅱ』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 46-65.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2008 「自然科学分析」『中部北遺跡・桜林遺跡Ⅱ』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　54-60.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 海青　社　70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社　176p.

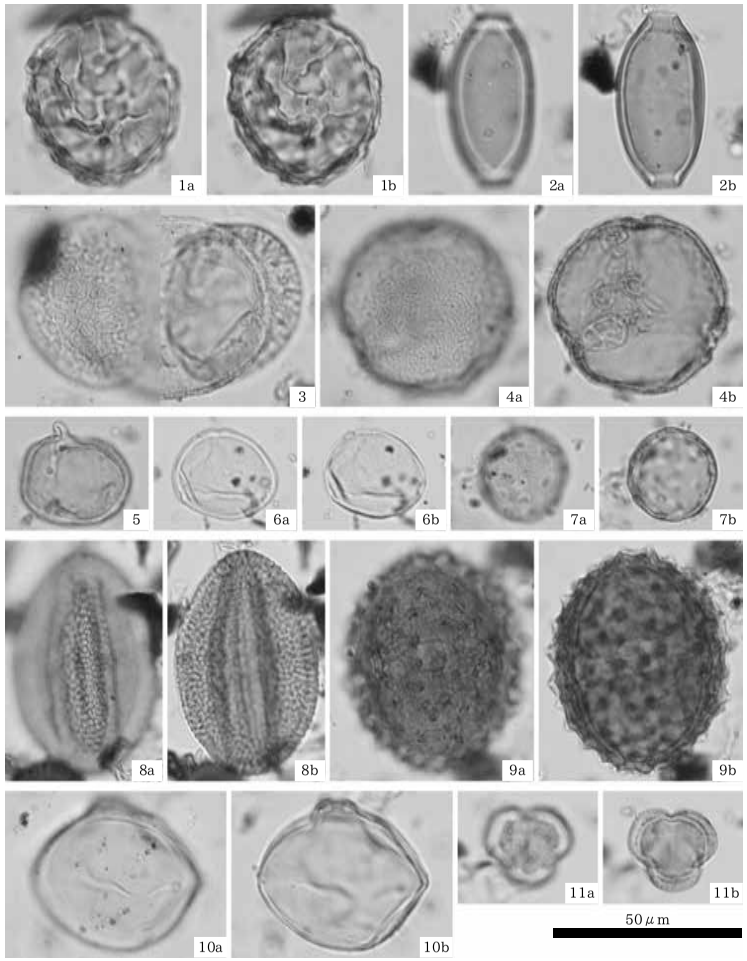
鈴木三男ほか　2004　「青田遺跡出土木材の樹種」『青田遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　53-70.

高橋　保　2005　「井戸に廃棄された種実について」『海道遺跡・大塚遺跡』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 58-59.

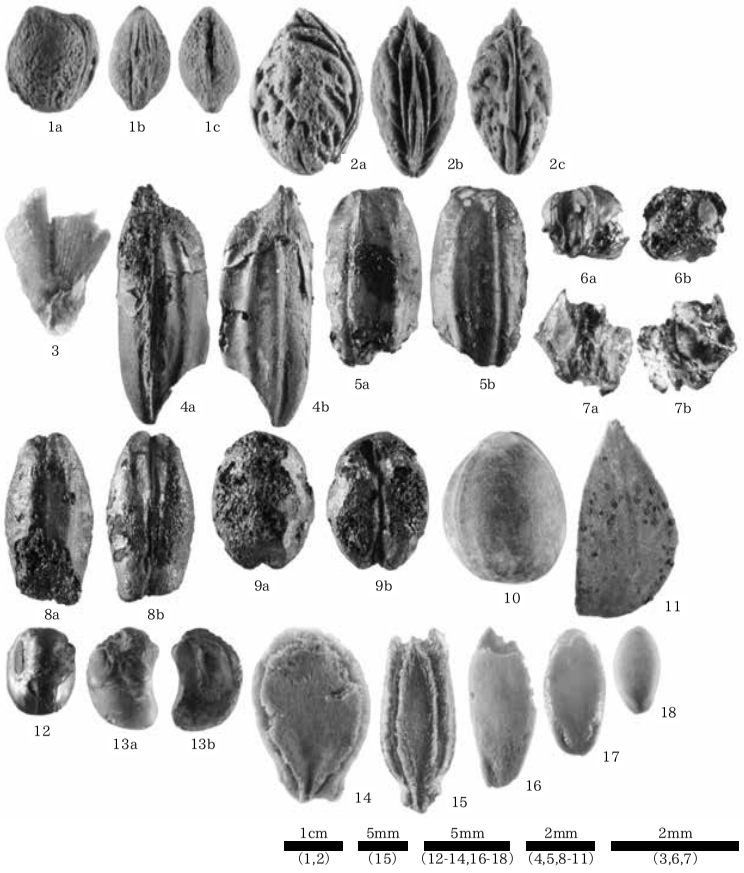
辻　誠一郎ほか　1999 「屋代遺跡群の古代の大型植物遺体群」『更埴条里遺跡・屋代遺跡群（含む大境遺跡・窪河原遺跡）－古代１編－』 財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵センター　303-323.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修） 海青社　122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

吉崎昌一　1992　「古代雑穀の検出」『考古学ジャーナル』355　ニューサイエンス社　2-14.

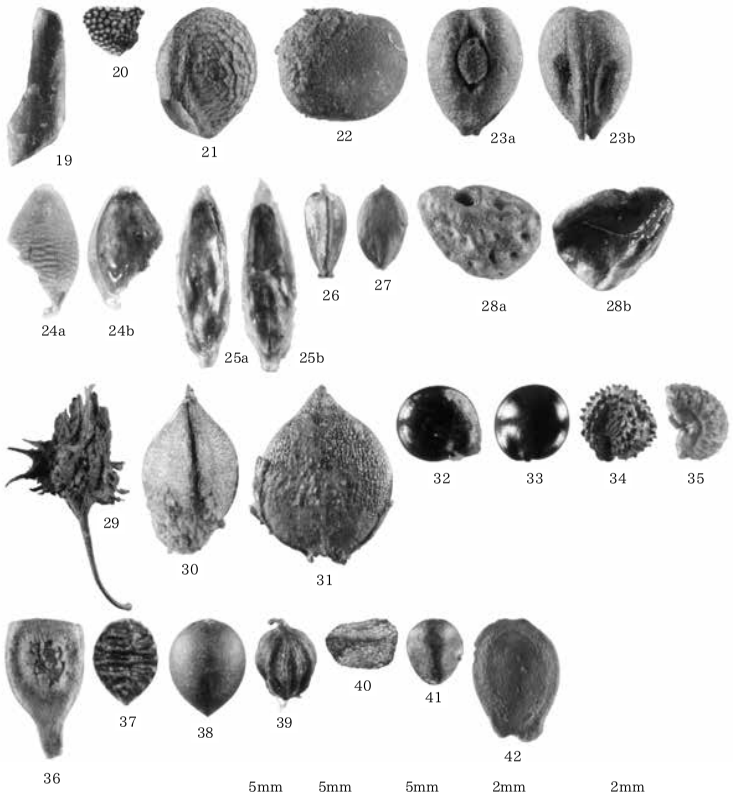


1.回虫卵（SE916;最下層）　2.鞭虫卵（SE916;最下層）
3.マツ属（SE916;最下層）　4.ブナ属（SE916;最下層）
5.スギ属（SE916;最下層）　6.クワ科（SE916;最下層）
7.アカザ科（SE916;最下層）　8.ソバ属（SE916;最下層）
9.ベニバナ属（SE916;最下層）　10.イネ科（SE916;最下層）
11.ヨモギ属（SE916;最下層）

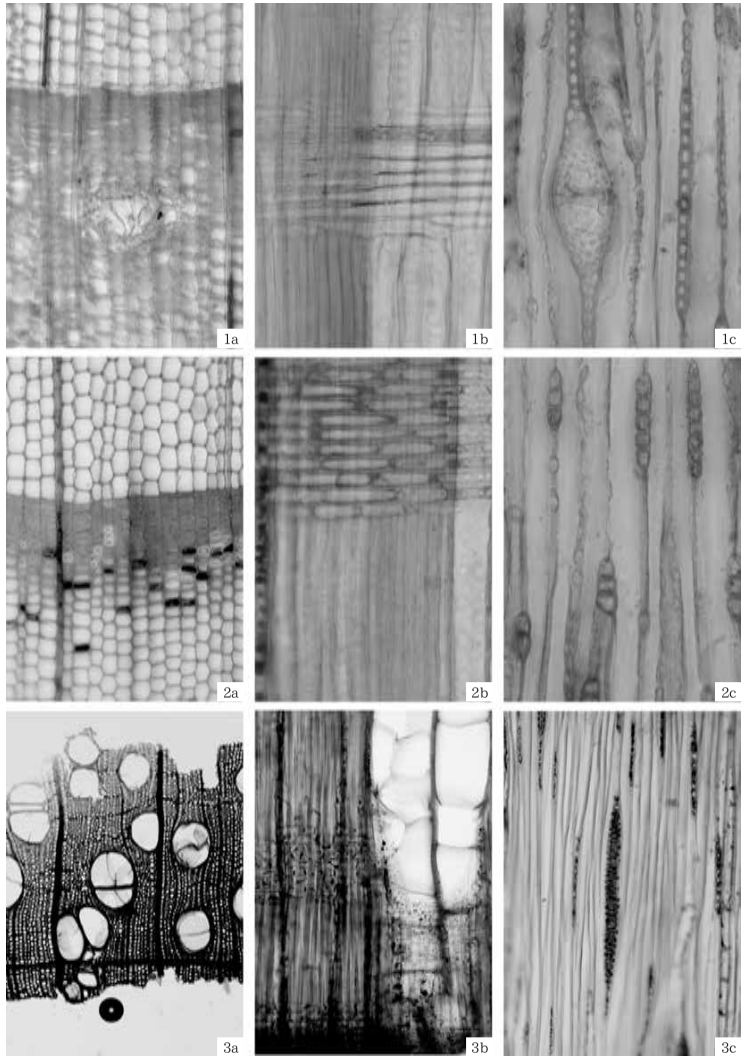


1.スモモ 核（SE916;桃種）　2.モモ 核（SE916;桃種）
3.イネ 籾（SE916）　4.イネ 籾・胚乳（SE916;種子）
5.イネ 胚乳（SE916;種子）　6.アワ－ヒエ 胚乳（SE916）
7.ヒエ近似種 籾・胚乳（SE916）　8.オオムギ 胚乳（SE916;種子）
9.コムギ 胚乳（SE916;種子）　10.アサ 果実（SE916;種子）
11.ソバ 果実（SE916;種子）　12.マメ類 種子（SE916;種子）
13.マメ類 種子（SE916;種子）　14.トウガン 種子（SE916;ウリ科）
15.ヒョウタン類 種子（SE916;ウリ科）
16.メロン類（モモルディカメロン型） 種子（SE916;ウリ科）
17.メロン類（マクワ・シロウリ型） 種子（SE916;ウリ科）
18.メロン類（雑草メロン型） 種子（SE916;ウリ科）

第 21 図　寄生虫卵・花粉化石・種実遺体（1）



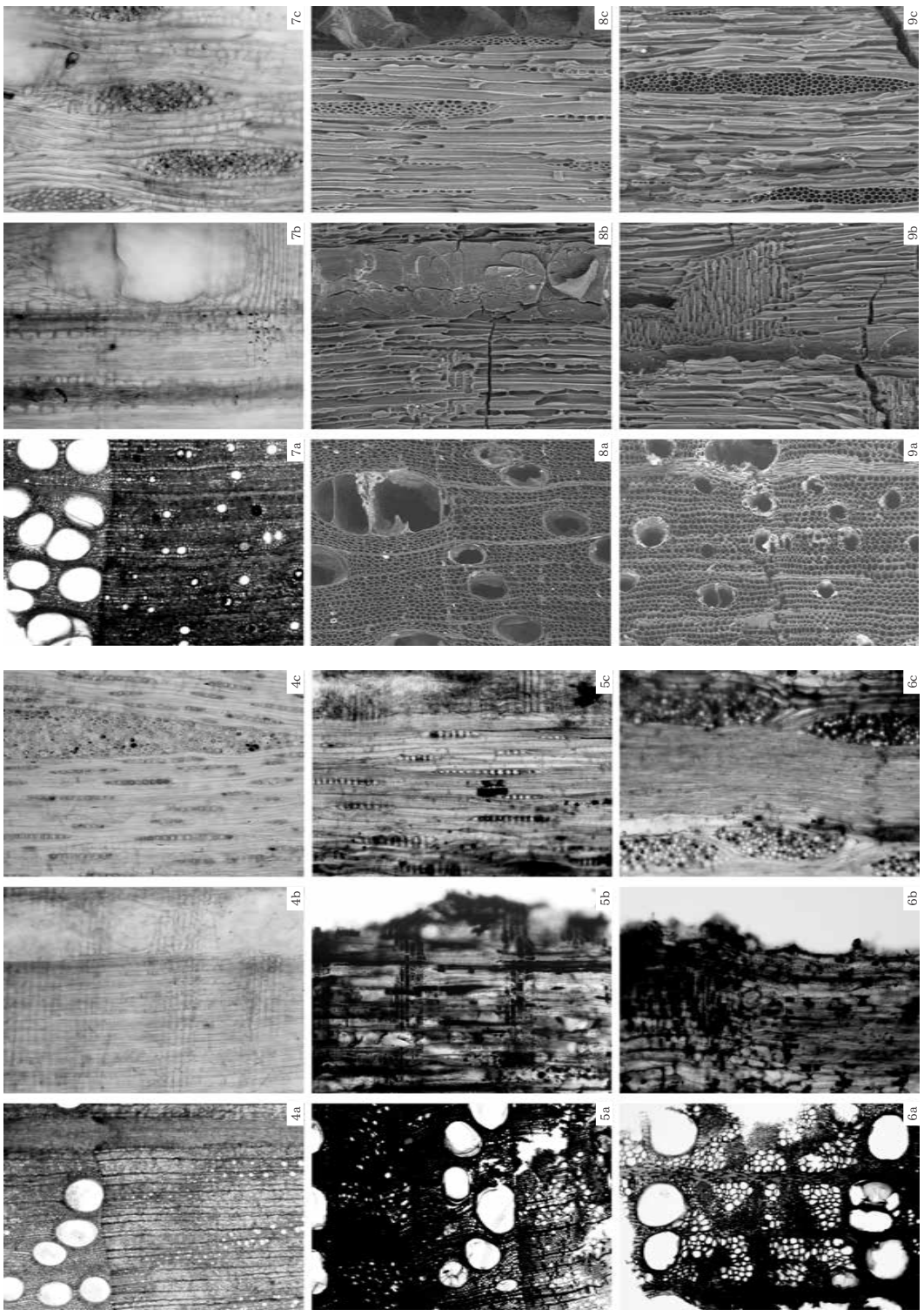
19.ブナ科 果実（SE916）
20.マタタビ属 種子（SE916）
21.サンショウ 種子（SE916;種子）
22.ウルシ属 核（SE916;種子）
23.ブドウ属 種子（SE916;種子）
24.エノコログサ属 果実（SE916）
25.イネ科 果実（SE916）
26.カヤツリグサ属 果実（SE916）
27.カヤツリグサ科 果実（SE916）
28.ツユクサ 種子（SE916;種子）
29.ギシギシ属 果実（SE916;種子）
30.タデ属 果実（SE916）
31.タデ属 果実（SE916）
32.アカザ科 種子（SE916）
33.ヒユ科 種子（SE916
34.ナデシコ科 種子（SE916）
35.アオツヅラフジ 核（SE916;種子）
36.クサネム近似種 果実（SE916;ウリ科）
37.カタバミ属 種子（SE916）
38.エノキグサ 種子（SE916）
39.アリノトウグサ 核（SE916）
40.サクラソウ科 種子（SE916）
41.シソ科 果実（SE916）
42.キカラスウリ 種子（SE916;ウリ科）



1.カラマツ（SE916;板）
2.スギ（SD1200;部材）
3.オニグルミ（杭№973）
a:木口,b:柾目,c:板目

300μm:2-3a
200μm:1a,2-3b,c
100μm:1b,c

第 22 図　種実遺体（2）・木材・炭化材（1）


4.コナラ属コナラ亜属コナラ節
(SE916;東側柱)
5.クリ（杭№971）
6.ケヤキ（SD1200;台付皿状木製品）
a:木口,b:柾目,c:板目
7.ケンポナシ属（SD1200;曲柄平鍬）
8.オニグルミ（SI521;床直）
9.カエデ属（SI1604;No.5）
a:木口,b:柾目,c:板目
300μm:a
200μm:b,c
300μm:7a
200μm:7b,c
200μm:8-9a
200μm:8-9b,c

第23図　木材・炭化材（2）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　北新田遺跡・荒町南新田遺跡における遺構の変遷

今回の調査で荒町南新田遺跡は弥生時代後期～中世にかけての集落遺跡であることが判明した。平成19年度に発掘調査を行った北新田遺跡は本遺跡の北側に隣接しており、所属時期も近似している。そのため両遺跡は密接な関連があるものと考えられる。ここでは両遺跡を対象として、遺構の存続時期を出土遺物の年代や遺構の切り合い関係等から10時期に区分して、それらの変遷を記述する。

なお古代（Ⅴ・Ⅵ期）の掘立柱建物については、長軸方向によりＡ～Ｆの６つのグループに分類した。分類は以下のとおりであるが、Ａ～Ｅグループは北新田遺跡の分類［金内2008］と共通しており、北新田遺跡では見られなかった長軸方向を持つ一群を新たにＦグループとして加えた。

Ａグループ　南北方向が０～10°西寄りにずれ、Ｎ－０～10°－Ｗ・Ｎ－80～90°－Ｅを示すもの。
Ｂグループ　南北方向が０～10°東寄りにずれ、Ｎ－０～10°－Ｅ・Ｎ－80～90°－Ｗを示すもの。
Ｃグループ　南北方向が11～20°西寄りにずれ、Ｎ－11～20°－Ｗ・Ｎ－70～79°－Ｅを示すもの。
Ｄグループ　南北方向が21～40°東寄りにずれ、Ｎ－21～40°－Ｅ・Ｎ－50～69°－Ｗを示すもの。
Ｅグループ　南北方向が21～40°西寄りにずれ、Ｎ－21～40°－Ｗ・Ｎ－50～69°－Ｅを示すもの。
Ｆグループ　南北方向が11～20°東寄りにずれ、Ｎ－11～20°－Ｅ・Ｎ－70～79°－Ｗを示すもの。

Ⅰ期（弥生時代後期：新潟シンポ２期）

当該期の遺構は、北新田遺跡では検出されず、荒町南新田遺跡では出土遺物の年代から竪穴住居１棟（SI1356）、土坑５基（SK603・734・736・1541・1614）、溝２条（SD403・1370）が確認できる。さらに遺構の切り合い関係や配置状況等から、平地建物１棟（SX430）、土坑７基（SK594・596・1401・1886・1824・1899・878）、溝３条（SD437・879・1503）、性格不明遺構４基（SX431・1570・1748・1336）が当該期に位置付けられる可能性を持つ。また自然流路からも当該期の土器が出土しており、弥生時代後期にはすでに形成されていたものと考えられる。

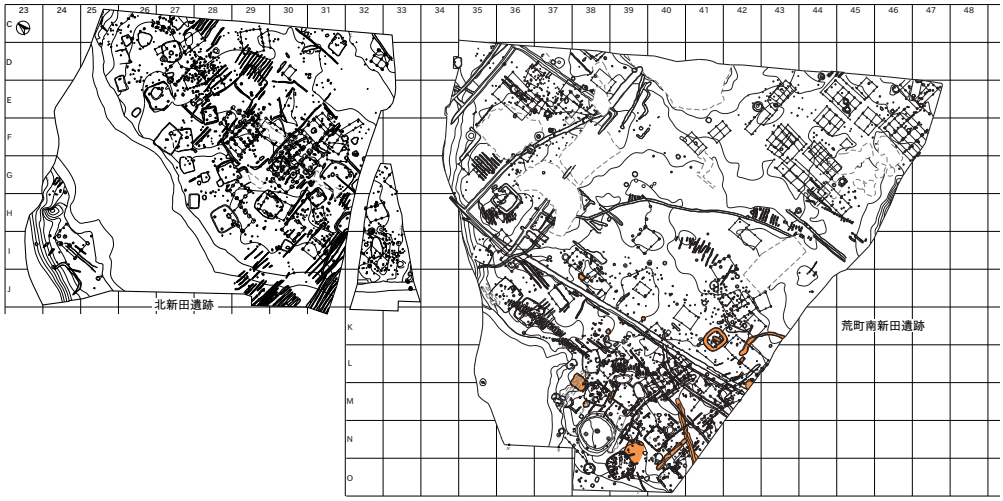
Ⅰ期の遺構群は、自然流路（SD1200）の東岸から約10～50m離れた38～42・Ｌ～Ｏグリッドを中心に位置している。この区域を中心に集落を営んでいたものと考えられる。

Ⅱ期（古墳時代前期初頭：新潟シンポ５～６期）

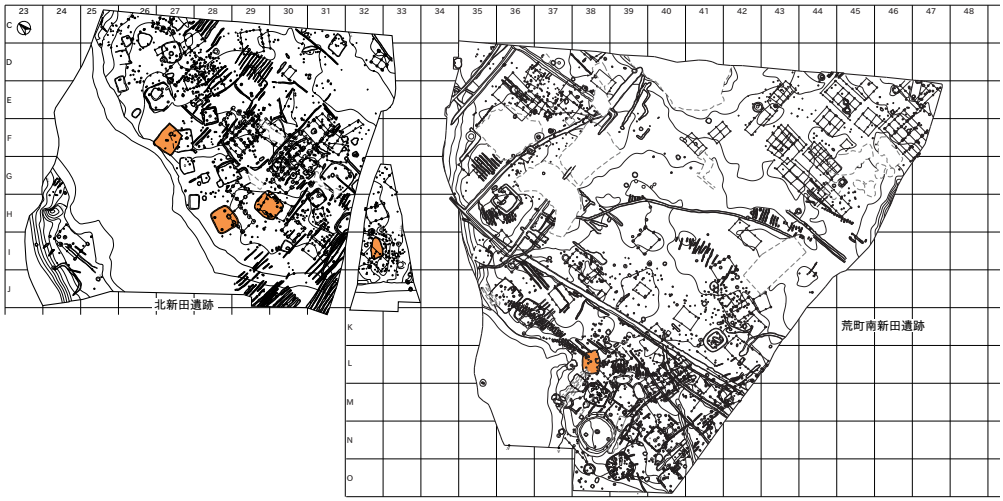
北新田遺跡では1a期に相当する。自然流路（SD1220）の東側に竪穴住居３棟、竪穴住居の可能性が考えられる性格不明遺構１基があり、当該期の土器も一定量出土している［金内2008］。荒町南新田遺跡では、遺構の形態や出土遺物の年代から、竪穴住居１棟（SI1395）が当該期に位置付けられる可能性を持つ。また古墳時代前期に比定される遺物は少なく、他時期の遺物と混在している状況である。

以上の点からⅠ期からⅡ期にかけて、集落が荒町南新田遺跡から北新田遺跡に移動していった状況が想定できる。しかし両遺跡からはⅠ期とⅡ期の間に位置付けられる弥生時代終末期（新潟シンポ３～４期）の土器が出土していない。そのためⅠ期の集落がそのまま北に移動したのではなく、ある一定の空白期を経た後にⅡ期の集落が形成されたものと考えられる。

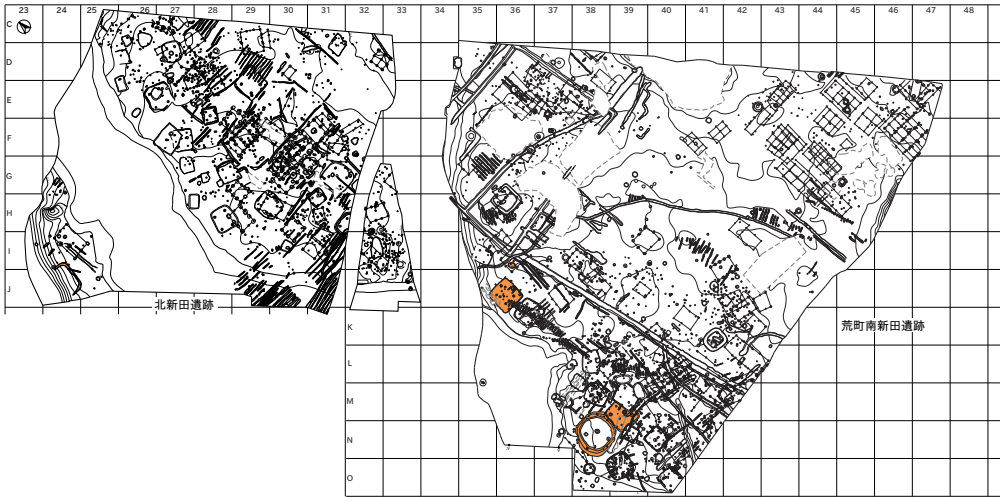
Ⅰ期（弥生時代後期：新潟シンポ2期）



Ⅱ期（古墳時代前期初頭：新潟シンポ5～6期）



Ⅲ期（古墳時代前期後半～中期：新潟シンポ9～〔12〕期）



第 24 図　遺構の変遷（1）（S = 1/2,000）

Ⅲ期（古墳時代前期後半～中期）

北新田遺跡では1b期に相当する。自然流路（SD1220）の東側では遺構を確認できず、西側で「コ」の字状の溝を1条検出しただけである。この段階に比定される土器は、前述の溝でしか確認できなかった。荒町南新田遺跡では出土遺物の年代等から、自然流路（SD1200）の東岸付近に位置する竪穴住居2棟（SI501・1820）、円形周溝状遺構3基（SX1080・1339・1801）、壁立式の平地建物1棟（SD1409）、土坑5基（SK504・598・599・1006・1620）が当該期の遺構に位置付けられる。また自然流路の東側斜面から底面にかけてこの段階に比定される土器が出土しており、この集落から廃棄された可能性が高い。

このためⅢ期には集落が再び荒町南新田遺跡に移動していった状況が想定できる。しかし両遺跡からはⅡ期とⅢ期の間に位置付けられる古墳時代前期中葉（新潟シンポ7～8期）の土器が出土していない。そのためⅡ期の集落がそのまま南に戻ったのではなく、ある一定の空白期を経た後にⅢ期の集落が形成されたものと考えられる。

Ⅳ期（古墳時代後期：7世紀前葉～中葉）

北新田遺跡では2期に相当する。自然流路（SD1220）の東側に竪穴住居14棟、掘立柱建物5棟、竪穴住居の可能性がある性格不明遺構1基、土坑2基がある［金内2008］。荒町南新田遺跡では自然流路（SD1200）の東岸付近に位置する竪穴住居8棟（SI519・521・1305・1821・1615・900・1510・1604）、溝1条（SD607）が当該期の遺構に位置付けられる。両遺跡の竪穴住居からはこの時期に比定される土器・土製品が多く出土しており、この段階では北新田遺跡から荒町南新田遺跡にかけて大規模な集落が営まれていたものと考えられる。

ここでは荒町南新田遺跡で検出したⅣ期の竪穴住居について、北新田遺跡との比較を中心に検討したい。竪穴住居の面積は、最も小さいものが15.22m^2（SI1615）、大きなものが40.31m^2（SI1604）であり、北新田遺跡で検出した竪穴住居の面積（14.06～48.62m^2）の範疇に収まる。65m^{2}以上の大型住居［金内2008］は確認できず、30～65m^{2}の中型住居は5棟（SI521・1305・1821・900・1604）、それ以外の3棟は30m^{2}以下の小型住居である。北新田遺跡では中型住居が3棟、小型住居が7棟であり、荒町南新田遺跡の竪穴住居は北新田遺跡と比べて若干大きい傾向がうかがえる。

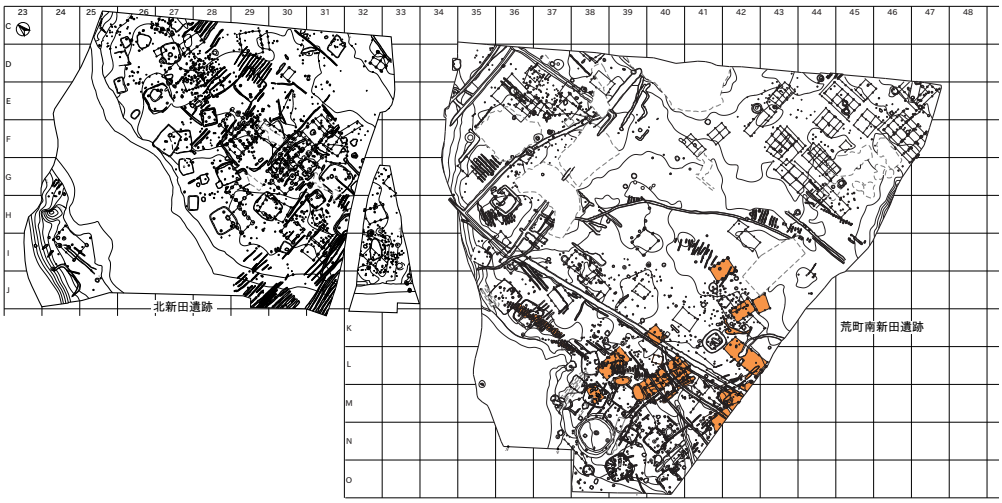
カマドの位置については、すべてが東辺に位置している。北新田遺跡や周辺の上越市山畑遺跡［小島1979］、一之口遺跡東地区［鈴木ほか1994］でも同様の傾向が見られる。煙道部は後世の遺構やカクランによって壊されているものが多いが、SI519・1305・1604は住居外に大きく張り出している。カマドの芯材と考えられる円筒形土製品はSI1305・1510で、石はSI519・900で出土している。いずれもカマドの袖部付近から出土しており、使用時の状況がうかがえる。土製支脚はSI1305・1615・900・1510・1604から出土しているが、使用時の状況がうかがえるものは見られない。

カマドと炉を併用した竪穴住居は3棟（SI521・1305・1510）確認できる。北新田遺跡でも3棟確認されているが、カマドのみの竪穴住居と比較してもその面積や位置関係、出土遺物の年代に際立った違いは見出せない。新潟県内においては類例が少なく、今後の資料の増加が期待される。

主柱穴は中型住居2棟（SI1305・900）が持たないほかは、各コーナーに4本確認できる（SI1615・1510は主柱穴の見られないコーナーがあるものの、その配置状況から4本あったものと考えられる）。また周溝はSI519以外、すべての竪穴住居の壁際で確認されるが、SI1615が全周する以外は、部分的に存在しているのみである。以上の点から北新田遺跡と荒町南新田遺跡で検出した竪穴住居には、際立った違いを見出すことはできなかった。

Ⅳ期（古墳時代後期：7世紀前葉～中葉）

Ⅴ期（古代：8世紀前葉～中葉）



Ⅵ期（古代：9世紀前葉～中葉）

第 25 図　遺構の変遷（2）（S = 1/2,000）

Ⅴ期（古代：8 世紀前葉～中葉）

当該期の遺構は、北新田遺跡では検出されず、自然流路（SD1220）から 8 世紀中葉に比定される土器が数点確認されるに過ぎない。荒町南新田遺跡では出土遺物の年代等から掘立柱建物 8 棟（SB1840・1760・1452・1460・1500・1750・1762・1761）、土坑 2 基（SK1822・1839）が当該期の遺構に位置付けられる。さらにⅤ期に比定される遺物は出土していないが、これらの周辺に位置し長軸方向が近似する掘立柱建物 9 棟（SB1715・377・408・415・1414・1782・1887・1440・1470）、さらに道もⅤ期の掘立柱建物群の北側に隣接し関連性が想定できること、Ⅳ期の竪穴住居（SI521）を切り、Ⅵ期の溝（SD893）に切られていることから、Ⅴ期に位置付けられる可能性を持つ。

掘立柱建物は自然流路（SD1200）の東岸から約 10 ～ 65m 離れた 38 ～ 43・I ～ N グリッドに位置しており、A グループが 2 棟（SB1414･1782）、B グループが 4 棟（SB1715･1887･1760･1500）、D グループが 2 棟（SB1460・1440）、F グループが 9 棟（SB377・415・408・1840・1452・1750・1762・1761・1470）に分別できる。C・E グループは確認できなかった。

A グループは 42 ～ 43・K ～ L グリッドに位置する。SB1414 は面積が 52.91m^2 で、当該期の建物の中では最も大きいが、柱穴の規模はほかの建物のそれと比べて一回り小さい。B グループは 38 ～ 40・K ～ M グリッドに位置する。SB1887･1760 は面積がそれぞれ 35.07m^2･33.82m^2 で、当該期の D･F グループの建物と比べて一回り大きい。いずれも桁行・梁行が 5 間× 2 間を数える。柱並びも直線状に並び、長方形を呈する。しかし柱間寸法にはばらつきが見られ、建物内部に間取りのための柱穴が見られることから、東大寺領石井荘の荘所と推定される上越市岩ノ原遺跡に見られる律令官衙的な建物［高橋 2008］とは異なり、在地的な建築様式の建物と考えられる。D グループは 39 ～ 42・L ～ M グリッドに位置する。面積は 26.55 ～ 26.64m^2 で、当該期の A・B グループの建物と比べて小さい。柱間寸法にばらつきが見られ、柱並びも整然としていないため、在地的な建築様式の建物と考えられる。F グループは 38 ～ 42・I ～ N グリッドとほかのグループに比べて広範囲に位置する。面積は 13.04 ～ 29.01m^2 の範囲に収まり、当該期の A・B グループの建物と比べて小さい。桁行・梁行は 3 間× 2 間を数えるものが多く、SB1761・1470 のように柱並びが整然とせず、不整長方形を呈するものも見られることから、いずれも在地的な建築様式の建物と考えられる。

各グループの新旧関係については、柱穴同士の切り合い関係が確認できないため判然としないが、道の南端が F グループに属する SB1452 の手前で終わっており、F グループの建物群に伴う可能性が高いこと、道は B グループに属する SB1887 の柱穴を切っていることから、B グループ→ F グループという変遷が想定できる。

Ⅵ期（古代：9 世紀前葉～中葉）

北新田遺跡では 4 期に相当する。自然流路（SD1220）の東側及び西側に竪穴住居 4 棟、掘立柱建物 27 棟、井戸の上屋 1 棟、井戸 9 基、土坑 19 基、性格不明遺構 1 基、溝 4 条がある［金内 2008］。荒町南新田遺跡では、出土遺物の年代から掘立柱建物 1 棟（SB1626）、土坑 1 基（SK1505）、溝 2 条（SD357・1502）が当該期の遺構に位置付けられる。さらに調査区南西側では南北方向に走る溝 2 条（SD601・893）も古代の土器が出土し、Ⅴ期の掘立柱建物の柱穴を切っていることから、当該期に位置付けられる可能性を持つ。

このほか自然流路（SD1200）の東岸から約 10 ～ 40m 離れた 35 ～ 40・G ～ N グリッドに位置する掘立柱建物 8 棟（SB480・725・952・531・583・681・1057・1482）は長軸方向から、A グループ（SB480・

1057・725)、B グループ（SB952・531・681・583)、E グループ（SB1482）に分別できる。これらはⅥ期に位置付けられる北新田遺跡の掘立柱建物群の長軸方向の範疇に収まる。またⅤ期の建物群と比べると柱間寸法や柱並びが整然としており、北新田遺跡の掘立柱建物群の様相に近いものと考えられる。そのため当該期に位置付けられるものと想定できる。

以上の点からⅥ期の集落は北新田遺跡から荒町南新田遺跡にかけて存在するものの、その中心は北新田遺跡の自然流路東側にあったものと想定できる。

Ⅶ期（古代：10 世紀後半～ 11 世紀初頭）

当該期の遺構は、北新田遺跡では検出されず、荒町南新田遺跡では 10 世紀末～ 11 世紀初頭に比定される土器を伴う土坑 1 基（SK1508）のみが確認できる。そのため、この段階の集落の中心は両遺跡以外の場所にあったものと考えられる。

自然流路（SD1200）からは 10 世紀後半に比定される土器が 1 点出土しており、これより新しい時期の遺物は確認できない。この時期の直後に自然流路は埋没したものと考えられる。

Ⅷ期（中世：12 世紀末～ 13 世紀前半）

当該期の遺構は、北新田遺跡では検出されず、荒町南新田遺跡では出土遺物の年代から掘立柱建物 8 棟（SB1215・110・151・174・201・711・301・31)、井戸 5 基（SE1102・1103・1101・120・389)、土坑 1 基（SK94)、区画溝 3 条（SD602・6・3）が確認できる。また遺物は出土していないが、これらの周辺に位置し長軸方向が近似する掘立柱建物 22 棟（SB1114・1154・1155・1230・125・130・137・390・701・1918・175・279・1940・51・75・84・335・341・1930・13・22・346）と、切り合い関係及び位置関係から井戸 10 基（SE159・163・290・671・672・200・251・92・12・20)、土坑 7 基（SK1242・122・147・93・98・99・11)、性格不明遺構 2 基（SX7・8)、区画溝 5 条（SD2・4・5・9・21）も当該期に位置付けられる可能性を持つ。

Ⅷ期の集落は、掘立柱建物群が自然流路跡と考えられる谷状の落ち込みを挟んで、荒町南新田遺跡調査区南東側の 42 ～ 47･D ～ H グリッド及び 49 ～ 52･G ～ K グリッドに位置しており、自然流路(SD1200)の東岸から約 90m 以上離れた場所に存在している。区画溝（SD602）は掘立柱建物群の西側約 50m 先に位置しており、その間は空白域となる。空白域で畑作が行われていた可能性もあり、畑作溝（畑作溝Ⅱ群）も確認できる。しかし畑作溝の長軸方向が掘立柱建物のそれとは異なっており、この時期に比定される遺物も見つかっていないため、この集落に伴うものかを特定するまでには至らなかった。

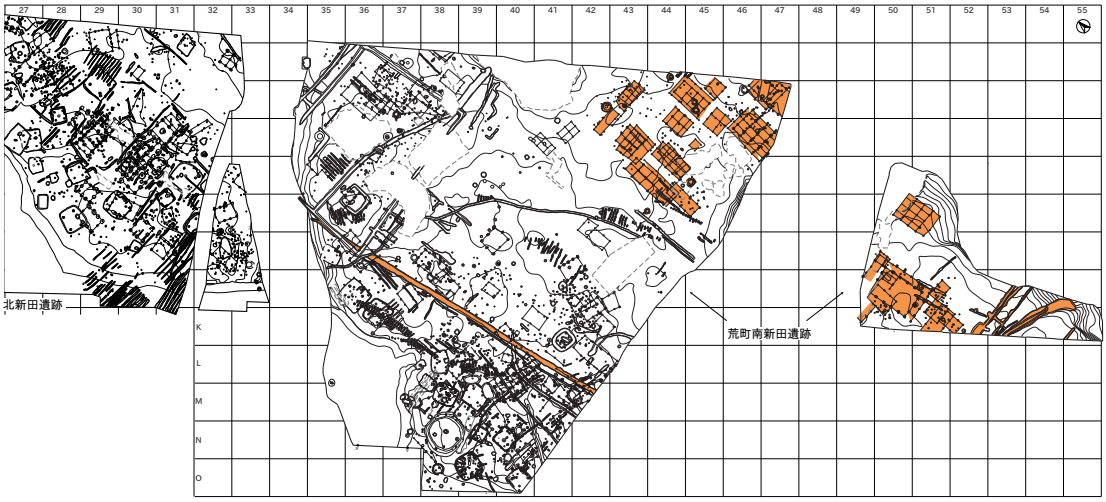
Ⅸ期（中世：13 世紀後半～ 14 世紀前半）

当該期の遺構は、北新田遺跡では出土遺物の年代から井戸 2 基（SE956・1000）が確認できる一方、荒町南新田遺跡では遺構は検出されず、この時期に比定される土器が散在しているに過ぎない。そのため、この段階の集落の中心は両遺跡以外の場所にあったものと考えられる。

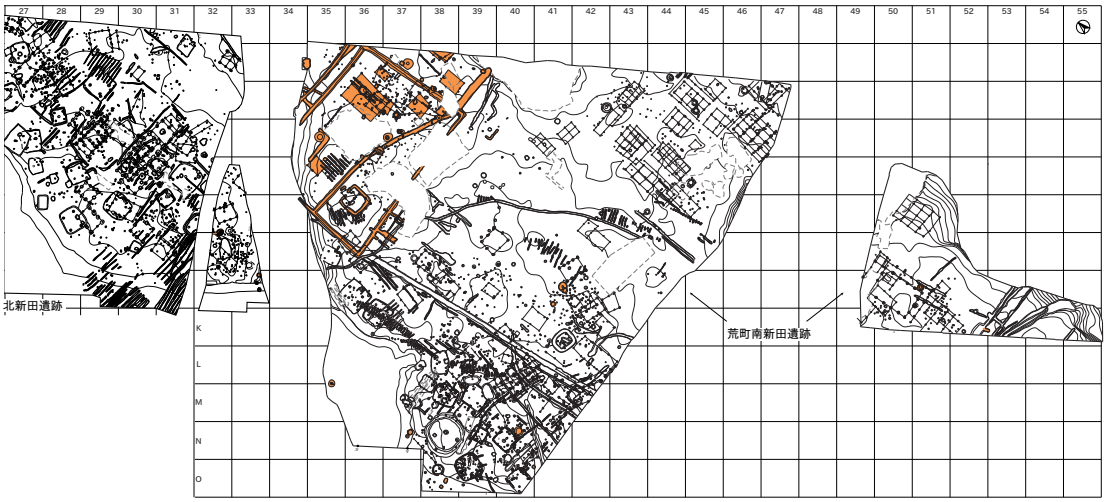
Ⅹ期（中世：14 世紀後半～ 15 世紀後半）

当該期の遺構は、北新田遺跡では出土遺物の年代から井戸 3 基（SE965・966・999）が確認できる。荒町南新田遺跡ではやはり出土遺物の年代から区画溝と、それに付属する施設（SD518・801・802・815・471・473)、井戸 12 基（SE806・817・820・916・789・799・91・448・451・1086・1399・882)、土坑 2 基（SK904･1187)、墓坑と考えられる性格不明遺構 1 基（SX1）がある。また遺物は出土していないが、区画溝の内部もしくは周辺に位置し、長軸方向が近似する掘立柱建物 10 棟（SB840・844・912・928・1716・1266・1270・1275・1701・782）と、切り合い関係及び位置関係から、井戸 13 基（SE797・809・

Ⅷ期（中世：12世紀末～13世紀前半）



Ⅹ期（中世：14世紀後半～15世紀後半）



第 26 図　遺構の変遷（3）（S = 1/2,000）

914・901・903・915・824・449・1853・872・1060・1061・1199）、土坑 7 基（SK803・816・904・940・917・1280・798）、溝 8 条（SD814・902・1180・475・476・477・478・479）、畑作溝Ⅰ群、性格不明遺構 1 基（SX1263）も当該期に位置付けられる可能性を持つ。

Ⅹ期の集落は、中心と考えられる区画溝が荒町南新田遺跡調査区北側の 34 ～ 39・D ～Ⅰグリッドに位置しており、自然流路（SD1200）の東岸から約 15m 離れた場所に存在している。掘立柱建物は区画溝の内部もしくはその近辺にあったものと考えられる。区画溝の西側約 20m、南～南西側約 35 ～ 65m 先には井戸が点在しており、墓坑と考えられる性格不明遺構は区画溝の南東側約 150m 先に位置している。なお区画溝の北西側は、自然流路跡と考えられる谷状の落ち込みによって破壊されていた。両遺跡ともこの段階以降の集落は確認できず、この自然流路の形成が集落の廃絶に関係したものと想定できる。

北新田・荒町南新田遺跡における遺構の変遷を概観すると、弥生時代後期から中世にかけて自然流路を中心とした集落の移動が読み取れる。弥生時代後期～古墳時代中期にかけて自然流路東側で南から北、さ

らに南方向に集落が移動しており、古墳時代後期（7 世紀前葉～中葉）には両遺跡にかけて大規模な集落を形成する。8 世紀前半～ 9 世紀中葉では自然流路東側で南から北方向に集落が移動しており、その後中世まで集落は形成されなくなる。自然流路の埋没はこの頃と考えられる。中世に入ると埋没した自然流路から一定の距離を置いて集落が営まれるようになり、12 世紀末～ 15 世紀後半にかけて南から北方向に集落が移動している。しかし、出土遺物の年代から各段階は連続しておらず、弥生時代終末期、古墳時代前期中葉、6 世紀、7 世紀後葉、8 世紀後葉、9 世紀後葉～ 12 世紀後半、13 世紀後半～ 14 世紀前半に両遺跡で集落が営まれない空白期が見られる。

また両遺跡からは掘立柱建物 116 棟、井戸 74 基を検出した。このうち古代は掘立柱建物 53 棟、井戸 11 基に対して、中世は掘立柱建物 40 棟、井戸 46 基となり、中世は古代と比べて建物に対する井戸の割合が高くなる。このことは自然流路の埋没によって「飲料水をはじめとする水を SD1220（自然流路）に依存することが難しくなった可能性」［田中 2008］を示唆するものと考えられる。

2　古墳時代後期竪穴住居出土の楕円礫について

前述したように北新田遺跡・荒町南新田遺跡（以下、両遺跡）はⅣ期（7 世紀前葉～中葉）に大規模な集落を形成している。その中の竪穴住居 4 棟（北新田遺跡 SI570・荒町南新田遺跡 SI15110・同 SI1604・同 SI1821）からは土器・土製品・石器のほかに、形態や法量の近似した加工痕が認められない複数の楕円礫が出土している。これらの楕円礫は人為的に竪穴住居に搬入したものと想定され、関東・中部地域で多くの事例が確認できる「編物用石錘」［渡辺 2004］である可能性が考えられる。

本稿では竪穴住居ごとに楕円礫の出土状況・特徴を示し、周辺地域の事例と比較・検討したい。

北新田遺跡 SI570（第 27 図左上）

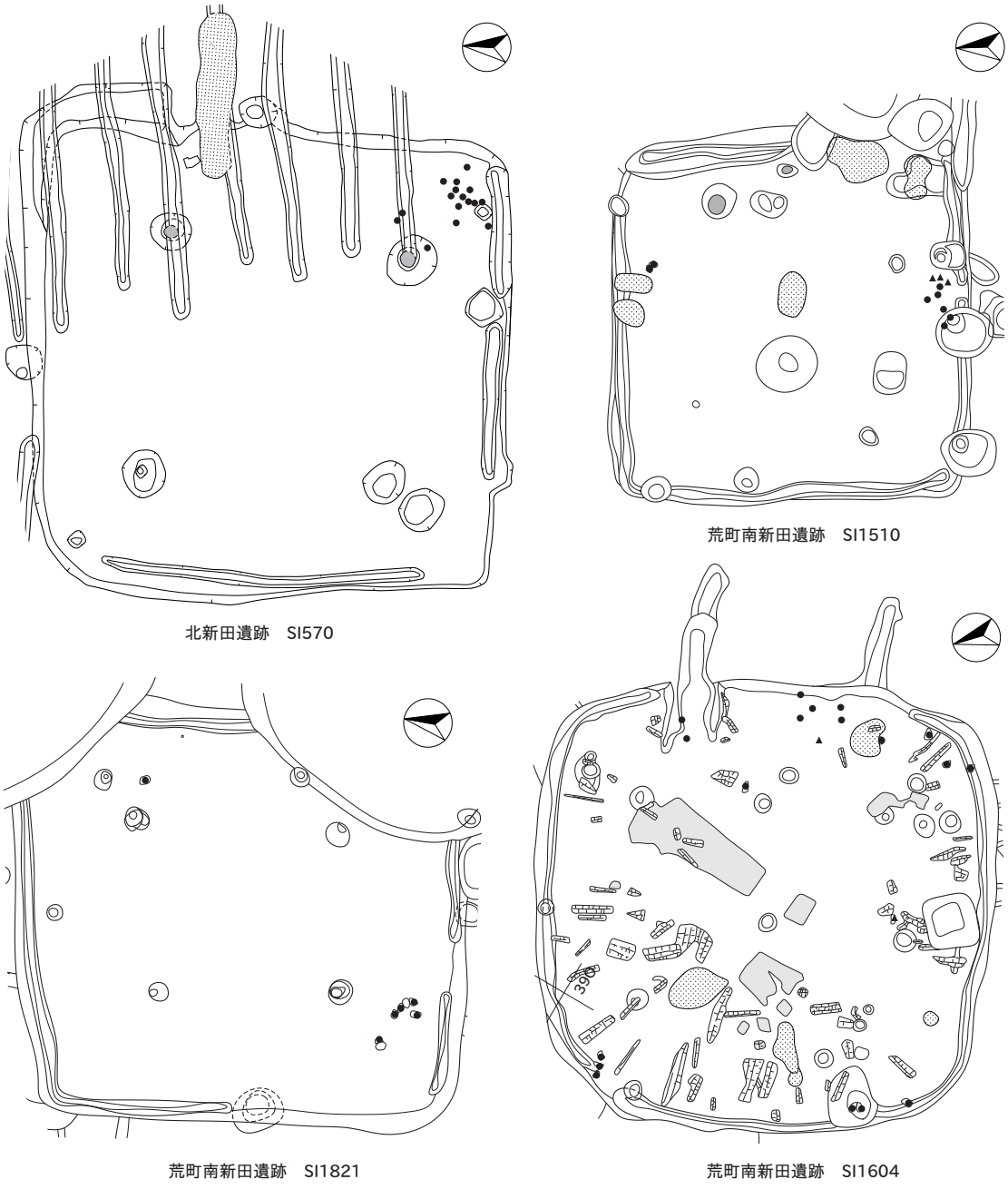
南東側のコーナーから 15 点まとまって出土した。1 点は主柱穴（P816）覆土上層、残りは床面直上からの出土である。本住居からはこれら以外の礫石器は検出されなかった。15 点中 2 点が一部欠損しており、それ以外の法量は長さ 10.5 ～ 14cm、幅 5.5 ～ 7.5cm、厚さ 4.5 ～ 7cm、重さ 402 ～ 714g を測り、平均値は長さ 11.9cm、幅 6.7cm、厚さ 5.4cm、重さ 534.2g である。石材は安山岩が 8 点、角閃石安山岩が 7 点である。

荒町南新田遺跡 SI1510（第 27 図右上）

北側中央の壁際から 2 点、南側中央の壁際から 7 点出土した。3 点は後世のピットの覆土上層、残りは床面直上からの出土である。南側中央の壁際からは、楕円礫に混じって両側縁もしくは側縁に加工が施された石錘が 3 点（471 ～ 473）出土している。9 点中 1 点が一部欠損しており、それ以外の法量は長さ 11.1 ～ 14.7cm、幅 5.7 ～ 7.5cm、厚さ 3.8 ～ 6.8cm、重さ 351 ～ 800g を測り、平均値は長さ 12.9cm、幅 6.9cm、厚さ 5.2cm、重さ 559.4g である。石材は安山岩が 6 点、角閃石安山岩が 1 点、凝灰質安山岩が 1 点、砂岩が 1 点である。

同 SI1604（第 27 図右下）

29 点出土した。いずれも壁際、特に南東側のカマド 2 の周辺から多く出土している。2 点は後世のピットの覆土上層、残りは床面直上からの出土である。カマド 2 周辺の壁際からは、楕円礫に混じって両側縁もしくは側縁に加工が施された石錘が 3 点（474 ～ 476）出土している。29 点中 6 点が一部欠損しており、それ以外の法量は長さ 9.3 ～ 19.3cm、幅 5.6 ～ 11.9cm、厚さ 3.6 ～ 8.6cm、重さ 300 ～

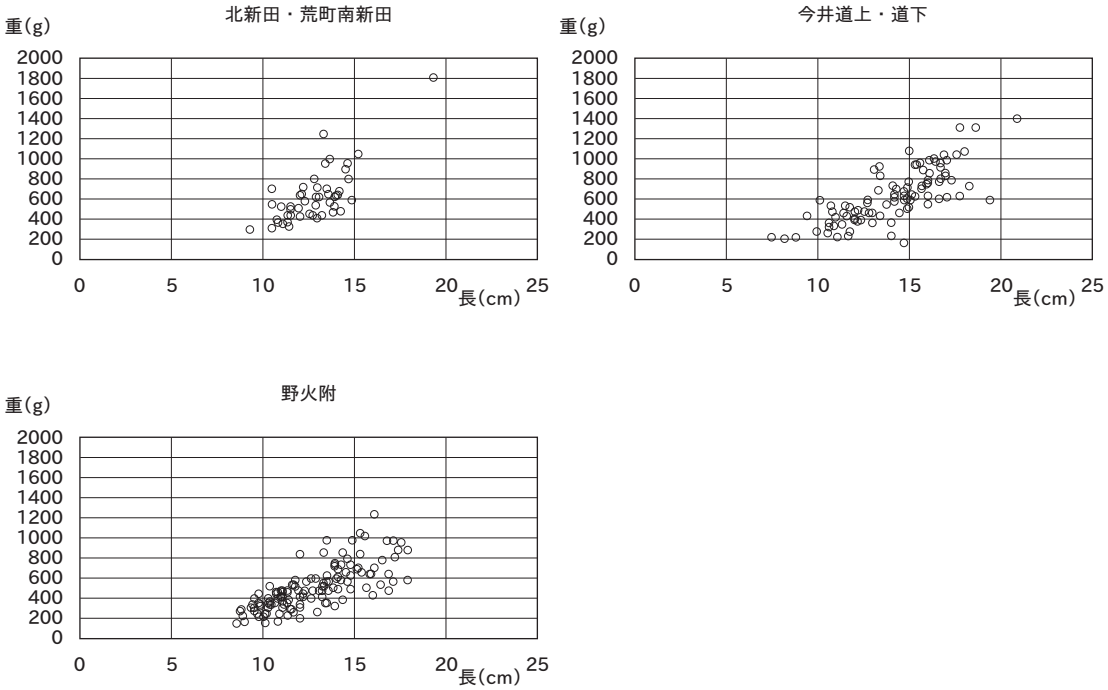


第 27 図　楕円礫出土分布図（S=1/100, ● 楕円礫 , ▲ 石錘 ,SI1604 は原位置のわかるもののみ図示）

1800g を測り、平均値は長さ 13cm、幅 7.2cm、厚さ 5.5cm、重さ 664.1g である。石材は安山岩が 15 点、角閃石安山岩が 7 点、砂岩が 7 点である。

同 SI1821（第 27 図左下）

北東側のコーナーから 1 点、南西側のコーナーから 5 点出土した。いずれも床面直上からの出土である。南西側のコーナーからは楕円礫に混じって敲石が 2 点（481・484）出土している。6 点中 1 点が一部欠損しており、それ以外の法量は長さ 11.3 ～ 15.2cm、幅 4.9 ～ 8.9cm、厚さ 4.3 ～ 8.6cm、重さ 362 ～ 1050g を測り、平均値は長さ 13.6cm、幅 7cm、厚さ 5.8cm、重さ 689g である。石材は安山岩が 3 点、角閃石安山岩が 1 点、砂岩が 2 点である。



第 28 図　楕円礫長重分布図

両遺跡全体では 59 点出土し、その平均値は長さ 12.8cm、幅 7cm、厚さ 5.4cm、重さ 615.1g となり、石材は安山岩が 32 点、角閃石安山岩が 16 点、凝灰質安山岩が 1 点、砂岩が 10 点となる。竪穴住居別に見ても、出土状況・特徴に大きな差異はないものと考えられる。

新潟県内における編物用石錘、もしくはその可能性を指摘されているものの出土例は、村上市道端遺跡 SK1（5 世紀末～ 6 世紀前半）［吉井 2006］、十日町市馬場上遺跡 SI50（5 世紀末）・SI10（6 世紀前半）［菅沼ほか 2003］、上越市裏山遺跡 SI1（弥生時代後期）［小池ほか 2000］、同一之口遺跡東地区 SI633（7 世紀）［鈴木ほか 1994］、同南原遺跡 SD9（5 世紀末）［大平 2001］、妙高市杉明遺跡 SX1（10 世紀末）［高橋 1989］がある。このうち竪穴住居からの出土状況を見ると、馬場上遺跡 SI50 は北東及び南東側のコーナー、SI10 は北側中央の壁際、裏山遺跡 SI1 は西側のコーナー、一之口遺跡東地区 SI633 は北東側のコーナーからまとまって出土しており、両遺跡とほぼ共通した出土状況を呈する。ただしこれらの住居からは楕円礫に混じった状況で両側縁もしくは側縁に加工が施された石錘の出土は見られなかった。また馬場上遺跡 SI50 から出土した楕円礫の法量は長さ 11.2 ～ 17.8cm、幅 4.5 ～ 9.1cm、重さ 240 ～ 1300g を測り［菅沼ほか前掲］、両遺跡の法量（長さ 9.3 ～ 19.3cm、幅 4.9 ～ 11.9cm、重さ 300 ～ 1800g）とほぼ一致している。また石材も安山岩、砂岩、斑レイ岩などであり［菅沼ほか前掲］、これも両遺跡とほぼ共通している。

新潟県の隣接地域を見ると、群馬県では前橋市今井道上・道下遺跡［大木ほか 1995］、同市公田東遺跡・公田池尻遺跡［下城ほか 1997］、長野県では松本市南栗遺跡［市村ほか 1990］、小諸市野火附遺跡［宇賀神ほか 1999］、佐久市芝宮遺跡群［臼田ほか 1999］等で 7 世紀代の竪穴住居から加工痕の認められない楕円礫の出土が認められ、編物用石錘もしくはその可能性があるものとされている。

今井道上・道下遺跡及び野火附遺跡に関しては両遺跡と共に、楕円礫の長さ・重さをグラフで表した（第 28 図）。今井道上・道下遺跡では竪穴住居 9 棟から計 96 個の楕円礫が確認され、平均値は長さ 14.1cm、重さ 621g である。野火附遺跡では竪穴住居 4 棟から計 131 個の楕円礫が確認され、平均値は

長さ 12.7cm、重さ 504g である。両遺跡の平均値（長さ 12.8cm、重さ 615.1g）は両者の間に位置している。また上記の楕円礫は竪穴住居の壁際もしくはコーナーから出土しており、石材も安山岩、砂岩が多数を占める。

以上の点から、北新田遺跡・荒町南新田遺跡出土の楕円礫は周辺地域の編物用石錘とされているものに出土位置や法量が近似している。

3　墨書土器について

荒町南新田遺跡の発掘調査では、7 点の墨書土器と 1 点の刻書（ヘラ書き）土器が出土した（第 31 図）。墨書土器はいずれも須恵器で、無台杯が 3 点（352・353・436）、有台杯が 4 点（344・345・425・426）である。墨書部位は 7 点とも底部外面である。刻書土器(336)は須恵器杯蓋の内面に文字が書かれている。

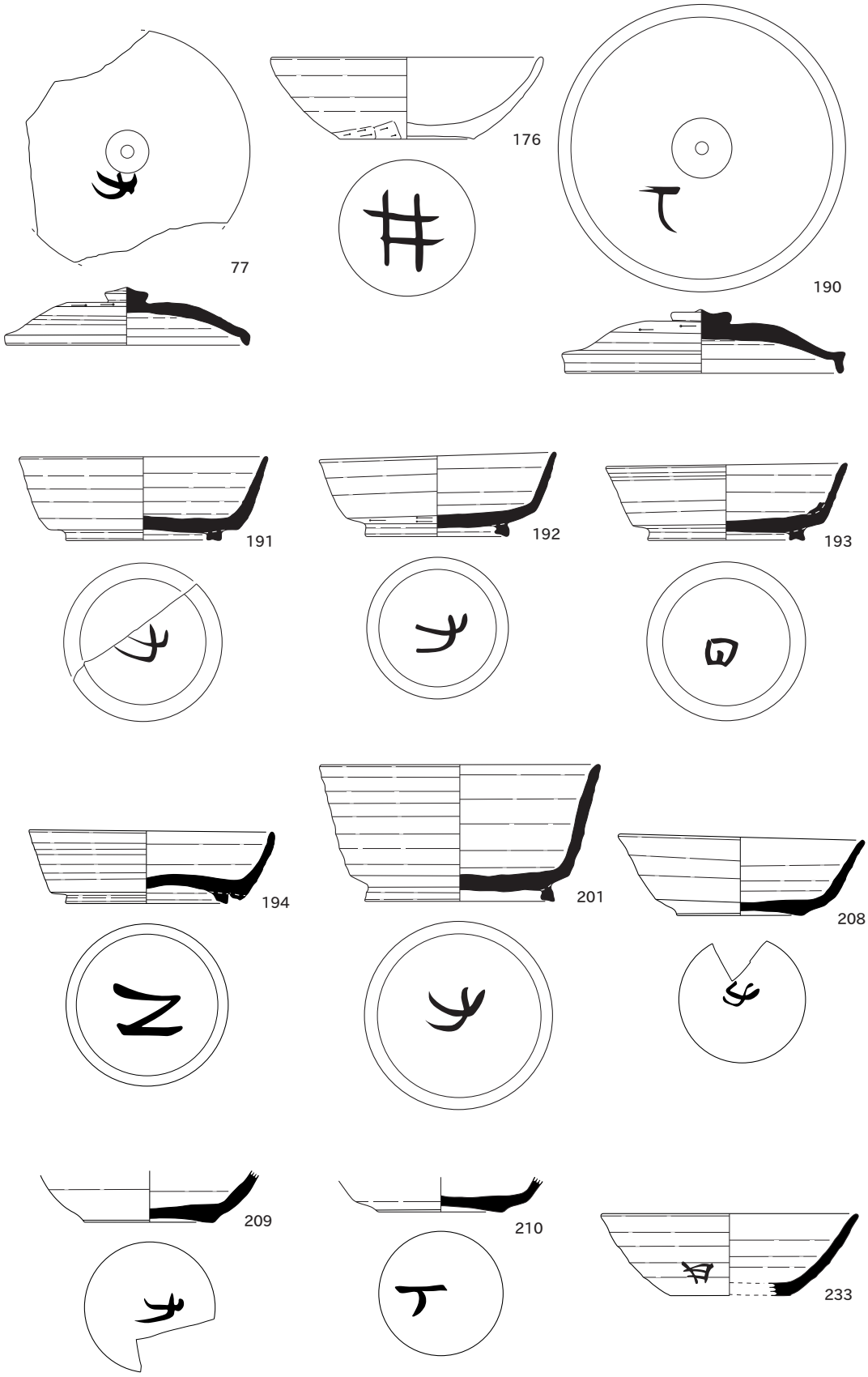
墨書土器 7 点の内の 4 点（344･345･352･353）と刻書土器（336）は、自然流路 SD1200 から出土した。この自然流路は、本遺跡の西側に隣接する北新田遺跡で検出された自然流路 SD1220 と同一の自然流路と考えられ、平成 19 年度に行った北新田遺跡の調査ではこの自然流路から 10 点の墨書土器が出土した[金内ほか 2008]。北新田遺跡出土の墨書土器は、竪穴住居や掘立柱建物などの遺構が密集する自然流路の右岸側から集中して出土した。本遺跡の自然流路から出土した墨書土器等もいずれも右岸側から出土している(第 29 図)。自然流路の右岸側に存在する掘立柱建物などに居住した人々が水辺で行った祭祀に用いたか、あるいは使用した墨書土器を自然流路に投棄したのであろう。

墨書土器等に記載された文字のうち、北新田遺跡出土の墨書土器と共通するものとして「力」（426）と「人」（436）がある。「力」は北新田遺跡の報告書では「丁」もしくは「力」とされているもの（第 30 図 77・191・192・201・208・209）が、筆の入りやはらいなどから「力」と判読でき、本遺跡出土の 426 が共通する。426 は 2 画目の肩がはらず丸みを帯びており、字形も北新田遺跡出土のものと類似している。県内では新発田市桑ノ口遺跡［鶴巻ほか 2003］、同市曽根遺跡［家田ほか 1982］、糸魚川市鰐口下遺跡［鈴木ほか 1989］などで「力」と書かれた墨書土器が出土している。「人」は、北新田遺跡の報告書で「丁」の左文字とされているもの（第 30 図 190）が 1 画目の筆の入る方向から「人」と判読でき、本遺跡出土の 436 が共通する。「人」は全国的に多くの遺跡から出土する文字種であり［平川 2000］、県内でも複数の遺跡で出土している［小林ほか 2004］。

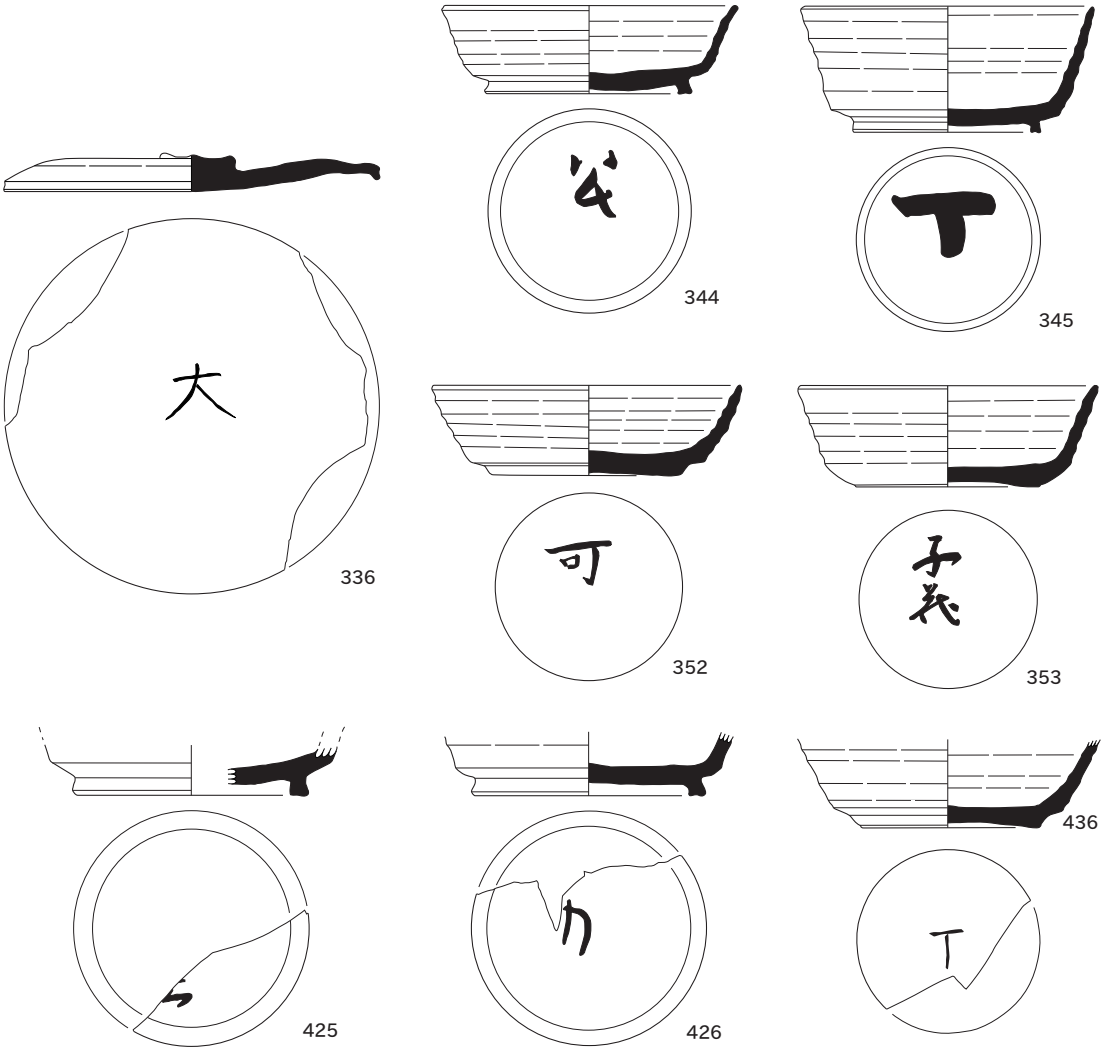
336 は、須恵器杯蓋の内面に「大」と刻書（ヘラ書き）されている。「大」は事物の良好な状態を示す吉祥的な文字と考えられ、多くの遺跡から出土する文字種である。344 は、須恵器有台杯の底部外面のやや上寄りに「公」と記されている。本遺跡の北西約 1 キロメートルに位置する岩ノ原遺跡［高橋ほか 2008］から「公」と書かれた墨書土器が出土しているほか、県内では新発田市曽根遺跡［家田ほか前掲］でも「公」の墨書土器が出土している。345 は、須恵器有台杯の底部外面に太い筆で大きく書かれている。「丁」と判読したが文字と言うよりも記号様である。352 は、須恵器無台杯の底部外面の中ほどよりやや上寄りに細身の筆で書かれており、「可」と判読できる。「可」の文字の出土は県内ではほかに見られない。353 は、須恵器無台杯の底部外面に「子茂」と記されている。2 文字目は「茂」と判読したが「花」の可能性もある。425 は、須恵器有台杯の底部外面に文字が確認できるが欠損のため判読できない。

荒町南新田遺跡から出土した墨書土器等は、いずれも一文字あるいは二文字であり、記された文字の内容については不明とせざるを得ない。

第 29 図　墨書土器出土分布図（S = 1/1,000）



第 30 図　北新田遺跡出土墨書土器（S = 1/3）



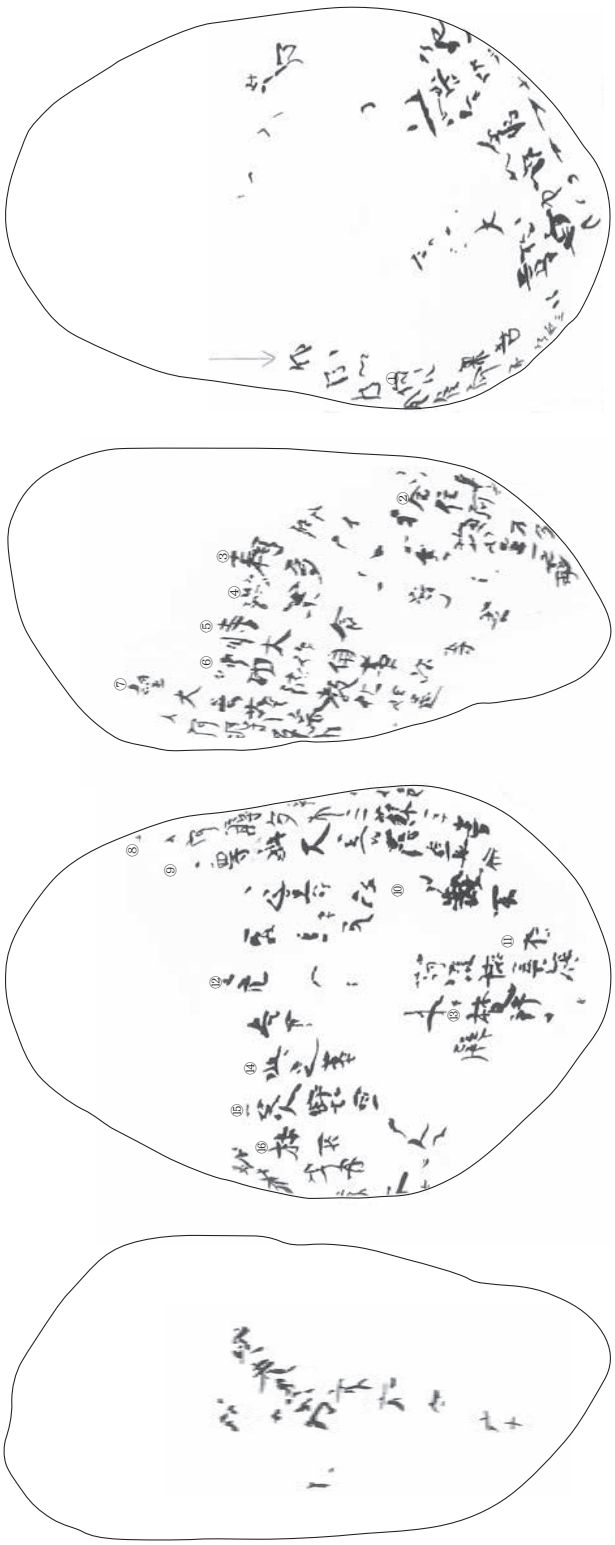
第 31 図　荒町南新田遺跡出土墨書土器（S = 1/3）

4　SE916 出土多字一石経の釈文

多字一石経 1（掲載番号 530）

第32図を参照。多字一石経の文字は『妙法蓮華経従地湧出品第十五』から引用した句と考えられる。⑯「指百歳人」以降にも文字が確認される。かすれているため判読できなかったが、次の経文が続くと考えられるので、以下に掲げておく。

言是我子、其百歳人、亦指年少言是我、父生育我等、是事難信、佛亦如是、得道已來、其實未久、
而此大衆、諸菩薩等、已於無量千萬億劫、爲佛道故、勤行精進、善入出住、無量百千萬億三昧、得大神通、
久修梵行、善能次第、集諸善法、巧於問答、人中之寶、一切世間、甚爲希有、今日世尊、方云得佛道時、
初令發心、教化示導、令向阿耨多羅、三藐三菩提、世尊得佛未久、乃能作此大功德事、我等雖復信佛、
隨宜所說、佛所出言、未曾虛妄佛所知者、皆悉通達、然諸新發意菩薩、於佛滅後、若聞是語、或不信受、
而起破法罪業因緣、唯然世尊、願爲解說、除我等疑、及未來世、諸善男子、聞此事已、亦不生疑、
爾時彌勒菩薩、欲重宣此義、而說偈言、佛昔從釋種、出家近伽耶、坐於菩提樹、爾來尚未久、此諸佛子等、



教化如是　無量無邊
① 阿僧祇　諸　大菩薩
② 令住阿耨多羅三藐三
菩薩　即白佛言　世尊　如來爲太子時　出於釋宮
去伽耶城　不遠坐於道場　得成阿
③ 耨多羅三藐三菩提　從是已來
④ 始過四十餘年　世尊　云何於此少
⑤ 時　大作佛事　以佛勢力　以
⑥ 佛功德　教化如是
無⑦量大菩薩衆
⑧ 當成阿耨多羅三藐三菩提
⑨ 世尊　此大菩薩衆
假使有人　於千萬億⑩劫　數不能盡
不得其邊　斯等久遠已來　於無量無邊諸佛所　⑪植
⑫ 諸善根　成就菩薩道　常修
⑬梵行　世尊
⑭ 如此之事　世所難信　譬如有人
色⑮美髮黑　年二十五
⑯ 指百歲人

※太字が判読可能な部分

第32図　多字一石経1の釈文

其數不可量、久已行佛道、往神通智力、善學菩薩道、不染世間法、如蓮華在水、從地而涌出、皆起恭敬心、往於世尊前、是事難思議、云何而可信、

多字一石経２（掲載番号 531）

釈文不明

5　SE916 出土多字一石経について

A　新潟県内の一石経

一石経は自然礫に経文を書写したもので、礫１点に１字のみ記載したものは一字一石経、２字以上記載したものは多字一石経と呼ばれている［伊藤・水澤 1999］。本遺跡の多字一石経は、SE916 の覆土上層から出土した多量の自然礫に混じって２点（530・531）出土した。SE916 はⅩ期（14 世紀後半～ 15 世紀後半）の遺構に位置付けられ、多字一石経もその時期に比定できるものと考えられる。530 の経文は第Ⅶ章４で先述したように『妙法蓮華経従地湧出品第十五』の一部である。

新潟県埋蔵文化財包蔵地カードや各報告書・文献などを参考にして、新潟県内で確認できた一石経を第 8・9 表にまとめた。古代・中世に属するものは少なく、大部分は近世（江戸時代）に属する。これは全国的な傾向と比較しても大幅な違いはない。この中から出土状況や経文・釈文が判断できる 12 ～ 16 世紀の一石経を、年代の古い順に以下に挙げる。ここでは［関 1990・松原 1994］を参考にし、経文を書写したいわゆる墨書板碑も一石経として捉えた。

① 南魚沼市薬師堂経塚［細矢 1972］

明治 39 年に桑畑内から多字一石経１点が出土している。「法華経壱巻結縁　右書写畢為後世　（葬）也　南無阿弥陀仏　長寛三年（1165 年）六月廿四日　未持謹書　源正永　大熊氏」と記されている。

②　阿賀野市横峯経塚［川上 1979］

２号経塚から五鈷鈴、和鏡、青銅製火舎、青白磁合子等が出土しており、これらの年代等から 12 世紀後半に位置付けられるものと推定されている。中央の土坑内から出土した多量の自然礫の中に「伴覚（貞）宗」、「□貞円」、「如□心為□遊（近）有」、「長茂（成）」、「安弘」と記された墨書礫が８～ 10 個確認されており、一部は人名と推定されている。

③ 胎内市丹後誠也氏所蔵資料［中条町教委 1982］

丹後家の先々代の人が胎内市熱田坂の某氏から譲り受けたとされる多字一石経は２点確認されている。１点は経文と「建久五年（1194 年）五月廿八日」の紀年名が刻まれており、もう１点は『妙法蓮華経薬草喩品第五』の一部が刻まれている。

④ 上越市裏山遺跡［小池・矢田ほか 2000］

１・２・３号経塚からは珠洲Ⅱ期（13 世紀前半）に比定される片口鉢が出土しており、いずれもこの時期に位置付けられるものと推定されている。３基の塚からは計 31 点の多字一石経が出土し、内 15 点の経文が判明している。『般若波羅蜜多心経』１点、『無量義経十功徳品第三』１点を除くとすべて『妙法蓮華経』であり、その内訳は『方便品第二』１点、『譬喩品第三』１点、『薬草喩品第五』２点、『化城喩品第七』１点、『授学無学人記品第九』１点、『従地湧出品第十五』３点、『如来寿量品第十六、分別功徳品第十七』１点、『法師功徳品第十九』２点、『普賢菩薩勧発品第二十八』１点である。

番号	遺跡名	所在地	遺構名	時期	種類	点数	経文・釈文	文献
1	荒町南新田遺跡	上越市荒町字南新田	916 号井戸	14 世紀後半～ 15 世紀後半	多字一石経	2	『妙法蓮華経従地湧出品第十五』	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 210 集　荒町南新田遺跡』2010
							不明	
2	裏山遺跡	上越市岩木字裏山	1 号経塚	13 世紀前半	多字一石経	12	『妙法蓮華経』	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 96 集　裏山遺跡』2000
						1	『般若波羅蜜多心経』	
						13	不明	
			2 号経塚（葺石）			2	『無量義経十功徳品第三』	
							不明	
			3 号経塚（土坑）			1	『妙法蓮華経』	
						2	不明	
			不明			15	不明	
3	しらみ塚	上越市塔ヶ崎字西谷	墳墓？	15 世紀前半以降？	一字一石経	不明	法、要、美、郎、佛、明	『頸城村の文化財（第一集）』1972
4	名立崩れ供養塔	上越市名立字小泊	塔基礎部分	江戸時代［寛延四年（1751 年）以降］	一字一石経	不明	（梵字）	「新潟日報　碑は語る 90」2009.4.5
5	吉谷経塚	上越市坊金字吉谷	経塚	江戸時代	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
6	経塚峯	上越市小黒字経塚峯	経塚	中世？	一字一石経	不明	不明	
7	法定寺経塚	上越市法定寺字花尾	経塚	鎌倉時代？	一字一石経	不明	不明	
8	岩室経塚	上越市岩室字道屋敷	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
9	顕聖寺経塚	上越市顕聖寺字牧山	経塚	不明	一字一石経	1	不明	
10	六日町大光行人の塚	上越市六日町字大光寺	経塚	不明	一字一石経	不明	人、住など	
11	観音堂経塚	上越市国川字観音堂	経塚	室町時代	一字一石経	不明	不明	
12	国川経塚	上越市国川字宮ノ脇	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
13	中原遺跡	糸魚川市大和川字中原	包含層	不明	多字一石経	1	表：『妙法蓮華経序品第一』、裏：阿	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 45 集　糸魚川地区発掘調査報告書Ⅰ』1986
14	中浜の塚	糸魚川市中浜字細畑	塚	不明	一字一石経	不明	不明	『新潟県糸魚川市　遺跡詳細分布調査報告書』1984
15	坪山経塚	糸魚川市能生字坪山	経塚	鎌倉時代末期	一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
16	大平寺経塚	糸魚川市大平寺字岡畑	経塚	中世？	一字一石経	不明	不明	
17	久保田経塚	妙高市姫川原字久保田	2 号経塚	江戸時代	一字一石経	18	不、嵩、利、輻、大、盆、庄、侒、東、中、我、木、有、陀、詞、任	『新井市埋蔵文化財調査報告書第 14 集　平成 3 年度新井市遺跡確認調査報告書』1992
					一石経	103	不明	
18	下峰経塚	妙高市土路字下峰	経塚	中世～近世？	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
19	宮林 B 遺跡	湯沢町神立字宮林	1 号経塚	15 ～ 16 世紀	一字一石経	163	人、生、一、億、大、有、父、諸、化など	『湯沢町埋蔵文化財調査報告書第 6 集　川久保遺跡・宮林 B 遺跡』1987
20	宮林経塚遺跡	湯沢町神立字宮林	1 号経塚	江戸時代初期？	一字一石経	753	衆、者、所、不、若、諸、菩、佛、是、世、人、万、来、生、見、百、無、法、供、已、種、如、方、点、出など 307 種	『湯沢町埋蔵文化財調査報告書第 15 集　宮林経塚遺跡（七ツ塚）』1999
21	平間経塚	湯沢町上樽字平間	経塚	不明	一字一石経	不明	経、説、基、明、衆、弟、何、竹、無、舎、木、哉、即	
22	関下経塚	湯沢町上樽字西	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
23	観音堂原経塚	津南町赤沢字観音堂原	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
24	上野経塚	津南町上郷上田字上野	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
25	長慶庵跡	南魚沼市大木六字藤塚	寺院址	室町時代？	一字一石経	不明	不明	細矢菊治『南魚沼郡の歴史』1972
26	薬師堂経塚	南魚沼市余川字猪ノ尻	経塚？	長寛三年（1165 年）銘	多字一石経	1	法華経壱巻結縁 右書写畢為後世 （葬）也 南無阿弥陀仏 長寛三年六月廿四日 末持謹書 源正永 大熊氏	
27	大行寺経塚	南魚沼市大沢字正宗寺	経塚	嘉慶二年（1388 年）銘の板碑と共伴	一字一石経	不明	不明	
28	日渡経塚	南魚沼市君沢字日渡	経塚	江戸時代初期？	一石経	不明	不明	
29	小野塚氏経塚（砂田経塚）	南魚沼市関山字砂田	経塚	文政三年（1820 年）埋経	一字一石経	不明	不明	
30	西光寺経塚	南魚沼市滝谷	経塚	江戸時代末期埋経	一字一石経	不明	不明	
31	岩山経塚	南魚沼市五箇字岩山	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
32	欠之上経塚	南魚沼市欠之上字上之山	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
33	岡の経塚（おぎょう塚）	南魚沼市岡村字名木沢原	経塚	不明	一石経	不明	経、覚如書	
34	きちがい塚	南魚沼市余川字柳枝	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
35	金が沢経塚	魚沼市金が沢	経塚	江戸時代	一字一石経	不明	不明	『三島町史　上巻』1984
36	坂下経塚	十日町市下山字坂下	経塚	不明	多字一石経	不明	不明	『新潟県文化財調査年報 14　松代・松之山』1975
37	岡林古墓	小千谷市千谷字岡林	2 号墳墓	室町時代	一字一石経	不明	不明	『小千谷市埋蔵文化財調査報告書第 4 集　市内遺跡詳細分布調査報告』1990
38	久兵衛経塚	小千谷市吉水字中島	経塚	室町時代？	一字一石経	不明	不明（梵字を墨書した礫と混在）	
39	長左衛門経塚	小千谷市時水字岡田	経塚	室町時代？	一字一石経	不明	不明	
40	和十郎経塚	小千谷市時水字岡田	経塚	室町時代？	一字一石経	不明	不明	
41	竜ヶ池観音堂塚群	小千谷市桜町	22 号経塚	15 世紀前半以降	一字一石経	275	是、薩、人、阿、不、持、佛、若、一、百、法、生、切、我、得、王、在、富、丘、日、言、諸、所、見、安など 149 種	『小千谷市埋蔵文化財調査報告書第 2 集　竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ』1983
42	宝塔様経塚	小千谷市山谷	経塚	不明［享保 16 年（1731 年）銘の石碑あり］	多字一石経	1	表：侵毀是諸佛己 □特□沙門天王護世者 白佛言 世尊我亦為愍念 衆生擁護此法師 故説是陀羅尼 即説□曰 裏：阿梨那梨□那梨阿那盧那履拘那履世尊以是神□擁護法師我亦自當擁護持是経者令百由旬内無	
43	山寺五智院址	小千谷市稚生字大久保	寺院址	不明	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
44	沢下条経塚	長岡市沢下条字村前	経塚	不明	一字一石経	不明	誦、獏、乗、来など	『越路町史　資料編 1　原始・古代・中世』1998
45	大野積経塚	長岡市野積	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	『寺泊町史　資料編 1　原始・古代・中世』1991
46	鰺塚	長岡市釜沢町字長者ヶ原	経塚	中世？	一字一石経	1	経	『長岡市史　資料編 1　考古』1992
47	北の谷経塚	長岡市深沢町字上ノ山	経塚	不明［江戸時代末期発掘］	一字一石経	不明	衆、主、供など	
48	七社宮経塚	長岡市蓮花寺	経塚	中世以降	一字一石経	不明	不明	『三島町史　上巻』1984
49	池ノ上塚	長岡市島崎小谷字池ノ上	経塚？	不明	一石経？	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
50	熊袋寺院址	長岡市熊袋字村上	寺院址	不明	一字一石経	不明	不明	
51	太田神社埋経遺跡	見附市太田町太田神社	神社境内	不明	一字一石経	2	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
52	朝日山塚群	燕市国上字要害	経塚？	不明	多字一石経	1	『妙法蓮華経信解品第四』	藤田正太郎「経文墨書岩片」『越佐研究 44』1987
53	宝珠院経塚	燕市国上字居下	経塚	中世以降？	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
54	庚申塚経塚	柏崎市横山字庚申塚	経塚	16 世紀	多字一石経	471	『妙法蓮華経』	『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 34 集　横山東遺跡群Ⅰ』2000
						1	『仏説観普賢菩薩行法経』	
						2041	不明	
					一字一石経	1748	『妙法蓮華経』？	
55	上軽井川経塚	柏崎市上井軽川	経塚	不明［隣接する経塚は建久八年（1197 年）銘の経筒出土］	一字一石経	20	可、道、仏、経、世、見、応、来、是、後、方、更、集、仙、呼、種、彼、己など	金子拓男「新潟県柏崎市軽井川の経塚」『越佐研究 22』1965
					一石経	5	不明	

第 8 表　新潟県の一石経（1）

番号	遺跡名	所在地	遺構名	時期	種類	点数	経文・釈文	文献
56	万福寺経塚	柏崎市東之輪	経塚？	不明	一字一石経	不明	南、無、妙、法、蓮、華、経など	『柏崎市史資料集　考古編１』1987
57	車塚	柏崎市新道	墳墓？	中世？	一字一石経	不明	是、夫、水	『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第３４集　横山東遺跡群Ⅰ』2000
58	小児石遺跡	柏崎市両田尻字小児石	90 号土坑？	中世	多字一石経	1	不明	『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第１５集　小児石』1991
			不明	中世	多字一石経	1	『阿弥陀経』「須彌光佛　妙音佛如是　等恒河沙數　諸佛」	
59	谷地薬師堂経塚	柏崎市半田	（墓地内）	江戸時代？	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
60	細越松尾神社	柏崎市細越	宝篋印塔下	江戸時代？	一字一石経	不明	不明	『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第３４集　横山東遺跡群Ⅰ』2000
61	猿ヶ馬場経塚	弥彦村麓字天乞山	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
62	馬場屋敷遺跡	新潟市庄瀬	経塚	江戸時代	一字一石経	377	世、施、門、甚、婆、聖、盡、身、紗、福、度、久、非、謹、法、應、拜、汝、持、得、音、薩、阿、分、羅、段、恐など	『白根市埋蔵文化財調査報告書第２集　馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』1983
63	寸苗庵経塚	新潟市鳥屋	（地蔵堂）	天保 11 年（1840 年）銘	多字一石経	不明	不明	『豊栄市史　考古編』1988
64	鍛冶小路	新潟市西堀前通	不明	不明	一石経	不明	薩及、薩白佛言、為天人阿、則為侵毀是□	『市史にいがた 5』1989
65	海運寺経塚	新潟市間瀬字高屋	経塚	江戸時代	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
66	夏井経塚	新潟市夏井字ゴロゴロ山	経塚	中世～近世？	一字一石経	不明	不明	
67	九ツ塚	新潟市矢代田字三沢原	塚	不明	一字一石経	不明	不明	
68	大蔵経塚	五泉市大蔵字真福	経塚（真福寺跡）	不明［真福寺は天正四年（1576 年）中興開山］	一字一石経	不明	法、語、者、然、讀、菩	『五泉市史　資料編１　原始・古代・中世』1994
69	伝本経塚	五泉市木越字伝本	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
70	横峰経塚	阿賀野市寺社字横峰	2 号経塚	平安後期～鎌倉前期	墨書礫	8 ～ 10	伴覚（真）宗、□貞円、如□心為□遊（近）有、長茂（成）、安弘	『安田町埋蔵文化財調査報告書第４集　横峯経塚群』1979
71	一本松経塚	阿賀野市上飯塚字大沼	経塚	不明	一字一石経	不明	誰、曹、念若	『笹神村史　資料編１　原始・古代・中世』2003
72	賽の河原経塚	阿賀野市勝屋	経塚	不明	一字一石経	不明	諸、亦、天、逮、得、刹、均、序品	
73	乞食塚	阿賀野市南沖山	塚	不明	板碑	1	天下泰平　南無妙法蓮華経　五經成就	
74	堤之上経塚	阿賀町平堀字堤之上	2 号経塚	不明	一字一石経	不明	不明	『東蒲原郡史　資料編１　原始』2006
75	北野遺跡	阿賀町九島字長木	墳墓？	不明	一字一石経	1	礼	『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 141 集　北野遺跡Ⅱ（上層）』2005
76	宝積寺館	新発田市上三光字円満	27 号土坑	15 ～ 16 世紀	墨書板碑	1	キリーク（梵字）、『観世音菩薩往生浄土本縁経』	『新発田市埋蔵文化財調査報告書第 13 集　三光館跡・宝積寺館跡』1990
77	館屋敷経塚	新発田市八幡字館屋敷	経塚	室町時代	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
78	岩谷経塚	新発田市小戸字岩谷	経塚	室町時代	一字一石経	不明	不明	
79	浜山経塚	新発田市藤塚浜字浜山	経塚	室町時代？	一字一石経	不明	不明	
80	田貝経塚	新発田市田貝	経塚	中世？	板碑？	不明	不明	
81	八幡神社塚	新発田市大栄町	（八幡宮境内）	中世～近世？	一字一石経	19	『金光明最勝五経』	
82	地蔵塚	新発田市早道場字石橋	塚	江戸時代？	一字一石経	不明	不明	
83	丹後誠也氏所蔵資料	胎内市熱田坂	不明	建久五年（1194 年）銘	多字一石経	1	表：今此諸大衆皆応除疑惑 諸仏語無異 唯一(無)二(乗) 過去無数劫 無量滅(度)仏 百千萬億種 其数不可量（如是諸世尊）（種種縁譬喩）（無数方便力）（演説）諸法（相） 是諸世（尊等）皆説一（乗法）（化）無量衆生 令入於仏道 又諸大聖主 如一切世間 裏：天人（群）生類 深心之（所欲） 建久五年五月廿八日 禅師房	『中条町史　資料編１　考古・古代・中世』1982
				不明	多字一石経	1	『妙法蓮華経薬草喩品第五』	
84	乙宝寺	胎内市乙	（寺院境内）	文安三年（1446 年）銘	墨書板碑	3	『延命地蔵経』、光明真言（梵字）、ソワカ（梵字）	『中条町遺跡群細分布調査報告書』1980『中条町史　資料編１　考古・古代・中世』1982
				文安三年（1446 年）銘の墨書板碑と共伴？	多字一石経	8	不明	
			経塚	天明八年（1788 年）銘の供養塔あり	多字一石経	5020	『大般若波蜜多経』	『中条町埋蔵文化財調査報告書第９集　平成７年度町内遺跡確認調査報告書』1996
85	上坪穴	胎内市上坪穴	不明	長禄二年（1458 年）銘	墨書板碑	1	バク・ダ（梵字）、『妙法蓮華経譬喩品第三』	『中条町史　資料編１　考古・古代・中世』1982
86	築地	胎内市築地	不明	大永六年（1526 年）銘	墨書板碑	1	マン（梵字）、南無大師遍照金剛	
87	下館	胎内市下館字坪頭	不明	天文十一年（1542 年）銘	墨書板碑	1	ユ（梵字）、経文など	戸根与八郎ほか「六七日忌の墨書供養塔婆」『高志路 255』1980
88	下町・坊城遺跡	胎内市下町・坊城	16 号土坑	天文十八年（1549 年）銘	墨書板碑	4	ウーン、光明真言（梵字）など	『中条町埋蔵文化財調査報告書第 20 集　下町･坊城遺跡Ⅳ』2000
				16 世紀			バン、ウーン、タラーク、キリーク、ア（梵字）	
							ウーン（梵字）	
							為など	
				元亀三年（1572 年）銘		1	南無大師遍照金剛	
				16 世紀		3		
89	金掘沢	胎内市羽黒字仁谷野	不明	中世？	多字一石経	5	不明	『中条町遺跡群細分布調査報告書』1980
90	鷲山経塚	胎内市持倉字鷲山	経塚	中世？	一石経	3	『妙法蓮華経』	埋蔵文化財包蔵地調査カード
91	春木山遺跡	村上市羽ヶ榎	6 号墳墓	15 世紀後半以降	一字一石経	31	バン、ア、ケン、オン、バ、キリーク、アー、アク、カン、ラ、ラ・バ・ア（梵字）、佛、丘、道	『荒川町埋蔵文化財調査報告書第１４集　春木山遺跡Ⅰ』2008
92	西部遺跡	村上市牛屋字西部	100 号集石	江戸時代	一字一石経	54	キャカラバア、キャ、カ、ラ、バン、キリーク、アーンク、ウン、ヂク（梵字）、南無、南、経、金	『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 148 集　西部遺跡Ⅰ』2005
93	正樹院屋敷	村上市北新保字正樹院屋敷	寺院址	室町時代	一字一石経	不明	不明	埋蔵文化財包蔵地調査カード
94	大場沢	村上市大場沢十三塚	経塚？	不明	一字一石経	不明	不明	
95	笹平経塚	村上市笹平字浦山	経塚	不明	一字一石経	不明	不明	
96	大石中浜	佐渡市大石字中浜	（廟所）	中世末期？	一字一石経	不明	無、種、攬、大、説、叶、寶、應、作、妙、法、歓、供、佛	計良勝範「佐渡の一字一石経」『佐渡史学 13』1989 埋蔵文化財包蔵地調査カード
97	上ノ山経塚	佐渡市大橋字上ノ山	経塚	中世末期？	一字一石経	不明	一、福、塔、経、阿、至、生、庄、清、供、十、鼓	
98	西方峯岸	佐渡市大橋	（諏訪神社）	中世末期？	一字一石経	不明	於、是、大、慧、密	
99	天沢経塚	佐渡市羽茂本郷字天沢	経塚	中世末期？	一字一石経	不明	無、十	
100	井坪	佐渡市井坪	（熊野神社）	中世末期？	一字一石経	不明	梅	
101	椿尾高野	佐渡市高野	（古社址）	中世末期？	墨書板碑？	400	（梵字）	
102	登立経塚	佐渡市徳和字登立	経塚	中世末期？	一字一石経	不明	方、順	
103	妙経寺	佐渡市中原	石塔下	享保十六年（1731 年）埋経	一字一石経	不明	『妙法蓮華経』	
104	経島	佐渡市経島	石塔下	安永九年（1780 年）埋経	一字一石経	不明	『妙法蓮華経』	
105	玉泉寺	佐渡市玉泉寺	石塔下	天明六年（1786 年）埋経	一字一石経	不明	『妙法蓮華経』	

第９表　新潟県の一石経（2）

⑤柏崎市小児石遺跡［品田 1991］

多字一石経が 2 点出土している。内 1 点は『阿弥陀経』の一部「須彌光佛　妙音佛如是　等恒河沙數諸佛」と記されている。明確に伴う遺構が確認できないものの、遺跡自体が 13 世紀～ 16 世紀にかけての墓地と推定されることから、墓に伴っていた可能性が高い。

⑥南魚沼市大行寺経塚［細矢 1972］

昭和 10 年の発掘の際、阿弥陀如来を表す「キリーク」の梵字や蓮台の一部と「嘉慶二年（1388 年）六月」の紀年銘を刻んだ板碑が出土している。そのほかに宋銭と一字一石経が数十個出土している。

⑦小千谷市竜ヶ池観音堂塚群［池田 1983］

22 号経塚から 21 枚の古銭が出土している。この中の最新銭貨は永楽通寶であることから、15 世紀前半以降に位置付けられるものと推定されている。塚頂部の盛土最上層である小礫層の中から 275 個の一字一石経が出土している。「是」、「薩」、「人」等の 149 種類の文字が記されている。

⑧胎内市乙宝寺［中条町教委 1982］

乙宝寺は天平年間に婆羅門僧正と行基上人が開山したと伝わる真言宗智山派の寺院で、境内から墨書板碑 3 基と多字一石経 8 個が出土している。内 1 基の板碑には『延命地蔵経』の一部や光明真言と共に「文安三年（1446 年）」の紀年銘が記されている。

また参道階段脇の大般若供養塔付近から 5,020 個の『大般若波羅蜜多経』を記した多字一石経が出土している。供養塔には「天明八年（1788 年）六月二十八日」の紀年銘が刻まれており、多字一石経は供養塔を建てた際に納経されたものと考えられている［水澤 1996］。

⑨胎内市上坪穴［中条町教委 1982］

昭和 41 年に供養塔婆と考えられる墨書板碑が出土している。釈迦如来を表す「バク」・「ダ」の梵字や『妙法蓮華経譬喩品第三』の一部と共に「長禄二年（1458 年）」の紀年銘が記されている。

⑩村上市春木山遺跡［吉井 2008］

6 号塚は 19 基の墓坑上に集石を盛ったもので、墳墓と考えられている。周辺の土器の年代や墳墓の形態から 15 世紀後半以降に位置付けられるものと推定されている。集石の最上層から自然礫と共に 31 個の一字一石経が出土している。「佛」、「丘」、「道」等の文字が記されている。

⑪ 新発田市宝積寺館跡［田中ほか 1990］

墓坑と推定される 27 号土坑は出土遺物と遺構の切り合い関係から 15 ～ 16 世紀に位置付けられるものと推定されている。上層から墨書板碑が 1 点出土し、阿弥陀如来を表す「キリーク」の梵字と『観世音菩薩往生浄土本縁経』の一部が記されている。

⑫湯沢町宮林 B 遺跡［佐藤 1987］

1 号経塚は出土遺物と塚上に植えられていた古木の年代から 15 ～ 16 世紀に位置付けられるものと推定されている。塚頂部の盛土最上層である小礫層の中から 163 個の一字一石経が出土し、「人」、「生」、「一」等の文字が記されている。

⑬柏崎市庚申塚経塚［品田・伊藤ほか 2000］

塚内の埋納部からは錫杖頭、伏鉦、北宋銭等が出土し、それらの年代等から 16 世紀に位置付けられるものと推定されている。埋納部を中心に一字一石経と多字一石経が 13,868 点（内文字を判読できたもの 4,261 点）出土している。判明できた経文は『仏説観普賢菩薩行法経』1 点を除くとすべて『妙法蓮華経』であり、その内訳は『序品第一』6 点、『方便品第二』27 点、『譬喩品第三』60 点、『信解品第四』48 点、『薬

草喩品第五』13 点、『授記品第六』12 点、『化城喩品第七』84 点、『五百弟子受記品第八』39 点、『授学無学人記品第九』14 点、『法師品第十』18 点、『見宝塔品第十一』28 点、『提婆達多品第十二』6 点、『勘持品第十三』12 点、『安楽行品第十四』25 点、『従地湧出品第十五』20 点、『如来寿量品第十六』2 点、『分別功徳品第十七』14 点、『随喜功徳品第十八』3 点、『法師功徳品第十九』12 点、『常不軽菩薩品第二十』2 点、『薬王菩薩本事品第二十三』14 点、『妙音菩薩品第二十四』8 点、『観世音菩薩普門品第二十五』1 点、『陀羅尼品第二十六』1 点、『普賢菩薩勧発品第二十八』2 点である。

時期は不明であるが妙法蓮華経を記した多字一石経は、糸魚川市中原遺跡『序品第一』［高橋 1986］、燕市要害『信解品第四』［藤田 1987］でも出土している。

⑭胎内市築地［戸根ほか 1980a・中条町教委 1982］

畑地から供養塔婆と考えられる墨書板碑が出土している。表面に文殊菩薩を表す「マン」の梵字と「大永六年（1526 年）五月十日」の紀年銘等が、裏面には「南無大師遍照金剛」と記されている。

⑮胎内市下館［戸根ほか 1980b］

畑地から供養塔婆と考えられる墨書板碑が出土している。上部中央に弥勒菩薩を表す「ユ」の梵字が墨書され、その下に「天文十一年（1542 年）」の紀年銘と経文不明の偈頌が四行記されている。

⑯胎内市下町・坊城遺跡［水澤 2000］

16 号土坑下層から多量の自然礫が出土し、その中に光明真言や「南無大師遍照金剛」等を記した墨書板碑 8 点を確認している。そのうち 2 点には「天文十八年（1549 年）」、「元亀三年（1572 年）」の紀年銘が記されている。

⑰長岡市糠塚［長岡市教委 1992］

昭和 10 年の発掘の際、塚内から珠洲焼、刀子、鏡などが出土し、塚の構築時期は中世に位置付けられるものと推定される。上記の遺物とともに「経」と記された一字一石経 1 点が出土している。

⑱柏崎市車塚［田村 1954］

塚内から人骨や渡来銭が出土したことから中世の墳墓と考えられている。上記の遺物とともに「是」、「夫」、「水」などと記された一字一石経が出土している。

上記 18 例を出土遺構別に見ると、経塚 8、墓（可能性があるものも含む）8、寺院 1、不明 1 となる。

全国的に見ても一石経は中世から近世の経塚から出土することが多く、それ以外では①寺院・神社関連の建物の堂宇下または柱穴内、②塔基壇内、③石造物地下、④墳墓内、⑤窟内、⑥再利用した古墳石室内、⑦園地内からの出土事例が確認されている［松原 1994］が、本遺跡のように中世集落内の井戸からの出土は、ほかに類例が見られない。今後の資料の増加をまって検討したい。

B　中世の井戸から出土する石造物について

中世の井戸から出土する石造物を見ると、隣接する上越市北新田遺跡の SE966 覆土中から五輪塔（地輪）、SE999 の底面付近から五輪塔（火輪・水輪・地輪）が多量の自然礫に混じって出土している。五輪塔は火熱を受けた痕跡は確認できなかった［金内ほか 2008］。同樋田遺跡の SE8 の底部からは五輪塔（火輪・水輪・地輪）が多量の自然礫に混じって出土しており、いずれも火熱を受けている［戸根・室岡ほか 1990］。同木崎山遺跡 SE6 の石組みの井戸側を構築する石の中に五輪塔（地輪）が出土している［戸根ほか 1992］。村上市長松遺跡では、SE19 の覆土中層から下層にかけて多量の自然礫が出土し、それらに混

じって宝篋印塔、五輪塔（地輪）、板碑が出土している。また SE45 の石組みの井戸側を構築する石の中に阿弥陀如来「キリーク」、観音菩薩「サ」、勢至菩薩「サク」の梵字を刻んだ板碑が出土している［田辺 1991］。

五輪塔や板碑の出土状況を見ると、①北新田遺跡・樋田遺跡・長松遺跡 SE19 のように多量の自然礫と共に出土するものと、②木崎山遺跡・長松遺跡 SE45 のように石組みの井戸側の部材として利用されるものとに二分され、SE916 出土の多字一石経は①のケースに類似している。またいずれのケースも墓石である五輪塔や板碑をほかの目的に利用していることから、中世の段階で墓の移転・改葬に伴う「魂抜き法要」［成瀬 1992］が行われていた可能性も考えられる。

仏教関連の石造物は見られないものの、中世の井戸の覆土中、特に下層から多量の自然礫が出土する事例は上越市仲田遺跡［加藤 2003］、同用言寺遺跡［加藤ほか 2006・2007］等で確認されており、これらの自然礫は「周辺の地山に自然状態で存在するものではなく、川原からあえて持ち運んできたものと見られる。（中略）川原から持ち込まれた礫が、一括投棄されたかのように検出された状況を偶発的な事象とは考えられず、井戸の廃棄儀礼の一つと考えられる。」と推定されている［加藤 2008］。

荒町南新田遺跡 SE916 及び北新田遺跡 SE966・SE999 における自然礫の出土状況は上記の事例と類似しており、これらの井戸では廃棄儀礼が行われ、多字一石経や五輪塔はその際に自然礫と共に井戸に投棄したものと推測できる。しかし、自然礫と共に多字一石経や五輪塔を投棄した意図については、類例が少ないこともあり現段階では不明とせざるを得ない。

要　　約

1　荒町南新田遺跡は新潟県上越市大字荒町字南新田 286 番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約 18m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年 4 月 17 日～ 11 月 28 日まで実施した。調査面積は 12,021m^2 である。

3　弥生時代後期～中世にかけての集落遺跡である。隣接する北新田遺跡と合わせて弥生時代後期、古墳時代前期初頭、古墳時代前期末～中期、7 世紀前葉～中葉、8 世紀前葉～中葉、9 世紀前葉～中葉、12 世紀末～ 13 世紀前半、14 世紀後半～ 15 世紀後半の自然流路を中心とした集落の変遷が確認できる。

4　遺構のほかに調査区西側で自然流路 1 条を検出した。自然流路から出土した土器・土製品は弥生時代後期～古代に限定され、中世のものは確認できなかったことから、存続時期は弥生時代後期～古代と推測される。

5　出土土器・土製品・陶磁器の総重量は 612kg である。その中の約 5 割は遺構内、約 1 割は自然流路から出土した。

6　弥生時代の遺構は、竪穴住居 1 棟、平地建物 1 棟、土坑 12 基、溝 5 条、性格不明遺構 4 基がある。遺物は弥生土器、ガラス製小玉がある。時期は後期に限定される。

7　古墳時代の遺構は、竪穴住居 11 棟、円形周溝状遺構・平地建物 4 棟、土坑 5 基、溝 1 条があり、自然流路の右岸に沿うような形で確認できる。前期～中期と後期（7 世紀前葉～中葉）に二分され、後期が主体となる。遺物は土師器、須恵器、石錘、敲石、管玉、耳環のほか、自然流路から出土した曲柄平鍬、杭がある。

8　古代の遺構は、掘立柱建物 26 棟、井戸 2 基、土坑 16 基、道 3 条、溝 7 条、性格不明遺構 5 基があり、自然流路の右岸に集中して確認できる。遺物は土師器、須恵器、凹石、砥石がある。土器の年代から判断すると、8 世紀前半、9 世紀前半、10 世紀末～ 11 世紀初頭と断続的ながらも多時期のものがあり、8 世紀前半が主体となる。

9　中世の遺構は、掘立柱建物 40 棟、井戸 40 基、土坑 17 基、溝 18 条、畑作溝 1 群、性格不明遺構 4 基があり、自然流路の右岸から 15m 以上離れた場所で多く確認できる。遺物は土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸美濃焼、砥石、石臼、刀子、銭貨、五輪塔、多字一石経、井戸側がある。土器・陶磁器の年代から判断すると、12 世紀末～ 13 世紀前半と 14 世紀後半～ 15 世紀後半に集落規模が大きくなるものと考えられる。

10　多字一石経は縦板の井戸側を持つ井戸（SE916）の上層から 2 点出土し、そのうち 1 点は『妙法蓮華経従地涌出品第十五』から引用した句が書かれていた。これまでの出土事例では、経塚から多数出土していることが多く、中世の井戸からの出土例は全国的にも確認されていない。今後の調査事例の増加が期待される。

引用・参考文献

家田順一郎ほか　1982 『曽根遺跡Ⅱ』 新潟県豊浦町教育委員会
池田　亨ほか 1983　『竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ』 新潟県小千谷市教育委員会
池田　亨　 1999　『宮林経塚遺跡（七ツ塚）』 新潟県湯沢町教育委員会
石川智紀ほか 1998　『旧得法寺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
稲荷弘信ほか 1986　「上越市旧高田市地区」『新潟県の地名』日本歴史地名体系第 15 巻　平凡社
井上鋭夫・奥田直栄ほか　1966 『御館跡緊急調査経過報告』 新潟県教育委員会
市村勝巳ほか 1990　『南栗遺跡』（財）長野県埋蔵文化財センター
伊藤啓雄・水澤幸一　1999 「中世の信仰と墓制」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
岩本正二　 2005　「草戸千軒町遺跡の井戸」『考古学ジャーナル』537　ニューサイエンス社
上田秀夫　 1982　「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会
上原甲子郎　1962　『磐舟』 新潟県教育委員会
宇賀神誠司ほか　1999 『栗毛坂遺跡群ほか』（財）長野県埋蔵文化財センター
臼田武正ほか 1999　『芝宮遺跡群・中原遺跡群』（財）長野県埋蔵文化財センター
遠藤孝司ほか 1990　『市内遺跡詳細分布調査報告書』 新潟県小千谷市教育委員会
大木紳一郎ほか　1995 『今井道上・道下遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
大平理恵　 2001　『南原遺跡』 新潟県板倉町教育委員会
大家　健　 2003　『中世越後の旅－永禄六年北国下りの遺足－』 野島出版
尾崎高宏ほか 2005　『下馬場遺跡・細田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小田由美子ほか　2006 『滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
折原洋一ほか 2005　『西部遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実　 2003　「越後出土の円筒形土製品・板状土製品について」『富山大学考古学研究室論集』
春日真実　 2006　「越後における 7 世紀の土器編年」『新潟考古』17　新潟県考古学会
春日真実ほか 2008　『六反田南遺跡・前波南遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学・荒川隆史　1999 『和泉Ａ遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2003　『仲田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2006　『用言寺遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2007　『用言寺遺跡Ⅱ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学　 2008　「井戸の調査における視点」『低地の集落遺跡―古墳時代～中世を中心として―』（平成 20 年度市町村埋蔵文化財専門職員実務研修①資料）　新潟県教育庁文化行政課
金内　元ほか 2008　『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鐘方正樹　 2003　『井戸の考古学』 同成社
金子拓男　 1965　「新潟県柏崎市軽井川の経塚」『越佐研究』22　新潟県人文研究会
金子拓男・戸根与八郎　2003 「御館跡」『上越市史叢書 8　考古－中・近世資料－』 新潟県上越市
川上貞雄　 1979　『横峯経塚群』 新潟県安田町教育委員会
北田裕行　 2000　「古代都城における井戸祭祀」『考古学研究』47-1　考古学研究会
久世康博　 2001　「井戸はどうして埋められたのか（序論）」『西田弘先生米寿記念論集－近江の考古と歴史－』真陽社
久世康博　 2001　「井戸はどうして埋められたのか（石を入れる）」『考古学論集』5　考古学を学ぶ会
久世康博　 2002　「井戸はどうして埋められたのか（木を入れる）」『田辺昭三先生古稀記念論文集』 真陽社
計良勝範　 1989　「佐渡の一字一石経」『佐渡史学』13　佐渡史学会
小池義人・矢田俊文ほか　2000 『裏山遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小島幸雄　 1979　『新潟県上越市岩木地区遺跡群発掘調査報告書』 新潟県上越市教育委員会
小島幸雄　 1983　『伝至徳寺跡発掘調査報告書　越後府中における中世遺跡の調査』 新潟県上越市教育委員会
小島幸雄　 1994　「伝至徳寺跡の調査」『日本歴史』556　吉川弘文館
小島幸雄ほか 1996　『横曽根Ⅱ遺跡ほか発掘調査報告書』 新潟県上越市教育委員会
小林昌二ほか 2004　『新潟県内出土古代文字資料集成』 新潟大学
駒見和夫　 1992　「井戸をめぐる祭祀―地域的事例の検討から―」『考古学雑誌』77-4　日本考古学会
酒野晶子　 2006　「織機」『日本考古学事典』 三省堂

坂井秀弥ほか 1984　『今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
坂井秀弥ほか 1997　「中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸―考古学が語る社会史－』 桂書房
坂詰秀一編 2003　『仏教考古学事典』 雄山閣
笹沢正史ほか 1999　『津倉田遺跡』 新潟県上越市教育委員会
笹沢正史・水澤幸一 2001　「伝至徳寺の遺物様相－中世前半を中心として－」『上越市史研究』6　新潟県上越市
笹沢正史 2003　「第５章古代 第１節時代概説」『上越市史 資料編２考古』 新潟県上越市
佐藤雅一 1987　『川久保遺跡・宮林Ｂ遺跡』 新潟県湯沢町教育委員会
三和村教育委員会 2002 『三和村史－自然・考古編－』
品田高志 1991　『小児石』 新潟県柏崎市教育委員会
品田高志・伊藤啓雄ほか 2000 『横山遺跡群Ⅰ』 新潟県柏崎市教育委員会
下城 正ほか 1997　『櫛島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
菅沼 亘ほか 2003　『馬場上遺跡発掘調査報告書』 新潟県十日町教育委員会
鈴木俊成ほか 1989　『鰐口下遺跡・美山遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成ほか 1994　『一之口遺跡東地区』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
関 秀夫 1990　『経塚の様相とその展開』 雄山閣
関 雅之 2001　「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器－阿賀北地域の７世紀の土器様相とその意義－」『北越考古学』12　北越考古学研究会
高田平野団体研究グループ 1981 「高田平野の第四系とその形成史―新潟県の第四系・そのⅩⅩⅣ―」『研究紀要』第 25 号 新潟大学教育学部高田分校
高野武男 2004　「第１部 自然 第１章 大地の生い立ち 第４節 原始・古代・中世の地形と環境の変化」『上越市史 通史編１ 自然・原始・古代』 新潟県上越市
高橋 保ほか 1986　『中原遺跡・岩野Ａ遺跡・岩野Ｂ遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋 勉 1989　『杉明遺跡発掘調査報告書』 新潟県新井市教育委員会
高橋 勉 1992　『平成３年度 新井市遺跡確認調査報告書』 新潟県新井市教育委員会
高橋典幸 2004　「第１部第１章第２節 知行国支配と国衙」『上越市史 通史編２ 中世』 新潟県上越市
高橋保雄ほか 2008　『岩ノ原遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
滝沢規朗 2005a　「越後･佐渡における弥生時代後期～古墳時代前期の「く」字甕について」『三面川流域の考古学』４　奥三面を考える会
滝沢規朗 2005b　「土器の分類と変遷 －いわゆる北陸系を中心に－」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』 新潟県考古学会
滝沢規朗 2007　「新潟県におけるタタキ甕・布留系甕について」『研究紀要』5 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田中一穂 2008　「墨書土器について」『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田中耕作ほか 1990　『三光館跡・宝積寺館跡』 新潟県新発田市教育委員会
田辺早苗 1991　『長松遺跡発掘調査報告書』 新潟県神林村教育委員会
田村愛之助 1954　『草稟』
土田孝雄ほか 1984　『新潟県糸魚川市遺跡詳細分布調査報告書』 新潟県糸魚川市教育委員会
鶴巻康志 1998　「寺町Ⅰ遺跡の中世陶器」『上越市史研究』3　新潟県上越市
鶴巻康志ほか 2003　『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』 新潟県新発田市教育委員会
東京大学 1987　『越後国郡絵図』 東京大学史料編纂所
栃木県教育委員会 2001 『下野国東山道と関連遺跡－東山道　都へつづく一本の道－』
戸根与八郎ほか 1975 『松代・松之山』 新潟県教育委員会
戸根与八郎ほか 1980a 『中条町遺跡群細分布調査報告書』 新潟県中条町教育委員会
戸根与八郎ほか 1980b 「六七日忌の墨書供養塔婆」『高志路』255　新潟県民俗学会
戸根与八郎・室岡博ほか 1990 『樋田遺跡第二次発掘調査概報』 新潟県吉川町教育委員会
戸根与八郎ほか 1992 『木崎山遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
戸根与八郎 2003　「時代概説」『上越市史叢書８　考古－中・近世資料－』 新潟県上越市
仲田茂司 1993　「東国古代の挽物－食膳における土器との補充関係－」『考古学研究』39-4　考古学研究会
中山 晋 2001　「道路遺跡の調査方法」『古代交通研究』10
永井久美男 2002　『新版　中世出土銭の分類図版』 高志書院
奈良国立文化財研究所編 1985 『木器集成・図録－近畿古代編－』

奈良国立文化財研究所編　1993 『木器集成・図録－近畿原始編－』
成瀬良徳　1992 『仏事と葬儀ものしり事典』 新人物往来社
新潟県教育委員会編　1991 『新潟県歴史の道報告書 第１集 加賀街道・松本街道』
新潟県教育委員会編　1991 『新潟県歴史の道報告書 第２集 北国街道Ⅰ』
新潟県教育委員会編　1992 『新潟県歴史の道報告書 第３集 松之山街道』
新潟県教育委員会編　1993 『新潟県歴史の道報告書 第４集 三国街道Ⅰ・北国脇街道』
新潟県教育委員会編　1993 『新潟県歴史の道報告書 第５集 北国街道Ⅱ』
新潟県立歴史博物館編　2006 『中世人の生活と信仰 展示図録 －越後・佐渡の神と仏－』
新潟県柏崎市　1987 『柏崎市史資料集 考古編１』
新潟県五泉市　1994 『五泉市史 資料編１ 原始・古代・中世』
新潟県上越市　2003 『上越市史 通史編１ 自然・原始・古代』
新潟県上越市　2003 『上越市史 資料編２ 考古』
新潟県上越市　2003 『上越市史叢書８ 考古―中・近世資料―』
新潟県豊栄市　1988 『豊栄市史 考古編』
新潟県長岡市　1992 『長岡市史 資料編１ 考古』
新潟県新潟市　1989 『市史にいがた』５
新潟県東蒲原郡　2006 『東蒲原郡史 資料編１ 原始』
新潟県越路町　1998 『越路町史 資料編１ 原始・古代・中世』
新潟県笹神村　2003 『笹神村史 資料編１ 原始・古代・中世』
新潟県寺泊町　1991 『寺泊町史 資料編１ 原始・古代・中世』
新潟県中条町　1982 『中条町史 資料編１ 考古・古代・中世』
新潟県三島町　1984 『三島町史 上巻』
野水晃子ほか 2005 『西川内北遺跡・西川内南遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
花ヶ前盛明　1986 『中世越後の歴史－武将と古城を探る－』 新人物往来社
平川　南　2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
藤澤良祐　2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
藤田正太郎　1987 「経文墨書岩片」『越佐研究』44　新潟県人文研究会
北陸中世土器研究会編　1994 『中世北陸の寺院と墓地』
北陸中世考古学研究会編　2001 『中世北陸の井戸』
北陸中世考古学研究会編　2008 『北陸中世の道』
細矢菊治　1972 『南魚沼郡の歴史』
町田　章　1979 「木器の製作と役割」『日本考古学を学ぶ』2　有斐閣
町田　章　1997 「木器の生産」『弥生文化の研究』5　雄山閣
松原典明ほか 1994 「特集・礫石経の世界」『考古学論究』3　立正大学考古学会
水澤幸一　1996 『平成７年度町内遺跡確認調査報告書』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2000 『下町・坊城遺跡Ⅳ』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2003 「横曽根遺跡」『上越市叢書８　考古―中・近世資料―』 新潟県上越市
水澤幸一・笹沢正史　2003 「至徳寺遺跡」『上越市叢書８　考古―中・近世資料―』 新潟県上越市
水澤幸一　2005 「越後の中世土器」『新潟考古』16　新潟県考古学会
水野正好　2005 「井戸をめぐるまじない世界」『考古学ジャーナル』537　ニューサイエンス社
室岡　博ほか 1975 『頸城村の文化財（第一集）』 新潟県頸城村教育委員会
森田　勉　1982 「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会
山崎忠良ほか 2003 『下割遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山崎忠良ほか 2004 『下割遺跡Ⅱ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山本光正・小島道裕　1992 「永禄六年北国下りの遺足」『研究報告』39　国立歴史民俗博物館
吉井雅勇　2006 『道端遺跡』 新潟県荒川町教育委員会
吉井雅勇　2007 「荒川町道端遺跡出土の楕円礫について」『新潟考古学談話会会報』33　新潟考古学談話会
吉井雅勇　2008 『春木山遺跡Ⅰ（中世編）』 新潟県荒川町教育委員会
吉岡康暢　1991 『日本海域の土器・陶磁（古代編）』 六興出版
吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
嘉美俊宏　2004 「尾張の須恵器・灰釉陶器窯」『須恵器窯構造資料集 2』 窯跡研究会
渡辺　誠　2004 「ピッチ付着の編物用石錘」『時空をこえた対話―三田の考古学―』

SB840

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P831	36D18	円形	半円状	17.43	17.09	43	43	34	P831-832：6.85	
P832	36E10	円形	U字状	17.46	16.92	35	30	54	P832-833：3.73	
P833	37E11	楕円形	台形状	17.42	17.20	36	27	22	P833-838：3.57	
P838	36E20・25	円形	箱状	17.35	17.11	39	34	24	P836-828：2.08	
P836	36E11	円形	台形状	17.43	17.33	27	24	10	P828-829：2.70	
P828	35E10	円形	半円状	17.45	17.22	35	35	23	P829-830：1.44	
P829	36E1	長楕円形	半円状	17.39	17.05	45	31	34	P830-831：3.87	
P830	36E1	円形	台形状	17.41	17.16	39	34	25	P830-838：10.49	

SB844

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P845	36D15	円形	U字状	17.40	17.24	33	28	16	P845-846：1.82	
P846	37D16	円形	U字状	17.44	17.11	35	35	33	P846-847：1.76	
P847	37D21	楕円形	U字状	17.43	17.21	28	22	22	P847-848：2.04	
P848	37D21,37E1	円形	U字状	17.43	17.28	20	18	15	P848-849：1.94	
P849	36D25	円形	台形状	17.42	17.25	36	33	17	P849-850：1.63	
P850	36D19	円形	台形状	17.44	17.18	23	22	26	P850-851：2.38	

SB851

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P852	36D20	円形	U字状	17.45	17.14	36	36	31	P852-846：1.89	
P846	37D16	円形	台形状	17.44	17.11	35	35	33	P846-853：2.17	
P853	37D22	円形	箱状	17.42	17.25	28	24	17	P853-854：4.04	
P854	37E11	円形	U字状	17.42	17.09	28	27	33	P854-855：2.02	
P855	36E5	円形	階段状	17.42	17.07	37	31	35	P855-856：1.79	
P856	36D24,36E4	円形	U字状	17.43	17.05	38	36	38	P856-852：4.13	

SB912

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P857	37E6・11	円形	階段状	17.30	16.96	59	57	34	P857-938：1.66	
P938	37E11・12	円形	台形状	17.42	17.01	48	44	41	P938-859：1.21	
P859	37E12	円形	U字状	17.40	16.88	25	23	52	P859-860：1.93	
P860	37E16・17	円形	階段状	17.39	17.04	42	39	35	P860-861：1.50	
P861	37E21	円形	U字状	17.37	16.94	23	20	43	P861-862：3.67	
P862	36E20	長楕円形	階段状	17.36	17.06	60	40	30	P862-941：1.79	
P941	36E15	隅丸長方形	階段状	17.41	17.02	103	57	39	P941-857：2.04	

SB928

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P724	37E10	不整形	階段状	17.43	17.02	69	59	41	P724-934：4.45	
P934	38E17	円形	台形状	17.40	17.04	30	30	36	P934-950：4.33	
P950	37E25	円形	U字状	17.35	16.95	23	21	40	P950-932：1.31	
P932	37E25	楕円形	U字状	17.39	16.95	39	31	44	P932-935：1.79	
P935	37E19	円形	U字状	17.43	17.22	35	28	21	P935-929：1.69	
P929	37E19	円形	漏斗状	17.45	16.82	51	44	63	P929-930：2.04	
P930	37E14	円形	U字状	17.31	16.97	30	26	34	P930-724：2.61	

SB1716

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1717	36E9	円形	階段状	17.43	16.91	48	48	52	P1717-1718：4.20	
P1718	37E11	円形	階段状	17.41	17.00	34	34	41	P1718-1719：3.97	
P1719	36E25	円形	階段状	17.34	16.87	32	27	47	P1719-1720：2.48	
P1720	36E19	円形	階段状	17.34	16.96	27	25	38	P1720-P835：1.94	
P835	36E18	円形	台形状	17.33	16.69	28	25	64	P835-1717：3.95	

SB1201

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1208	38E1	楕円形	U字状	17.44	16.94	27	21	50	P1208-1207：2.03	
P1207	38E7	円形	U字状	17.44	16.96	22	20	48	P1206-1205：2.05	
P1206	38E1・22	円形	U字状	17.42	16.84	30	28	58	P1205-1204：1.92	
P1205	38E16・17	円形	U字状	17.40	16.97	40	37	43	P1204-1203：2.17	
P1204	38E11	円形	階段状	17.40	16.90	47	40	50	P1203-1202：2.34	
P1203	37E15	円形	U字状	17.44	17.06	35	29	38	P1203-1208：3.82	
P1202	37E9	円形	階段状	17.44	16.98	33	27	46	P1204-1207：3.76	

SB1275

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1276	38D9	円形	台形状	17.32	17.07	29	28	25	P1276-1277：1.83	
P1277	38D13	円形	U字状	17.36	17.12	26	23	24	P1277-1279：2.09	
P1279	38D7	円形	台形状	17.34	17.07	36	32	27		

SB1270

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1271	38D9・14	円形	台形状	17.33	17.17	37	35	16	P1271-1272：1.52	
P1272	38D14	円形	U字状	17.35	17.00	28	28	35	P1272-1273：1.72	
P1273	38D8	円形	台形状	17.32	17.11	31	29	21	P1273-1274：0.29	
P1274	38D8	円形	弧状	17.32	17.21	26	26	11		

第 10 表　掘立柱建物柱穴観察表（1）

SB1266

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1267	38D9	円形	台形状	17.34	17.13	28	28	21	P1267-1268：1.42	
P1268	38D14	円形	台形状	17.34	17.12	25	24	22	P1268-1269：1.83	
P1269	38D8	円形	台形状	17.29	16.94	23	23	35		

SB1701

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1702	39E1	楕円形	台形状	17.41	17.26	23	17	15	P1702-1703：1.86	
P1703	39E1	円形	弧状	17.41	17.36	26	24	5	P1703-1704：1.95	
P1704	38E10	円形	台形状	17.38	17.14	20	19	24	P1704-1705：3.38	
P1705	38E4	円形	台形状	17.38	17.24	23	22	14	P1705-1706：2.12	
P1706	38D23,39E3	楕円形	台形状	17.41	17.28	23	17	13	P1706-1707：1.80	
P1707	38D23・24	円形	台形状	17.39	17.01	35	33	38		

SB1104

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1109	41F5	楕円形	弧状	17.33	17.21	35	27	12	P1109-1108：1.51	
P1108	42F1・6	円形	台形状	17.33	17.00	31	28	33	P1108-1107：1.69	
P1107	42F6	円形	弧状	17.32	17.23	28	25	9	P1107-1106：2.21	
P1106	42F11	円形	弧状	17.34	17.24	30	26	10	P1106-1105：2.62	
P1105	41F20	円形	台形状	17.41	17.18	26	25	23	P1105-1112：1.69	
P1112	41F14	円形	U字状	17.36	17.18	20	19	18	P1112-1111：1.66	
P1111	41F8・9・13・14	円形	U字状	17.34	17.00	32	32	34	P1111-1110：2.61	
P1110	41F9・10	円形	U字状	17.34	17.14	27	24	20	P1110-1109：2.26	
P1113	41F10	円形	弧状	17.32	16.96	27	26	36	P1113-1108：2.14	
									P1113-1106：1.72	
									P1113-1112：2.76	
									P1113-1110：1.67	

SB1160

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1163	41F6	円形	弧状	17.35	17.26	18	17	9	P1163-1162：1.85	
P1162	41F12	楕円形	弧状	17.38	17.27	19	14	11	P1162-1161：2.55	
P1161	41F18	円形	台形状	17.43	17.35	20	18	8	P1161-1176：1.26	
P1176	41F18	円形	皿状	17.46	17.40	25	22	6	P1167-1166：2.53	
P1167	41F22	円形	台形状	17.47	17.36	16	16	11	P1167-1168：1.61	
P1166	41F16	円形	台形状	17.41	17.25	21	20	16	P1166-1169：1.68	
P1164	41F11	円形	台形状	17.38	17.34	20	16	4	P1164-1163：1.51	
P1169	41F16	楕円形	階段状	17.39	17.24	20	16	15	P1164-1169：2.01	
P1168	41F17	円形	台形状	17.42	17.35	18	18	7	P1168-1169：2.32	
									P1161-1168：1.44	
									P1162-1169：1.50	

SB1215

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1236	43F9	円形	U字状	17.30	16.88	24	23	42	P1236-1244：2.15	
P1244	43F9・10・14・15	円形	台形状	17.37	17.03	23	22	34	P1244-1216：2.27	
P1216	43F15	円形	階段状	17.41	17.14	33	33	27	P1216-1245：2.51	
P1245	44F16	円形	U字状	17.38	17.26	28	27	12	P1245-1246：1.70	
P1246	43F25,44F21	円形	台形状	17.38	17.05	22	21	33	P1246-1247：2.66	
P1247	43G5	楕円形	台形状	17.35	17.01	35	28	34	P1247-1248：1.96	
P1248	43G4・9	円形	台形状	17.36	17.00	30	28	36	P1248-1249：2.48	
P1249	43G3	円形	U字状	17.36	17.20	24	24	16	P1249-1253：1.60	
P1253	43F22	円形	弧状	17.35	17.17	22	21	18	P1253-1250：0.89	
P1250	43F22	円形	階段状	17.36	16.95	36	35	41	P1250-1227：1.38	
P1227	43F21	円形	U字状	17.35	17.14	22	20	21	P1227-1228：1.43	
P1228	43F17	円形	U字状	17.32	16.98	23	20	34	P1228-1234：2.21	
P1234	43F12・13	円形	U字状	17.32	17.06	38	34	26	P1234-1235：2.30	
P1235	43F8	円形	漏斗状	17.33	16.85	44	40	48	P1235-1236：1.45	
P1255	43F14	円形	台形状	17.39	17.22	22	21	17	P1216-1217：1.49	
P1217	43F20	楕円形	台形状	17.36	17.04	60	48	32	P1217-1218：1.86	
P1218	43F19・24	円形	階段状	17.39	16.95	41	36	44	P1218-1219：2.31	
P1219	43F23	円形	階段状	17.38	16.99	44	43	39	P1219-1249：1.10	
P1254	43F23	円形	台形状	17.38	17.18	23	21	20	P1219-1254：1.65	
P1258	43F18	円形	台形状	17.36	16.94	24	22	42	P1228-1254：2.49	
P1225	43F4	円形	台形状	17.30	16.99	22	22	31	P1253-1254：1.59	
P1240	43F15,44F11	円形	U字状	17.38	16.77	34	33	61	P1254-1258：1.92	
P1243	44F16	楕円形	漏斗状	17.38	16.92	36	29	46	P1218-1258：1.65	
									P1234-1258：2.59	
									P1244-1255：1.75	
									P1255-1258：1.91	
									P1217-1255：1.78	
									P1235-1255：2.46	
									P1225-1236：1.09	
									P1225-1240：4.45	
									P1240-1243：2.61	
									P1243-1245：0.94	
									P1217-1246：2.62	

第 11 表　掘立柱建物柱穴観察表（2）

SB1114

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1119	43D24,43E4	円形	台形状	17.29	16.95	27	25	34	P1119-1118：1.76	
P1118	43E4	円形	台形状	17.29	17.14	24	20	15	P1118-1117：1.87	
P1117	43E10	円形	台形状	17.29	17.03	33	29	26	P1117-1116：2.99	
P1116	43E14	円形	台形状	17.32	17.08	25	24	24	P1116-1115：2.62	
P1115	43E18	円形	台形状	17.30	16.97	26	23	33	P1115-1122：1.63	
P1122	43E12・13	円形	台形状	17.30	17.09	27	27	21	P1122-1121：2.27	
P1121	43E12	円形	台形状	17.32	17.04	25	23	28	P1121-1120：3.13	
P1120	43E8	円形	台形状	17.30	17.02	26	23	28	P1120-1119：2.93	
P1131	43E8・9	円形	台形状	17.31	16.95	25	24	36	P1118-1131：3.02	
									P1116-1131：1.74	
									P1122-1131：2.87	
									P1120-1131：1.96	

SB1154

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1145	43E3	円形	台形状	17.29	17.07	32	27	22	P1454-1132：1.93	
P1132	43E4・9	楕円形	台形状	17.30	17.04	36	28	26	P1132-1134：1.81	
P1134	43E9	円形	台形状	17.29	17.08	28	28	21	P1134-1130：0.90	
P1130	43E9・14	円形	台形状	17.31	17.02	33	31	29	P1130-1135：1.84	
P1135	43E13	円形	台形状	17.31	16.92	26	26	39	P1135-1123：3.34	
P1123	43E17・22	円形	台形状	17.29	16.91	24	24	38	P1123-1124：1.57	
P1124	43E17	円形	台形状	17.28	16.87	28	25	41	P1124-1125：1.90	
P1125	43E11	円形	台形状	17.29	16.92	27	26	37	P1125-1127：2.77	
P1127	43E7	円形	台形状	17.30	17.12	29	25	18	P1127-1147：1.91	
P1146	43E3	不整形	台形状	17.29	16.88	24	24	41	P1147-1145：0.92	
P1129	43E13	楕円形	台形状	17.31	16.95	28	24	25	P1129-1132：2.83	
									P1129-1135：1.92	
									P1124-1129：3.58	
									P1127-1129：1.60	

SB1230

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1223	43F8	不整形	階段状	17.30	16.92	58	44	38	P1223-1224：3.25	
P1224	43F14	楕円形	U字状	17.37	17.06	33	26	31	P1224-1217：2.59	
P1217	43F20	楕円形	台形状	17.36	17.04	60	48	32	P1217-1218：1.86	
P1218	43F19・24	円形	階段状	17.39	16.95	41	36	44	P1218-1219：2.31	
P1219	43F23	円形	階段状	17.38	16.99	44	43	39	P1219-1251：2.56	
P1251	43F17・22	楕円形	台形状	17.37	17.04	36	28	33	P1251-1221：3.05	
P1221	43F11	円形	台形状	17.31	17.08	32	32	23	P1221-1222：2.25	
P1222	43F7・12	円形	U字状	17.29	17.18	31	30	11	P1222-1223：2.46	
P1233	43F18	円形	U字状	17.35	16.88	37	33	47	P1222-1233：3.18	
P1226	43F3	円形	U字状	17.30	17.01	25	24	29	P1224-1233：2.18	
P1237	43F9	円形	漏斗状	17.37	16.94	30	27	43	P1218-1233：2.54	
P1231	43F15	円形	台形状	17.41	17.04	25	24	37	P1233-1251：2.31	
									P1223-1226：0.94	
									P1226-1237：3.14	
									P1237-1231：2.52	
									P1231-1217：1.21	
									P1224-1237：1.03	

SB1155

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1159	43E16	円形	台形状	17.22	17.00	35	30	22	P1159-1143：2.40	
P1143	43E22	円形	台形状	17.26	17.12	31	29	14	P1143-1142：1.51	
P1142	43E21,43F1	円形	台形状	17.27	16.91	30	28	36	P1142-1141：2.10	
P1141	42F5	円形	台形状	17.30	17.03	26	22	27	P1141-1150：2.35	
P1148	42F14	円形	台形状	17.31	17.13	23	21	18	P1150-1148：1.40	
P1156	42F8	円形	台形状	17.27	17.08	23	23	19	P1148-1156：2.14	
P1157	42F4	円形	台形状	17.25	17.07	29	27	18	P1156-1157：1.86	
P1153	42E25	円形	台形状	17.26	17.05	30	30	21	P1157-1153：2.21	
P1158	42E25	円形	弧状	17.22	17.15	28	26	7	P1153-1158：2.31	
									P1158-1159：1.06	

第 12 表　掘立柱建物柱穴観察表（3）

SB110

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P299	44D25,44E5	楕円形	台形状	17.37	17.10	47	37	27	P299-111：2.71	
P111	45E1・6	円形	台形状	17.34	17.18	39	32	16	P111-112：2.02	
P112	45E7	円形	弧状	17.35	17.19	43	38	16	P112-113：2.00	
P113	45E13	円形	漏斗状	17.33	17.03	40	36	30	P113-114：2.23	
P114	45E14・19	楕円形	台形状	17.39	17.01	47	35	38	P114-115：2.05	
P115	45E18	円形	台形状	17.36	17.17	44	40	19	P115-116：2.12	
P116	45E22	円形	U字状	17.39	17.15	38	34	24	P116-117：2.06	
P117	45E16・17	円形	台形状	17.37	17.06	31	26	31	P117-118：2.11	
P118	45E16	円形	階段状	17.34	16.92	30	29	42	P118-194：1.77	
P194	44E15	楕円形	不整形	17.35	16.89	55	40	46	P194-1581：2.96	
P1581	44E9	楕円形	階段状	17.34	16.83	44	34	51	P1581-299：3.87	
P193	45E6	円形	U字状	17.38	17.21	34	31	17	P111-193：1.90	
P150	45E11・12	円形	U字状	17.38	17.08	51	42	30	P193-194：2.03	
P119	45E12・17	円形	台形状	17.37	17.05	27	27	32	P150-193：2.22	
P1575	44D25,45D21	円形	台形状	17.34	17.10	25	22	24	P112-150：2.00	
P1574	45D21,45E1	円形	U字状	17.28	17.01	20	17	27	P119-150：2.00	
P101	45E2	円形	台形状	17.29	17.09	35	31	20	P118-150：2.05	
P103	45E2・3・7・8	楕円形	U字状	17.30	17.02	42	30	28	P113-119：2.05	
P109	45E14	円形	階段状	17.32	17.01	36	31	31	P115-119：2.07	
P1579	45F2	円形	U字状	17.40	17.29	20	18	11	P117-119：2.03	
P1578	45E22,45F2	円形	U字状	17.38	17.21	21	19	17	P1575-1574：2.33	
P1580	44E15	円形	U字状	17.36	17.09	31	28	27	P1574-101：1.19	
P1577	44E9	円形	台形状	17.33	17.14	28	26	19	P101-103：1.98	
P1576	44E8	円形	U字状	17.34	17.19	21	19	15	P103-109：4.46	
									P1579-1578：0.74	
									P1578-1580：6.51	
									P1580-1577：2.59	
									P1577-1576：0.81	
									P1576-1575：6.54	

SB390

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P391	44F12・13・17・18	円形	台形状	17.42	16.81	38	33	61	P391-392：2.43	
P392	44F18	円形	台形状	17.43	16.89	37	34	54	P392-121：2.53	
P121	44F24	円形	台形状	17.43	16.79	46	40	64	P393-394：2.47	
P393	44G20	円形	台形状	17.39	16.95	38	33	44	P394-395：2.50	
P394	44G14	円形	台形状	17.45	16.82	33	31	63	P395-396：2.48	
P395	44G8	円形	台形状	17.45	17.11	34	34	34	P396-397：2.52	
P396	44G2	円形	台形状	17.37	17.13	30	28	24	P397-398：2.16	
P397	44F21	円形	台形状	17.35	17.18	26	26	17	P398-391：2.30	
P398	44F17	円形	台形状	17.39	16.89	34	29	50	P398-399：2.54	
P399	44F23	円形	台形状	17.41	17.07	29	25	34	P392-399：2.26	
P400	44G4	円形	U字状	17.46	17.14	29	27	32	P396-399：2.21	
									P399-400：2.46	
									P121-400：2.18	
									P395-400：2.30	

SB701

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P702	44F18	円形	台形状	17.43	17.03	29	27	40	P702-703：2.34	
P703	44F24	円形	台形状	17.44	17.05	28	27	39	P703-704：2.19	
P704	44F25,44G5	円形	台形状	17.41	17.03	32	32	38	P781-780：1.64	
P781	44G15	円形	台形状	17.40	17.23	37	36	17	P780-706：2.79	
P780	44G14	隅丸長方形	台形状	17.43	17.13	68	56	30	P706-707：2.21	
P706	44G8	円形	台形状	17.47	16.91	35	36	56	P707-708：2.32	
P707	44G3	円形	台形状	17.42	17.09	28	26	33	P708-709：1.87	
P708	44F22	円形	台形状	17.39	16.91	35	33	48	P709-702：1.79	
P709	44F17・18	円形	台形状	17.41	17.10	30	28	31	P709-710：2.33	
P710	44F23	円形	台形状	17.42	17.10	35	34	32	P703-710：1.88	
P705	44G4	円形	台形状	17.38	17.10	28	26	28	P707-710：1.81	
									P705-710：2.34	
									P704-705：1.64	
									P705-706：2.00	

SB1918

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1921	45E5	円形	U字状	17.25	16.88	35	29	37	P1921-1920：1.81	
P1920	46E1	円形	U字状	17.21	17.06	38	32	15	P1920-1919：1.40	
P1919	45E10	円形	U字状	17.28	16.99	34	30	29	P1919-107：2.18	
P107	45E15	円形	漏斗状	17.31	16.78	34	30	53	P107-108：0.57	
P108	45E14	円形	階段状	17.30	16.92	32	29	38	P108-106：1.79	
P106	45E9	円形	漏斗状	17.29	16.86	37	34	43	P106-102：1.88	
P102	45E3・8	円形	U字状	17.32	16.94	37	33	38	P102-104：1.85	
P104	45E4	円形	U字状	17.29	16.89	33	32	40		

第 13 表　掘立柱建物柱穴観察表（4）

SB137

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P248	45E20	円形	U字状	17.33	16.96	23	22	37	P248-191：2.86	
P191	46E21	円形	U字状	17.20	16.66	33	30	54	P191-158：2.35	
P158	46F1・2	円形	U字状	17.21	16.70	31	25	51	P158-292：2.10	
P292	46F1・6	円形	台形状	17.35	17.17	37	35	18	P292-291：3.35	
P291	45F15	円形	弧状	17.37	17.22	21	21	15	P291-142：1.53	
P142	45F9	円形	U字状	17.37	17.16	28	23	21	P142-143：1.60	
P143	45F8・9	円形	U字状	17.37	17.18	22	22	19	P143-144：1.67	
P144	45F3	円形	U字状	17.37	17.13	22	19	24	P144-146：1.69	
P146	45E23,45F3	円形	台形状	17.36	17.00	27	25	36	P146-138：1.68	
P138	45E24	円形	階段状	17.37	17.12	30	29	25	P138-145：0.23	
P145	45E24	円形	台形状	17.37	17.21	29	28	16	P145-248：1.93	
P139	45E24	円形	階段状	17.34	17.14	28	25	20	P138-139：1.54	
P140	45F5	円形	台形状	17.36	17.14	28	26	22	P139-140：1.53	
P141	45F9・10	円形	U字状	17.33	17.01	27	24	32	P140-141：1.67	
P247	46F1	円形	台形状	17.36	17.06	28	23	30	P141-142：1.56	
									P140-247：1.46	
									P140-191：2.35	
									P247-292：0.38	

SB130

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P298	44E19	円形	U字状	17.37	17.08	30	28	29	P298-195：1.24	
P195	44E19・20	円形	階段状	17.37	16.80	49	40	57	P195-131：2.03	
P131	44E25,45E21	長楕円形	階段状	17.30	16.87	73	43	43	P131-132：1.94	
P132	45F1	円形	台形状	17.34	17.00	35	31	34	P132-133：1.15	
P133	45F1・2	円形	U字状	17.39	16.99	31	30	40	P133-134：2.39	
P134	45F6	円形	台形状	17.36	17.11	23	23	25	P134-136：2.49	
P136	44F15	円形	U字状	17.42	17.27	26	24	15	P136-197：1.27	
P197	44F9・14	円形	階段状	17.42	17.07	45	41	35	P197-198：1.87	
P198	44F9	円形	U字状	17.43	17.21	29	28	22	P198-297：2.04	
P297	44F3	円形	階段状	17.40	16.90	46	46	50	P297-296：1.22	
P296	44F2・3	円形	U字状	17.38	16.99	26	21	39	P296-298：5.08	
P295	44E24	不整形	階段状	17.39	16.88	38	34	51	P195-295：2.40	
P196	44F4・5	円形	台形状	17.42	16.83	39	36	59	P295-297：2.43	
P135	44F10	円形	階段状	17.38	16.99	38	36	39	P131-196：2.40	
									P196-295：2.07	
									P196-198：2.47	
									P135-196：1.92	
									P132-135：2.55	
									P134-135：1.23	
									P135-197：2.40	

SB125

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P126	45F12	円形	U字状	17.37	17.03	18	18	34	P126-127：2.15	
P127	45F17・18	円形	台形状	17.40	16.98	20	18	42	P126-128：2.35	
P128	45F16	円形	U字状	17.41	17.03	23	19	38		

SB174

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P167	47E4・9	円形	台形状	17.19	16.85	41	37	34	P167-166：2.66	
P166	47E8	楕円形	台形状	17.23	16.83	40	31	40	P166-165：3.04	
P165	47E12・17	円形	U字状	17.26	16.81	37	36	45	P165-164：2.68	
P164	47E16	円形	台形状	17.32	16.83	49	45	49	P164-161：3.82	
P161	46E15	円形	台形状	17.14	16.67	38	35	47	P161-160：2.78	
P160	46E10	円形	台形状	17.24	16.77	52	44	47		

SB151

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P157	47E2	円形	台形状	17.25	16.80	70	64	45	P157-156：2.23	
P156	47E8	円形	台形状	17.27	16.65	66	59	62	P156-155：3.00	
P155	47E12	円形	台形状	17.33	16.64	69	63	69	P155-154：1.45	
P154	47E11	円形	台形状	17.33	16.82	48	45	51	P154-153：4.39	
P153	46E9・10	円形	台形状	17.17	16.97	39	32	20	P153-152：1.98	
P152	46E4	楕円形	台形状	17.20	16.84	48	37	36		

SB175

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P185	47E23	円形	箱状	17.19	17.02	61	51	17	P185-184：4.50	
P184	47E16	楕円形	箱状	17.32	17.15	25	17	17	P171-170：2.82	
P171	47E7	円形	弧状	17.26	17.16	52	50	10	P169-168：1.31	
P170	47E2・3	円形	U字状	17.26	16.94	42	38	32		
P169	47E3	円形	台形状	17.27	16.97	46	40	30		
P168	47E4・9	円形	台形状	17.28	16.76	55	49	52		

第 14 表　掘立柱建物柱穴観察表（5）

SB201

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P205	46E19	円形	U字状	17.28	16.95	44	35	33	P205-204：2.75	
P204	46E25	円形	台形状	17.30	16.77	42	40	53	P204-203：2.70	
P203	47F1	円形	階段状	17.32	16.75	46	45	57	P203-202：2.81	
P202	47F7	長楕円形	U字状	17.30	16.75	77	51	55	P214-213：1.71	
P214	47F21	隅丸方形	U字状	17.11	16.80	55	51	31	P213-212：2.80	
P213	47G1	円形	階段状	17.28	16.76	58	50	52	P212-211：2.73	
P212	46F25	円形	U字状	17.29	16.80	42	41	49	P211-210：2.85	
P211	46F19	円形	台形状	17.31	16.93	46	46	38	P210-209：2.64	
P210	46F13	円形	U字状	17.32	16.95	39	35	37	P209-208：1.59	
P209	46F7	楕円形	台形状	17.31	16.86	65	51	45	P208-207：1.97	
P208	46F2	円形	台形状	17.31	16.95	57	49	36	P207-206：1.96	
P207	46E23,46F3	楕円形	台形状	17.25	16.87	49	36	38	P206-205：1.49	
P206	46E24	円形	台形状	17.30	17.00	43	35	30	P204-217：1.52	
P217	46F5	円形	台形状	17.34	17.05	56	47	29	P206-217：2.74	
P216	47F6	円形	台形状	17.29	16.96	57	53	33	P203-216：1.40	
P215	47F12	円形	台形状	17.34	17.09	52	44	25	P202-215：1.58	
P235	47F11・16	円形	U字状	17.29	16.94	52	50	35	P215-216：2.83	
P234	46F20	楕円形	弧状	17.29	17.10	41	30	19	P216-217：2.72	
P219	46F14	円形	U字状	17.31	16.92	61	55	39	P215-235：1.96	
P218	46F8	円形	U字状	17.32	16.71	56	56	61	P216-222：2.18	
P221	46F4・9	楕円形	台形状	17.26	16.91	74	57	35	P217-221：1.93	
P222	46F10・15	円形	U字状	17.35	16.86	48	46	49	P207-221：2.60	
P250	46G5	円形	台形状	17.29	17.06	30	30	23	P221-222：2.79	
P241	46F24	円形	箱状	17.25	17.03	27	26	22	P222-235：2.79	
P242	46F18	円形	箱状	17.31	16.95	29	26	36	P208-218：2.67	
P249	46F6	円形	台形状	17.32	16.92	33	32	40	P210-218：1.71	
P151	46F2	円形	台形状	17.30	16.89	36	34	41	P218-219：2.80	
P1571	46E23	円形	台形状	17.29	16.96	34	28	33	P218-221：1.90	
P1572	46E18・23	円形	台形状	17.25	16.98	30	25	27	P211-219：1.82	
P1573	46E19	円形	U字状	17.25	17.00	25	21	25	P219-220：2.76	
									P219-222：1.75	
									P214-220：2.79	
									P212-220：1.78	
									P220-235：1.77	
									P250-241：2.82	
									P241-242：2.68	
									P242-249：6.59	
									P249-151：2.33	
									P151-1571：2.17	
									P1571-1572：1.94	
									P1572-1573：1.04	

SB480

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P481	36G22	円形	階段状	17.54	16.99	57	48	55	P481-482：1.89	
P482	36H3	楕円形	階段状	17.51	16.81	51	40	70	P482-483：1.99	
P483	36H9	円形	階段状	17.63	17.12	59	54	51	P483-484：1.81	
P484	36H8	円形	階段状	17.58	17.14	54	49	44	P484-485：1.83	
P485	36H12・13	円形	階段状	17.61	17.06	52	49	55	P485-486：1.79	
P486	36H17	円形	階段状	17.64	17.24	60	57	40	P486-487：1.70	
P487	36H16・17	円形	階段状	17.48	17.16	52	49	32	P487-488：2.04	
P488	35H20,36H16	円形	階段状	17.65	16.91	60	55	74	P488-489：1.97	
P489	35H15	円形	階段状	17.66	17.09	51	42	57	P489-490：1.80	
P490	35H10,36H6	円形	階段状	17.58	16.93	53	46	65	P490-491：1.62	
P491	36H6	円形	階段状	17.59	17.10	76	61	49	P491-492：1.75	
P492	36H2	円形	階段状	17.59	17.14	66	58	45	P492-481：1.83	

SB493

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P494	36G21	円形	U字状	17.58	17.34	29	27	24	P494-495：1.46	
P495	36G21・22	楕円形	弧状	17.56	17.13	47	40	43	P495-496：1.48	
P496	36H2	円形	階段状	17.59	17.29	27	24	30	P496-497：2.27	
P497	36H1・6	円形	U字状	17.59	17.10	45	45	49	P497-498：1.47	
P498	35H5,36H1	円形	U字状	17.54	17.35	34	33	19	P498-499：1.88	
P499	35G25	円形	階段状	17.56	17.31	36	34	25	P499-500：1.20	
P500	35G25,36G21	円形	階段状	17.58	17.40	31	29	18	P500-494：1.22	

SB782

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P786	35F22	円形	台形状	17.48	17.20	37	36	28	P786-787：1.90	
P787	35G2	円形	台形状	17.54	17.21	42	33	33	P787-788：1.90	
P788	35G8	楕円形	弧状	17.51	17.32	40	29	19	P788-1721：2.32	
P1721	35G9・14	円形	弧状	17.49	17.41	32	28	8	P1721-1722：1.85	
P1722	35G13	円形	台形状	17.52	17.35	30	27	17	P1722-1723：2.40	
P1723	35G7	円形	台形状	17.54	17.32	27	25	22	P788-1723：1.62	
P783	35G12	円形	台形状	17.53	17.24	43	41	29	P783-1723：1.75	
P784	35G6	楕円形	台形状	17.45	17.21	44	33	24	P783-784：1.89	
P785	34G10,35G6	円形	台形状	17.35	17.18	34	32	17	P784-785：1.90	
									P785-786：3.45	

第 15 表　掘立柱建物柱穴観察表（6）

SB944

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P945	37F1	円形	U字状	17.43	16.88	27	25	55	P945-946：1.75	
P946	36F25,36G5	円形	台形状	17.48	17.22	30	26	26	P946-947：1.75	
P947	36G5	円形	階段状	17.49	16.69	40	33	80	P947-948：2.40	
P948	36G3・4	円形	U字状	17.54	16.86	31	29	68	P948-949：1.53	
P949	36F24	円形	U字状	17.54	16.96	18	18	58		

SB725

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P731	39H25	不整形	階段状	17.53	17.11	74	57	42	P731-732：2.37	
P732	40H21,40I1	不整形	階段状	17.59	17.19	72	39	40	P732-726：2.45	
P726	40I2・7	楕円形	階段状	17.59	17.15	61	49	44	P726-727：3.10	
P727	40I6・11	円形	漏斗状	17.58	17.17	40	34	41	P727-650：2.21	
P650	39I15・20	不整形	階段状	17.68	17.20	79	61	48	P650-728：2.45	
P728	39I9・14	長楕円形	階段状	17.62	17.41	75	38	21	P728-729：2.22	
P729	39I4・8・9	円形	階段状	17.54	17.24	70	64	30	P729-730：2.64	
P730	39I4・5	長楕円形	漏斗状	17.57	17.19	87	46	38	P730-731：2.47	

SB360

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P363	42H18	円形	U字状	17.54	17.34	27	26	20	P363-364：3.18	
P364	42H24	円形	台形状	17.53	17.36	24	21	17	P364-365：2.53	
P365	42H23,42I3	円形	弧状	17.50	17.35	25	24	15	P365-366：1.78	
P366	42I2	円形	台形状	17.48	17.29	26	25	19	P366-361：2.99	
P361	42H21	円形	台形状	17.49	17.27	24	23	22	P361-362：2.35	
P362	42H17	円形	台形状	17.52	17.33	20	19	19	P362-363：1.69	

SB770

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P373	42H23・24	円形	台形状	17.52	17.28	28	28	24	P373-374：2.99	
P374	42I5	円形	U字状	17.43	17.17	32	27	26	P374-375：2.25	
P375	42I10,43I6	円形	台形状	17.43	17.21	27	25	22	P375-376：3.13	
P376	42I14・15	円形	U字状	17.52	17.30	26	23	22	P376-771：2.30	
P771	42I8・9	円形	台形状	17.49	17.25	26	24	24	P771-366：3.04	
P366	42I2	円形	台形状	17.48	17.29	26	25	19	P366-373：3.28	

SB711

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1210	43G10	楕円形	階段状	17.35	16.77	42	35	58	P1210-712：3.02	
P712	44G6・11	円形	台形状	17.35	16.64	38	38	71	P712-713：2.76	
P713	44G12・17	楕円形	階段状	17.47	16.78	56	48	69	P713-714：2.86	
P714	44G18・23	円形	U字状	17.29	16.91	27	25	38	P714-715：2.64	
P715	44G24,44H4	楕円形	台形状	17.40	17.06	52	37	34	P715-716：1.94	
P716	44H3	円形	台形状	17.44	17.04	33	32	40	P716-717：2.07	
P717	44H7・8	楕円形	階段状	17.31	16.87	45	35	44	P717-718：2.54	
P718	44H2	円形	台形状	17.50	16.91	40	39	59	P718-719：3.06	
P719	43G25,44G21	円形	階段状	17.39	16.72	42	42	67	P719-720：2.86	
P720	43G19	円形	U字状	17.39	16.92	31	28	47	P720-1241：2.82	
P1241	43G13	円形	台形状	17.33	16.89	29	26	44	P1211-1241：2.33	
P1211	43G9	楕円形	階段状	17.33	16.99	53	37	34	P1210-1211：2.16	
P721	43G15	円形	階段状	17.36	17.00	32	31	36	P721-1211：2.84	
P722	44G16	円形	台形状	17.40	17.14	38	36	26	P712-721：2.43	
P723	44G22	円形	U字状	17.45	17.13	33	30	32	P720-721：2.06	
P1239	43G5	円形	U字状	17.35	17.11	25	21	24	P721-722：2.79	
P1238	44G7	円形	U字状	17.35	17.04	23	23	31	P713-722：2.30	
P1259	44G18・19	円形	U字状	17.46	17.13	25	24	33	P719-722：2.23	
P1726	44H4	円形	U字状	17.42	17.18	24	23	24	P722-723：2.82	
P1727	44H3・4	円形	台形状	17.43	17.10	33	31	33	P714-723：2.21	
									P718-723：2.14	
									P716-723：2.63	
									P1238-1239：4.32	
									P1238-1259：5.17	
									P1726-1727：1.55	

第 16 表　掘立柱建物柱穴観察表（7）

SB1940

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1209	43G4	円形	階段状	17.36	16.99	36	36	37	P1209-1210：2.55	
P1210	43G5・10	楕円形	階段状	17.35	16.77	42	35	58	P1210-712：3.02	
P712	44G6・11	円形	台形状	17.35	16.64	38	38	71	P712-713：2.76	
P713	44G12・17	楕円形	階段状	17.47	16.78	56	48	69	P713-722：2.30	
P722	44G16	円形	台形状	17.40	17.14	38	36	26	P719-722：2.23	
P719	43G25,44G21	円形	階段状	17.39	16.72	42	42	67	P719-720：2.86	
P720	43G19	円形	U字状	17.39	16.92	31	28	47	P720-1212：2.72	
P1212	43G13・14	円形	階段状	17.39	16.99	23	22	40	P1212-1213：2.66	
P1213	43G7・8	円形	階段状	17.34	16.68	36	35	66	P1213-1214：2.06	
P1214	43G3・8	円形	階段状	17.36	17.04	28	27	32	P1209-1214：1.98	
P1211	43G9	楕円形	階段状	17.33	17.03	53	37	30	P1211-1214：2.67	
P1939	43G15	円形	U字状	17.33	16.84	27	23	49	P1210-1211：1.97	
									P1211-1212：2.24	
									P712-1939：2.21	
									P720-1939：2.32	
									P722-1939：3.20	
									P1211-1939：2.49	

SB279

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P129	44G19	円形	U字状	17.37	16.96	33	30	41	P129-280：2.49	
P280	44G25	円形	U字状	17.10	16.84	23	22	26	P280-281：2.94	
P281	45H1	長楕円形	U字状	17.39	17.12	68	46	27	P281-282：3.61	
P282	45H7	円形	弧状	17.43	17.23	43	41	20	P282-283：1.79	
P283	45H12	円形	U字状	17.42	17.06	40	33	36	P283-284：1.56	
P284	45H11・16	円形	U字状	17.42	17.08	47	44	34	P284-285：2.21	
P285	44H15	円形	弧状	17.45	17.23	41	33	22	P285-286：1.68	
P286	44H10	円形	台形状	17.46	17.22	38	35	24	P286-287：2.68	
P287	44H4	円形	U字状	17.42	17.16	34	31	26	P287-293：2.37	
P293	44G23	円形	U字状	17.31	17.13	32	26	18	P293-294：1.88	
P294	44G24	円形	台形状	17.42	17.25	28	24	17	P294-129：1.74	

SB301

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P304	50I22	隅丸方形	階段状	17.49	17.09	50	48	40	P304-305：2.33	
P305	50J3	方形	階段状	17.49	17.22	64	57	27	P305-306：2.35	
P306	50J4・9	隅丸方形	階段状	17.50	17.11	60	55	39	P306-307：2.40	
P307	50J9	隅丸方形	台形状	17.45	17.20	57	55	25	P307-308：2.37	
P308	51J11	長方形	台形状	17.54	17.16	69	56	38	P308-309：2.21	
P309	51J12・17	隅丸長方形	台形状	17.53	17.18	64	52	35	P309-310：1.87	
P310	51J16	隅丸方形	階段状	17.42	17.17	65	60	25	P310-311：2.31	
P311	50J25,51J21	隅丸長方形	階段状	17.53	17.23	71	42	30	P311-312：2.05	
P312	50K5	隅丸方形	階段状	17.47	17.12	56	54	35	P312-313：1.71	
P313	50K4・5・9・10	方形	階段状	17.48	17.12	60	54	36	P313-314：2.05	
P314	50K3・4	隅丸方形	階段状	17.45	17.16	71	65	29	P314-315：2.48	
P315	50J22・23,50K2・3	隅丸方形	階段状	17.51	17.21	63	63	30	P315-316：2.31	
P316	50J22	隅丸方形	階段状	17.52	16.98	61	56	54	P316-317：2.31	
P317	49J20,50J16	隅丸長方形	階段状	17.51	17.08	64	50	43	P302-303：2.21	
P302	50J6	隅丸方形	階段状	17.44	17.11	52	48	33	P303-304：1.69	
P303	50J1・2	隅丸長方形	階段状	17.42	17.19	53	46	23	P323-324：2.71	
P323	50I17	円形	台形状	17.49	17.14	34	33	35	P324-325：2.27	
P324	50I23・24	不整形	不整形	17.44	17.20	69	46	24	P325-326：2.40	
P325	50I24・25,50J4・5	不整形	不整形	17.44	17.12	114	41	32	P326-327：2.41	
P326	50J5	楕円形	階段状	17.48	17.04	48	40	44	P327-328：2.35	
P327	51J6	楕円形	階段状	17.55	17.04	52	43	51	P328-329：1.83	
P328	51J12	楕円形	階段状	17.58	16.99	44	36	59	P329-330：1.78	
P329	51J13	楕円形	階段状	17.59	16.93	51	42	66	P330-331：1.78	
P330	51J17・18	円形	階段状	17.53	16.91	40	36	62	P331-332：2.15	
P331	51J22	円形	階段状	17.54	17.06	50	44	48	P332-333：2.24	
P332	51K1	楕円形	階段状	17.52	17.08	37	31	44	P333-334：1.74	
P333	51K1・6	円形	階段状	17.54	17.09	42	42	45		
P334	50K10	楕円形	階段状	17.46	17.10	42	31	36		

SB335

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P336	50I11	円形	U字状	17.42	17.21	25	21	21	P336-337：1.04	
P337	50I12	円形	U字状	17.42	17.17	24	21	25	P337-338：1.29	
P338	50I17	円形	階段状	17.47	17.22	37	35	25	P338-339：1.23	
P339	50I17	円形	台形状	17.48	17.26	37	31	22	P339-340：1.41	
P340	50I21・22	円形	U字状	17.37	17.18	37	33	19	P340-100：2.05	
P100	50J1	楕円形	箱状	17.44	17.18	22	17	26	P318-319：1.33	
P318	49J4	楕円形	U字状	17.39	17.06	43	33	33	P319-320：2.11	
P319	49J4	円形	台形状	17.39	16.92	38	34	47	P320-321：1.89	
P320	49I25	円形	弧状	17.45	17.07	30	29	38	P321-322：1.32	
P321	49I20,50I16	長楕円形	階段状	17.48	17.11	52	30	37	P322-336：1.48	
P322	50I16	円形	U字状	17.46	17.06	27	25	40	P338-1935：0.92	
P1935	50I17・18	円形	U字状	17.47	17.21	27	25	26	P1935-1936：2.45	
P1936	50I22	円形	弧状	17.43	17.33	30	25	10	P1936-340：0.73	

第 17 表　掘立柱建物柱穴観察表（8）

SB52

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P52	51H1	円形	台形状	17.11	16.74	32	31	37	P52-53：2.43	
P53	51H7	円形	U字状	17.08	16.74	27	26	34	P53-54：2.92	
P54	51H13	円形	U字状	17.18	16.73	31	30	45	P54-65：1.57	
P65	51H13	円形	台形状	17.24	16.74	36	34	50	P65-66：2.05	
P66	51H17	円形	U字状	17.23	16.68	30	30	55	P66-67：2.14	
P67・68	51H21・22	楕円形	漏斗状	17.32	16.74	63	53	58	P67-58：1.45	
P58	51H21	楕円形	台形状	17.38	16.72	40	33	66	P58-59：2.57	
P59	50H25	楕円形	台形状	17.37	16.81	45	35	56	P59-60：2.29	
P60	50H19	円形	U字状	17.31	16.87	28	28	44	P60-61：2.51	
P61	50H13	円形	台形状	17.24	16.88	31	31	36	P61-62：1.54	
P62	50H13	円形	U字状	17.13	17.00	25	25	13	P52-63：1.40	
P63	51H6	円形	台形状	17.22	16.77	36	35	45	P53-64：1.50	
P64	51H7・12	円形	U字状	17.21	16.84	33	33	37	P63-64：2.53	
P72	51H11	円形	台形状	17.23	16.68	39	36	55	P64-65：2.64	
P69	50H20	楕円形	台形状	17.34	16.93	27	22	41	P63-71：2.08	
P70	50H14	円形	U字状	17.27	16.86	38	34	41	P64-72：1.99	
P71	50H10・15	円形	台形状	17.24	16.81	37	33	43	P66-72：2.54	
P55	51H14・19	円形	U字状	17.10	16.63	34	32	47	P71-72：2.52	
P56	51H23	円形	台形状	17.24	16.81	26	26	43	P59-69：1.44	
P57	51I2	円形	台形状	17.30	16.88	29	29	42	P67-69：2.45	
									P69-72：2.12	
									P69-70：2.45	
									P60-70：1.34	
									P62-70：2.48	
									P70-71：2.16	
									P54-55：2.29	
									P55-56：4.43	
									P56-57：2.15	
									P57-58：2.39	

SB1930

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1931	50I11・16	円形	箱状	17.43	17.01	26	23	42	P1931-1932：2.18	
P1932	50I17	円形	U字状	17.46	17.23	22	21	23	P1932-1933：1.94	
P1933	50I21・22	楕円形	U字状	17.37	17.21	35	27	16	P1933-1934：2.27	
P1934	50I16	長楕円形	U字状	17.48	17.13	45	30	35	P1934-1931：2.01	

SB75

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P76	50J2	円形	台形状	17.49	17.21	36	30	28	P76-77：1.65	
P77	50J3	円形	台形状	17.51	17.26	30	26	25	P77-78：1.55	
P78	50J8	円形	台形状	17.51	17.22	26	25	29	P78-79：1.78	
P906	50J8	円形	U字状	17.53	17.18	33	28	35	P79-80：1.30	
P79	50J8・13	円形	U字状	17.54	17.40	28	26	14	P80-81：1.77	
P80	50J7	円形	台形状	17.54	17.36	24	23	18	P81-76：1.98	
P81	50J6・7	円形	台形状	17.52	17.26	25	25	26	P78-906：1.43	
P907	50J4	楕円形	U字状	17.47	17.15	37	28	32	P79-906：0.35	
P905	50J12	円形	台形状	17.51	17.18	30	26	33	P79-905：1.24	
									P78-907：1.89	
									P905-906：1.59	

SB84

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P85	50J6・11	円形	台形状	17.45	17.12	38	37	33	P85-86：2.29	
P86	50J12	円形	台形状	17.53	17.05	32	31	48	P86-87：2.06	
P87	50J17・18	円形	台形状	17.46	17.09	36	35	37	P87-88：2.24	
P88	50J23	円形	台形状	17.50	17.16	32	29	34	P88-89：1.97	
P89	50J23	円形	台形状	17.51	17.17	25	24	34	P89-90：1.25	
P90	50K2	楕円形	台形状	17.55	17.21	37	29	34	P90-95：1.40	
P95	50K2・7	楕円形	台形状	17.60	17.14	38	29	46	P95-82：2.25	
P82	50K1	円形	台形状	17.64	17.16	24	22	48	P82-83：2.16	
P83	49J25	円形	台形状	17.40	17.15	28	26	25		

SB341

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P345	50J21	円形	台形状	17.63	17.36	28	26	27	P345-344：1.87	
P344	49K5	円形	台形状	17.64	17.32	30	26	32	P344-343：1.85	
P343	49K9	楕円形	台形状	17.69	17.39	40	31	30	P343-342：1.92	
P342	49K9	円形	台形状	17.67	17.35	33	31	32		

SB346

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P351	51J9	円形	階段状	17.54	17.24	39	35	30	P351-352：2.94	
P352	51J15	円形	U字状	17.51	17.02	23	23	49	P352-353：1.50	
P353	51J15	円形	U字状	17.55	17.14	29	27	41	P353-354：1.71	
P354	51J19	円形	U字状	17.53	16.90	38	32	63	P354-37：1.60	
P37	51J24	円形	U字状	17.51	17.07	36	34	44	P37-348：3.04	
P348	51J18	楕円形	U字状	17.42	16.92	54	42	50	P348-349：1.78	
P349	51J13	円形	階段状	17.52	17.00	42	34	52	P349-350：1.47	
P350	51J9・14	円形	階段状	17.55	17.06	40	38	49	P350-351：1.77	

第 18 表　掘立柱建物柱穴観察表（9）

SB31

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P43	51J18・19	円形	U字状	17.53	17.11	29	27	42	P43-27：2.15	
P27	51J24	円形	台形状	17.54	17.25	31	30	29	P27-26：2.19	
P26	51K5	円形	台形状	17.54	17.17	35	33	37	P26-32：4.79	
P32	51K9	円形	台形状	17.57	17.30	33	33	27	P32-29：2.17	
P29	51K8	円形	台形状	17.55	17.09	35	34	46	P29-39：2.26	
P39	51K2	不整形	U字状	17.54	17.03	68	36	51	P39-43：4.61	

SB22

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P27	51J24	円形	台形状	17.54	17.25	31	30	29	P27-26：2.19	
P26	51K5	円形	台形状	17.54	17.17	35	33	37	P26-25：2.20	
P25	52K1	円形	台形状	17.53	17.22	25	24	31	P25-24：2.31	
P24	51K10	円形	箱状	17.54	17.33	29	28	21	P24-23：2.55	
P23	51K14・15	円形	箱状	17.57	17.26	36	34	31	P30-29：2.06	
P30	51K12	楕円形	U字状	17.56	17.03	38	27	53	P29-28：1.87	
P29	51K8	円形	U字状	17.55	17.09	35	34	46	P28-27：2.87	
P28	51K3・4	楕円形	台形状	17.57	17.11	42	36	46		

SB13

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P35	51K5	円形	U字状	17.55	17.12	36	36	43	P35-16：1.87	
P16	52K1・6	円形	U字状	17.55	17.08	40	39	47	P16-17：1.89	
P17	52K6・7	円形	台形状	17.55	17.14	42	38	41	P17-18：1.75	
P18	52K12	円形	台形状	17.54	17.19	36	33	35	P42-14：2.19	
P42	51K15・20	円形	台形状	17.55	17.38	36	34	17	P14-33：1.57	
P14	51K15	楕円形	U字状	17.57	17.24	37	28	33	P33-34：2.42	
P33	51K9	円形	台形状	17.57	17.30	33	32	27	P34-35：0.92	
P34	51K5	円形	台形状	17.53	17.36	29	28	17		

SB952

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P955	36H21	円形	台形状	17.65	17.10	53	48	55	P955-956：1.83	
P956	36I2	円形	U字状	17.60	17.14	44	39	46	P956-957：2.05	
P957	36I7・8	円形	台形状	17.57	17.22	40	35	35	P957-979：2.28	
P979	36I7・12	円形	台形状	17.50	17.12	37	36	38	P979-958：2.37	
P958	36I11	円形	U字状	17.74	17.22	44	42	52	P958-959：1.97	
P959	35I10・15	楕円形	U字状	17.46	17.11	31	27	35	P959-953：1.88	
P953	35I10	円形	台形状	17.53	17.18	34	34	35	P953-954：2.14	
P954	35I5	円形	階段状	17.58	17.08	39	37	50	P954-955：2.04	

SB531

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P540	36I14	円形	U字状	17.20	16.69	45	40	51	P540-535：2.17	
P535	36I20	円形	U字状	17.29	16.79	41	37	50	P535-534：2.14	
P534	36I19・24	円形	台形状	17.20	16.85	52	48	35	P534-533：1.87	
P533	36I23	円形	台形状	17.30	16.96	52	52	34	P533-532：1.86	
P532	36J2・3	円形	台形状	17.32	16.93	54	49	39	P532-536：2.18	
P536	36I22	円形	台形状	17.31	16.95	48	42	36	P536-537：2.07	
P537	36I16	円形	階段状	17.32	16.83	49	42	49	P537-538：1.87	
P538	36I12・17	円形	台形状	17.24	16.76	43	39	48	P538-539：1.89	
P539	36I12	楕円形	弧状	17.28	16.79	47	35	49		

SB1057

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1037	38I11	楕円形	U字状	17.48	17.23	58	47	25	P1037-1036：1.21	
P1036	38I12	円形	U字状	17.61	17.20	47	43	41	P1036-1016：1.84	
P1016	38I17・18	円形	U字状	17.69	17.26	42	41	43	P1016-1015：1.86	
P1015	38I18	楕円形	U字状	17.54	17.30	56	48	24	P1015-1058：1.81	
P1058	38I24	円形	台形状	17.67	17.35	38	38	32	P1058-1026：1.11	
P1026	38I24	円形	台形状	17.70	17.39	54	54	31	P1026-1024：1.72	
P1024	38J4	円形	台形状	17.71	17.36	36	35	35	P1024-1056：1.13	
P1056	38J4・9	円形	漏斗状	17.62	17.31	34	30	31	P1056-1014：1.57	
P1014	38J8	楕円形	U字状	17.67	17.36	72	52	31	P1014-1013：1.33	
P1013	38J2・3・7・8	円形	U字状	17.71	17.37	49	43	34	P1013-1032：1.99	
P1032	38J2	楕円形	階段状	17.71	17.38	63	51	33	P1032-1044：1.80	
P1044	38I21,38J1	円形	U字状	17.64	17.36	47	44	28	P1044-1034：1.81	
P1034	37I25	楕円形	U字状	17.70	17.18	54	43	52	P1034-1035：1.17	
P1035	37I20・25	円形	台形状	17.68	17.31	46	43	37	P1035-1020：1.45	
P1020	37I20	円形	台形状	17.65	17.31	48	44	34	P1020-1021：1.31	
P1021	37I15,38I11	円形	台形状	17.69	17.24	43	40	45	P1021-1037：1.57	

第 19 表　掘立柱建物柱穴観察表（10）

SB681

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P687	38I23・24,38J3・4	円形	台形状	17.69	17.27	41	41	42	P687-688：1.84	
P688	38J4	円形	U字状	17.64	17.05	39	37	59	P688-643：2.17	
P643	38J10	不整形	U字状	17.64	17.14	43	37	50	P643-642：2.31	
P642	39J11	円形	台形状	17.66	17.21	50	47	45	P642-686：2.20	
P686	38J20	楕円形	U字状	17.36	17.16	55	43	20	P686-685：2.16	
P685	38J19	円形	台形状	17.75	17.16	46	45	59	P685-684：2.23	
P684	38J13・18	円形	台形状	17.74	17.11	51	51	63	P684-683：2.28	
P683	38J12・13	円形	U字状	17.72	17.13	44	40	59	P683-682：2.02	
P682	38J7	円形	台形状	17.68	17.12	55	50	56	P682-689：2.36	
P689	38J2・3	楕円形	U字状	17.67	17.24	48	39	43	P689-687：2.24	

SB583

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P584	37J9	楕円形	U字状	17.73	17.31	36	30	42	P584-593：1.87	
P593	37J15	円形	台形状	17.68	17.41	38	37	27	P593-592：1.70	
P592	37J20	円形	U字状	17.74	17.41	40	36	33	P592-591：1.74	
P591	38J16	楕円形	U字状	17.76	17.36	47	39	40	P591-590：2.15	
P590	37J25	楕円形	台形状	17.75	17.45	53	46	30	P590-589：2.42	
P589	37K4	円形	台形状	17.75	17.45	36	36	30	P589-588：1.73	
P588	37J23	円形	U字状	17.75	17.46	31	27	29	P588-587：1.78	
P587	37J18	円形	U字状	17.71	17.44	40	37	27	P587-586：1.77	
P586	37J17	円形	台形状	17.74	17.43	33	31	31	P586-585：2.31	
P585	37J13	円形	U字状	17.72	17.31	46	44	41	P585-584：2.16	

SB668

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P658	39J9・10	円形	U字状	17.73	17.43	26	26	30	P658-649：1.57	
P649	39J10・15	円形	台形状	17.69	17.45	21	20	24	P649-674：2.10	
P674	40J11	円形	U字状	17.73	17.57	23	23	16	P674-670：0.94	
P670	40J16	円形	台形状	17.72	17.59	28	28	13	P675-664：1.76	
P675	39J19	円形	U字状	17.75	17.49	24	23	26	P664-659：1.66	
P664	39J13・14	楕円形	台形状	17.74	17.56	30	25	18	P659-658：0.99	
P659	39J9・14	楕円形	箱状	17.72	17.56	26	19	16		

SB1715

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P615	40K7・12	円形	台形状	17.62	17.34	52	46	28	P615-630：2.02	
P630	40K12	円形	台形状	17.63	17.34	50	44	29	P630-627：2.29	
P627	40K18	円形	台形状	17.71	17.21	55	48	50	P627-629：2.06	
P629	40K22	円形	台形状	17.71	17.44	29	29	27	P640-631：2.33	
P640	40K21	円形	台形状	17.68	17.35	41	38	33	P631-611：1.70	
P631	39K20	楕円形	台形状	17.61	17.27	37	30	34	P611-615：1.78	
P611	40K11	円形	台形状	17.70	17.37	34	30	33		

SB377

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P382	42I16	隅丸長方形	階段状	17.54	16.93	72	58	61	P382-383：4.05	
P383	42I22,42J2	長楕円形	階段状	17.59	17.02	91	62	57	P383-384：1.51	
P384	42J1・2	楕円形	階段状	17.57	17.01	77	57	56	P384-385：1.33	
P385	42J1	隅丸方形	台形状	17.57	17.15	53	49	42	P385-386：1.37	
P386	41J5・10,42J1・6	楕円形	階段状	17.58	17.07	68	53	51	P386-387：1.51	
P387	41J10	隅丸方形	階段状	17.59	16.97	69	68	62	P387-378：4.10	
P378	41I24	楕円形	階段状	17.52	16.95	70	59	57	P378-379：1.41	
P379	41I24・25	隅丸方形	階段状	17.57	16.99	62	62	58	P379-380：1.39	
P380	41I20・25	円形	階段状	17.56	16.98	71	68	58	P380-381：1.39	
P381	41I20,42I16	楕円形	階段状	17.57	16.94	66	57	63	P381-382：1.40	

SB1708

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1709	40J25	円形	台形状	17.66	17.37	32	29	29	P1709-1710：2.21	
P1710	41K1	円形	台形状	17.67	17.16	28	28	51	P1710-453：2.93	
P453	41K7	円形	階段状	17.66	17.40	39	39	26	P453-1712：3.93	
P1712	41K11	円形	台形状	17.66	17.52	28	26	14	P1712-1713：2.89	
P1713	40K10・15	円形	U字状	17.66	17.35	28	28	31	P1713-1714：2.49	
P1714	40K9	円形	台形状	17.62	17.49	22	22	13	P1714-1709：4.27	

SB439

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P444	42J13	楕円形	U字状	17.58	17.29	34	28	29	P444-443：1.34	
P443	42J18	楕円形	台形状	17.61	17.49	27	23	12	P443-442：2.74	
P442	42J24	円形	階段状	17.64	17.33	58	55	31	P442-441：2.30	
P441	42J23,42K3	円形	階段状	17.60	17.24	33	33	36	P441-440：3.74	
P440	42K1	円形	U字状	17.67	17.45	32	31	22	P440-447：2.12	
P447	41J25,41K5	円形	台形状	17.56	17.35	35	32	21	P447-446：2.54	
P446	41J20	円形	台形状	17.60	17.37	33	31	23	P446-445：3.60	
P445	42J16・17	円形	台形状	17.57	17.33	38	36	24		

第 20 表　掘立柱建物柱穴観察表（11）

SB415

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P421	42J19	楕円形	台形状	17.64	17.33	64	53	31	P421-420：1.81	
P420	42J24	楕円形	弧状	17.64	17.52	45	33	12	P420-419：1.85	
P419	42J25,42K5	長楕円形	階段状	17.59	17.31	76	43	28	P419-418：1.99	
P418	42K4	不整形	階段状	17.65	17.11	103	57	54	P418-417：1.95	
P417	42K8	楕円形	U字状	17.66	17.18	54	44	48	P417-416：1.83	
P416	42K7・8	長楕円形	台形状	17.66	17.32	68	46	34	P416-425：1.59	
P425	42K7	不整形	台形状	17.66	17.50	43	34	16	P425-424：1.81	
P424	42K1・2	隅丸長方形	階段状	17.62	17.10	81	68	52	P424-423：1.98	
P423	42J22	楕円形	階段状	17.61	17.43	67	57	18	P423-422：1.70	
P422	42J18・23	楕円形	階段状	17.57	17.02	68	54	55	P422-421：2.13	

SB408

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P412	43J11・16	円形	台形状	17.51	17.21	42	40	30	P412-411：4.14	
P411	43J22	楕円形	階段状	17.54	17.05	49	40	49	P411-410：1.44	
P410	43K1	楕円形	台形状	17.45	17.35	32	26	10	P410-409：1.79	
P409	42K5	楕円形	U字状	17.58	17.35	46	37	23	P409-414：3.80	
P414	42J19・20	円形	U字状	17.59	17.28	44	42	31	P414-413：2.03	
P413	42J20	円形	台形状	17.54	17.25	36	32	29	P413-412：1.76	

SB919

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P920	42K4・5	円形	台形状	17.65	17.30	26	21	35	P920-921：2.59	
P921	42K10	円形	台形状	17.63	17.38	24	21	25	P921-922：2.04	
P922	43K11	円形	台形状	17.62	17.38	26	26	24	P923-924：2.64	
P923	42K19	円形	台形状	17.71	17.48	26	24	23	P924-925：2.04	
P924	42K13	楕円形	台形状	17.70	17.26	46	34	44	P925-920：2.33	
P925	42K9	円形	台形状	17.65	17.42	29	28	23		

SB1414

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1417	42K17	円形	台形状	17.73	17.34	37	33	39	P1417-1418：2.61	
P1418	42K23	円形	U字状	17.73	17.27	43	41	46	P1418-1419：2.55	
P1419	42L4	円形	U字状	17.61	17.30	37	33	31	P1419-1420：2.67	
P1420	42L5・10	円形	U字状	17.69	17.21	34	33	48	P1420-1421：2.97	
P1421	43L6・11	円形	階段状	17.65	17.46	37	32	19	P1421-1422：2.71	
P1422	42L15・20,43L11・16	隅丸長方形	階段状	17.67	17.56	50	43	11	P1422-1423：2.02	
P1423	42L20・25	楕円形	U字状	17.80	17.29	30	25	51	P1423-1424：2.88	
P1424	42L14・19	長楕円形	階段状	17.55	17.36	44	30	19	P1424-1425：2.63	
P1425	42L13	円形	U字状	17.76	17.33	49	44	43	P1425-1426：2.67	
P1426	42L7	楕円形	階段状	17.81	17.36	34	30	45	P1426-1415：2.96	
P1415	42L1	円形	台形状	17.73	17.35	33	30	38	P1415-1915：1.43	
P1915	42K21	円形	U字状	17.73	17.61	26	25	12	P1915-1916：1.88	
P1916	42K17・22	円形	U字状	17.63	17.38	28	24	25	P1916-1417：1.02	

SB1782

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1286	43L11	不整形	階段状	17.42	17.21	54	50	21	P1286-1747：1.75	
P1747	42L20,43L16	楕円形	階段状	17.67	17.33	98	73	34	P1747-1408：2.01	
P1408	42L20・25	隅丸方形	階段状	17.80	17.35	78	69	45		

SB1840

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1837	38L24	楕円形	階段状	17.77	17.48	48	41	29	P1837-1390：2.16	
P1390	38M4	円形	台形状	17.77	17.41	40	39	36	P1390-1376：1.27	
P1376	38M10	円形	階段状	17.75	17.51	38	33	24	P1376-1386：0.96	
P1386	38M10	楕円形	階段状	17.75	17.40	54	45	35	P1386-1375：1.55	
P1375	38M14	楕円形	台形状	17.75	17.33	49	43	42	P1375-1379：1.77	
P1379	38M13・14	円形	階段状	17.80	17.22	44	39	58	P1379-1380：1.09	
P1380	38M13	円形	台形状	17.77	17.41	38	35	36	P1380-1377：1.18	
P1377	38M8	円形	台形状	17.78	17.41	33	29	37	P1377-1322：2.18	
P1322	38M2・3	楕円形	台形状	17.67	17.50	42	34	17	P1322-1378：1.39	
P1378	38M3	不整形	階段状	17.77	17.41	93	47	36	P1378-1837：1.42	

SB1626

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1627	39M23・24	楕円形	台形状	17.88	17.45	54	45	43	P1627-1621：1.93	
P1621	39N4	隅丸方形	U字状	17.97	17.58	49	47	39	P1621-1633：1.81	
P1633	39N5・10	隅丸長方形	台形状	17.96	17.52	75	62	44	P1633-1527：1.60	
P1527	39N9・10	楕円形	台形状	17.96	17.42	69	53	54	P1527-1632：1.46	
P1632	39N14	円形	台形状	17.93	17.53	64	60	40	P1632-1603：1.69	
P1603	39N13・14	不整形	階段状	18.02	17.28	67	60	74	P1603-1631：1.63	
P1631	39N13	円形	階段状	17.95	17.49	49	44	46	P1631-1630：2.10	
P1630	39N7	楕円形	台形状	17.90	17.35	67	51	55	P1630-1629：1.51	
P1629	39N2・3・7・8	隅丸方形	台形状	17.90	17.55	67	54	35	P1629-1628：1.64	
P1628	39N3	円形	台形状	17.88	17.12	45	45	76	P1628-1627：1.46	

第 21 表　掘立柱建物柱穴観察表（12）

SB1887

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1882	39L1	円形	階段状	17.71	17.30	55	51	41	P1882-1866：2.23	
P1866	39L7	隅丸長方形	台形状	17.68	17.45	95	70	23	P1866-1867：0.59	
P1867	39L7・8	不整形	階段状	17.68	17.50	101	77	18	P1867-1883：1.94	
P1883	39L8・13	隅丸長方形	台形状	17.75	17.34	77	53	41	P1883-1871：1.53	
P1871	39L12	円形	台形状	17.73	17.52	58	55	21	P1871-1890：1.69	
P1890	39L17	楕円形	U字状	17.73	17.38	46	37	35	P1890-1889：1.66	
P1889	39L16	楕円形	U字状	17.79	17.46	42	35	33	P1889-1883：1.89	
P1888	38L25	円形	台形状	17.76	17.61	37	34	15	P1888-1895：1.86	
P1895	38L20	円形	階段状	17.70	17.50	33	29	20	P1895-1313：2.32	
P1313	38L14	楕円形	台形状	17.68	17.46	36	29	22	P1313-1893：2.31	
P1893	38L9・10・14・15	不整形	階段状	17.77	17.46	75	57	31	P1893-1816：1.79	
P1816	38L10	円形	階段状	17.69	17.31	63	56	38	P1816-1582：1.37	
P1582	39L1・6	隅丸長方形	階段状	17.81	17.37	70	56	44	P1582-1882：1.55	
P1891	39L3	円形	台形状	17.70	17.48	35	34	22	P1891-1878：2.38	
P1878	39L8	楕円形	U字状	17.68	17.37	63	49	31	P1878-1883：1.51	

SB1760

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1953	40L13	隅丸長方形	階段状	17.77	17.27	58	43	50	P1953-1453：2.30	
P1453	40L18	楕円形	弧状	17.74	17.50	70	60	24	P1453-1434：1.98	
P1434	40L24	長楕円形	階段状	17.68	17.18	82	42	50	P1434-1433：1.62	
P1433	40L23,40M3	円形	階段状	17.77	17.13	59	59	64	P1433-1439：1.94	
P1439	40M2	円形	階段状	17.81	17.29	60	59	52	P1439-1469：2.10	
P1469	40M1・6・7	円形	階段状	17.81	17.23	55	55	58	P1469-1781：2.11	
P1781	39M10,40M6	円形	階段状	17.82	17.16	53	47	66	P1781-1862：2.17	
P1862	39M5・10	円形	U字状	17.83	17.35	44	43	48	P1862-1776：2.26	
P1776	39L24,39M4	楕円形	階段状	17.83	17.03	57	50	80	P1776-1756：2.07	
P1756	39L25	円形	階段状	17.78	17.08	54	49	70	P1756-1751：1.95	
P1751	40L16	隅丸長方形	階段状	17.74	17.15	77	61	59	P1751-1749：2.02	
P1749	40L17	隅丸長方形	階段状	17.75	17.07	80	64	68	P1749-1440：1.71	
P1924	40L17	円形	U字状	17.83	17.53	30	28	30	P1749-1924：1.04	
P1925	40L23	円形	U字状	17.77	17.39	31	26	38	P1924-1925：1.90	
P1755	40M1	円形	U字状	17.88	17.43	32	30	45	P1925-1433：1.50	
P1757	39L25,39M5,40L20,40M1	円形	U字状	17.83	17.45	41	37	38	P1469-1755：1.23	
									P1755-1757：1.87	
									P1756-1757：1.37	

SB1452

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1450	40L18・23	長楕円形	階段状	17.79	17.26	115	60	53	P1450-1451：2.65	
P1451	40L23・24	楕円形	台形状	17.81	17.25	67	58	56	P1451-1442：1.97	
P1442	40M4	楕円形	階段状	17.83	17.12	73	60	71	P1442-1443：1.90	
P1443	40M3・8	円形	階段状	17.85	17.43	79	73	42	P1443-1444：2.09	
P1444	40M7・8	円形	階段状	17.86	17.30	66	65	56	P1444-1445：2.38	
P1445	40M11・12	円形	階段状	17.86	17.55	72	68	31	P1445-1446：2.49	
P1446	40M6	円形	階段状	17.77	17.30	69	64	47	P1446-1447：2.15	
P1447	39M5	隅丸長方形	階段状	17.84	17.47	84	56	37	P1447-1448：2.10	
P1448	40L21	円形	階段状	17.82	17.27	61	58	55	P1448-1449：1.98	
P1449	40L22	不整形	階段状	17.82	17.27	109	73	55	P1449-1450：2.09	

SB1460

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1463	40L23・24	円形	漏斗状	17.80	17.47	48	46	33	P1463-1923：1.64	
P1923	40L24	円形	台形状	17.73	17.51	29	29	22	P1923-1922：2.05	
P1922	40M4	楕円形	U字状	17.78	17.46	30	21	32	P1922-1462：2.97	
P1462	40M8	円形	階段状	17.85	17.25	49	43	60	P1462-1461：2.01	
P1461	40M7	円形	階段状	17.87	17.29	44	40	58	P1461-1774：2.46	
P1774	40M11	円形	台形状	17.85	17.44	45	44	41	P1774-1467：1.92	
P1467	40M6	不整形	U字状	17.77	17.50	36	28	27	P1467-1466：1.74	
P1466	39M5	楕円形	台形状	17.83	17.39	39	33	44	P1466-1465：2.40	
P1465	40M1	楕円形	U字状	17.84	17.24	40	35	60	P1465-1464：2.16	
P1464	40L22	円形	階段状	17.82	17.43	43	39	39	P1464-1463：2.47	
P1468	40M3	円形	U字状	17.79	17.53	40	36	26	P1462-1468：1.99	
									P1464-1468：1.72	

SB1482

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1483	40L1・6	円形	台形状	17.73	17.42	32	30	31	P1483-1484：1.08	
P1484	40L7	楕円形	U字状	17.72	17.33	28	23	39	P1484-1485：1.35	
P1485	40L8	円形	階段状	17.71	17.19	32	32	52	P1485-1486：2.00	
P1486	40L12・13	円形	階段状	17.77	17.39	35	35	38	P1486-1487：1.50	
P1487	40L12	円形	台形状	17.75	17.18	37	37	57	P1487-1488：1.20	
P1488	40L6・11	円形	U字状	17.76	17.47	28	27	29	P1488-1483：1.97	

第 22 表　掘立柱建物柱穴観察表（13）

SB1500

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1430	40L4・5・9・10	隅丸長方形	階段状	17.69	17.14	82	61	55	P1430-1749：2.34	
P1749	40L10	楕円形	漏斗状	17.63	16.97	36	31	66	P1749-1498：2.06	
P1498	41L11	楕円形	階段状	17.72	17.07	75	57	65	P1498-1497：1.61	
P1497	40L20	円形	階段状	17.79	17.34	55	51	45	P1497-1436：1.78	
P1436	40L19・20	不整形	階段状	17.75	17.14	84	71	61	P1436-1434：2.22	
P1434	40L24	長楕円形	階段状	17.68	17.18	82	42	50	P1434-1767：2.27	
P1767	40L17	楕円形	台形状	17.81	17.46	37	30	35	P1767-1432：2.51	
P1432	40L12・13	不整形	階段状	17.77	17.16	71	55	61	P1432-1431：1.70	
P1431	40L8・13	円形	階段状	17.78	17.15	84	77	63	P1431-1429：2.04	
P1429	40L9	楕円形	階段状	17.73	17.05	83	63	68	P1429-1430：1.54	

SB1750

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1438	40L10,41L6	円形	台形状	17.80	17.33	43	43	47	P1438-1759：1.79	
P1759	41L11	楕円形	階段状	17.80	17.39	43	33	41	P1759-1758：1.78	
P1758	41L16・17	円形	階段状	17.76	17.27	48	42	49	P1758-1495：1.34	
P1495	41L16	楕円形	階段状	17.79	17.32	49	42	47	P1495-1458：1.62	
P1458	40L25	円形	階段状	17.75	17.31	47	42	44	P1458-1459：1.36	
P1459	40L25	円形	台形状	17.74	17.39	50	43	35	P1459-1780：1.90	
P1780	40L19	円形	U字状	17.78	17.37	25	25	41	P1780-1441：1.63	
P1441	40L14・19	円形	階段状	17.79	17.29	50	47	50	P1441-1490：1.43	
P1490	40L14	長楕円形	台形状	17.79	17.25	69	44	54	P1490-1763：1.66	
P1763	40L15	楕円形	台形状	17.80	17.28	57	49	52	P1763-1438：1.50	

SB1762

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1752	40L15	円形	台形状	17.77	17.35	46	40	42	P1752-1499：3.91	
P1499	41L21	円形	台形状	17.73	17.43	31	28	30	P1499-1773：3.99	
P1773	40M4	楕円形	台形状	17.82	17.46	33	25	36	P1773-1453：3.91	
P1453	40L18	楕円形	弧状	17.74	17.50	70	60	24	P1453-1765：1.51	
P1765	40L19	円形	U字状	17.78	17.54	29	26	24	P1765-1784：0.98	
P1784	40L14・19	円形	U字状	17.74	17.46	25	22	28	P1784-1752：1.35	

SB1761

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1496	41L16	楕円形	U字状	17.80	17.40	42	34	40	P1496-1494：1.79	
P1494	41L16・21	楕円形	台形状	17.78	17.40	52	41	38	P1494-1457：1.86	
P1457	40L25	円形	U字状	17.78	17.50	46	41	28	P1457-1771：1.02	
P1771	40L25	円形	台形状	17.74	17.30	34	32	44	P1771-1753：1.13	
P1753	40L24,40M4	円形	弧状	17.81	17.56	37	35	25	P1753-1434：1.54	
P1434	40L24	不整形	U字状	17.68	17.54	50	23	14	P1434-1928：1.39	
P1928	40L19・24	楕円形	U字状	17.69	17.45	28	23	24	P1928-1929：1.17	
P1929	40L20	楕円形	U字状	17.75	17.47	35	26	28	P1929-1496：1.62	
P1926	40L21・22	円形	弧状	17.79	17.64	45	44	15	P1494-1926：1.46	
P1927	40M5	楕円形	U字状	17.76	17.54	42	36	22	P1926-1927：4.13	
									P1753-1927：1.50	

SB1440

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1292	42L24・25	隅丸長方形	台形状	17.77	17.21	85	73	56	P1456-1300：2.54	
P1456	42M12・13	不整形	階段状	17.77	17.31	72	35	46	P1300-1455：1.77	
P1300	42M11・12	楕円形	台形状	17.77	17.43	69	56	34	P1455-1473：2.02	
P1455	42M11・16	隅丸方形	階段状	17.82	17.27	55	53	55	P1473-1407：1.88	
P1473	41M10・15	円形	漏斗状	17.80	17.44	35	32	36	P1407-1291：2.12	
P1407	41M5・10	円形	階段状	17.82	17.50	78	70	32	P1291-1294：2.12	
P1291	42M1	不整形	階段状	17.75	17.40	77	75	35	P1294-1288：1.66	
P1294	42M2	楕円形	階段状	17.80	17.25	71	59	55	P1288-1287：0.93	
P1288	42M3	円形	階段状	17.77	17.50	56	52	27	P1287-1292：2.33	
P1287	42L23,42M3	隅丸方形	階段状	17.81	17.47	58	52	34		

SB1470

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1471	42M11・16	円形	階段状	17.80	17.11	57	51	69	P1481-1480：2.10	
P1481	41N9・10	不整形	階段状	17.82	17.22	80	59	60	P1480-1477：2.08	
P1480	41N4	楕円形	U字状	17.87	17.16	56	46	71	P1477-1478：1.82	
P1477	41M24	不整形	階段状	17.87	17.17	68	51	70	P1478-1476：1.68	
P1478	41M19・20・24・25	不整形	階段状	17.88	17.43	69	56	45	P1476-1471：1.79	
P1476	41M20	不整形	台形状	17.82	17.46	56	46	36	P1731-1732：2.24	
P1731	41N9	円形	階段状	17.81	17.58	34	30	23	P1732-1733：2.60	
P1732	41N3・4	円形	台形状	17.87	17.27	35	34	60	P1733-1741：2.35	
P1733	41M23	円形	台形状	17.90	17.50	45	44	40	P1741-1472：2.79	
P1741	41M19	不整形	台形状	17.85	17.70	65	51	15		
P1472	41M15・20	円形	台形状	17.82	17.18	52	51	64		

第 23 表　掘立柱建物柱穴観察表（14）

SB1905

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1906	41L17・18・22・23	円形	弧状	17.77	17.61	39	36	16	P1906-1907：2.36	
P1907	41L23	楕円形	弧状	17.79	17.63	34	27	16	P1907-1908：1.47	
P1908	41M4	楕円形	U字状	17.75	17.61	25	20	14	P1908-1909：1.85	
P1909	41M8	円形	U字状	17.83	17.66	20	18	17	P1909-1910：0.74	
P1910	41M8	円形	U字状	17.83	17.45	32	32	38	P1910-1911：1.37	
P1911	41M2	円形	U字状	17.82	17.54	31	30	28	P1911-1914：1.53	
P1914	41M2	楕円形	弧状	17.78	17.58	46	33	20	P1914-1912：0.55	
P1912	41M2	円形	弧状	17.76	17.61	38	35	15	P1912-1913：0.92	
P1913	41L22	円形	弧状	17.77	17.66	43	41	11	P1913-1906：1.87	

SB880

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P876	40N15・20	円形	台形状	18.02	17.57	39	36	45	P876-881：1.92	
P881	40N20・25,41N16	円形	U字状	18.03	17.71	58	53	32	P881-875：1.88	
P875	41N21	楕円形	階段状	17.98	17.67	48	39	31	P875-877：1.74	
P877	40O5	円形	台形状	18.04	17.86	31	29	18	P877-874：2.08	
P874	40O4	円形	U字状	18.08	17.56	45	43	52	P874-873：3.47	
P873	40N23	円形	弧状	17.99	17.85	44	42	14	P873-876：4.00	

SA936

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P937	37E6・11	楕円形	台形状	17.44	16.93	57	50	51	P937-858：1.88	SE916の目隠し塀か
P858	37E11	楕円形	漏斗状	17.42	16.86	44	38	56	P858-939：2.24	
P939	37E17	円形	U字状	17.43	16.94	43	43	49	P939-940：3.15	
P1942	37E23	楕円形	階段状	17.37	16.67	53	45	70		

SA1198

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1140	43F1	楕円形	箱状	17.28	17.02	33	29	26	P1140-1139：2.17	
P1139	43F1・2	円形	台形状	17.26	17.01	33	32	25	P1139-1138：1.25	
P1138	43E22	円形	台形状	17.24	17.04	28	28	20	P1138-1197：1.98	
P1197	43E18	円形	台形状	17.28	17.22	18	17	6		

SA252

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P253	44H9	円形	弧状	17.45	17.34	27	26	11	P253-254：0.79	
P254	44H9・14	楕円形	弧状	17.48	17.39	43	33	9	P254-255：0.69	
P255	44H14	楕円形	台形状	17.42	17.33	28	23	9	P255-256：0.74	
P256	44H14・15	円形	U字状	17.43	17.28	19	18	15	P256-257：0.71	
P257	44H15	円形	台形状	17.40	17.27	28	28	13	P257-258：0.70	
P258	44H15	楕円形	皿状	17.42	17.29	38	32	13	P258-259：0.76	
P259	44H15,45H11	円形	U字状	17.37	17.19	26	25	18	P259-260：0.73	
P260	45H11	円形	U字状	17.42	17.26	30	27	16	P260-261：0.81	
P261	45H16	楕円形	弧状	17.43	17.26	44	34	17	P261-262：0.75	
P262	45H16・17	楕円形	U字状	17.42	17.33	37	28	9	P262-263：0.73	
P263	45H17	円形	弧状	17.46	17.29	46	40	17	P263-264：0.73	
P264	45H17	円形	弧状	17.43	17.26	31	29	17	P264-265：0.70	
P265	45H17・18	長楕円形	弧状	17.46	17.21	45	22	25		

SA266

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P278	44H9	円形	箱状	17.47	17.40	16	16	7	P278-277：0.77	
P277	44H9・14	円形	U字状	17.45	17.29	17	16	16	P277-276：0.65	
P276	44H15	楕円形	U字状	17.43	17.25	35	30	18	P276-275：0.79	
P275	44H15	円形	U字状	17.40	17.28	17	15	12	P275-274：0.69	
P274	44H15	楕円形	台形状	17.42	17.24	36	31	18	P274-273：0.76	
P273	44H15,45H11	円形	台形状	17.37	17.17	33	29	20	P273-272：0.72	
P272	45H11	円形	台形状	17.43	17.24	41	40	19	P272-271：0.75	
P271	45H16	楕円形	弧状	17.42	17.34	25	19	8	P271-270：0.75	
P270	45H16・17	円形	U字状	17.43	17.34	18	16	9	P270-269：0.72	
P269	45H17	楕円形	弧状	17.47	17.37	37	31	10	P269-268：0.77	
P268	45H17	楕円形	U字状	17.43	17.26	37	30	17	P268-267：0.90	
P267	45H17・18	楕円形	U字状	17.46	17.11	44	35	35		

SA663

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P673	39J21・22	楕円形	箱状	17.72	17.55	32	22	17	P673-621：2.38	
P621	39J17	円形	箱状	17.71	17.41	27	24	30	P621-620：2.00	
P620	39J18	円形	箱状	17.73	17.41	27	27	32		

第 24 表　掘立柱建物柱穴観察表（15）・杭列柱穴観察表（1）

SA1302

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1089	37N15	楕円形	U字状	17.76	17.55	28	22	21	P1089-1088：1.64	
P1088	37N15	円形	階段状	17.70	17.50	33	33	20	P1088-1087：1.59	
P1087	38N16	円形	漏斗状	17.73	17.50	27	25	23	P1087-1096：1.53	
P1096	38N16・21	楕円形	階段状	17.73	17.44	51	42	29	P1096-1090：2.18	
P1090	38N22	円形	階段状	17.88	17.66	36	31	22	P1090-1064：1.47	
P1064	38O2・3	円形	階段状	17.93	17.44	56	54	49		

SA1265

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1789	41M16	円形	箱状	17.80	17.31	33	31	49	P1789-1788：1.18	
P1788	41M17	隅丸方形	U字状	17.82	17.31	45	41	51	P1788-1917：3.10	
P1917	41M8・13	円形	U字状	17.84	17.32	36	32	52		

SA1281

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1284	41L2	長楕円形	階段状	17.77	17.48	48	27	29	P1284-1283：2.76	
P1283	41L8	楕円形	U字状	17.77	17.37	34	27	40	P1283-1282：3.06	
P1282	41L14	楕円形	U字状	17.73	17.48	34	29	25		

SA1423

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1728	41M9	不整形	台形状	17.78	17.19	59	48	59	P1728-1729：1.62	根石と考えられる礫出土
P1729	41M14	円形	階段状	17.78	17.12	43	43	66	P1729-1790：1.66	根石と考えられる礫出土
P1790	41M15	楕円形	台形状	17.79	17.25	40	30	54		根石と考えられる礫出土

SA1711

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1791	41M4・5	円形	弧状	17.80	17.67	49	43	13	P1791-1792：3.90	SB1440の庇カ
P1792	42L21	円形	U字状	17.73	17.46	23	23	27	P1792-1299：3.26	
P1299	42L18・23	円形	U字状	17.80	17.55	47	46	25	P1299-1793：3.04	
P1793	42L19	楕円形	U字状	17.78	17.48	35	27	30	P1793-1794：1.48	
P1794	42L20	楕円形	U字状	17.78	17.62	29	25	16		

SA1797

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1798	41L13・18	楕円形	U字状	17.78	17.24	29	25	54	P1798-1799：3.62	
P1799	41L20・25	楕円形	弧状	17.78	17.49	35	34	29	P1799-1800：2.36	
P1800	42L21	円形	台形状	17.78	17.47	37	36	31		

SA1901

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱間寸法（m）	備考
				確認面	底面	長径	短径	深さ		
P1904	41L23	円形	U字状	17.78	17.56	30	28	22	P1904-1903：1.79	
P1903	41M4	円形	U字状	17.80	17.63	34	32	17	P1903-1902：1.74	
P1902	41M4・5	楕円形	U字状	17.77	17.58	39	31	19		

第 25 表　杭列柱穴観察表（2）

道Ⅰ群観察表

遺構番号	図版	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
			長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）					
553	50	36J	192	32	22	弧状	単層	N-77° -E	SI501＜SD553	
552	50	36J	164	42	21	弧状	単層	N-75° -E	SI501＜SD552	
551	50	36J	164	46	23	弧状	単層	N-76° -E	SI501＜SD551	
502	50	36J～K	210	52	24	台形状	単層	N-80° -E		
522	50	36J～K	220	64	37	台形状	単層	N-78° -E	SI521＜SD522	
523	50	36J～K	228	66	33	台形状	単層	N-83° -E	SI521＜SD523	
524	50	36J～K	254	57	39	台形状	単層	N-88° -E	SI521＜SD524	
525	50	36K	256	60	35	台形状	2層	N-87° -E	SI521＜SD525	
526	50	36K	204	68	36	台形状	単層	N-88° -W	SI521＜SD526	
527	50	36K	124	56	28	台形状	単層	N-84° -W	SI521＜SD527	
528	50	36K	197	58	29	台形状	単層	N-79° -E	SI521＜SD528	
529	50	36K～37K	258	66	23	台形状	単層	N-80° -E	SI521＜SD529、SD529＝SD530＝SD541	
530	50	37K	198	74	19	台形状	単層	N-85° -E	SI521＜SD530、SD529＝SD530＝SD541	
541	50	37K	278	75	37	台形状	単層	N-88° -W	SI521＜SD541、SD529＝SD530＝SD541	
542	50	37K	278	49	24	台形状	単層	N-80° -W	SD542＝SD543＝SD544	
543	50	37K	290	70	32	台形状	単層	N-85° -W	SD542＝SD543＝SD544	
544	50	37K	144	70	34	台形状	単層	N-88° -W	SD542＝SD543＝SD544	
508	50	37K	130	38	16	台形状	単層	N-88° -W	SD544＝SD508	
514	50	37K	142	54	33	台形状	2層	N-87° -W	SD514＝SD509	
509	50	37K	136	44	12	台形状	単層	N-87° -W	SD514＝SD509	
513	50	37K	190	64	20	台形状	単層	N-88° -E		
512	50	37K	198	56	23	台形状	単層	N-86° -E		
511	50	37K	164	65	22	台形状	単層	N-86° -E		
510	50	37K	208	66	20	台形状	単層	N-84° -E		
545	50	37K	190	50	15	台形状	単層	N-85° -E		
546	50	37K	162	50	15	台形状	単層	N-89° -E		
520	50	37K	164	27	3	弧状	単層	N-78° -W		

道Ⅱ群観察表

遺構番号	図版	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
			長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）					
1328	54	37K	44	33	9	弧状	2層			
1329	54	37K	30	26	8	弧状	2層			
1330	54	37K	23	24	6	弧状	単層			
1331	54	37K	38	31	8	弧状	単層			
1332	54	37K	68	45	12	弧状	2層	N-54° -E		
1333	54	37K	42	59	8	弧状	単層	N-65° -E		
1334	54	37K	52	34	13	弧状	単層	N-63° -E		
1335	54	37K	50	41	16	弧状	単層			
1343	54	37K	32	29	10	弧状	単層			
1344	54	37K	218	62	22	台形状	2層	N-78° -E		
1345	54	37K	196	56	22	台形状	単層	N-76° -E		
1346	54	37K～L	176	58	32	半円状	2層	N-78° -E	SD1346＜SD1324	
1347	54	37K～L	152	58	26	台形状	2層	N-78° -E	SD1347＜SD1324	
1349	54	37K～L	152	50	25	台形状	2層	N-72° -E	SD1349＜SD1324	
1350	54	38L	86	59	23	弧状	単層	N-83° -E	SD1350＜SD1324	
1358	54	38L	122	63	14	弧状	単層	N-83° -W	SD1358＜SD1324	
1359	54	38L	44	42	12	弧状	単層		SD1359＜SD1324	
1360	54	38L	58	45	10	弧状	2層		SD1360＜SD1324	
1361	54	38L	68	38	12	弧状	2層		SD1361＜SD1324	
1362	54	38L	68	39	12	弧状	単層		SD1362＝SD1363	
1363	54	38L	104	34	16	弧状	2層	N-88° -W	SD1362＝SD1363、SD1363＜SD1324、SI1395＜SD1363	
1364	54	38L	46	32	17	弧状	2層		P1364＜SD1324、SI1395＜P1364	
1365	54	38L	60	39	16	弧状	2層	N-74° -W	SI1395＜P1365	
1366	54	38L	32	22	9	弧状	2層		SI1395＜P1366	
1367	54	38L	30	28	4	弧状	単層			
1368	54	38L	24	20	4	弧状	単層			

道Ⅲ群観察表

遺構番号	図版	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
			長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）					
1810		38L	54	36	9	弧状	2層	N-67° -E	SB1887-P1893＜SD1810	
1811		38L	175	42	15	弧状	2層	N-66° -E		
1812		38L	44	28	9	弧状	2層	N-66° -E	SD1811＝SD1812	
1813		38L	98	31	9	弧状	2層	N-64° -E		
1825	76	39L	155	15	8	弧状	単層	N-65° -E		
1826	76	39L	96	32	8	弧状	単層	N-65° -E	SD1826＝SD1827＝SD1828	
1827	76	39L	68	22	5	弧状	単層	N-66° -E	SD1826＝SD1827＝SD1828	
1828	76	39L	133	27	13	弧状	単層	N-53° -E	SD1826＝SD1827＝SD1828	
1829	76	39L	153	28	9	弧状	単層	N-53° -E		
1588	76	39L	84	32	6	弧状	単層	N-61° -E	SD1588＝SD1600	
1600	76	39L	242	38	13	弧状	単層	N-50° -E	SD1588＝SD1600	
1587	76	39L	118	32	7	弧状	単層	N-66° -E	SD1587＝SD1832	
1832	76	39L	194	42	14	弧状	単層	N-44° -E	SD1587＝SD1832	
1833	76	39L	82	31	17	弧状	単層	N-60° -E	SD1833＝SD1834	
1834	76	39L	164	53	15	弧状	単層	N-54° -E	SD1833＝SD1834＝SD1835	
1835	76	39L	101	44	20	弧状	単層	N-66° -E	SD1834＝SD1835	
1585	76	39L	55	42	19	弧状	単層	N-23° -E		
1586	76	39L	94	35	16	弧状	単層	N-28° -E		
1849	76	39L	130	38	15	弧状	2層	N-28° -E		
1850	76	39L	114	39	14	弧状	2層	N-34° -E		
1842	76	39L	166	40	12	弧状	2層	N-45° -E		
1851	76	39L	104	42	12	弧状	単層	N-25° -E		
1852	76	39L	181	48	15	弧状	単層	N-70° -E	SD1852＜SD893	
1589	76	39L	107	37	12	弧状	単層	N-56° -E		
1843	76	39L	169	28	12	弧状	単層	N-43° -E		
1844	76	39L	111	32	11	弧状	単層	N-38° -E	SD1844＝SD1845	
1845	76	39L	123	41	15	弧状	単層	N-48° -E	SD1844＝SD1845	
1846	76	39L	116	38	15	弧状	単層	N-45° -E		
1847	76	39L	120	48	13	弧状	単層	N-53° -E		
1848	76	39L～40L	114	55	20	弧状	単層	N-46° -E	SD1848＜SD893	
1590	76	40L	115	43	17	弧状	単層	N-28° -E		
1591	76	40L	27	23	7	弧状	単層			
1592	76	40L	36	30	11	弧状	単層			
1593	76	40L	20	19	6	弧状	単層			

第 26 表　道観察表

畑作溝Ⅰ-1 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）					
790	26	28	35F,35・36F	3.25	0.32	3	弧状	単層	N-4°-E		
791	26	28	35・36F	2.96	0.39	5	弧状	単層	N-0°		
792	26	28	35F・G	5.56	0.39	5	弧状	単層	N-3°-E		
793	26	28	35F・G	5.76	0.36	6	弧状	単層	N-2°-E		
794	26	28	35F	5.17	0.26	5	弧状	単層	N-1°-E	SD794<SK798	
795	26	28	35F	4.98	0.31	4	弧状	単層	N-0°	SD795<SK798	
796	26	28	35F	5.30	0.30	6	弧状	単層	N-1°-E	SD796<SB782P788・1721	
1724	26	28	35F	5.28	0.28	6	弧状	単層	N-1°-E		
1725	26	-	35F	1.97	0.30	7	弧状	単層	N-2°-E	SD1725<SB782P1722	

畑作溝Ⅰ-2 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）					
461	26	28	36H	2.23	0.26	6	弧状	単層	N-26°-E	SB480P485<SD461	
462	26	28	36H	2.23	0.30	4	弧状	単層	N-24°-E	SD461<SD471	
463	26	28	36H	2.48	0.31	3	弧状	単層	N-22°-E	SB480P486<SD463<SD471	
464	26	28	36H	2.20	0.30	3	弧状	単層	N-31°-E	SD464<SD471	
465	26	28	36H	1.98	0.37	3	弧状	単層	N-25°-E	SD465<SD471	
466	26	28	35・36H	2.61	0.98	19	弧状	単層	N-23°-E	SB480P489<SD466<SD471	
467	26	28	35H	4.31	0.47	5	弧状	単層	N-23°-E		
468	26	28	35H	4.07	0.53	11	弧状	単層	N-25°-E		
469	26	28	35H	5.79	0.39	11	弧状	単層	N-25°-E		
470	26	28	35H	6.38	0.55	20	弧状	単層	N-25°-E	SD470<SD518	

畑作溝Ⅱ-1 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）					
737	30	-	39H	2.13	0.28	8	弧状	単層	N-57°-E	SD737=SD357	
738	30	-	39H	1.65	0.25	8	弧状	単層	N-53°-E	SD738=SD357	
739	30	-	39H	1.10	0.26	7	弧状	単層	N-47°-E	SD739=SD357	
740	30	-	39H	0.92	0.28	11	弧状	単層	N-52°-E	SD740=SD357	
741	30	-	39H	0.73	0.32	14	弧状	単層	N-42°-E	SD741=SD357	
1195	30	-	39H	1.25	0.41	4	弧状	単層	N-17°-E	SD1195=SD357	
756	31	-	42H	2.72	0.45	4	弧状	単層	N-53°-E	SD756=SE359	
757	31	-	42H	2.75	0.33	5	弧状	単層	N-53°-E		
355	31	-	42・42H	0.76	0.33	4	弧状	単層	N-54°-E		
758	31	-	42・43H	3.26	0.33	7	弧状	単層	N-67°-E		
759	31	-	43H	3.60	0.46	7	弧状	単層	N-66°-E		
760	31	-	43H	3.70	0.39	7	弧状	単層	N-64°-E		
761	31	-	43H	2.51	0.29	4	弧状	単層	N-64°-E		
762	31	-	43H	2.59	0.28	6	弧状	単層	N-64°-E		
763	31	-	43H	2.51	0.28	7	弧状	単層	N-60°-E		
764	31	-	43H	0.60	0.32	7	弧状	単層	N-76°-E		
765	31	-	43H	0.41	0.28	7	弧状	単層	N-62°-E		
766	31	-	43H	0.40	0.30	6	弧状	単層	N-68°-E		
767	31	-	43H	2.41	0.21	6	弧状	単層	N-72°-E		
768	31	-	43H	1.66	0.35	6	弧状	単層	N-67°-E		
769	31	-	43H	0.86	0.26	3	弧状	単層	N-58°-E		
773	31	-	43・43H,43I	2.81	0.34	5	弧状	単層	N-75°-E		
774	31	-	43・44H	0.28	0.27	3	弧状	単層	N-67°-E		
775	31	-	44H	1.24	0.36	5	弧状	単層	N-69°-E		
776	31	-	44I	0.54	0.38	4	弧状	単層	N-72°-E		
777	31	-	44I	0.57	0.38	4	弧状	単層	N-75°-E		
778	34	-	44I	0.31	0.24	6	弧状	単層	N-73°-E		
779	34	-	44I	0.77	0.28	3	弧状	単層	N-75°-E		

畑作溝Ⅱ-2 群観察表

溝番号	平面図	断面図	グリッド	規模			断面形	覆土	方向	切り合い関係	備考
				長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）					
742	1	-	40I	1.27	0.30	4	弧状	単層	N-67°-E		
743	1	-	40I	3.17	0.28	5	弧状	単層	N-62°-E		
744	1	-	41I	1.13	0.33	7	弧状	単層	N-58°-E		
745	1	-	41I	1.23	0.37	17	弧状	単層	N-56°-E		
746	1	-	41I	2.87	0.43	7	弧状	単層	N-67°-E		
747	1	-	41I	1.33	0.32	4	弧状	単層	N-86°-E		
748	1	-	41I	4.43	0.35	8	弧状	単層	N-71°-E		
749	1	-	41I	2.50	0.33	8	弧状	単層	N-80°-E		
750	1	-	41I	3.82	0.32	6	弧状	単層	N-72°-E		
751	1	-	41I	2.39	0.32	4	弧状	単層	N-84°-E		
752	1	-	41I	5.30	0.22	9	弧状	単層	N-69°-E		
753	1	-	41I	1.61	0.26	3	弧状	単層	N-79°-E		
754	1	-	41I	5.08	0.30	6	弧状	単層	N-69°-E		
755	1	-	41I	2.87	0.31	5	弧状	単層	N-78°-E		
908	58	-	42I,40・41J	6.14	0.26	5	弧状	単層	N-77°-E	SD908=SB377P385	
909	58	-	42I・J	1.96	0.29	2	弧状	単層	N-64°-E	SD909=SB377P383	

第 27 表　畑作溝観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
1	SI1356（38L22）	覆土	弥生土器	高杯Ａ	脚部～裾部破片		16.4		酸化炎・橙色	礫			弥生時代後期（２期）	透孔４
2	SI1356（38L22）	覆土	弥生土器	鉢Ｂ	底部破片		2.5		酸化炎・淡橙色	白			弥生時代後期（２期）	底部孔有
3	SI1356（38M2）	覆土	弥生土器	壺Ｃ	完形	12.6	5	21.4	酸化炎・灰黄褐色	白		外面上半櫛書文・刺突文	弥生時代後期（２期）	
4	SI1356（38M2）	覆土	弥生土器	壺Ｃ	口縁部～底部 1/3	16	5.6	20.4	酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期（２期）	
5	SI1356	覆土１	弥生土器	壺Ｃ？	口縁部破片	17.2			酸化炎・浅黄橙色	礫			弥生時代後期（２期）	外面スス付着
6	SI501	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部破片	20			酸化炎・灰黄色	石・白			弥生時代後期（２期）	
7	SI501P556	覆土	弥生土器	器台Ａ？	受部破片	33			酸化炎・灰黄色	白・角			弥生時代後期（２期）	
8	SI501	覆土	弥生土器	高杯Ａ？	破片	16.5			酸化炎・灰黄色	白		外面ミガキ？	弥生時代後期（２期）	
9	SI501（36J22）	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部破片				酸化炎・灰黄色	石			弥生時代後期（２期）	
10	SI501P556	覆土	弥生土器	器台Ａ	脚部～裾部 1/2		17.8		酸化炎・淡黄色	白			弥生時代後期（２期）	
11	SI501（36J11） SI501P556	覆土 覆土	弥生土器	器台Ａ？	破片	10			酸化炎・灰白色	石		外面竹管状工具による刺突文	弥生時代後期（２期）	
12	SI501（36J11） SI501P562	覆土 覆土１	弥生土器	器台Ａ？	裾部破片		18.6		酸化炎・灰黄色	白			弥生時代後期（２期）	
13	SI501（35K23.36J11）	覆土	弥生土器	器台Ａ	脚部～裾部破片				酸化炎・灰白色	白		外面赤彩、スタンプ文	弥生時代後期（２期）	
14	SI501P560	覆土	弥生土器	壺Ｄ	完形	15.6	5	31	酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ヘラケズリ	弥生時代後期（２期）	
15	SI501	覆土	土師器	高杯Ｃ	杯部 1/3	17			酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	
16	SI501P557	覆土３	土師器	高杯Ｃ	杯部破片				酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	
17	SI501SK578	覆土	土師器	高杯Ｃ	脚部 1/3		12.7		酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	
18	SI501SK578	覆土	土師器	高杯Ｃ	脚部 1/3		12		酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	
19	SI501P561	覆土１	土師器	高杯Ｃ	脚部 1/3				酸化炎・橙色	白		外面ヘラケズリ？	古墳時代中期	
20	SI501SK578	覆土	土師器	高杯Ｃ	脚部 1/3				酸化炎・黄橙色	白			古墳時代中期	
21	SI501P562	覆土１	土師器	鉢Ｃ	口縁部～底部 1/3	15	7.2		酸化炎・橙色	白・礫			古墳時代中期	
22	SI501	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～端部 2/3	12.9		4.4	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	後世の混入か。 内外面自然釉、歪み激しい。
23	SI1820（39M17.24・39N1.3）	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部～脚部破片	18.9	19.8	15	酸化炎・淡黄橙色	石・角			弥生時代後期（２期）	
24	SI1820（38M20）	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部～脚部 1/2				酸化炎・浅黄橙色	石・角			弥生時代後期（２期）	
25	SI1820（39M24）	覆土	弥生土器	器台Ａ	脚部 1/3		14.8		酸化炎・灰白色	石			弥生時代後期（２期）	透孔４
26	SI1820（39M24）	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部～脚部破片				酸化炎・灰白色	石			弥生時代後期（２期）	
27	SI1820（39M22）	覆土	弥生土器	壺Ｃ？	口縁部破片	24			酸化炎・灰色	白・角			弥生時代後期（２期）	
28	SI1820（39M17.23）	覆土	弥生土器	甕	体部破片				酸化炎・淡黄橙色	石・雲・角		外面刺突文	弥生時代後期（２期）	
29	SI1820（39M24）	覆土	弥生土器	？					酸化炎・淡黄橙色	石		外面鋸歯状文	弥生時代後期？	
30	SI1820（39M24）	覆土	土師器	甕Ｃ	口縁部～体部破片	8.5			酸化炎・黄橙色	礫			古墳時代前期	
31	SI1820（39M21）	覆土	土師器	甕Ｃ	口縁部破片	14.4			酸化炎・にぶい橙色	石			古墳時代前期	
32	SI1820（39M16）	覆土	土師器	甕Ｄ	体部破片				酸化炎・橙色	白		外面タタキ	古墳時代前期？	33 と同一個体
33	SI1820（39M21）	覆土	土師器	甕Ｄ	体部破片				酸化炎・橙色	白		外面タタキ	古墳時代前期？	32 と同一個体
34	SI1395（38L19）	覆土１	土師器	甕Ｃ	口縁部破片	16			酸化炎・淡黄橙色	礫			古墳時代前期	風化著しい
35	SI1395（38L9）	覆土１	土師器	甑？	口縁部～体部破片	20			酸化炎・橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期？	
36	SI1821（39M2）	覆土１	土師器	壺Ｆ	底部破片		4.9		酸化炎・黄灰色	礫			古墳時代前期？	後世の混入か
37	SI1821（39M8）	覆土１	土師器	高杯	受部～脚部 1/2	16.7			酸化炎・淡黄橙色	白・礫		杯部内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期（７世紀中葉）	
38	SI1821（39M3）	覆土１	土師器	高杯	受部～脚部 1/3	17			酸化炎・淡黄橙色	白		杯部内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期（７世紀中葉）	
39	SI1821（39M3）	覆土１	須恵器	杯蓋	頂部～端部 2/3	14.7		5	還元炎・灰白色	長・白		外面上半ロクロケズリ後沈線による施文	古墳時代後期（７世紀中葉）	床面付近より出土。焼きぶくれ有
40	SI1821	覆土	須恵器	杯	口縁部～底部 2/3	12.4	6.1	4.1	還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀中葉）	
41	SI1821（39M8）	覆土	須恵器	杯蓋ＡⅡ	頂部～端部 1/3	14.5		2.4	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	古代（８世紀前半）	後世の混入か
42	SI1821（39M8）	覆土１	須恵器	杯蓋ＡⅢ	頂部～端部 2/3	14		3.2	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	古代（８世紀前半）	後世の混入か
43	SI519	覆土	土師器	杯Ｃ	口縁部～底部 1/3	17	3	5	酸化炎・にぶい黄橙色	石・白			古墳時代後期（７世紀前半）	
44	SI519	覆土	土師器	甕	口縁部～体部破片	18			酸化炎・浅黄橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期（７世紀前半）	
45	SI519	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/2	18.8			酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期（７世紀前半）	
46	SI519	覆土	土師器	甑ＡⅠ	口縁部～底部 1/2	23.6	10.9	25.8	酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期（７世紀前半）	
47	SI519	覆土	土師器	甑Ｂ	底部破片		4.6		酸化炎・橙色	礫			古墳時代後期（７世紀前半）	底部多孔（12 孔以上）
48	SI519 カマド	覆土	須恵器	杯	完形	14.8	2	3.1 以上	還元炎・灰白色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	
49	SI521	覆土１	土師器	杯Ｂ	完形	14.3	3	4.9	酸化炎・灰白色	礫			古墳時代後期（７世紀前半）	
50	SI521（37J21）	覆土	土師器	甕	口縁部破片	18			酸化炎・浅黄橙色	角・礫		外面ハケメ	古墳時代後期（７世紀前半）	
51	SI521	覆土１	須恵器	杯蓋	完形	13.8		4	還元炎・灰白色	石	ヘラ切り	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	風化著しい
52	SI521 カマド	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～端部破片	13		3.5	還元炎・灰色	白	ヘラ切り？	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	
53	SI521	覆土	須恵器	杯	完形	11.6	3	4.4	還元炎・灰色	白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	
54	SI521	覆土１	須恵器	杯	完形	11.7	4.5	4.2	還元炎・灰色	白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古墳時代後期（７世紀前半）	
55	SI1305 カマド（38M5）	覆土	土師器	杯Ａ	口縁部～底部破片	14.6	4.2	5.2	酸化炎・にぶい黄橙色	石・長・白		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期	
56	SI1305（38M5.10）	覆土	土師器	壺	口縁部～体部 1/3	19.7			酸化炎・淡黄橙色	白		外面ミガキ	古墳時代後期	
57	SI1305（38M5）	覆土	土師器	壺	体部～底部 2/3		7.7		酸化炎・淡黄橙色	赤		内外面ミガキ	古墳時代後期	
58	SI1305（38M5.10）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	完形	18.1	6.8	32.7	酸化炎・淡黄橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期	

第 28 表　土器・土製品・陶磁器観察表（1）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
59	SI1305（38M5）	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	24.2			酸化炎・淡黄橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期	
60	SI1305 カマド（38M5）	覆土	土製品	円筒形土製品	完形	11.7	8.3	29.5	酸化炎・淡黄橙色	白		内外面ハケメ	古墳時代後期	
61	SI1305 カマド（38M5）	覆土	土製品	円筒形土製品	一部欠損				酸化炎・淡黄橙色	白		内外面ハケメ	古墳時代後期	
62	SI1305 カマド（38M5）	覆土	土製品	支脚	完形	4.5		10	酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代後期	
63	SI1615（39N13）	覆土	土師器	杯Ｃ	口縁部～底部 1/2	13	4	4.1	酸化炎・淡黄橙色	石			古墳時代後期（7 世紀）	
64	SI1615（39N8.13）	覆土	土師器	甕ＡⅡ	口縁部～体部 1/3	14.2			酸化炎・淡橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀）	
65	SI1615（39N13）	覆土	土師器	甕	体部～底部 1/3		6.9		酸化炎・淡黄橙色	石・雲			古墳時代後期（7 世紀）	
66	SI1615（39N13）	覆土	土師器	甑	体部破片				酸化炎・淡黄橙色	石			古墳時代後期（7 世紀）	
67	SI1615（39N13）	覆土	土製品	円筒形土製品	底部破片		7.8		酸化炎・淡黄橙色	石・角			古墳時代後期（7 世紀）	
68	SI1615（39N13）	覆土	土製品	支脚	完形	4.9	10.1	6.8	酸化炎・淡黄橙色	石・礫			古墳時代後期（7 世紀）	
69	SI1615（39N13）	覆土	土製品	支脚	完形	4	10.9	6.9	酸化炎・淡黄橙色	石・礫			古墳時代後期（7 世紀）	
70	SI900（40O9）	覆土	土師器	杯Ｃ	口縁部～底部 2/3	21.2	6.2	8.9	酸化炎・淡黄橙色	白		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期	
71	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	完形	17	6.7	29.9	酸化炎・淡黄橙色	赤		内外面ハケメ	古墳時代後期	
72	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～底部 1/2	17	6.9	29.6	酸化炎・淡黄橙色	石・礫		外面ハケメ	古墳時代後期	
73	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/3	15			酸化炎・灰白色	白		外面ハケメ	古墳時代後期	
74	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕Ａ	体部～底部 1/2		6.9		酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
75	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部 1/2	16			酸化炎・淡黄橙色	角		内外面ハケメ	古墳時代後期	
76	SI900（40O9）	覆土	土師器	甕ＢⅡ	口縁部～底部 2/3	12.9	5.8	16.1	酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
77	SI900（40O9）	覆土	土師器	甑ＡⅠ	口縁部～底部 2/3	20.5	9.1	23.9	酸化炎・淡黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
78	SI900（40O9）	覆土	土製品	支脚	完形	5.6		9.6	酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代後期	
79	SI1510（40N13）	覆土	土師器	高杯	杯部～脚部 1/2		11.7		酸化炎・淡黄橙色	角・礫		杯部内面黒色処理、脚部外面ハケメ	古墳時代後期	
80	SI1510（40N13）	覆土	土師器	高杯	脚部 1/2		12.2		酸化炎・淡黄橙色	礫			古墳時代後期	
81	SI1510（40N13）	覆土	土師器	杯Ａ	完形	14.5	4	9.4	酸化炎・淡橙色	白		内外面ミガキ、外面下半ヘラケズリ	古墳時代後期	
82	SI1510	覆土	土師器	壺	口縁部～体部 1/3	10			酸化炎・淡黄橙色	白		外面ハケメ後ミガキ、内面ミガキ	古墳時代後期	
83	SI1510（40N16）	覆土	土師器	壺	口縁部～底部破片	17.3	6.8		酸化炎・淡黄橙色	石		内外面ミガキ	古墳時代後期	
84	SI1510	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/2	20.4			酸化炎・淡黄橙色	白		内外面ハケメ	古墳時代後期	
85	SI1510（40N8.13）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/2	17.9			酸化炎・淡黄橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期	
86	SI1510（40N8.13）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/2	17.4			酸化炎・淡黄橙色	白		外面ハケメ	古墳時代後期	
87	SI1510	覆土	土師器	甕ＢⅡ	完形	14.6	5.8	12	酸化炎・淡黄橙色	礫		外面ハケメ、外面下半ヘラケズリ	古墳時代後期	
88	SI1510（40N13）	覆土	土師器	甑ＡⅠ	完形	21.4	9.4	22	酸化炎・黄橙色	礫			古墳時代後期	風化著しい
89	SI1510（40N13）	覆土	土師器	甑ＡⅡ	口縁部～底部 2/3	18.3	6.5	14.4	酸化炎・淡黄橙色	白		外面ハケメ、内面ヘラミガキ	古墳時代後期	
90	SI1510（40N8）	覆土	土製品	円筒形土製品	一部欠損				酸化炎・淡橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
91	SI1510 カマド	覆土	土製品	円筒形土製品	一部欠損	7.9～13	5.4～9.5	29	酸化炎・淡黄橙色	白・礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
92	SI1510SX1543	覆土	土製品	支脚	一部欠損	3.8			酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代後期	
93	SI1510 カマド	覆土	土製品	支脚	一部欠損	5.6			酸化炎・淡橙色	白			古墳時代後期	
94	SI1604（39O11）	覆土	土師器	高杯	杯部 1/2	16.6			酸化炎・明褐灰色	白・雲・礫		杯部内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
95	SI1604（39N22）	覆土	土師器	杯Ｃ	完形	12.2	4.9	4.4	酸化炎・淡黄橙色	雲・白		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
96	SI1604（39O4）	覆土	土師器	杯Ｃ	完形	14.4	4	6.1	酸化炎・にぶい橙色	礫		内面ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
97	SI1604 カマド	覆土	土師器	杯Ｃ	口縁部～底部破片	10.7	3	3.5	酸化炎・にぶい橙色	白		内面黒色処理？後ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
98	SI1604（39O4）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部破片	18.8			酸化炎・にぶい橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
99	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～底部 2/3	15.8	6.4	21	酸化炎・淡黄橙色	石・白・礫		外面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
100	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～底部 2/3	15.4	6	25.6	酸化炎・淡黄橙色	石・白		内外面ヘラケズリ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
101	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部 1/2	16.6			酸化炎・にぶい橙色	白・礫			古墳時代後期（7 世紀前半）	
102	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甕ＢⅡ	完形	13.3	5.6	14.7	酸化炎・にぶい橙色	礫		内面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
103	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甕ＢⅡ	完形	13.8	6.5	15.1	酸化炎・にぶい橙色	礫			古墳時代後期（7 世紀前半）	内面スス付着
104	SI1604（39N22）	覆土	土師器	壺	完形	12	7	17.4	酸化炎・にぶい橙色	礫		外面ハケメ、内面赤彩	古墳時代後期（7 世紀前半）	
105	SI1604（39N22）	覆土	土師器	把手付球胴甕	口縁部～底部 2/3	20.8	7	23.5	酸化炎・にぶい橙色	雲・白		外面ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
106	SI1604（39N22.23・39O3）	覆土	土師器	甑ＡⅠ	口縁部～底部 2/3	22.5	11.4	22.8	酸化炎・淡橙色	礫		内面ヘラケズリ	古墳時代後期（7 世紀前半）	風化著しい
107	SI1604（39N22）	覆土	土師器	甑ＡⅡ	完形	16.5	5.2	11.5	酸化炎・にぶい橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
108	SI1604（39O4）	覆土	土師器	甑ＡⅡ	口縁部～底部 1/2	16.6	6.4	13.5	酸化炎・にぶい橙色	礫		外面ハケメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	体部穿孔
109	SI1604（39N21.23）	覆土	土師器	甑Ｂ	底部破片		7.4		酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代後期（7 世紀前半）	底部多孔（9 孔以上）
110	SI1604（39N23）	覆土	須恵器	杯	完形	12.4	4	3.9	還元炎・灰白色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
111	SI1604（39N23.39O1）	覆土	須恵器	短頸壺	口縁部～体部破片	12.3			還元炎・灰色	白		内外面カキメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
112	SI1604	覆土	須恵器	平瓶	完形	6.9	4	22	還元炎・灰色	白・礫		頸部ロクロナデ、体部外面カキメ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
113	SI1604（39N22）	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面格子状の当て具	古墳時代後期（7 世紀前半）	
114	SI1604（39O3）	覆土	土製品	ミニチュア土器	一部欠損	6.1	4.6	2.5	酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代後期（7 世紀前半）	
115	SI1604（39O3）	覆土	土製品	支脚	一部欠損	4.2			酸化炎・にぶい橙色	白・礫			古墳時代後期（7 世紀前半）	
116	SI1604（38O5）	覆土	土製品	支脚	一部欠損	4.9			酸化炎・にぶい黄橙色	白・礫			古墳時代後期（7 世紀前半）	
117	SX1080（38N18）	覆土	弥生土器	高杯Ａ	脚部～裾部 1/2		16.9		酸化炎・淡黄橙色	白		外面ミガキ	弥生時代後期（2 期）	脚部透孔 4
118	SX1080（38N18）	覆土	弥生土器	器台Ａ	受部破片	19.2			酸化炎・淡黄橙色	白		外面擬凹線。赤彩	弥生時代後期（2 期）	
119	SX1080（38N11）	覆土	弥生土器	器台Ａ	裾部破片		17.3		酸化炎・淡黄橙色	白		外面隆線間に刺突文	弥生時代後期（2 期）	方形の透孔有

第 29 表　土器・土製品・陶磁器観察表（2）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
120	SX1080（38M24）	覆土	弥生土器	鉢 A	口縁部～体部破片	20			酸化炎・浅黄橙色	礫			弥生時代後期（2 期）	風化著しい
121	SX1080（38M23）	覆土	弥生土器	壺 B	口縁部破片	14			酸化炎・淡黄橙色	礫			弥生時代後期（2 期）	
122	SX1080（38N6）	覆土	弥生土器	壺 D	口縁部～頸部破片	13			酸化炎・淡黄橙色	石			弥生時代後期（2 期）	
123	SX1080（38M24.25）	覆土	弥生土器	壺 E	頸部破片				酸化炎・橙色	角		外面櫛書文	弥生時代後期	信州箱清水系
124	SX1080（38M24）	覆土	弥生土器	壺 E	頸部破片				酸化炎・橙色	白		外面櫛書文	弥生時代後期	信州箱清水系
125	SX1080（38M24）	覆土	弥生土器	壺？	口縁部破片				酸化炎・淡黄橙色	白		外面刺突文	弥生時代後期（2 期）	
126	SX1080（38N7）	覆土	弥生土器	甕 B	口縁部～体部破片	22.2			酸化炎・浅黄橙色	石・長・白		頸部～体部外面ヘラナデ	弥生時代後期（2 期）	内面スス付着
127	SX1080（38N2）	覆土	土師器	器台 B	脚部破片				酸化炎・灰白色	礫		外面赤彩	古墳時代前期後半	脚部透孔 4
128	SX1080（39N1）	覆土	土師器	高杯 C	脚部 1/2		8		酸化炎・淡黄橙色	白			古墳時代中期	
129	SX1080（38N2）	覆土	土師器	高杯 C	脚部破片				酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	風化著しい
130	SX1080（39N1）	覆土	土師器	壺 F	口縁部～体部 1/3	13.7			酸化炎・橙色	白		外面ハケメ	古墳時代中期	風化著しい
131	SX1080（38M25）	覆土	土師器	壺 F	口縁部～体部 1/3	16			酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	風化著しい
132	SX1080（38N20）	覆土	土師器	甕 C	口縁部～体部 1/3	19.1			酸化炎・淡黄橙色	白・礫		内外面ハケメ	古墳時代中期	
133	SX1080	覆土	土師器	甕 E	頸部～体部破片				酸化炎・にぶい黄橙色	石・長・雲		体部外面ハケメ	古墳時代前期	東海系 S 字口縁甕
134	SB880P881	覆土	土師器	壺 F	口縁部破片	15			酸化炎・浅黄橙色	白			古墳時代前期	後世の混入か
135	SB880P887	覆土	須恵器	杯	体部破片				還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
136	SB1057SD666	覆土	須恵器	杯	体部破片				還元炎・黒褐色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
137	SB1057SD666	覆土	土師器	甑？	底部破片		2.7		酸化炎・にぶい黄橙色	白			古代	底部孔有
138	SB408P410	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	古代	
139	SB1840P1386	覆土	須恵器	無台杯 A Ⅱ	口縁部～底部 1/3	12.2	8	3.6	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
140	SB1452P1449	覆土	須恵器	無台杯 A	底部破片		6		還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
141	SB1460P1467	覆土	須恵器	杯	口縁部～体部破片	11.8			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
142	SB1760P1439	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部 1/2				還元炎・灰色	白・黒		外面上半ヘラケズリ	古代（8 世紀前半）	外面自然釉
143	SB1750（SD1742）	覆土	須恵器	杯蓋 B	頂部～体部 1/2				還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
144	SB1750P1490	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	体部～端部破片	13.8			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
145	SB1750P1459	覆土	須恵器	横瓶	体部破片				還元炎・灰色	白		外面カキメ、内面指頭圧痕	古代	
146	SB1782P1292	覆土	須恵器	甕	口縁部～体部破片	18.8			還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ	古代	
147	SB1626P1631	覆土	須恵器	無台杯 A Ⅱ	完形	11.2	6.6	3.2	還元炎・橙色	白・礫	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀前葉）	
148	SB1215P1240	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		11		還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
149	SB110P194	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
150	SB151P154	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片				還元炎・灰色	白・黒・骨		ロクロナデ、内面菊花スタンプ文	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
151	SB174P164	覆土 1	珠洲焼	片口鉢	底部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
152	SB201P227	覆土	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部 1/3	8.8	5	1.6	酸化炎・橙色	白・礫		ロクロナデ	中世(12 世紀末～ 13 世紀初頭)	
153	SB201P123	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
154	SB201P220	覆土	青磁	椀	口縁部～体部破片	14.8						ロクロ整形、施釉	中世	
155	SB711P1241	覆土	土師質土器	Ⅲ	完形	8	4.4	1.3	酸化炎・橙色	白			中世（13 世紀前半）	
156	SB301P304	覆土	青磁	椀	口縁部破片							ロクロ整形、施釉。外面蓮弁文	中世（13 世紀第 2 四半期）	
157	SB31P39	覆土	珠洲焼	片口鉢	底部破片		20		還元炎・灰白色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
158	SE605	覆土	須恵器	甕？	頸部？破片				還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古代	
159	SE605	覆土	須恵器	壺	頸部破片				還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
160	SE605	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面格子状タタキ、内面円形の当て具	古代	佐渡小泊産か
161	SE605	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面格子状タタキ、内面同心円？の当て具	古代	
162	SE817	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	古代	後世の混入か
163	SE817 SD815	覆土 覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	32.6			還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀後半）	珠洲Ⅲ期
164	SE451	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面格子状タタキ、内面平行の当て具	古代	
165	SE451	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白			中世	
166	SE1061	覆土	瀬戸美濃焼	Ⅲ	底部破片		6					ロクロ整形、施釉	中世	
167	SE1199	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面格子状タタキ後カキメ、 内面同心円の当て具	古代	遺構には伴わない？後世の混入か
168	SE1199	覆土	須恵器	有台杯	体部～底部破片		9.4		還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代	遺構には伴わない？後世の混入か
169	SE809 37E11	覆土 Ⅰ	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片	58			還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世(13 世紀末～ 14 世紀初頭)	珠洲Ⅲ期末～Ⅳ期初頭
170	SE809	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
171	SE809	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		9.6		還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
172	SE806	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	27			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	中世（14 世紀後半）	内外面自然釉。 珠洲Ⅳ期末～Ⅴ期初頭
173	SE820	覆土 2	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部破片	7	5.6	1.1	酸化炎・浅黄橙色	白		ロクロナデ	中世	
174	SE820	覆土 2	珠洲焼	壺	体部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
175	SE820	覆土 2	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（14 世紀後半）	珠洲Ⅳ期末
176	SE820	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	

第 30 表　土器・土製品・陶磁器観察表（3）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
177	SE901	覆土	土製品	土製円盤	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	珠洲焼甕の体部破片を加工
178	SE915	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
179	SE916	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世（14 世紀前半）	珠洲Ⅳ期
180	SE1102 SE1103	覆土 覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～底部 1/3	19.8	10	8	還元炎・灰色	白・骨	静止糸切り	ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
181	SE1103	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰白色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
182	SE1103	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	18.6			還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（12 世紀末）	珠洲Ⅰ期
183	SE1103	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	36			還元炎・暗青灰色	白		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	外面スス付着。珠洲Ⅱ期
184	SE1103	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
185	SE1103	覆土	青磁	椀	底部破片		6					ロクロ整形、施釉	中世（12 世紀末～ 13 世紀初頭）	
186	SE120	覆土 20	青白磁	皿	口縁部～体部破片	9.4						ロクロ整形、施釉	中世（12 世紀末）	
187	SE1101	覆土 10	青磁	椀	口縁部～体部破片							ロクロ整形、施釉。外面蓮弁文	中世（13 世紀第２四半期）	
188	SE671	覆土 1	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白・骨		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
189	SE672	覆土	土師質土器	皿	体部～底部破片		7		酸化炎・浅黄橙色	白		手づくね	中世（13 世紀前半）	
190	SE672	覆土	土師質土器	皿	口縁部～底部破片	8.8	5	1.5	酸化炎・橙色	白・黒			中世（13 世紀前半）	
191	SE789	覆土	土師質土器	皿	完形	7.5	5.2	1.8	酸化炎・浅黄色	白			中世（14 世紀末～ 15 世紀初頭）	口縁部スス付着。灯明皿
192	SE789	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ	中世	
193	SE789	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
194	SE389	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	中世	
195	SE389	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片	20			還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	中世（12 世紀末）	珠洲Ⅰ期
196	SE389	覆土	珠洲焼	片口鉢	底部破片		8.4		還元炎・青灰色	白・骨	糸切り	ロクロナデ	中世	外面スス付着
197	SE389	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
198	SE389	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・灰色	白・骨・礫		ロクロナデ	中世	
199	SE799	覆土	土師質土器	皿	口縁部～底部 1/3	10.2	7	2	酸化炎・浅黄橙色	白	糸切り	ロクロナデ	中世（15 世紀前半）	口縁部スス付着。灯明皿
200	SE799	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
201	SE200	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白・骨		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	中世	
202	SE251	覆土 9	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白・骨			中世	
203	SE91	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（14 世紀前半）	珠洲Ⅳ期
204	SE91	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・にぶい黄色	白		ロクロナデ	中世（14 世紀末～ 15 世紀初頭）	珠洲Ⅴ期
205	SE448	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	40			還元炎・にぶい黄色	白・骨		ロクロナデ	中世（14 世紀末）	珠洲Ⅴ期
206	SE448	覆土	瓷器系	壺？	口縁部破片	24			還元炎・灰白色	白			中世	
207	SE1086	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（15 世紀前半）	珠洲Ⅴ期
208	SE1399	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		13.8		還元炎・青灰色	白・骨	静止糸切り	ロクロナデ	中世（14 世紀末）	珠洲Ⅴ期
209	SE1399	覆土	青磁	椀	体部破片							ロクロ整形、施釉。内面文様	中世（12 世紀末）	
210	SE1399	覆土	瀬戸美濃焼	折縁深皿	口縁部～体部破片	30						ロクロ整形、施釉	中世（14 世紀末）	
211	SE882	覆土	土師質土器	皿	口縁部破片	7.8			酸化炎・浅黄橙色	礫			中世	口縁部スス付着。灯明皿
212	SE882	覆土	青磁	椀	底部破片		5.8					ロクロ整形、施釉。内面花文様	中世（14 世紀末～ 15 世紀初頭）	
213	SE1060	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
214	SK603	覆土	弥生土器	壺 D	口縁部～頸部破片	14.8			酸化炎・淡黄橙色	石			弥生時代後期（２期）	
215	SK603	覆土	弥生土器	甕 C	口縁部～体部 2/3	13			酸化炎・浅黄橙色	白・礫			弥生時代後期（２期）	外面スス付着
216	SK736	覆土 1	弥生土器	甕 C	口縁部～底部 1/2	14.7	6.2	24	酸化炎・浅黄橙色	白・礫		内外面ハケメ	弥生時代後期（２期）	外面スス付着
217	SK1541	覆土	弥生土器	鉢 A	口縁部～底部 3/4	25.4	3.7	8.9	酸化炎・淡黄橙色	白		外面赤彩	弥生時代後期（２期）	
218	SK1541	覆土	弥生土器	甕 B	口縁部破片	17			酸化炎・浅黄橙色	雲・白・礫			弥生時代後期（２期）	
219	SK1541	覆土	弥生土器	甕	底部破片		5		酸化炎・浅黄橙色	角・白			弥生時代後期（２期）	
220	SK1614	覆土	弥生土器	鉢 A	完形	21.4	2.5	11.4	酸化炎・浅黄橙色	雲・白		内外面ミガキ後赤彩	弥生時代後期（２期）	
221	SK1505	覆土	弥生土器	壺 C ？	口縁部 1/3	14			酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期（２期）	
222	SK1505	覆土	弥生土器	壺 B	口縁部 1/3	15			酸化炎・橙色	礫			弥生時代後期（２期）	
223	SK1505	覆土	須恵器	有台杯	底部破片	9.4			還元炎・青灰色	白・黒		ロクロナデ	古代	
224	SK1505	覆土	須恵器	長頸瓶	完形	4	6	11.9	還元炎・青灰色	白	ヘラ切り・右	ロクロナデ。体部外面ヘラケズリ	古代（9 世紀中葉）	
225	SK504	覆土 2	土師器	高杯 C	杯部～脚部 2/3	14			酸化炎・橙色	礫			古墳時代中期	風化著しい
226	SK598	覆土	土師器	高杯 C	脚部破片				酸化炎・橙色	白			古墳時代中期	
227	SK1006	覆土	土師器	高杯 C	杯部破片	17.8			酸化炎・橙色	礫			古墳時代中期	風化著しい。228 と同一個体
228	SK1006	覆土	土師器	高杯 C	杯部～脚部 1/2		12.8		酸化炎・橙色	礫			古墳時代中期	227 と同一個体
229	SK1006	覆土	土師器	甕 C	口縁部～体部破片	20			酸化炎・浅黄橙色	石・白			古墳時代中期	
230	SK1006	覆土	土師器	甕 C	口縁部～体部破片	21			酸化炎・浅黄橙色	石・礫		内外面ハケメ	古墳時代中期	
231	SK1006	覆土	土師器	甕 C	口縁部～体部 2/3	19.6			酸化炎・にぶい橙色	石・白		外面下半ヘラケズリ、内外面ハケメ	古墳時代中期	
232	SK800	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	23			酸化炎・浅黄橙色	白		体部外面下半平行タタキ、 内面下半指頭圧痕	古代	
233	SK800	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	17			酸化炎・橙色	白		外面ロクロナデ後カキメ	古代	内外面スス付着
234	SK800	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	17			酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代	
235	SK800	覆土	土師器	鍋	口縁部破片				酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代	

第 31 表　土器・土製品・陶磁器観察表（4）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
236	SK800	覆土	土製品	支脚？	一部欠損		5		酸化炎・橙色	白		外面指頭圧痕	古代？	
237	SK617	覆土１	土師器	甕	底部破片		6.2		酸化炎・にぶい赤褐色	白	糸切り・左	ロクロナデ	古代？	外面スス付着
238	SK1822	覆土	土師器	甑	底部破片		7.8		酸化炎・橙色	白・礫			古代？	底部多孔（11 孔以上）
239	SK1822	覆土	須恵器	杯蓋ＡⅡ	頂部～端部破片	15.2		3.2	還元炎・青灰色	石・白		外面上半ロクロケズリ	古代（8 世紀前半）	
240	SK1822	覆土２	須恵器	有台杯ＡⅡ	口縁部～底部 1/3	13.2	9	3.7	還元炎・青灰色	白・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
241	SK1822	覆土	須恵器	有台杯	底部破片		8.7		還元炎・青灰色	白・黒	ヘラ切り		古代	
242	SK1839	覆土	須恵器	壺？	体部破片				還元炎・灰色	白・黒			古代？	外面自然釉付着
243	SK1559	覆土	須恵器	杯蓋	体部～端部破片	18			還元炎・青灰色	白・黒		外面上半ロクロケズリ	古代	
244	SK1559	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	古代	
245	SK1508	覆土	土師器	有台椀	口縁部～底部 2/3	10	5	4	酸化炎・にぶい黄橙色	角・白		内面黒色処理	古代（10 世紀末～ 11 世紀初頭）	
246	SK1508	覆土	土師器	有台椀	底部破片		5.7		酸化炎・浅黄橙色	白		内面黒色処理	古代（10 世紀末～ 11 世紀初頭）	
247	SK803	覆土	瀬戸美濃焼	瓶子	頸部破片							ロクロ整形、施釉	中世	貫入有
248	SK904	覆土	土師質土器	Ⅲ	完形	6.6	4.4	1.6	酸化炎・浅黄橙色	白		ロクロナデ	中世（15 世紀初頭）	
249	SK914 SD815	覆土 覆土	瀬戸美濃焼	Ⅲ	体部～底部破片		15		還元炎・灰白色	白		ロクロ整形、施釉。外面下半ロクロケズリ	中世	
250	SK1187	覆土	青磁	椀？	底部破片		7.2					ロクロ整形、施釉	中世（15 世紀前半）	
251	SK94	覆土	土師質土器	Ⅲ	口縁部～体部破片	11			酸化炎・浅黄橙色	白		ロクロナデ	中世（13 世紀初頭）	
252	SX1369	覆土１	弥生土器	器台Ａ	脚部破片		28		酸化炎・にぶい黄橙色	白			弥生時代後期（2 期）	
253	SX1369	覆土１	須恵器	有台杯ＡⅡ	完形	13.2	7.6	4.2	還元炎・灰色	白	ヘラ切り？	ロクロナデ	古代（8 世紀後葉）	
254	SX7	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	15.8			還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
255	SX7	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・灰色	白		ロクロナデ	中世	
256	SX1404	覆土	須恵器	杯蓋Ⅰ	体部～端部破片	18			還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
257	SX1404	覆土	須恵器	有台杯	底部破片		11		還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
258	SD1370	覆土	弥生土器	器台Ａ	脚部 1/3		20		酸化炎・灰白色	白・礫		内面ハケメ	弥生時代後期（2 期）	脚部透孔 4
259	SD403（43K17）	覆土	弥生土器	甕Ａ	口縁部破片	18			酸化炎・橙色	礫		口縁部外面擬凹線	弥生時代後期（2 期）	
260	SD403（42K24）	覆土	弥生土器	甕Ｂ	口縁部破片	16			酸化炎・浅黄橙色	白・礫			弥生時代後期（2 期）	
261	SD403	覆土	弥生土器	甕Ｃ	口縁部破片	14.8			酸化炎・にぶい黄橙色	礫		内外面ハケメ	弥生時代後期（2 期）	
262	SD607	覆土	須恵器	高杯	脚部 1/3				還元炎・灰白色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	風化著しい
263	SD357	覆土	須恵器	杯	口縁部～体部破片	15.1			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
264	SD357（35I23）	覆土	須恵器	有台杯ＢⅣ	完形	9.1	6	5	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
265	SD357	覆土	須恵器	有台杯？	杯部～脚部破片				還元炎・灰色	白			古代？	
266	SD357（36I10）	覆土	須恵器	甕	口縁部破片	17			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古代	
267	SD801	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部 1/3				還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	古代	
268	SD801	覆土	須恵器	有台杯	底部破片		9		還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
269	波板状遺構（SD512）	覆土	須恵器	？	底部破片		6		還元炎・灰色	黒	ヘラ切り？	外面ヘラケズリ、内面糸切り痕	古代？	
270	SD601（39K7）	覆土１	土師器	無台椀	底部破片		5.1		酸化炎・浅黄橙色	白	糸切り	ロクロナデ	古代	
271	SD1296	覆土	須恵器	有台杯？	口縁部破片	13			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代	
272	SD893（41N7）	覆土	須恵器	無台杯Ａ	底部破片		8.1		還元炎・青灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古代（9 世紀？）	
273	SD1502	覆土	須恵器	長頸瓶	体部～底部 1/2		6.5		還元炎・青灰色	白		ロクロナデ、体部外面ロクロケズリ	古代（9 世紀中葉）	ヘラ記号：体部外面「×」
274	SD602（39K9）	覆土１	土師器	有台椀	底部破片		6		酸化炎・浅黄橙色	白		内面黒色処理	古代（10 世紀末～ 11 世紀初頭）	
275	SD602（38J13）	覆土	土師器	有台椀	底部破片				酸化炎・橙色	白		内面黒色処理	古代（10 世紀末～ 11 世紀初頭）	
276	SD602	覆土	須恵器	有台杯ＡⅢ	口縁部～底部破片	11.9			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代	
277	SD602（39K1）	覆土	珠洲焼	甕	口縁部破片				還元炎・灰色	白・黒		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世（13 世紀）	珠洲Ⅱ～Ⅲ期
278	SD602	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		16		還元炎・青灰色	白・黒		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
279	SD518	覆土	須恵器	甕	体部破片				還元炎・灰色	白・黒		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	古代	
280	SD518	覆土	土師質土器	Ⅲ	完形	12.6	5.5	3.2	酸化炎・橙色	白		？	中世	風化著しい
281	SD815	覆土	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部 1/3	9	6.4	1.5	酸化炎・灰白色	白		ロクロナデ	中世	
282	SD815	覆土	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部 1/2	10.4	6.8	2.4	酸化炎・橙色	白			中世	風化著しい
283	SD518（36H20）	覆土	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世（13 世紀後半）	珠洲Ⅲ期
284	SD815	覆土	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片	38			還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形当ての具	中世（14 世紀末～ 15 世紀前半）	珠洲Ⅴ期
285	SD815	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
286	SD815	覆土	珠洲焼	甕	体部破片				還元炎・青灰色	白		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
287	SD518（36I4）	覆土	珠洲焼	壺	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀後半～ 14 世紀前半）	珠洲Ⅲ～Ⅳ期
288	SD518（35G20） 35H16	覆土 Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	口縁部～底部 2/3	19.4	9	8.2	還元炎・灰色	白・骨	糸切り	ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
289	SD518（35H17）	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	中世（13 世紀前半）	珠洲Ⅱ期
290	SD518（35H17）	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀後半）	珠洲Ⅲ期
291	SD815	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	32			還元炎・暗青灰色	白		ロクロナデ	中世（14 世紀末～ 15 世紀前半）	珠洲Ⅴ期
292	SD815	覆土	珠洲焼	片口鉢	底部破片				還元炎・青灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
293	SD518（36H20）	覆土	青磁	椀	口縁部破片							ロクロ整形、施釉。外面蓮弁文	中世（13 世紀後半）	
294	SD815（36E20）	覆土	青磁	椀	体部破片							ロクロ整形、施釉。外面蓮弁文	中世（13 世紀）	

第 32 表　土器・土製品・陶磁器観察表（5）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
295	SD518（36I4）	覆土	青磁	椀	底部破片		5.4					ロクロ整形、施釉。内面花文様	中世（15 世紀中葉）	
296	SD518（36I11）	覆土	白磁	Ⅲ	口縁部～底部 2/3	9.2	4	2				ロクロ整形、施釉	中世（15 世紀中葉）	内面重ね焼痕４
297	SD802	覆土	珠洲焼	甕	口縁部破片	32			還元炎・青灰色	白			中世（14 世紀前半）	珠洲Ⅳ期
298	SD802	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世	
299	SD802	覆土	瀬戸美濃焼	袴腰形香炉	口縁部～底部 1/2	11.4	8.4	4.5			糸切り・右	ロクロ整形、施釉	中世	
300	SD6（53J13）	覆土	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部 2/3	8	5.6	1.5	酸化炎・浅黄橙色	白		ロクロナデ	中世	
301	SD6（53J13）	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	中世（13 世紀）	珠洲Ⅱ～Ⅲ期
302	SD6（53J13）	覆土	青磁	椀	体部～底部破片		6.4					ロクロ整形、施釉	中世（13 世紀第２四半期）	
303	SD1200（37L6）	覆土	弥生土器	高杯	脚部 1/3				酸化炎・浅黄橙色	石・角			弥生時代後期	脚部棒状
304	SD1200（36L15）	覆土 22	土師器	甕 A	口縁部破片	18			酸化炎・浅黄橙色	石		口縁部外面擬凹線	古墳時代前期	
305	SD1200（37L16）	覆土 22	土師器	甕 A	口縁部破片	18			酸化炎・にぶい黄橙色	石・白		口縁部外面擬凹線	古墳時代前期	
306	SD1200（37L6.16.17）	覆土 22	土師器	甕 B	口縁部破片	17.6			酸化炎・浅黄橙色	礫			古墳時代前期	
307	SD1200（37M11）	覆土 22	土師器	高杯 C	杯部 1/2	17			酸化炎・浅黄橙色	石・白・角			古墳時代前期後半～中期	
308	SD1200（37L12.17）	覆土 8	土師器	高杯 C	完形	18.5	14	13.7	酸化炎・浅黄橙色	石・角・礫			古墳時代前期後半～中期	
309	SD1200（37L16）	覆土 17	土師器	高杯 C	杯部～脚部 1/2		11.6		酸化炎・橙色	石・礫			古墳時代前期後半～中期	
310	SD1200（37M17）	覆土 21	土師器	高杯 C	脚部 1/3				酸化炎・浅黄色	角		外面ヘラケズリ	古墳時代前期後半～中期	脚部透孔２
311	SD1200（36L23）	覆土 22	土師器	器台 B	脚部～裾部 1/3		11.2		酸化炎・灰黄褐色	石・白		外面ミガキ	古墳時代前期後半～中期	
312	SD1200（36L25）	覆土 22	土師器	高杯？	杯部破片？	18			酸化炎・橙色	石・骨		内面ミガキ	古墳時代前期後半～中期	
313	SD1200（36L18）	覆土 22	土師器	鉢 C	口縁部～体部 1/3	9.8			酸化炎・にぶい黄橙色	石・白		内外面ハケメ	古墳時代前期後半～中期	
314	SD1200（37L21）	覆土 20	土師器	壺 F	口縁部～体部破片	19			酸化炎・にぶい黄橙色	石・白・角			古墳時代前期後半～中期	
315	SD1200（37M1）	覆土 21	土師器	壺 F	完形	8.6	2	13.2	酸化炎・橙色	石・白		内外面ハケメ	古墳時代前期後半～中期	
316	SD1200（37L16）	覆土 22	土師器	壺 F	口縁部～体部破片	10.2			酸化炎・橙色	石・白・角		外面ハケメ	古墳時代前期後半～中期	
317	SD1200（36L23）	覆土 22	土師器	壺 F	体部～底部 2/3		2		酸化炎・にぶい黄橙色	角		外面ミガキ	古墳時代前期後半～中期	
318	SD1200（37N11）	覆土 2	土師器	甕 C	完形	14.4	2.6	15.5	酸化炎・灰黄褐色	角・礫		内外面ハケメ	古墳時代前期後半～中期	
319	SD1200（36L8）	覆土 22	土師器	高杯	脚部 1/2		13.5		酸化炎・浅黄橙色	石・礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
320	SD1200（36L8.14）	覆土 22	土師器	杯 C	口縁部～底部 1/2	15	5.8	5.2	酸化炎・灰黄褐色	角		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期	
321	SD1200（37M7）	覆土	土師器	杯 C	口縁部～底部 2/3	12	6.6	4	酸化炎・にぶい黄橙色	石・角		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
322	SD1200（36L8）	覆土 22	土師器	杯 C	完形	12.6	5.4	4.5	酸化炎・灰黄褐色	角・骨・礫		内面ミガキ	古墳時代後期（7 世紀）	
323	SD1200（37L12）	覆土 17	土師器	杯 C	完形	9.6	4.3	4.5	酸化炎・にぶい黄橙色	角		外面下半ヘラケズリ	古墳時代後期（7 世紀前半）	
324	SD1200（36L14）	覆土 22	土師器	甕Ａ Ⅱ	口縁部～底部 2/3	14	9.2	27.2	酸化炎・にぶい黄橙色	白		内外面ハケメ	古墳時代後期	
325	SD1200（36L25.37M1）	覆土 22	土師器	甑Ａ Ⅰ	口縁部～底部 2/3	19	9.2	26.6	酸化炎・にぶい黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
326	SD1200（36L8.20）	覆土 22	土師器	甑Ａ Ⅰ	口縁部～底部 2/3	19.4	8.4	18.6	酸化炎・にぶい黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
327	SD1200（36L20）	覆土 22	須恵器	横瓶？	口縁部破片	12			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀前半）	328 と同一個体
328	SD1200（36L15.20・36M5）	覆土 22	須恵器	横瓶？	体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ後ケズリ、 内面円形の当て具	古墳時代後期（7 世紀前半）	327 と同一個体
329	SD1200（36L18）	覆土 22	土製品	支脚	完形	5.2		7.5	酸化炎・浅黄橙色	白・角			古墳時代後期	
330	SD1200（37M7）	覆土	土師器	無台椀	口縁部～底部破片	14	6.5	3	酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	内面ウルシ付着
331	SD1200（37M6）	覆土 14	土師器	無台椀	口縁部～底部 2/3	14	4.8	3.4	酸化炎・橙色	石・角	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
332	SD1200（37M7）	覆土	土師器	無台椀	口縁部～底部 2/3	14	6	3.3	酸化炎・浅黄橙色	角・礫	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
333	SD1200（37M7）	覆土	土師器	無台椀	口縁部～底部 2/3	16	6	4.9	酸化炎・灰黄褐色	白・角		ロクロナデ	古代	
334	SD1200（37M12）	覆土 8	土師器	無台椀	完形	11.8	5.4	3.5	酸化炎・黄橙色	石		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	風化著しい
335	SD1200（37M7）	覆土	土師器	有台椀	底部破片		5.8		酸化炎・浅黄橙色	石		ロクロナデ？	古代（10 世紀後半）	
336	SD1200（37L12）	覆土 17	須恵器	杯蓋Ａ Ⅱ	完形	15		1.4	還元炎・灰色	石		ロクロナデ	古代（8 世紀末）	刻書：体部内面「大」
337	SD1200（37L22）	覆土 8	須恵器	杯蓋Ｂ Ⅲ	完形	12.8		3.4	還元炎・灰色	石・白		外面上半ロクロケズリ	古代（9 世紀中葉）	
338	SD1200（37M1）	覆土 8	須恵器	杯蓋Ａ Ⅳ	完形（つまみ欠損）	11.6			還元炎・灰色	石・白	糸切り	外面上半ロクロケズリ	古代（9 世紀中葉）	
339	SD1200（37L12）	覆土 8	須恵器	杯蓋	体部破片				還元炎・灰色	石		外面ロクロケズリ	古代（9 世紀？）	転用硯
340	SD1200（37L11）	覆土 21	須恵器	有台杯Ａ Ⅱ	口縁部～底部 1/2	15	9.6	4.6	還元炎・灰白色	石	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（8 世紀中葉）	
341	SD1200（37M12）	覆土 8	須恵器	有台杯Ａ Ⅲ	完形	11.8	8	4	還元炎・黄灰色	石・白	ヘラ切り？	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	
342	SD1200（37M11）	覆土 8	須恵器	有台杯Ａ Ⅲ	完形	11.5	7.4	4.1	還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	
343	SD1200（37M6）	覆土 14	須恵器	有台杯Ａ Ⅲ	完形	11	7.4	4.2	還元炎・灰色	白	ヘラ切り？	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	
344	SD1200（37M12）	覆土 8	須恵器	有台杯Ａ Ⅲ	完形	11.6	8	3.5	還元炎・灰色	石	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	墨書：底部外面「公」
345	SD1200（36M15）	覆土	須恵器	有台杯Ｂ Ⅲ	完形	11.4	7.4	5	還元炎・灰色	石・白	糸切り	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	墨書：底部外面「丁」
346	SD1200（36L15）	覆土 22	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	完形	11.2	4.5	4	還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀？）	
347	SD1200（37M11）	覆土	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	口縁部～底部 1/2	11	7.2	3.9	還元炎・灰白色	石	ヘラ切り・右？	ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
348	SD1200（37M23）	覆土	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	完形	11.4	7.6	3.1	還元炎・青灰色	白	ヘラ切り・左	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
349	SD1200（37M11）	覆土 21	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	完形	12.5	7.6	3.5	還元炎・灰色	白	ヘラ切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀？）	
350	SD1200（37M12）	覆土 8	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	口縁部～底部 2/3	11.2	7.2	3	還元炎・青灰色	白	ヘラ切り・左	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	佐渡小泊産？
351	SD1200（37M11）	覆土 8	須恵器	無台杯Ａ Ⅱ	完形	11.6	7.6	2.8	還元炎・青灰色	白	ヘラ切り・左	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	佐渡小泊産？
352	SD1200（37L17）	覆土	須恵器	無台杯Ｂ Ⅱ	完形	12.2	7.6	3.6	還元炎・灰色	石・白・雲	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	墨書：底部外面「可」カ
353	SD1200（37M7）	覆土 14	須恵器	無台杯Ｃ Ⅱ	口縁部～底部 2/3	11.8	7.2	4	還元炎・灰白色	石・雲	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀第２四半期）	墨書：底部外面「子茂」
354	SD1200（37L22）	覆土 8	須恵器	無台杯Ｃ Ⅱ	完形	12	7	3.9	還元炎・灰白色	石	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	

第 33 表　土器・土製品・陶磁器観察表（6）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
355	SD1200（37L13）	覆土 17	須恵器	無台杯ＣⅡ	完形	11.8	6.8	4	還元炎・灰白色	石・白	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
356	SD1200（37L22）	覆土 8	須恵器	無台杯ＣⅡ	完形	11.8	5.6	3.5	還元炎・灰色	石・白	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
357	SD1200（37M6）	覆土 14	須恵器	無台杯ＣⅡ	完形	11.8	7.2	3.7	還元炎・灰色	角	糸切り・左	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
358	SD1200（37L2）	覆土 2	須恵器	甕	口縁部～体部破片	27			還元炎・青灰色	石・白		外面平行タタキ、内面同心円の当て具	古代（9 世紀？）	
359	SD1200（37M18）	覆土	縄文土器	深鉢	体部破片				酸化炎・にぶい黄橙色	白		LR 縄文縦方向施文	縄文時代後期	遺構には伴わず。後世の混入か
360	38M19	Ⅲ	弥生土器	高杯Ａ	杯部～脚部 1/3				酸化炎・浅黄橙色	石・礫			弥生時代後期	
361	38L1	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ	受部破片	23.4			酸化炎・浅黄橙色	白		内外面ヘラミガキ	弥生時代後期	362 と同一個体？
362	38M10	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ	裾部破片		26		酸化炎・浅黄橙色	白		内外面ヘラミガキ	弥生時代後期	361 と同一個体？
363	38M14	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ？	受部破片	16.2			酸化炎・浅黄橙色	石			弥生時代後期	受部透孔有
364	39M9	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ？	受部破片				酸化炎・浅黄橙色	白		外面スタンプ文	弥生時代後期	
365	39L22	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ？	脚部？破片				酸化炎・浅黄橙色	白		外面凹線	弥生時代後期	
366	40N1	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ？	脚部破片				酸化炎・浅黄橙色	白		外面赤彩	弥生時代後期	
367	40J5	Ⅰ	弥生土器	器台Ａ	脚部破片				酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期	
368	40M19	Ⅰ	弥生土器	器台Ａ？	脚部破片		17.4		酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期	
369	38M10	Ⅱ	弥生土器	器台Ａ	裾部破片		17		酸化炎・浅黄橙色	石・白・礫		外面赤彩	弥生時代後期	裾部透孔 4 以上
370	38L1	Ⅱ	弥生土器	鉢Ａ	口縁部～体部破片	18			酸化炎・浅黄橙色	角・白		内外面赤彩	弥生時代後期	
371	38M9	Ⅱ	弥生土器	鉢Ａ	口縁部～体部破片	20			酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期	
372	40L21	Ⅰ	弥生土器	蓋	頂部破片				酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期	
373	37K21	Ⅱ	弥生土器	蓋	頂部～体部破片				酸化炎・浅黄橙色	礫			弥生時代後期	
374	38O23	Ⅱ	弥生土器	壺Ａ	体部～底部 1/3		4		酸化炎・浅黄橙色	白・礫		外面赤彩	弥生時代後期	
375	41K3	Ⅰ	弥生土器	壺Ｄ	口縁部～頸部破片	13			酸化炎・浅黄橙色	白		外面ハケメ	弥生時代後期	
376	40N1	Ⅱ	弥生土器	壺Ｃ	口縁部破片	15			酸化炎・浅黄橙色	白・礫		内外面赤彩	弥生時代後期	
377	38L1	Ⅱ	弥生土器	壺	頸部～体部破片				酸化炎・浅黄橙色	白・礫			弥生時代後期	
378	39N25	Ⅱ	弥生土器	壺	体部破片				酸化炎・浅黄橙色	白			弥生時代後期	
379	38L8	Ⅱ	弥生土器	甕Ａ	口縁部破片	17.8			酸化炎・浅黄橙色	礫		口縁部外面擬凹線	弥生時代後期	
380	40M22	Ⅱ	弥生土器	甕Ａ	口縁部破片	21			酸化炎・浅黄橙色	白		口縁部外面擬凹線	弥生時代後期	
381	40N18	Ⅱ	弥生土器	甕Ｂ	口縁部破片	16.6			酸化炎・浅黄橙色	礫		内外面赤彩？	弥生時代後期	
382	38M10	Ⅱ	弥生土器	甕Ｂ	口縁部破片	18			酸化炎・浅黄橙色	白・礫		内面ハケメ	弥生時代後期	
383	38M10	Ⅱ	弥生土器	甕Ｂ	口縁部～体部 1/3	17.4			酸化炎・浅黄橙色	白・礫		外面ハケメ	弥生時代後期	外面スス付着
384	39M16	Ⅱ	土師器	高杯Ｂ	杯部～脚部 1/2	8.2			酸化炎・橙色	石・白・礫			古墳時代前期	
385	38I22	Ⅱ	土師器	高杯Ｃ	杯部 1/3	17.5			酸化炎・橙色	白・礫			古墳時代中期	風化著しい
386	38M10	Ⅱ	土師器	高杯Ｂ	杯部破片				酸化炎・浅黄橙色	白			古墳時代前期	387 と同一個体
387	38M10	Ⅱ	土師器	高杯Ｂ	脚部破片				酸化炎・浅黄橙色	白			古墳時代前期	386 と同一個体
388	41K23	Ⅰ	土師器	鉢Ｃ	口縁部～体部破片	27			酸化炎・橙色	礫		内面輪積痕	古墳時代前期～中期	風化著しい
389	40O1	Ⅲ	土師器	鉢Ｃ	口縁部～体部破片	12.4			酸化炎・浅黄橙色	白			古墳時代前期	
390	41N14	Ⅲ	土師器	甕Ｃ	口縁部～体部破片	15			酸化炎・浅黄橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代前期	
391	50J20	Ⅰ	土師器	甕	底部破片		7.5		酸化炎・橙色	礫			古墳時代	底部木葉痕有
392	39N13	Ⅱ	土師器	杯Ｃ	完形	14.2	4.8	5	酸化炎・浅黄橙色	礫		内面黒色処理後ミガキ	古墳時代後期	
393	38L6	Ⅱ	土師器	杯Ａ	口縁部～底部 2/3	12.8	4.8	6	酸化炎・浅黄橙色	白・礫		内面ヘラミガキ	古墳時代後期	
394	41L24	Ⅱ	土師器	甕ＡⅠ	口縁部～体部破片	18			酸化炎・橙色	礫		内外面ハケメ	古墳時代後期	
395	38F14	Ⅱ	須恵器	杯蓋	頂部～端部 2/3	13		4	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀）	
396	42L23	Ⅱ	須恵器	短頸壺	口縁部～体部破片	20			還元炎・灰色	白・礫		体部外面、口縁部内面カキメ	古墳時代後期（7 世紀）	
397	40L24	Ⅲ	須恵器	瓶？	口縁部破片	7.8			還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀）	
398	40L2	Ⅱ	須恵器	ハソウ	頸部破片				還元炎・灰白色	黒		外面櫛描文	古墳時代後期（7 世紀）	
399	39O17	Ⅱ	須恵器	ハソウ？	体部破片				還元炎・青灰色	石・白		ロクロナデ	古墳時代後期（7 世紀）	
400	39O17	Ⅱ	土製品	ミニチュア土器	口縁部～底部 2/3	5.7	2.8	3.4	酸化炎・浅黄橙色	白		手づくね	古墳時代後期	
401	40M11	Ⅱ	土製品	支脚	完形	7	7.7	8.3	酸化炎・橙色	白・礫			古墳時代後期	
402	52K3	Ⅰ	土製品	支脚	完形	4.4		8.2	酸化炎・にぶい橙色	白			古墳時代後期	
403	36M5	撹乱	土師器	無台椀	完形	12.6	6.8	4.1	酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代	
404	37J8	Ⅰ	土師器	無台椀	完形	11.7	6.5	3.5	酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代	
405	40O1	Ⅲ	土師器	甕	口縁部～体部 1/3	23.6			酸化炎・橙色	白		ロクロナデ	古代	
406	40O18	Ⅲ	土師器	甑	底部破片		20.6		酸化炎・橙色	白・礫			古代？	
407	39O4.9	Ⅱ	須恵器	杯蓋ＡⅠ	頂部～端部破片	18		3.9	還元炎・青灰色	白		外面上半ヘラケズリ	古代（9 世紀前半？）	
408	40N18	Ⅱ	須恵器	杯蓋ＡⅢ	頂部～端部 1/3	13.8		2.9	還元炎・灰白色	白		外面上半ヘラケズリ？	古代（9 世紀中葉？）	
409	39M13	Ⅲ	須恵器	杯蓋ＢⅡ	頂部～端部 3/4	15		3.8	還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
410	40M18	Ⅱ	須恵器	杯蓋ＡⅢ	頂部～端部 1/3	13		3.5	還元炎・灰色	白		外面上半ヘラケズリ	古代（9 世紀中葉？）	
411	50J12	Ⅰ	須恵器	有台杯ＡⅠ	口縁部～底部 1/3	16	11	4.2	還元炎・青灰色	白・礫		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
412	42L7	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅠ	口縁部～底部破片	16	12.2	4.2	還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
413	40O1	Ⅱ・Ⅲ	須恵器	有台杯ＡⅡ	口縁部～底部 1/3	13.6	9.6	4	還元炎・灰色	石・白		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	
414	41M22	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅡ	口縁部～底部 1/3	14.2	8.6	3.7	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（8 世紀前半）	

第 34 表　土器・土製品・陶磁器観察表（7）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径	底径	器高	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
415	36F7	Ⅰ	須恵器	有台杯ＡⅡ	口縁部～底部破片	14	7.4	3.5	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
416	36L5	Ⅰ	須恵器	有台杯ＡⅢ	口縁部～底部 2/3	11.8	9	3.2	還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
417	40N5	Ⅲ	須恵器	有台杯ＡⅢ	口縁部～底部 1/3	11.6	8.4	4	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
418	41M25	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅣ	口縁部～底部 1/3	10.8	8	4.1	還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
419	39O19	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅣ	口縁部～底部 1/2	10	7	4.2	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
420	40M22	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅣ	口縁部～底部破片	10.8	7	3.7	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
421	39N23	Ⅱ	須恵器	有台杯ＡⅣ	口縁部～底部破片	10.6	7.6	4.1	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
422	39O7 40M8	Ⅱ	須恵器	有台杯ＢⅡ	口縁部～底部破片	15	8.4	6	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
423	40N13	Ⅱ	須恵器	有台杯ＢⅡ	口縁部～体部破片	15			還元炎・にぶい褐色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
424	39O4	Ⅱ	須恵器	有台杯Ｂ？	体部～底部 1/2		8		還元炎・青灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古代（9 世紀前半？）	
425	42M2	Ⅰ	須恵器	有台杯	底部破片		9		還元炎・青灰色	石・白		ロクロナデ？	古代（9 世紀前半）	墨書：底部外面「□」
426	41M16	Ⅱ	須恵器	有台杯	底部破片		9		還元炎・にぶい黄橙色	石・白	糸切り	ロクロナデ？	古代（9 世紀前半）	墨書：底部外面「力」
427	41N21	Ⅲ	須恵器	有台杯	底部破片		7		還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
428	39O2.17	Ⅱ	須恵器	有台杯	体部～底部 2/3		5.4		還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉？）	
429	39M6	Ⅱ	須恵器	有台杯	体部～底部 1/3		4.4		還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
430	52K8	Ⅰ	須恵器	無台杯ＡⅠ	口縁部～底部 2/3	13.2	10	3.8	還元炎・灰白色	石・白	ヘラ切り？	ロクロナデ	古代（8 世紀前葉）	
431	45J1	Ⅱ	須恵器	無台杯ＡⅠ	口縁部～底部 1/3	13.2	8	3.3	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古代（9 世紀前半）	
432	40N14	Ⅱ	須恵器	無台杯ＡⅡ	口縁部～底部破片	11	7	2.9	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
433	39M16	Ⅱ	須恵器	無台杯Ａ	体部～底部 1/3		6		還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	古代	
434	40N11	Ⅱ	須恵器	無台杯ＢⅡ	口縁部～底部 1/2	12.4	6	3.4	還元炎・灰白色	白	糸切り	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
435	39O7.12	Ⅱ	須恵器	無台杯ＢⅡ	体部～底部 1/2	12.2	7	3.3	還元炎・青灰色	角・白	糸切り・右	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	
436	39O10	Ⅱ	須恵器	無台杯Ｂ	体部～底部 1/3		7		還元炎・灰色	石・白	糸切り	ロクロナデ	古代（9 世紀中葉）	墨書：底部外面「人」
437	52K4	Ⅰ	須恵器	無台杯Ⅱ	口縁部～底部破片	12.4	6	3.9	還元炎・灰白色	石・白		ロクロナデ	古代	
438	38O6	Ⅲ	須恵器	無台杯Ⅱ	口縁部～底部破片	12.6	6.4	4	還元炎・灰白色	白		ロクロナデ	古代	
439	40L1	Ⅱ	須恵器	無台杯Ⅱ	口縁部～底部破片	12.4	8	3.9	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代	底部内外面墨痕有。転用硯
440	40L24	Ⅲ	須恵器	鉢？	底部破片		8		還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ	古代	
441	40L2	Ⅱ	須恵器	有台盤？	口縁部～底部破片	17	12	2	還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
442	52K1	Ⅰ	須恵器	壺	口縁部～体部破片	7.2			還元炎・灰色	白・骨		ロクロナデ	古代	
443	40O14	Ⅱ	須恵器	壺？	体部破片				還元炎・灰色	黒		ロクロナデ	古代	
444	36F8	Ⅰ	須恵器	壺	体部～底部破片				還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	古代	
445	40O16	Ⅱ	須恵器	長頸瓶？	体部～底部 1/3		7.5		還元炎・灰色	白・黒	糸切り・右？	ロクロナデ	古代	
446	36J3	Ⅰ	須恵器	横瓶	口縁部～体部破片	12.6			還元炎・灰色	白		体部外面格子状タタキ、 体部内面同心円の当て具	古代？	
447	38M19	Ⅱ	須恵器	横瓶？	体部破片				還元炎・灰色	白		外面格子状タタキ、 内面同心円の当て具後沈線	古代？	
448	37L14	Ⅱ	須恵器	甕	口縁部～体部破片	25			還元炎・灰色	白		体部外面格子状タタキ後ヘラケズリ、 体部内面同心円の当て具	古代	
449	40N7	Ⅱ	須恵器	甕	口縁部破片	25			還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	古代	
450	42L6	Ⅱ	須恵器	甕	口縁部破片	20			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代？	
451	39O3	Ⅱ	須恵器	甕？	口縁部破片	22			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	古代	
452	40M18	Ⅱ	須恵器	甕？	口縁部破片	11			還元炎・暗青灰色	白		ロクロナデ	古代	
453	42L16	Ⅱ	須恵器	？	体部破片				還元炎・灰色	白		内面同心円の当て具	古代？	
454	38M15	Ⅱ	土製品	羽口	一部欠損				酸化炎・黄橙色	白			古代？	
455	38L2	Ⅱ	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部破片	10			酸化炎・黄橙色	白			中世	
456	40N25	Ⅱ	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部破片	10.5	7.8	1.5	酸化炎・橙色	白			中世	
457	39M2	Ⅰ	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部破片	8.6	6.4	1.6	酸化炎・浅黄橙色	礫			中世	
458	40N	Ⅱ	土師質土器	Ⅲ	口縁部～底部 1/3	9	5.9	1	酸化炎・橙色	白			中世	
459	46G24	Ⅰ	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片	42			還元炎・青灰色	白・骨		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
460	36G25	Ⅰ	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片				還元炎・青灰色	白・骨・礫		外面平行タタキ、内面円形の当て具	中世	
461	40L19	Ⅲ	珠洲焼？	片口鉢	口縁部～体部破片	18			還元炎・灰白色	白		ロクロナデ	中世	
462	41J14	Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		8.6		還元炎・青灰色	白	静止糸切り	ロクロナデ	中世	
463	39K14	Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・青灰色	白・骨・礫		ロクロナデ	中世	
464	36F7	Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・にぶい黄橙色	白・骨		ロクロナデ	中世	
465	36I18	覆土	青磁	椀	口縁部～体部破片	15.6						ロクロ整形、施釉	中世	
466	40L4	Ⅱ	青磁	椀	底部破片		6					ロクロ整形、施釉。内面文様	中世	
467	51K14	Ⅰ	瀬戸美濃焼	緑釉小皿	完形	9.8	4.5	2.2			糸切り・右	ロクロ整形、施釉	中世（14 世紀末）	
468	40N12	Ⅱ	瀬戸美濃焼	卸皿	底部破片		5				糸切り	ロクロ整形、施釉。内面摺り目	中世	
469	41L21	Ⅰ	瀬戸美濃焼	天目茶椀	口縁部～体部破片	11.6						ロクロ整形、施釉	中世（14 世紀末）	
470	不明		瀬戸美濃焼	天目茶碗	口縁部～体部破片	11.6						ロクロ整形、施釉	中世（14 世紀末）	

第 35 表　土器・土製品・陶磁器観察表（8）

石器・石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	備考
471	SI1510	覆土 2	礫石器	石錘	完形	13.8	9.1	4.5	487	角閃石安山岩	
472	SI1510 （40N13）	覆土 2	礫石器	石錘	完形	13.2	9.1	4.1	455	角閃石安山岩	
473	SI1510 （40N13）	覆土 2	礫石器	石錘	完形	12.8	8.4	4.9	610	角閃石安山岩	
474	SI1604	覆土 2	礫石器	石錘	欠損	10.7	6.5	3.6	236.1	安山岩	
475	SI1604 （39O3）	覆土	礫石器	石錘	完形	13.4	8.5	4.6	600	安山岩	
476	SI1604 （39O3）	覆土	礫石器	石錘	欠損	9.0	10.5	3.3	399	安山岩	
477	SI1604	覆土 2	礫石器	敲石	完形	14.1	6.1	4.6	443	砂岩	
478	SI1604 （39O8）	覆土	礫石器	敲石	完形	14.3	7.0	5.5	559	安山岩	
479	SI1604 カマド	覆土	礫石器	敲石	完形	12.7	6.3	4.7	380	安山岩	
480	SI1604 カマド	覆土	礫石器	敲石	欠損	9.5	7.1	5.8	444	砂岩	
481	SI1821	覆土 1	礫石器	敲石	完形	13.9	8.3	6.1	771	安山岩	
482	SI1305 （38M13）	覆土 2	礫石器	凹石	完形	13.7	7.1	4.9	491	安山岩	
483	SI1510	覆土 2	礫石器	凹石	完形	10.9	8.2	5.8	497	角閃石安山岩	
484	SI1821 （39L8）	覆土 1	礫石器	敲石・凹石	完形	13.5	7.4	4.8	475.9	多孔質安山岩	
485	39M7	Ⅱ	石製品	管玉	欠損	1.4	0.9	0.9	1.06	緑色凝灰岩	角柱状素材。
486	37K22	Ⅱ	石製品	管玉工程品	完形	1.5	2.0	0.9	2.63	緑色凝灰岩	角柱状素材。
487	39L1	Ⅱ	石製品	管玉工程品	完形	2.3	0.9	0.9	1.83	緑色凝灰岩	側面調整有り。
488	SD1200 （37L11）	覆土 22	石製品	管玉工程品	完形	4.2	2.1	1.8	13.17	緑色凝灰岩	角柱状素材。
489	SD1349	覆土	石製品	管玉工程品	完形	3.0	3.6	1.5	16.3	緑色凝灰岩	調整有り。
490	SD1349	覆土	石製品	管玉工程品	完形	1.5	2.4	0.9	2.4	緑色凝灰岩	調整有り。
491	SI1820-P1641	覆土	石製品	管玉工程品	完形	2.0	1.8	1.9	4.7	緑色凝灰岩	調整有り。
492	SI1820-P1641	覆土	石製品	管玉工程品	完形	2.2	2.1	1.3	5	緑色凝灰岩	研磨痕一部に有り。
493	SI1820 （39M22）	覆土	石製品	未成品	完形	3.6	1.8	0.6	4.9	ヒスイ	全面研磨痕有り。
494	40L15	Ⅱ	原石	未成品	完形	3.4	3.0	1.2	16.3	ヒスイ	
495	SD403	覆土	石製品	砥石	欠損	13.5	7.9	4.9	548	安山岩	
496	SX1570	覆土	石製品	砥石	欠損	7.6	2.5	2.5	73.8	凝灰岩	
497	SD1200 （37L12）	覆土 8	礫石器	凹石	完形	9.1	7.5	5.2	247	安山岩	
498	SD527	覆土	石製品	砥石	完形	7.1	5.1	2.3	137	砂岩	
499	SB1440-P1287	覆土	石製品	砥石	欠損	13.9	11.7	9.0	1917	砂岩	
500	SK1508	覆土	石製品	砥石	欠損	6.3	5.2	3.2	130.2	砂岩	
501	SK1187	覆土	礫石器	石錘	完形	10.5	7.2	5.1	298	角閃石安山岩	
502	SE120	覆土 20	礫石器	敲石	完形	11.7	4.7	3.5	311	凝灰岩	
503	SE1082	覆土	礫石器	敲石	完形	13.5	7.4	6.1	860	安山岩	
504	SD801 （36E2）	覆土	礫石器	凹石	完形	12.0	11.0	4.7	593	安山岩	
505	SD815 （37F25）	覆土	礫石器	凹石	完形	12.2	13.4	5.5	861	安山岩	
506	SD815 （37F25）	覆土	礫石器	凹石	完形	9.6	10.8	3.4	460	安山岩	
507	SE1103	覆土	礫石器	磨石	完形	10.1	10.5	4.1	553	安山岩	表面スス付着。
508	SB301-P303	覆土	礫石器	磨石状	完形	6.9	6.8	5.3	239	凝灰岩	赤色付着物有り。
509	41J4	Ⅰ	石製品	砥石	欠損	7.0	3.8	3.4	134	砂岩	
510	SD815 （36E20）	覆土	石製品	砥石	欠損	5.4	3.4	2.1	36.2	凝灰岩	
511	SD815 （36F19）	覆土	石製品	砥石	欠損	17.2	7.7	5.9	747	凝灰岩	
512	SD815 （38F7）	覆土	石製品	砥石	欠損	9.3	4.8	3.7	194	凝灰岩	
513	SE251	覆土	石製品	砥石	完形	12.6	3.9	3.4	223	安山岩	
514	SE1085	覆土 2	石製品	砥石	欠損	14.9	6.1	2.8	339	砂岩	被熱　スス付着。
515	SE1102	覆土	石製品	砥石	欠損	8.9	7.7	3.4	298	安山岩	
516	SE448	覆土	石製品	砥石	欠損	14.2	5.8	4.2	330	砂岩	
517	SE604	覆土	石製品	砥石	欠損	11.5	9.7	2.4	489	粘板岩	被熱による剥落有り。
518	SE903	覆土	石製品	砥石	完形	13.1	4.7	3.8	257	凝灰岩	
519	SK617	覆土 2	石製品	砥石	欠損	7.9	5.3	3.3	189	凝灰岩	被熱　スス付着。
520	SE882	覆土	石製品	石臼	欠損	29.8	17.1	11.7	5800	安山岩	
521	SE882	覆土	石製品	石臼	欠損	16.9	30.4	12.4	5700	安山岩	
522	SE882	覆土	石製品	石臼	欠損	15.4	14.2	7.5	1208	安山岩	
523	SE1853	覆土	石製品	石臼	欠損	19.9	14.4	9.7	3600	安山岩	
524	SK1822	覆土	石製品	五輪塔・水輪	完形	24.9	29.0	18.9	14200	角閃石安山岩	
525	SD518 （37F13）	覆土	石製品	不明	欠損	21.4	24.5	11.1	3800	安山岩	
526	SE1399	覆土	石製品	不明	欠損	12.6	13.6	3.7	619	安山岩	
527	37M25	Ⅱ	礫石器	敲石	完形	9.4	8.1	6.7	733	ガラス質安山岩	
528	40L6	Ⅱ	石製品	砥石	欠損	2.9	3.4	2.2	22.8	凝灰岩	
529	40M21	Ⅱ	石製品	石硯	一部欠損	8.1	5.6	1.4	102.5	粘板岩	波状文・沈線・線刻有り。
530	SE916	覆土	礫石経	多字一石経	完形	16.0	10.9	8.1	1850	ホルンフェルス	
531	SE916	覆土	礫石経	多字一石経	完形	19.8	9.9	9.2	2300	安山岩	

ガラス製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
532	SD403	覆土 1	ガラス製品	小玉	完形	0.6	0.7	0.3	0.17	

金属製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
533	36J11	Ⅲ	金属製品	耳環	完形	3.0	3.3	0.7	15.7	
534	SE359	覆土	金属製品	槍鉋	欠損	5.4	4.9	1.2	7.1	
535	SK917	覆土	金属製品	刀子	欠損	7.9	1.3	0.4	6.8	
536	SE1102	覆土	金属製品	刀子	欠損	17.0	2.2	0.6	46.1	

銭貨観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存状態	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	初鋳年	王朝名
	SX1	覆土 1	銭貨	開元通寶	欠損			0.12	1.45	621 年	唐
537	SX1	覆土 1	銭貨	太平通寶	欠損	2.40	2.40	0.12	1.19	976 年	北宋
538	SX1	覆土 1	銭貨	景徳元寶	完形	2.43	2.43	0.12	2.03	1004 年	北宋
539	SX1	覆土 1	銭貨	元祐通寶	完形	2.43	2.43	0.13	3.08	1086 年	北宋
540	SX1	覆土 1	銭貨	永楽通寶	欠損			0.19	1.17	1408 年	明

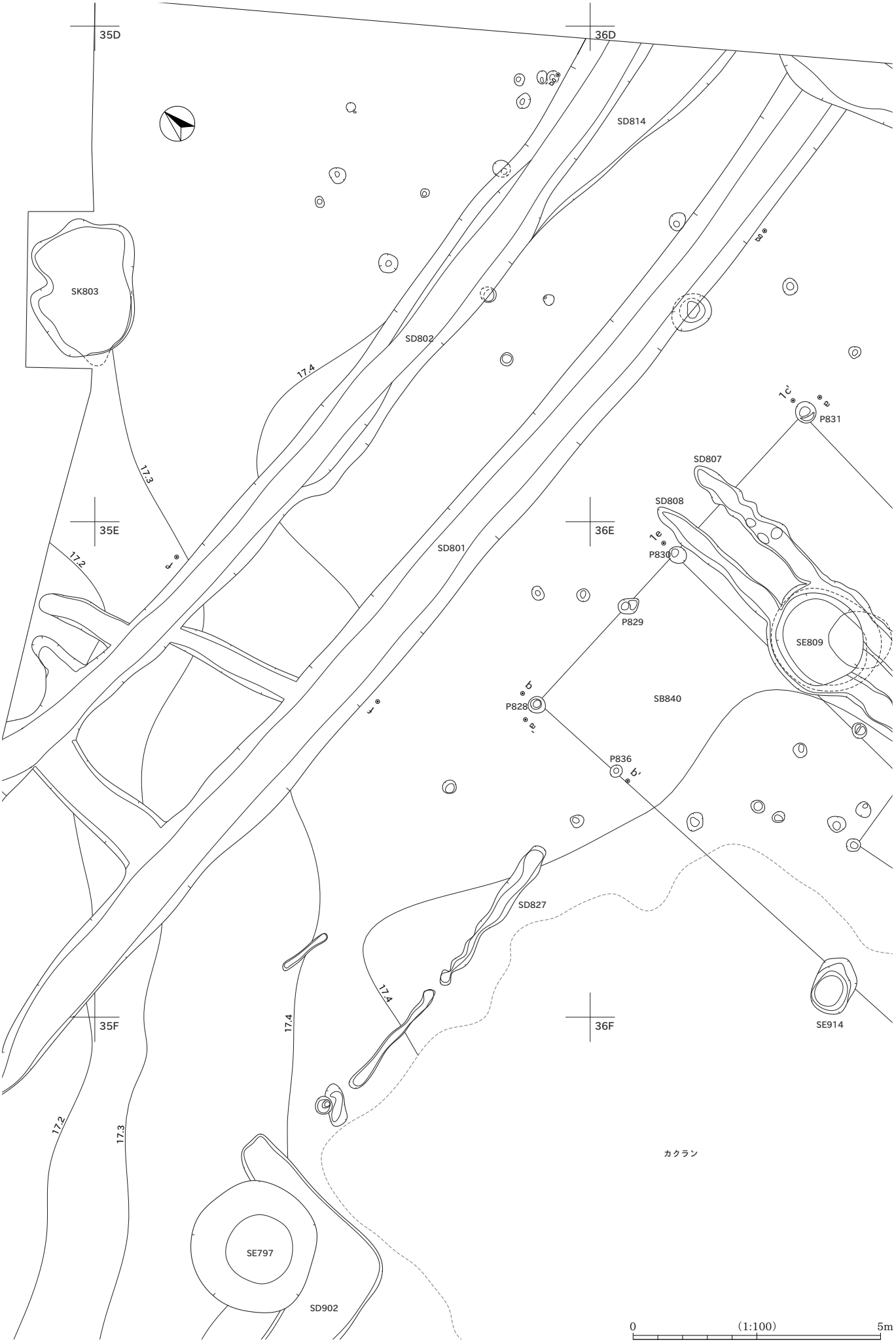
第 36 表　石器・石製品ほか観察表

掲載番号	遺 構	グリッド	層 位	器 種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	樹 種	木 取	備 考
541	SD1200	37L	覆土	木簡	（17.1）	3.8	0.8	不明	柾目	
542	SD1200	37N	覆土	織機	（9.3）	4.2	1.0	不明	柾目	端部片
543	SD1200	36L	覆土 22 層	円形板	（15.3）	（6.2）	0.6	不明	柾目	折断面を加工　径 16cm 前後　1/3 程残存
544	SD1200	37L	覆土 21 層	円形板	16.6（径）	（11.6）	0.5	不明	柾目	折損　2/3 程残存
545	SD1200	37L	覆土	木製皿	20.0（径）	2.7（高）	1.5	ケヤキ	柾目	口径 20cm 前後　底径 16cm 前後　1/3 弱程残存
546	SD1200	36L	覆土 22 層	曲柄平鍬	50.9	（12.3）	2.2	ケンポナシ属	柾目	幅 14cm 前後　軸部に着柄の痕跡　刃部欠損
547	SD1200	36L	覆土 22 層	部材	78.5	18.8	3.5	不明	板目	基部欠損
548	SD1200	36L	覆土 22 層	部材	85.1	16.1	3.2	スギ	板目	楯あるいは蹴放し？　一部欠損
549	SD1200	37M	覆土 22 層	部材	（14.4）	4.1	0.7	不明	板目	両端折損
550	SD1200	36M	覆土 22 層	円形板	（19.8）	（7.6）	1.0	不明	柾目	蓋の折断面を加工し再利用？
551	SD1200- 杭 966	37L		杭	95.2	6.0	5.0	クリ	芯持丸木	断面円形
552	SD1200- 杭 971	36L		杭	（159.8）	11.0	10.0	クリ	芯持丸木	基部欠損　断面円形
553	SD1200- 杭 974	36L		杭	（123.9）	12.7	10.9	クリ	割材	基部・先端部欠損
554	SD1200- 杭 973	36L		杭	（172.3）	10.6	10.5	オニグルミ	割材	基部欠損
555	SD1200- 杭 967	36L		杭	（152.5）	11.5	6.0	クリ	割材	部材を杭として転用
556	SD1200- 杭 976	36L		杭	（186.4）	12.0	8.3	クリ	割材	基部・先端部欠損　断面三角形様
557	SD1200- 杭 972	36L		杭	（209.7）	10.2	9.7	クリ	割材	基部・先端部欠損
558	SD1200- 杭 970	36L		杭	（139.4）	12.9	10.4	クリ	割材	基部欠損　断面三角形
559	SD1200- 杭 969	36L		杭	（145.2）	13.4	8.7	クリ	割材	基部欠損　断面三角形
560	SE451	41J	最下層	井戸側（曲物側板）	53.5（径）	16.4（高）	0.5	スギ	柾目	内面に縦・斜位のケビキ顕著　欠損
561	SE916	37E	最下層	井戸側（隅柱）	（206.8）	13.0	11.9	スギ	芯持丸木	北西側　上部欠損
562	SE916	37E	最下層	井戸側（隅柱）	（159.3）	13.0	12.6	スギ	芯持丸木	南西側　上部欠損
563	SE916	37E	最下層	井戸側（隅柱）	（180.3）	16.5	15.0	不明	芯持丸木	南東側　上部欠損　鋸痕明瞭
564	SE916	37E	最下層	井戸側（隅柱）	（170.6）	13.0	12.6	スギ	芯持丸木	北東側　上部欠損
565	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	80.4	7.7	5.5	コナラ	芯持丸木	上段西側
566	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	80.2	7.0	5.1	コナラ	芯持丸木	上段東側
567	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	81.5	5.7	5.9	コナラ	芯持丸木	上段北側
568	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	90.3	8.1	7.2	スギ	芯持丸木	下段西側
569	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	87.2	7.7	7.2	スギ	芯持丸木	下段南側
570	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	91.6	7.5	6.7	スギ	芯持丸木	下段北側
571	SE916	37E	最下層	井戸側（横桟）	86.6	11.1	8.3	スギ	半割	下段東側
572	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（157.3）	31.1	2.1	カラマツ	板目	西側　上部欠損
573	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（140.0）	39.9	2.2	不明	板目	西側　上部欠損
574	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（143.4）	36.3	3.1	カラマツ	板目	南側　上部欠損
575	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（137.6）	37.7	2.9	カラマツ	板目	南側　上部欠損
576	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（115.7）	2.2	2.0	カラマツ	板目	東側　上部欠損
577	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（126.0）	22.8	2.2	カラマツ	板目	東側　上部欠損
578	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（139.0）	46.1	3.0	不明	板目	東側　上部欠損
579	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（130.3）	30.3	2.1	不明	柾目	北側　上部欠損
580	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（132.4）	16.2	2.3	カラマツ	板目	北側　上部欠損
581	SE916	37E	最下層	井戸側（側板）	（122.9）	30.3	2.1	カラマツ	板目	北側　上部欠損

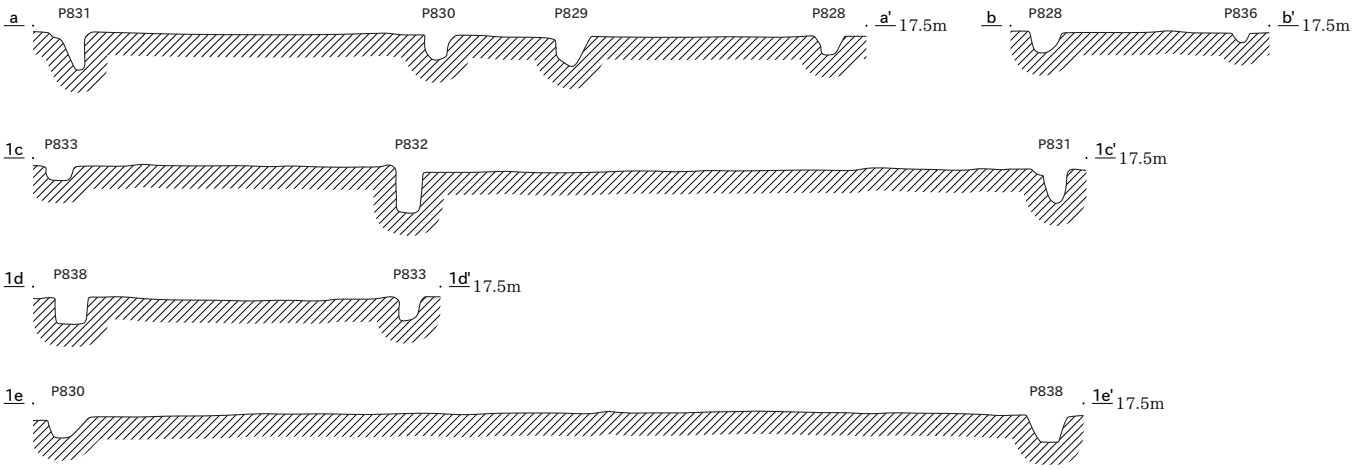
第 37 表　木製品観察表

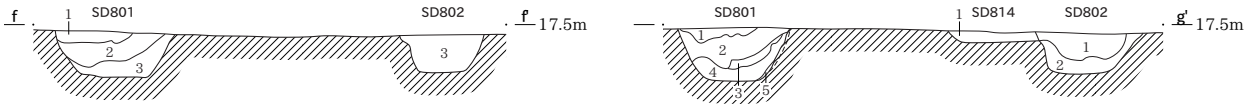
図　　版

荒町南新田遺跡　遺構分割図配置模式図


35D
36D
SD814
SK803
SD802
17.4
17.3
35E
36E
SD801
17.2
SD807
SD808
P831
P830
P829
SE809
SB840
P828
P836
SD827
35F
36F
SE914
17.4
17.2
17.3
SE797
SD902
カクラン
0
(1:100)
5m

SB840





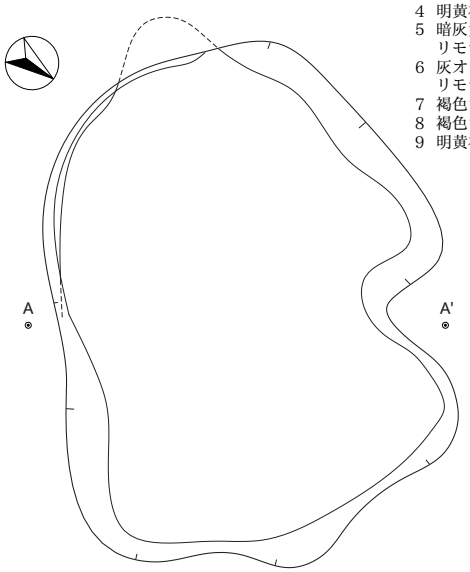
SD801
1 褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。暗褐色粘土ブロック多量含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。褐色粘土ブロック含む。
4 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。黄橙色シルトブロック多量含む。
5 にぶい黄橙色粘土　しまり弱、粘性強。炭化物含む。

SD802
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。黄褐色粘土ブロック含む。
2 黄褐色粘土　しまり中、粘性強。暗褐色粘土ブロック含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物少量含む。

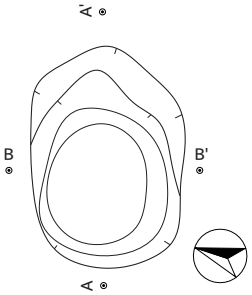
SD814
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。黄橙色シルトブロック含む。

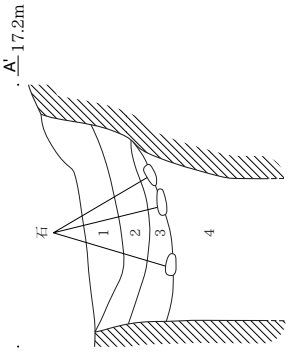
SK803
1 褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
黄橙色シルトブロック含む。
3 黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
褐色シルト質粘土ブロック多量含む。
4 明黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 暗灰黄色粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト・スコリア含む。
6 灰オリーブ粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト・スコリア多量含む。
7 褐色シルト　しまり中、粘性中。スコリア含む。
8 褐色シルト　しまり中、粘性中。
9 明黄褐色粘土　しまり中、粘性強。スコリア含む。

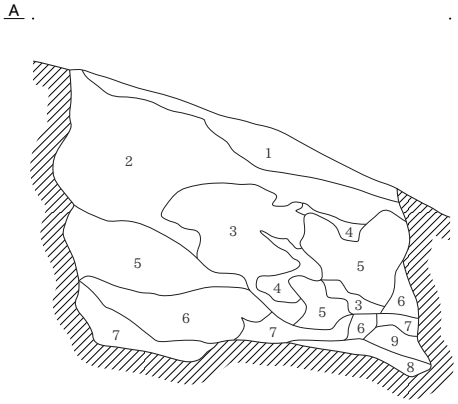
SK803

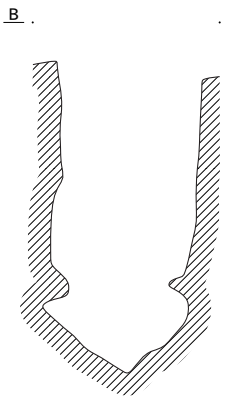


SE914

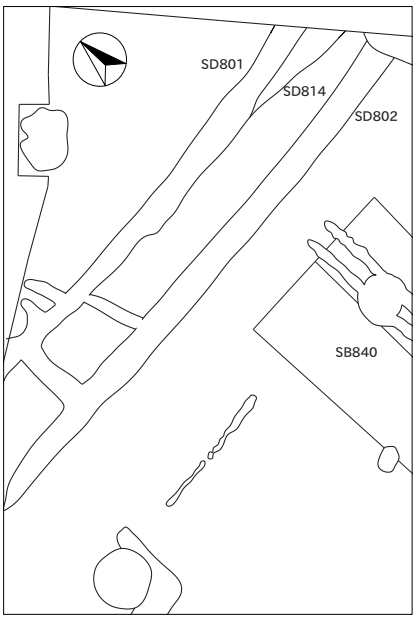








SE914
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。灰色シルトブロック多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。礫多量含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

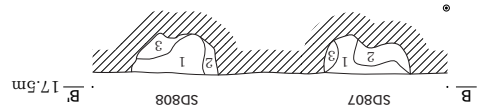


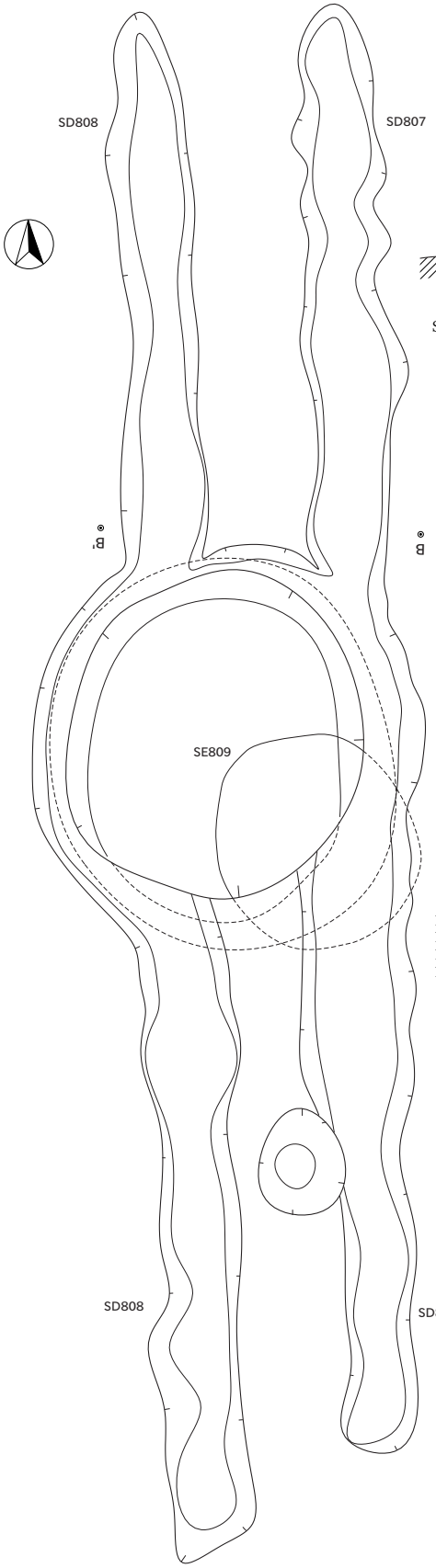
0　（1：80）SB・SD　4m

0　（1：40）SK・SE　2m

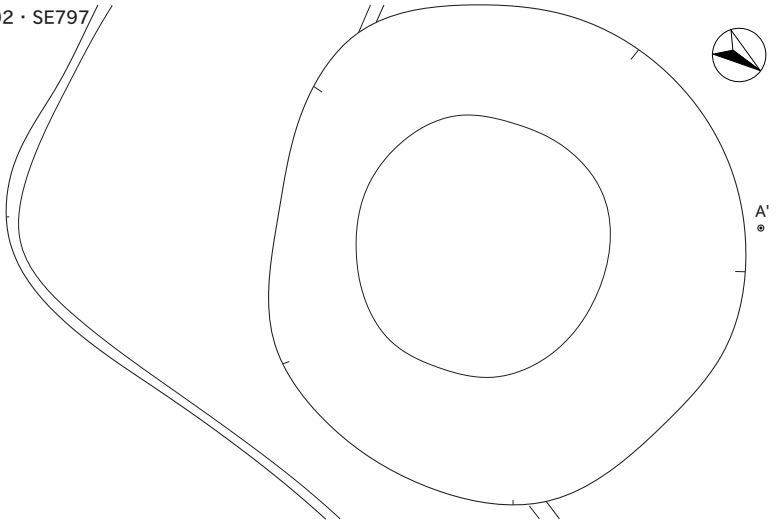
SE809、SD807・808

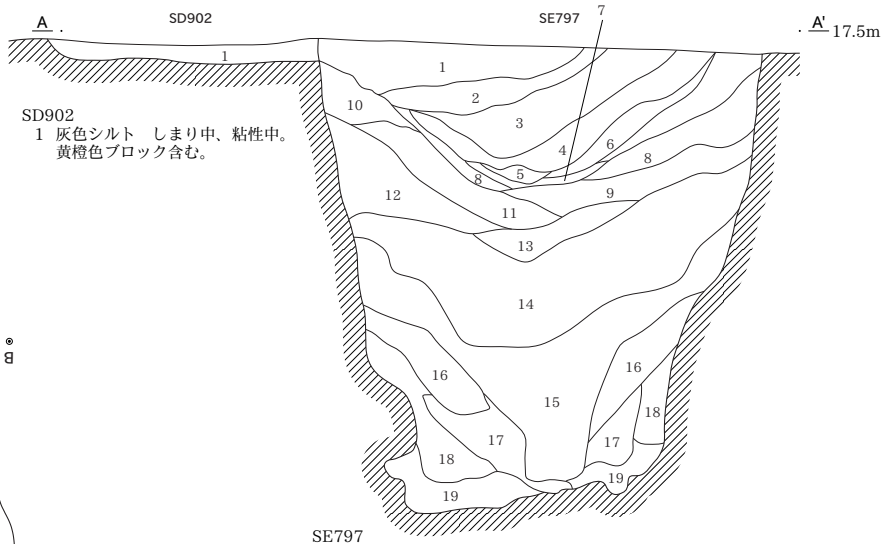
SD807・808共通
1 暗オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。
　オリーブ褐色粘土ブロック含む。
3 オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。





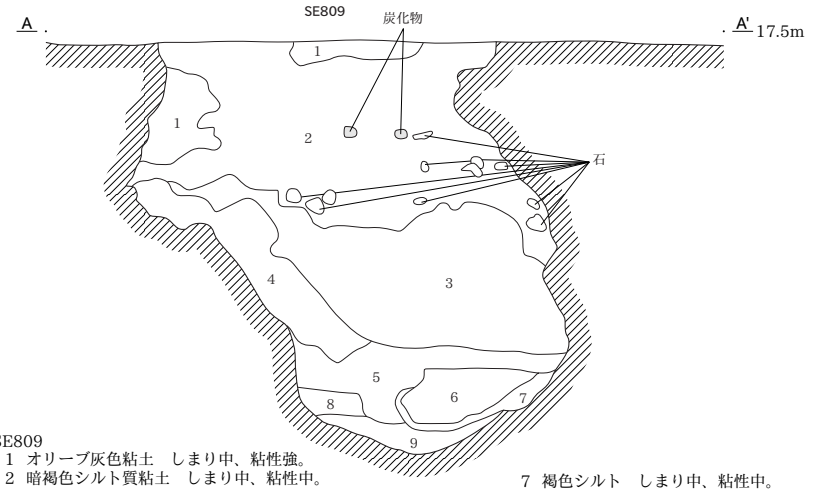
SD902・SE797





SD902
1 灰色シルト　しまり中、粘性中。
　黄橙色ブロック含む。

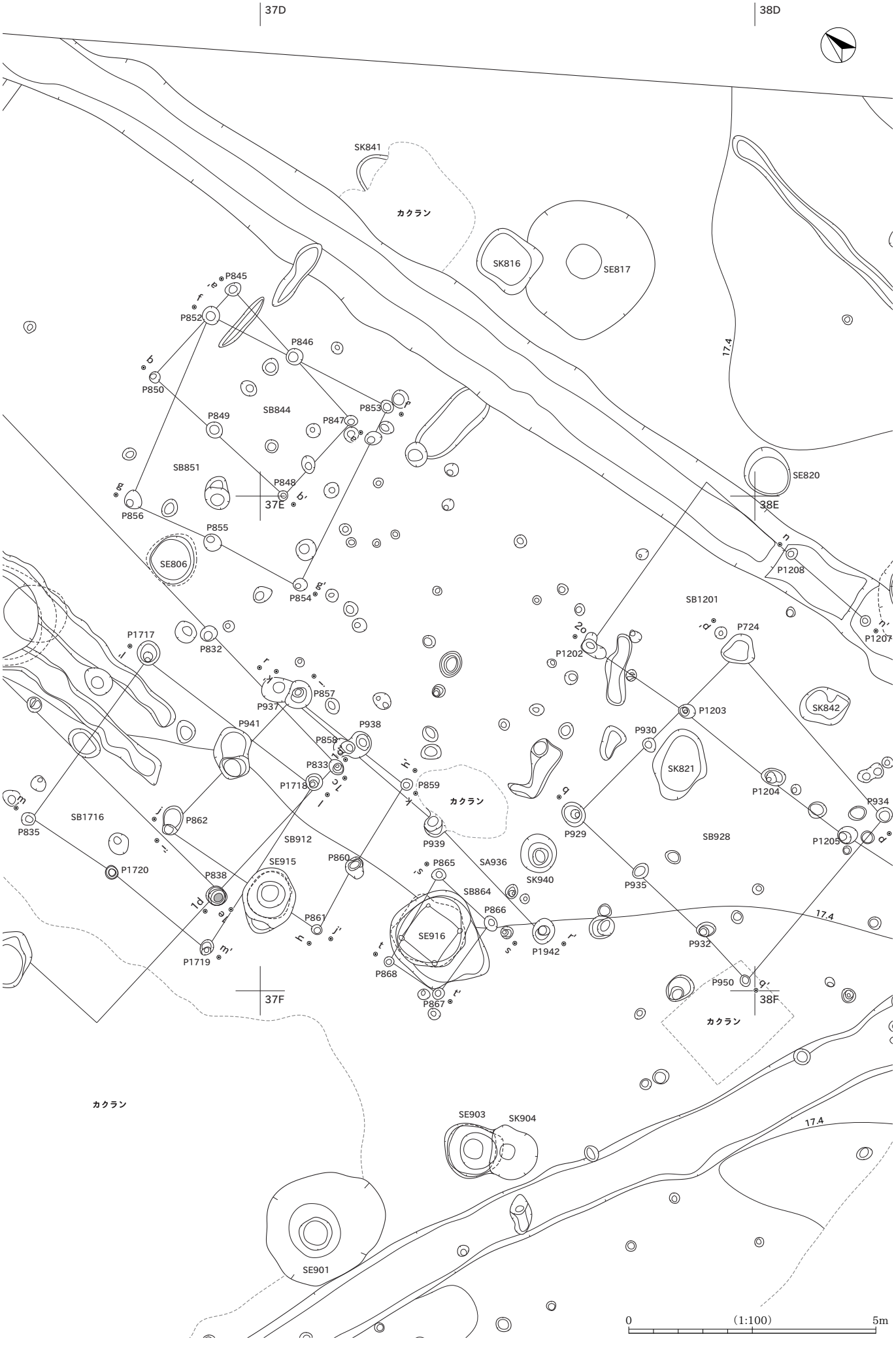
SE797
1 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。橙色シルトブロック多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
3 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。黄橙色粒子多量含む。
4 暗黄褐砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
5 淡灰褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
6 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。灰色シルトブロック少量含む。
7 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。淡灰色シルトブロック少量含む。
8 青灰色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量含む。
9 暗黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。淡灰色粒子多量含む。
10 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
11 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。青灰色シルトブロック多量含む。
12 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。橙色粒子少量含む。
13 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。黄橙色粒子少量含む。
14 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
15 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡灰色粒子多量含む。
16 淡灰色シルト　しまり中、粘性弱。
17 黄橙色シルト　しまり中、粘性弱。
18 灰色粘土　しまり強、粘性強。
19 灰色シルト　しまり中、粘性中。



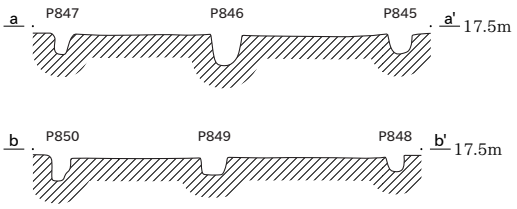
SE809
1 オリーブ灰色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
　炭化物含む。礫多量含む。
3 褐色粘土　しまり中、粘性強。
4 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。リモナイト含む。
6 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト含む。
7 褐色シルト　しまり中、粘性中。
　リモナイト多量含む。
8 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
　暗灰黄色シルトブロック含む。
9 褐色シルト　しまり中、粘性中。

0　（1：40）　2m

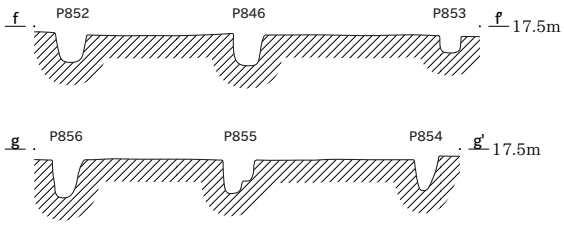
遺構分割図 2


37D
38D
SK841
カクラン
SK816
SE817
P845
P852
P846
P850
SB844
P853
P849
P847
SB851
P848
37E
P856
P855
SE806
P854
SE820
38E
P1208
SB1201
P1207
P724
P1717
P832
P1202
P857
P937
P1203
SK842
P941
P938
P858
P930
P833
SK821
P1718
P859
カクラン
P1204
P934
SB1716
P862
P835
P929
SB928
P1205
SB912
P939
P865
SA936
P1720
SE915
P860
SK940
P838
P935
SB864
P866
P861
SE916
P1942
P932
P1719
P868
P950
37F
P867
38F
カクラン
カクラン
SE903
SK904
SE901
17.4
0
(1:100)
5m

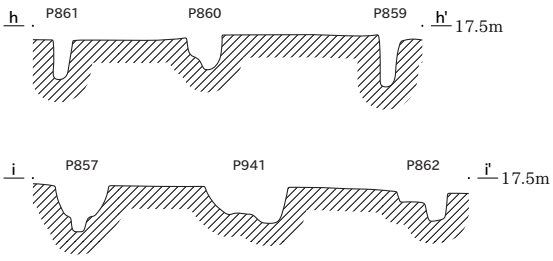
SB844



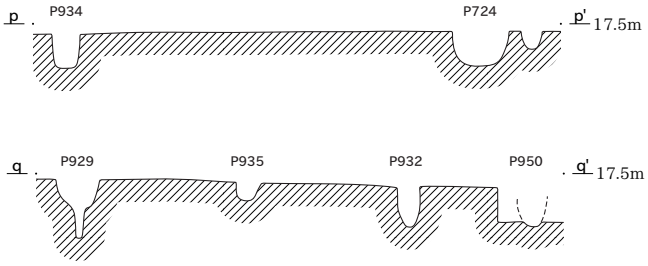
SB851



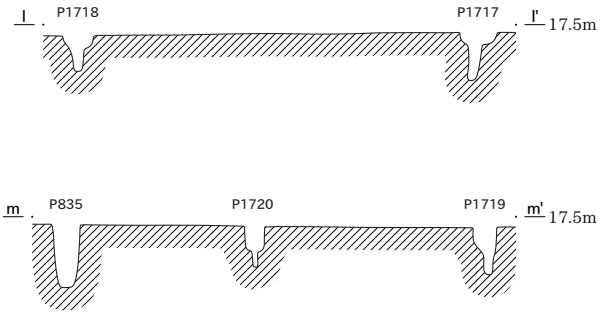
SB912



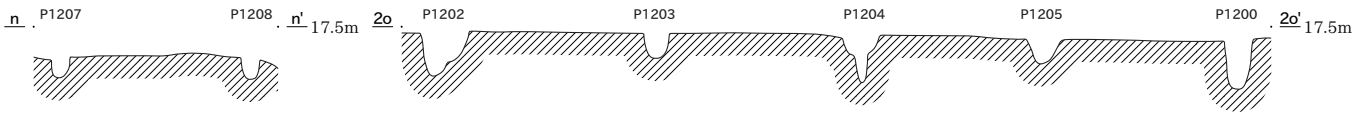
SB928



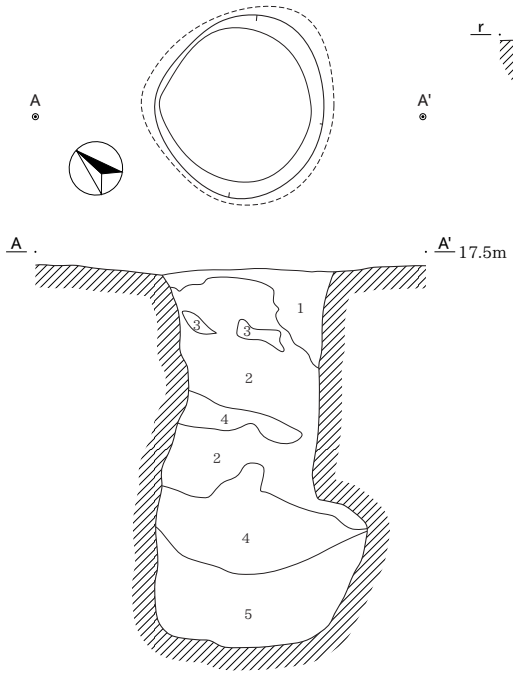
SB1716



SB1201

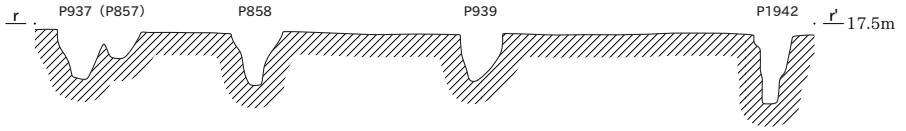


SE806

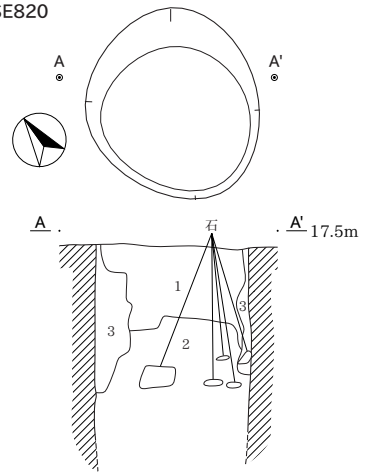


SE806
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色粘土ブロック多量含む。
3 褐色粘土　しまり中、粘性強。
4 褐灰色シルト質粘土　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
5 黄灰色シルト　しまり中、粘性中。

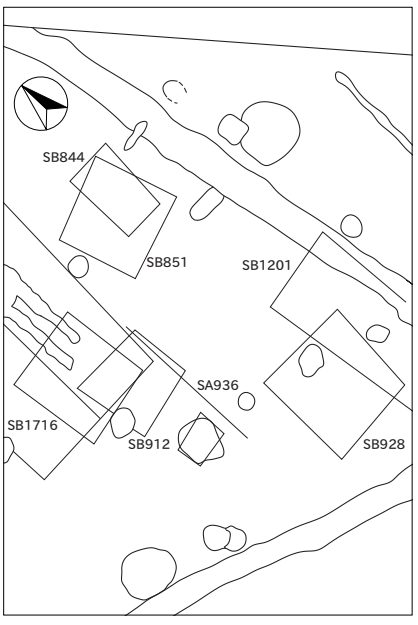
SA936



SE820



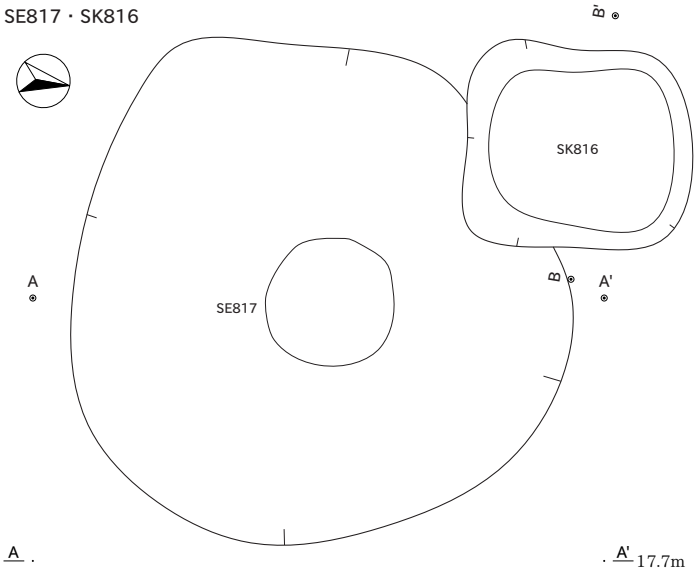
SE820
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物含む。礫多量含む。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
礫多量含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
黄橙色シルトブロック含む。

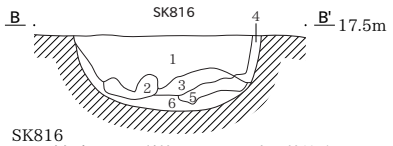


0　（1：40）SE　2m

0　（1：80）SB・SA　4m

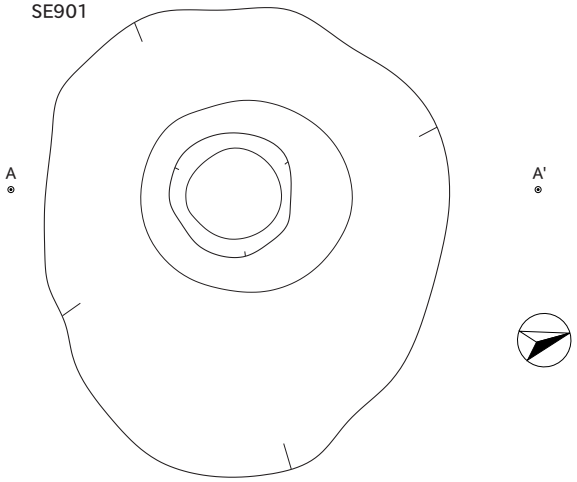
SE817・SK816

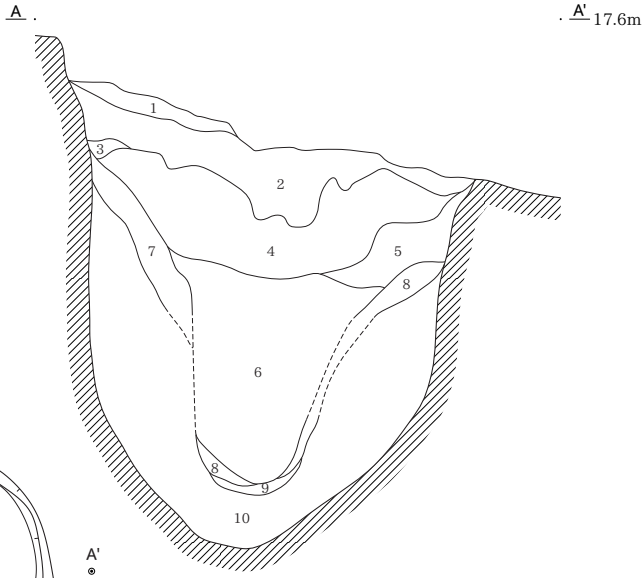




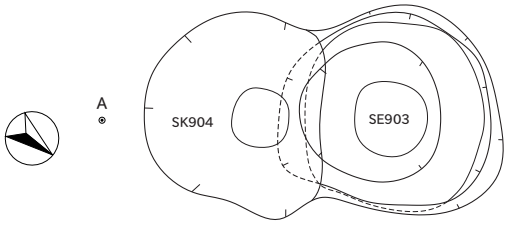
SK816
1 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色砂質粘土　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色砂質粘土　しまり中、粘性中。
4 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 灰黄褐色シルト質粘土　しまり中、粘性強。

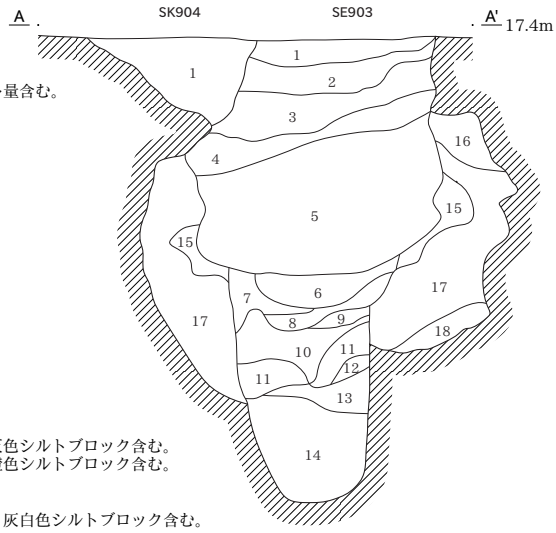
SE901





SE903・SK904





SE903
1 灰白色シルト＋灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 青灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物含む。
3 灰色シルト　しまり中、粘性中。
4 灰色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄多量含む。
5 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰色シルトブロック含む。
6 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
7 灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
8 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
9 青灰色シルト　しまり中、粘性中。
10 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
11 灰色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
12 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
13 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。青灰色シルトブロック含む。
14 青灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック含む。
15 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
16 にぶい橙色シルト　しまり中、粘性中。
17 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。青灰色シルトブロック含む。
18 青灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック含む。

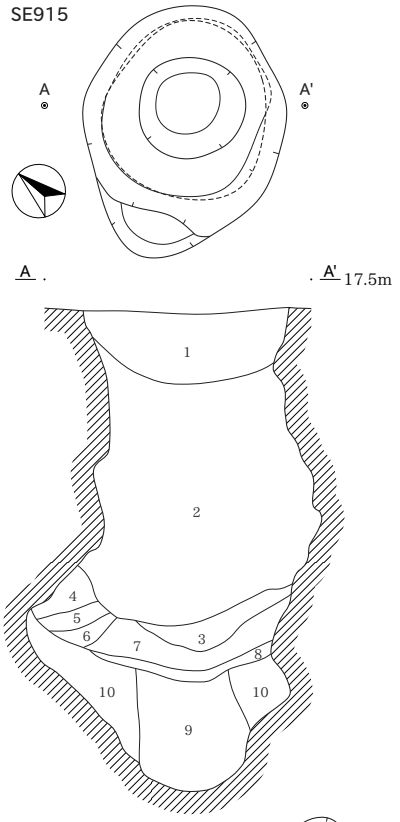
SK904
1 灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、灰白色シルトブロック含む。

SE817
1 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物含む。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。黄橙色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト含む。
4 褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
5 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 明褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
7 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
8 青灰色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
9 オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
10 オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。

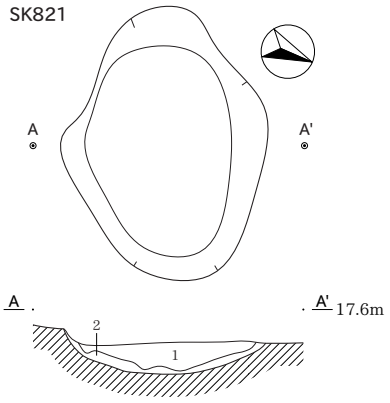
SE901
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物含む。
3 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
4 灰白色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
5 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
6 灰白色シルト　しまり中、粘性中。炭化物含む。
7 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
8 灰白色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。
9 青灰色シルト　しまり中、粘性中。
10 青灰色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。

0　（1：40）　2m

SE915

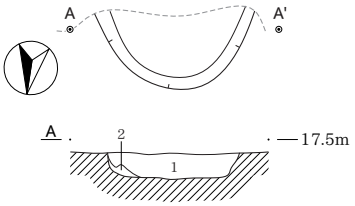


SK821



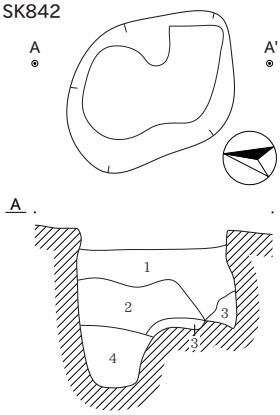
1 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物含む。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト含む。

SK841



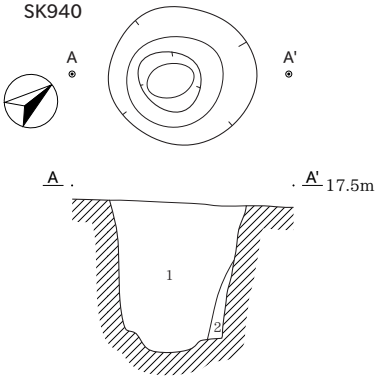
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK842



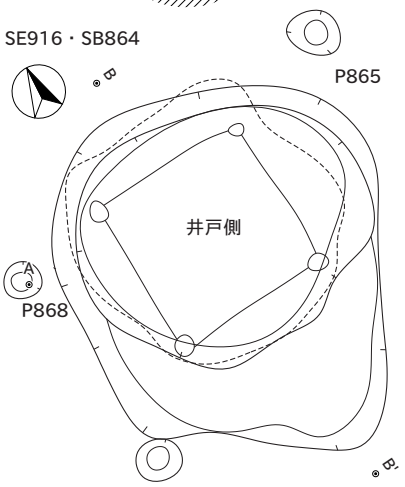
1 にぶい黄褐色粘土
しまり中、粘性強。
2 明黄褐色粘土
しまり中、粘性強。
3 暗褐色粘土
しまり中、粘性強。
4 にぶい黄褐色粘土
しまり中、粘性強。
リモナイト含む。

SK940

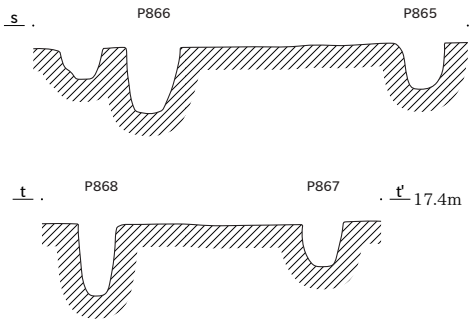


1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。灰色シルトブロック含む。

SE916・SB864

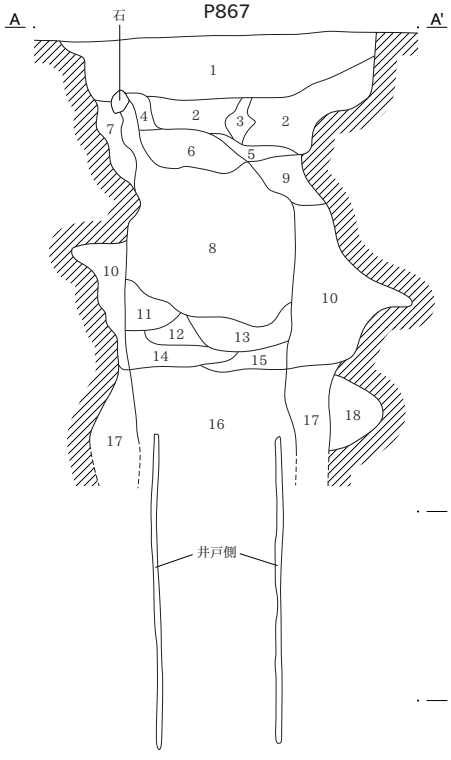


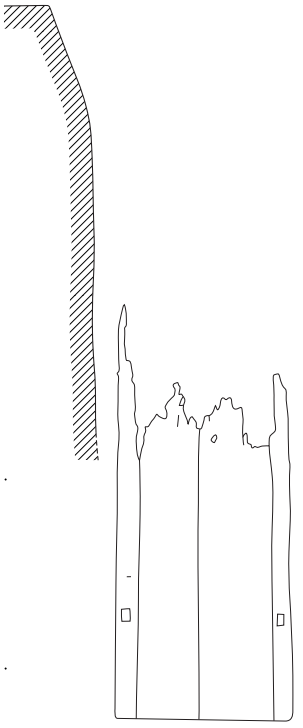
SB864



SE915

1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。
2 にぶい橙色シルト＋青灰色シルト　しまり中、
粘性中。
3 褐灰色シルト＋青灰色シルト
しまり中、粘性中。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
5 にぶい橙色シルト　しまり中、粘性中。
6 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
青灰色シルトブロック含む。
7 灰白色シルト　しまり中、粘性中。
8 灰白色シルト　しまり中、粘性中。
青灰色シルトブロック含む。
9 灰白色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。
10 青灰色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。



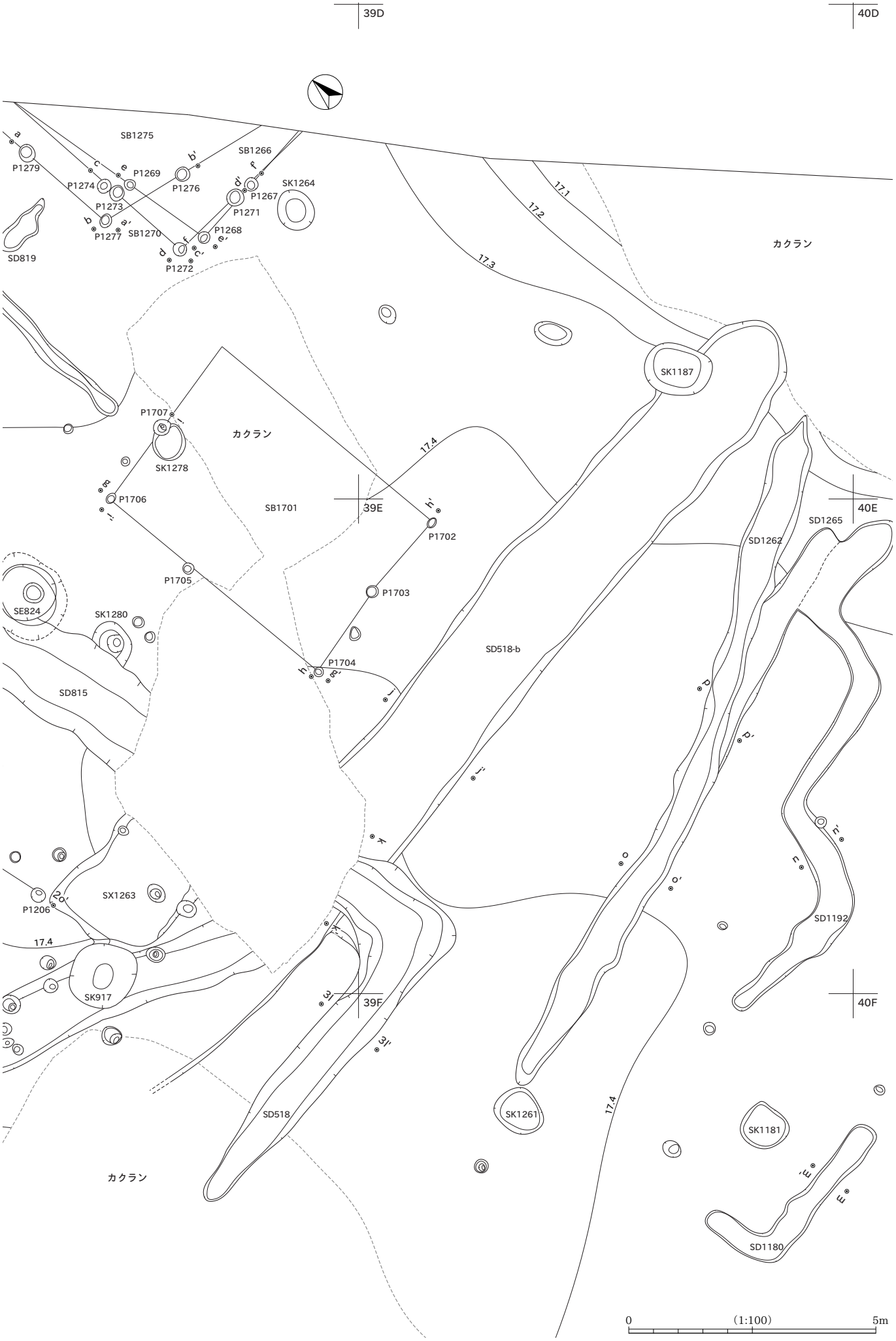


SE916

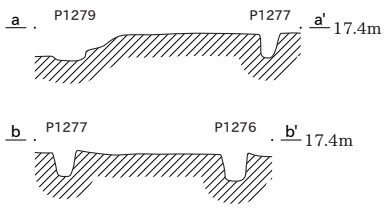
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
淡黄橙色シルトブロック少量含む。
3 淡橙褐色シルト　しまり中、粘性中。
灰色シルトブロック少量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。灰色シルトブロック含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
灰色シルトブロック多量含む。
6 灰色シルト　しまり中、粘性中。
7 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、焼土粒微量含む。
8 橙色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
9 暗褐色シルト　しまり強、粘性弱。
10 灰褐色シルト　しまり強、粘性中。
11 灰色粘土　しまり中、粘性強。
12 灰白色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。
13 灰白色シルト　しまり中、粘性中。
青灰色シルトブロック含む。
14 灰色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。
15 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
灰色シルトブロック含む。
16 明青灰色シルト　しまり中、粘性中。
17 青灰色シルト　しまり中、粘性中。
18 明緑灰色シルト　しまり中、粘性中。

0　(1：40)　2m

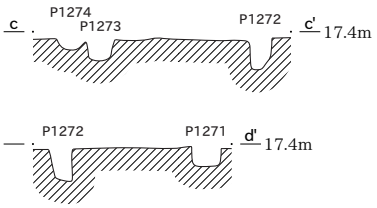
遺構分割図 3


39D
40D
SB1275
SB1266
P1279
P1274
P1269
P1276
P1267
SK1264
P1273
P1271
P1277
SB1270
P1268
SD819
P1272
17.1
17.2
17.3
カクラン
SK1187
P1707
カクラン
17.4
SK1278
P1706
SB1701
39E
40E
P1702
SD1265
SD1262
P1705
P1703
SE824
SK1280
SD518-b
P1704
SD815
SX1263
P1206
17.4
SK917
39F
40F
SD1192
SK1261
SK1181
SD518
17.4
カクラン
SD1180
0
(1:100)
5m

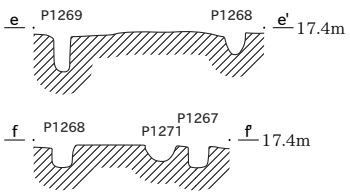
SB1275



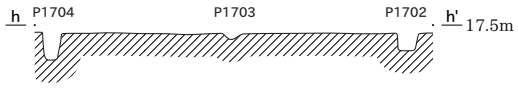
SB1270

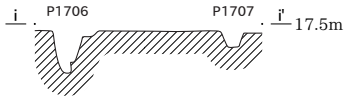


SB1266

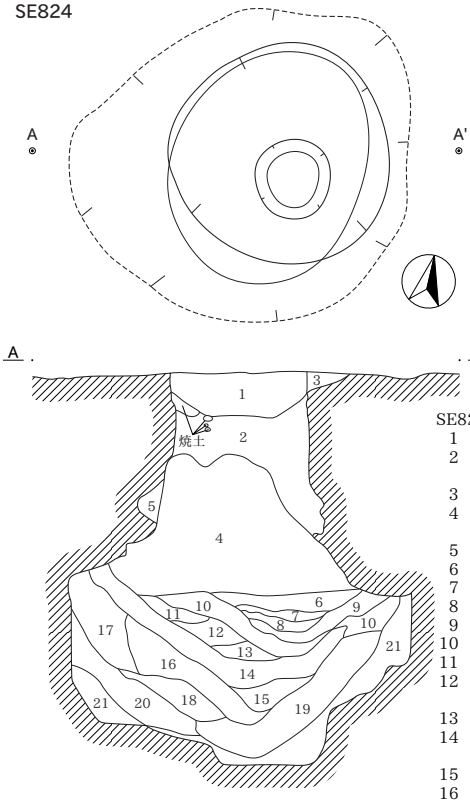


SB1701



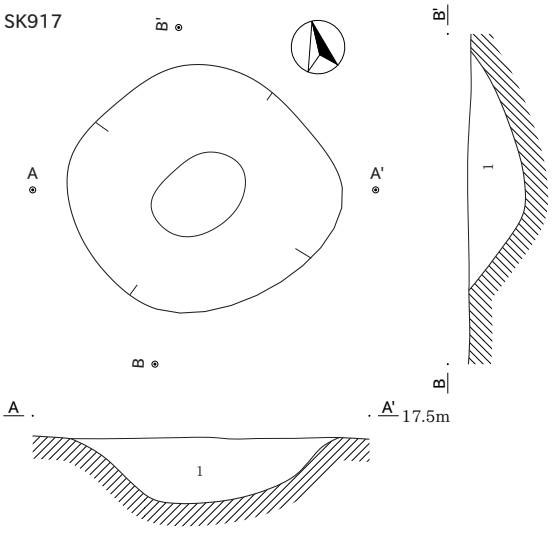


SE824



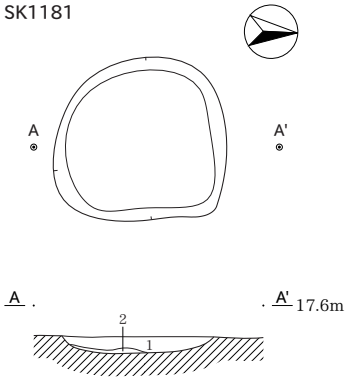
SE824
1 灰黄褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物、焼土含む。
3 黒褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
4 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
炭化物、焼土含む。
5 明黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
7 灰色粘土　しまり強、粘性強。
8 灰白色シルト　しまり中、粘性弱。
9 灰色粘土　しまり中、粘性強。
10 淡黄色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
11 灰色粘土　しまり中、粘性強。
12 灰白色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物、焼土含む。
13 灰色粘土　しまり中、粘性強。
14 灰白色粘土　しまり中、粘性強。
褐色粒子多量含む。
15 灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
16 黄灰色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
17 黄灰色粘土　しまり中、粘性中。
18 浅黄色粘土　しまり中、粘性強。
19 浅黄色粘土　しまり中、粘性強。
褐色シルトブロック少量含む。
20 浅黄色粘土　しまり中、粘性強。
灰白色粘土ブロック多量含む。
21 浅黄色粘土　しまり中、粘性強。
褐色シルトブロック多量含む。

SK917

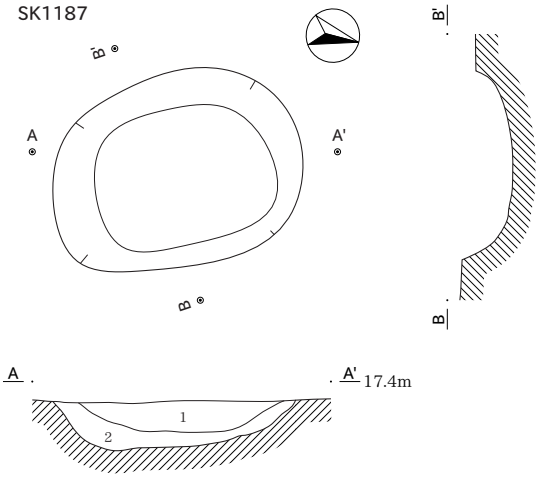


SK917
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。

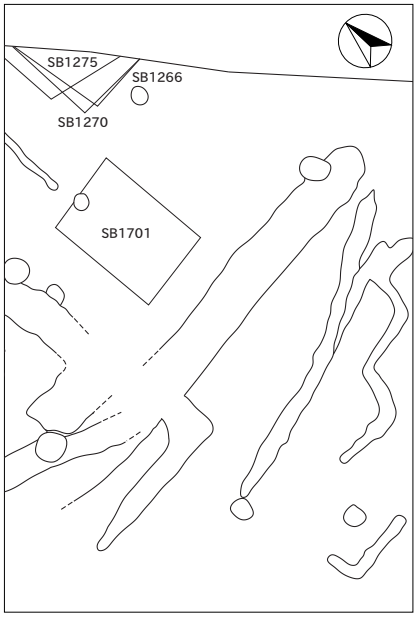
SK1181



SK1187



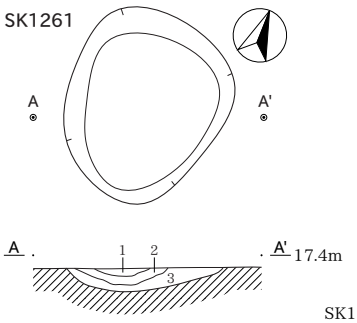
SK1181・1187共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。



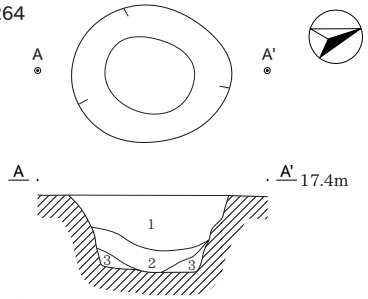
0　（1：40）SE・SK　2m

0　（1：80）SB　4m

SK1261

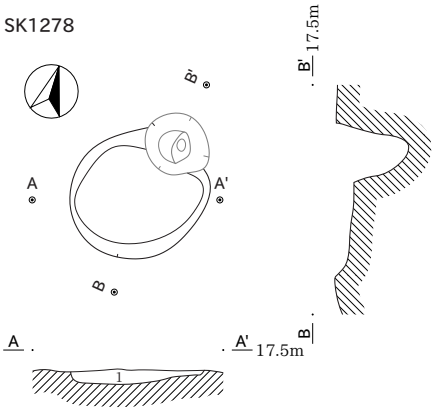


SK1264



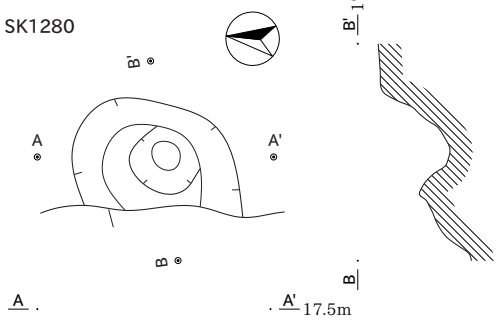
SK1261・1264共通
1 暗灰褐色粘土　しまり中、粘性強。淡黄褐色シルトブロック含む。
2 暗灰褐色粘土　しまり中、粘性強。淡黄褐色シルトブロック多量含む。
3 灰褐色シルト　しまり中、粘性強。

SK1278

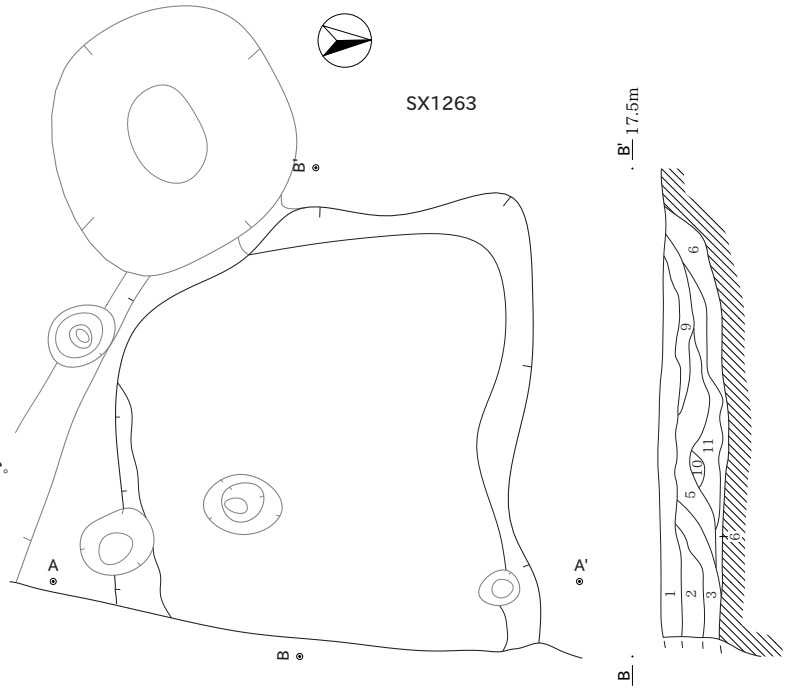


SK1278
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。

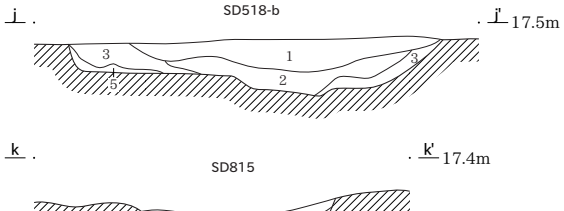
SK1280

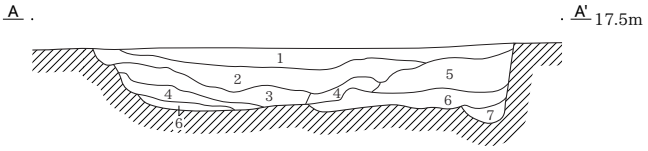


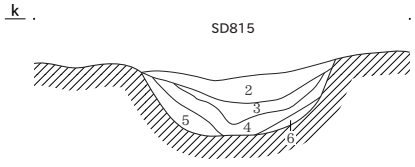
SX1263



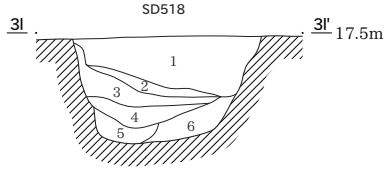
SX1263
1 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量含む。
2 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
3 暗黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック多量含む。
4 灰色シルト　しまり中、粘性弱。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄色シルトブロック多量含む。
6 暗灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
7 灰色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルトブロック少量含む。
8 暗灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
9 黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
10 灰色シルト　しまり中、粘性弱。
11 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。

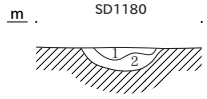




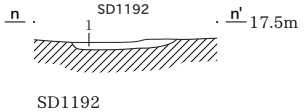


SD518・815共通
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
4 暗灰色シルト　しまり中、粘性中。
5 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
6 灰色シルト　しまり中、粘性中。

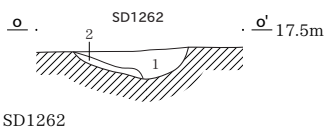




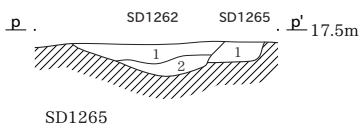
SD1180
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。



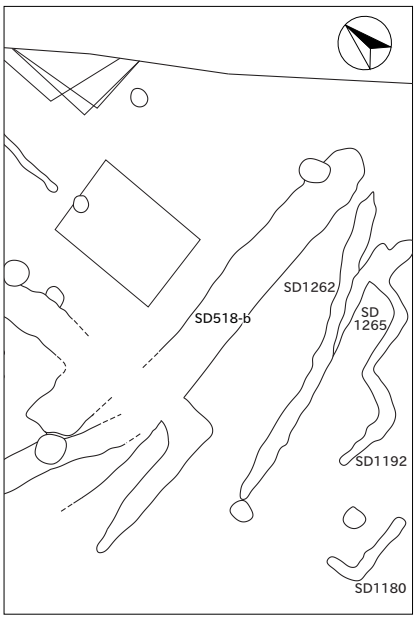
SD1192
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

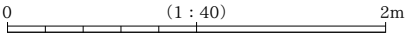


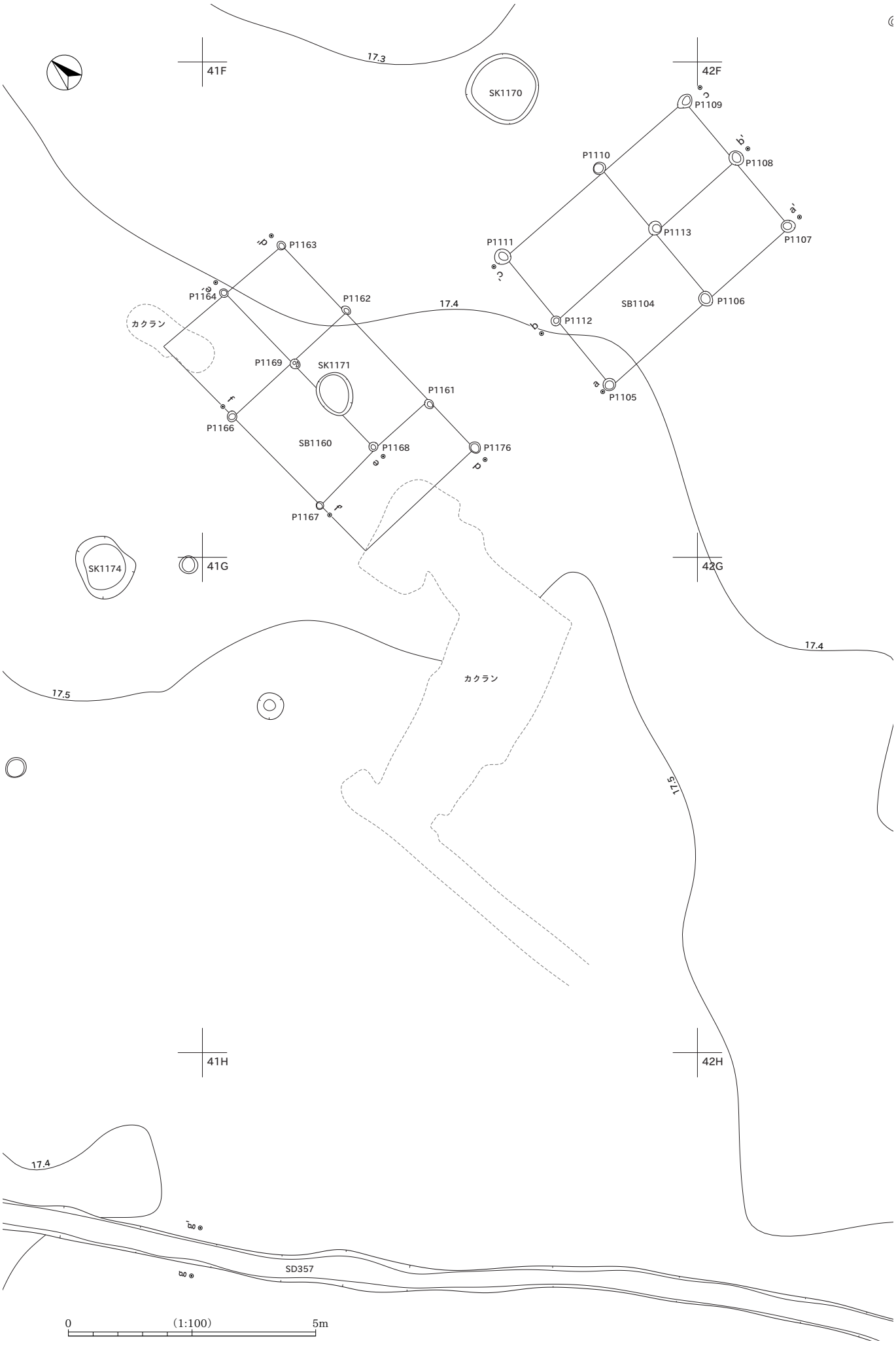
SD1262
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物少量含む。
2 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。



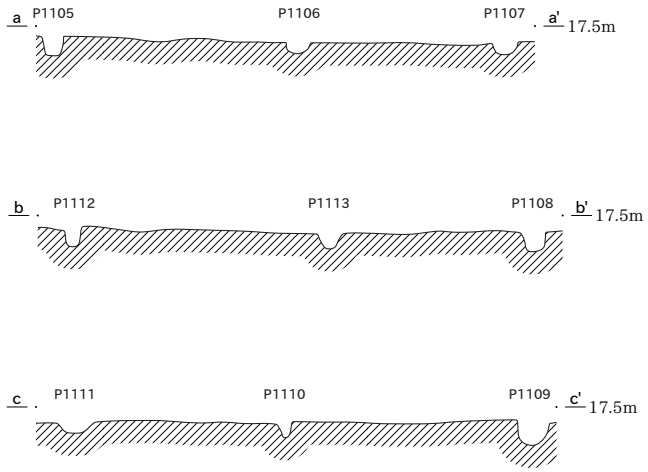
SD1265
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄褐色シルト微量含む。



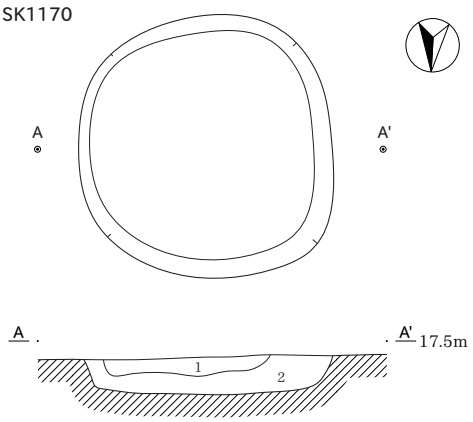



41F
42F
41G
42G
41H
42H
SK1170
SK1174
SK1171
SB1160
SB1104
P1109
P1110
P1108
P1111
P1113
P1107
P1163
P1164
P1162
P1106
P1112
P1105
P1169
P1161
P1166
P1168
P1176
P1167
17.3
17.4
17.5
17.4
17.5
17.4
カクラン
カクラン
SD357
0
(1:100)
5m

SB1104

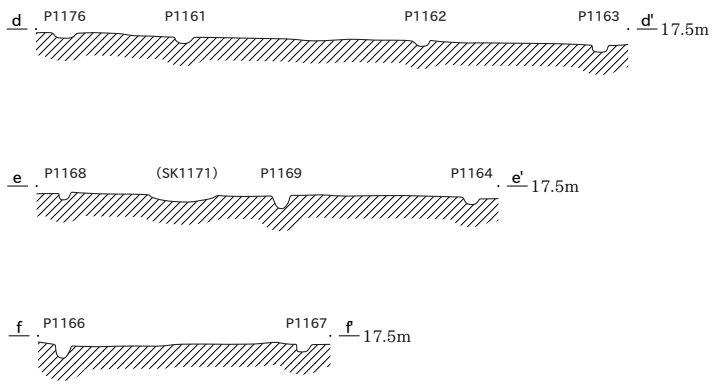


SK1170

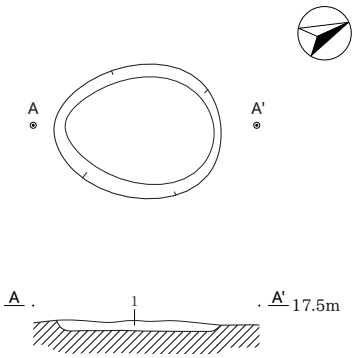


SK1170
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SB1160

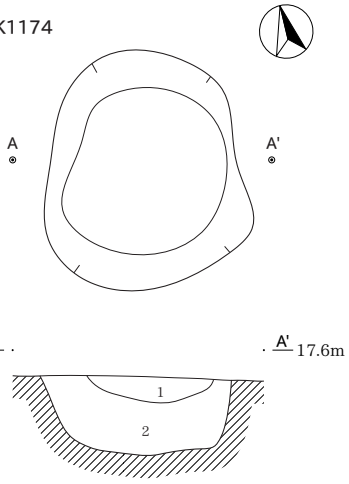


SK1171



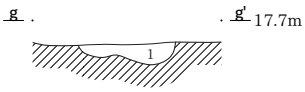
SK1171
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

SK1174

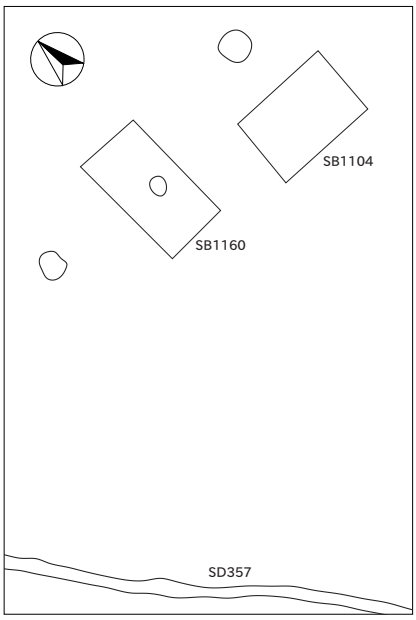


SK1174
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SD357

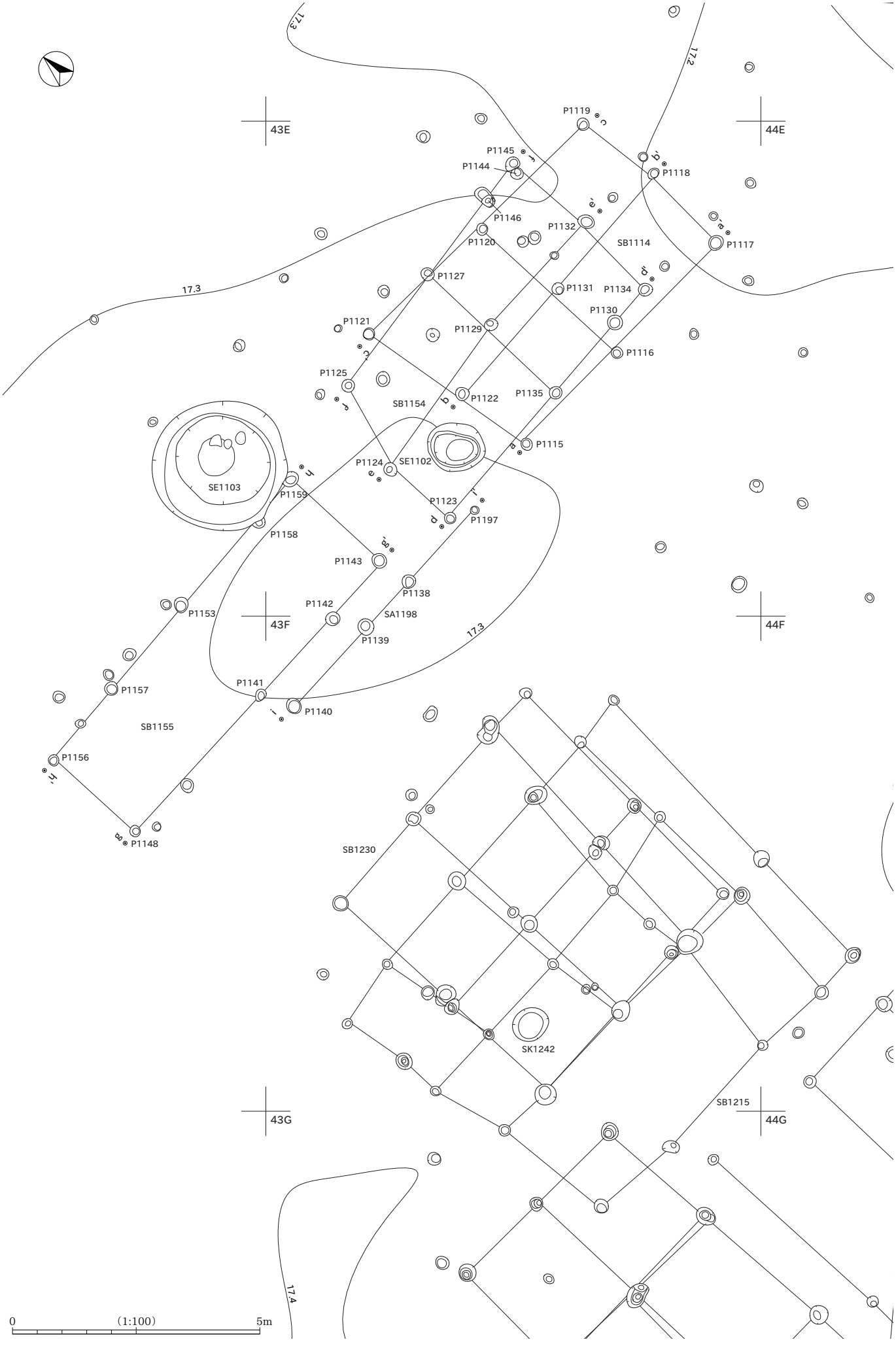


SD357
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。

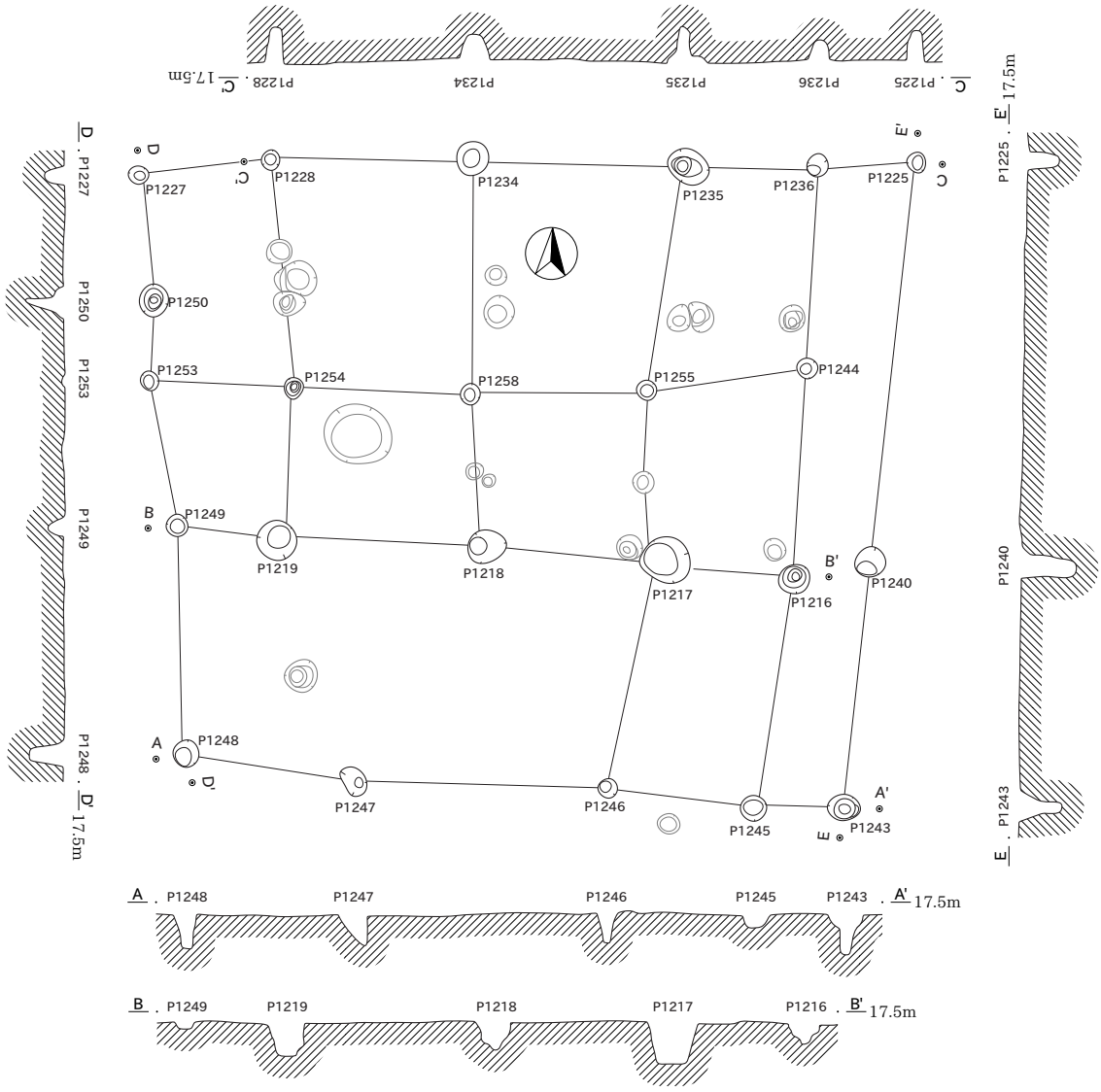


0　（1：80）SB　4m

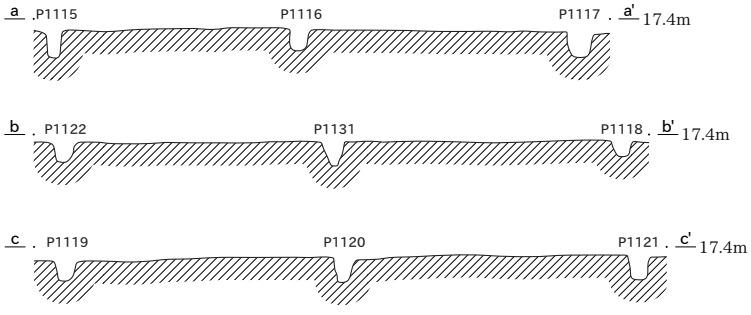
0　（1：40）SK・SD　2m


43E
44E
43F
44F
43G
44G
17.3
17.2
17.4
P1119
P1145
P1144
P1118
P1146
P1132
P1120
SB1114
P1117
P1127
P1131
P1134
P1130
P1121
P1129
P1116
P1125
P1122
P1135
SB1154
P1115
P1124
SE1102
SE1103
P1159
P1123
P1197
P1158
P1143
P1138
P1153
P1142
SA1198
P1139
P1141
P1140
P1157
SB1155
P1156
P1148
SB1230
SK1242
SB1215
0
(1:100)
5m

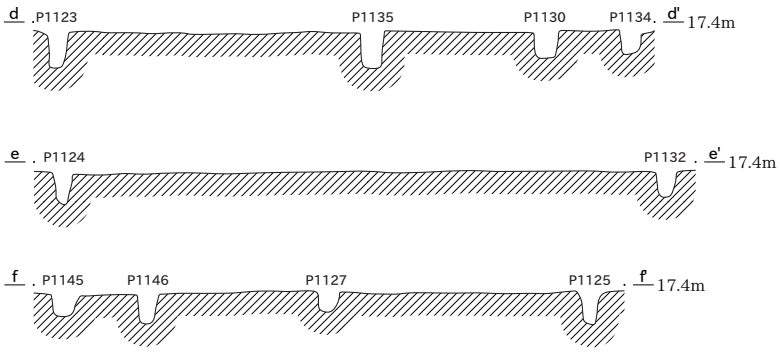
SB1215

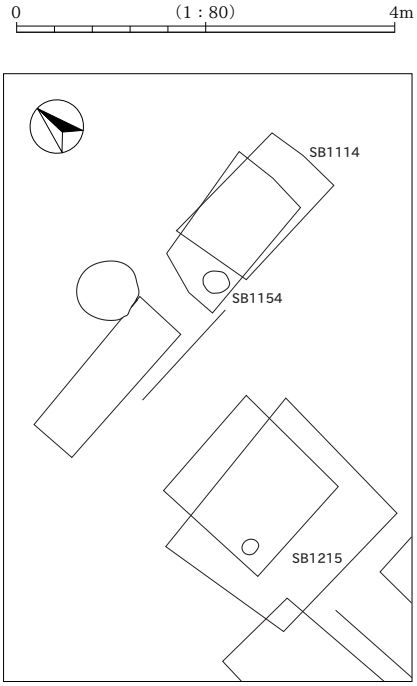


SB1114

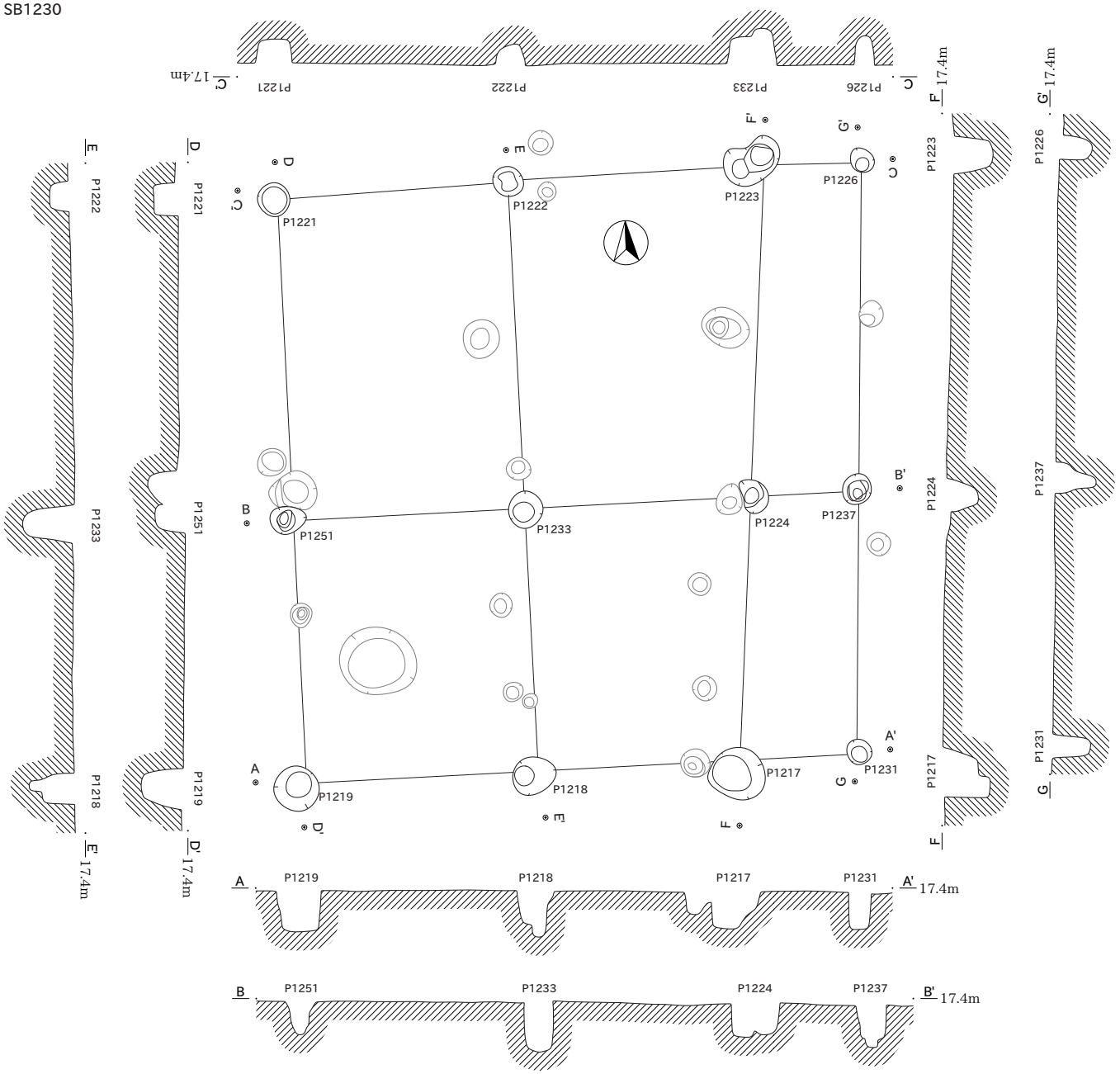


SB1154

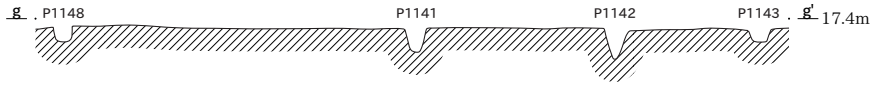


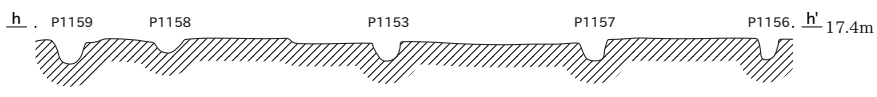


SB1230

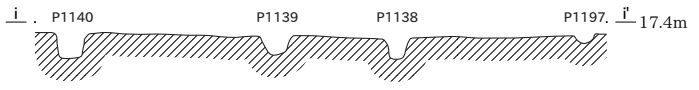


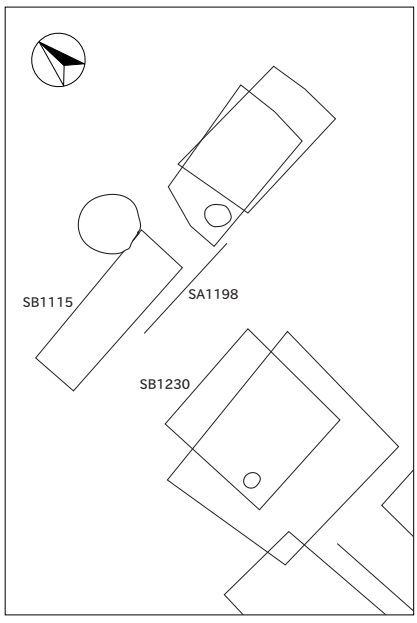
SB1155





SA1198

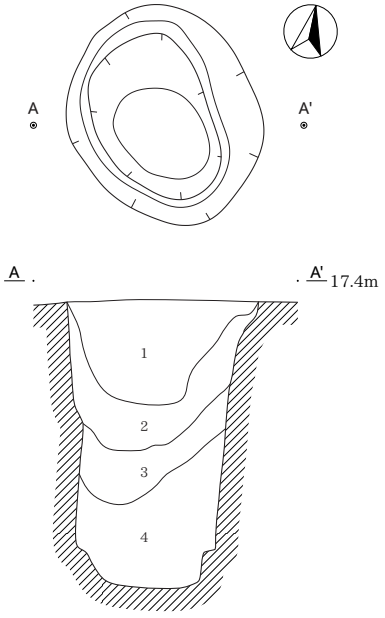




0　(1：60)SB1230　3m

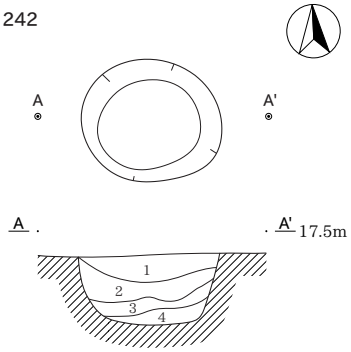
0　(1：80)SB1155・SA1198　4m

SE1102

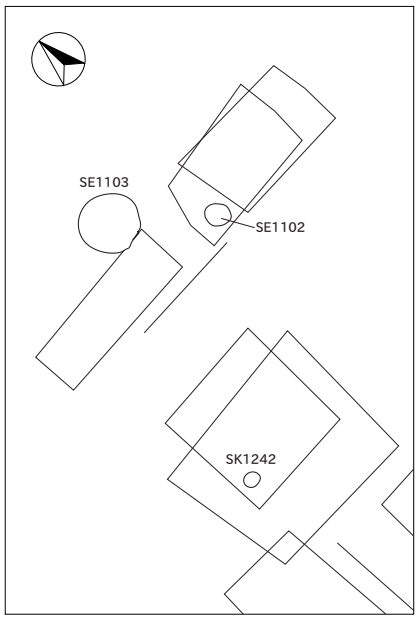


SE1102
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ3mm以下の炭化物少量含む。
3 暗灰黄色粘質シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物含む。
4 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物含む。

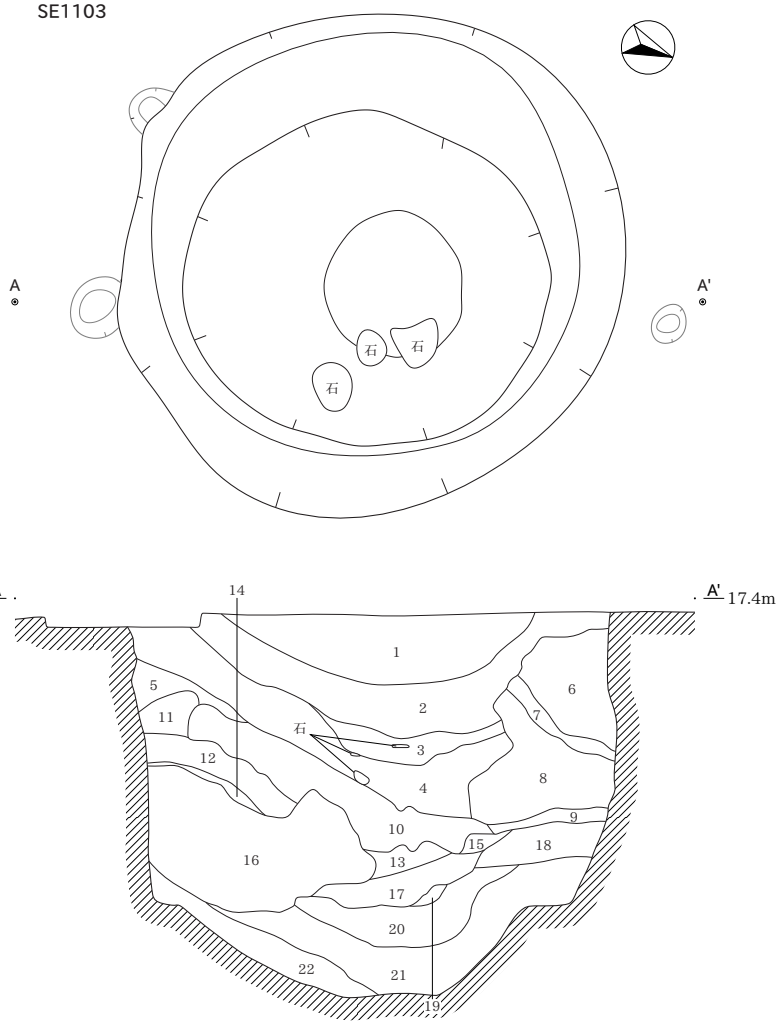
SK1242



SK1242
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒、淡黄褐色シルトブロック含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物、淡黄橙色粒子含む。
3 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物、橙色粒子多量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。橙色粒子少量含む。

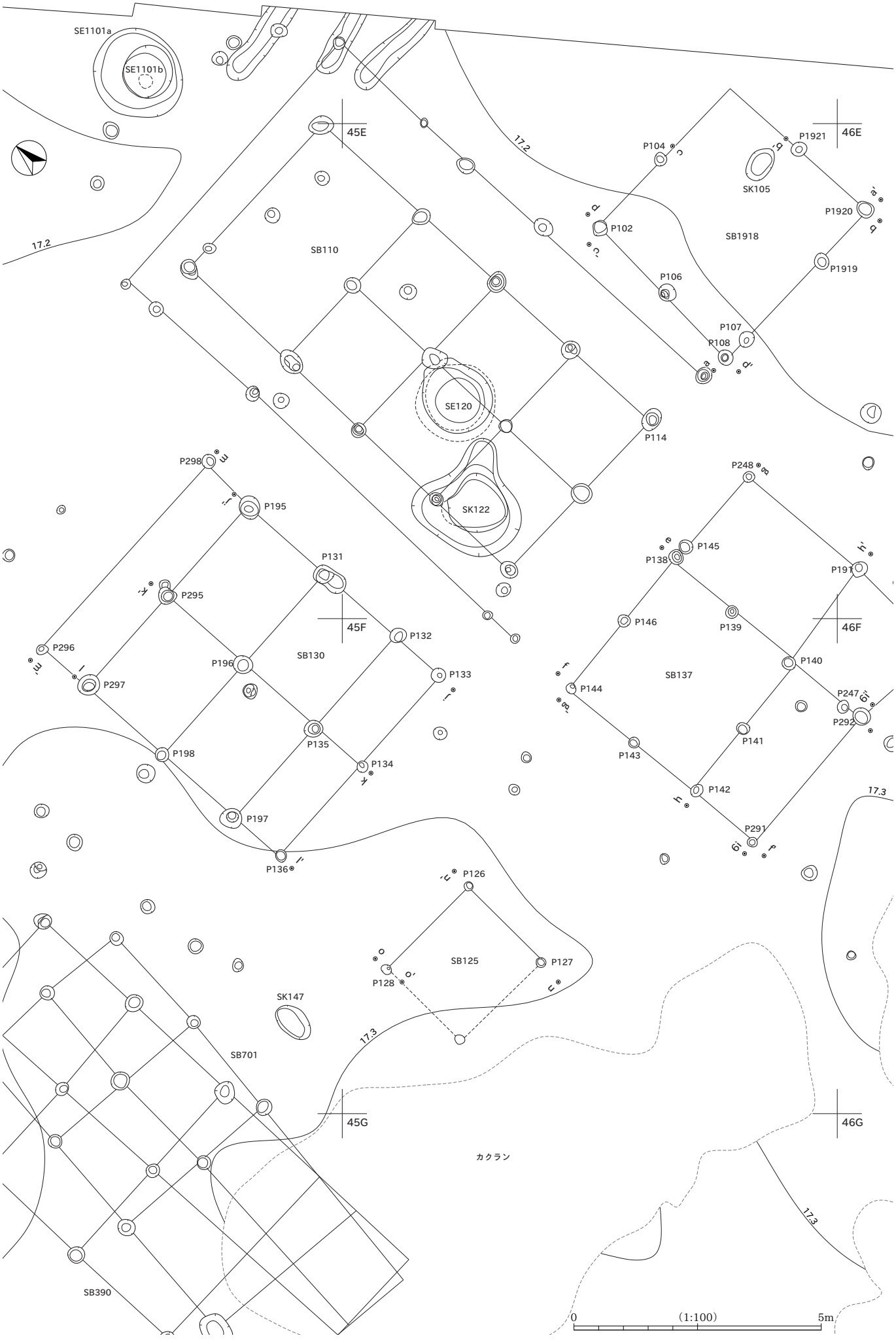


SE1103

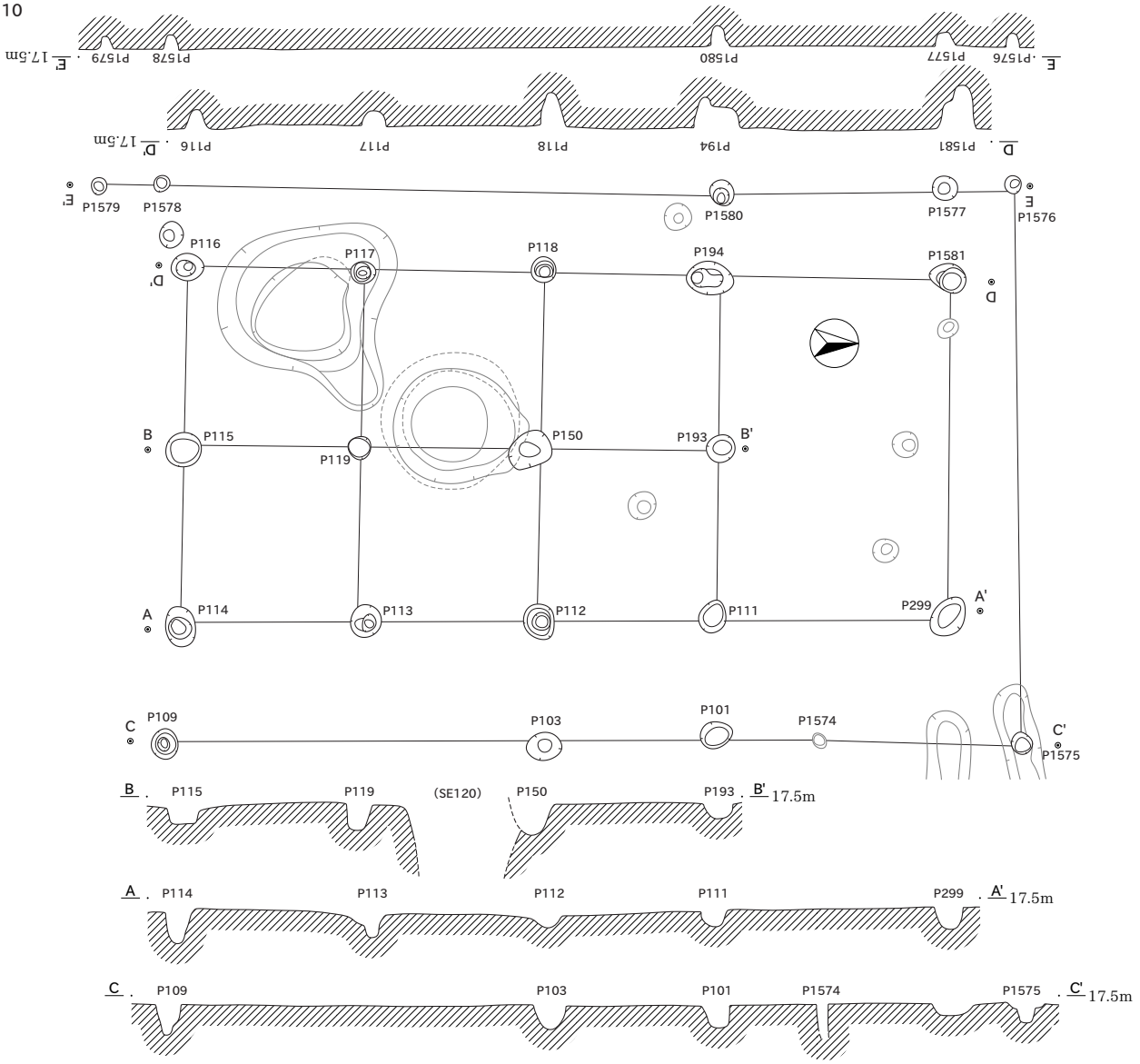


SE1103
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。φ1～5mmの炭化物少量、黄橙色シルトブロック含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量、黄橙色シルトブロック含む。
3 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量、黄橙色シルトブロック含む。
4 黒色シルト＋暗灰色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物含む。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
6 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
7 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量含む。
8 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。
9 暗灰色シルト　しまり中、粘性中。
10 褐色シルト　しまり中、粘性中。にぶい黄橙色シルトブロック含む。
11 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック少量含む。
12 にぶい黄橙色シルト　しまり弱、粘性中。褐灰色シルトブロック少量含む。
13 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。暗灰色シルトブロック含む。
14 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量、黄橙色シルトブロック含む。
15 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
16 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。
17 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。暗灰色シルトブロック多量含む。
18 浅黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性弱。
19 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。
20 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。φ1mm以下の炭化物少量含む。
21 灰白色粘質シルト　しまり中、粘性中。
22 にぶい黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトマーブル状に含む。

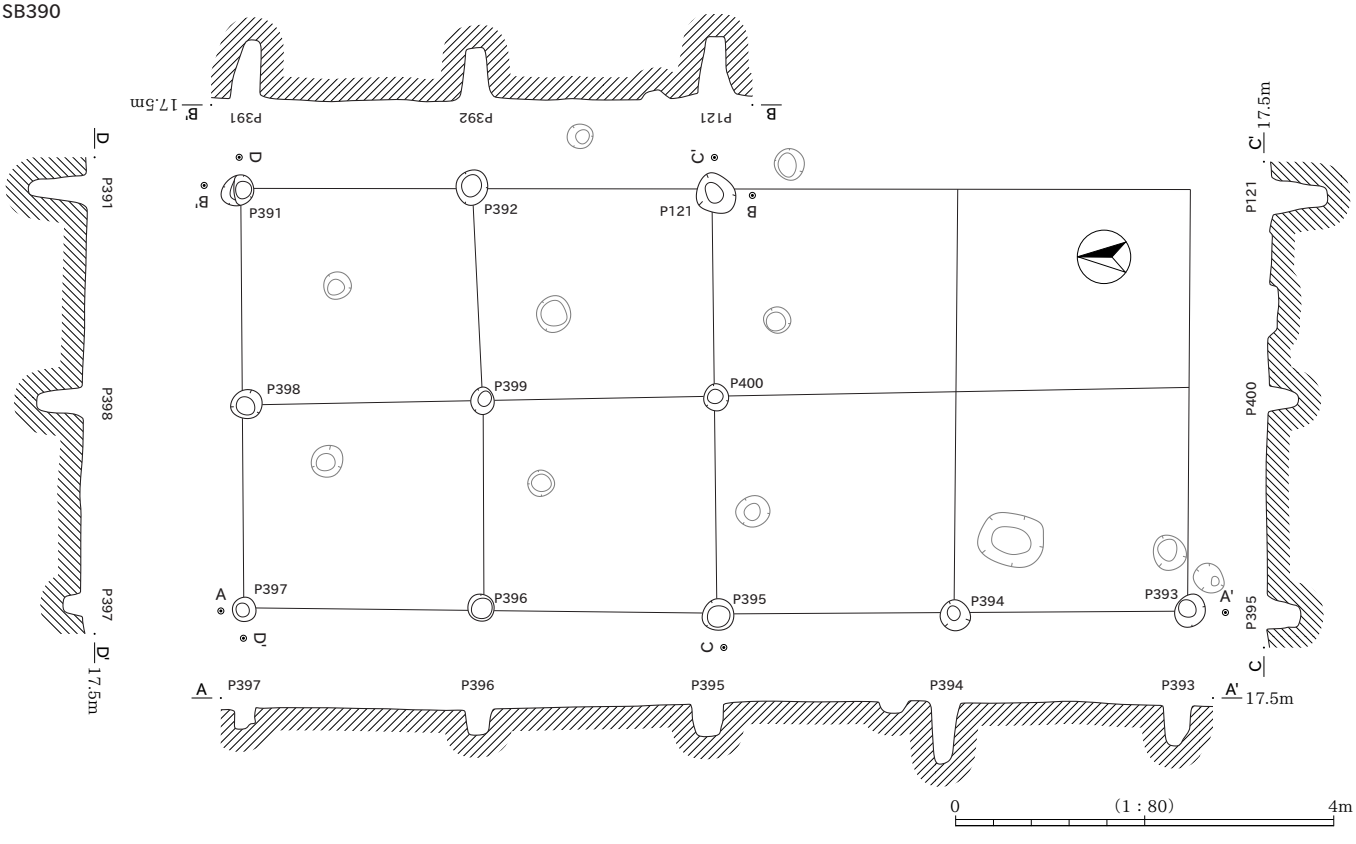
0　(1：40)　2m


SE1101a
SE1101b
45E
46E
17.2
SB110
SE120
SK122
P114
P102
P104
P106
P107
P108
SK105
P1919
P1920
P1921
SB1918
P298
P195
P131
P295
P296
P297
P196
SB130
P132
P133
P135
P134
P198
P197
P136
45F
46F
P248
P145
P138
P191
P146
P139
P140
SB137
P144
P247
P292
P141
P143
P142
P291
17.3
P126
SB125
P127
P128
SK147
SB701
45G
46G
カクラン
SB390
0
(1:100)
5m

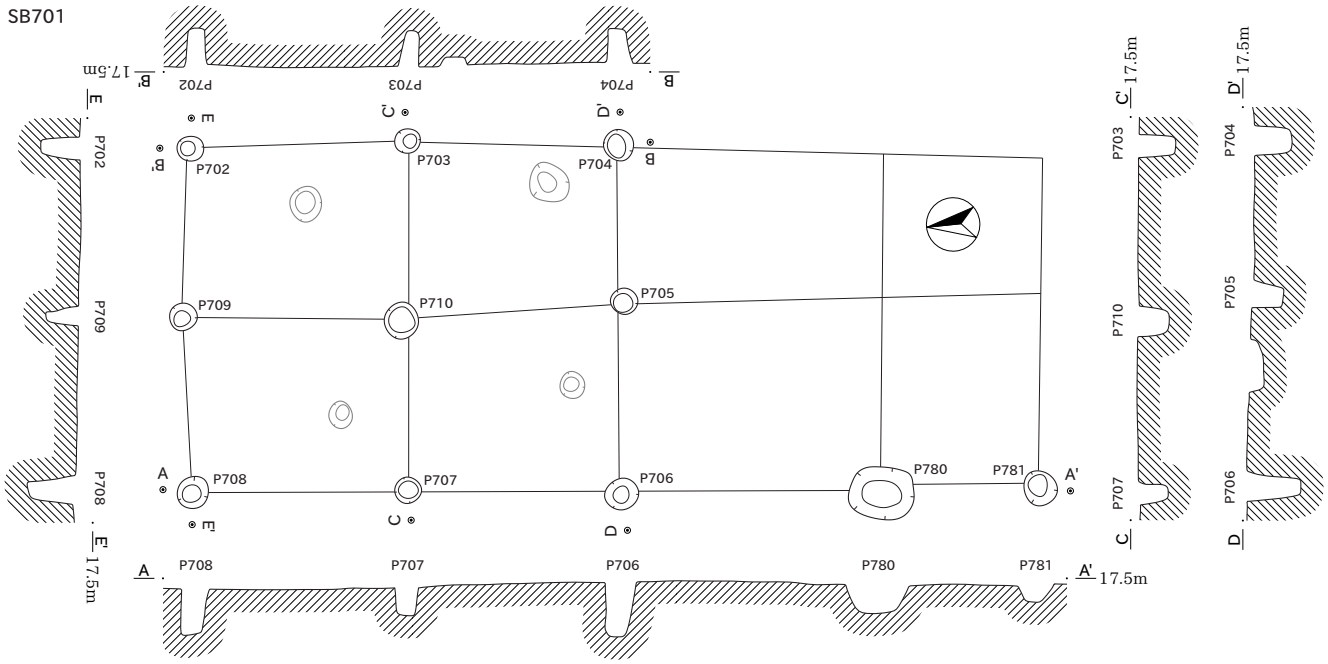
SB110


E 17.5m
P1578
P1579
P1580
P1577
P1576
D' 17.5m
P116
P117
P118
P194
P1581
P115
P119
P150
P193
B'
A
P114
P113
P112
P111
P299
A'
C
P109
P103
P101
P1574
C'
P1575
(SE120)
17.5m

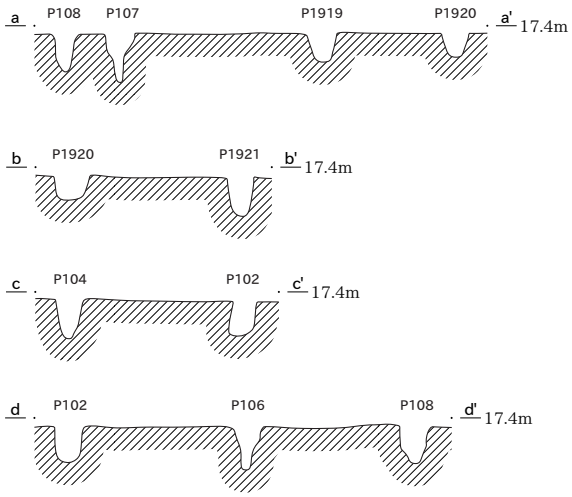
SB390


B' 17.5m
P391
P392
P121
P398
P399
P400
P397
P396
P395
P394
P393
C' 17.5m
D' 17.5m
0
(1 : 80)
4m

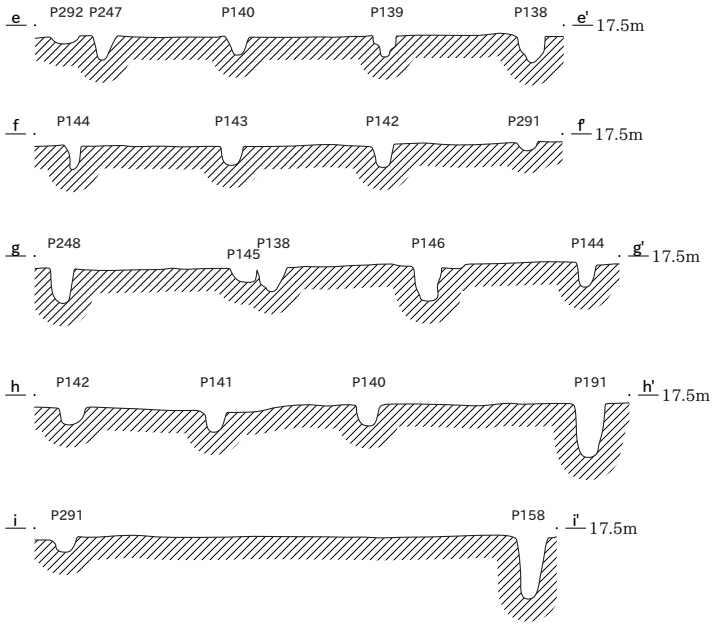
SB701



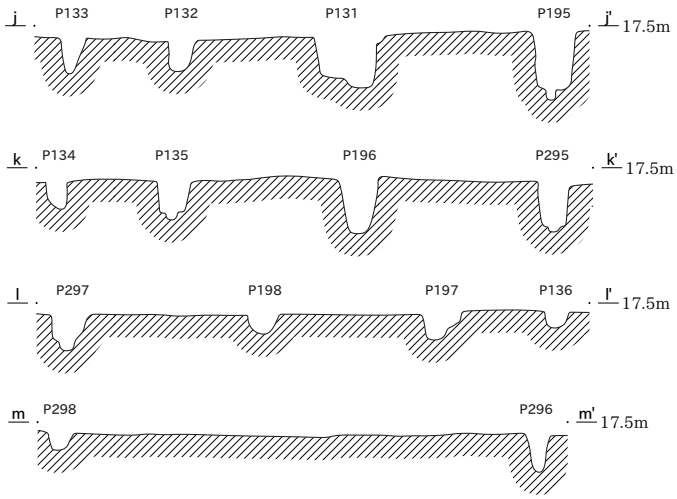
SB1918



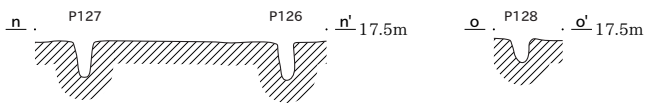
SB137

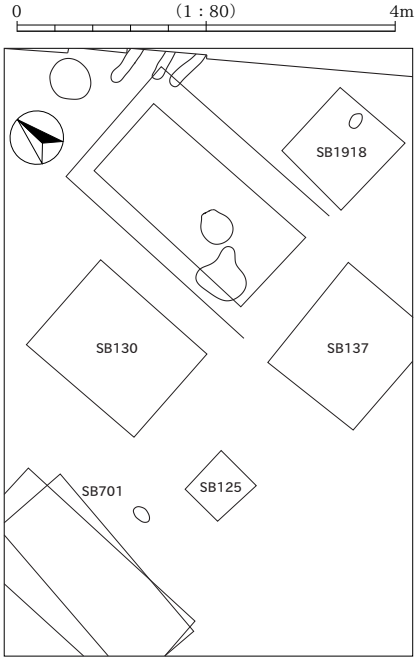


SB130

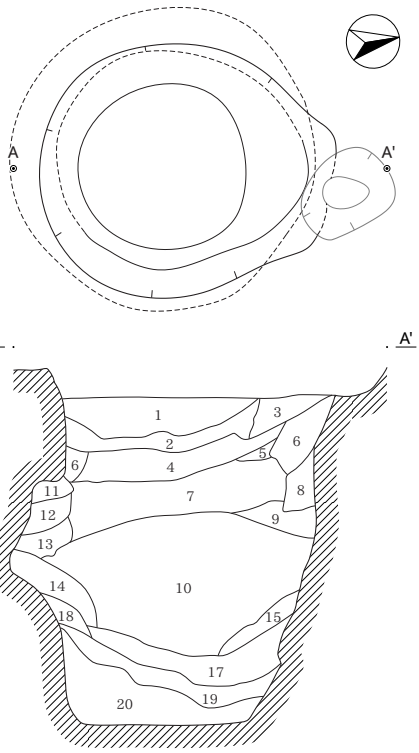


SB125



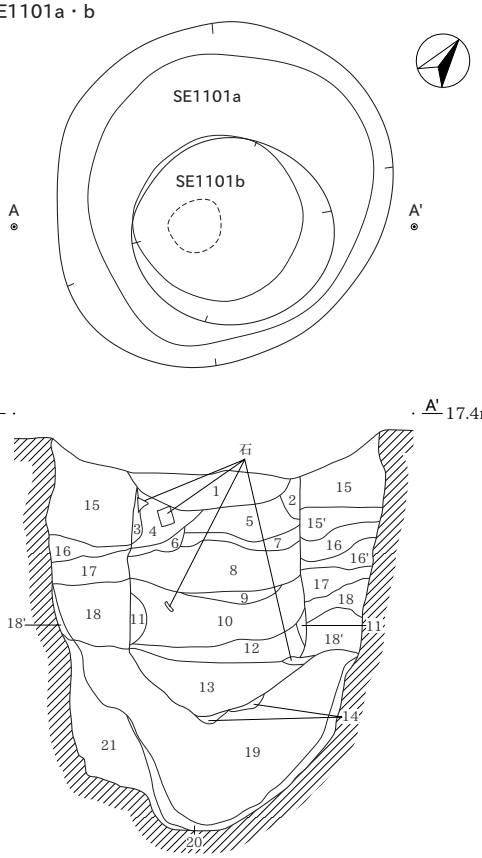


SE120



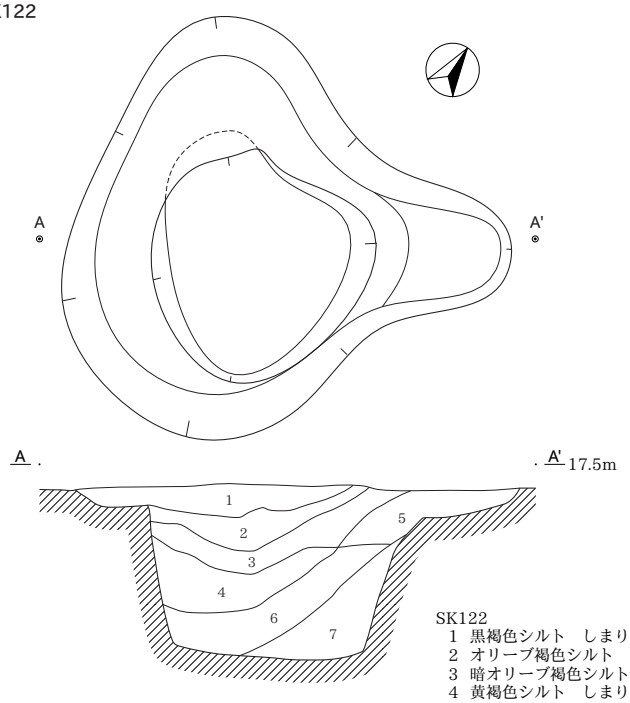
SE120
1 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色粒子少量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色粒子少量含む。
3 暗灰黄色粘質シルト　しまり中、粘性強。黄褐色粒子少量含む。
4 黒褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。黄褐色粒子少量含む。
5 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色粒子少量含む。
6 黄褐色シルト　しまり強、粘性中。
7 黄褐色粘土　しまり強、粘性強。オリーブ褐色シルトブロック含む。
8 黄褐色粘土　しまり強、粘性強。明黄褐色粒子多量含む。
9 橙色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
10 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。炭化物含む。
11 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
12 明黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
13 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。炭化物少量含む。
14 明黄褐色砂質土　しまり中、粘性弱。
15 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。
16 明褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。
17 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。炭化物、黄褐色粒子多量含む。
18 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
19 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄含む。
20 明褐色シルト　しまり中、粘性中。

SE1101a・b



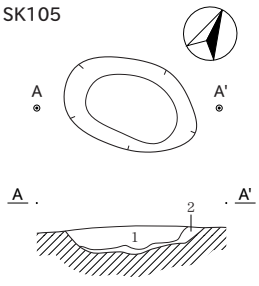
SE1101a・b共通
1 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黄色粘質シルト　しまり中、粘性中。
4 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物含む。
5 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
6 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
7 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
8 にぶい黄橙色シルト　しまり弱、粘性中。
9 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
10 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
11 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
12 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
13 にぶい黄橙色粘質シルト　しまり中、粘性中。
14 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
15 黄色シルト　しまり強、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
15' 黄色シルト　しまり強、粘性中。炭化物少量含む。
16 灰褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。
16' 灰褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。黄褐色シルト含む。
17 灰褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。灰黄褐色シルトブロック含む。
18 灰褐色シルト　しまり強、粘性中。
18' 灰褐色シルト　しまり強、粘性中。灰黄褐色シルトブロック多量含む。
19 灰白色粘質シルト　しまり中、粘性中。
20 褐色砂質シルト　しまり強、粘性中。
21 にぶい黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。

SK122



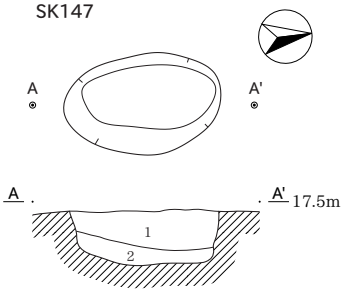
SK122
1 黒褐色シルト　しまり強、粘性中。
2 オリーブ褐色シルト　しまり強、粘性中。黄褐色粒子含む。
3 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色粒子含む。
4 黄褐色シルト　しまり強、粘性中。
5 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
6 黄灰色粘土　しまり強、粘性強。炭化物少量含む。
7 黄灰色シルト　しまり中、粘性中。

SK105



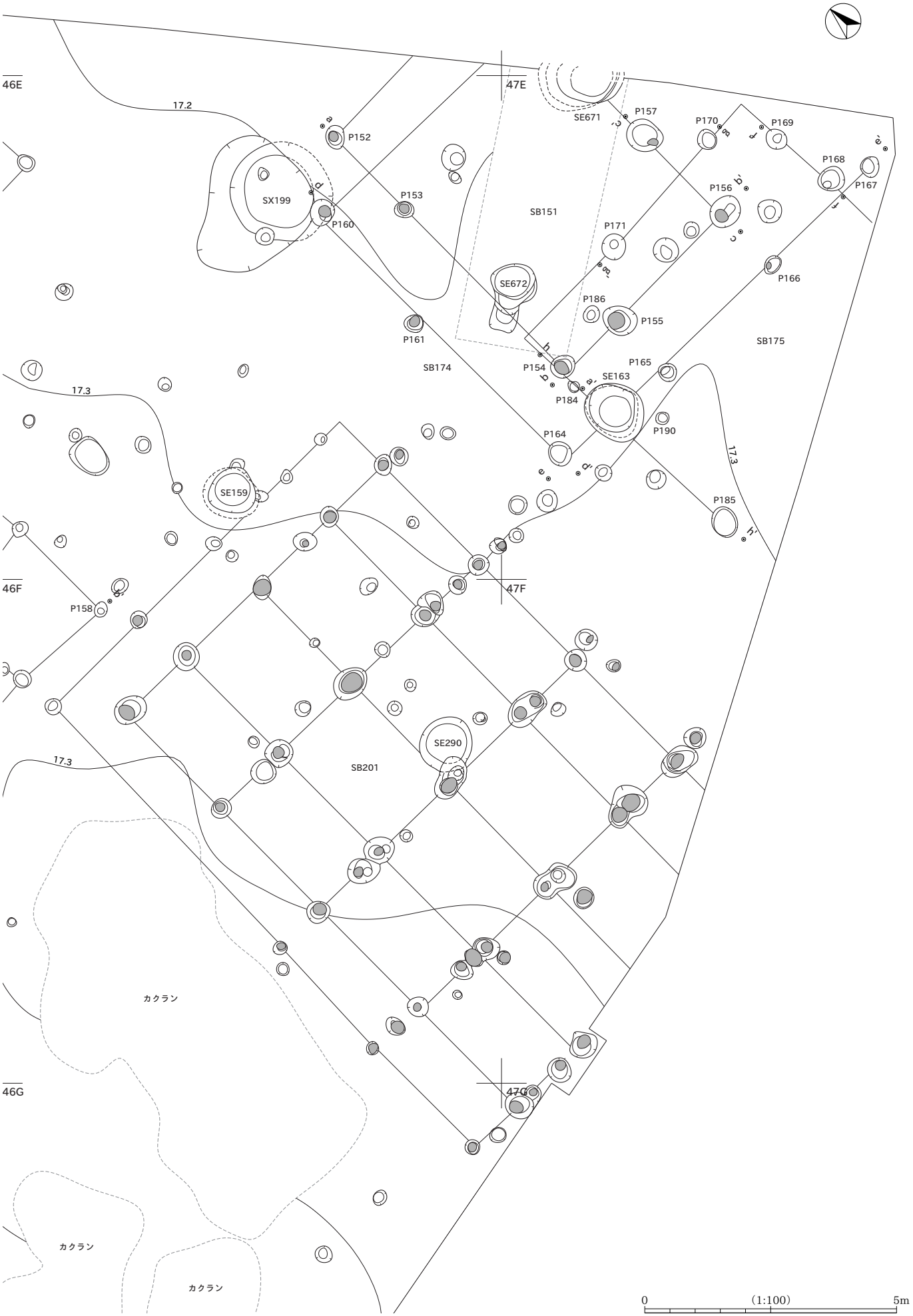
SK105
1 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 黄褐色粘土　しまり強、粘性強。黒色シルトブロック含む。

SK147

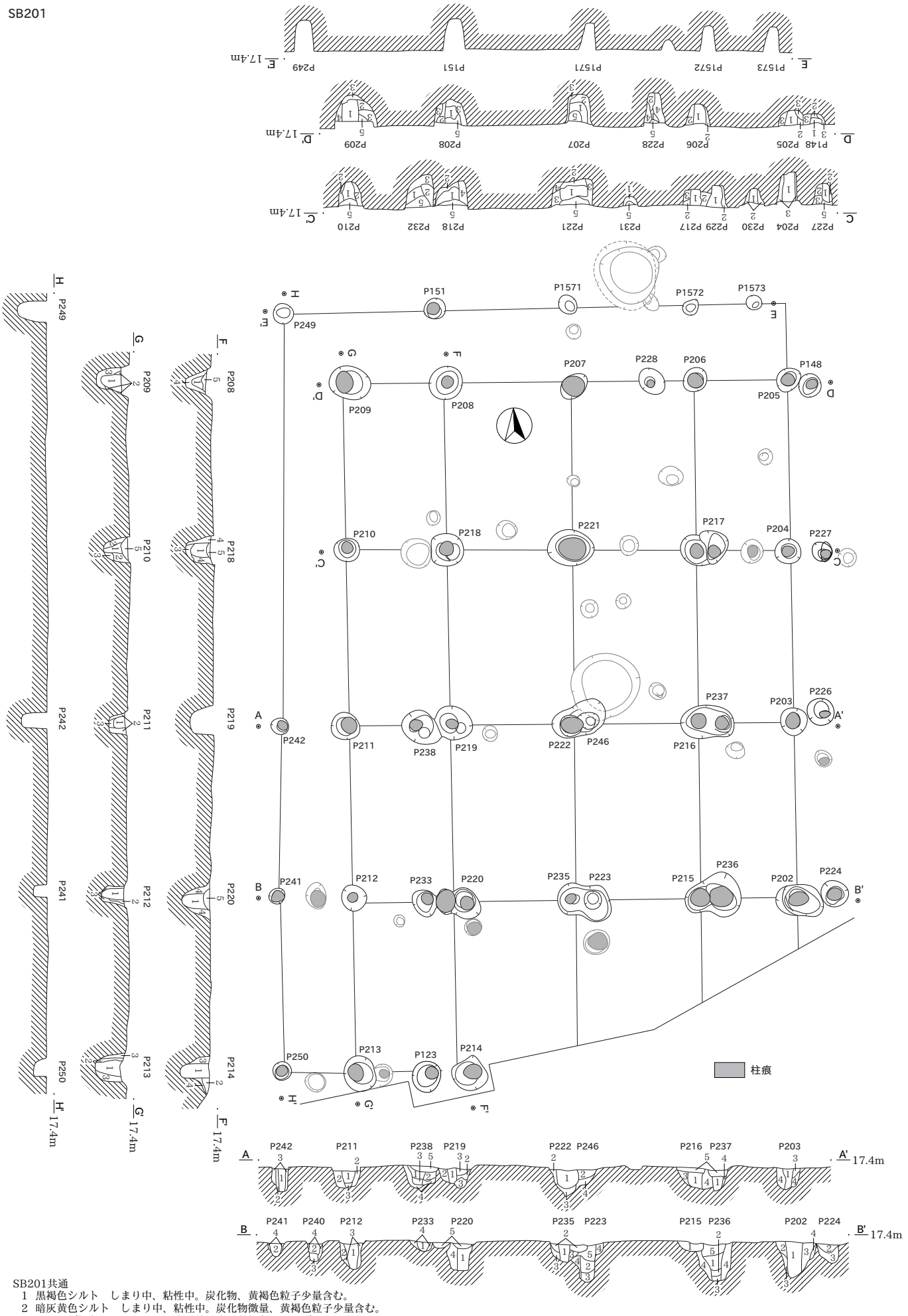


SK147
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 暗オリーブ褐色　しまり中、粘性中。黄褐色粒子含む。

0　(1：40)SE・SK　2m

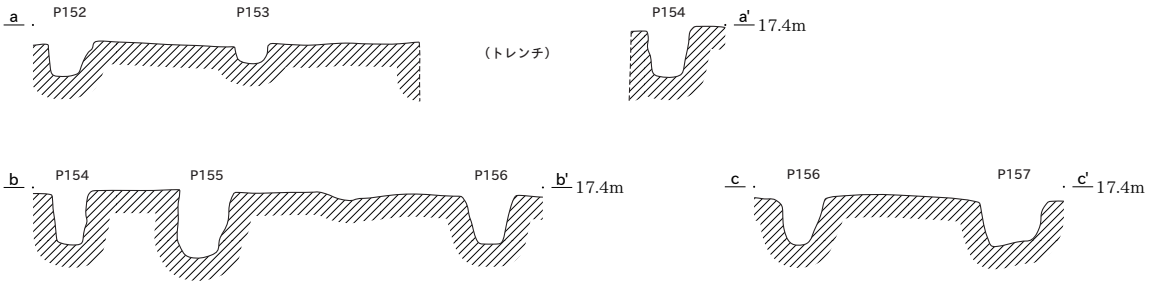

46E
47E
46F
47F
46G
47G
17.2
17.3
17.3
17.3
SX199
SB151
SB174
SB175
SB201
SE159
SE290
SE671
SE672
SE163
P152
P153
P154
P155
P156
P157
P158
P160
P161
P164
P165
P166
P167
P168
P169
P170
P171
P184
P185
P186
P190
カクラン
カクラン
カクラン
0
(1:100)
5m

SB201

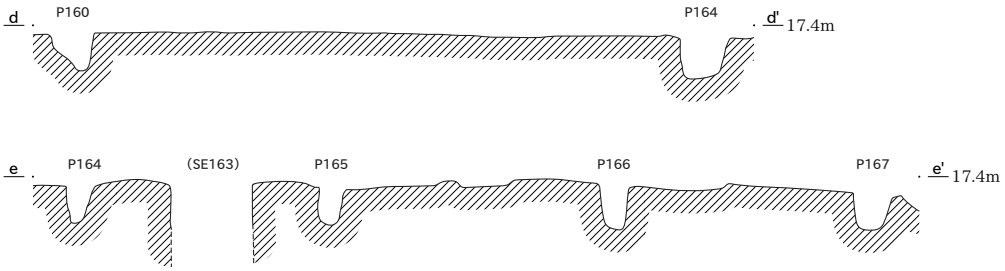


SB201共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、黄褐色粒子少量含む。
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量、黄褐色粒子少量含む。
3 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
4 黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。オリーブ褐色シルトブロック含む。
5 オリーブ褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。炭化物多量含む。

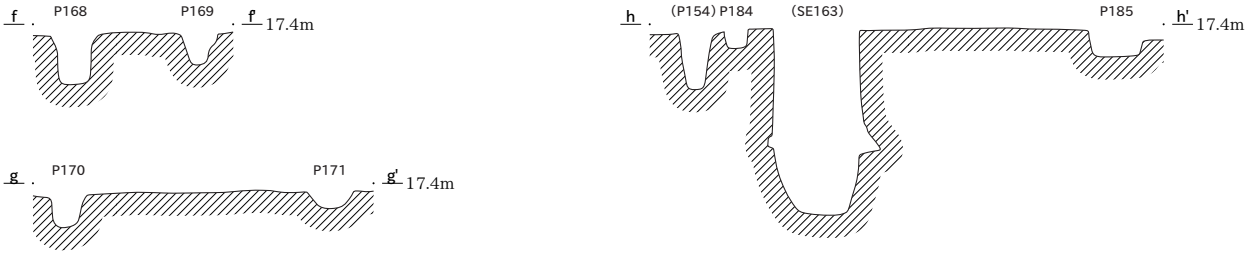
SB151



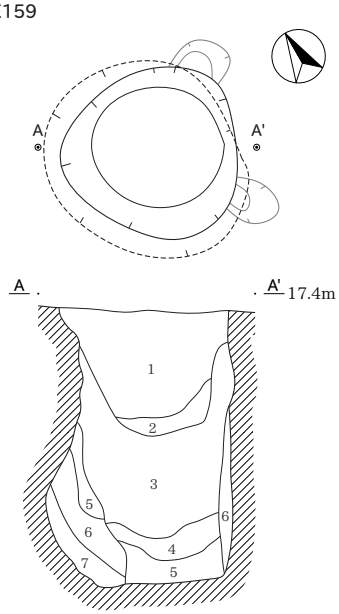
SB174



SB175

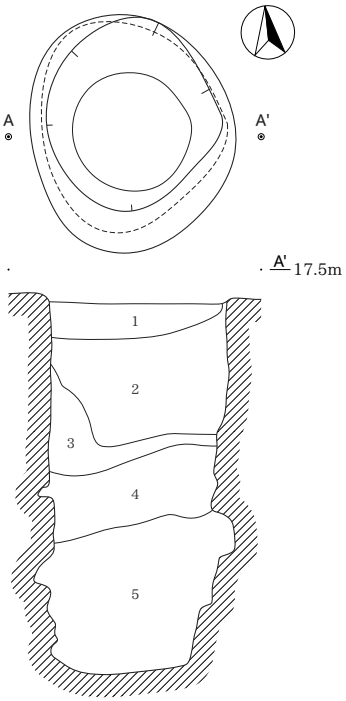


SE159

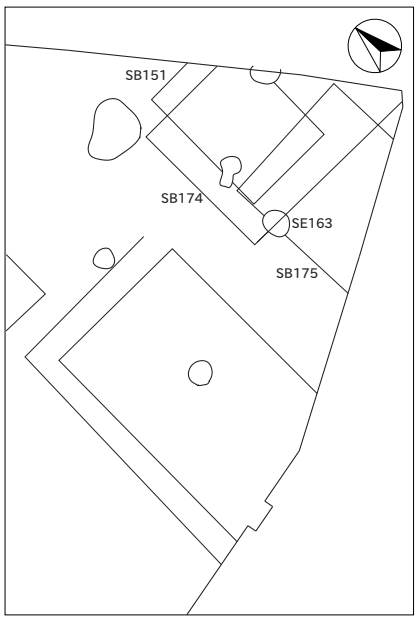


SE159
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。
4 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。灰白色シルトブロック少量含む。
5 褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性中。灰白色粘土ブロック多量含む。
6 明褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性中。
7 灰白色粘土　しまり強、粘性強。褐色シルトブロック少量含む。

SE163



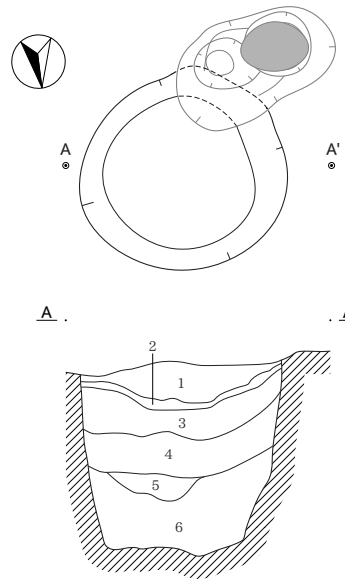
SE163
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色シルトブロック含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
4 にぶい橙色シルト　しまり中、粘性中。
灰白色粘土ブロック含む。
5 明褐色シルト　しまり強、粘性中。
灰白色粘土ブロック多量含む。



0　(1：40)SE　2m

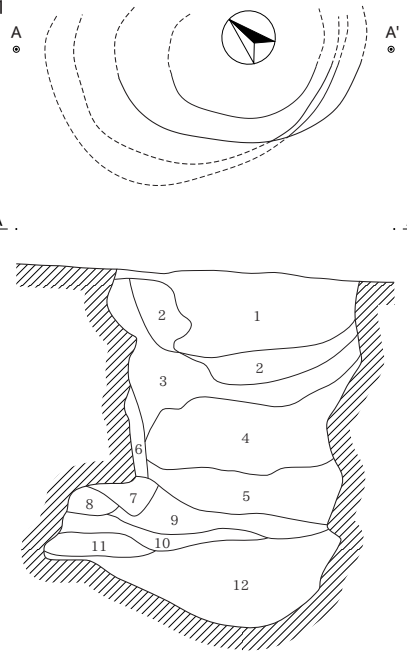
0　(1：80)SB　4m

SE290



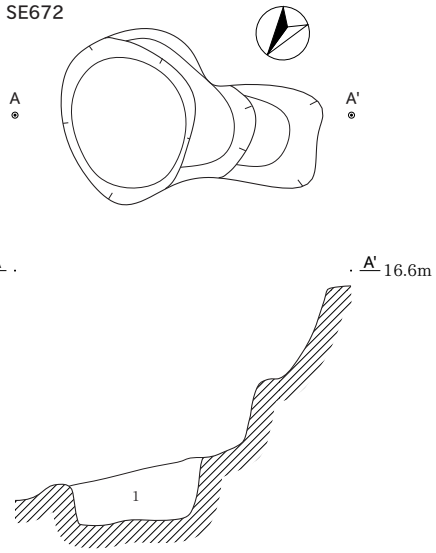
SE290
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量、黄褐色シルトブロック多量含む。
6 褐色シルト　しまり弱、粘性中。

SE671



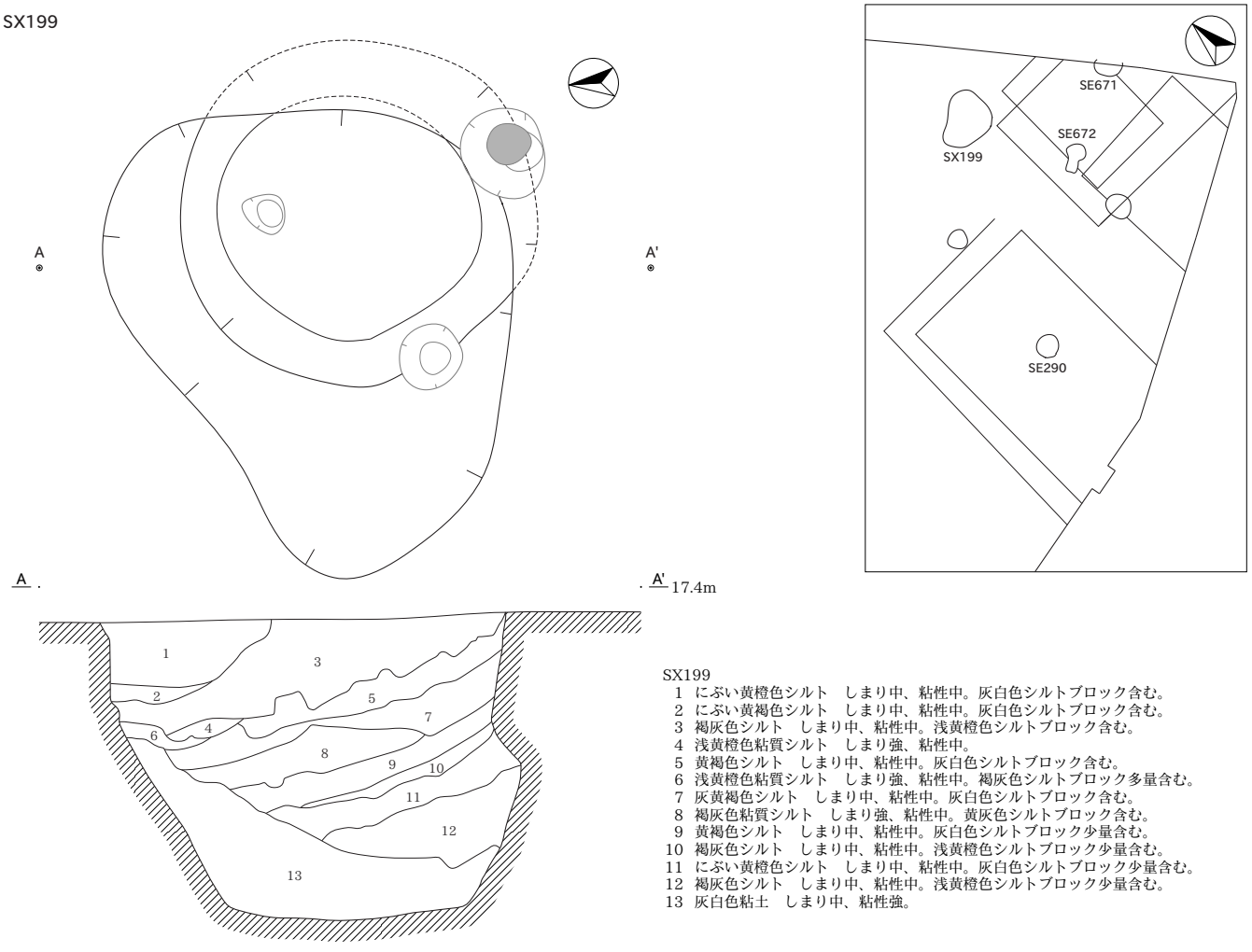
SE671
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック多量含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
6 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
7 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック多量含む。
8 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。にぶい黄橙色シルトブロック含む。
9 黒色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物、腐植物含む。
10 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
11 明黄褐色粘質シルト　しまり強、粘性中。
12 黒色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物含む。

SE672



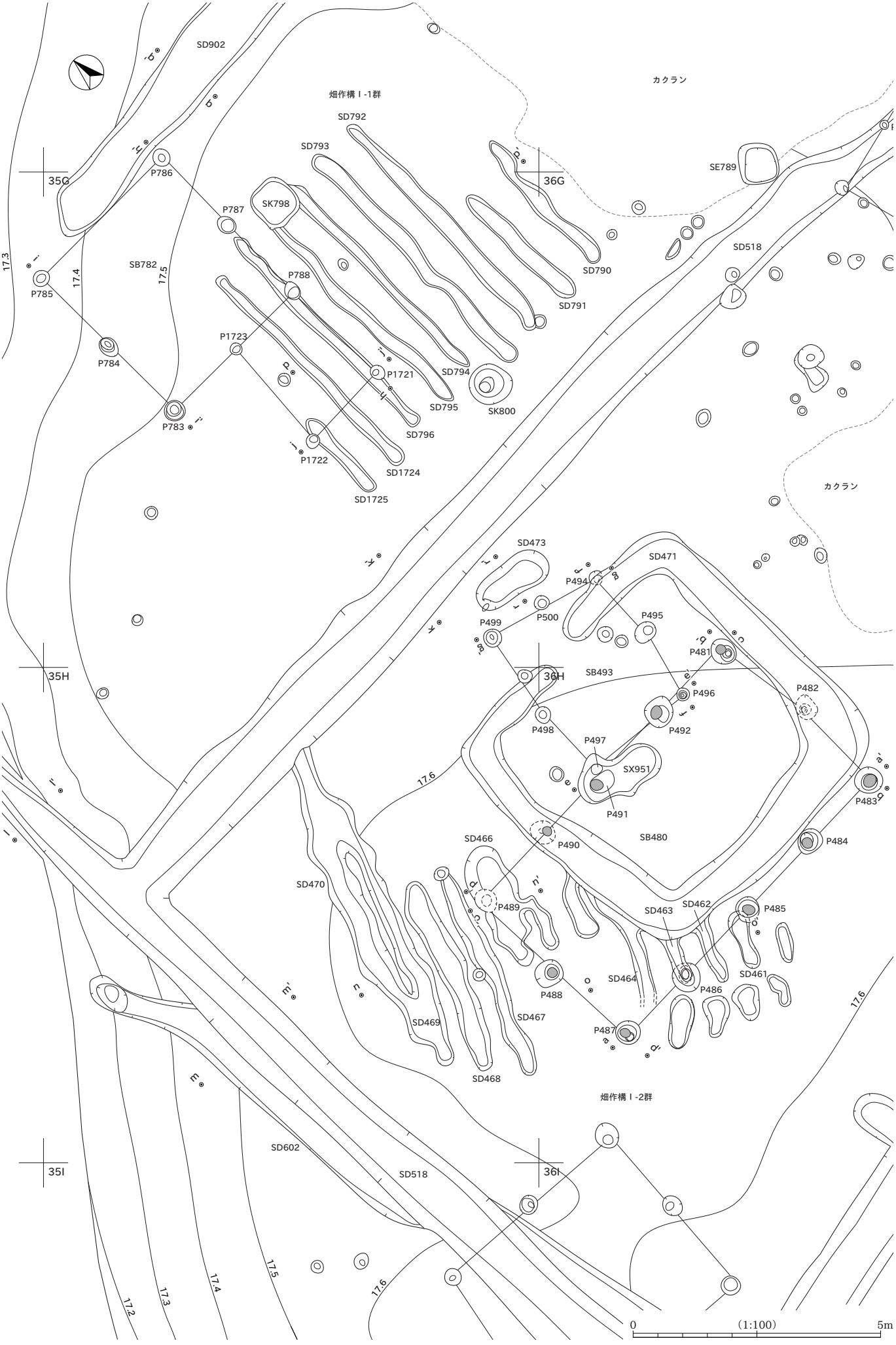
SE672
1 褐灰色粘質シルト　しまり強、粘性中。
灰白色粘土ブロック含む。

SX199

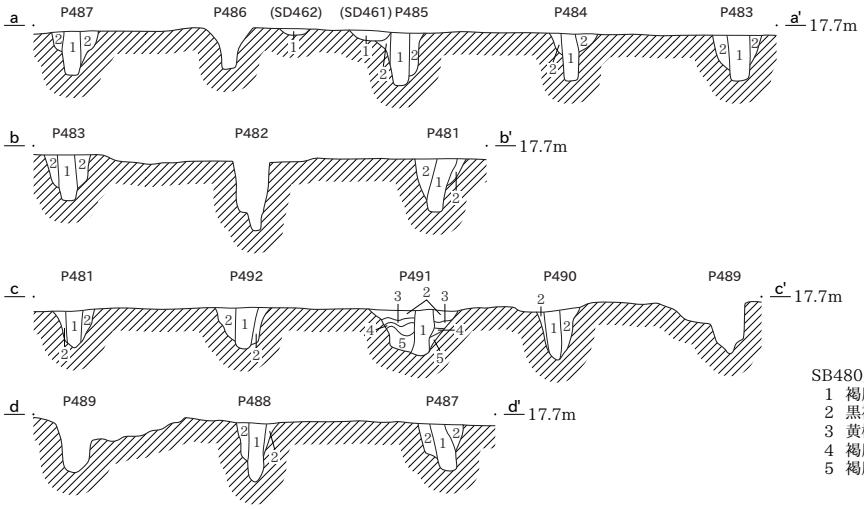


SX199
1 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
3 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック含む。
4 浅黄橙色粘質シルト　しまり強、粘性中。
5 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
6 浅黄橙色粘質シルト　しまり強、粘性中。褐灰色シルトブロック多量含む。
7 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
8 褐灰色粘質シルト　しまり強、粘性中。黄灰色シルトブロック含む。
9 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック少量含む。
10 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック少量含む。
11 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック少量含む。
12 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック少量含む。
13 灰白色粘土　しまり中、粘性強。

0　（1：40）　2m

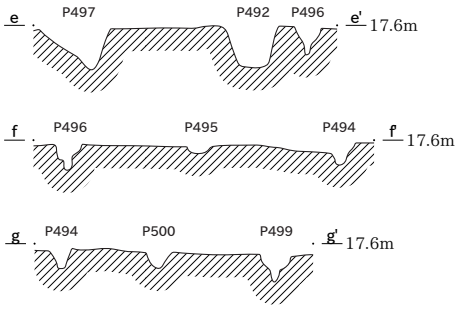

SD902
畑作構Ⅰ-1群
カクラン
SD792
SD793
SE789
35G
36G
P786
P787
SK798
SD790
SD791
SD518
SB782
P788
P785
P784
P1723
P1721
SD794
SD795
SK800
P783
SD796
P1722
SD1724
SD1725
カクラン
SD473
SD471
P494
P499
P500
P495
P481
35H
36H
SB493
P496
P482
P498
P492
P497
SX951
P491
P483
SB480
P490
P484
SD466
SD470
P489
SD463
SD462
P485
SD464
SD461
P488
P486
SD469
SD467
P487
SD468
畑作構Ⅰ-2群
SD602
SD518
35I
36I
0
(1:100)
5m

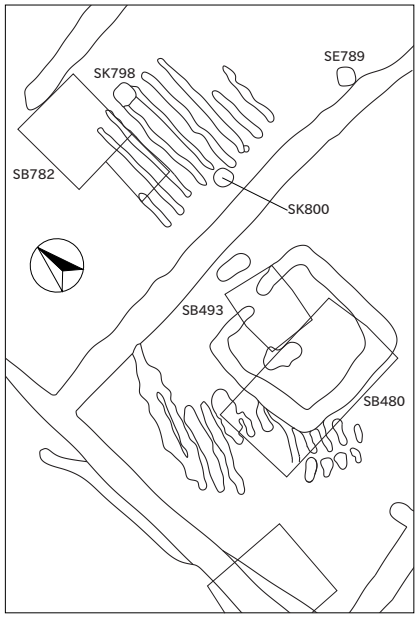
SB480



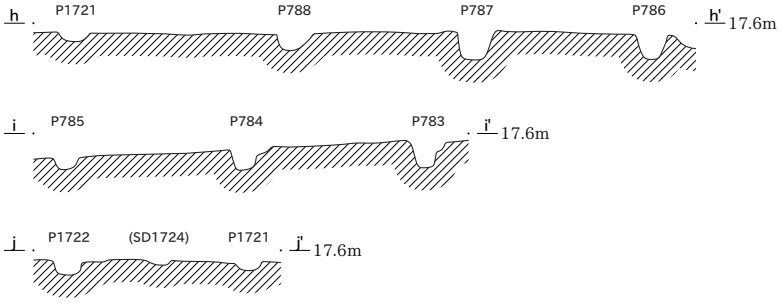
SB480共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。灰白色シルトブロック含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
3 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
5 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック多量含む。

SB493

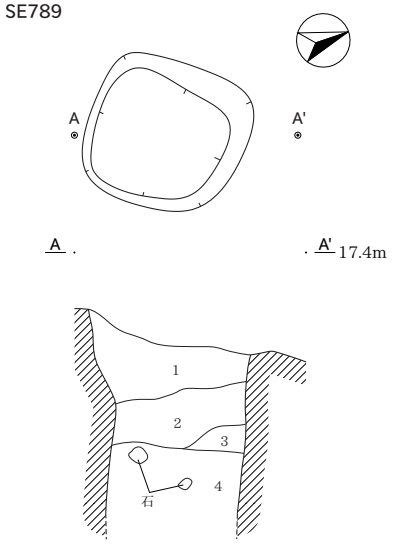




SB782

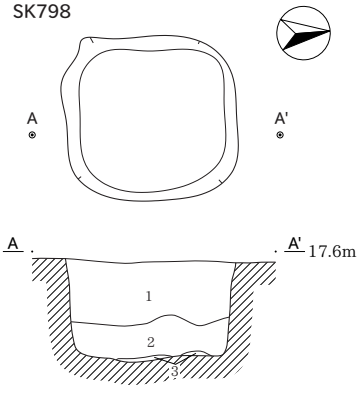


SE789



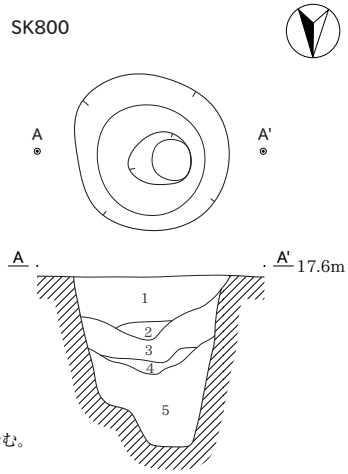
SE789
1 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物少量含む。
2 暗青灰色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。青灰色シルトブロック多量含む。
3 暗黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
4 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
　青灰色シルトブロック少量含む。

SK798



SK798
1 暗褐色砂質シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
2 暗褐色砂質シルト　しまり中、粘性弱。青灰色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物多量含む。

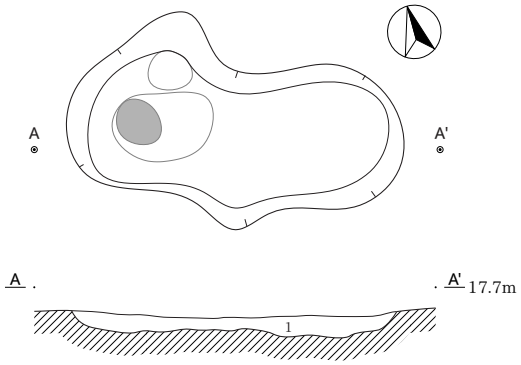
SK800



SK800
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物微量含む。
2 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。淡黄褐色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性中。
4 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。淡黄褐色シルトブロック含む。
5 暗褐色シルト　しまり弱、粘性中。淡黄褐色シルトブロック多量含む。

0　(1：40)SE・SK　2m　　0　(1：80)SB　4m

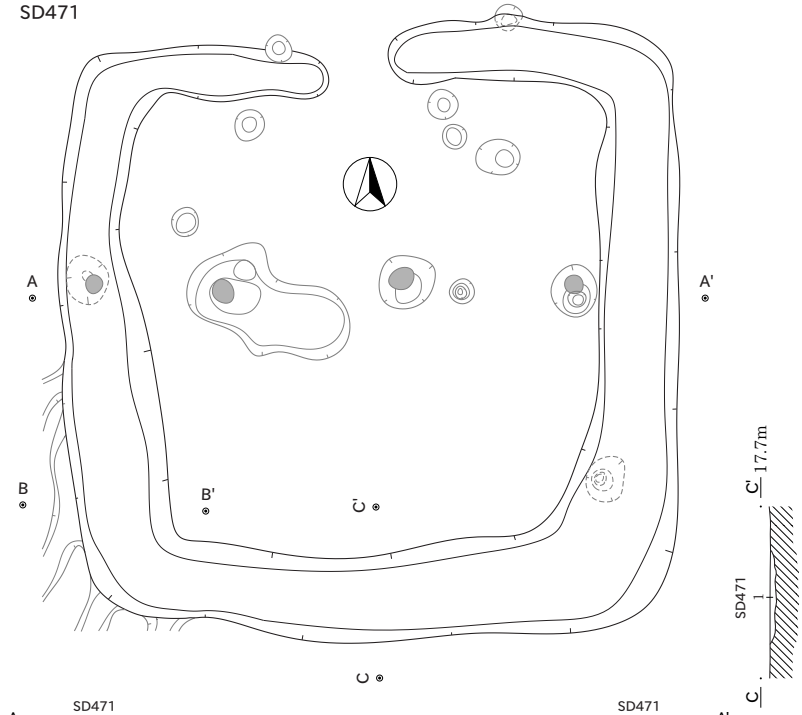
SX951



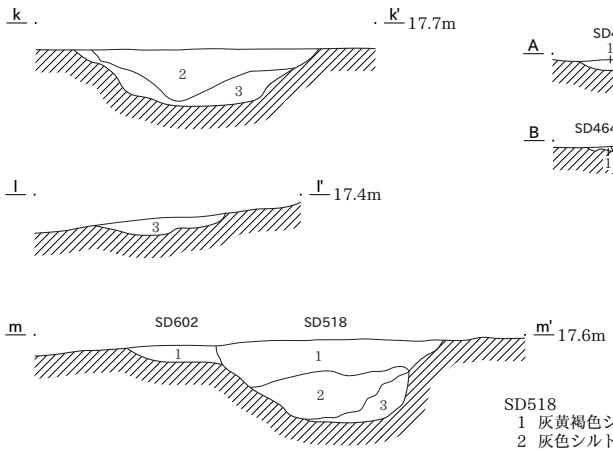
SX951
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

SD471
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

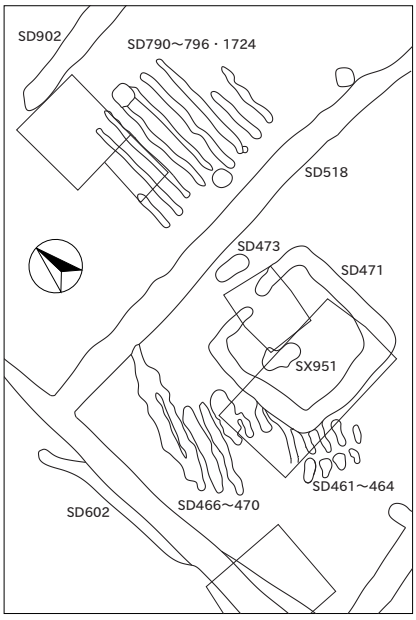
SD471



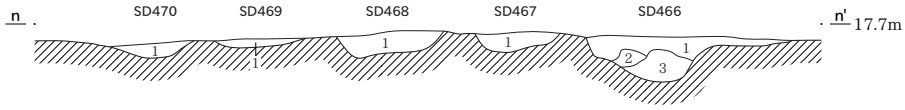
SD518



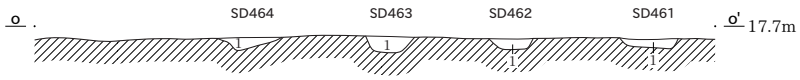
SD518
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰色シルト　しまり中、粘性中。
φ5mm以下の炭化物少量含む。
3 灰色シルト　しまり中、粘性中。
黄橙色シルトブロック含む。



SD466～470

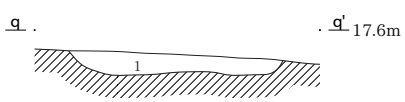


SD461～464

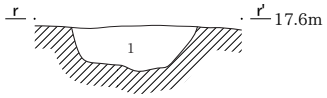


SD790～796・1724

SD902



SD473



SD790～796・1724共通
1 暗青灰色粘土　しまり強、粘性強。リモナイト多量含む。

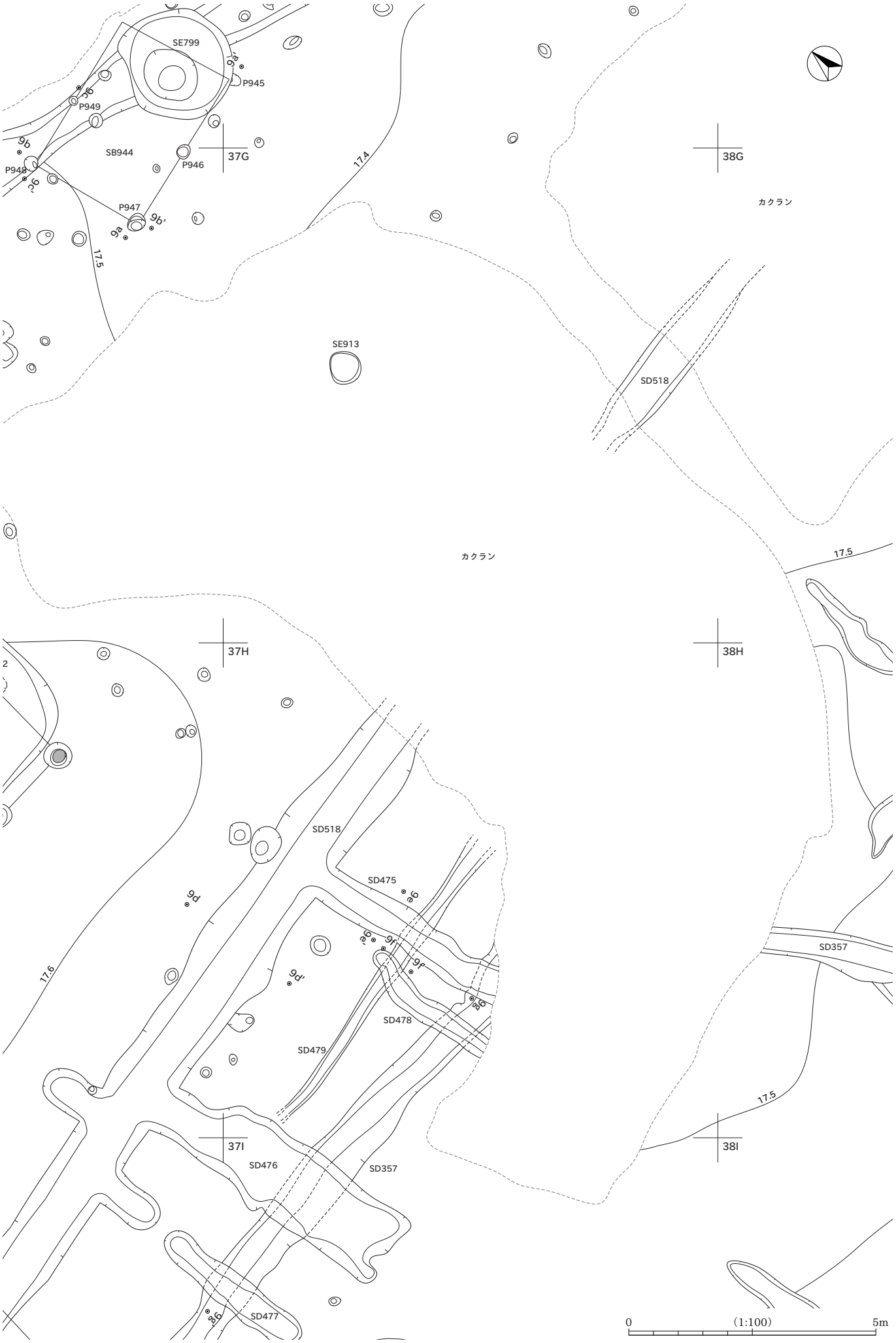
SD902
1 灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色ブロック含む。

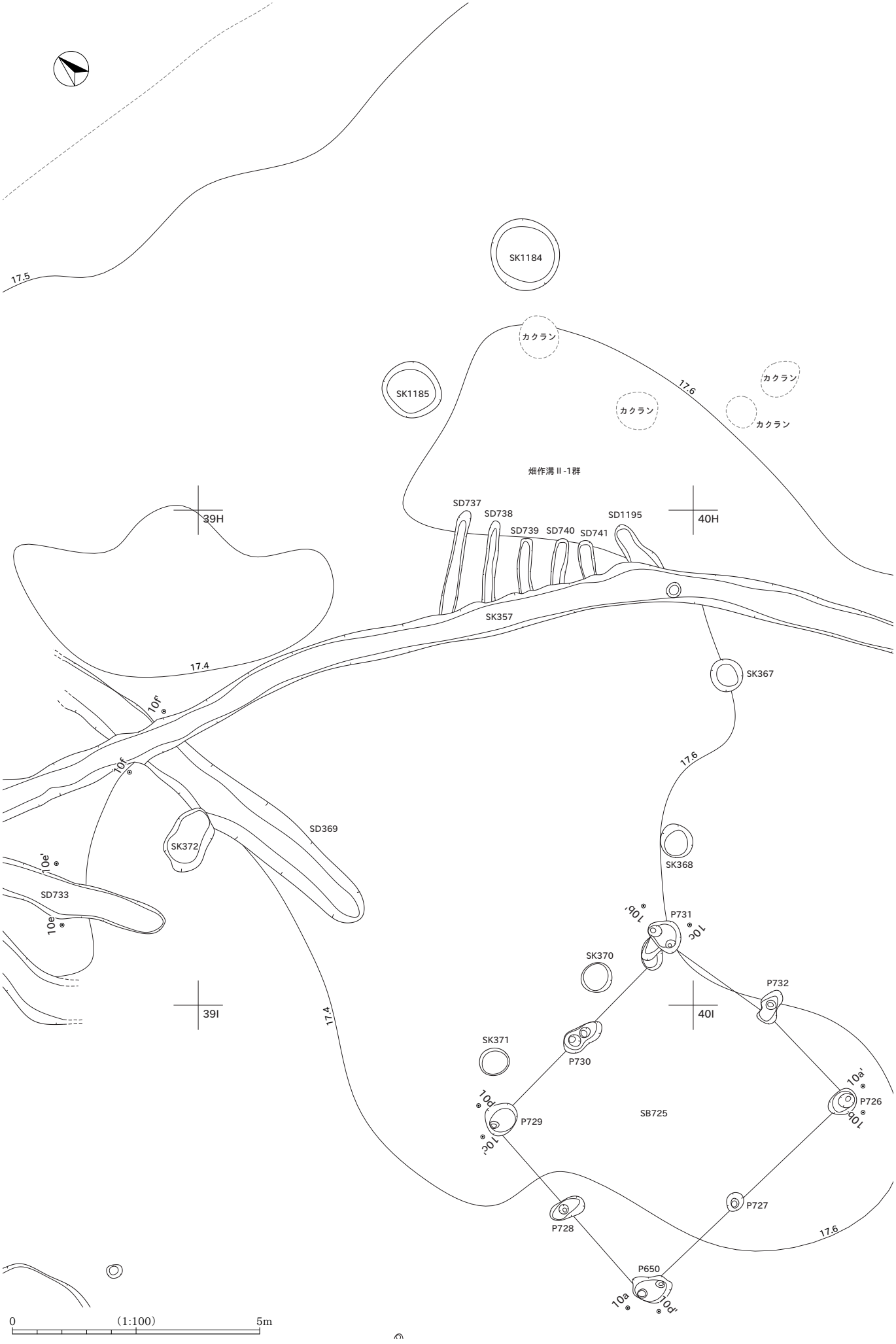
SD473
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

SD461～464・466～470共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 青灰色シルト　しまり中、粘性中。
明黄褐色シルトブロック含む。

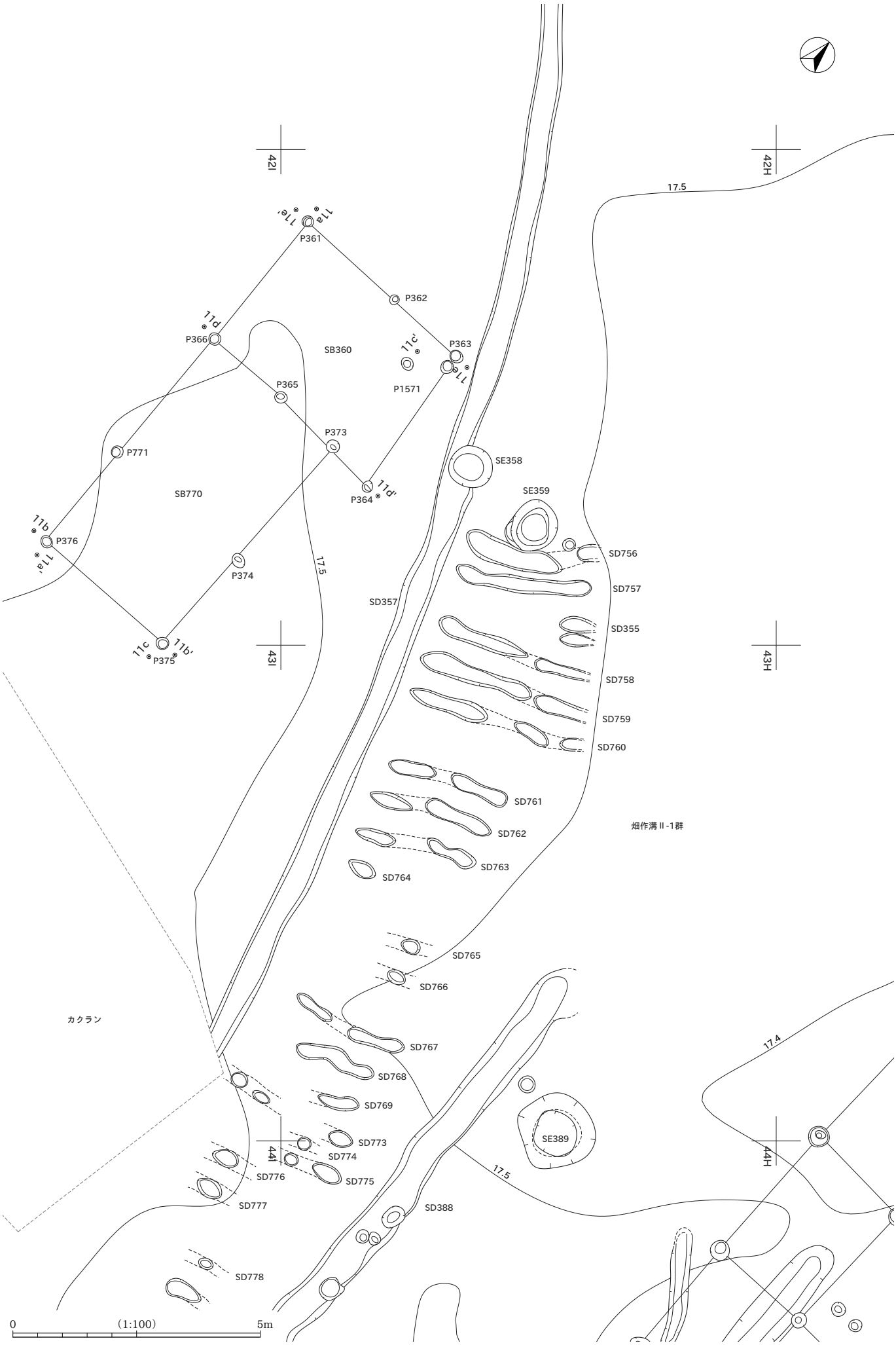
0　(1：40)SX951・SD　2m

0　(1：80)SD471　4m

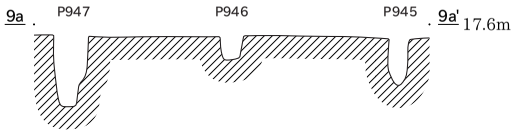

SE799
P945
P949
P948
SB944
P946
37G
P947
17.4
17.5
38G
カクラン
SE913
SD518
カクラン
17.5
37H
38H
SD518
SD475
SD357
17.6
SD478
SD479
37I
SD476
SD357
17.5
38I
SD477
0
(1:100)
5m

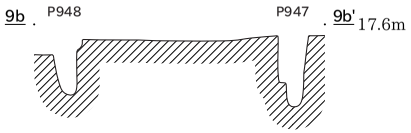

SK1184
カクラン
SK1185
カクラン
カクラン
カクラン
17.5
17.6
畑作溝Ⅱ-1群
SD737
SD738
SD739
SD740
SD741
SD1195
39H
40H
SK357
SK367
17.4
10f
10f
17.6
SD369
SK372
SK368
10e'
SD733
10e
10b'
P731
10c
SK370
P732
39I
40I
17.4
SK371
P730
10d'
P729
10c'
SB725
10a'
P726
10b
P727
P728
17.6
P650
10a
10d'
0
(1:100)
5m

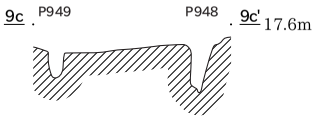
遺構分割図 11

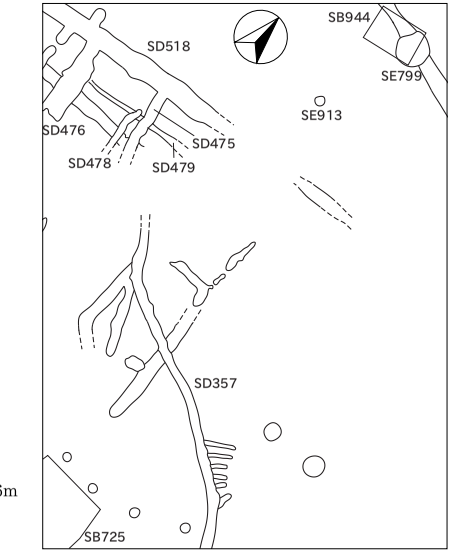

421
42H
17.5
11e'
11a'
P361
P362
11d'
P366
SB360
11c'
P363
11a'
P365
P1571
P373
P771
SE358
SB770
11d'
P364
SE359
11b'
P376
11a'
SD756
P374
17.5
SD757
SD357
SD355
431
43H
11c'
11b'
P375
SD758
SD759
SD760
SD761
畑作溝Ⅱ-1群
SD762
SD763
SD764
SD765
SD766
カクラン
SD767
SD768
SD769
17.4
SE389
SD773
441
SD774
44H
SD776
SD775
17.5
SD777
SD388
SD778
0
(1:100)
5m

SB944

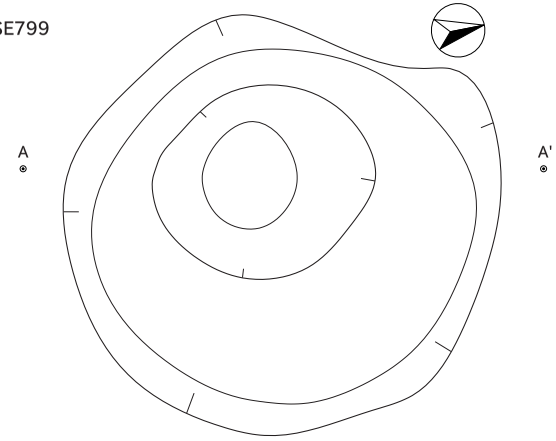




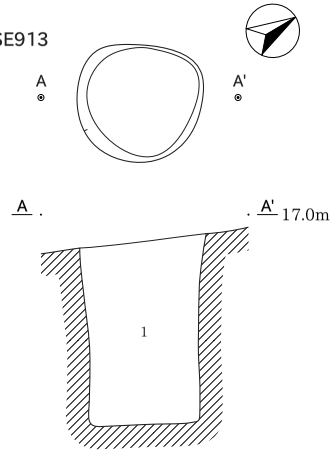




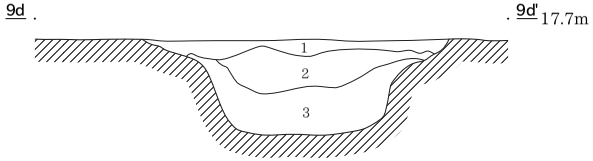
SE799



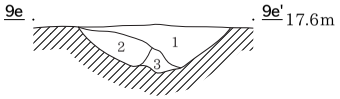
SE913



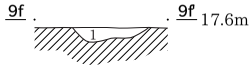
SD518

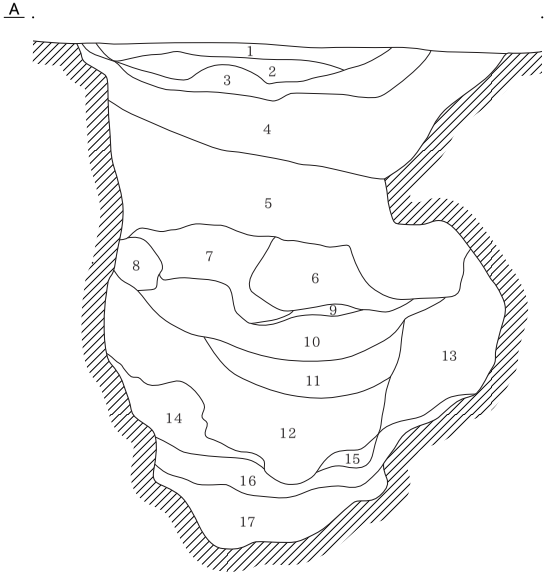


SD475



SD479





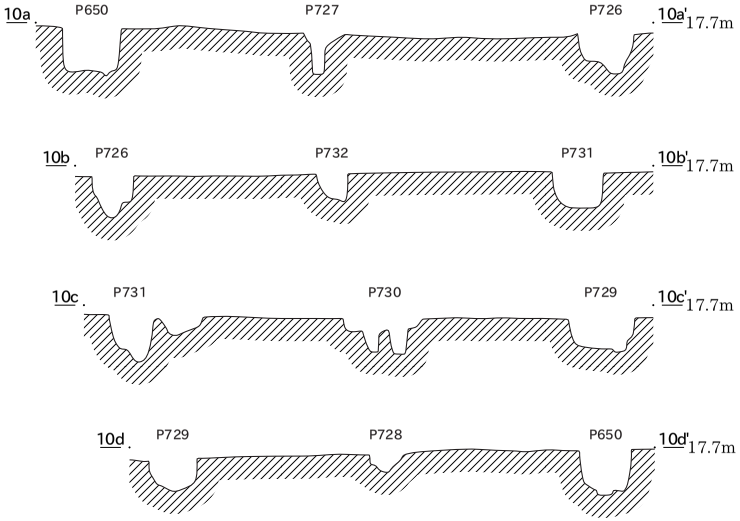
SE799
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。青灰色シルトブロック少量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。にぶい黄色シルトブロック多量含む。
6 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。
7 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
8 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。暗褐色シルトブロック含む。
9 青灰色シルト　しまり中、粘性中。
10 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。暗褐色シルトブロック少量含む。
11 青灰色シルト　しまり中、粘性中。暗褐色シルトブロック少量含む。
12 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。橙色粒子少量含む。
13 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。黄橙色粒子少量含む。
14 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
15 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡灰色粒子多量含む。
16 淡灰色シルト　しまり中、粘性弱。
17 黄橙色シルト　しまり中、粘性弱。

SE913
1 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物少量含む。

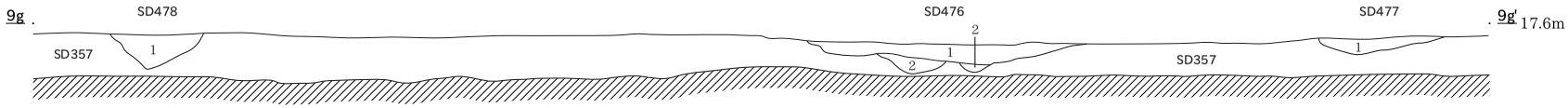
SD475～479共通
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
3 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック含む。

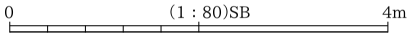
SD518
図版28土層説明参照。

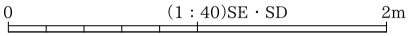
SB725



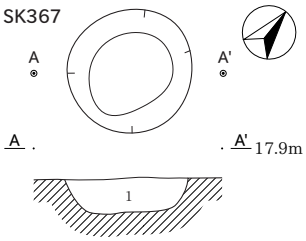
SD357・476～478



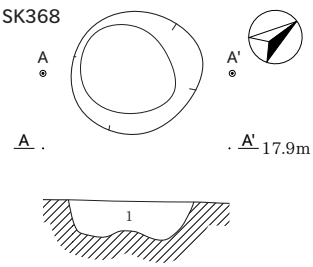




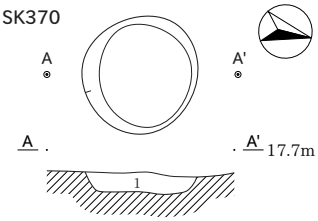
SK367



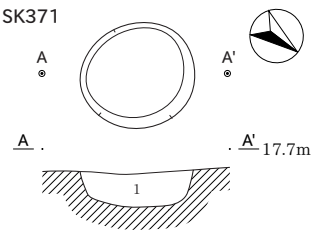
SK368



SK370

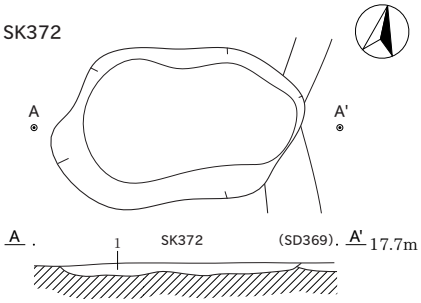


SK371



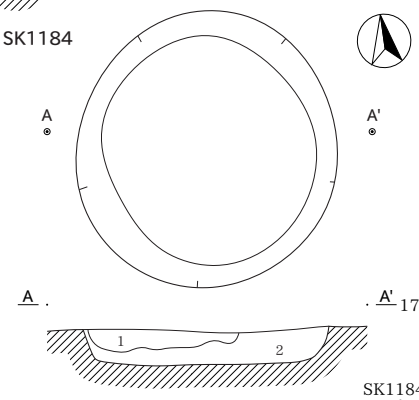
SK367・368・370・371共通
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　焼土粒、炭化物微量含む。

SK372

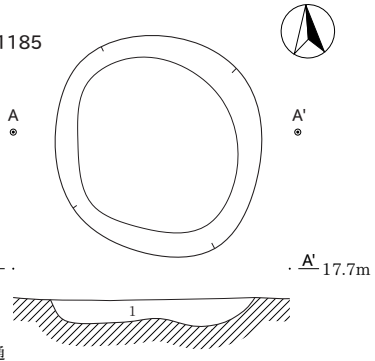


SK372
1 暗褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。黄褐色粒子少量含む。

SK1184

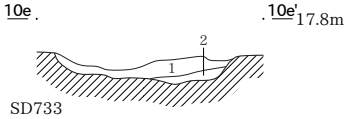


SK1185



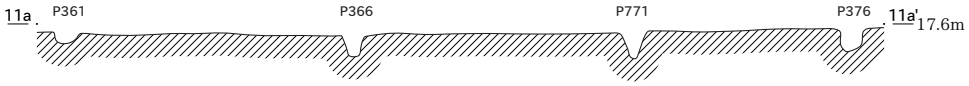
SK1184・1185共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。灰白色粒子少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

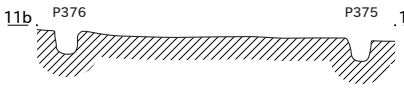
SD733

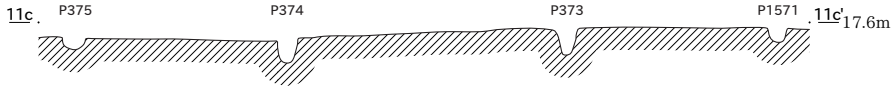


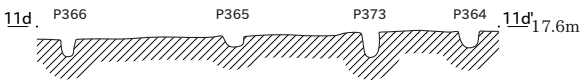
SD733
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

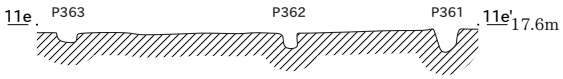
SB360・770



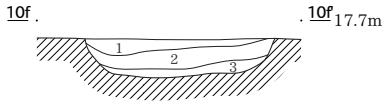






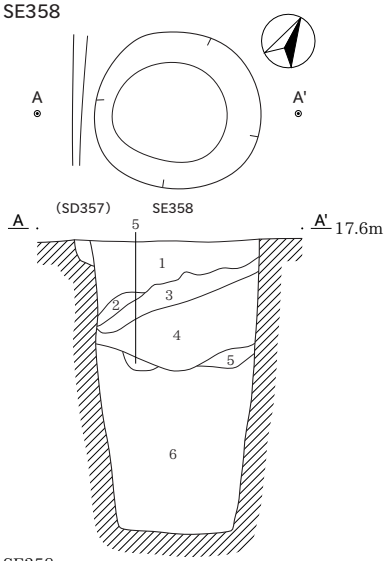


SD357・369



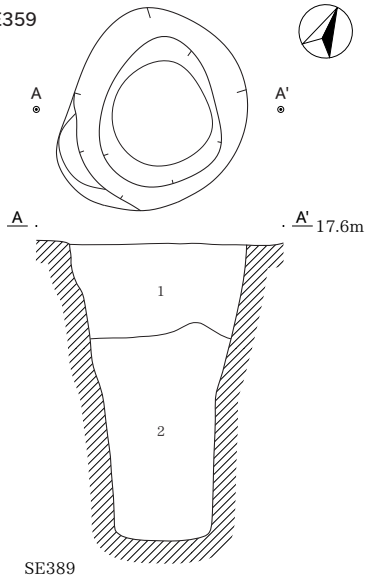
SD357・369共通
1 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　焼土粒、炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　黄褐色粒子少量含む。
3 灰褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　灰黄色粒子多量含む。

SE358



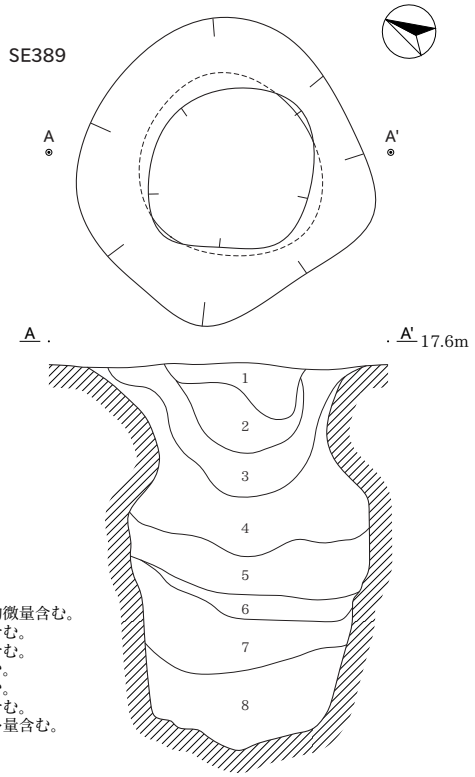
SE358
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
2 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
3 青灰色シルト　しまり中、粘性弱。橙色粒子少量含む。
4 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　暗褐色シルトブロック少量含む。
5 青灰色シルト　しまり中、粘性弱。
6 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。

SE359



SE359
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　青灰色シルトブロック少量含む。

SE389

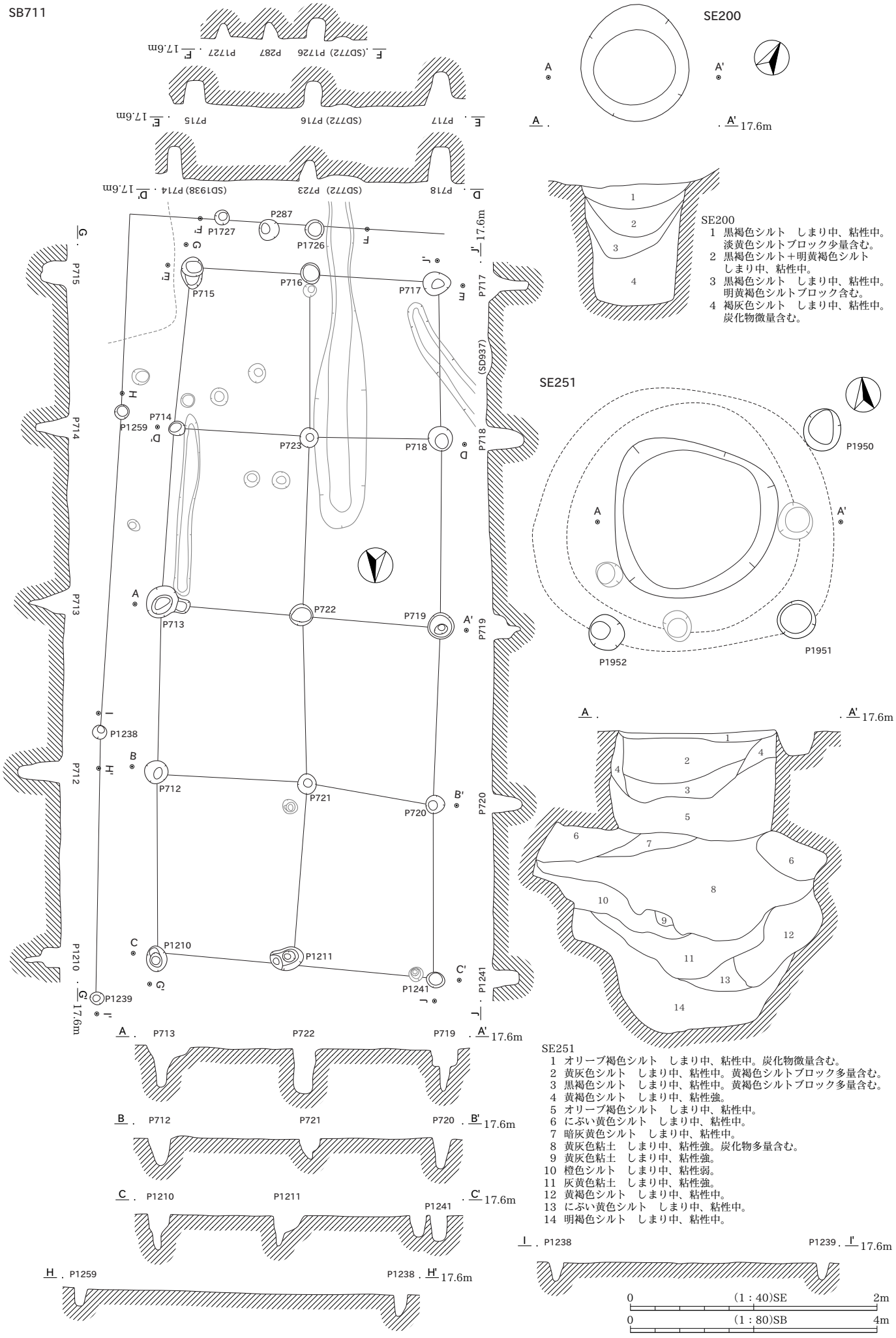


SE389
1 淡褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
2 淡黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量含む。
3 淡褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物少量含む。
5 青灰色粘土　しまり中、粘性強。炭化物少量含む。
6 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物多量含む。
7 暗青灰色粘土　しまり強、粘性強。炭化物多量含む。
8 灰褐色シルト　しまり中、粘性弱。リモナイト多量含む。

0　(1：80)SB　4m

0　(1：40)SE・SK・SD　2m

SB1940
P1950
P129
SE251
P1951
SE200
P1952
カクラン
P294
SD772
カクラン
P280
P293
45H
P281
SB711
P287
SB279
P288
P286
P282
P278
P253
P277
P254
P276
P255
P285
P275
P256
P274
P283
P257
P273
P258
P272
P284
P259
P271
SA252
SA266
P260
P270
P261
P262
P269
P268
P267
P263
P264
P265
17.5
45I
SD778
SD779
SD388
SD735
17.4
0
(1:100)
5m

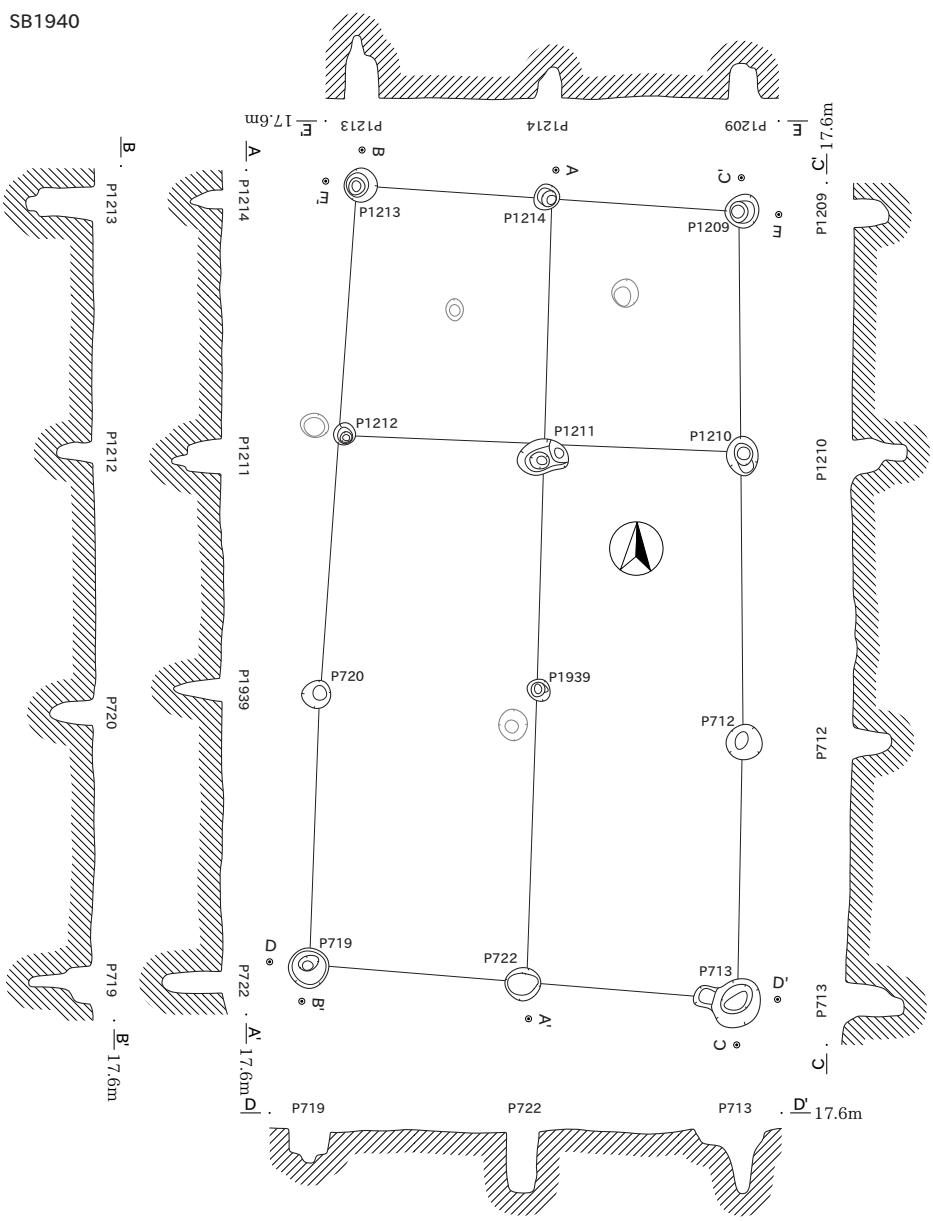


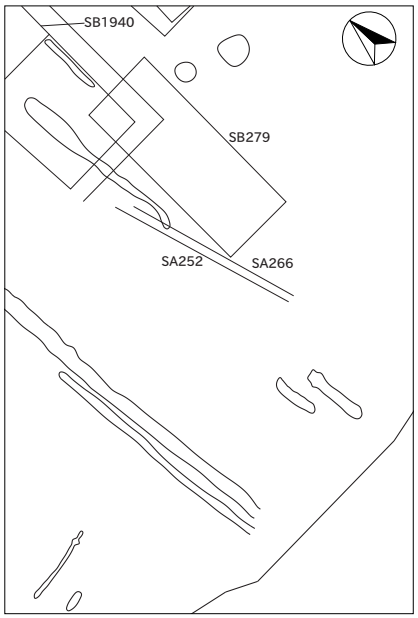
SE200
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト＋明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトブロック含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。

SE251
1 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
2 黄灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性強。
5 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
6 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。
7 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
8 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。炭化物多量含む。
9 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。
10 橙色シルト　しまり中、粘性弱。
11 灰黄色粘土　しまり中、粘性強。
12 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
13 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。
14 明褐色シルト　しまり中、粘性中。

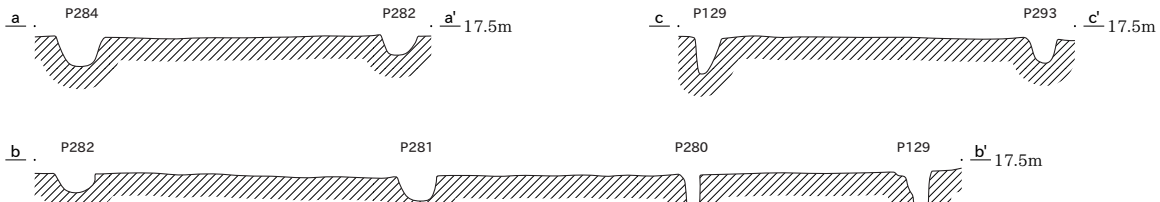
0　(1：40)SE　2m
0　(1：80)SB　4m

SB1940

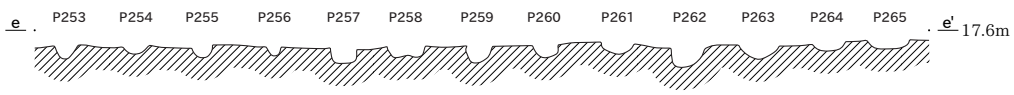




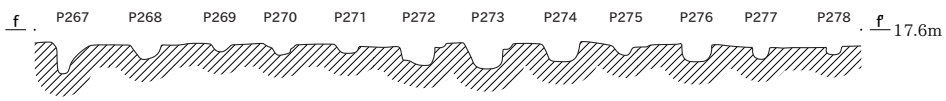
SB279

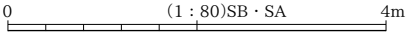


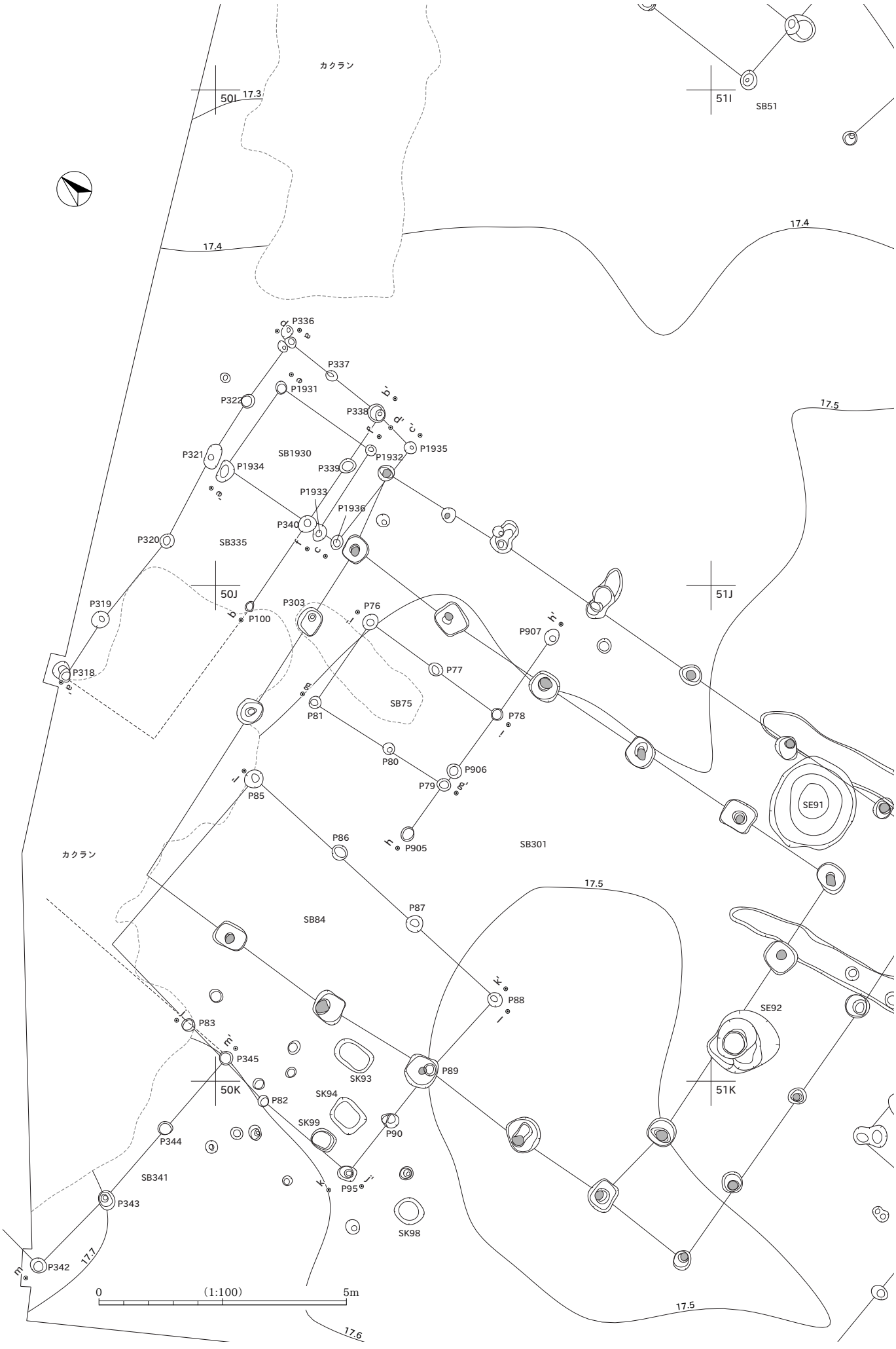
SA252



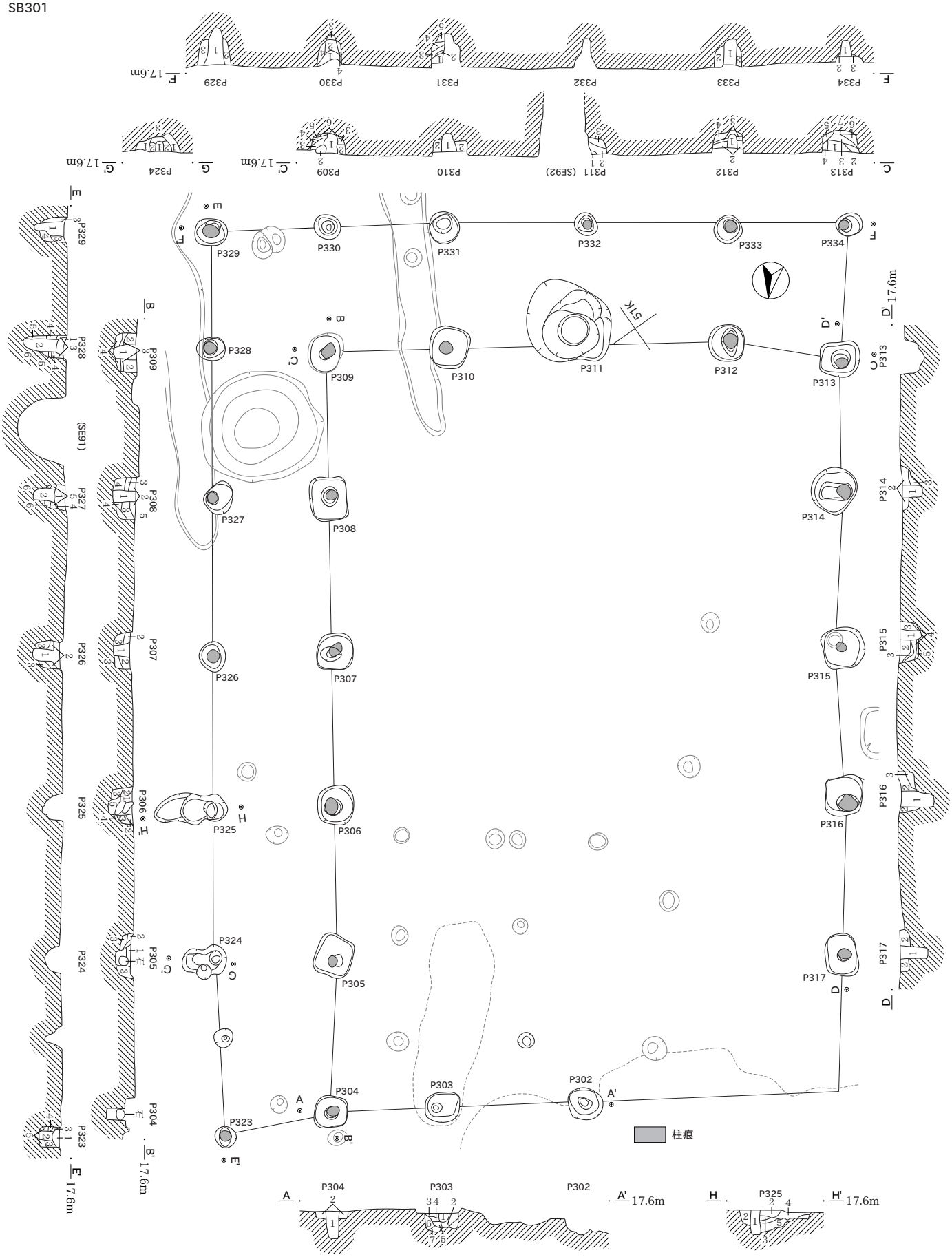
SA266






カクラン
50I
17.3
51I
SB51
17.4
17.4
P336
P337
P1931
P322
P338
P1935
P321
SB1930
P1934
P339
P1932
P1933
P1936
P340
P320
SB335
50J
51J
P319
P303
P76
P100
P907
P77
P318
SB75
P81
P78
P80
P906
P79
P85
SE91
P86
P905
SB301
カクラン
17.5
P87
SB84
P88
SE92
P83
P345
SK93
P89
50K
51K
P82
SK94
SK99
P90
P344
SB341
P95
P343
SK98
P342
17.7
0
(1:100)
5m
17.5
17.6

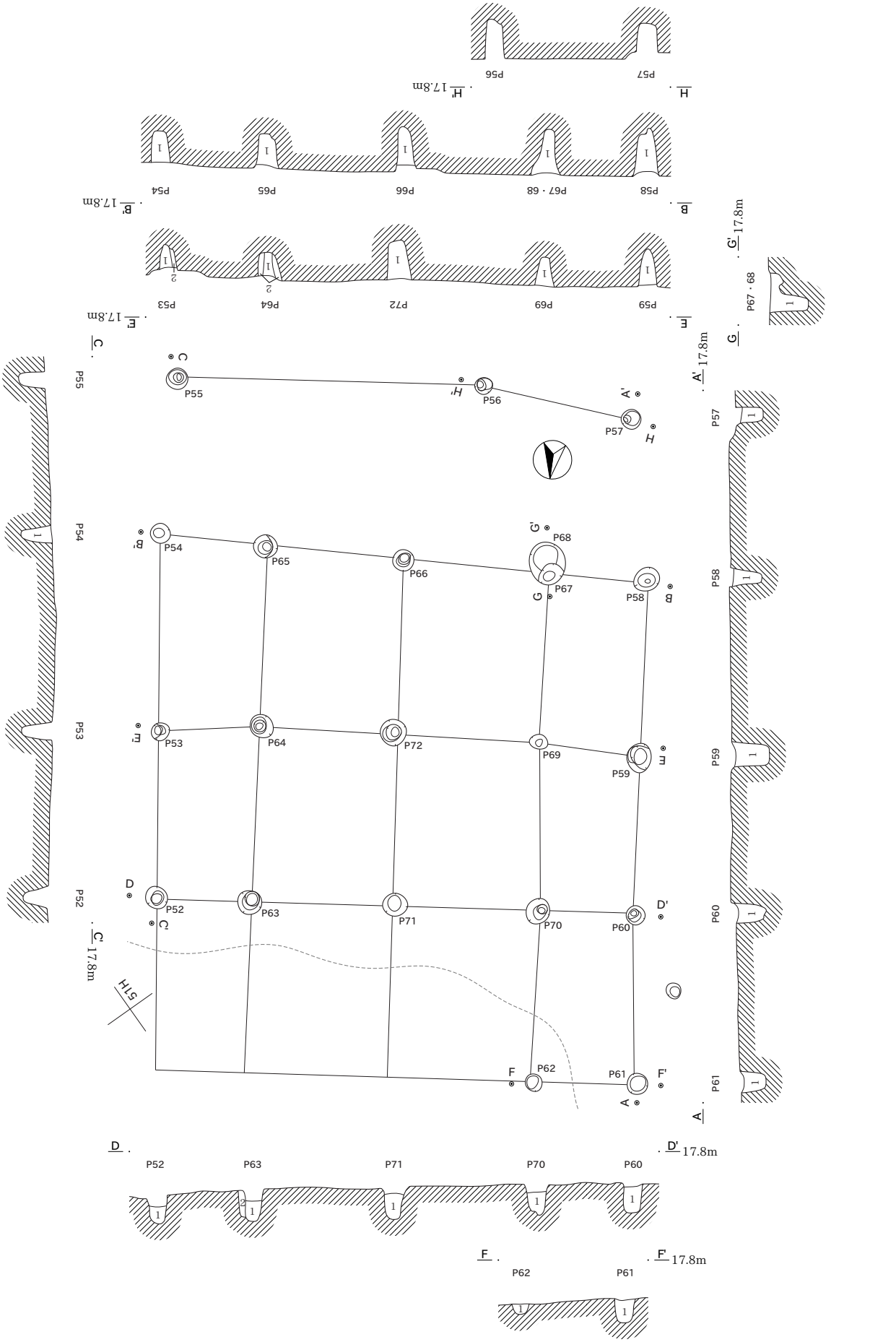
SB301



SB301共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。灰色シルトブロック・炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。橙色シルト粒子少量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。灰色シルト粒子多量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。橙色土ブロック多量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルト粒子微量。
6 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄色土ブロック少量含む。
7 暗黄褐色土シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロック多量含む。

0　(1：80)　4m

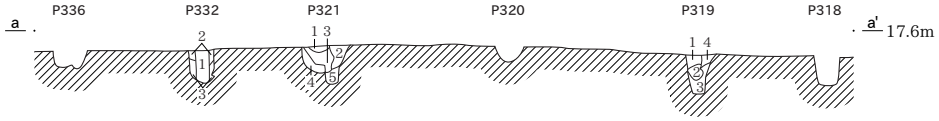
SB51

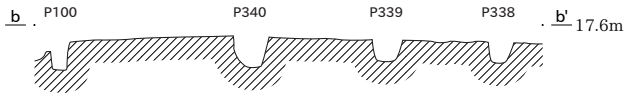


SB51共通
1　暗褐色シルト　しまり強、粘性弱。灰色粘土粒・褐色粒少量、炭化物微量含む。
2　暗褐色シルト　しまり強、粘性弱。灰色粘土粒・褐色粒多量含む。

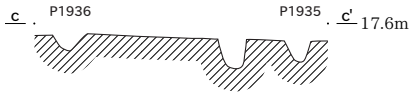
0　（1：80）　4m

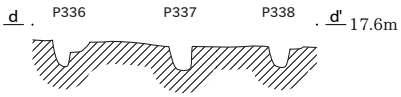
SB335

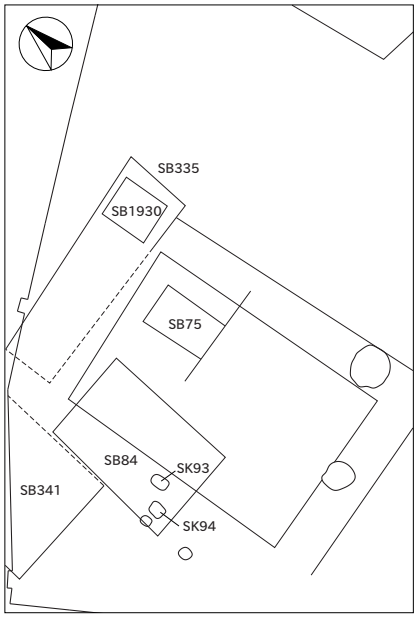




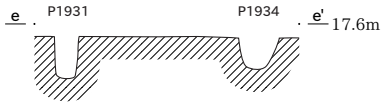
SB335共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄褐色土ブロック多量、炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物粒子微量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト粒少量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。黄橙色シルトブロック多量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルトブロック多量含む。

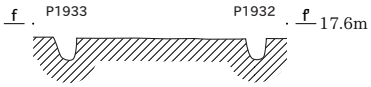




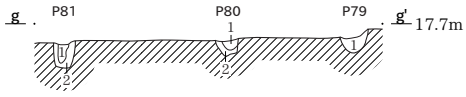


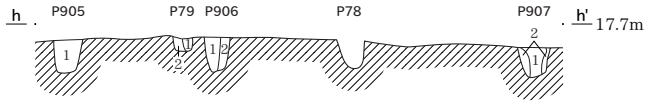
SB1930

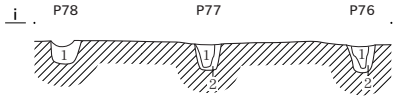




SB75

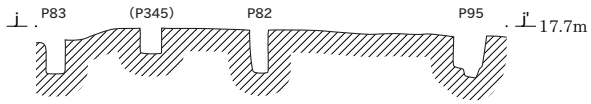


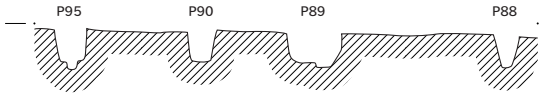


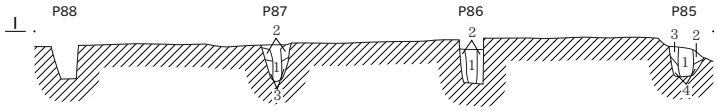


SB75共通
1 暗褐色シルト　しまり強、粘性弱。灰色粘土粒・褐色粒少量、炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり強、粘性弱。灰色粘土粒・褐色粒多量含む。

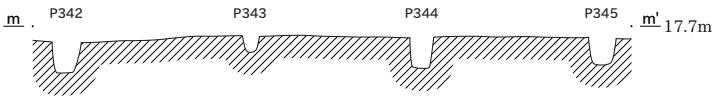
SB84





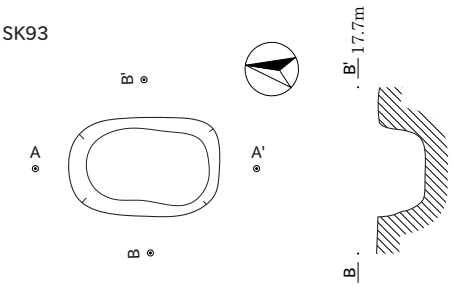


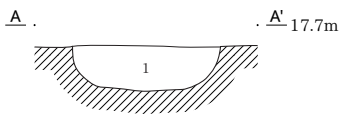
SB341



SB84共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。　褐色粒・炭化物少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。　褐色粒多量、炭化物微量含む。
3 暗黄褐色シルト　　しまり中、粘性中。褐色粒多量含む。
4 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色粒多量含む。

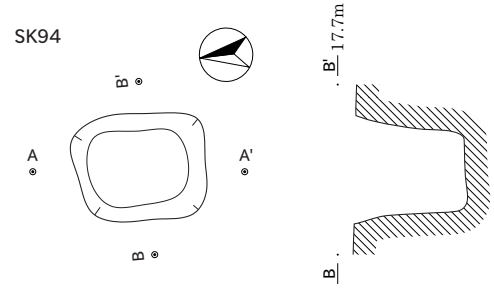
SK93

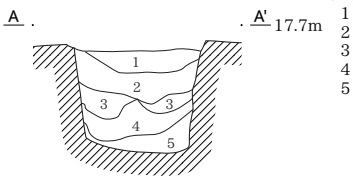




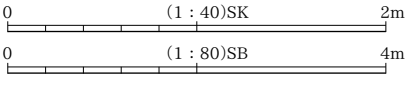
SK93
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。粘土粒・炭化物少量含む。

SK94

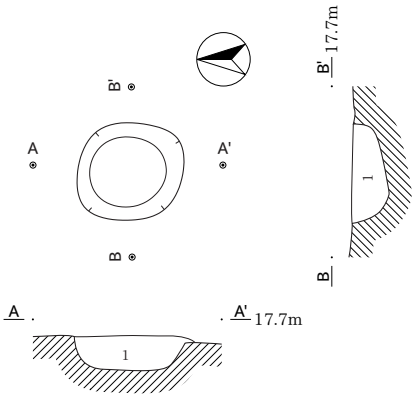




SK94
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。粘土粒子多量、炭化物少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。粘土粒微量、炭化物少量含む。
3 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。黄褐色粘質シルト粒多量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物少量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物微量含む。

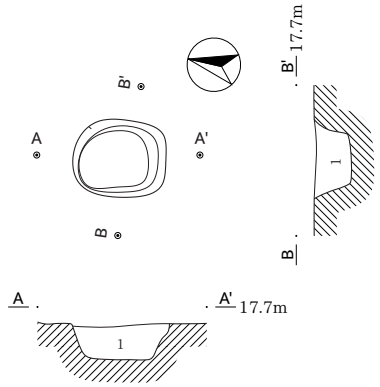


SK98



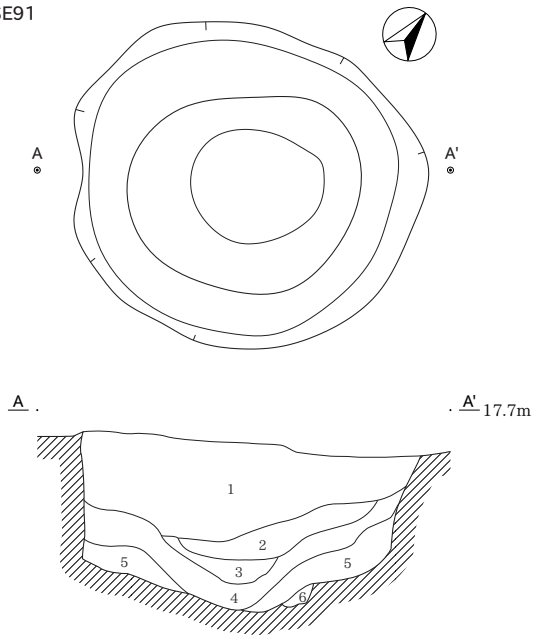
SK98
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。粘土粒・炭化物少量含む。

SK99



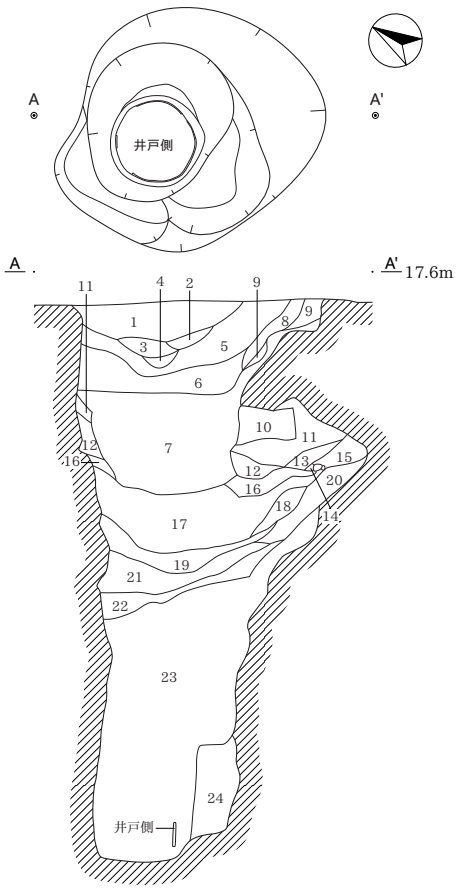
SK99
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。粘土粒・炭化物少量含む。

SE91

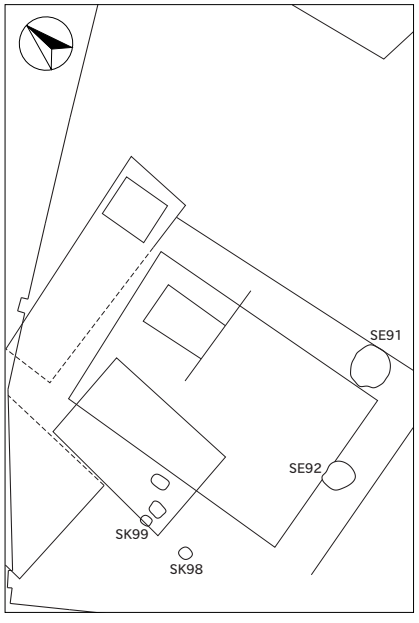


SE91
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄褐色シルトブロック・焼土粒、炭化物微量含む。
2 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルト主体。暗褐色土微量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルトブロック少量含む。
4 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルト主体。暗褐色土を斑状に含む。
5 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色粘質シルト・暗褐色土を微量含む。
6 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルトブロック少量含む。

SE92



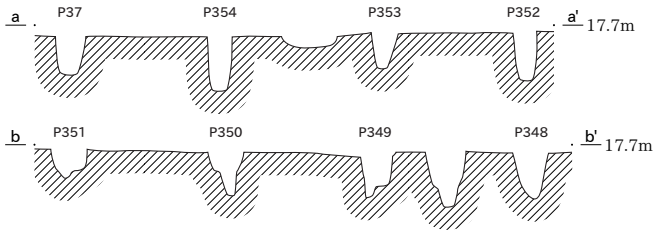
SE92
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック微量含む。
4 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック多量含む。
5 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルト粒子・炭化物少量含む。
6 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱　淡黄色シルトブロック多量、炭化物微量含む。
7 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色土粒子少量含む。
8 褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色土粒子多量含む。
9 淡黄色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルト主体。暗褐色土少量含む。
10 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
11 淡黄色シルト　しまり中、粘性弱。
12 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄褐色シルトブロック微量含む。
13 灰褐色シルト　しまり弱、粘性弱。灰色シルト含む。
14 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルトブロック微量含む。
15 淡黄色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄色シルトブロック含む。
16 淡黄色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄色シルトブロック含む。
17 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量、灰色シルトブロック少量含む。
18 灰色シルト　しまり中、粘性弱。灰色シルト主体層。
19 淡褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量含む。
20 淡灰褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡灰褐色シルトブロック主体層。
21 にぶい黄色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物少量、淡黄色シルトブロック少量含む。
22 暗褐色シルト　しまり弱、粘性中。焼土粒・炭化物粒多量含む。
23 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルトブロック多量含む。
24 黄灰色シルト　しまり弱、粘性弱　細砂・灰色シルトブロック少量含む。



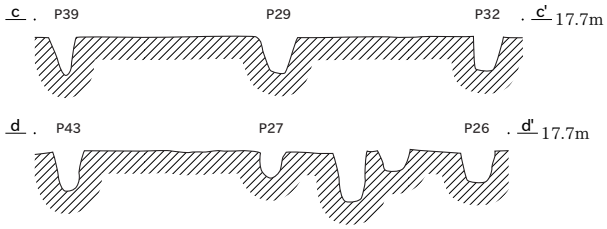
0　（1：40）　2m

17.3
17.2
17.1
17.0
16.9
17.4
17.5
SD73
52J
53J
P351
P350
SD97
SB346
P352
P349
P353
P348
P354
P43
P37
P27
SD96
SB31
52K
53K
P26
P28
P35
P39
P34
P25
P16
SK11
SD10
P29
SE20
P17
P33
P24
SB13
P30
P32
P14
P18
SB22
P23
P42
SE12
SX7
SX1
0
(1:100)
5m

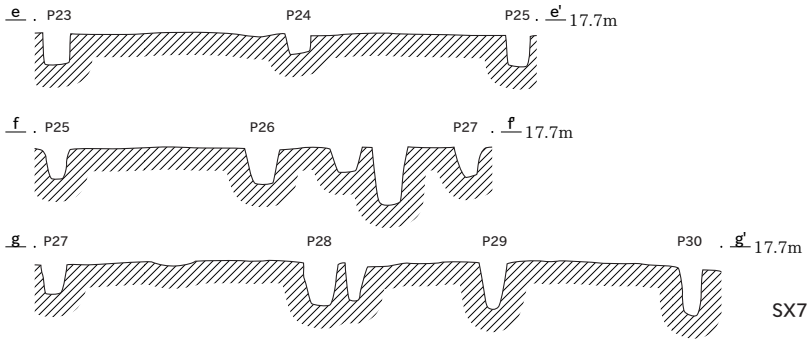
SB346



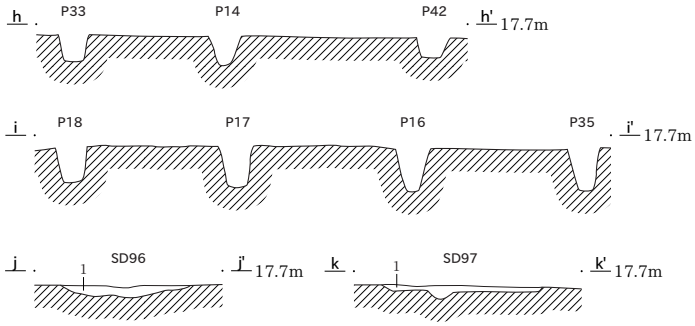
SB31



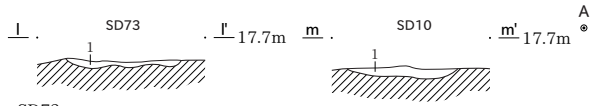
SB22



SB13



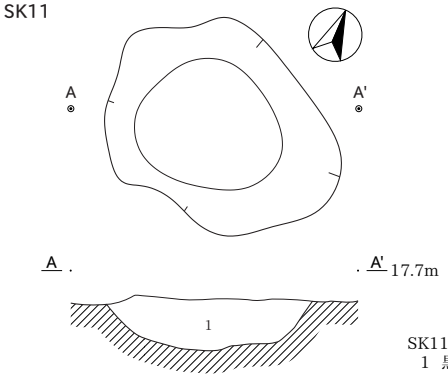
SD96、SD97共通
1 灰褐色粘質シルト しまり中、粘性弱。 リモナイト、褐色粒子少量含む。

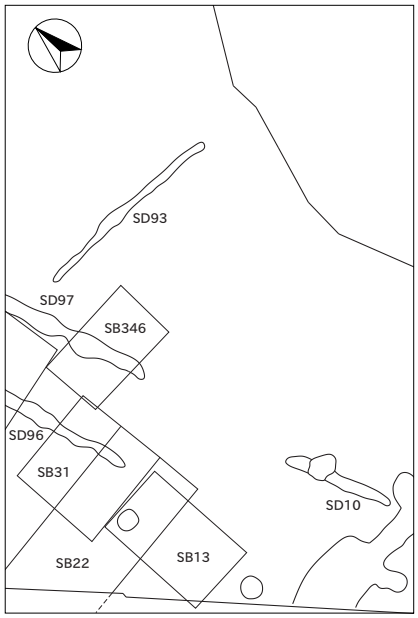


SD73
1 灰褐色粘質シルト しまり中、粘性弱。褐色土粒子微量含む。

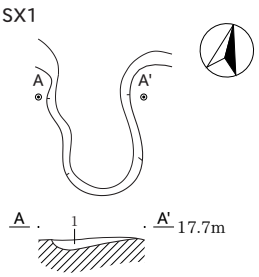
SD10
1 褐灰色シルト しまり中、粘性中。

SK11

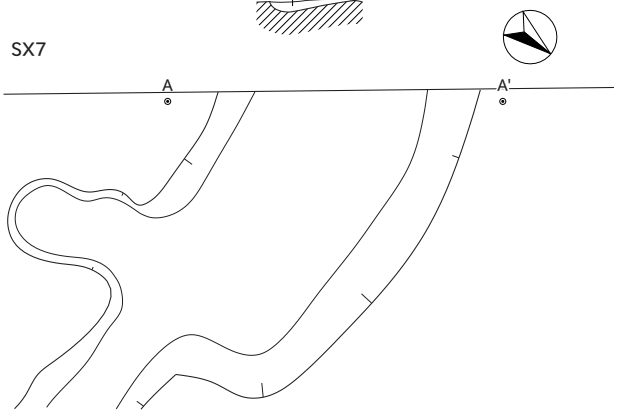


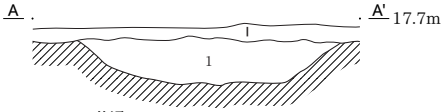


SX1



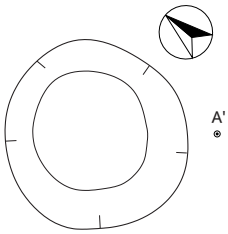
SX7



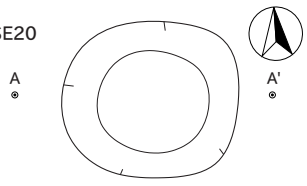


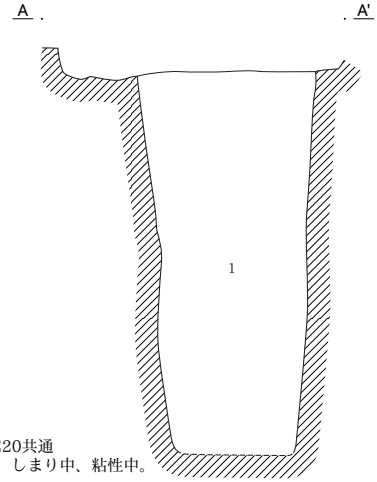
SX1・SX7共通
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

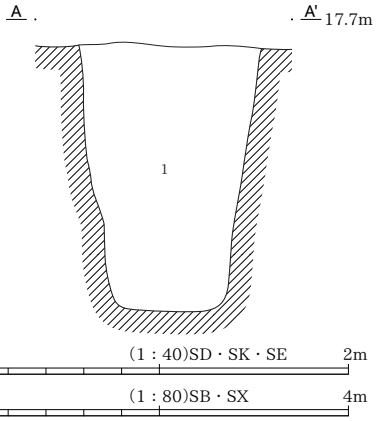
SE12



SE20

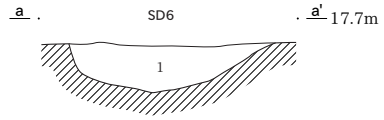


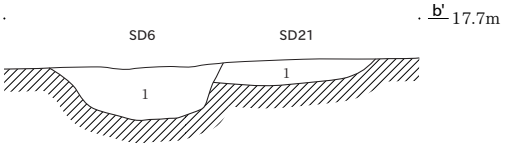




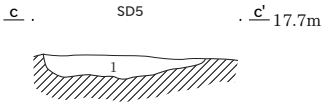
SK11・SE12・SE20共通
1 黒褐色シルト しまり中、粘性中。

SX8
SD5
SD6
SD4
SD3
SD21
SD9
SD2
53K
54K
55K
17.5
17.4
17.3
17.2
17.1
17.0
16.9
16.8
16.7
0
(1:100)
5m

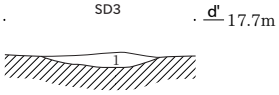




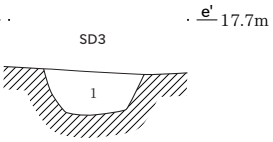
SD6・SD21共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

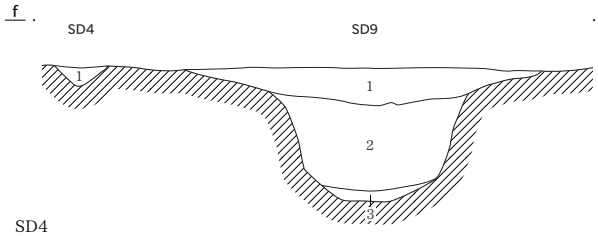


SD5
1 黒褐色シルト　しまり中。粘性中。



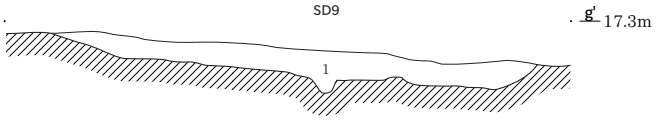
SD3
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

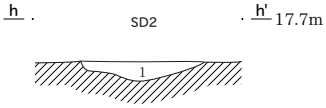




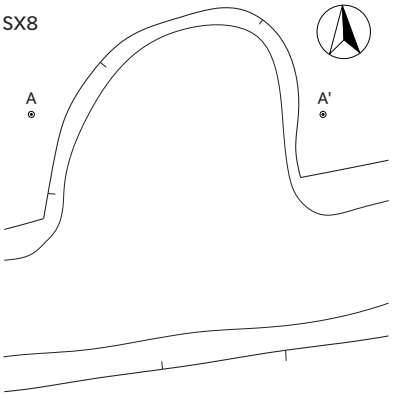
SD4
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

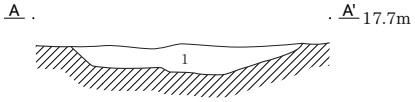
SD9
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト、ブロック状に少量含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト、ブロック状に多量含む。
3 褐灰色砂質シルト　しまりなし、粘性中。黄橙色シルト・灰白色シルトをブロック状に含む。



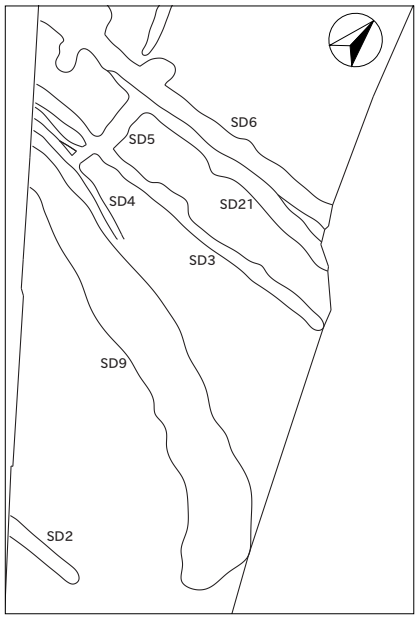


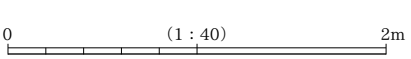
SD2
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。





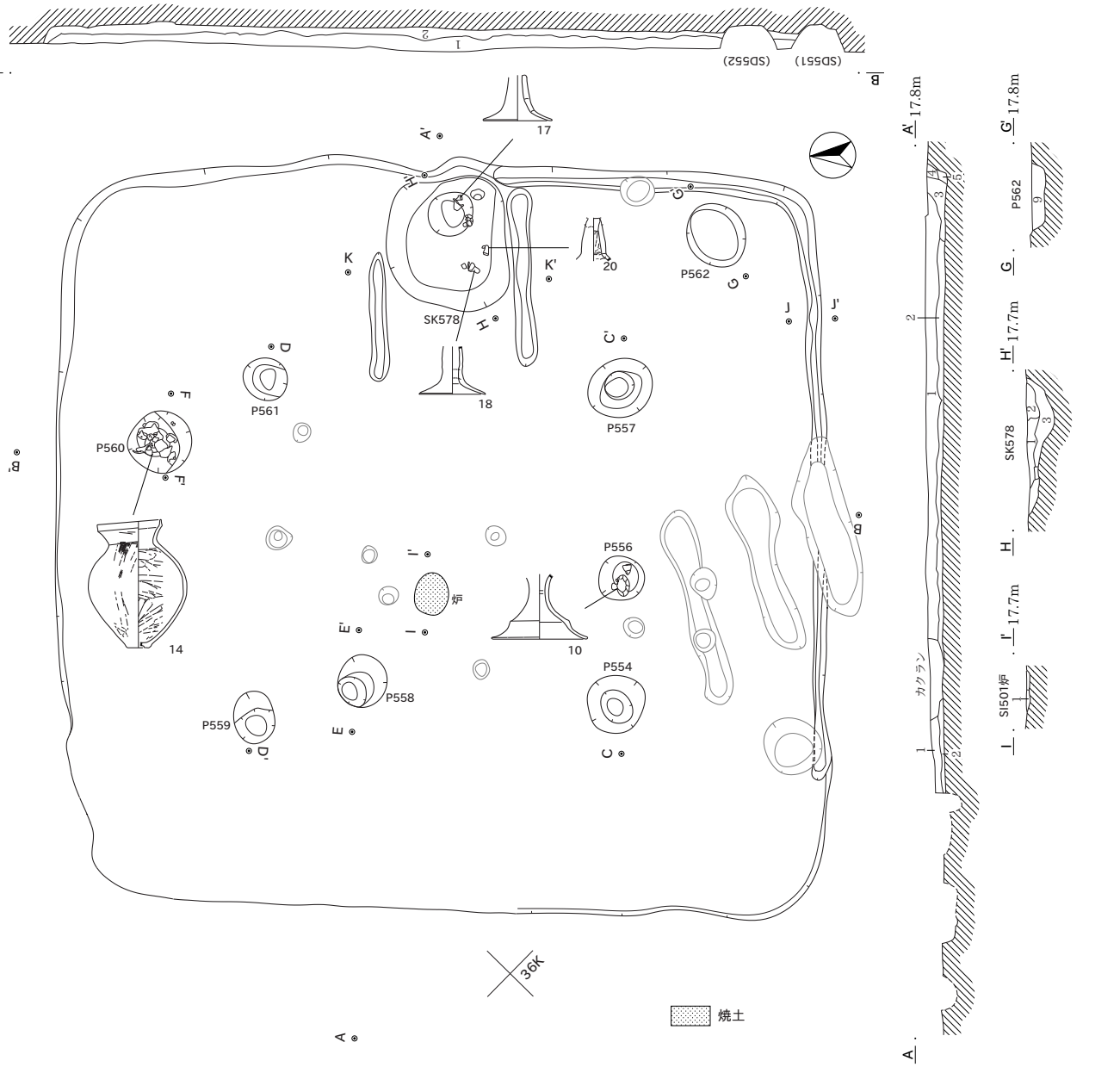
SX8
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

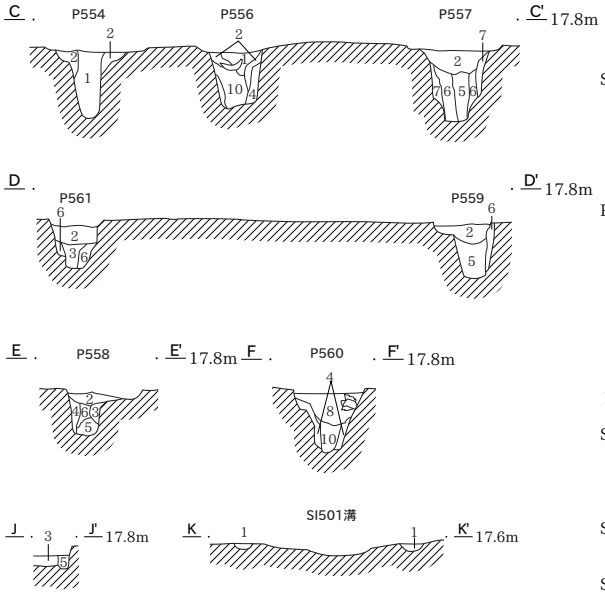




SD602
SD518
SB952
SD602
SI519
SB531
SD505
SD602
SK504
SD357
SD516
SI501
SD553
SD552
SI521
SD524
SD525
SD551
SD502
SD522
SD523
SD526
SD527
SD528
SD529
P955
P954
P956
P953
P957
P959
P979
P539
P540
P958
P538
P535
P537
P534
P536
P533
P532
36I
37I
36J
37J
36K
37K
17.1
17.2
17.3
17.4
17.5
17.6
17.7
0
(1:100)
5m

SI501





SI501
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子微量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト主体、黒褐色土粒子多量含む。
3 にぶい黄褐色粘土　しまり強、粘性強。白色粘土主体層。
4 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロックφ10mm以下多量含む。
5 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子多量含む。

P554・P556・P557・P558・P559・P560・P561・P562共通
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量、焼土粒少量、黄褐色土粒子少量含む。
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量、黄褐色土粒子やや多量含む。
3 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子少量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性強。黄褐色ブロック主体層。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性強。炭化物粒子多量、焼土粒子微量含む。（柱痕）
6 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性強。炭化物、黒褐色土粒含む。
7 黄褐色シルト　しまり中、粘性強。炭化物、黒褐色土粒含む。
8 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量、焼土粒・焼土ブロック少量含む。
9 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子含む。
10 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

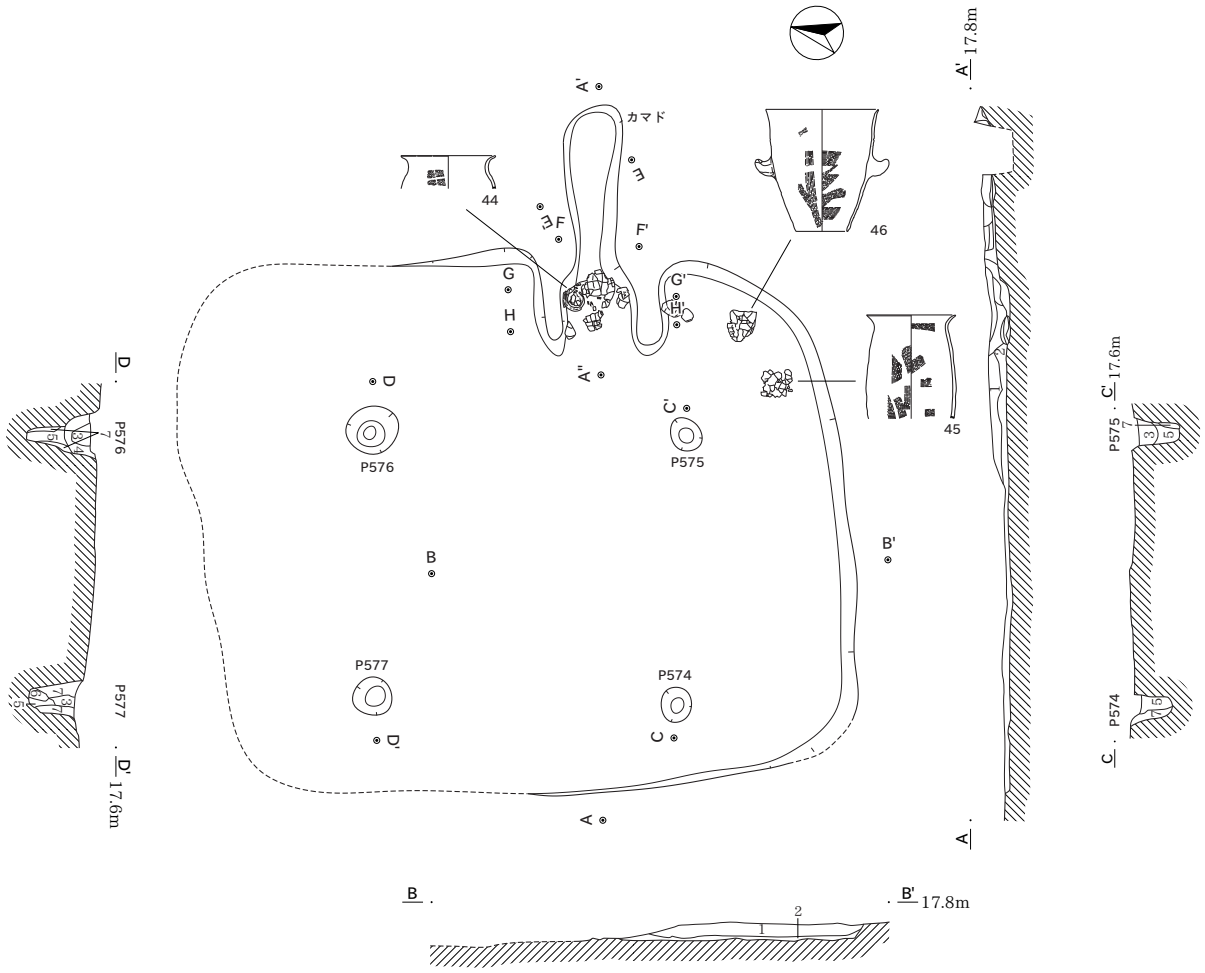
SK578
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり強、粘性強。
3 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。

SI501炉
1 暗赤褐色土　しまり中、粘性中。焼土粒子主体、炭化物微量含む。

S1501溝
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト粒子少量含む。

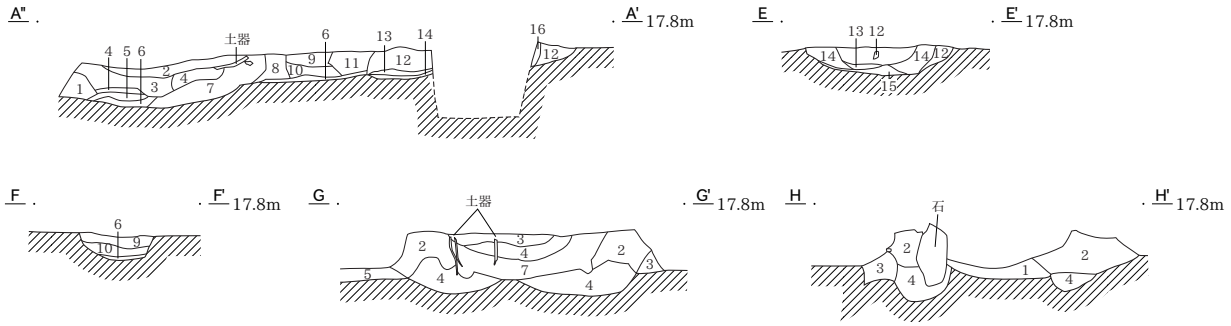
0　（1：60）　3m

SI519



SI519
1 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子・焼土粒子微量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子・焼土粒子少量含む。
3 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物・黄褐色土ブロック含む。
4 黄褐色土シルト　しまり中、粘性強。オリーブ褐色土粒子を混入する。
5 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性強。炭化物少量含む。
6 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
7 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。

SI519カマド

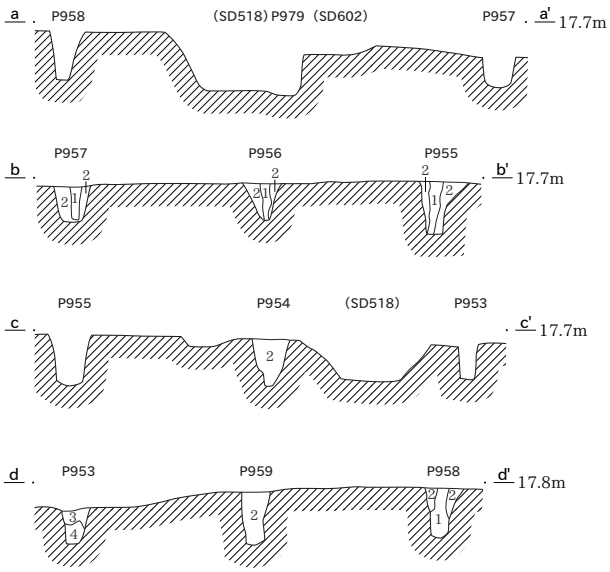


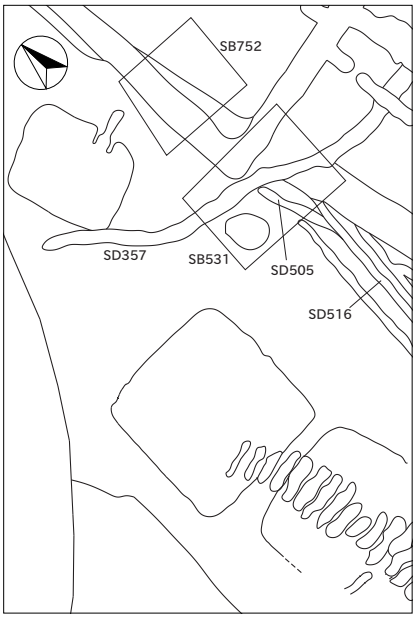
SI519カマド
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒子微量含む。
2 暗オリーブ褐色シルト　しまり弱、粘性弱。黄褐色土粒子含む。
3 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒子・黄褐色土ブロック少量含む。
4 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。暗灰黄色シルト主体。炭化物多量、焼土ブロック少量含む。
5 明赤褐色シルト　しまり強、粘性弱。
6 赤褐色シルト　しまり強、粘性弱。炭化物少量含む。
7 褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
8 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒子少量、黄褐色土多量に含む。
9 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
10 褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒子多量含む。
11 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子多量含む。
12 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物・焼土・黄褐色土を斑状に含む。
13 黒褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土ブロック少量、炭化物多量含む。
14 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土ブロック・黄褐色土ブロックを斑状に含む。
15 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
16 明褐色シルト　しまり強、粘性中。焼土ブロック・黄褐色土ブロック主体層。

0　（1：30）SI519カマド　1.5m

0　（1：60）SI519　3m

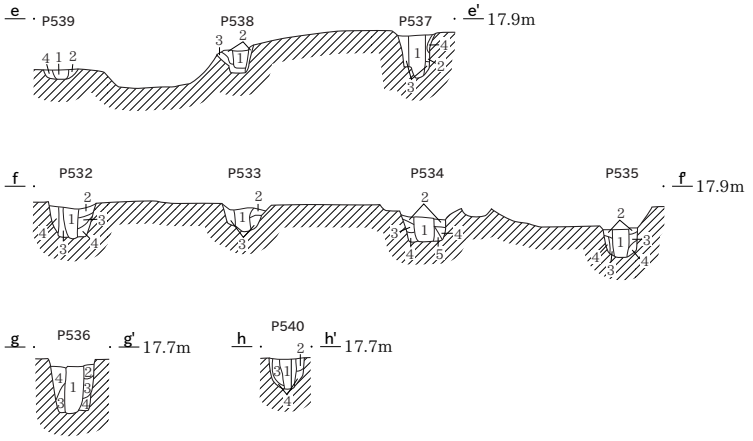
SB952





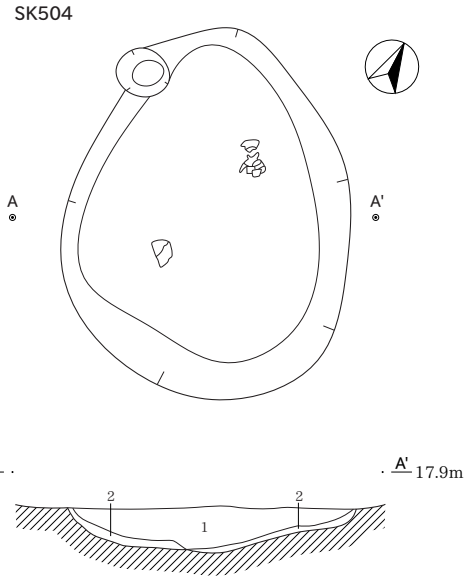
SB952
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトをブロック状に含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトをブロック状に含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトをブロック状に含む。

SB531



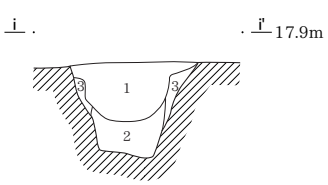
SB531
1 オリーブ褐色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物微量、焼土粒子・黄褐色土粒子多量
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロック多量。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量、黄褐色土粒子少量。
4 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子多量。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子少量。

SK504



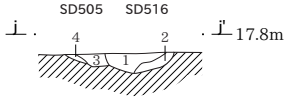
SK504
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物・黄褐色土粒子微量含む。
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子多量含む。

SD357



SD357
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、黄褐色シルトブロック含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。オリーブ褐色シルトブロック含む。

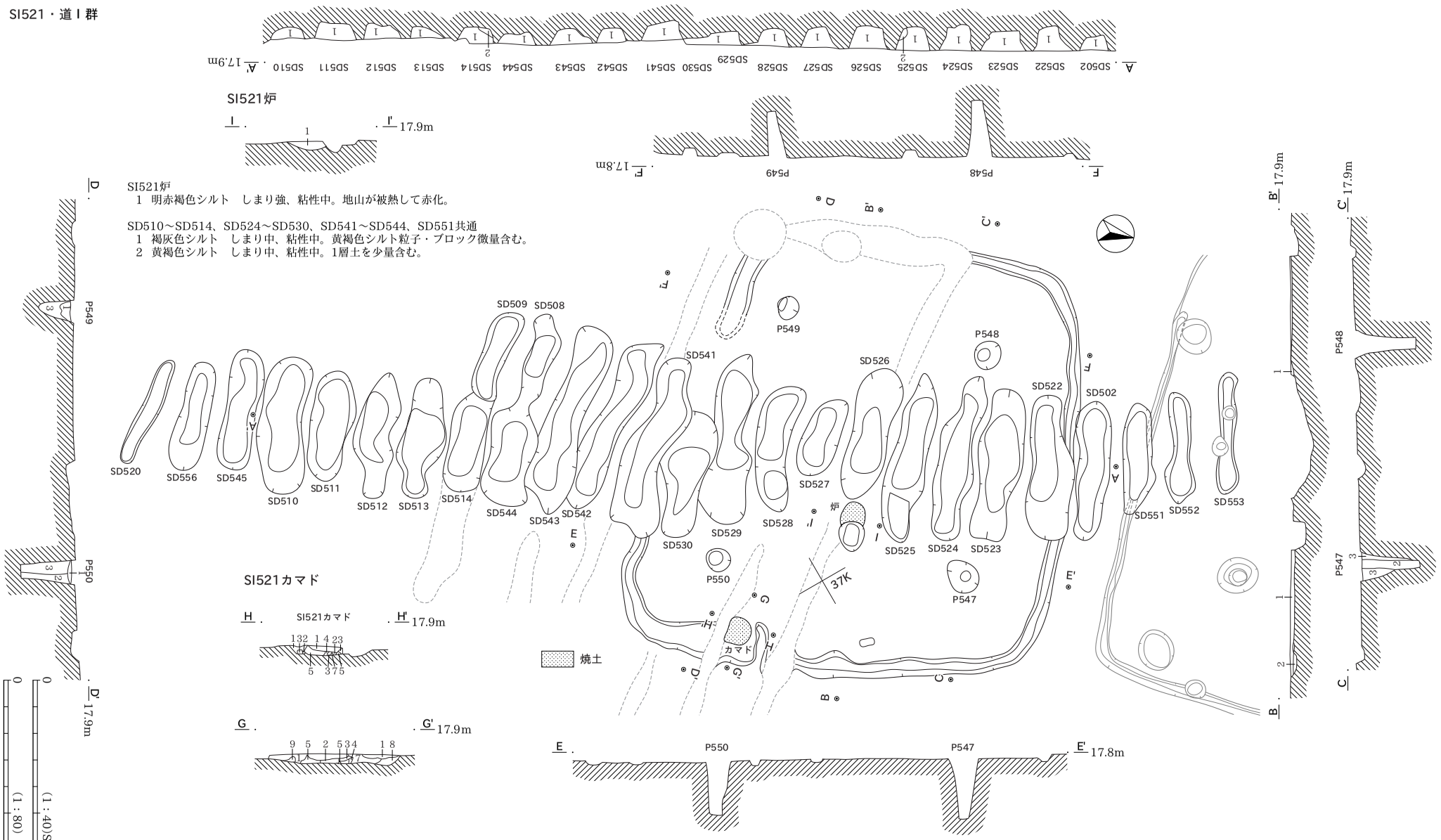
SD505・516



SD505・SD516
1 暗灰黄色シルト　しまり弱、粘性中。黄褐色土粒子・ブロック少量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 暗灰黄色シルト　しまり弱、粘性中。黄褐色土ブロックを斑状に含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロック主体。

0　(1：40)SD・SK　2m

0　(1：80)SB　4m



SI521炉
1 明赤褐色シルト　しまり強、粘性中。地山が被熱して赤化。

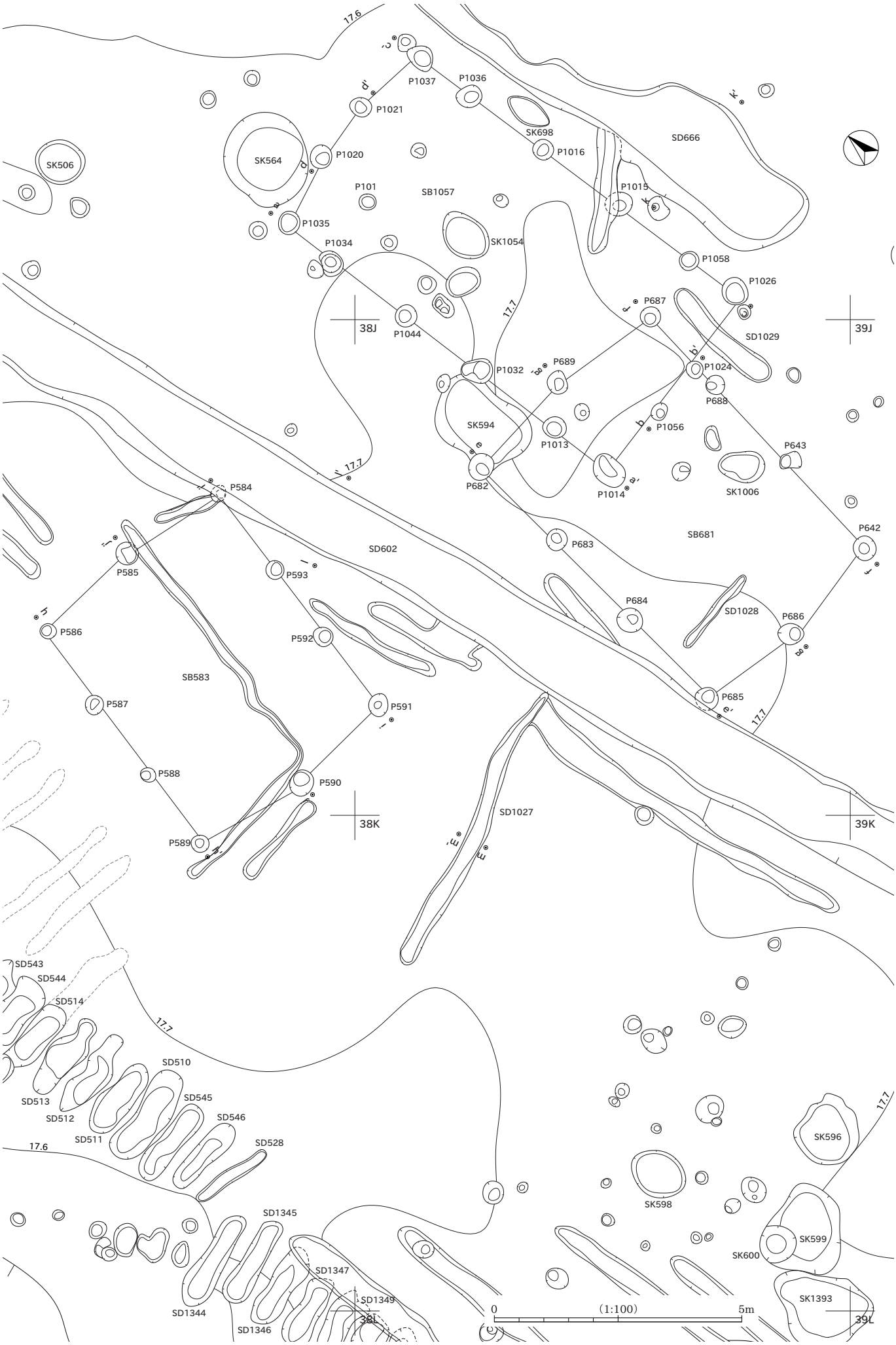
SD510～SD514、SD524～SD530、SD541～SD544、SD551共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト粒子・ブロック微量含む。
2 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。1層土を少量含む。

SI521
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子少量、焼土粒子微量含む。
2 褐灰色シルト　しまり強、粘性中。

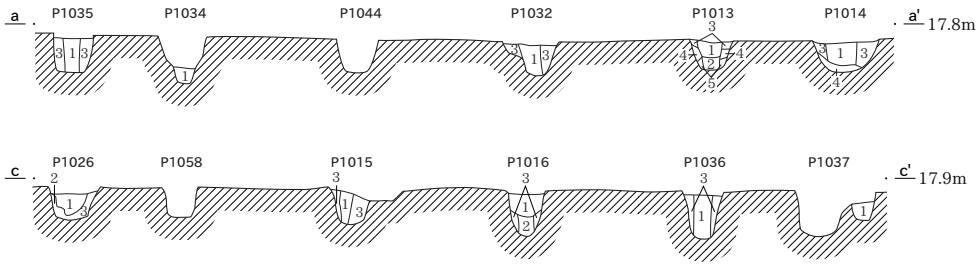
P547、P548、P549、P550共通
1 黒褐色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物粒子φ1mm以下少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性中。
3 黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。

SI521カマド
1 灰褐色シルト　しまり弱、粘性中。黒褐色シルトブロック中量、焼土粒子やや多量、炭化物粒子φ1mm含む。
2 にぶい赤褐色シルト　焼土粒子多量含む。
3 浅黄橙色粘土　しまり強、粘性強。灰褐色土シルト中量、炭化物粒子・焼土粒子少量含む。
4 灰褐色シルト　しまり弱、粘性中。黒褐色シルトブロック中量、焼土粒子多量、炭化物粒子φ1mm含む。
5 明赤褐色粘土　粘性強。カマド構築土の崩落、赤化。
6 にぶい赤褐色シルト　焼土粒子多量含む。
7 橙色粘質シルト　焼土粒子主体。
8 にぶい赤褐色シルト　焼土粒子多量含む。
9 橙色粘質シルト　焼土粒子主体。

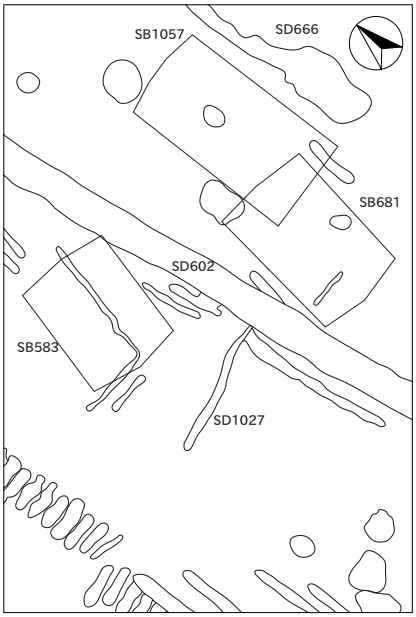
(1：40)SI521カマド・炉　2m
(1：80)　4m


17.6
P1037
P1036
P1021
SK698
SD666
SK564
P1020
SK506
P101
SB1057
P1015
P1035
P1034
SK1054
P1058
P1026
38J
P1044
17.7
P687
39J
SD1029
P1032
P689
P1024
P688
SK594
P1056
P1013
P643
P682
P1014
SK1006
P584
SB681
P642
SD602
P585
P593
P683
P586
P684
SD1028
P686
P592
SB583
P685
P587
P591
P588
P590
38K
SD1027
39K
P589
SD543
SD544
SD514
SD510
SD513
SD545
SD512
SD546
SD511
SD528
SD1345
SD1347
SD1349
SD1344
SD1346
38L
SK596
SK598
SK599
SK600
SK1393
39L
0
(1:100)
5m

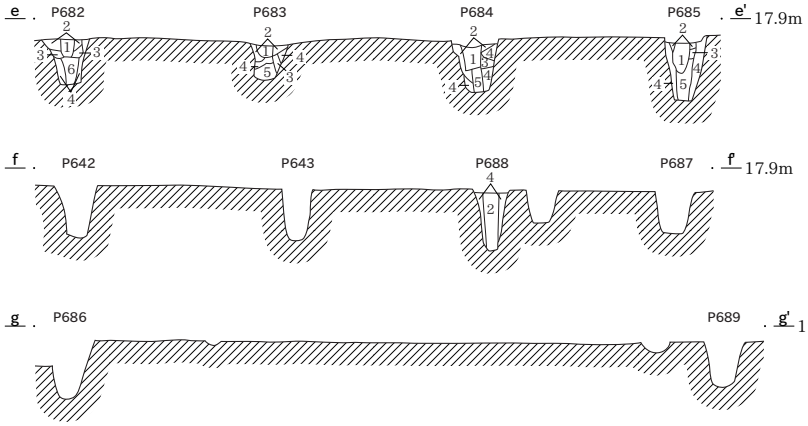
SB1057



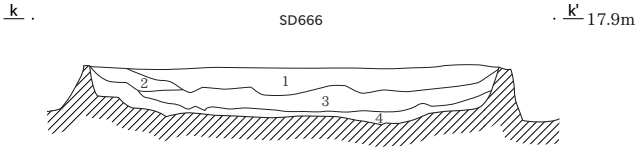
SB1057
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子・ブロック少量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子・ブロック微量含む。
3 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色シルト主体。1・2層土を少量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土主体、1・2層土を少量含む。
5 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土主体、1・2層土を微量含む。



SB681

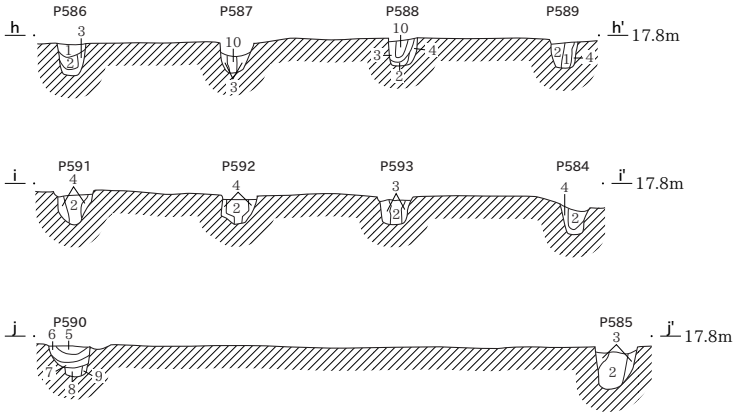


SB681
1 褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子やや多量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子微量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土主体、黒褐色土少量含む。
4 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土主体、黒褐色土微量含む。
5 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、黄褐色土粒子少量含む。
6 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土を斑状に含む。

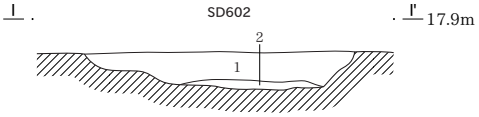


SD666
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。橙色粒・黄褐色土粒子少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。橙色粒・黄褐色土粒子多量含む。
3 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。橙色粒・黄褐色土粒子多量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。暗褐色土を少量含む。

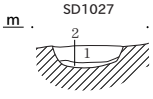
SB583



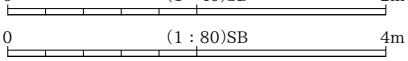
SB583
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量、黄褐色土やや多量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
3 褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロック主体。2層土を混入する。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黒褐色土少量含む。
5 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。橙色粒子・炭化物・黄褐色土粒子多量含む。
6 にぶい黄色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子微量含む。
7 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子多量含む。
8 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒子微量含む。
9 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
10 褐色シルト　しまり弱、粘性中。橙色粒多量含む。



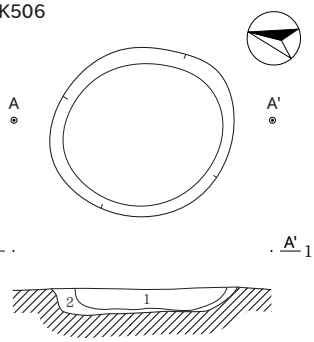
SD602
1 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物微量、黄褐色土ブロック多量に含む。



SD1027
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。

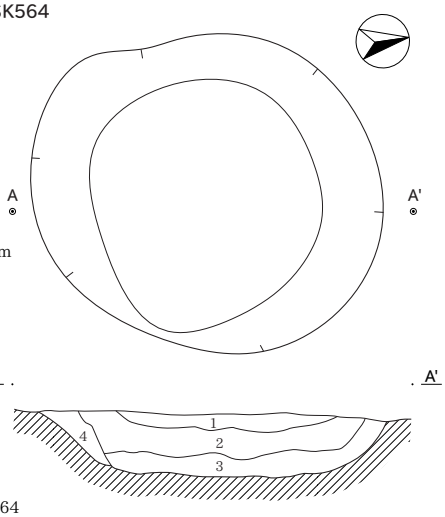


SK506



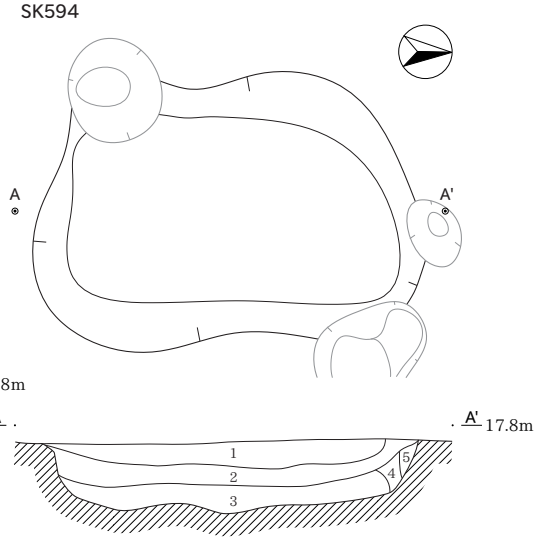
SK506
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物微量、黄褐色土粒子少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物微量含む。

SK564



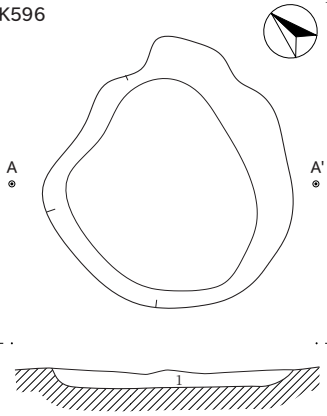
SK564
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物・焼土粒子少量含む。
2 黄灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子少量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄灰色シルト粒子を含む。

SK594



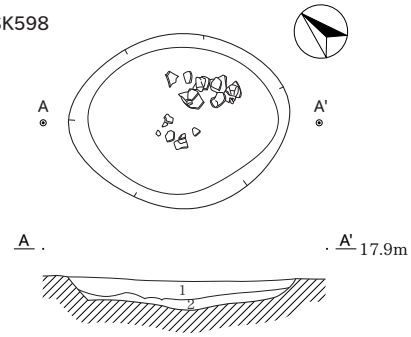
SK594
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土粒子少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。橙色粒多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物やや多量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物を微量含む。
5 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。暗褐色土を微量含む。

SK596



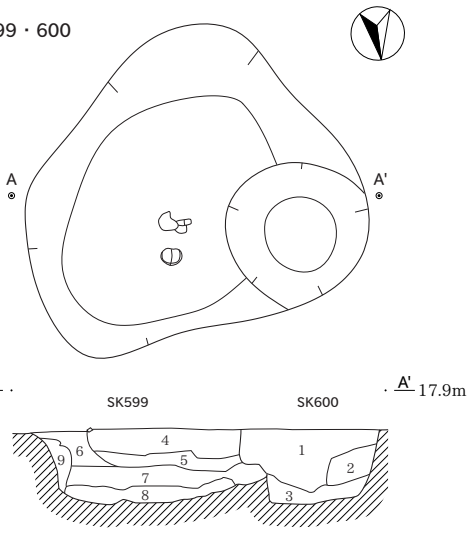
SK596
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
橙色粒・黄褐色土粒子少量含む。

SK598



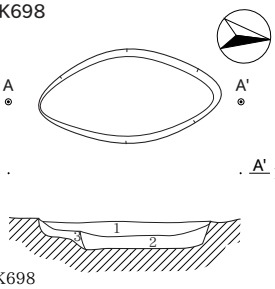
SK598
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物・橙色土粒子少量含む。
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土ブロック多量含む。

SK599・600



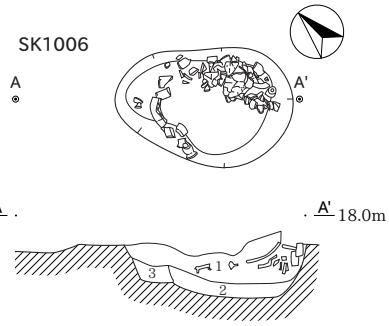
SK599・SK600
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
橙色粒含む、黄褐色土ブロック・粒子多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土ブロック・粒子多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性強。
黄褐色土と黒褐色土を斑状に混合する。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量、焼土ブロック・粒子多量含む。
5 明黄褐色シルト　しまり中、粘性強。
黄褐色土ブロック主体。暗褐色土少量含む。
6 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土粒子少量含む。
7 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
焼土粒子微量、黄褐色土粒子微量含む。
8 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
7層土主体、黄褐色土粒子やや多量含む。
9 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
暗褐色シルト粒子を微量含む。

SK698



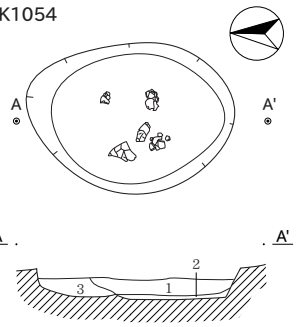
SK698
1 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土ブロック少量含む。
2 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土ブロック多量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
暗灰黄色土を少量含む。

SK1006



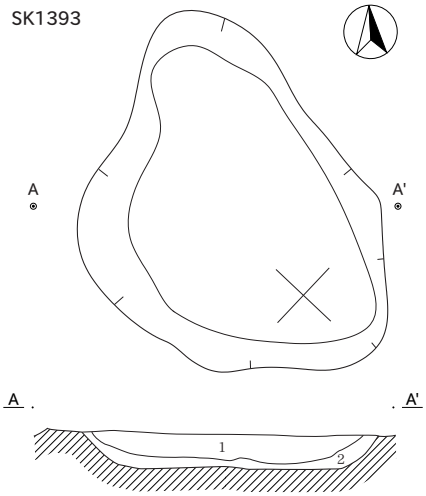
SK1006
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土粒子少量、橙色粒少量含む。
2 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色土粒子・橙色粒やや多量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
暗褐色土微量、橙色粒少量含む。

SK1054



SK1054
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
橙色粒微量、炭化物少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。

SK1393



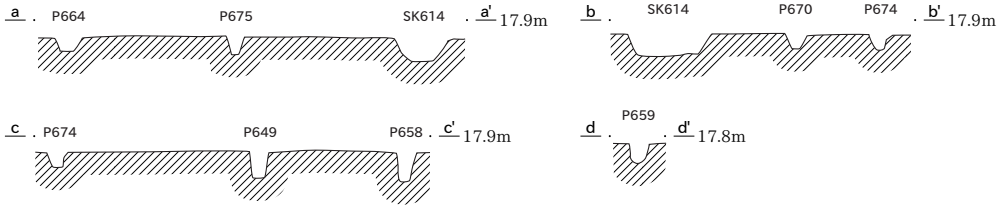
SK1393
1 暗灰黄色シルト　しまり弱、粘性中。
橙色粒やや多量、黄褐色土少量含む。
2 黄褐色土シルト　しまり中、粘性中。
暗灰黄色シルト少量含む。

0　（1：40）　2m

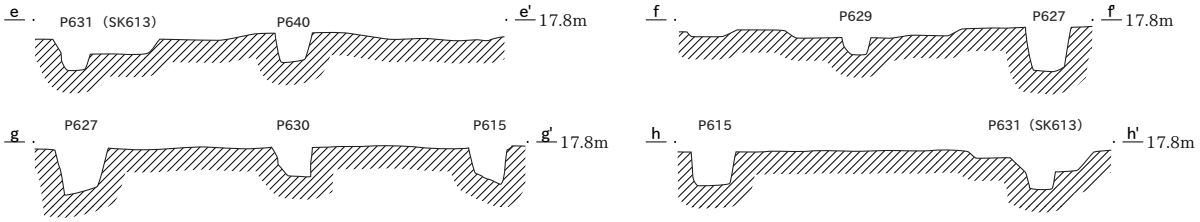
P1328～P1333、P1343、SD1344～SD1347、SD1349、SD1358、P1359～P1368共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色土ブロック・粒子を微量含む。
2 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。1層土を少量混入する。

SE604
SK618
SK617
SK626
39J
40J
SK619
17.7
17.6
P658
P659
P649
SB668
P664
P674
P675
P670
SK614
SX662
P620
SD665
P621
SA663
P673
39K
40K
SD602
SD601
SK603
P615
P611
P630
P631
SB1715
カクラン
SK613
P627
SD607
P640
P629
SE605
39L
40L
17.8
0
(1:100)
5m

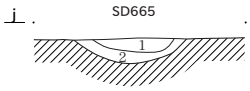
SB668・SK614



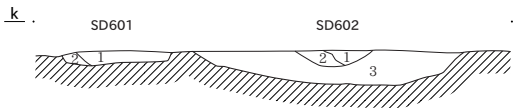
SB1715・SK613



SA663

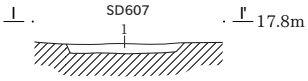


SD665
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中。粘性中。

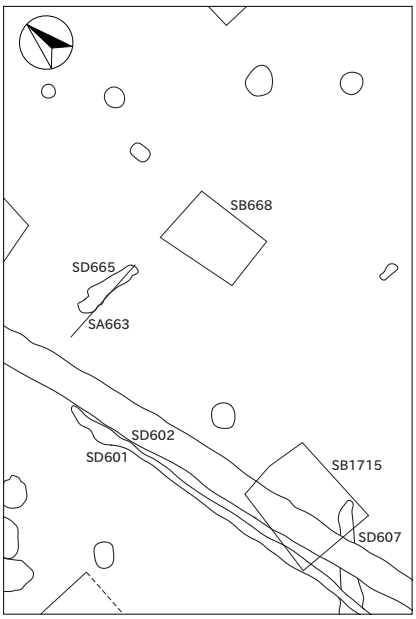


SD601
1 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。灰白色土ブロック中量含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

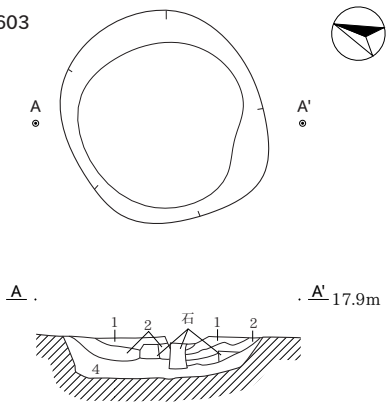
SD602
1 にぶい黄橙色シルト　しまり弱、粘性中。灰白色土ブロック中量含む。
2 灰黄褐色土シルト　しまり弱、粘性中。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色土ブロック少量含む。



SD607
1 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。
灰白色シルトブロック含む。

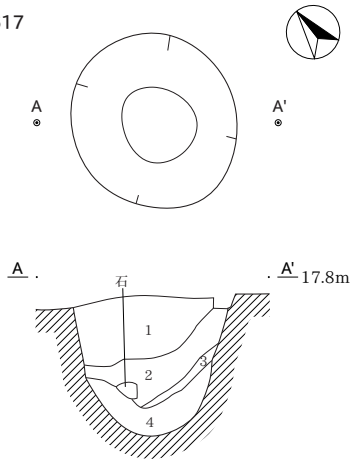


SK603



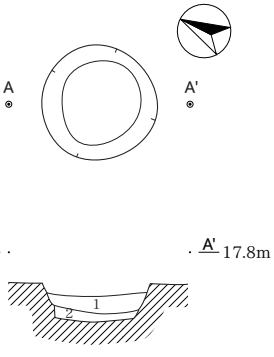
SK603
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。
炭化物粒子少量含む。
2 にぶい黄橙色シルト　しまり中。粘性中。
3 にぶい黄橙色シルト　しまり中。粘性中。
炭化物粒子少量含む。
4 にぶい黄褐色シルト　しまり中。粘性中。
炭化物粒子微量含む。

SK617

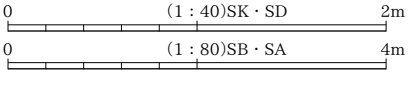


SK617
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。灰白色土ブロック中量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色土ブロック少量含む。
3 黒褐色粘質シルト　しまり強、粘性強。
4 灰褐色シルト　しまり強、粘性中。黒褐色土ブロック中量含む。

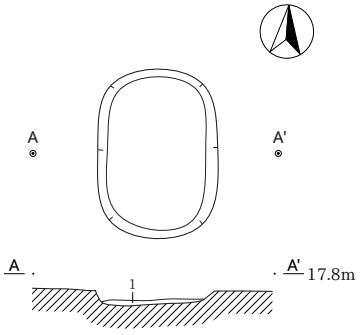
SK618



SK618
1 黒褐色土シルト　しまり弱、粘性中。
2 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。

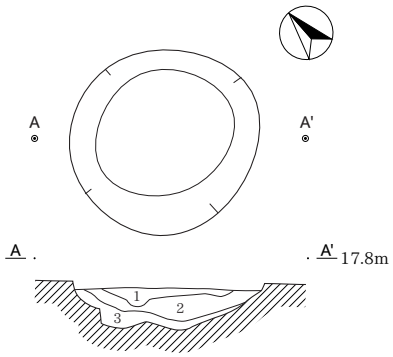


SK619



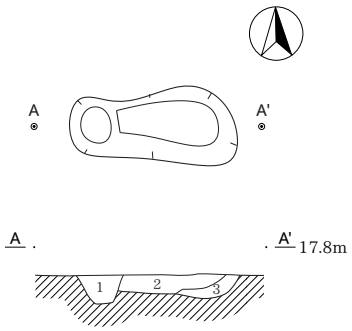
SK619
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
　灰白色土粒子少量含む。

SK626



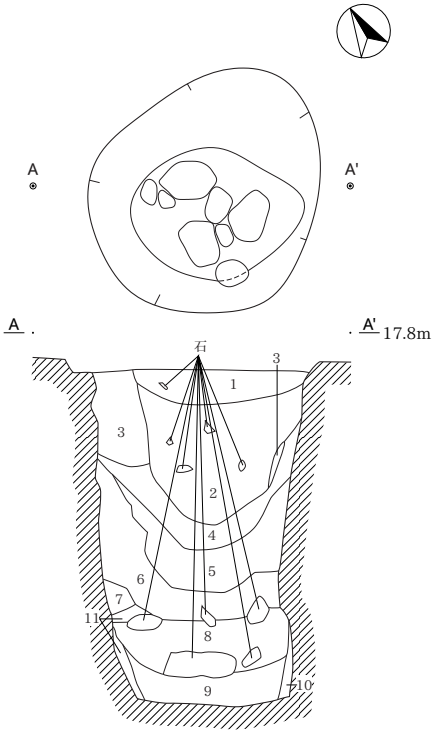
SK626
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰白色シルト　しまり中、粘性中。
3 にぶい黄橙色粘質シルト　しまり強、粘性強。

SX662

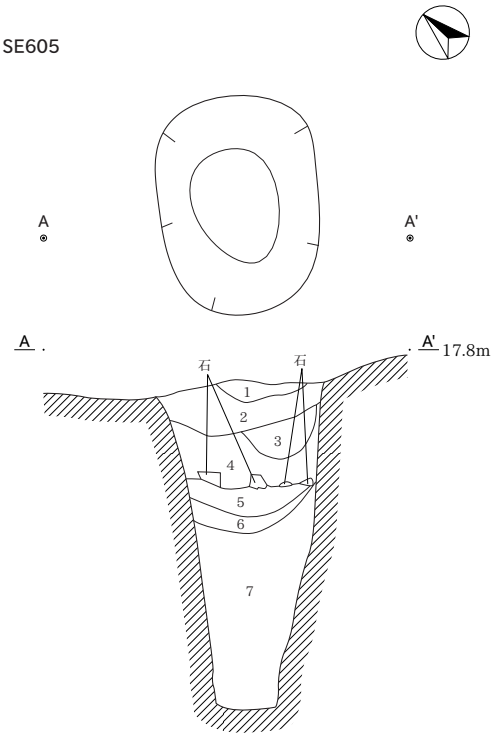


SX662
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。
　炭化物粒子少量含む。
2 灰黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
3 灰黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。

SE604

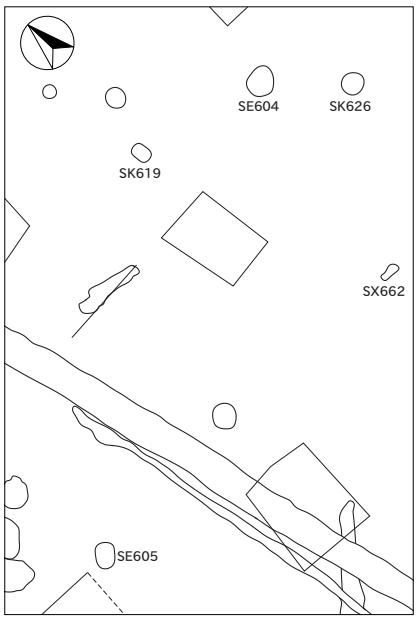


SE605



SE604
1 灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。灰白色ブロック少量含む。
2 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。礫中量、黄褐色土ブロック少量含む。
3 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。2層土に類似、礫は含まない。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。明褐灰色シルトブロック中量含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
6 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色土ブロック多量含む。
7 灰褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。
8 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色土ブロック多量含む。
9 黒色粘質シルト　しまり弱、粘性強。炭化物粒子中量含む。
10 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色土粒子・ブロック中量含む。
11 灰白色粘土　しまり強、粘性強。褐色土ブロック少量含む

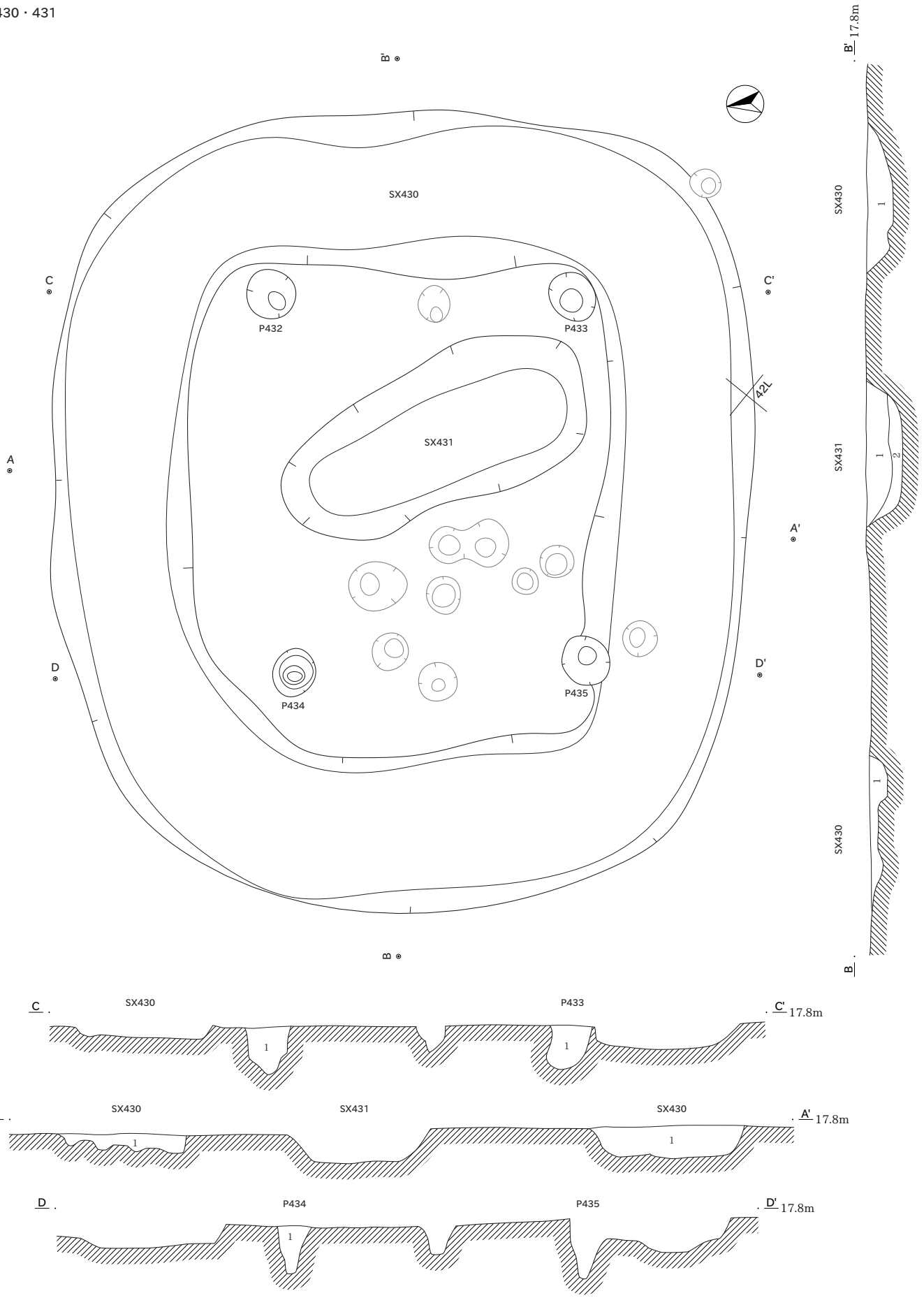
SE605
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物粒子多量含む。
2 褐灰色粘質シルト　しまり弱、粘性強。褐色土ブロック中量、炭化物粒子少量含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物粒子中量含む。
4 褐灰色粘質シルト　しまり弱、粘性強。褐色土ブロック少量、炭化物粒子微量含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色土ブロック微量含む。
6 暗褐色シルト　しまり強、粘性中。
7 にぶい黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。灰白色土ブロック少量含む。



0　（1：40）　2m

畑作溝Ⅱ-2群
SK734
P382
P381
P380
P379
P378
SB377
SD909
SK736
SD908
P383
P384
P385
P386
P387
SE450
SE451
SE426
SE449
SE448
SI438
41J
42J
41K
42K
41L
42L
17.6
17.7
P1709
P1710
P1714
SB1708
P453
P1713
P1712
SD606
P436
SD437
SX430
SX431
SE428
SE427
0
(1:100)
5m

SX430・431



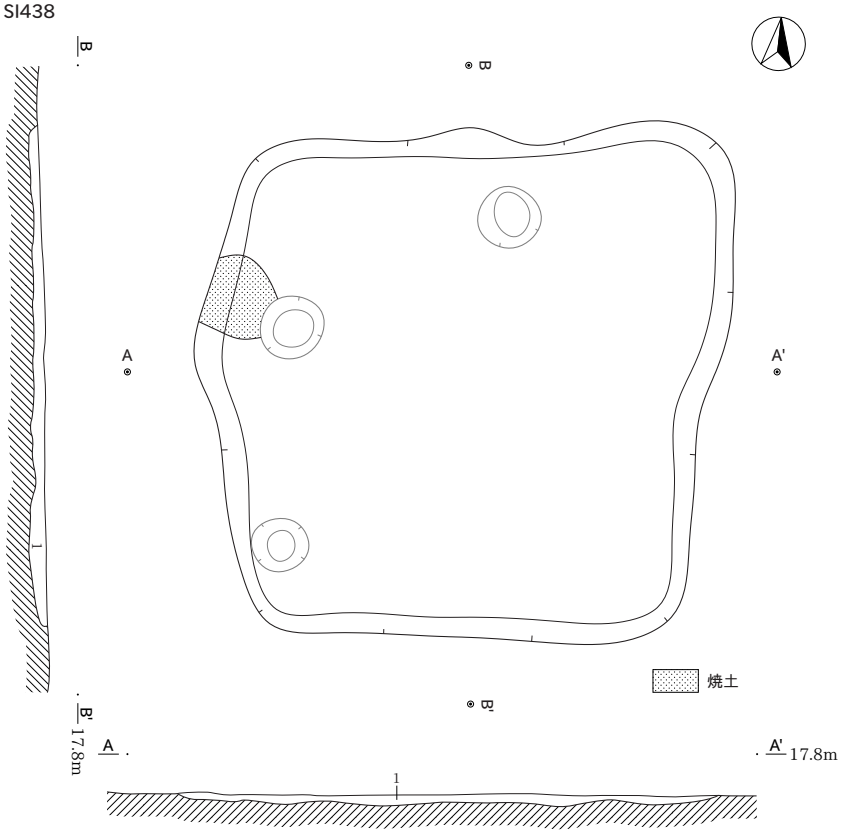
SX430
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトをブロック状に含む。

SX431
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰色シルト　　しまり中、粘性中。

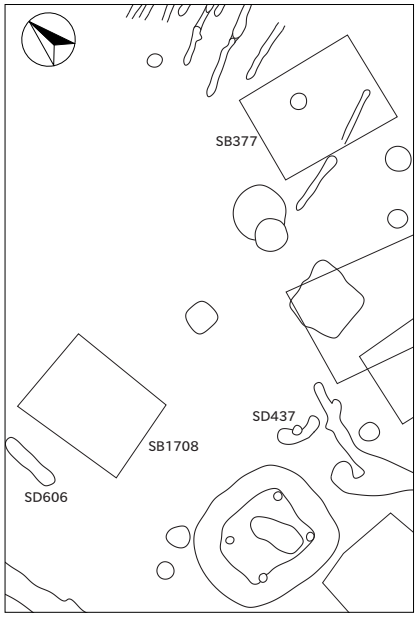
P432、P433、P434共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

0　（1：40）　2m

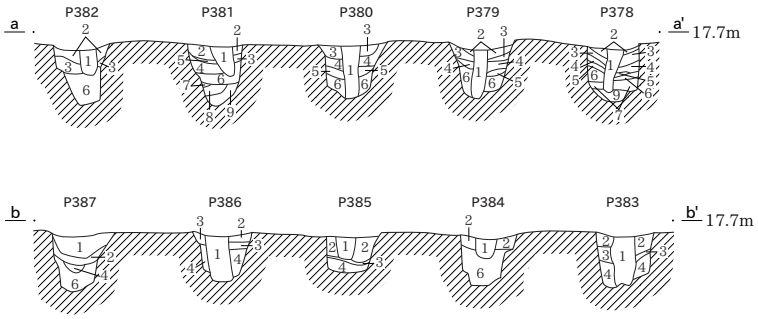
SI438



SI438
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。φ5mm以下の炭化物含む。

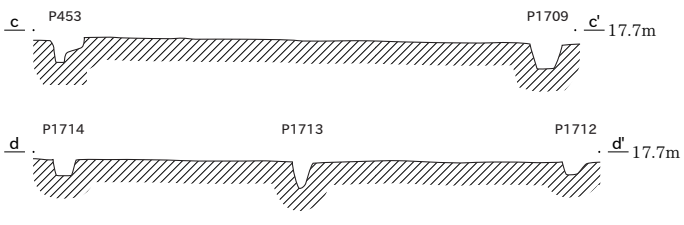


SB377

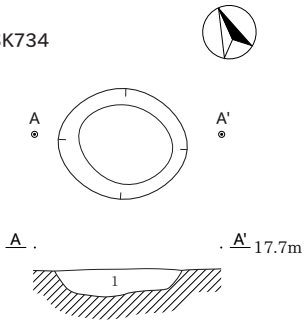


SB377
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルト粒子多量、焼土粒子微量含む。（柱痕）
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルト粒子少量、炭化物微量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。橙色シルト粒・淡黄色シルトブロック少量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルトブロック多量含む。
5 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルトブロック多量含む。
6 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。青灰色シルトブロック多量、橙色粒子を少量含む。
7 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルトブロック多量、青灰色シルトブロックを多量含む。
8 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄色シルト粒子微量含む。
9 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、橙色シルト粒子微量含む。

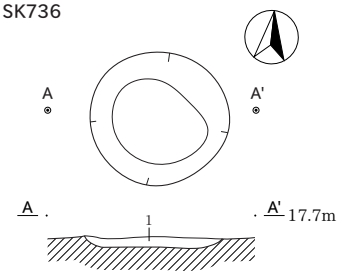
SB1708



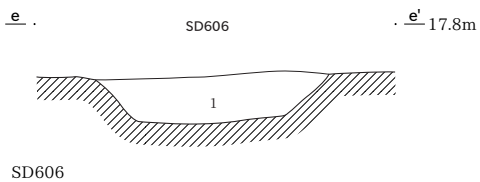
SK734



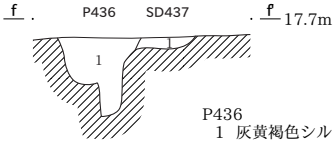
SK736



SK734・736共通
1 暗褐色シルト　しまりなし、粘性なし。
淡黄褐色シルト粒子微量、炭化物少量含む。



SD606
1 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。灰白色ブロック中量含む。



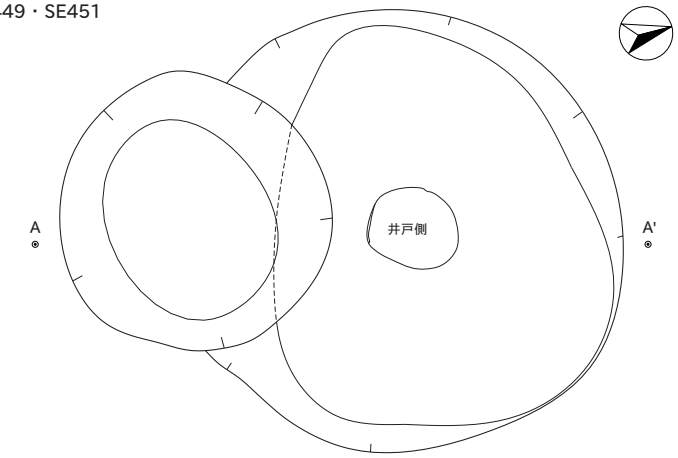
P436
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

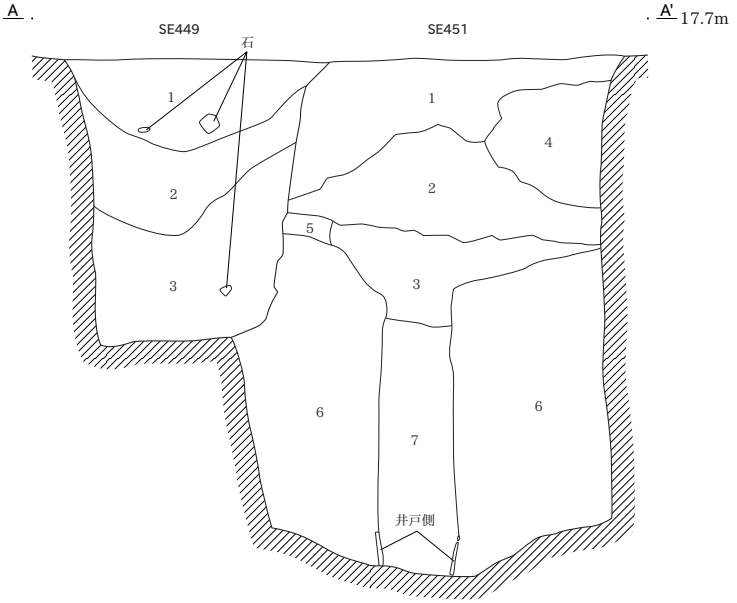
SD437
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

0　(1：40)SI・SK・SD　2m

0　(1：80)SB　4m

SE449・SE451

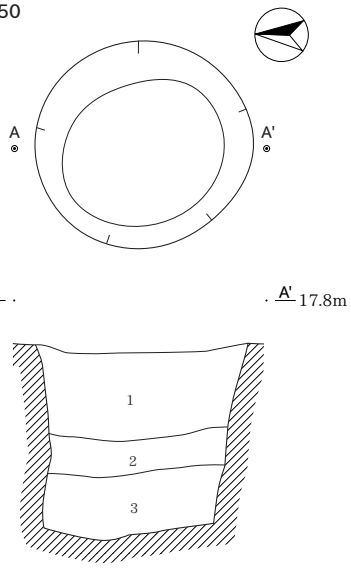




SE449
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。φ1cm程度の礫、φ5mm以下の炭化物含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトをブロック状に含む。
3 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。1層より炭化物を多く含む。

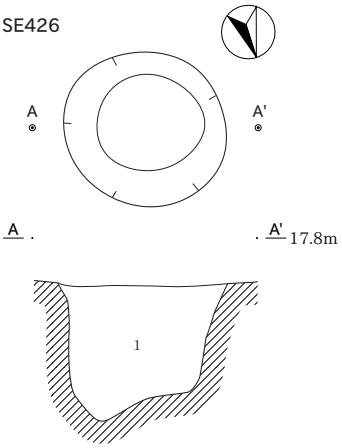
SE451
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルト、浅黄橙色シルトをブロック状に含む。
φ20mm以下の炭化物多量に含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。1層より黄橙色シルト、浅黄橙色シルトの割合高い。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。φ5mm以下の炭化物少量、黄橙色シルトをブロック状に含む。
4 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトをブロック状に含む。
5 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトをブロック状に含む。
6 青灰色砂　しまりなし、粘性なし。酸化鉄を多量に含む。
7 灰色砂　しまりなし、粘性なし。

SE450



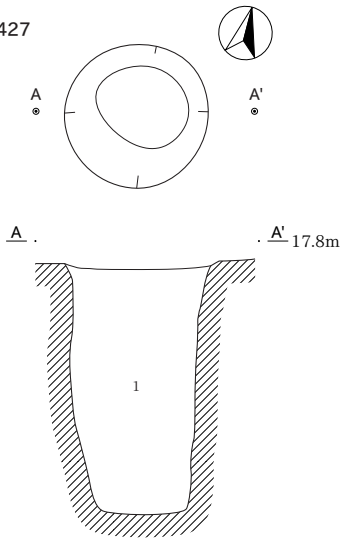
SE450
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。明黄褐色シルトをブロック状に含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。2層より明黄褐色シルトの割合高い。

SE426



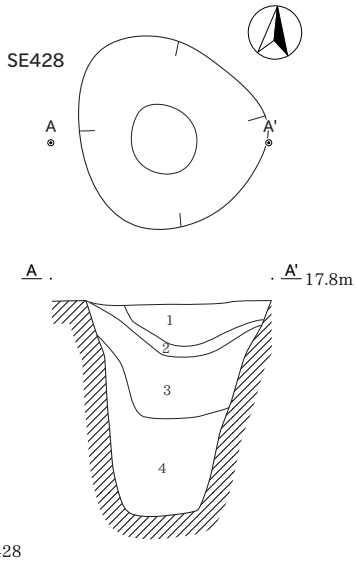
SE426
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

SE427



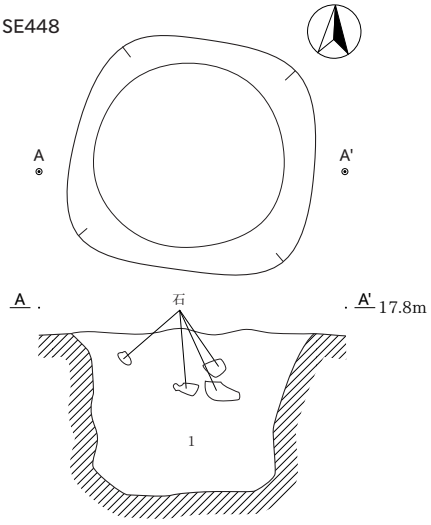
SE427
1 黒褐色シルト　しまり弱、粘性中。

SE428

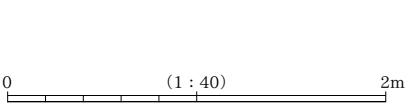


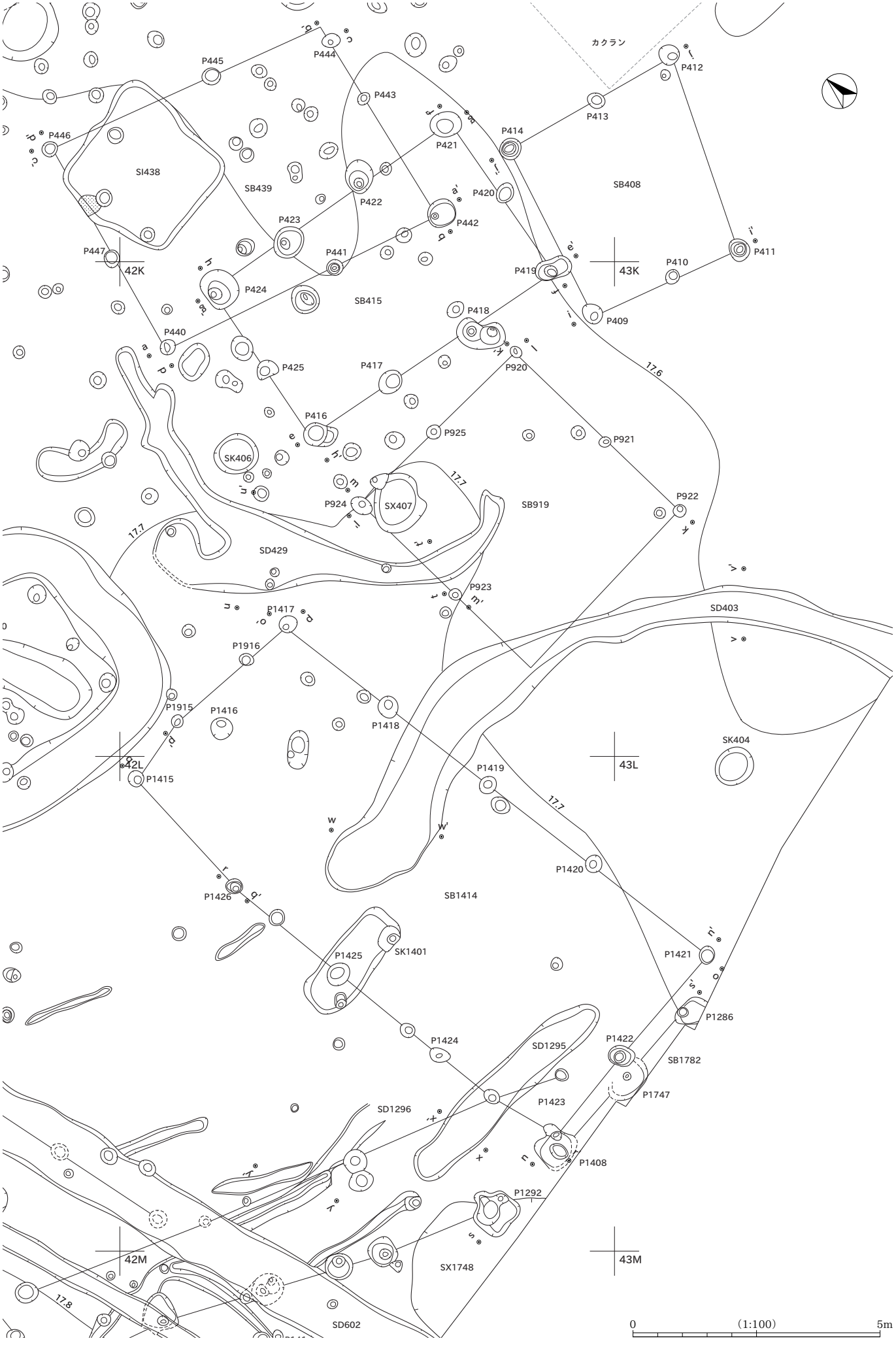
SE428
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 黒色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量含む。
3 褐灰色シルト　黄褐色シルトをブロック状に含む。
4 褐灰色砂質シルト　しまり弱、粘性中。

SE448

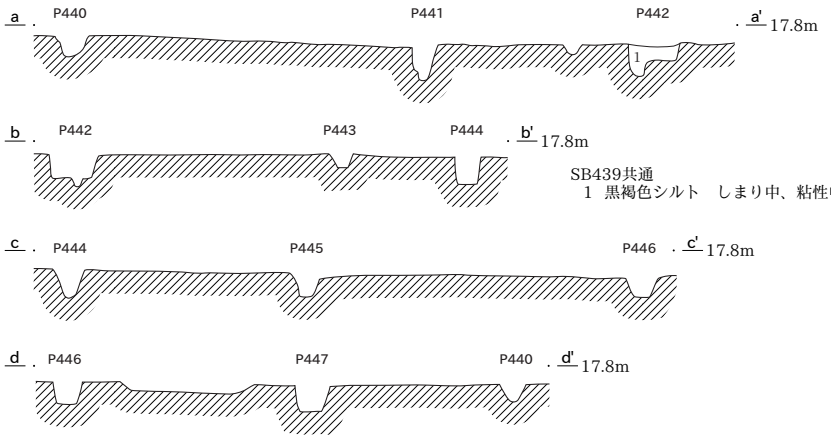


SE448
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

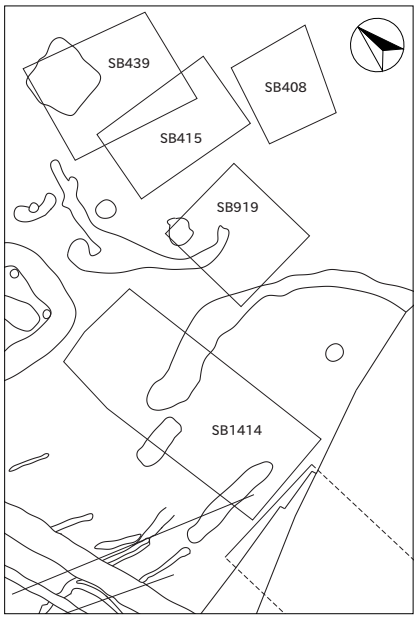



カクラン
P412
P413
P414
P421
P420
P442
P422
P423
P441
P424
P445
P444
P443
P446
SI438
SB439
SB408
P447
42K
43K
P411
P410
P419
P409
SB415
P418
P440
P425
P417
P920
17.6
P416
P925
P921
SK406
17.7
P924
SX407
SB919
P922
SD429
P923
P1417
SD403
P1916
P1915
P1416
P1418
SK404
42L
43L
P1415
P1419
P1420
P1426
SB1414
P1425
SK1401
P1421
P1286
P1424
SD1295
P1422
SB1782
P1747
P1423
SD1296
P1408
P1292
42M
43M
SX1748
17.8
SD602
0
(1:100)
5m

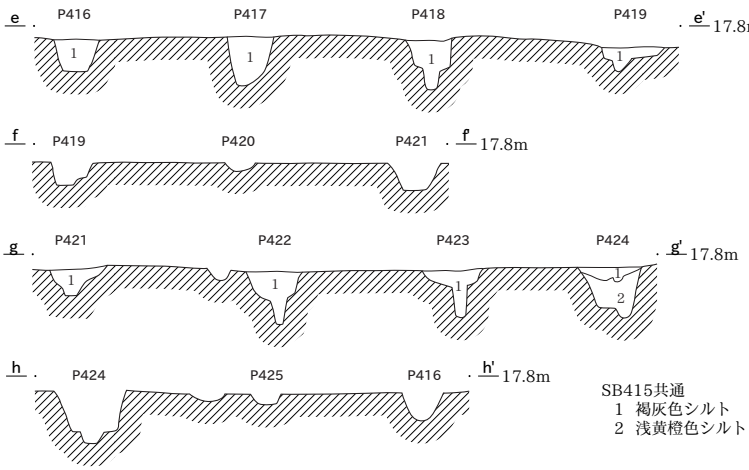
SB439



SB439共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

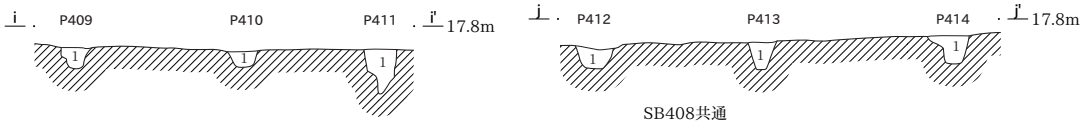


SB415



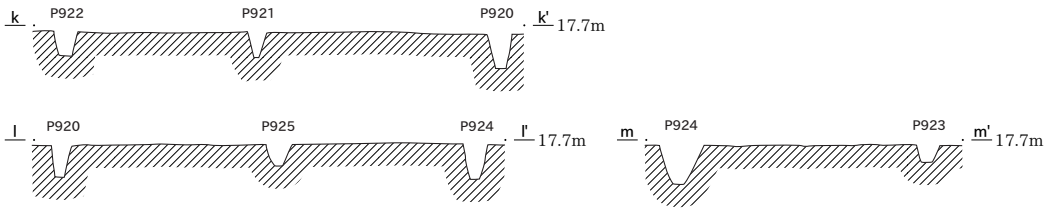
SB415共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトをブロック状に含む。
2 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトをブロック状に含む。

SB408

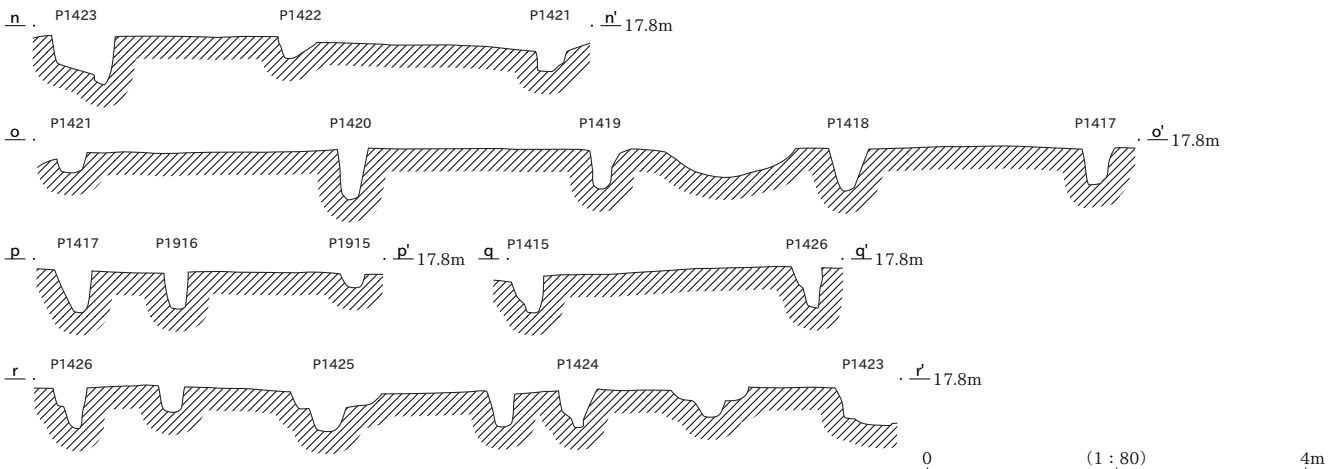


SB408共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

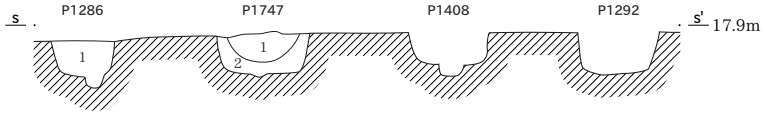
SB919



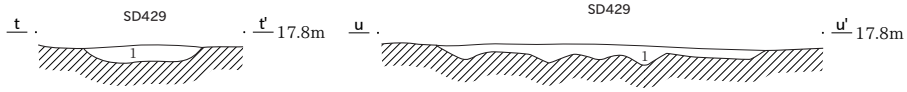
SB1414



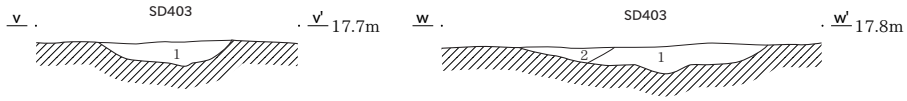
SB1782



SB1782共通
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルト粒子少量、炭化物を微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。淡黄褐色シルト粒子・ブロックを多量含む。

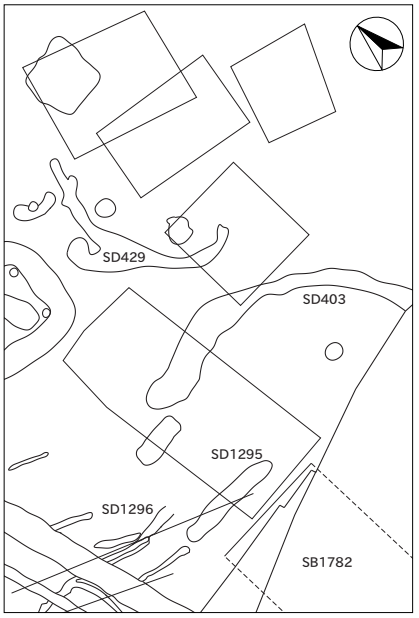


SD429
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

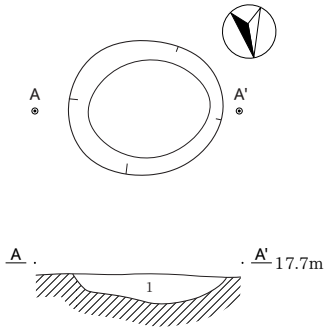


SD403
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。1層よりやや明るい色調。

SD1295・1296共通
1 暗褐色シルト　しまりなし、粘性なし。淡黄色シルト粒少量含む。
2 淡黄褐色シルト　しまりなし、粘性なし。暗褐色土を斑状に含む。

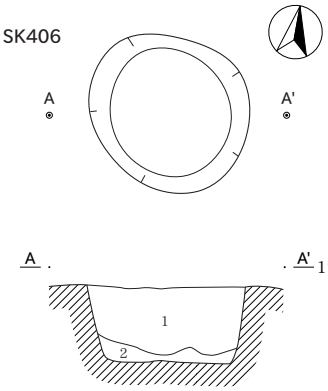


SK404



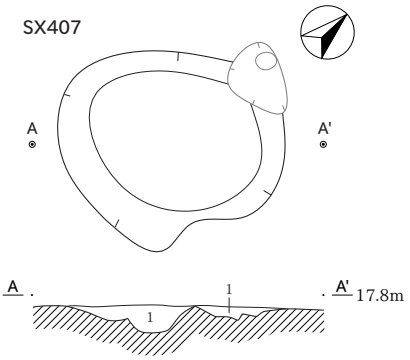
SK404
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。

SK406



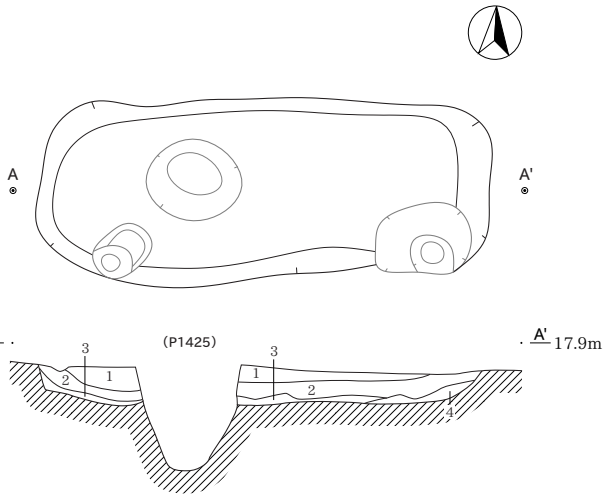
SK406
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物を多量に含む。

SX407

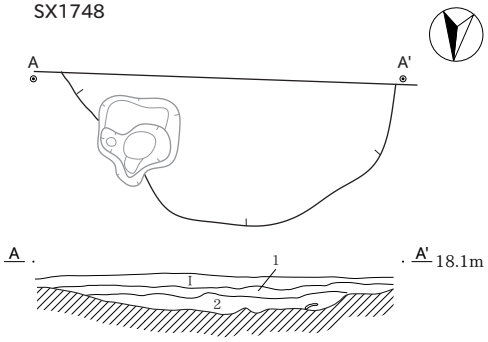


SX407
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
橙色シルト（焼土）をブロック状に含む。
φ20mm以下の炭化物を多量に含む。

SK1401

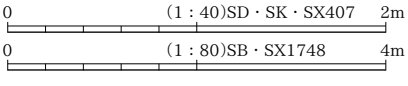


SX1748



SK1401
1 暗褐色シルト　しまりなし、粘性なし。淡黄色シルトブロックを少量含む。
2 暗褐色シルト　しまりなし、粘性なし。淡黄色シルトブロックを微量含む。
3 暗褐色シルト　しまりなし、粘性なし。淡黄色シルトブロック・炭化物を少量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。淡黄色シルト粒子を多量に含む。

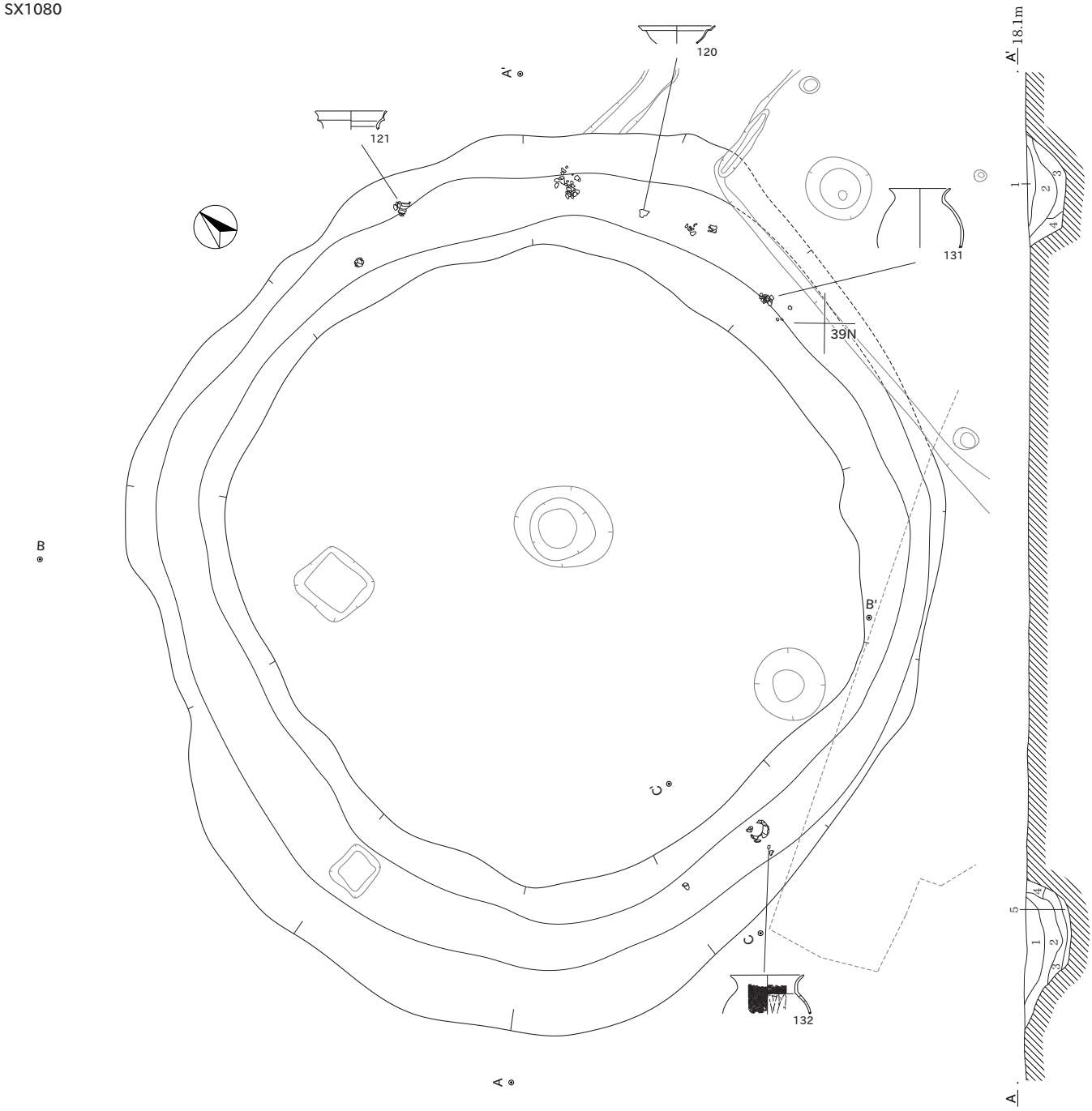
SX1748
1　浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
2　暗褐色シルト　しまり中、粘性中。



遺構分割図 21

SD1200
SX1369
SK1396
SI1395
17.5
17.6
17.7
38M
SI1356
39
SB1840
SK1803
SK1806
SK1805
SK1807
SK1802
SK1804
SK1817
SX1339
SX1336
SI1305
SD1370
17.8
17.7
SE1085
38N
39
SX1080
SE1086
SE1399
SE1083
SE1082
17.9
SK1081
SA1302
SK1084
0
(1:100)
5m

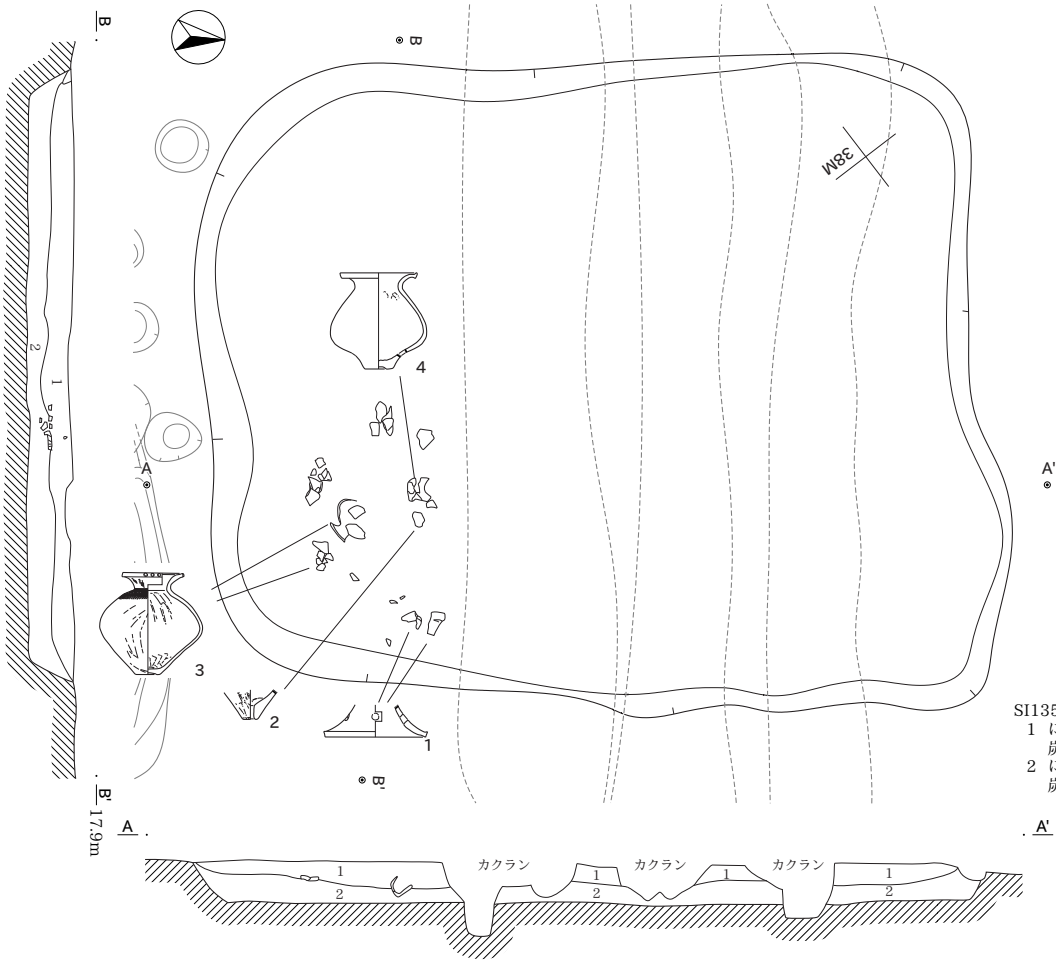
SX1080



SX1080
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、黄褐色シルトブロック微量含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物、黄褐色シルトブロック少量含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ1mmの黄褐色シルトブロック多量含む。
4 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ30mmの黄褐色シルトブロック多量含む。
6 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。
7 明褐色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄多量含む。
8 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色及び赤褐色シルトブロック多量含む。
9 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄少量含む。

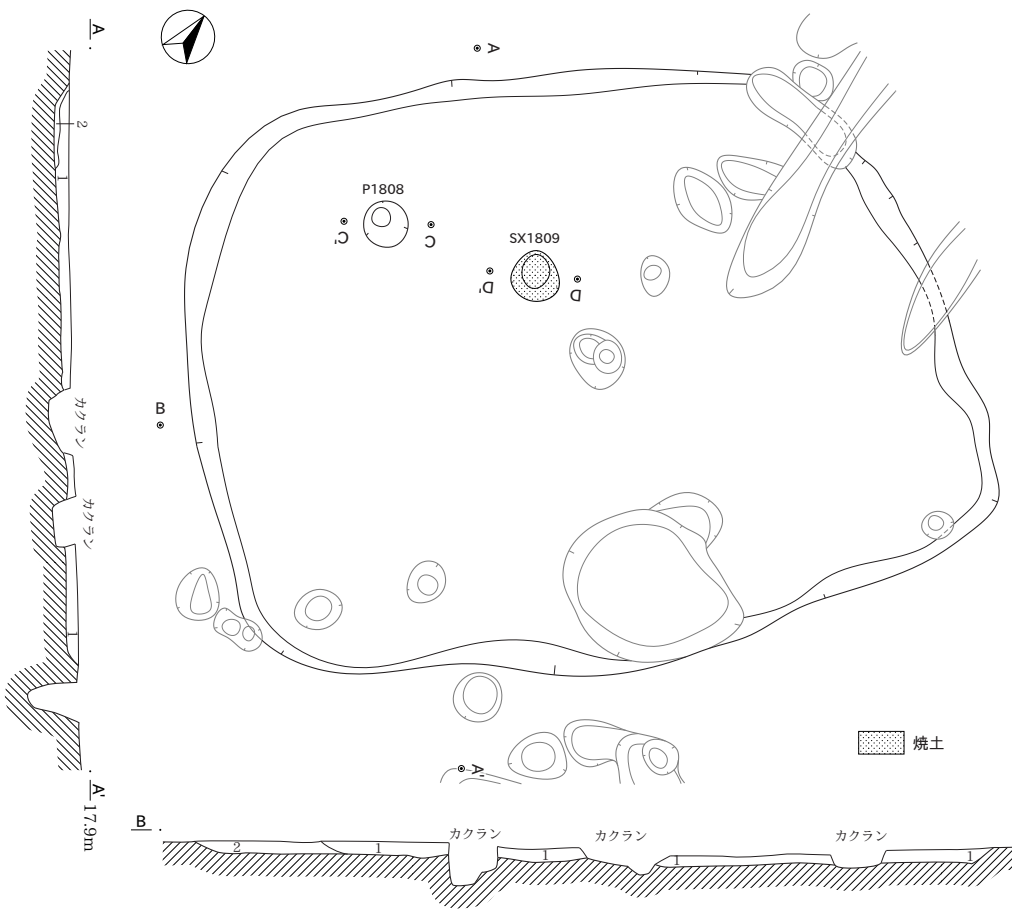
0　(1：40)セクションC-C'　2m
0　(1：80)　4m

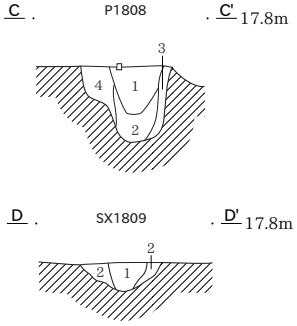
SI1356



SI1356
1 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物及び酸化鉄少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物及び酸化鉄微量含む。

SI1395

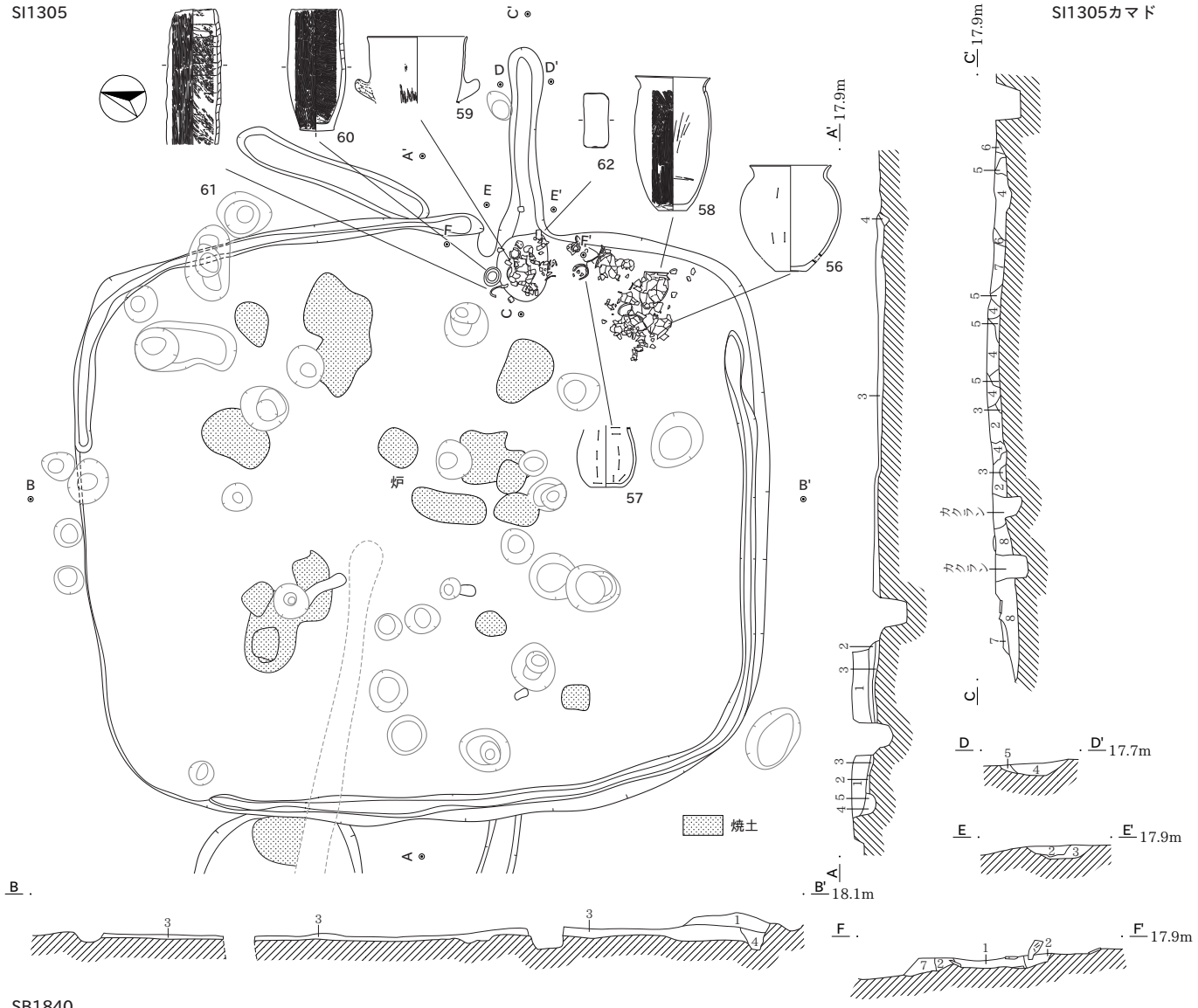


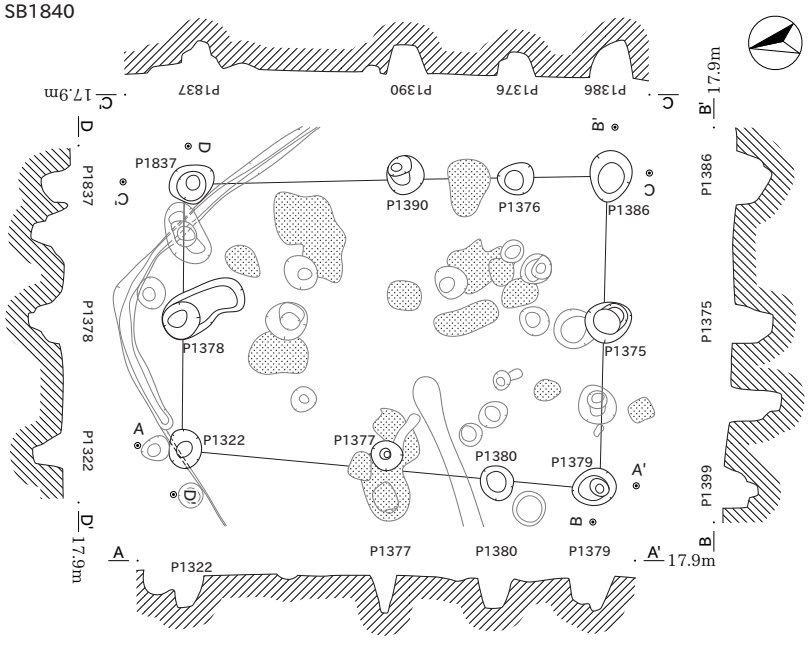


SI1395
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黒褐色シルトブロック少量含む。

B'　P1808・SX1809共通
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
炭化物粒少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物粒微量含む。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、
粘性中。1・2層土少量含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
1層土含む。

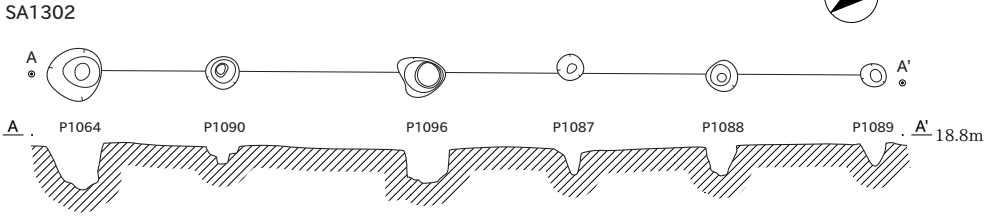
0　(1：30)P・SXセクション図1.5m
0　(1：40)SI1356　2m
0　(1：60)SI1395　3m





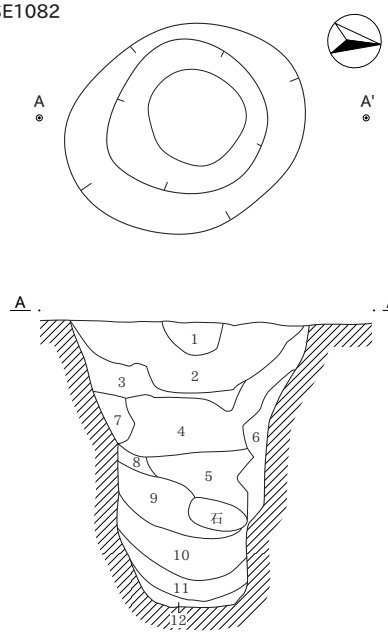
SI1305
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
φ5mm以下の炭化物少量、焼土粒多量含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
φ10mm以下の焼土ブロック多量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色及び黒褐色シルトブロック含む。
φ5mm以下の炭化物、φ10mm以下の焼土ブロック多量含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
φ5mm以下の炭化物少量、焼土粒微量含む。

SI1305カマド
1 明赤褐色シルト　しまり中、粘性弱。
2 にぶい赤褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック含む。
4 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量含む。
5 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黒褐色シルトブロック微量含む。
6 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
7 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒含む。
8 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。



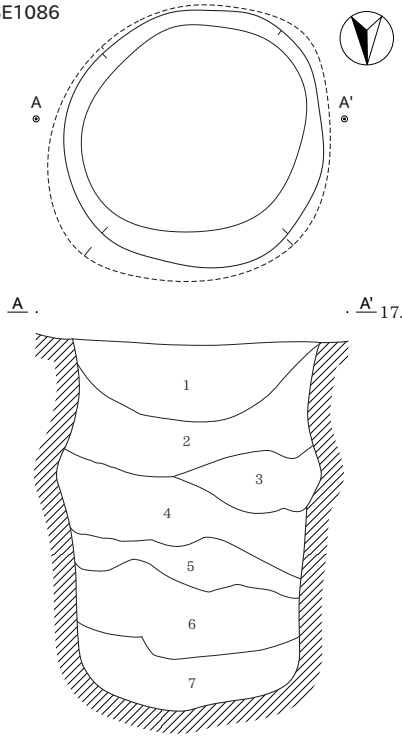
0　(1：80)SB・SA　4m
0　(1：60)SI　3m
0　(1：30) セクション図　1.5m
SIカマド

SE1082



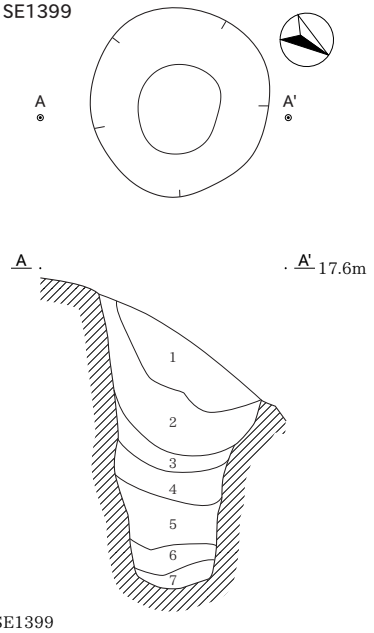
SE1082
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
5 褐色シルト　しまり中、粘性中。
6 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
7 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
8 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
9 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
10 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
11 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性強。
12 黒褐色シルト　しまり中、粘性強。

SE1086



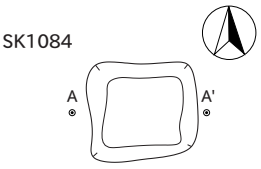
SE1086
1 黄褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 褐色シルト　しまり中、粘性中。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
6 褐色シルト　しまり中、粘性中。
7 黄灰色粘土　しまり中、粘性強。

SE1399



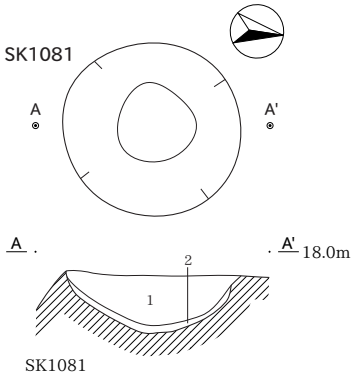
SE1399
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
　にぶい黄褐色シルトブロック含む。
6 黒色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物主体。
7 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物少量含む。

SK1084



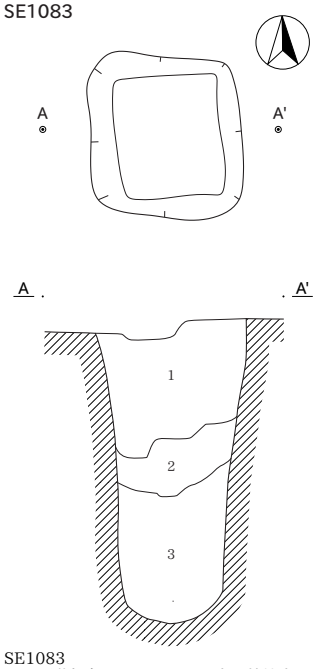
SK1084
1 褐色シルト　しまり強、粘性強。
　酸化鉄含む。
2 黒褐色シルト　しまり強、粘性強。
　酸化鉄微量含む。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK1081



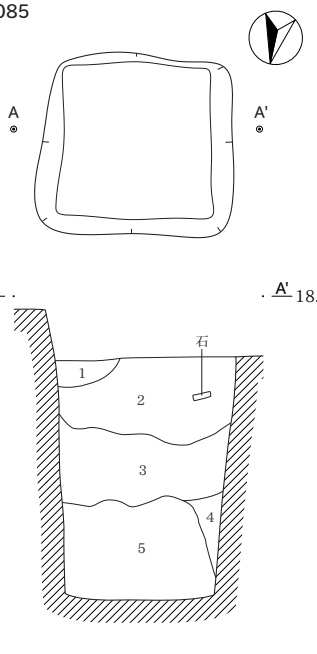
SK1081
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SE1083



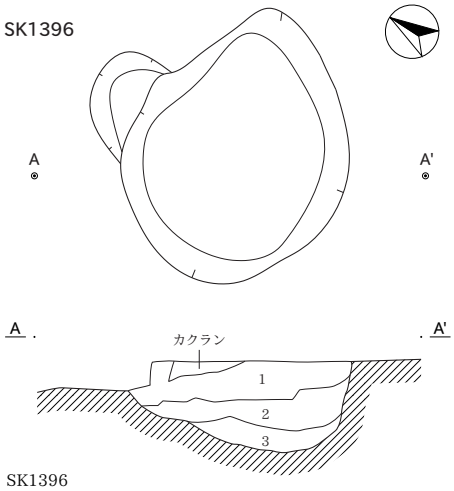
SE1083
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SE1085

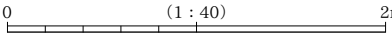


SE1085
1 灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　黄褐色シルトブロック含む。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
5 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

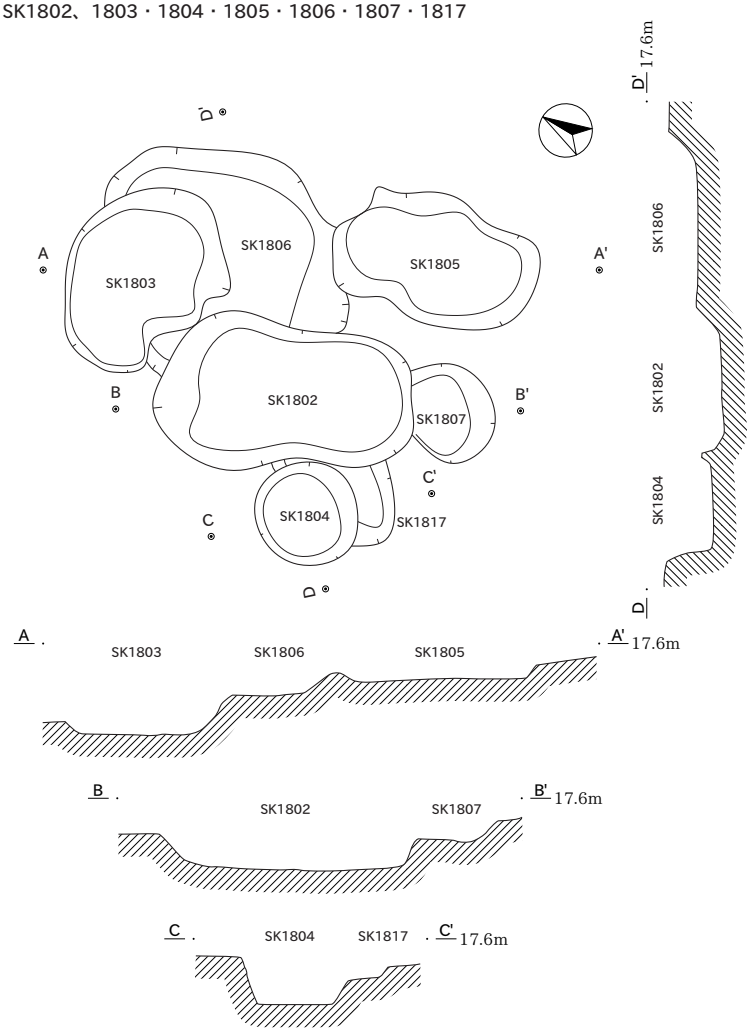
SK1396



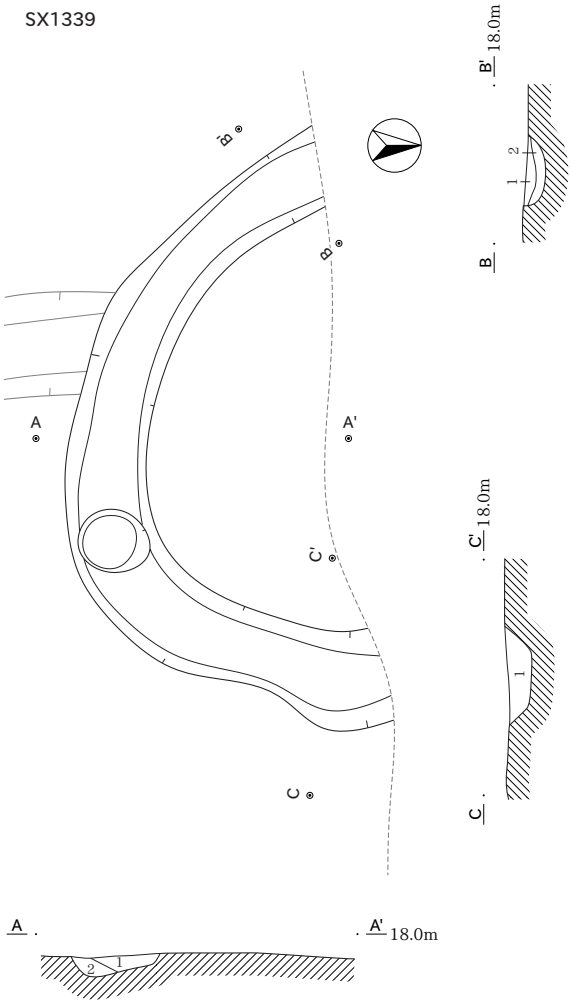
SK1396
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。



SK1802、1803・1804・1805・1806・1807・1817

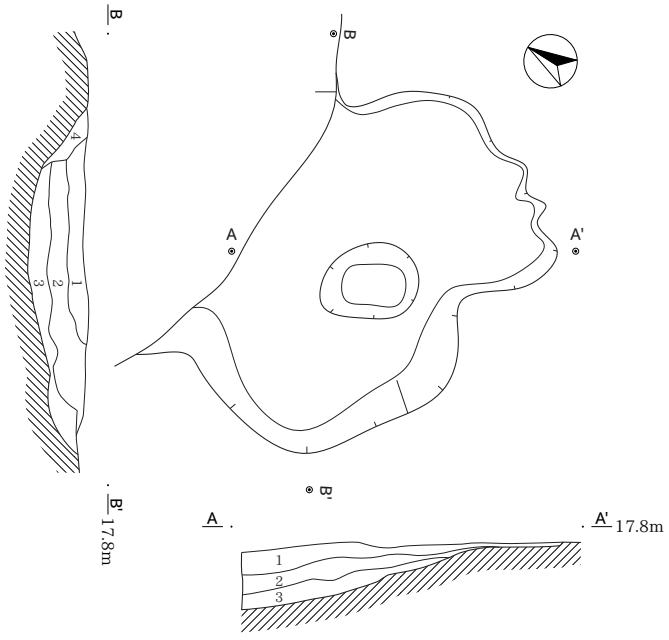


SX1339



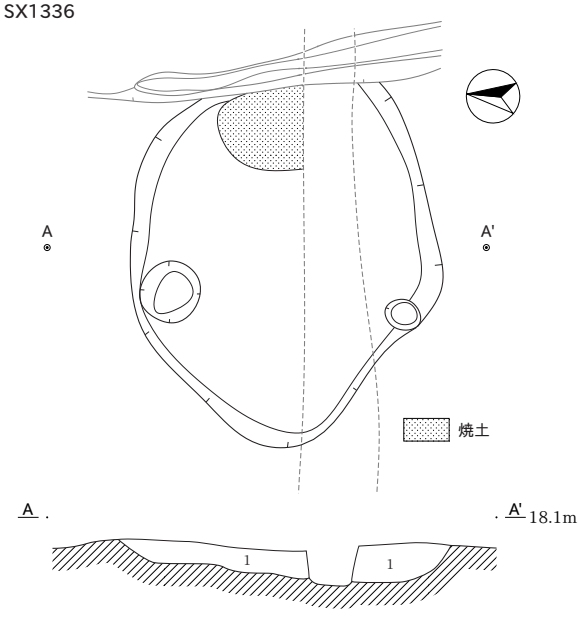
SX1339
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SX1369

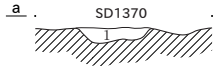


SX1369
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SX1336



SX1336
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。



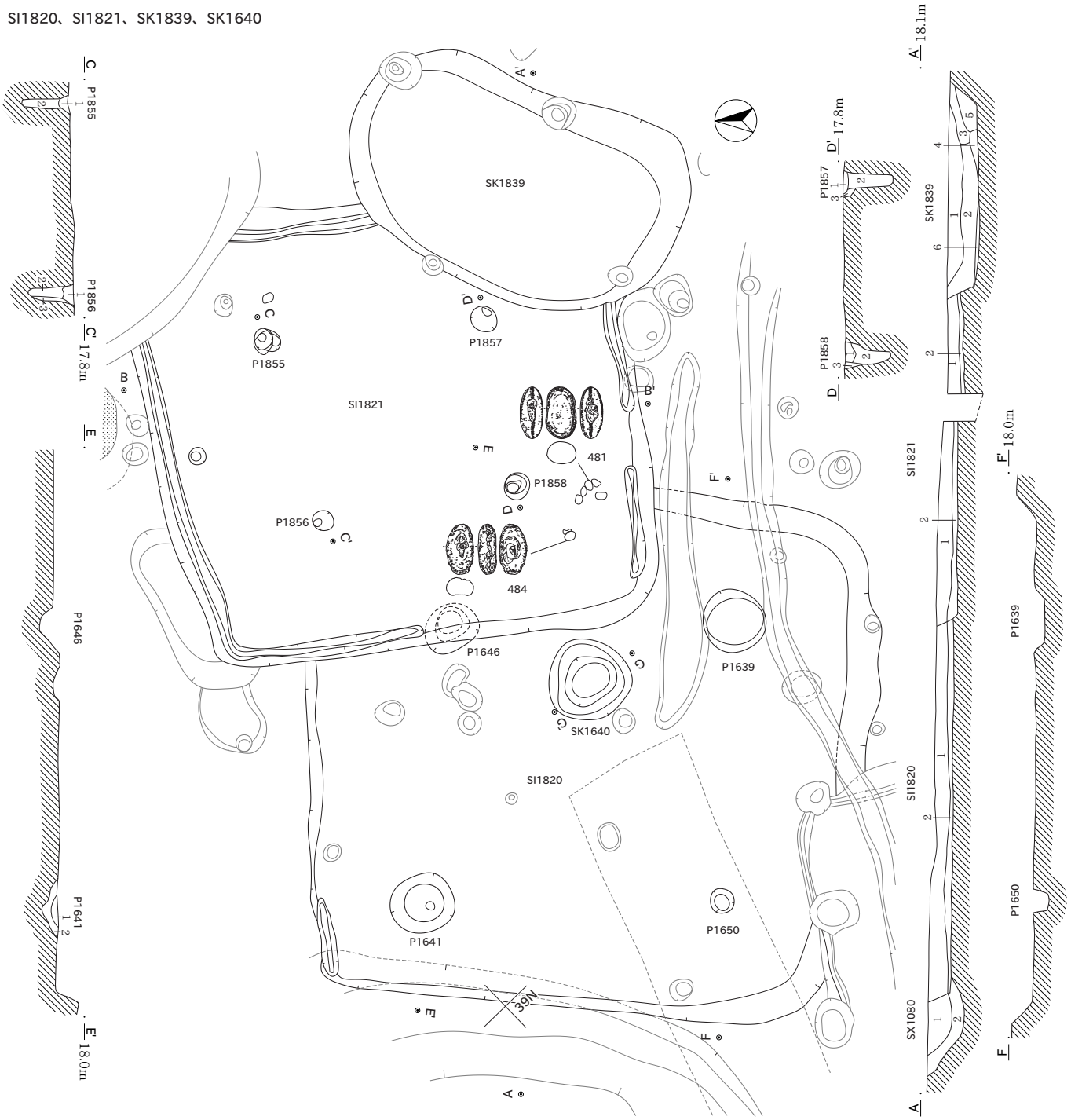
SD1370
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。

SD1370
(1：40)SX1336・SX1339　2m
(1：60)SK・SX1369　3m

遺構分割図 22

39L
40L
39M
40M
39N
40N
17.8
17.7
17.9
18.0
P1483
P1484
P1485
P1486
P1487
P1488
SD893
SB1482
SD607
SB1887
SD1825
SD1826
SD1849
SD1850
SD1851
SD1852
SE1854
SD1585
SD1586
SD1833
SD1834
SD1835
SD1832
SD1829
SD1842
SD1843
SD1844
SD1845
SD1846
SD1847
SD1848
SD1589
SK1899
SB1760
SB1452
SB1460
SK1822
SX1823
SE1864
SE1853
SK1886
SK1839
SI1821
SD1428
SK1824
SD1602
SD1601
SK1640
SI1820
SK1562
SK1620
SB1626
SI1615
0
(1:100)
5m

SI1820、SI1821、SK1839、SK1640



SI1820
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック微量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黒褐色シルトブロック少量含む。

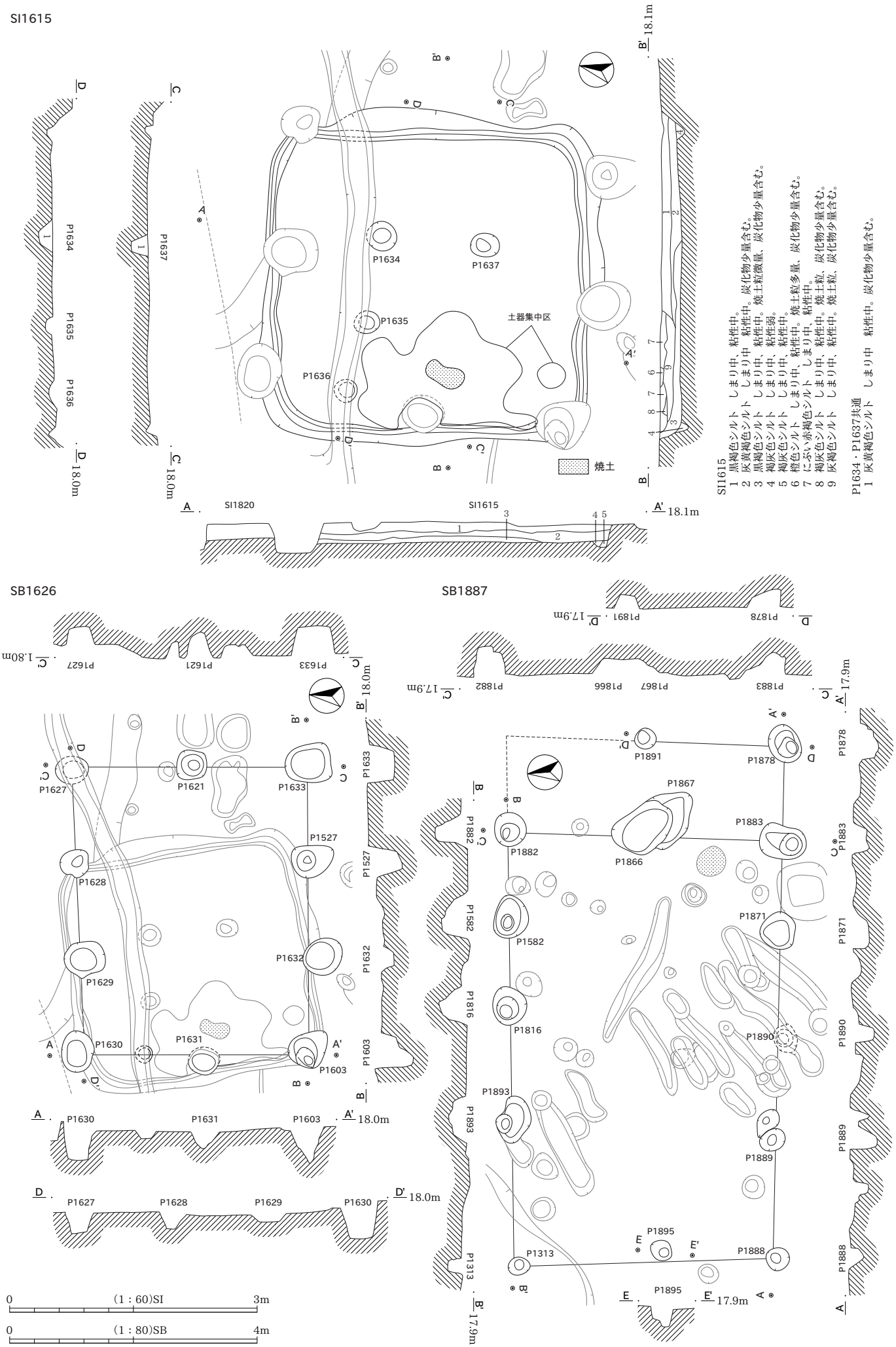
SI1821
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量含む。
2 褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK1839
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。φ1mm以下の炭化物多量、焼土粒少量含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック多量含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック含む。
6 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物多量含む。

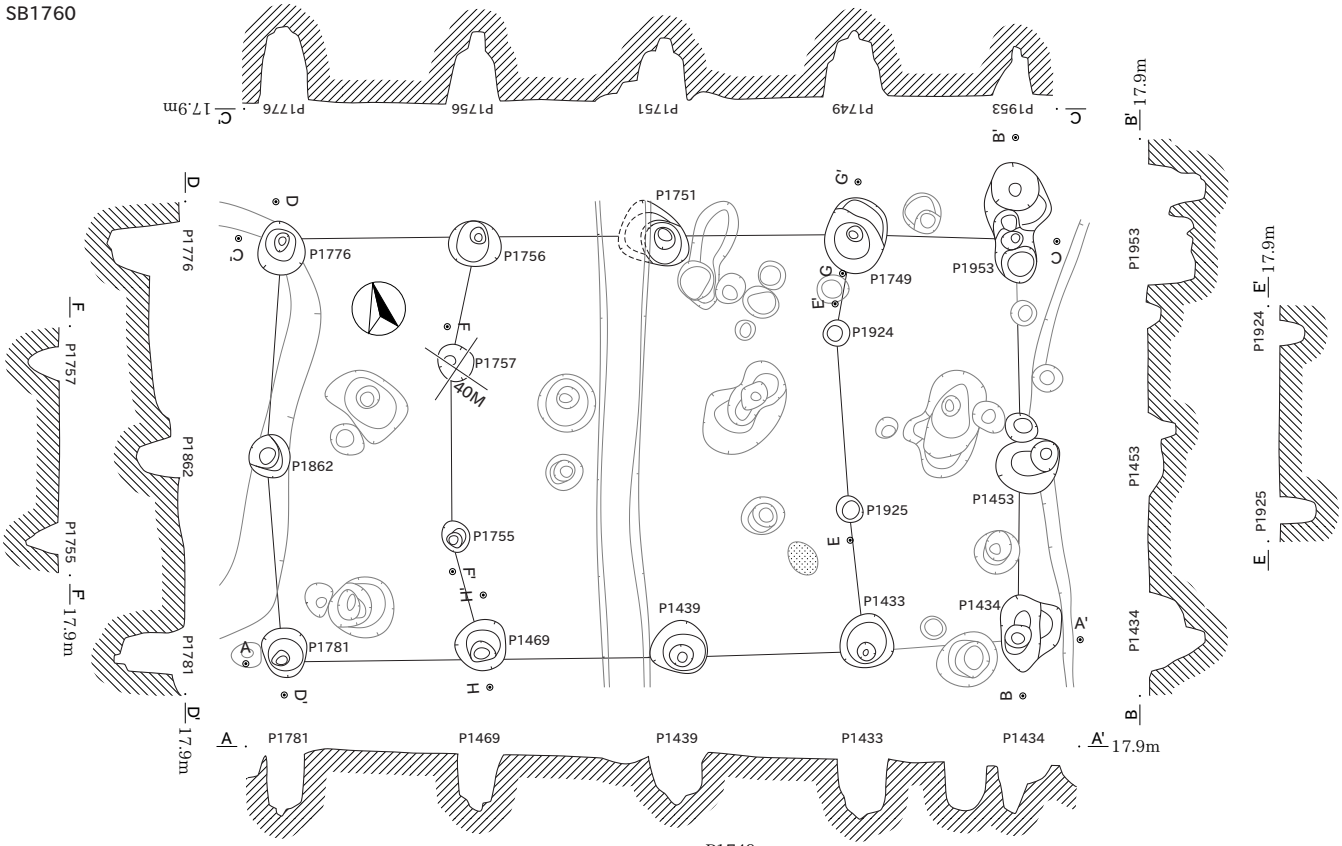
SK1640・P1641共通
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

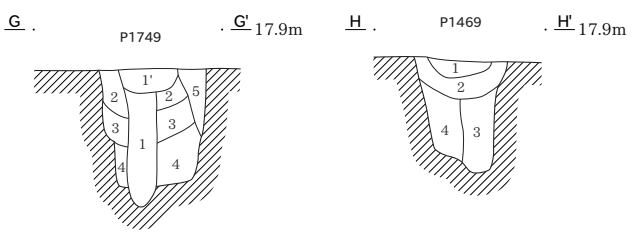
P1855～1858共通
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。φ10mm以下の炭化物、焼土粒多量含む。
2 灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。φ5mmの炭化物少量含む。
3 明黄褐色シルト　しまり強、粘性中。

0　(1：40) SK1640　2m
0　(1：80)　4m


SI1615
P1634
P1637
P1635
P1636
土器集中区
焼土
SI1820
SI1615
18.1m
18.0m
SI1615
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり中　粘性中。炭化物少量含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒微量、炭化物少量含む。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性弱。
5 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
6 橙色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒多量、炭化物少量含む。
7 にぶい赤褐色シルト　しまり中、粘性中。
8 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒、炭化物少量含む。
9 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒、炭化物少量含む。
P1634・P1637共通
1 灰黄褐色シルト　しまり中　粘性中。炭化物少量含む。
SB1626
P1627
P1621
P1633
P1628
P1527
P1629
P1632
P1630
P1631
P1603
18.0m
SB1887
P1878
P1891
P1867
P1883
P1882
P1866
P1582
P1871
P1816
P1890
P1893
P1889
P1895
P1313
P1888
17.9m
0　(1 : 60)SI　3m
0　(1 : 80)SB　4m

SB1760

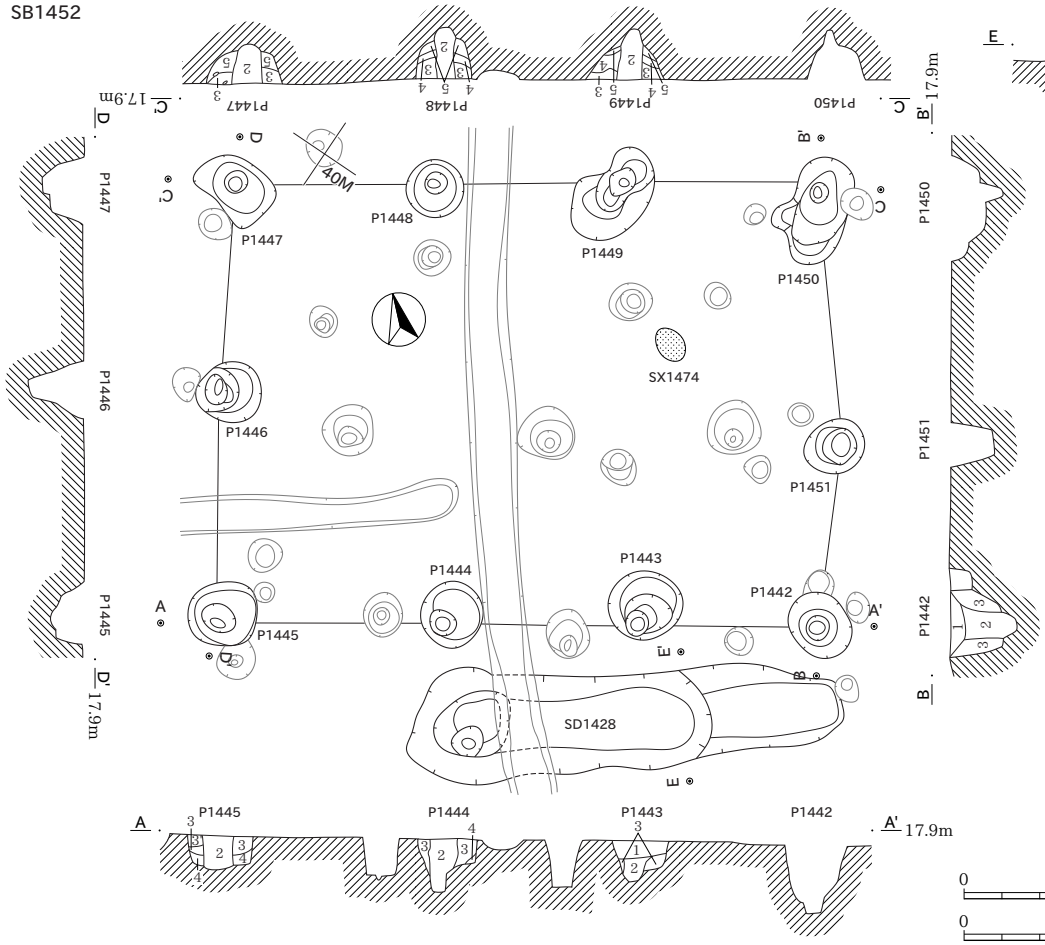


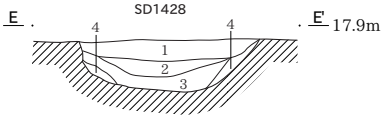


P1749
1' 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄褐色シルトブロック多量含む。
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄褐色シルトブロック少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
3 黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
4 黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。暗褐色シルトブロック含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。淡黄褐色シルトブロック含む。

P1469
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。リモナイト少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物少量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。

SB1452



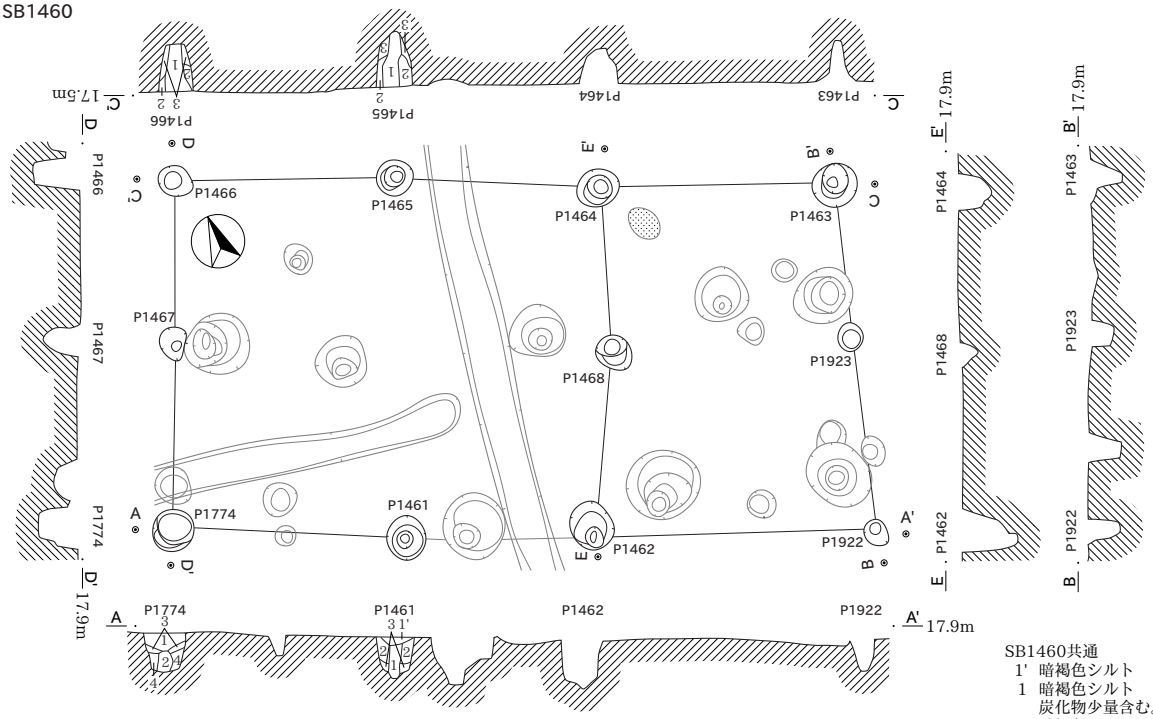


SD1428
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
焼土粒・炭化物少量含む。
2 暗灰褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
灰色シルトブロック多量含む。
3 暗灰褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック少量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄色シルトブロック多量含む。

SB1452共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
炭化物・焼土粒微量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄色シルトブロック多量含む。

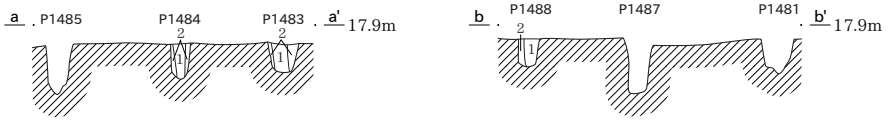
0　（1：40）P・SDセクション図　2m
0　（1：80）SB　4m

SB1460



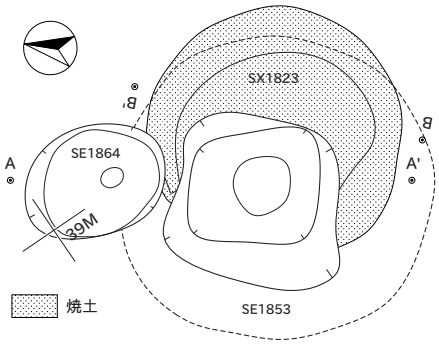
SB1460共通
1' 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
炭化物少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄色シルトブロック少量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄色シルトブロック多量含む。

SB1482

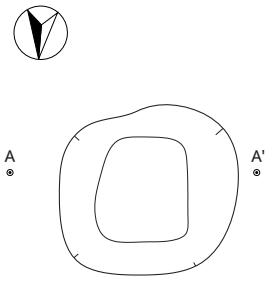


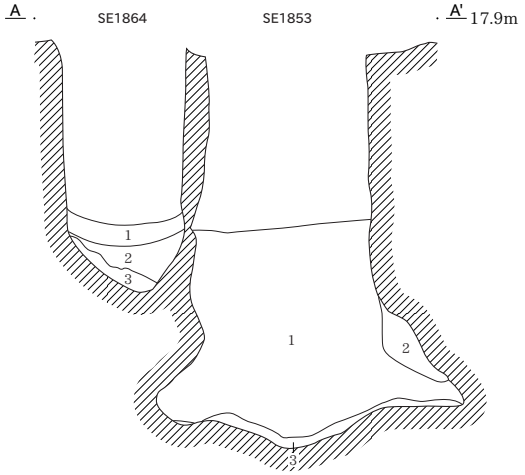
SB1482共通
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
淡黄色シルトブロック多量含む。

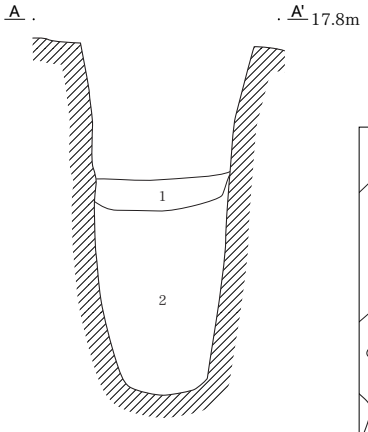
SE1853・1864、SX1823



SE1854



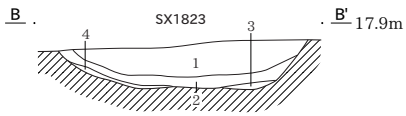




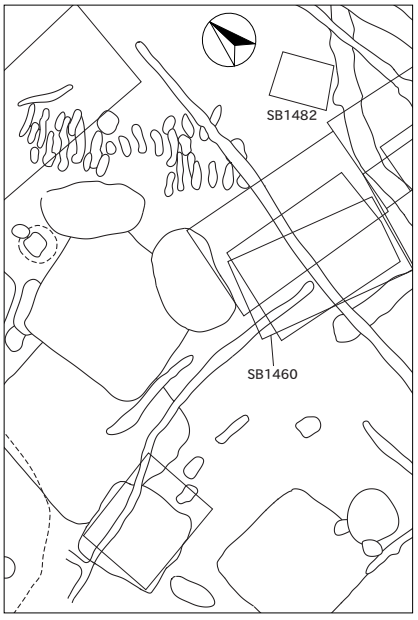
SE1853
1 褐灰色粘土　しまり中、粘性強。
黄褐色シルトブロック含む。
2 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性強。
炭化物多量に含む。

SE1864
1 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。
2 褐灰色粘土　しまり中、粘性強。
3 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。
褐灰色粘土ブロック少量含む。

SE1854
1 黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。
2 灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。
炭化物微量含む。



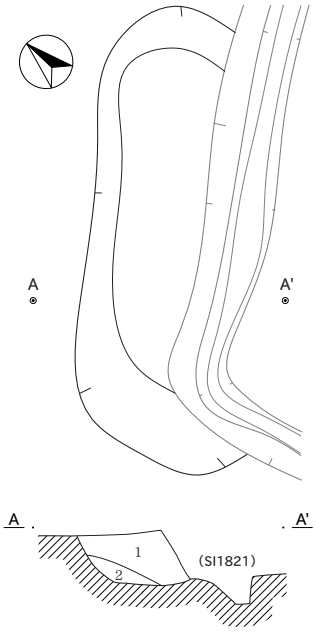
SX1823
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色シルトブロック多量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色シルトブロック少量含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
焼土ブロック・炭化物多量含む。
4 赤褐色シルト　しまり強、粘性弱。



0　(1：40)SE・SX　2m

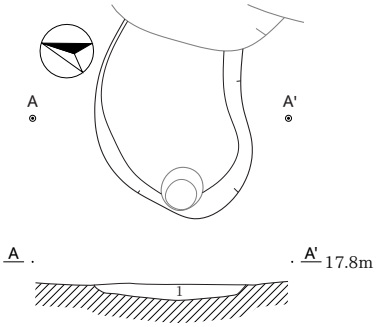
0　(1：80)SB　4m

SK1886



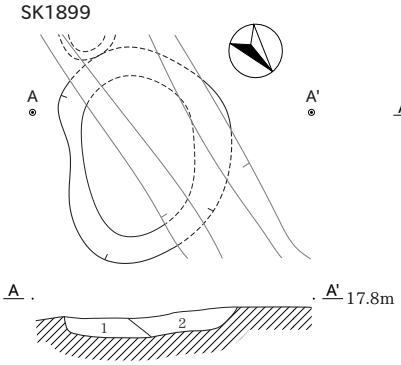
SK1886
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK1824



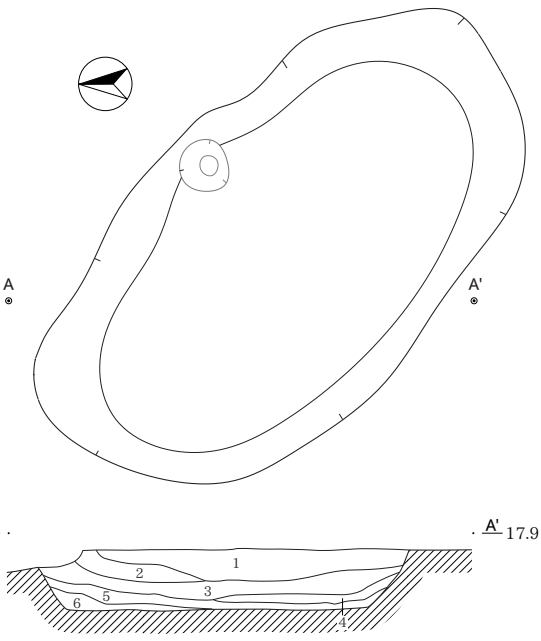
SK1824
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK1899



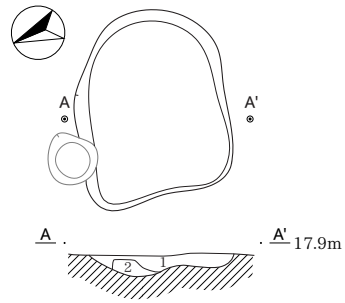
SK1899
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　φ5mm以下の炭化物含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　φ5mm以下の炭化物少量含む。

SK1822



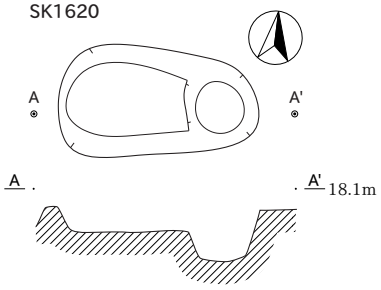
SK1822
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量含む。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
　焼土粒及びφ10mm以下の炭化物少量含む。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒微量含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量、炭化物多量に含む。
6 にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒及び炭化物少量含む。

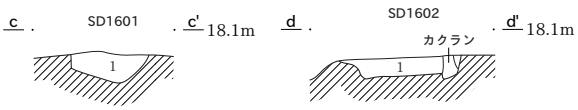
SK1562



SK1562
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。

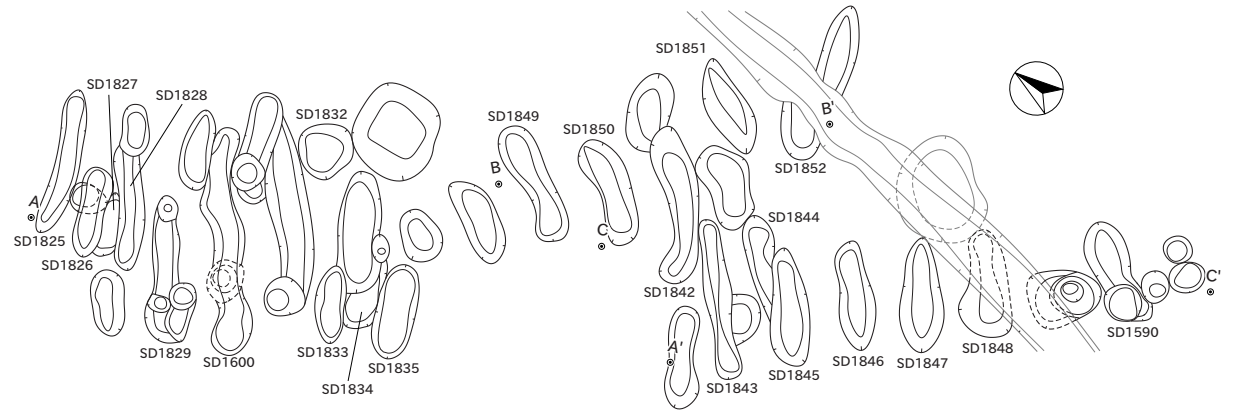
SK1620

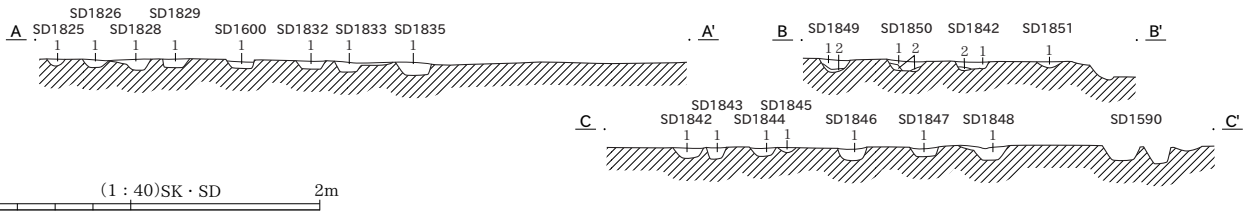


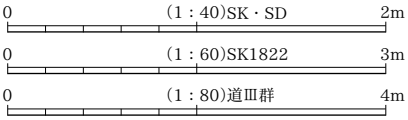


SD1601・1602共通
1 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。

道Ⅲ群





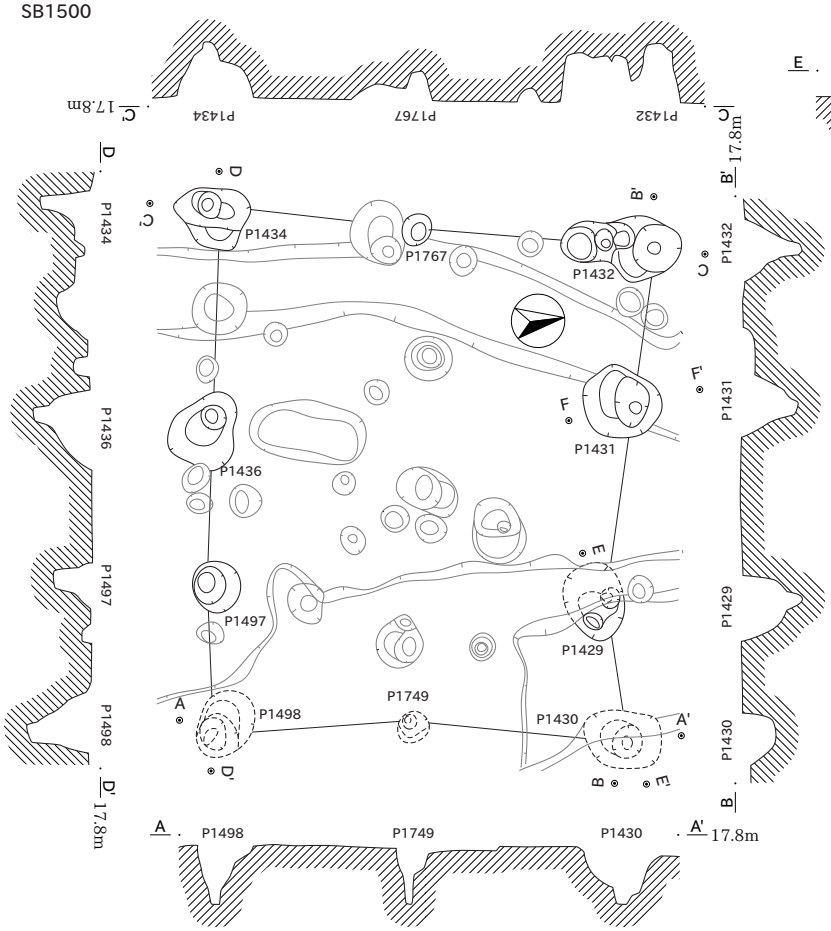


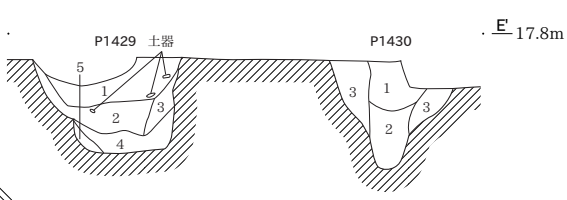
道Ⅲ群共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰褐色シルトブロック少量含む。

遺構分割図 23

P1284
SA1281
SB1500
P1283
SB1750
SD602
P1282
P1798
SA1797
SK1285
SB1762
P1799
SD1296
P1906
SD1742
SK1293
P1904
P1913
SD1290
P1800
P1907
SA1901
SB1761
41M
P1912
SB1905
SA1711
42M
P1903
P1914
P1908
SK1289
17.8
P1911
P1902
SD601
P1910
P1909
SD1409
SB1440
P1728
SX1404
SK1405
P1917
SA1423
P1729
SD607
P1790
SA1265
P1788
P1789
17.8
SB1470
SD879
41N
17.9
SK885
42N
SK1745
17.9
P894
SD893
0
(1:100)
5m

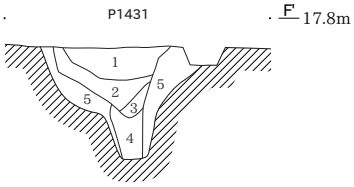
SB1500





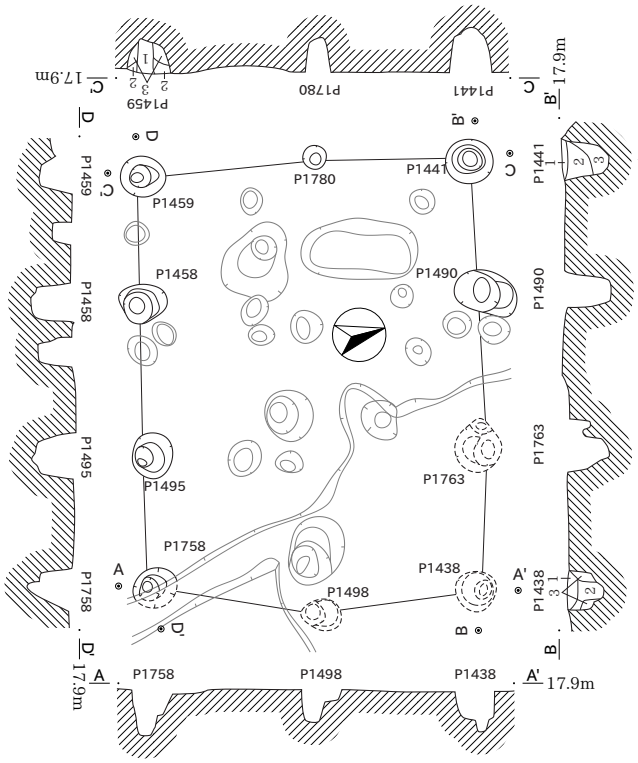
P1429
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。焼土粒少量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物微量含む。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
4 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
5 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。

P1430
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。

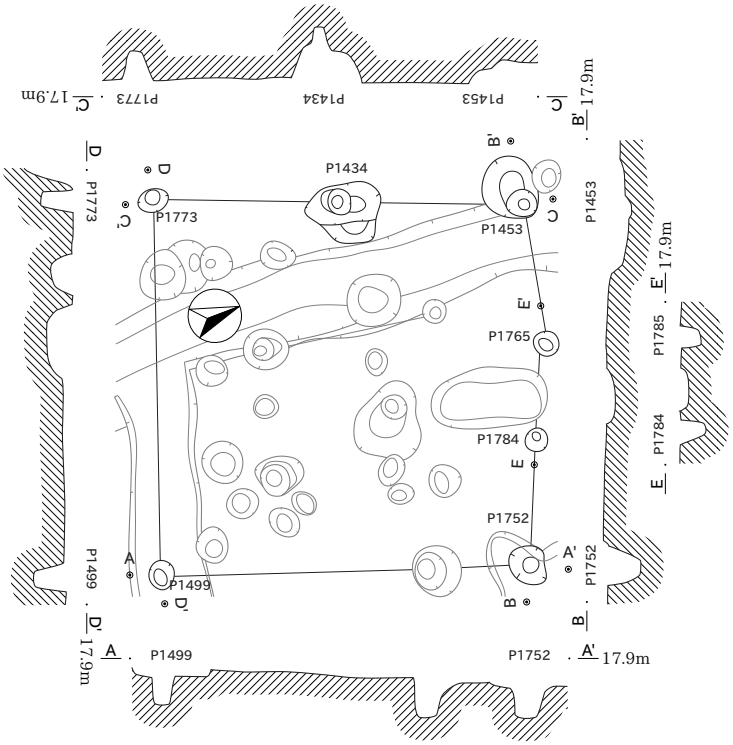


P1431
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック少量含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒・炭化物少量含む。
4 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。炭化物少量含む。
5 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。

SB1750



SB1762



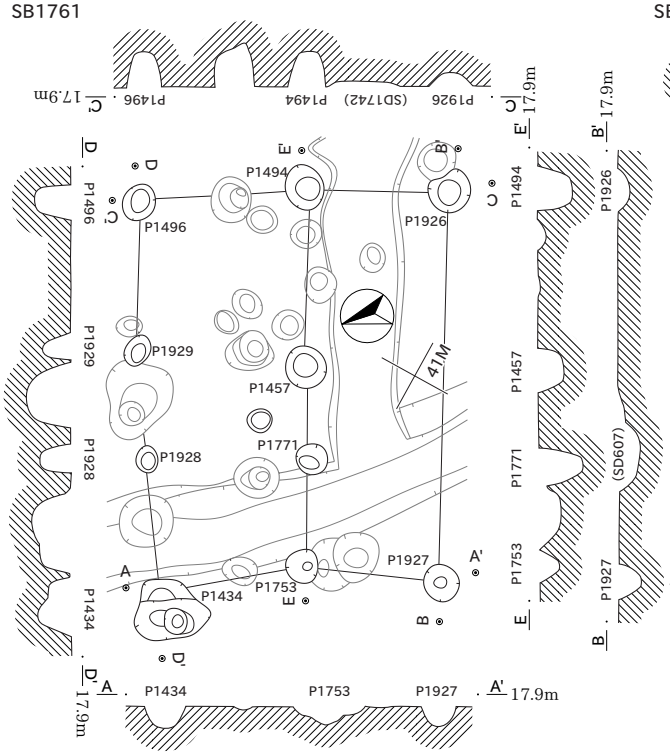
P1438・1459共通
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
3 浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。

P1441
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
2 黄褐色粘土　しまり強、粘性強。
3 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。

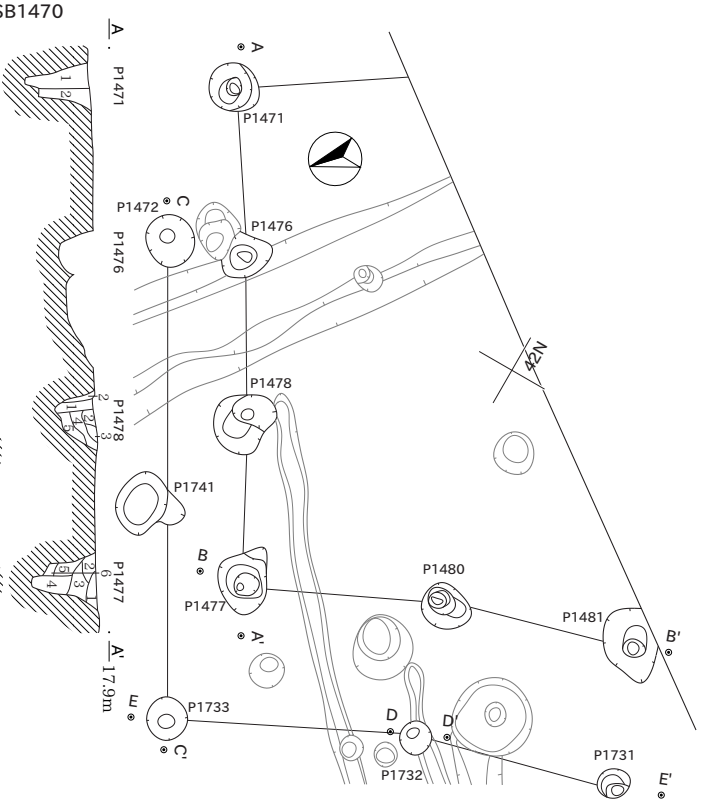
0　(1：40)Pセクション図　2m

0　(1：80)SB　4m

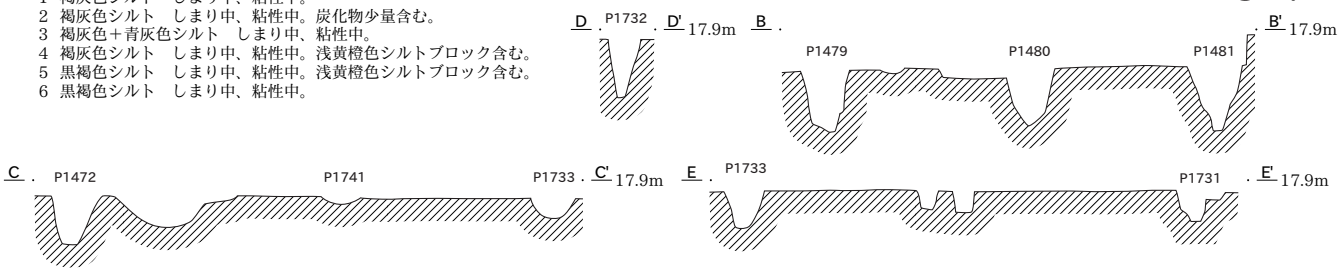
SB1761



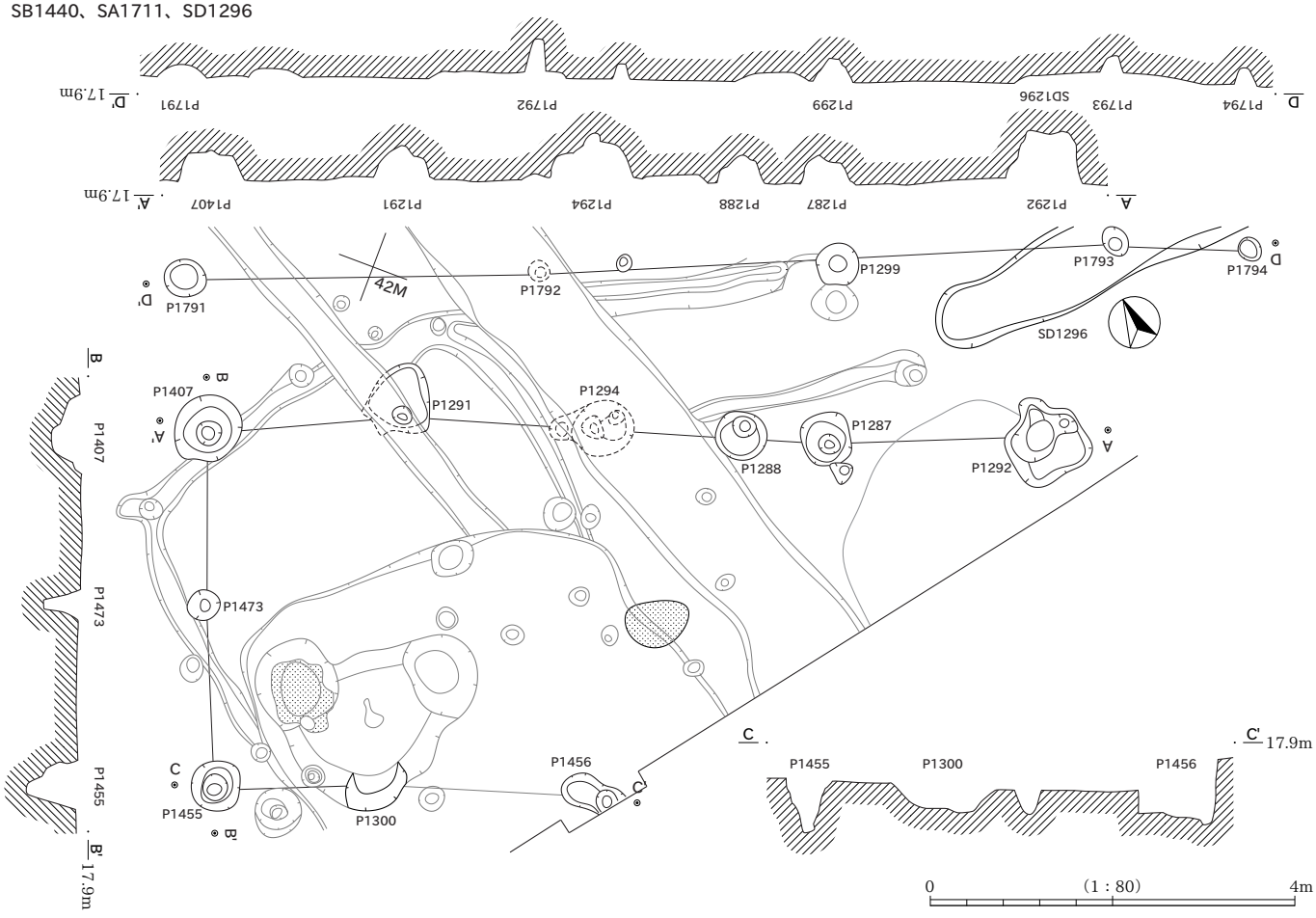
SB1470



P1471・1477・1478共通
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
3 褐灰色＋青灰色シルト　しまり中、粘性中。
4 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色シルトブロック含む。
6 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

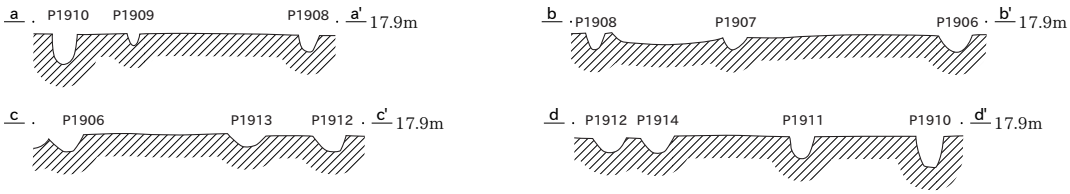


SB1440、SA1711、SD1296

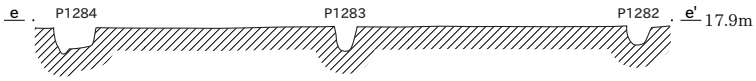


0　（1：80）　4m

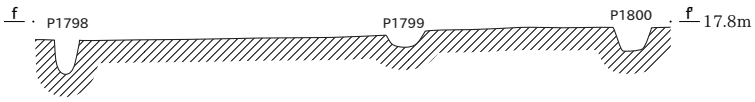
SB1905



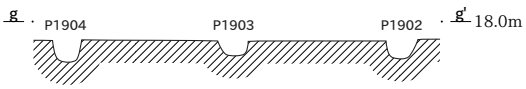
SA1281



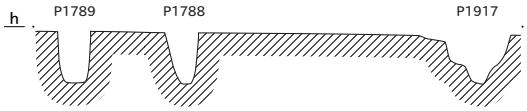
SA1797



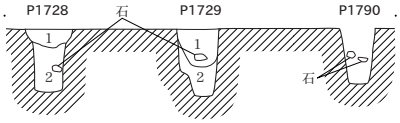
SA1901



SA1265

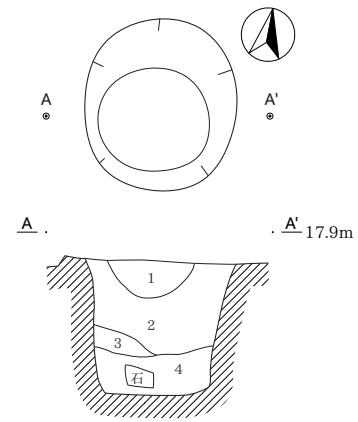


SA1423



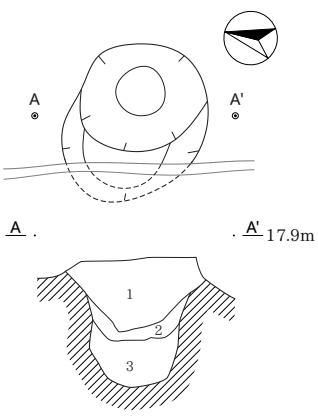
SA1423共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
2 暗黄褐色粘土　しまり弱、粘性強。
炭化物少量含む。

SK1285



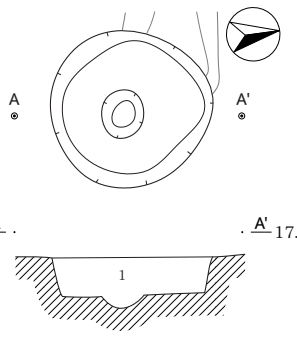
SK1285
1 黒褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
4 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
灰色シルトブロック少量含む。

SK1293



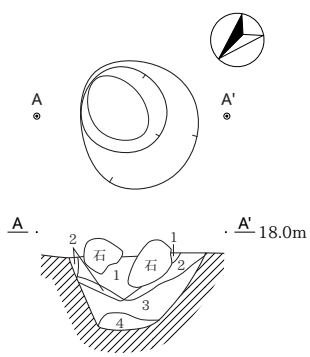
SK1293
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
炭化物少量含む。
2 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄色シルトブロック多量に含む。
3 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK1745



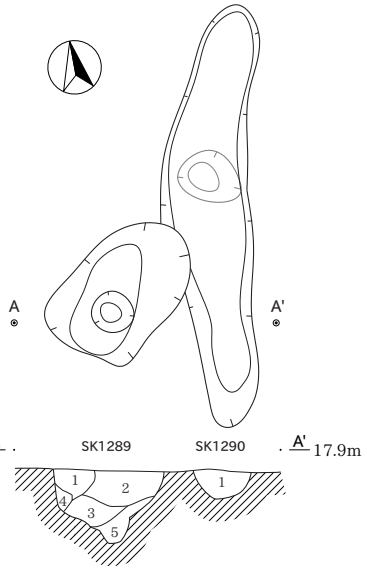
SK1745
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。

SK885

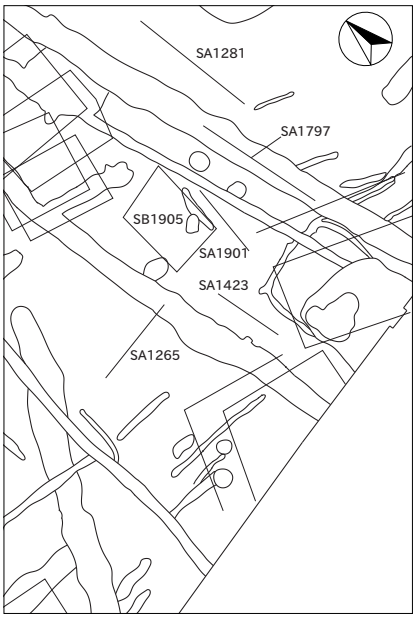


SK885
1 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 にぶい褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
暗褐色粘土ブロック含む。
4 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト微量含む。

SK1289、SD1290



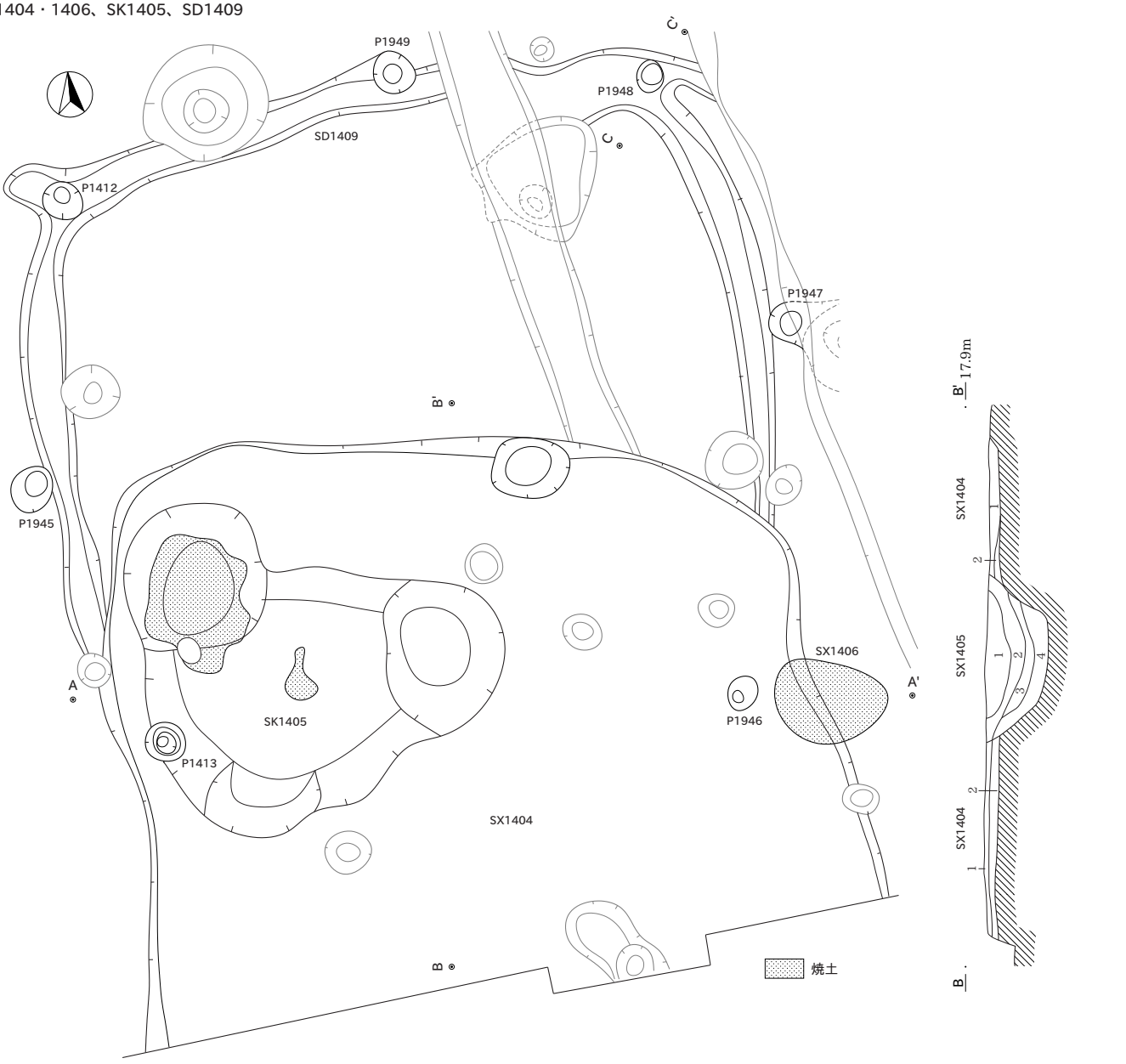
SK1289・SD1290共通
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
淡黄褐色シルトブロック多量含む。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
灰色シルトブロック少量含む。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
4 淡黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
5 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。

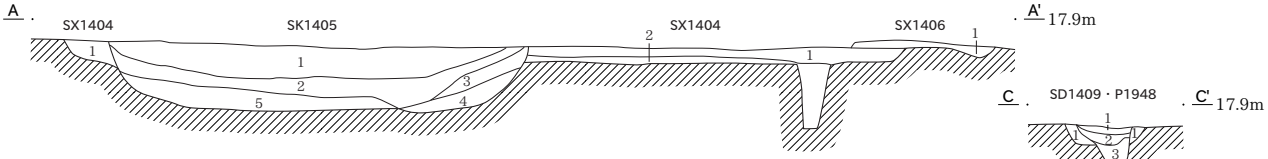


0　(1：80)SB・SA　4m

0　(1：40)SK・SD　2m

SX1404・1406、SK1405、SD1409

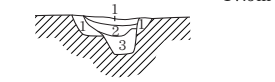




SK1405
1 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。焼土粒・炭化物微量含む。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。
3 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。炭化物少量含む。
4 暗黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。
5 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒・炭化物多量含む。

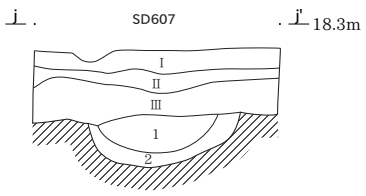
SX1404
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒・炭化物微量含む。
2 淡黄褐色シルト　しまり中、粘性弱。焼土粒少量含む。

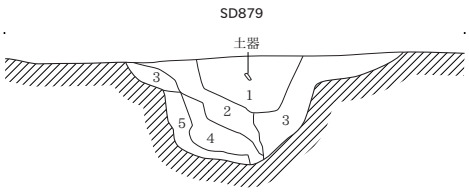
SX1406
1 赤褐色シルト　しまり中、粘性中。

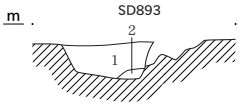


SD1409
1 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。

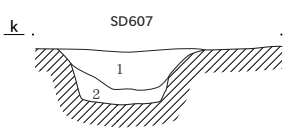
P1948
1 黒褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
2 暗褐色シルト　しまり弱、粘性弱。
3 暗黄褐色シルト　しまり弱、粘性弱。







SD893
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
　リモナイト多量含む。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。



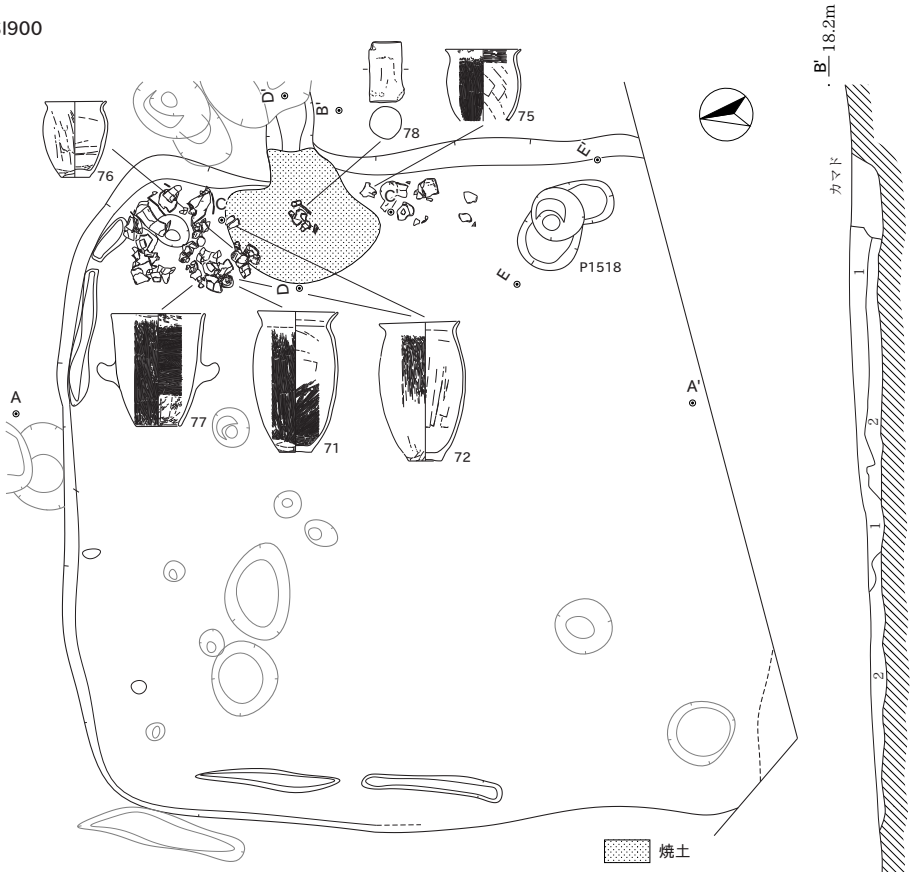
SD879
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
4 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
5 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。黄橙色シルトブロック含む。

SD607
1 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり弱、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。

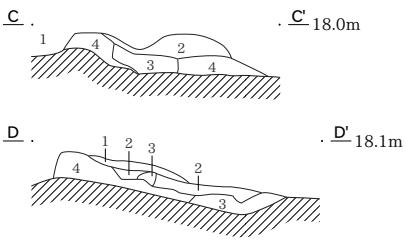
0　（1：40）　2m

SE1060
SX1801
SE1061
SD1200
17.9
17.7
17.6
18.0
SI1604
SE871
SD1609
SD1608
SD1607
P1964
SX1570
17.8
SD1613
SK1614
SK1541
SK1551
SK1559
SK1524
SK1508
SK1505
SI1510
P1568
17.5
17.6
17.7
18.0
P873
P898
SE882
P889
SI900
SK884
SB880
SD1503
P874
P1536
SD1502
SK883
P876
P877
18.0
SK878
P881
SE872
P875
0
(1:100)
5m

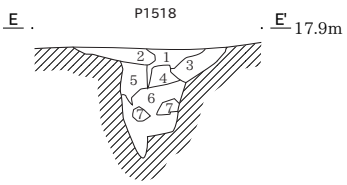
SI900



SI900カマド

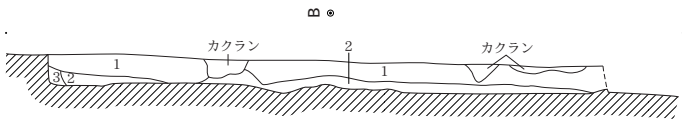


SI900カマド
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
　焼土粒少量含む。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
　焼土ブロック含む。
3 赤褐色粘土　しまり中、粘性強。
4 褐色粘土　しまり中、粘性強。

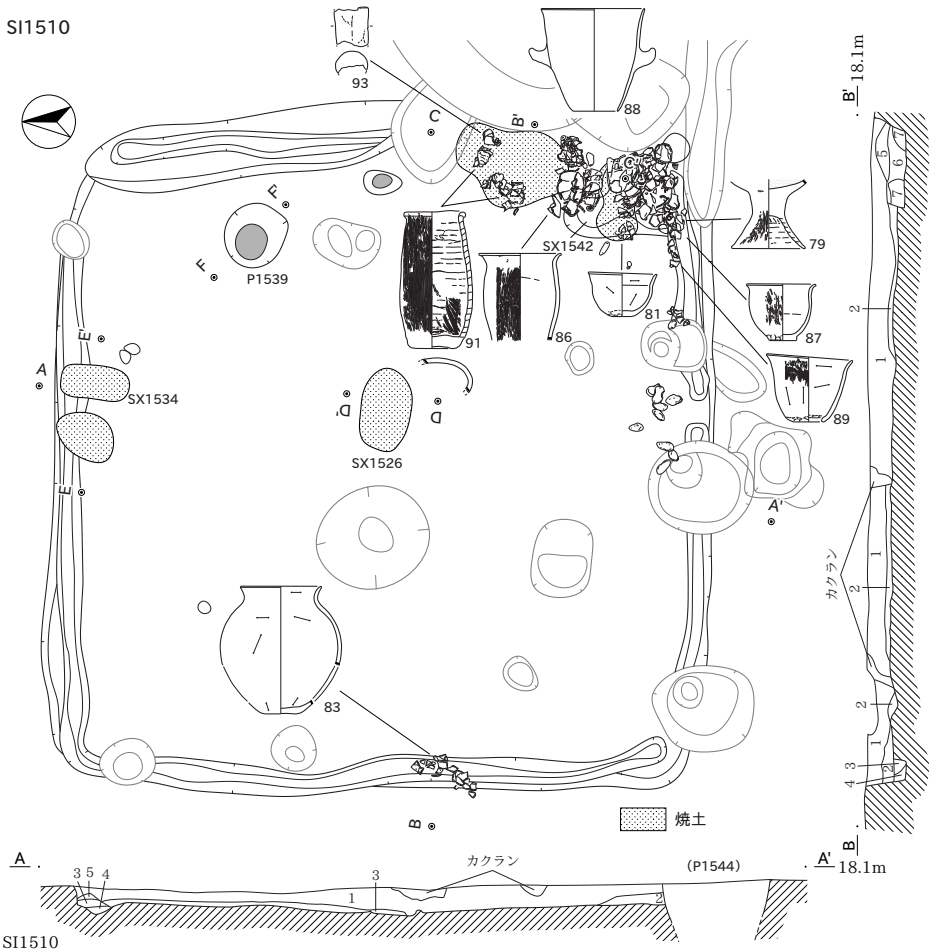


P1518
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
　リモナイト少量含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
　黒褐色粘土ブロック多量含む。
4 褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
7 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

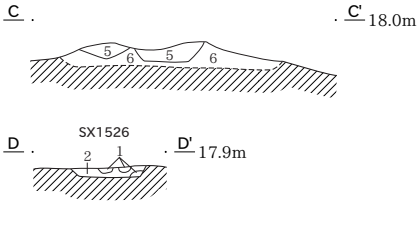
SI900
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。焼土粒含む。

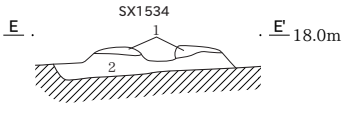


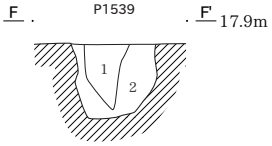
SI1510



SI1510カマド



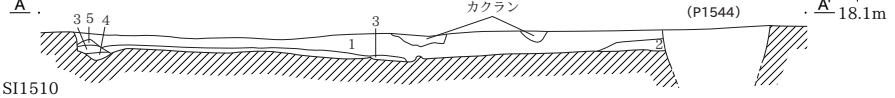




SX1526
1 赤褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。

SX1534
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
　焼土粒・炭化物含む。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。

P1539
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 褐色粘土　しまり中、粘性強。
　暗褐色粘土ブロック含む。

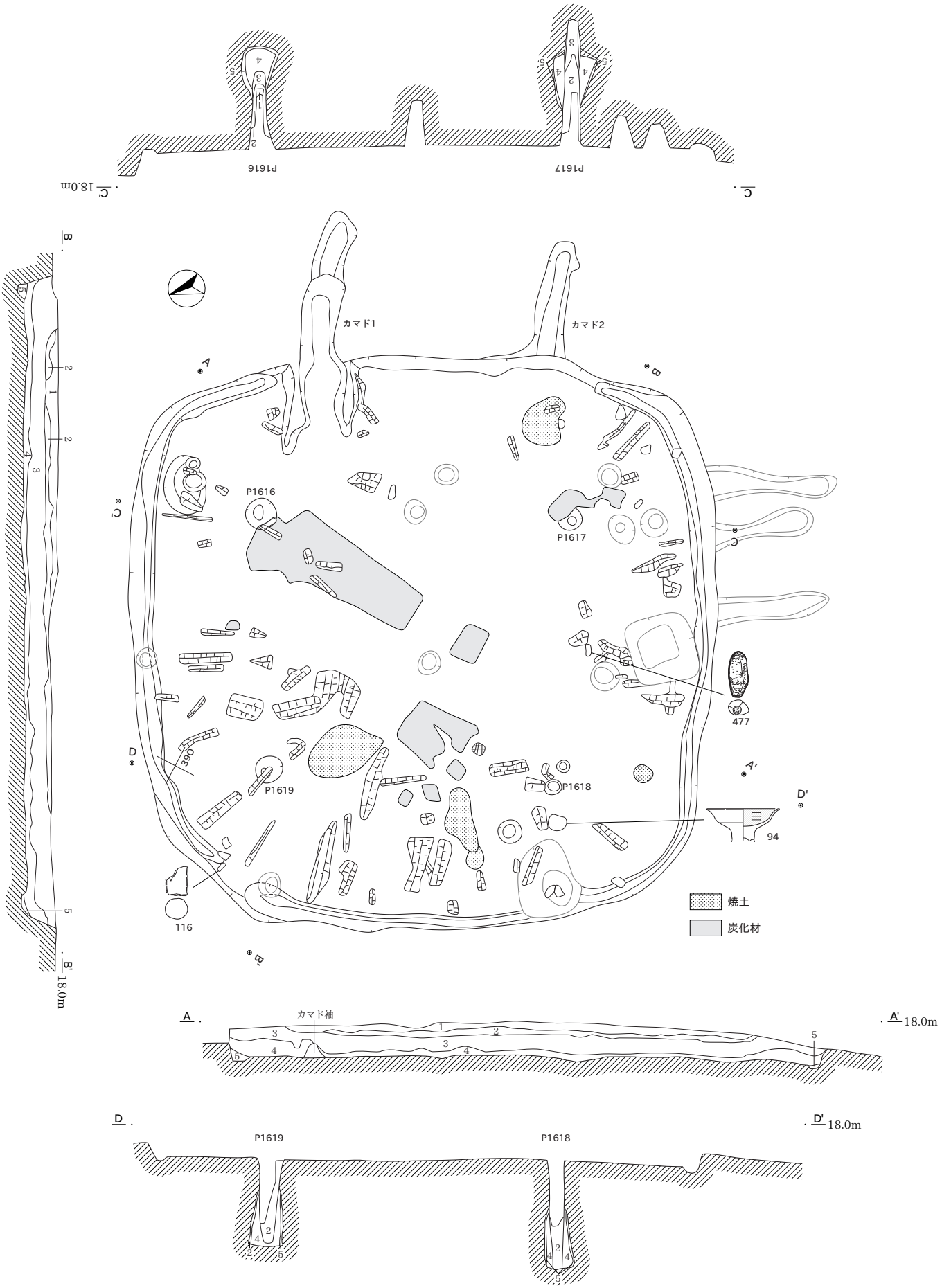


SI1510
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄橙色シルトブロック含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物含む。
4 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物少量含む。
5 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。焼土粒・炭化物含む。
6 褐色粘土　しまり中、粘性強。焼土粒少量含む。
7 にぶい赤褐色粘土　しまり中、粘性強。
　リモナイト含む。

P・SX
0　（1：40）カマドセクション図2m

0　（1：60)SI　3m

SI1604

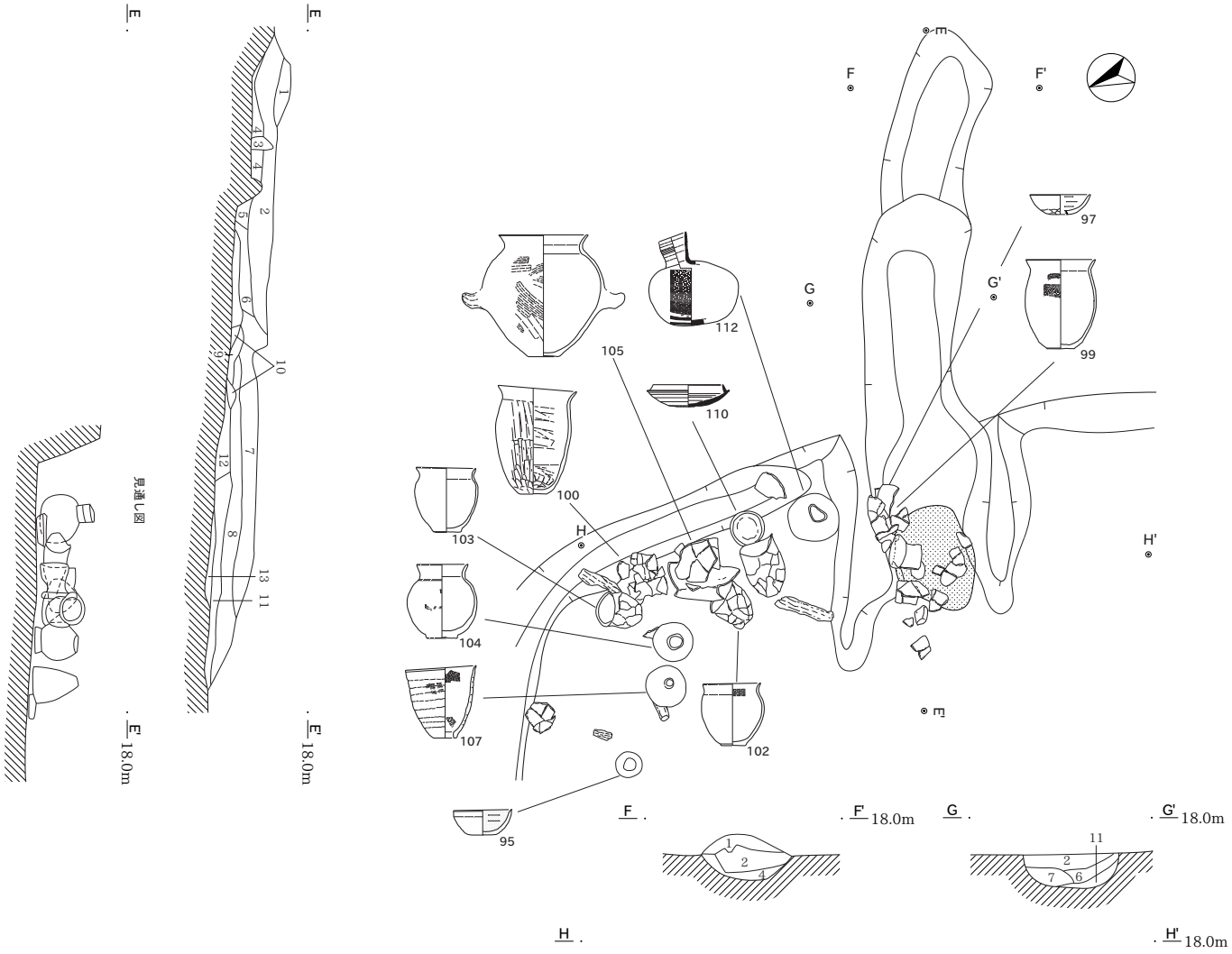


SI1604
1 浅黄橙色粘質シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
2 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
3 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。
4 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物含む。
5 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物少量含む。

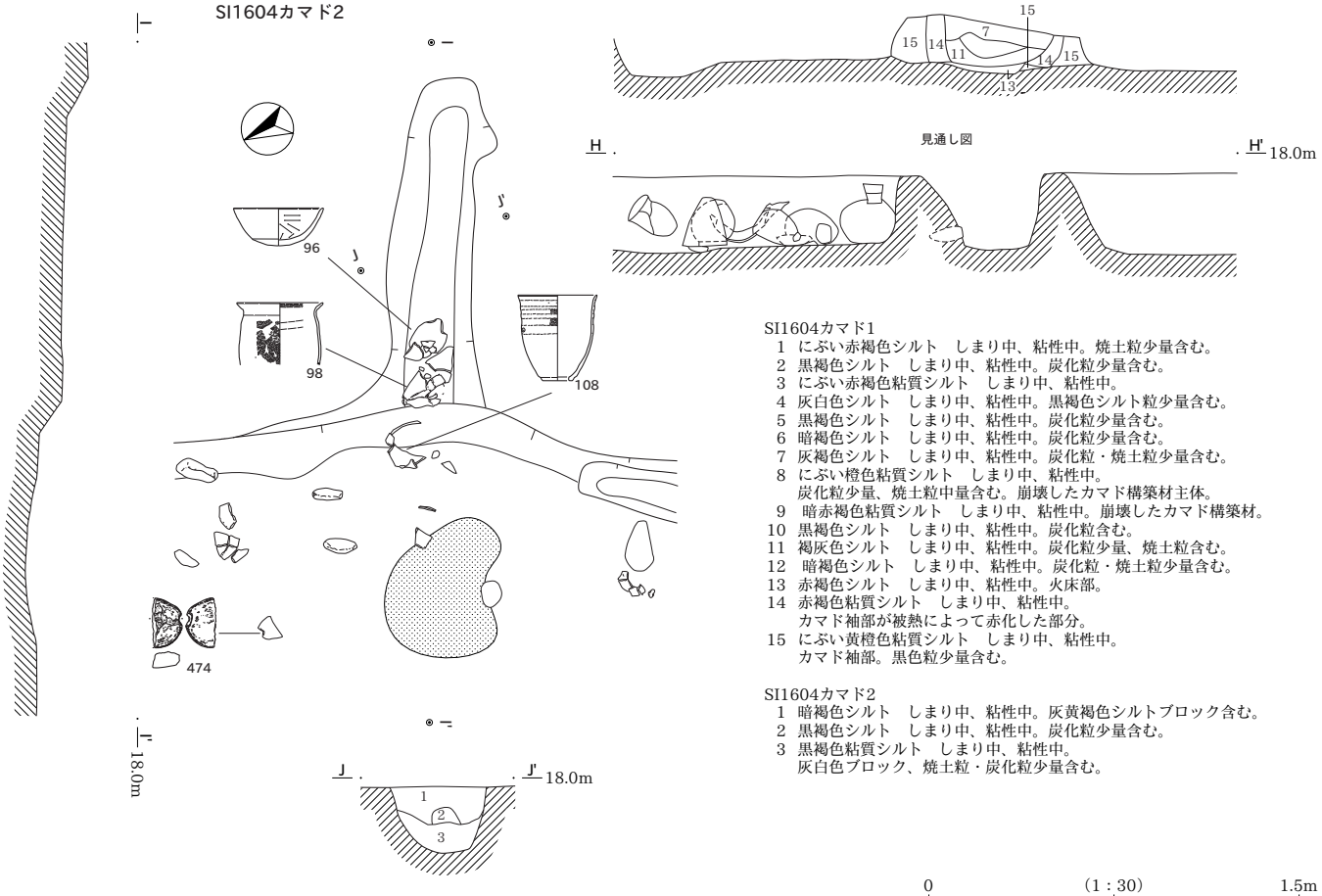
P1616～1619共通
1 褐灰色粘質シルト　しまり弱、粘性中。
2 褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性強。灰白色粘土ブロック含む。
3 灰白色粘土　しまり中、粘性強。
4 褐灰色粘土　しまり中、粘性強。
5 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

0　(1：60)　3m

SI1604カマド1



SI1604カマド2

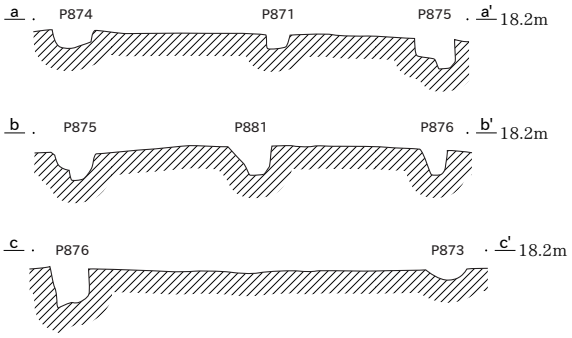


SI1604カマド1
1 にぶい赤褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒少量含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒少量含む。
3 にぶい赤褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
4 灰白色シルト　しまり中、粘性中。黒褐色シルト粒少量含む。
5 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒少量含む。
6 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒少量含む。
7 灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒・焼土粒少量含む。
8 にぶい橙色粘質シルト　しまり中、粘性中。
炭化粒少量、焼土粒中量含む。崩壊したカマド構築材主体。
9 暗赤褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。崩壊したカマド構築材。
10 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒含む。
11 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒少量、焼土粒含む。
12 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒・焼土粒少量含む。
13 赤褐色シルト　しまり中、粘性中。火床部。
14 赤褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
カマド袖部が被熱によって赤化した部分。
15 にぶい黄橙色粘質シルト　しまり中、粘性中。
カマド袖部。黒色粒少量含む。

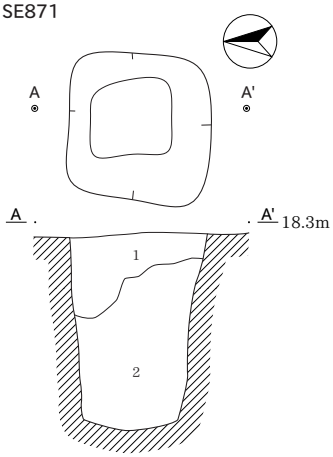
SI1604カマド2
1 暗褐色シルト　しまり中、粘性中。灰黄褐色シルトブロック含む。
2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化粒少量含む。
3 黒褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
灰白色ブロック、焼土粒・炭化粒少量含む。

0　(1：30)　1.5m

SB880

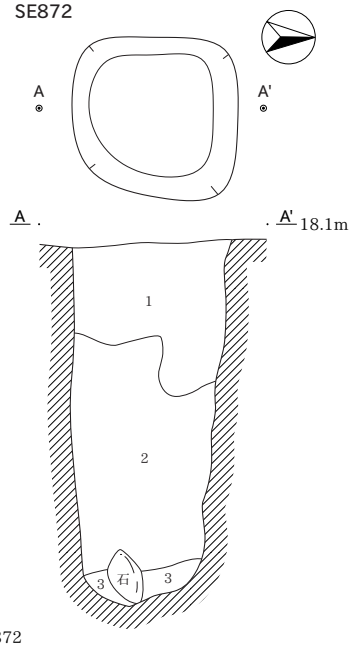


SE871



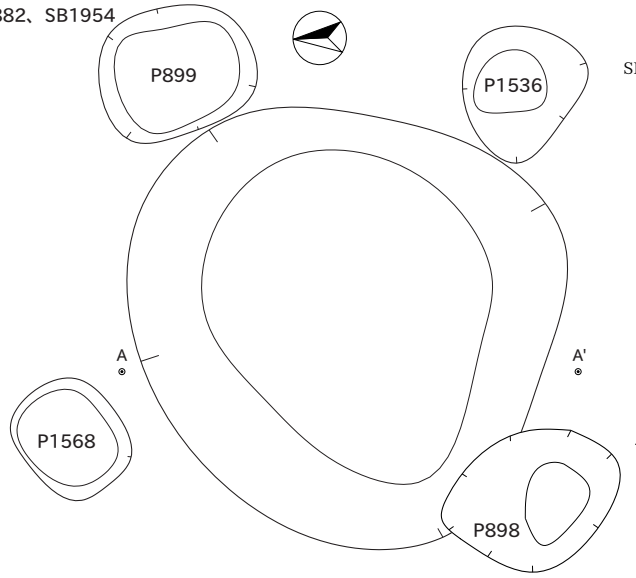
SE871
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗オリーブ褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。

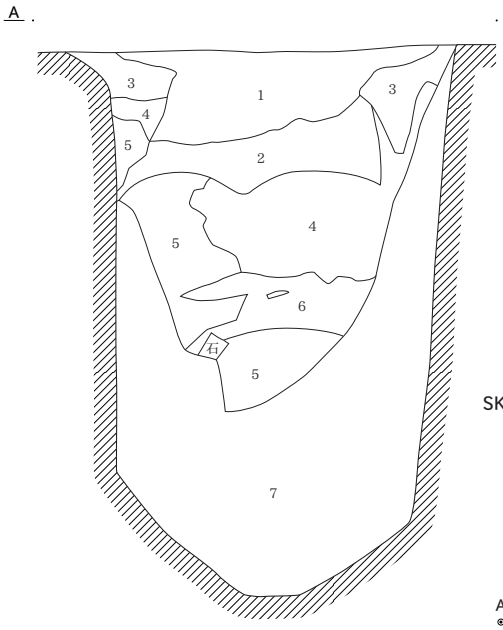
SE872



SE872
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物含む。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。

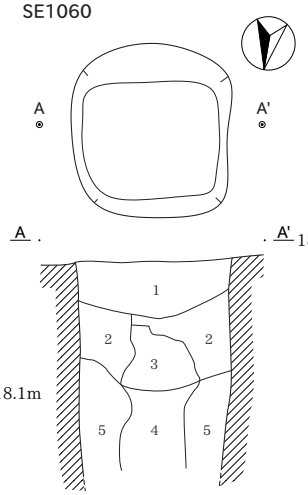
SE882、SB1954





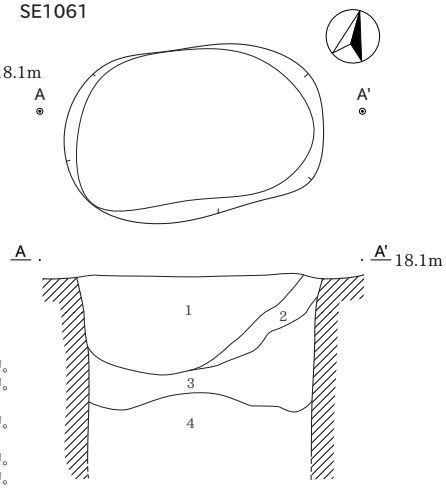
SE882
1 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。炭化物含む。
3 黒褐色粘土　しまり中、粘性中。炭化物微量含む。
4 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
5 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 褐灰色粘土　しまり中、粘性強。礫多量含む。
7 黄橙色シルト　しまり中、粘性中。酸化鉄多量含む。

SE1060



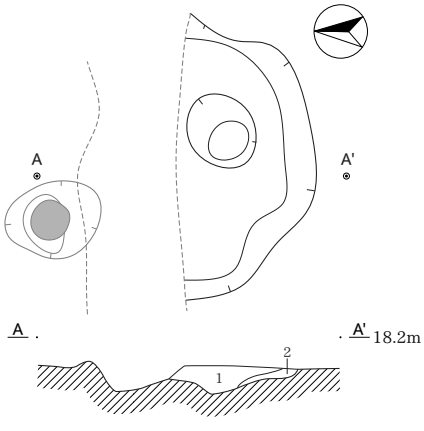
SE1060
1 灰オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
黄褐色シルトブロック多量含む。
3 灰オリーブ褐色シルト　しまり弱、粘性中。
黄褐色砂質土多量含む。
4 灰オリーブ褐色シルト　しまり弱、粘性中。
5 暗オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。

SE1061



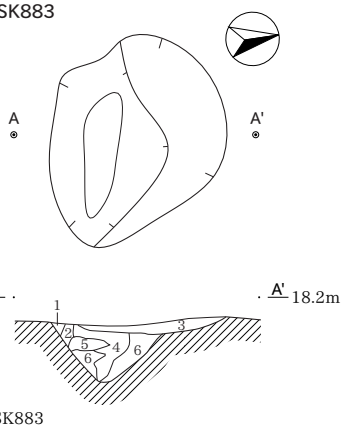
SE1061
1 灰オリーブ砂質シルト　しまり弱、粘性弱。
炭化物微量含む。
2 暗オリーブ色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。
3 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性中。
4 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。

SK878



SK878
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物少量含む。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物、黄橙色シルトブロック含む。

SK883

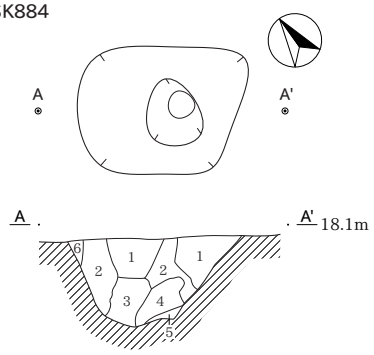


SK883
1 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
2 褐色シルト　しまり中、粘性中。
3 暗褐色シルト質粘土　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。
4 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性中。

0　(1：40)SE・SK　2m

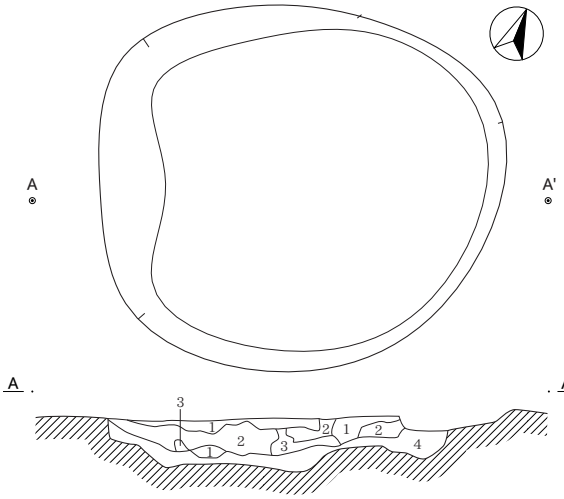
0　(1：80)SB　4m

SK884



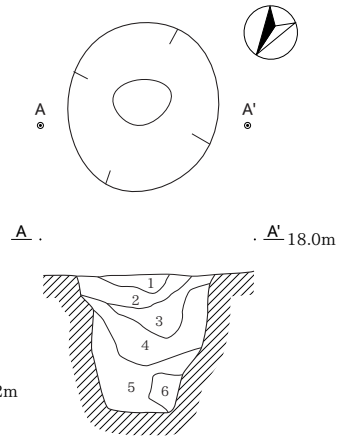
SK884
1 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
黄橙色シルトブロック含む。
4 黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
5 褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。

SK1505



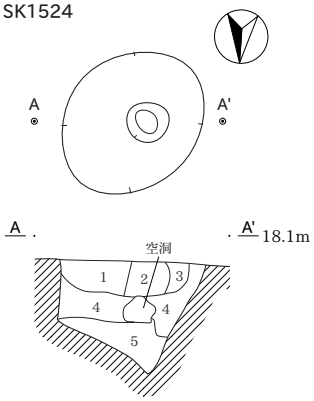
SK1505
1 褐色シルト　しまり中、粘性中。
2 にぶい黄橙色粘土　しまり中、粘性強。
3 暗灰黄色粘土　しまり中、粘性強。
4 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK1508



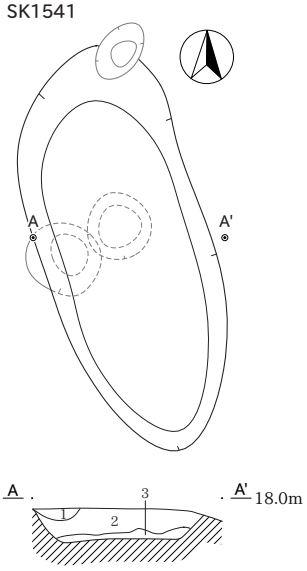
SK1508
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
暗オリーブ褐色粘土ブロック含む。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
黄橙色シルトブロック含む。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物少量含む。
4 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
暗オリーブ褐色粘土ブロック含む。
5 暗オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。
6 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK1524



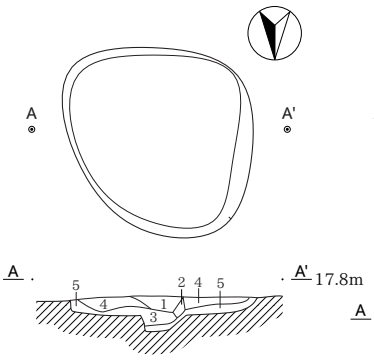
SK1524
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
黄橙色シルトブロック多量含む。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト多量含む。
3 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
4 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
黄橙色シルトブロック多量含む。
5 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK1541



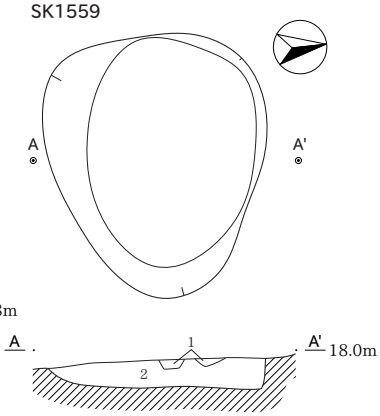
SK1541
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
褐色粘土ブロック含む。
3 褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK1551



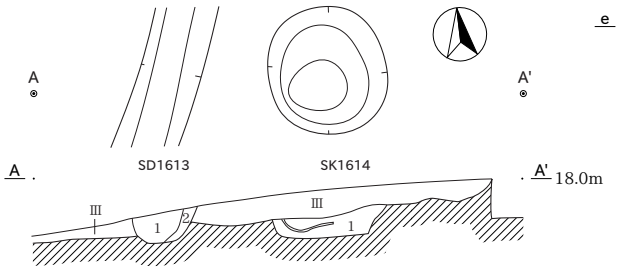
SK1551
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
炭化物微量含む。
4 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
リモナイト含む。
5 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

SK1559



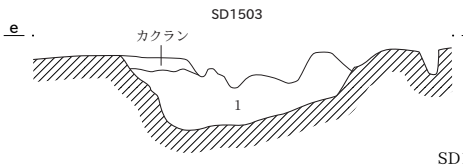
SK1559
1 暗赤褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。

SD1613、SK1614

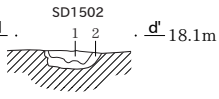


SK1614
1 黒褐色シルト　しまり弱、粘性中。炭化物少量含む。

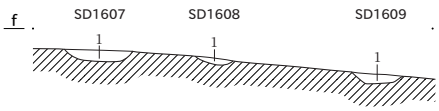
SD1613
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。
2 にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。



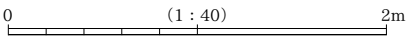
SD1503
1 褐色粘土　しまり中、粘性強。



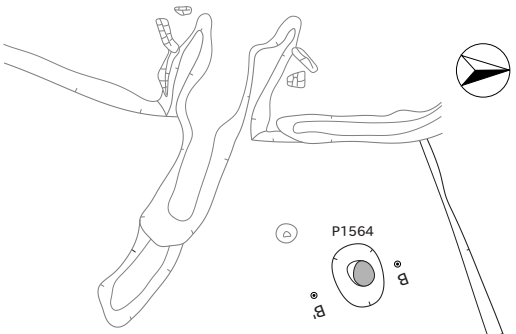
SD1502
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

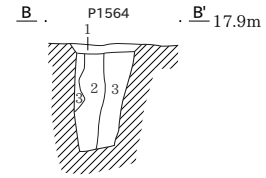


SD1607～1609共通
1 褐灰色シルト　しまり弱、粘性中。



SX1570

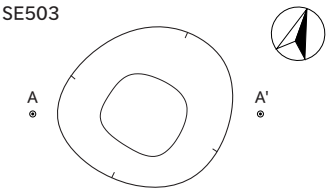


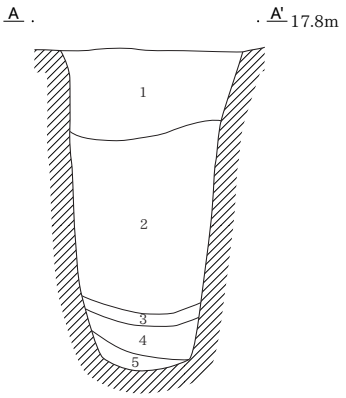


P1564
1 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 灰黄褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 オリーブ褐色粘土　しまり中、粘性強。

SX1570
1 黒褐色粘土　しまり中、粘性強。
2 暗褐色粘土　しまり中、粘性強。
3 にぶい黄褐色粘土　しまり中、粘性強。

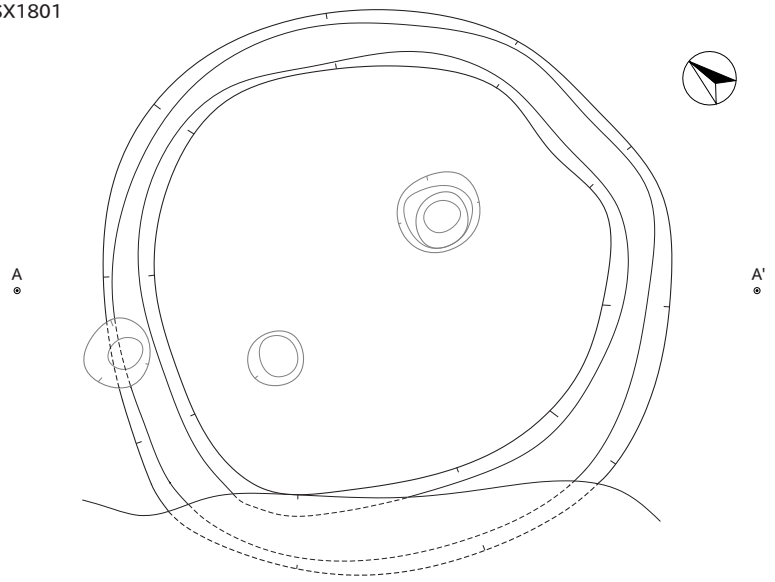
SE503

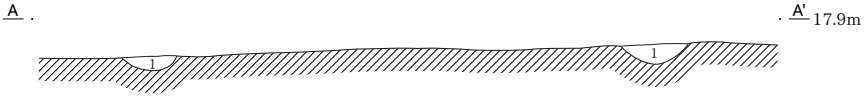




SE503
1 オリーブ褐色シルト　しまり中、粘性弱。
炭化物少量含む。
2 暗灰黄色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。
3 黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性弱。
酸化鉄含む。
4 褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。
5 オリーブ褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
炭化物少量含む。

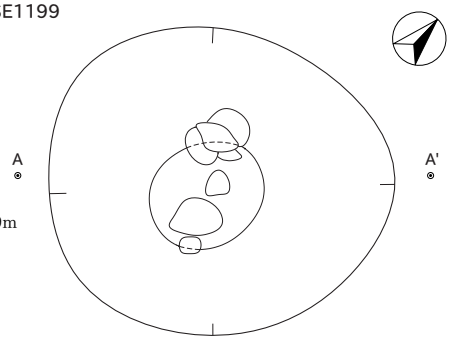
SX1801

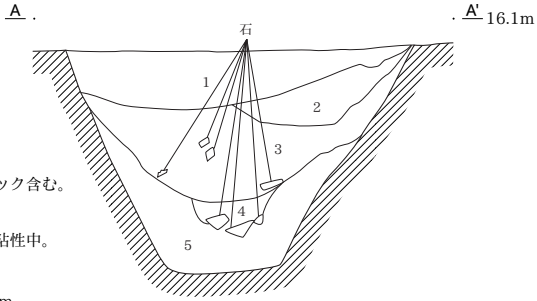




SX1801
1 灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。

SE1199



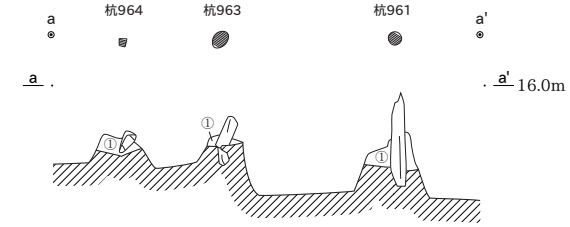


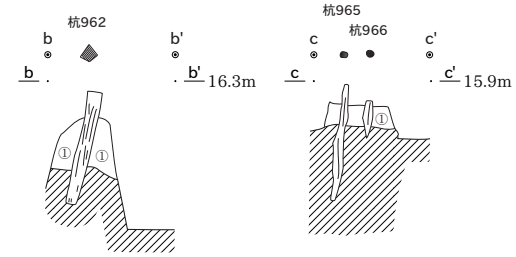
SE1199
1 褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
2 褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック含む。
3 褐色粘質シルト　しまり中、粘性中。
4 黄灰色シルト　しまり弱、粘性中。
5 褐灰色粘質シルト＋にぶい褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。

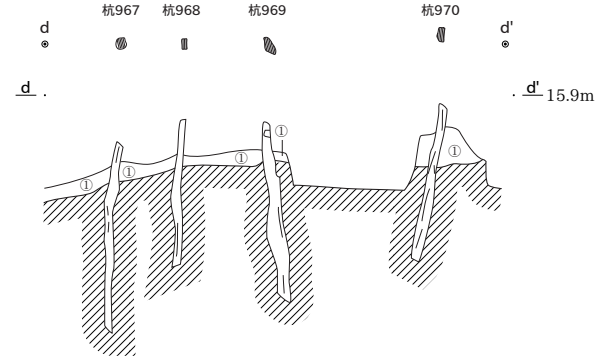
0　(1：40)P・SE　2m　　0　(1：60)SX　3m

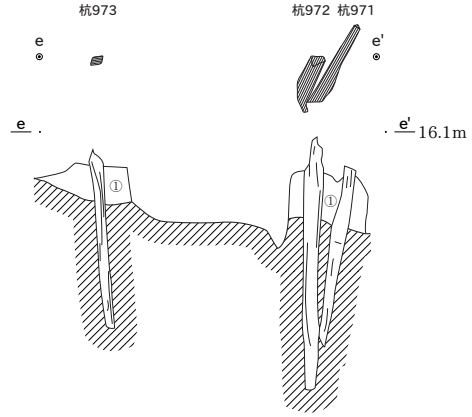
遺構分割図 25

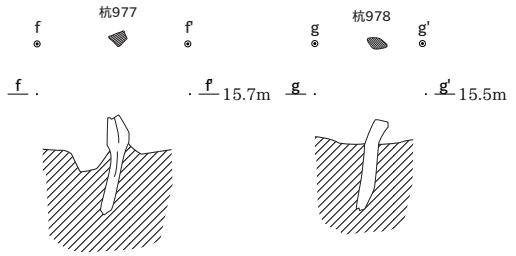
SE1199
36M
SD1200
36L
杭973
杭974
杭977
杭972
杭971
杭975
杭976
杭970
杭978
杭969
杭967
杭968
37M
37L
SE503
杭961
杭963
杭964
杭962
杭966
杭965
17.6
17.7
38M
0
(1:100)
5m

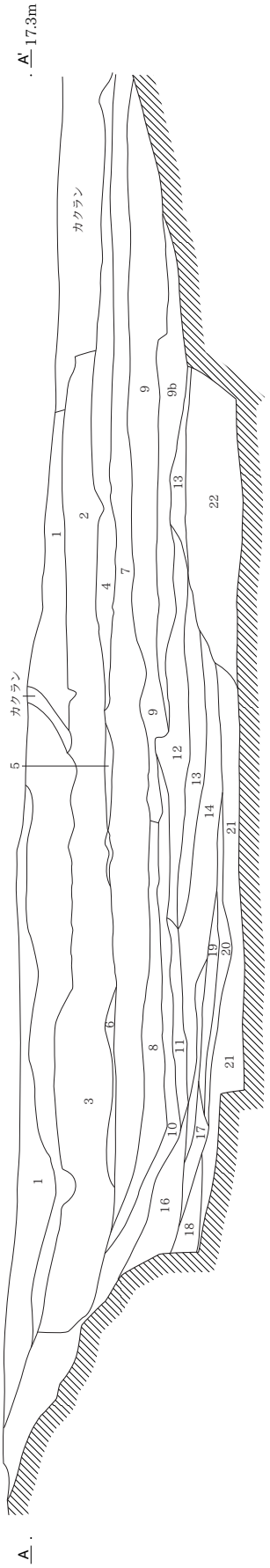








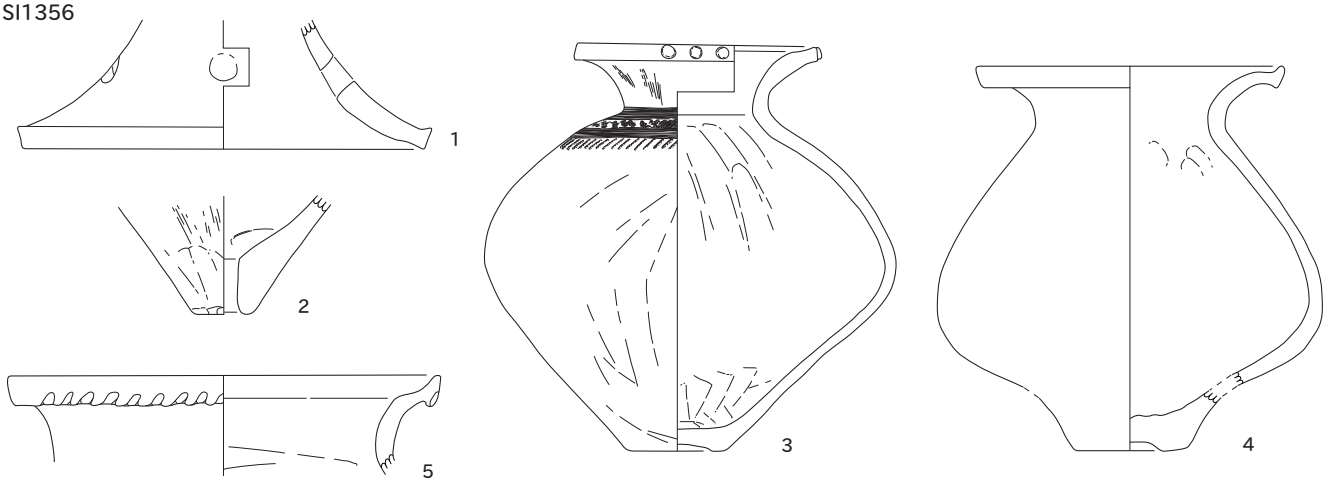




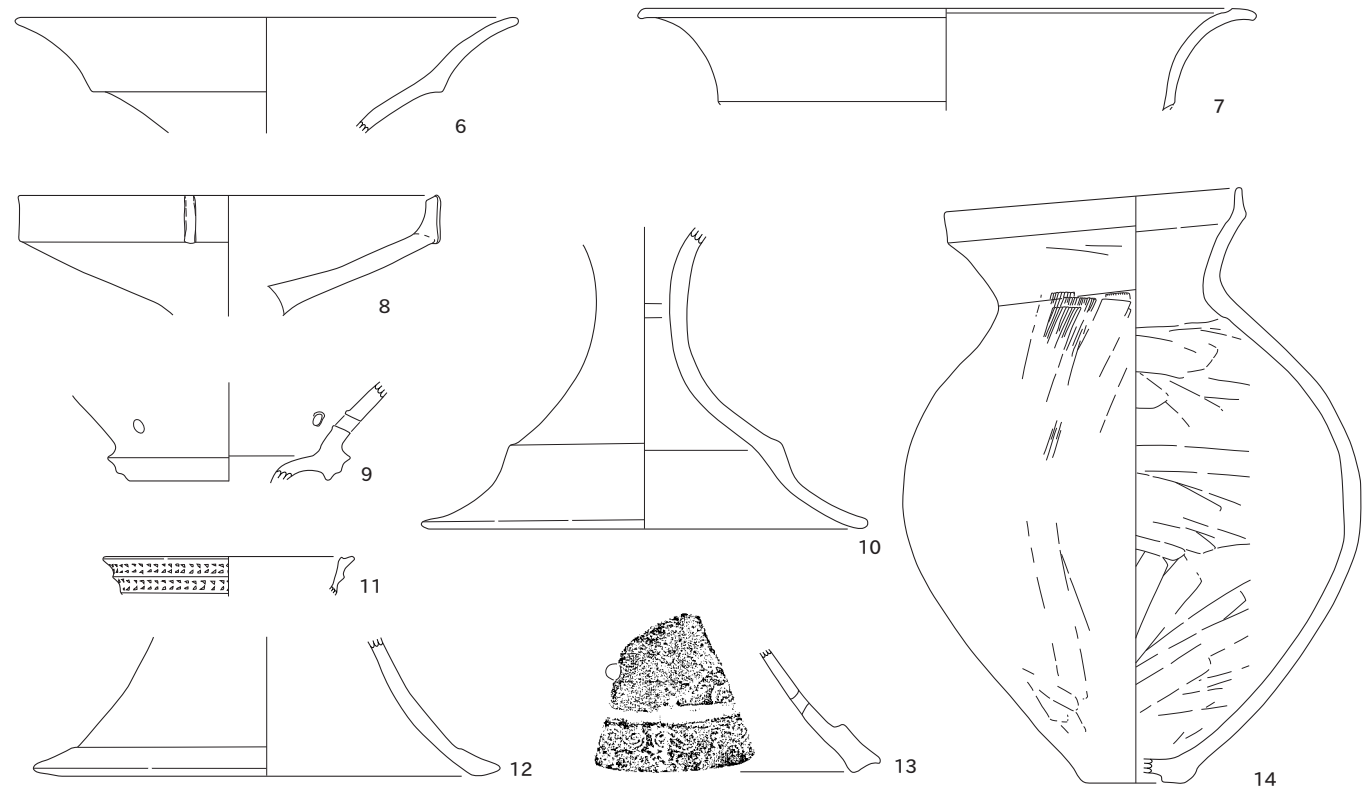
SD1200
1 灰色砂質シルト しまり弱、粘性弱。
2 褐色砂質シルト＋灰色砂質シルト しまり弱、粘性弱。
3 灰色砂質シルト しまり弱、粘性弱。褐色シルト粒多量含む。
4 灰色粘質シルト しまり中、粘性強。リモナイト多量含む。
5 赤褐色砂質シルト しまり弱、粘性弱。
6 灰色砂質シルト しまり弱、粘性弱。
7 灰色粘質シルト しまり中、粘性強。
8 灰色砂質シルト しまり弱、粘性弱。黒色粒子多量含む。
9a 赤褐色砂質シルト しまり弱、粘性弱。
9b 赤褐色砂質シルト しまり弱、粘性弱。リモナイト多量含む。
10 灰色粘質シルト しまり中、粘性中。遺物多く含む。
11 灰色粘質シルト＋黒色砂質シルト しまり中、粘性強。
12 灰白色粘質シルト しまり強、粘性強。
13 緑灰色砂質シルト しまり強、粘性弱。
14 灰白色粘質シルト しまり強、粘性強。
15 灰色粘質シルト しまり中、粘性強。褐色粒子少量含む。
16 灰色粘質シルト しまり中、粘性中。炭化材多く含む。
17 灰色粘質シルト しまり中、粘性中。炭化材多く含む。
18 灰色粘質シルト しまり強、粘性強。灰白色粒子少量含む。
19 黒色砂質シルト しまり中、粘性弱。
20 灰色粘質シルト しまり弱、粘性強。
21 青灰色砂質シルト＋黒色シルト しまり中、粘性弱。炭化材多く含む。
22 暗緑灰色粘質シルト しまり中、粘性強。遺物・植物遺体多く含む。
① SD1200覆土22層と同じ。

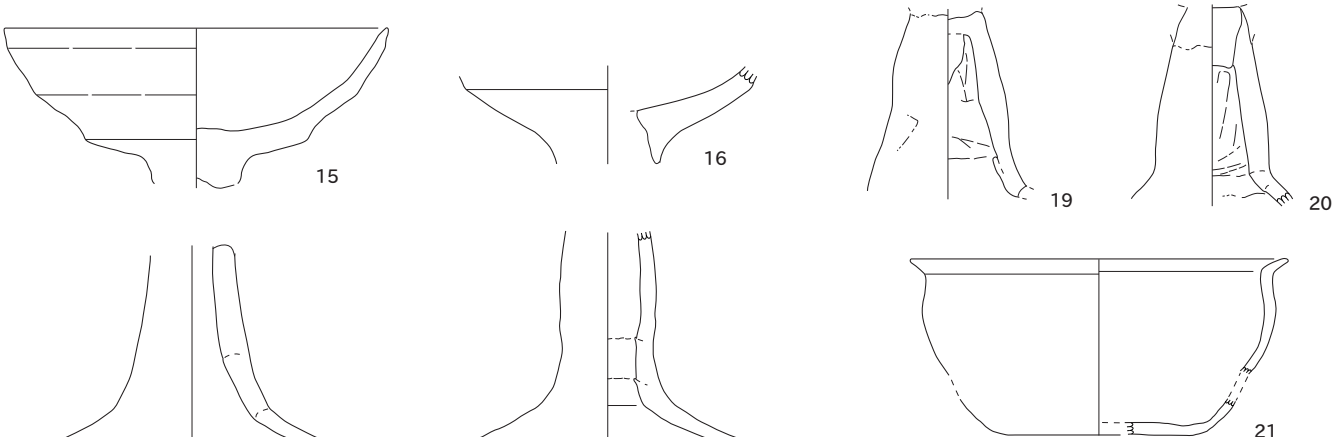
0 (1：60) 3m

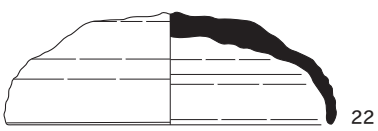
SI1356

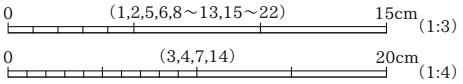


SI501

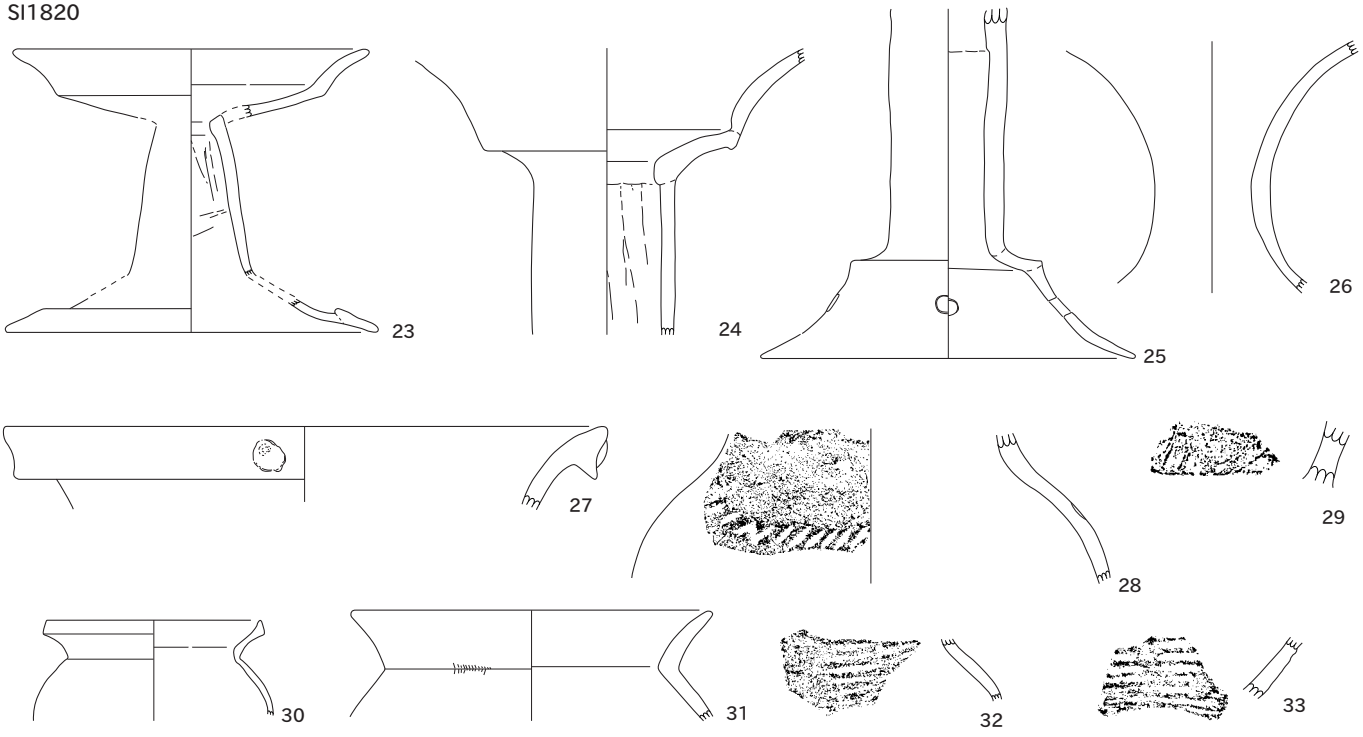




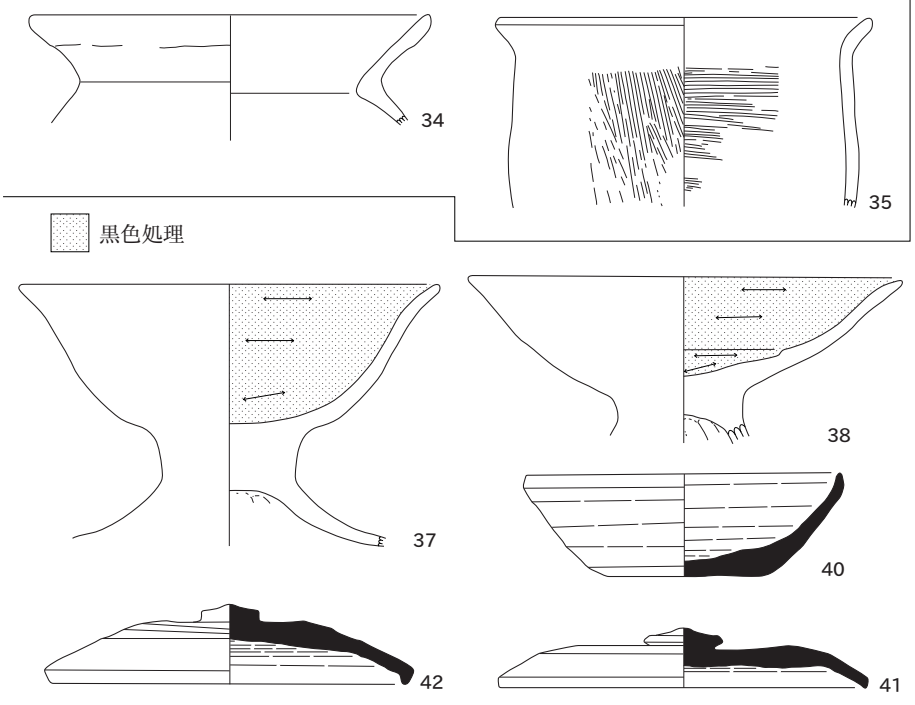




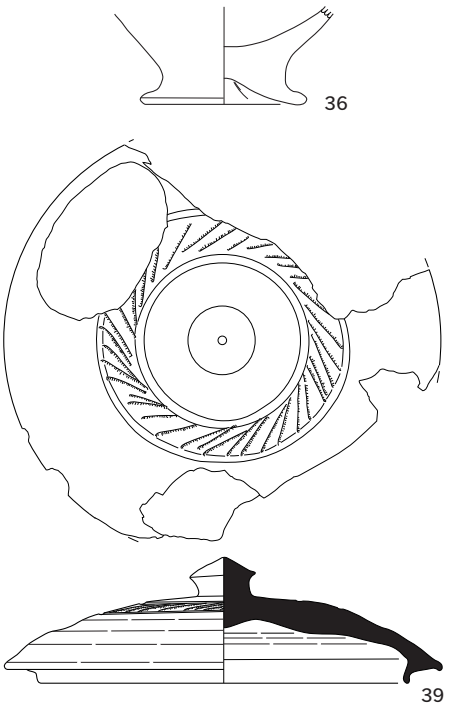
SI1820



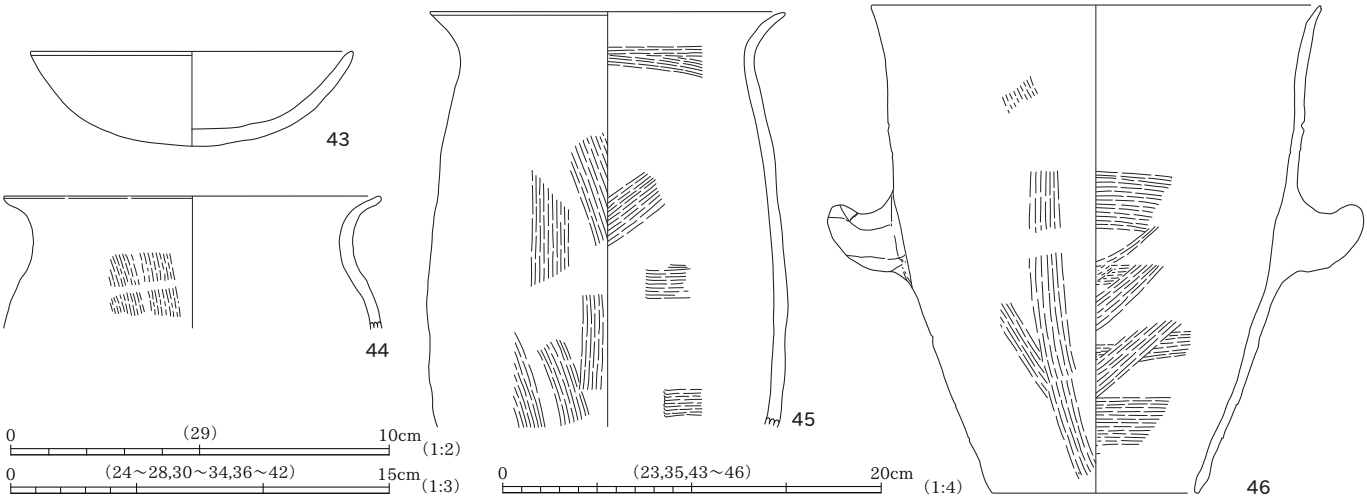
SI1395



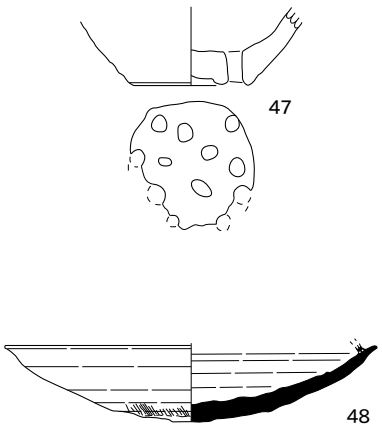
SI1821



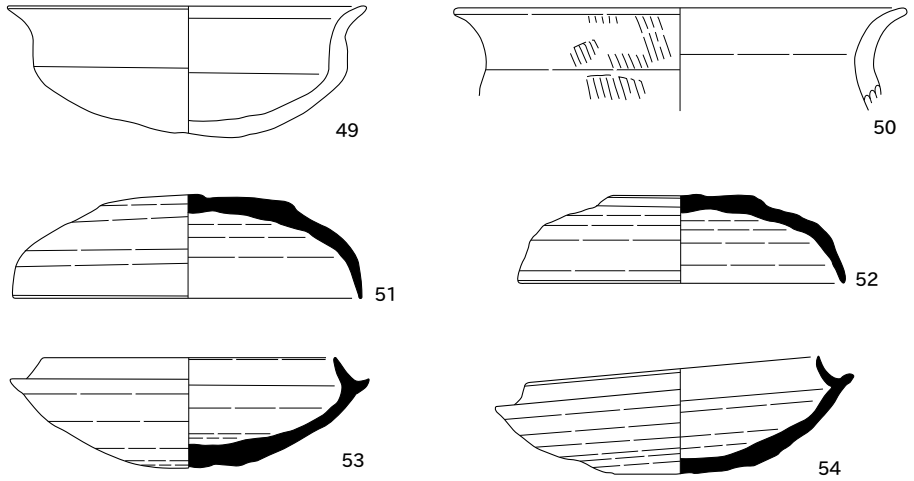
SI519



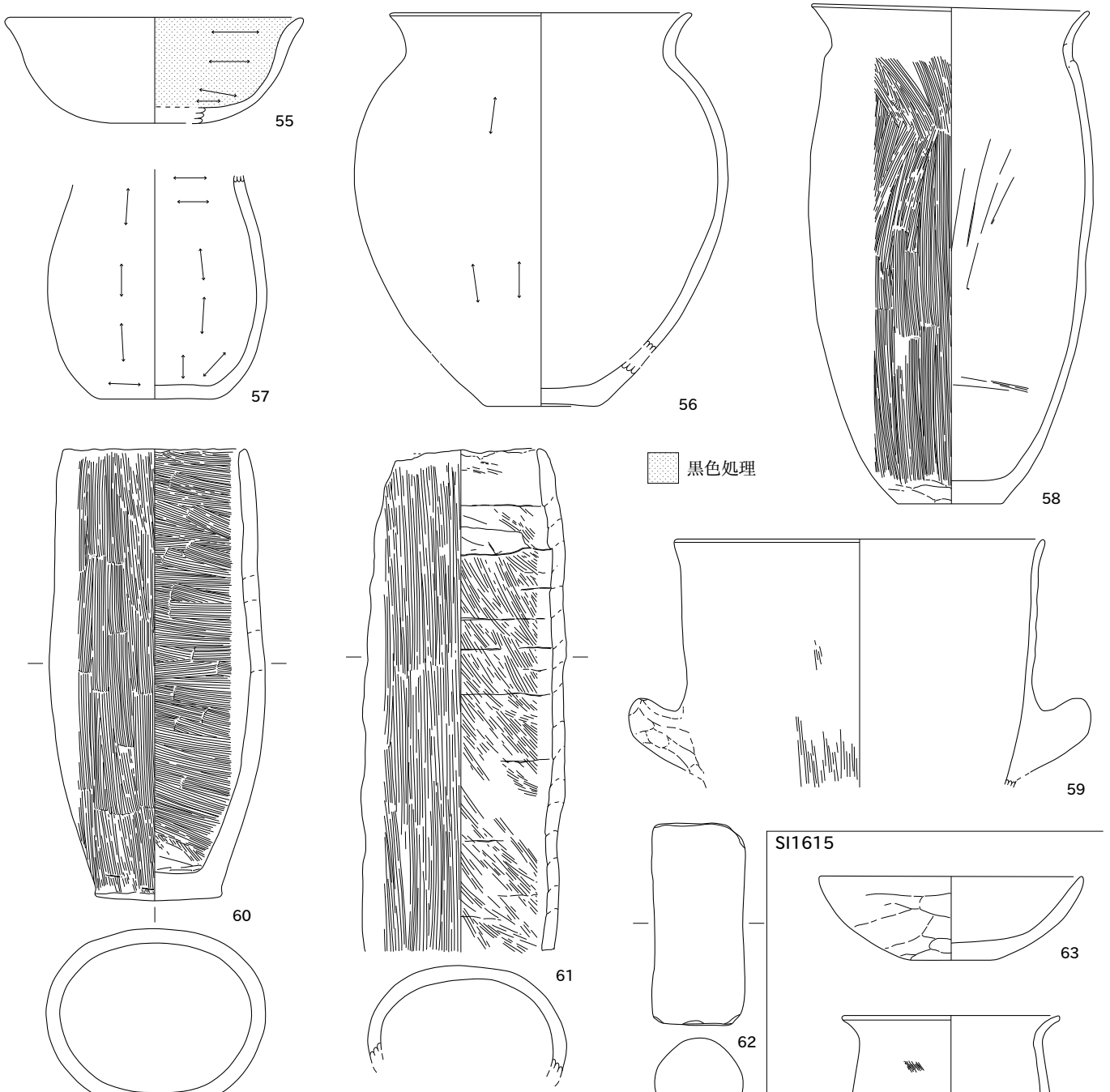
SI519



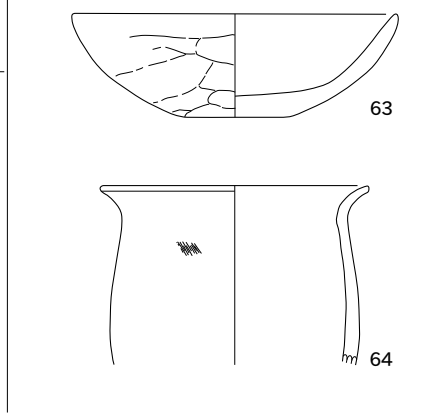
SI521



SI1305



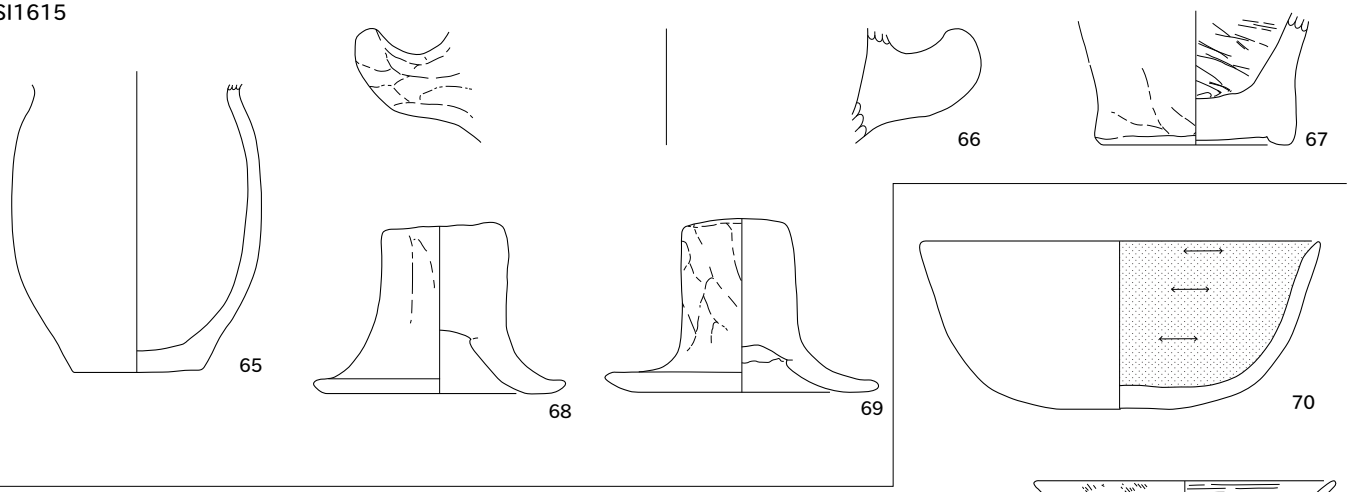
SI1615



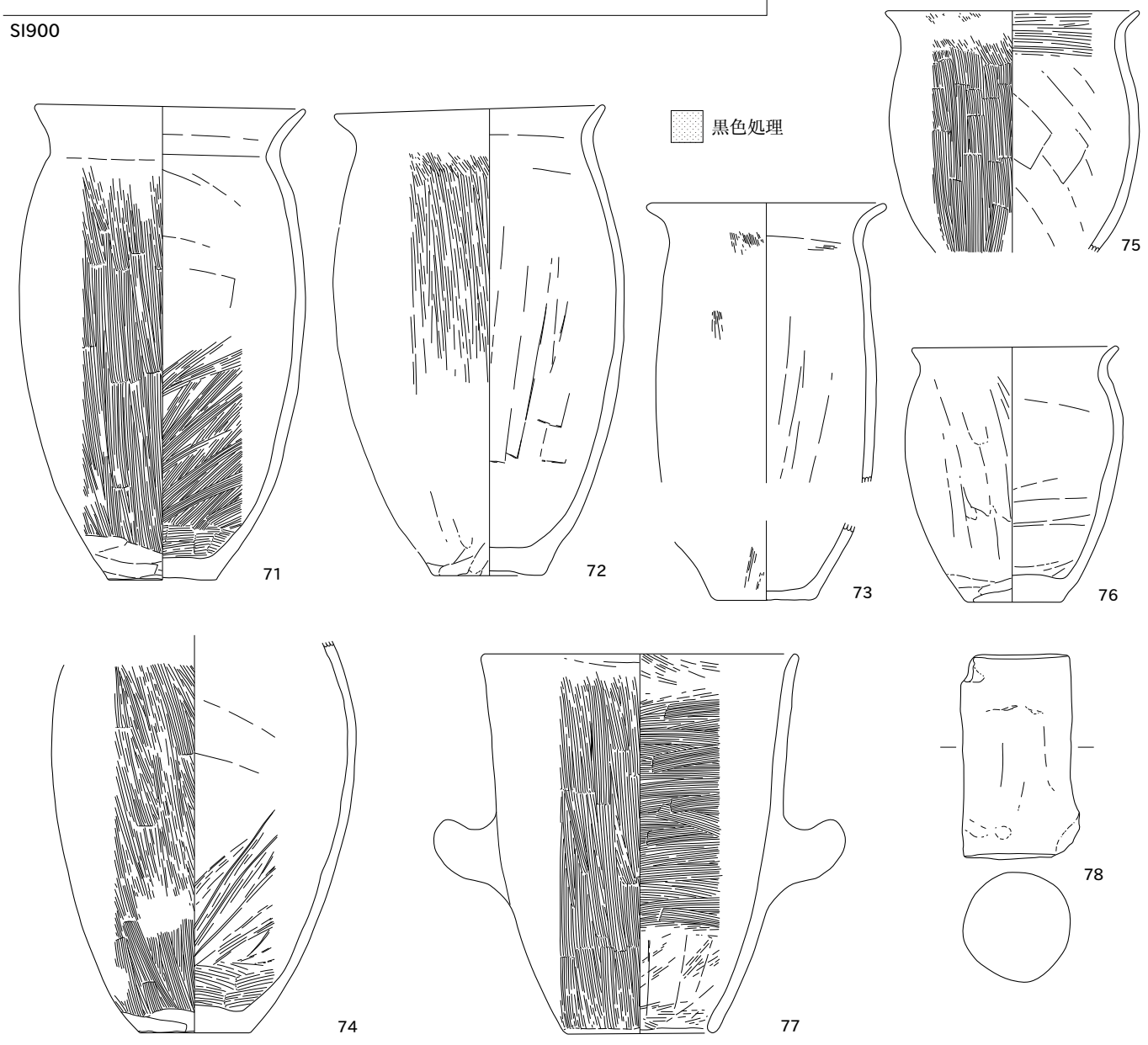
0　(47～55,62,63)　15cm (1:3)

0　(56～61,64)　20cm (1:4)

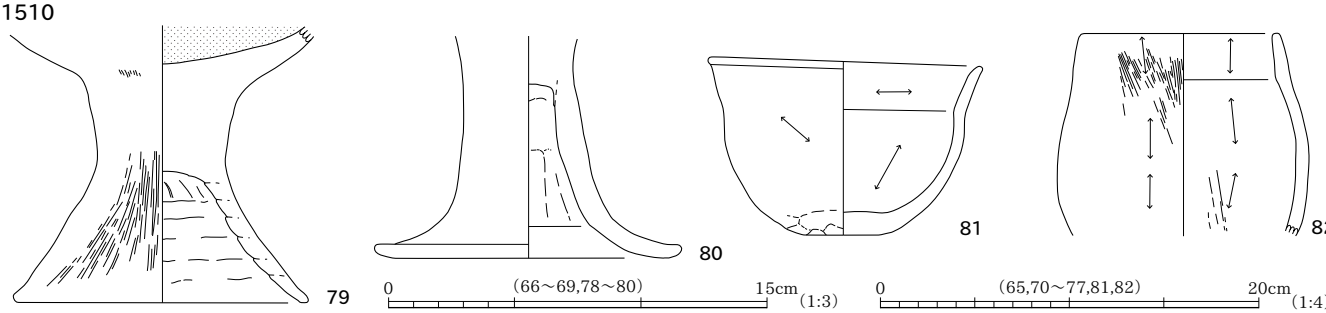
SI1615



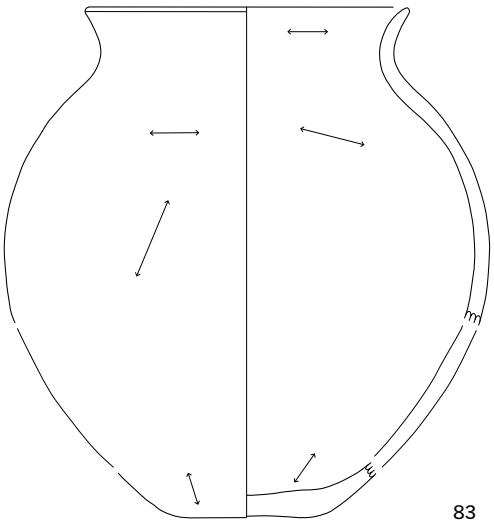
SI900

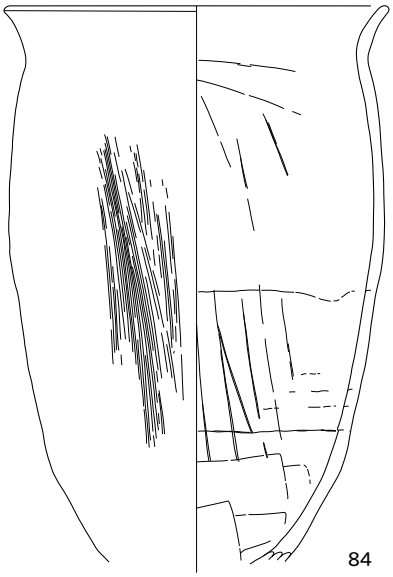


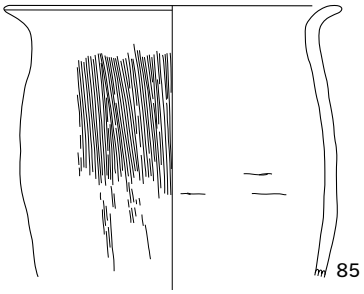
SI1510

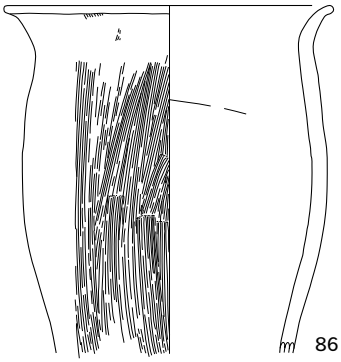


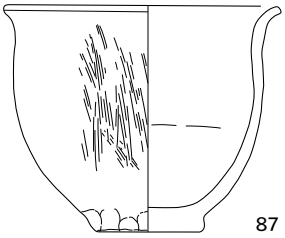
SI1510

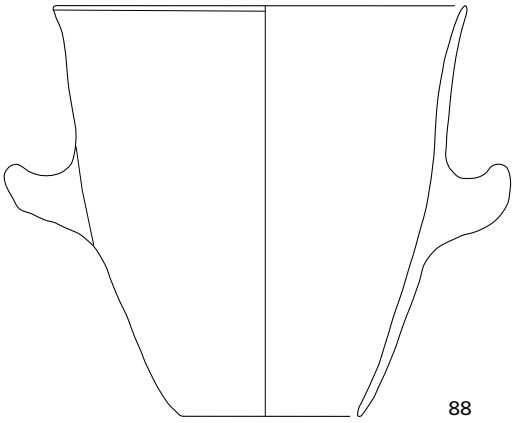

83

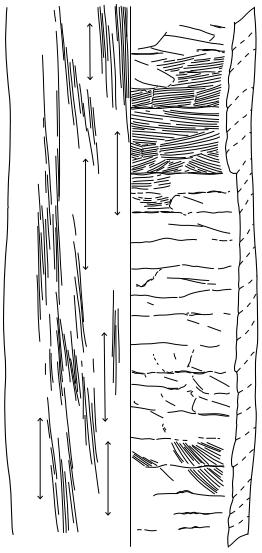

84

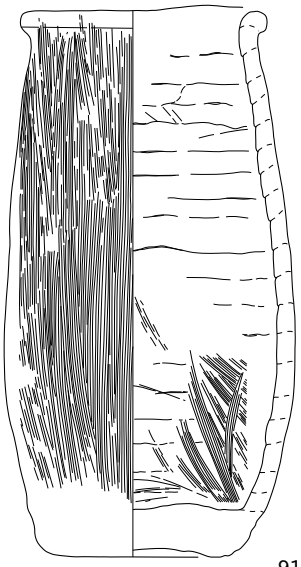

85


86

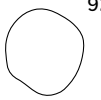

87

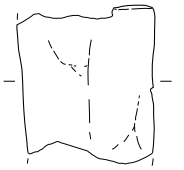

88

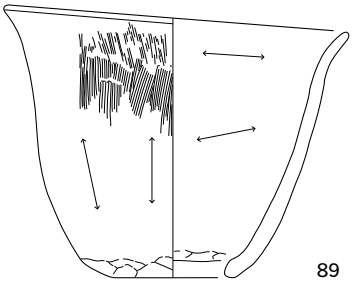

90


91

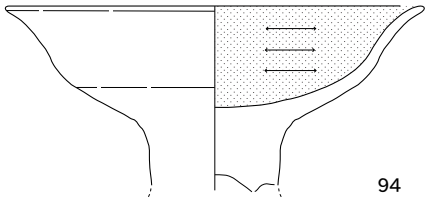
92

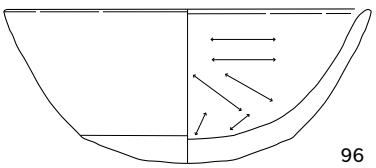


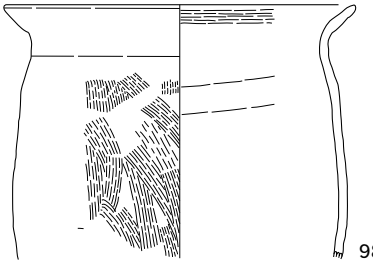

93

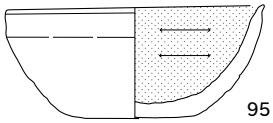

89

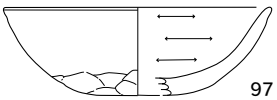
SI1604


94


96


98


95

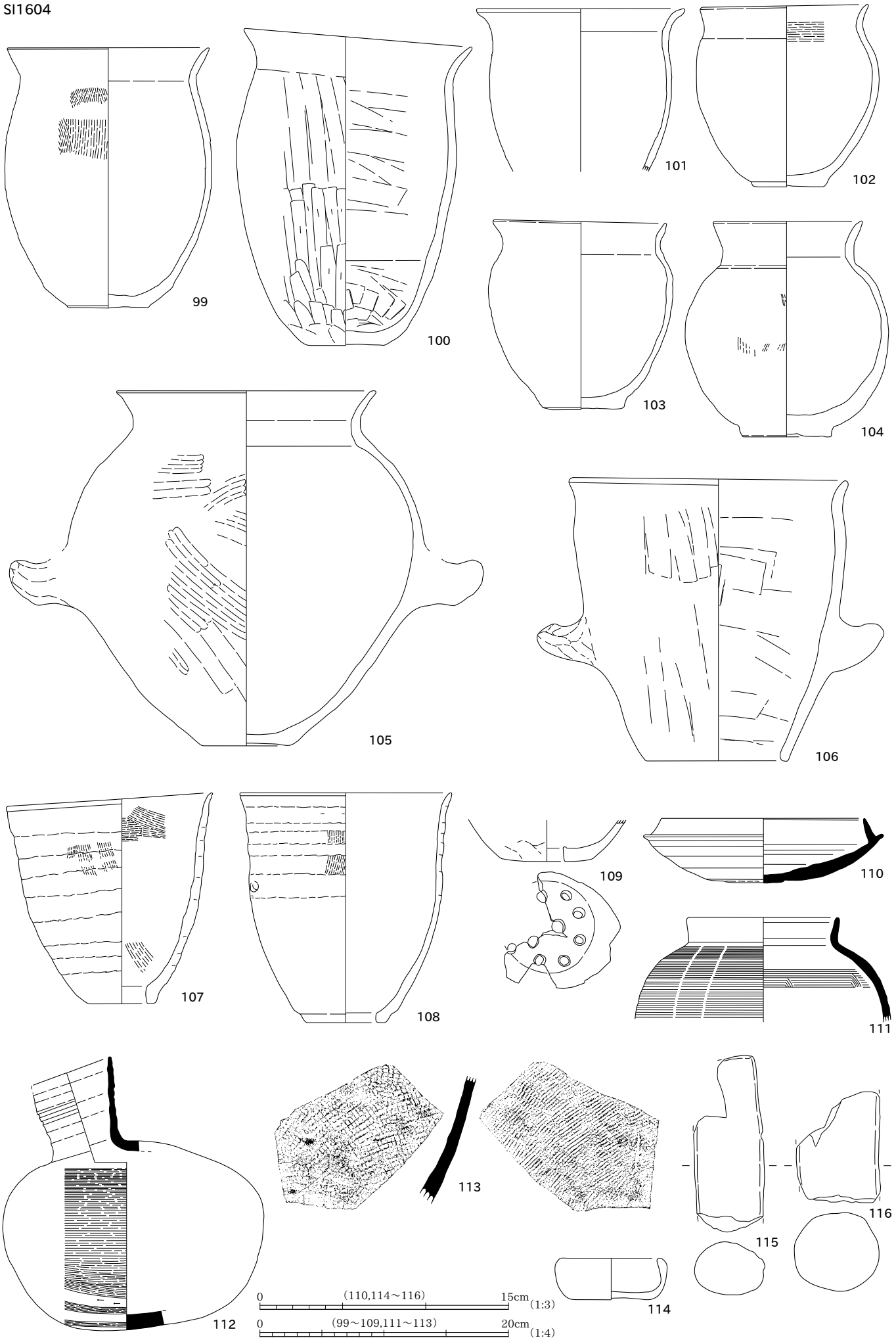

97

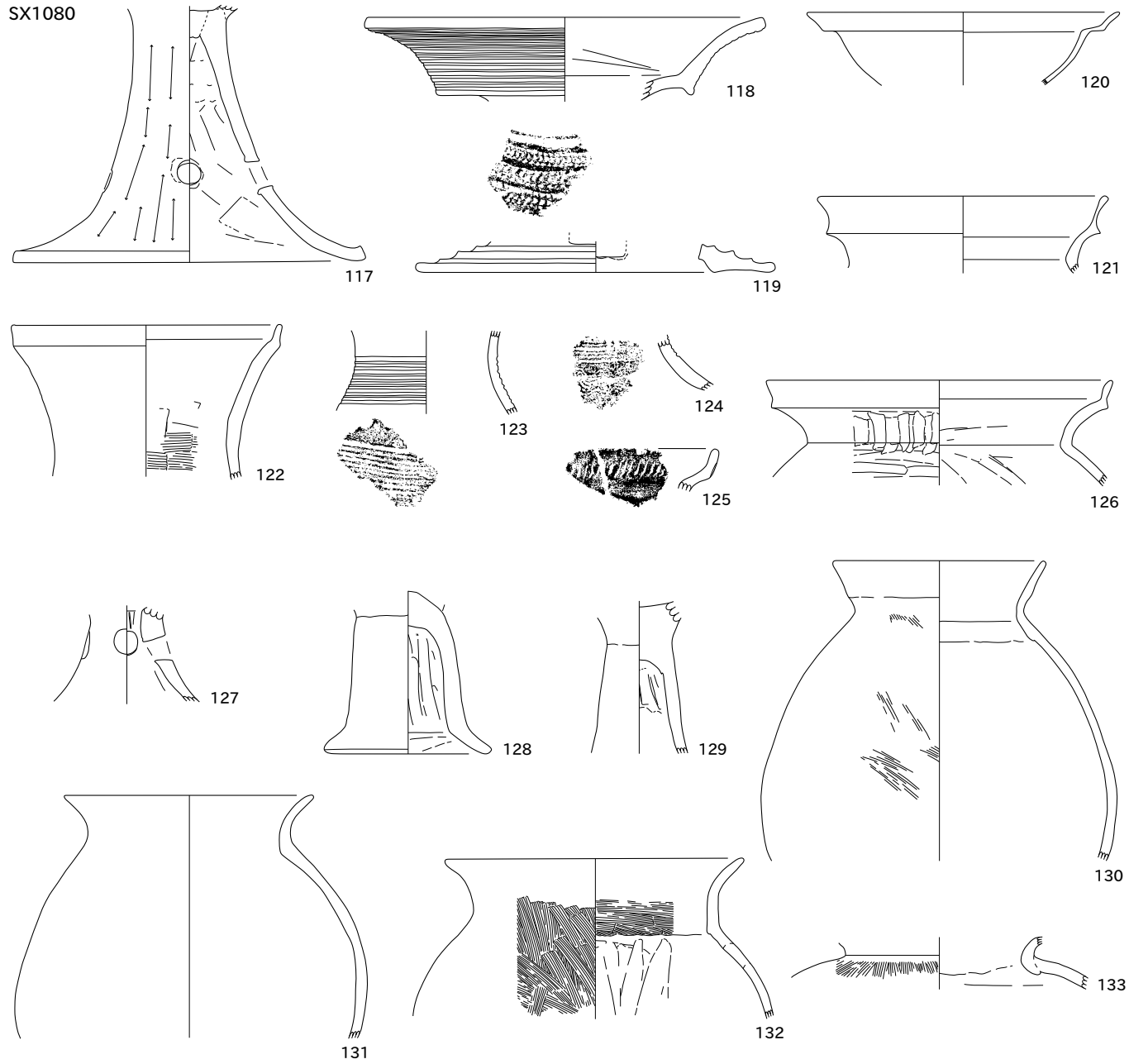
黒色処理

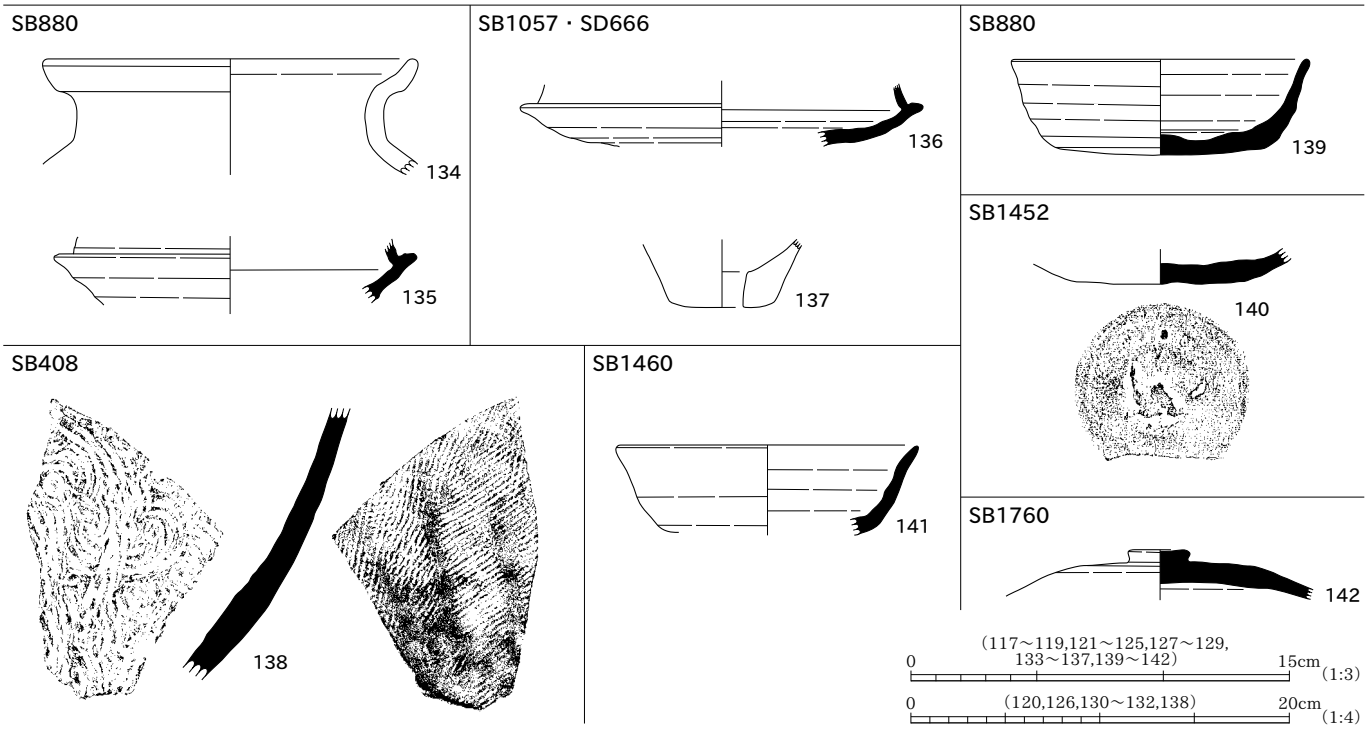
0　(92～97)　15cm　(1:3)

0　(83～91,98)　20cm　(1:4)

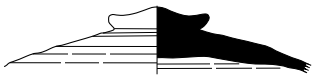
SI1604

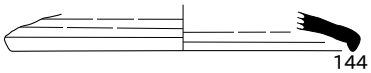

99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
0 (110,114～116) 15cm (1:3)
0 (99～109,111～113) 20cm (1:4)

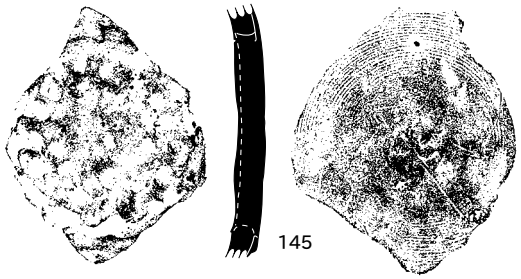

SX1080
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133


SB880
134
135
SB1057・SD666
136
137
SB880
139
SB1452
140
SB408
138
SB1460
141
SB1760
142
(117～119,121～125,127～129,
133～137,139～142)
0
15cm
(1:3)
(120,126,130～132,138)
0
20cm
(1:4)

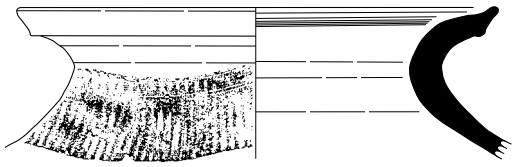
SB1750


143

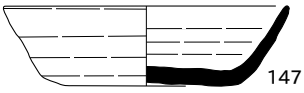

144


145

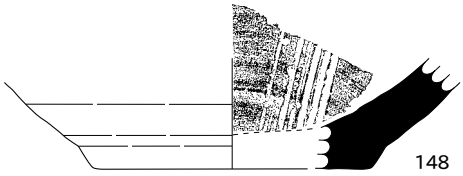
SB1782


146

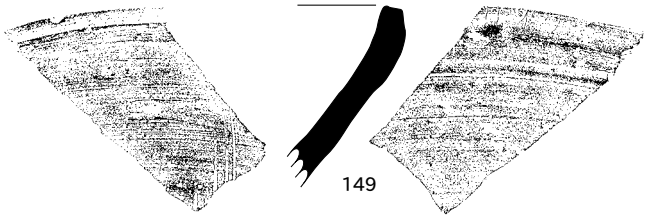
SB1626


147

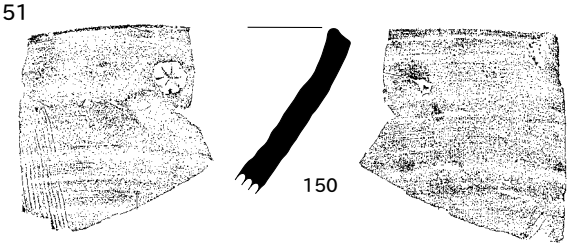
SB1215


148

SB1215


149

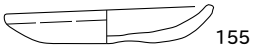
SB151


150

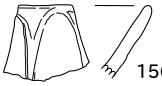
SB174

151

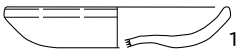
SB711

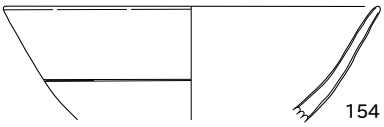

155

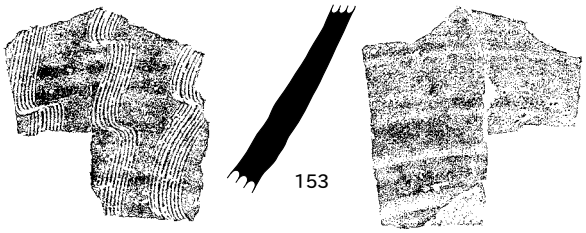
SB301


156

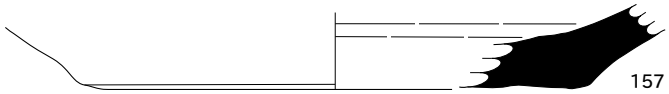
SB201


152

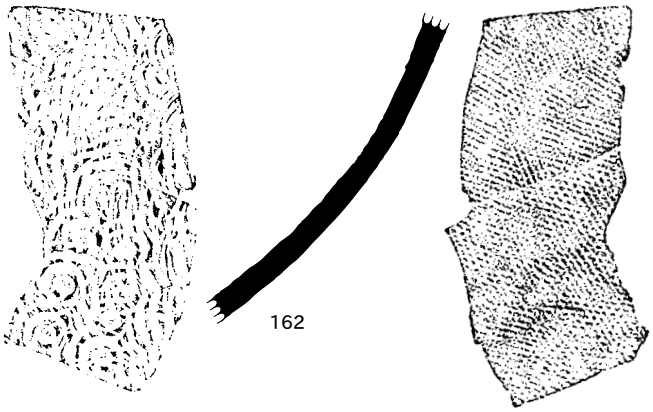

154


153

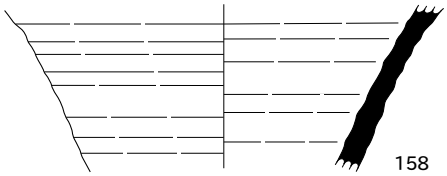
SB31

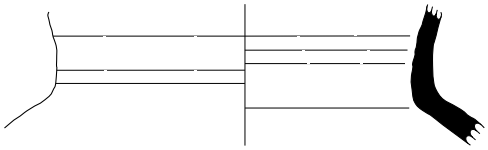

157

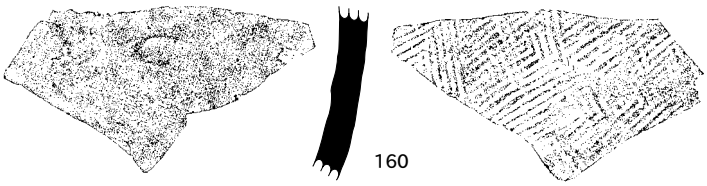
SE817


162

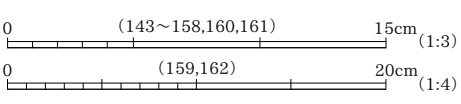
SE605


158

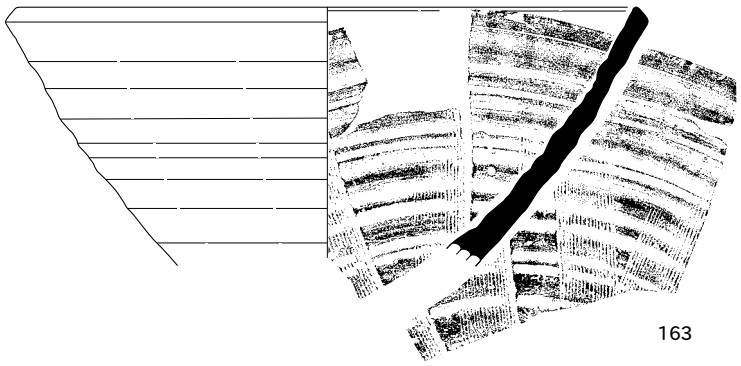

159


160

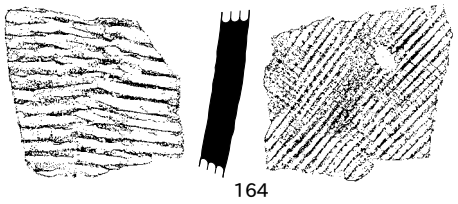
161



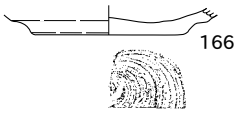
SE817・SD815



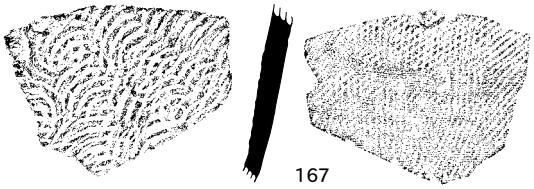
SE451

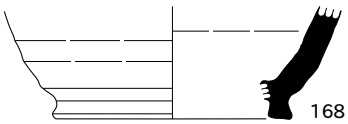


SE1061

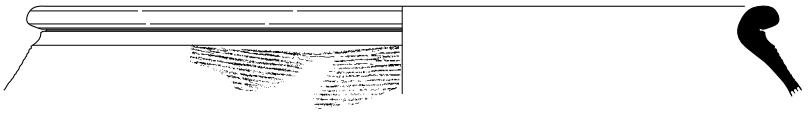


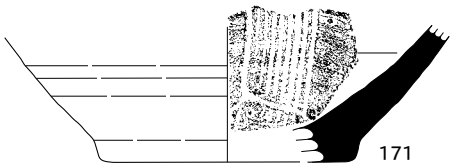
SE1199

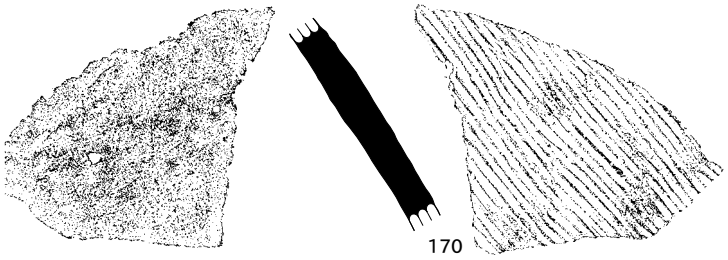




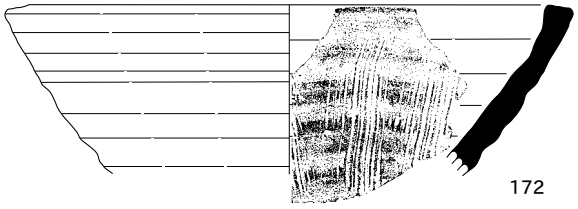
SE809



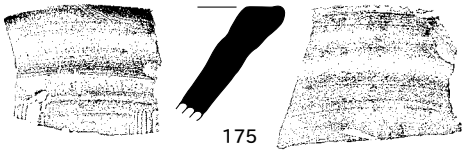


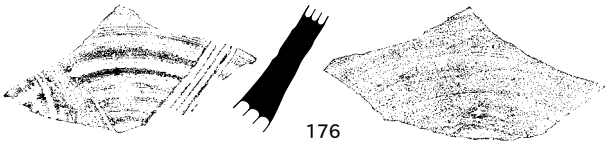


SE806



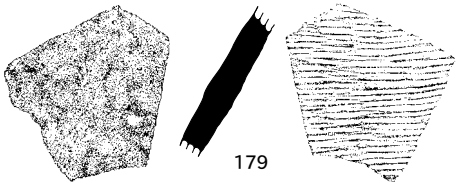
SE820



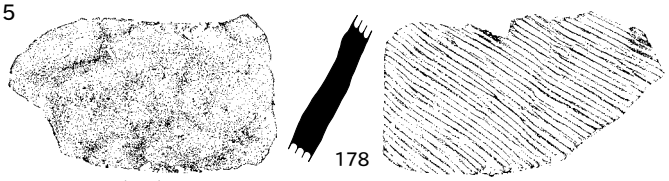


SE901

SE916

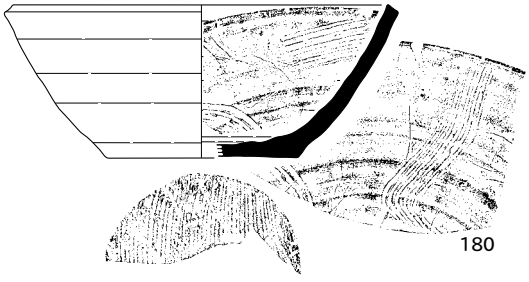


SE915

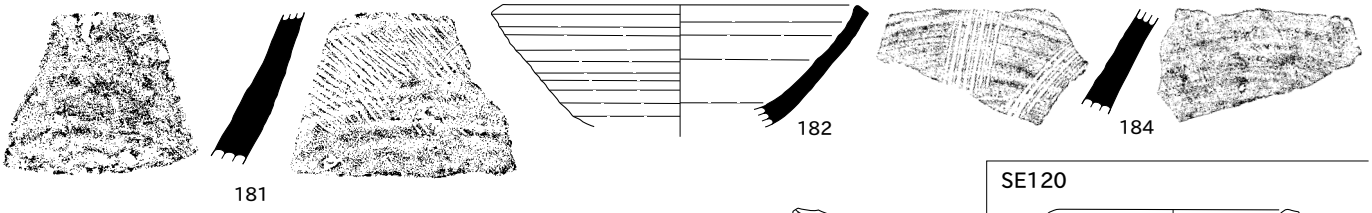


0 (177) 10cm (1:2)
0 (164～166,168,170,171,173～175) 15cm (1:3)
0 (163,167,172,176,178～180) 20cm (1:4)
0 (169) 30cm (1:6)

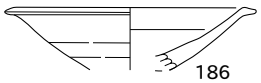
SE1102・SE1103

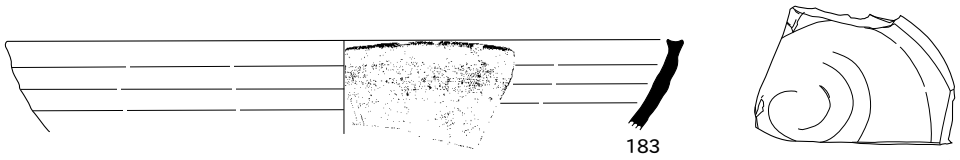


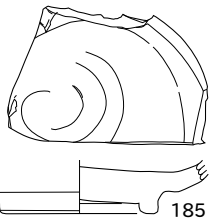
SE1103



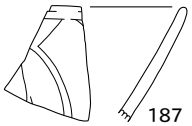
SE120



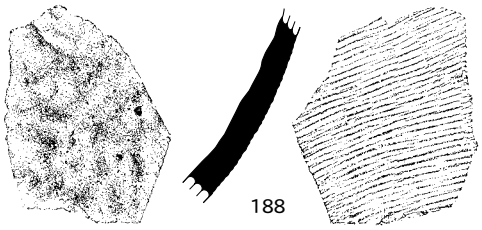




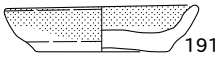
SE1101

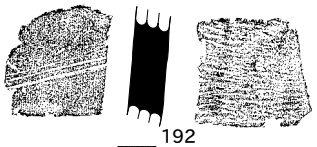


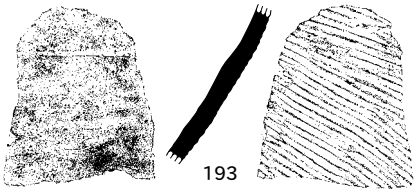
SE671



SE789



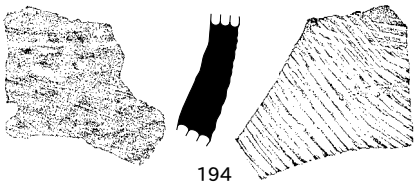


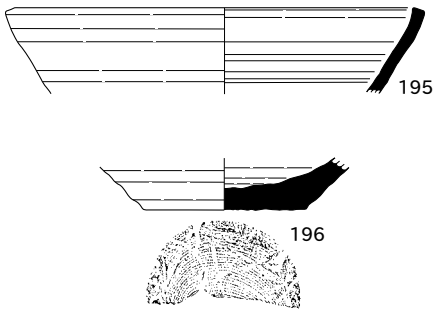


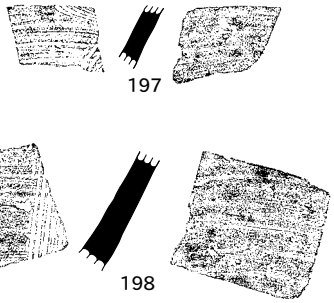
スス

SE672

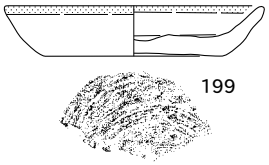
SE389

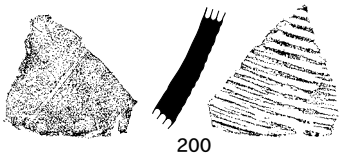




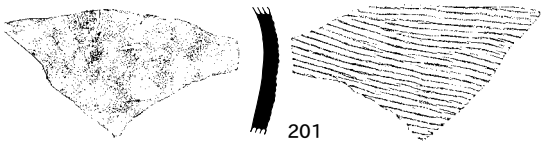


SE799

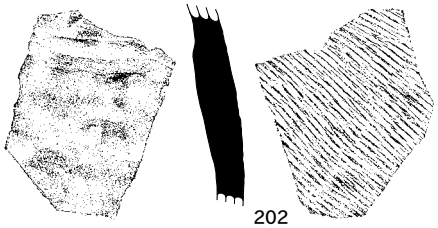




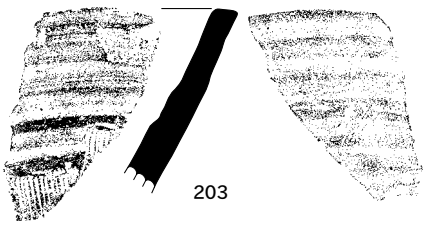
SE200

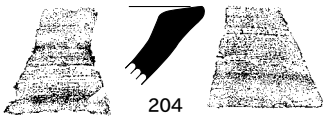


SE251

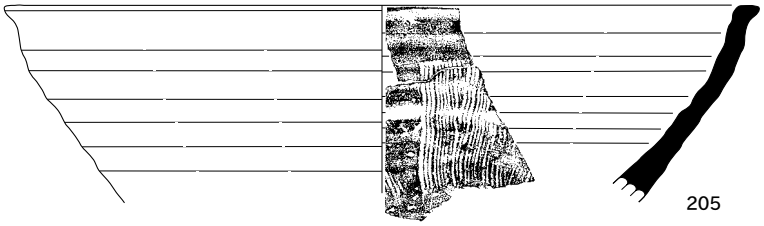


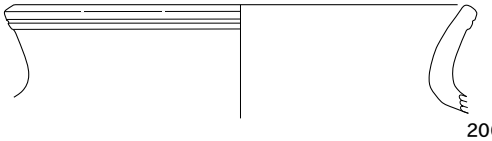
SE91





SE448

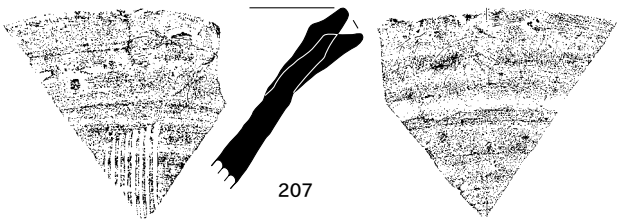




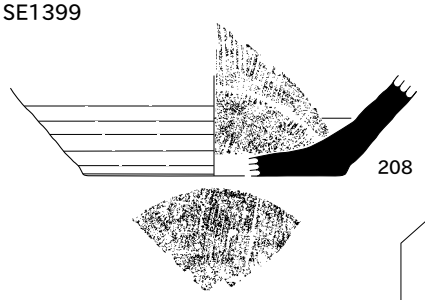
0　（185～187,189～192,197,199,200,204）　15cm　(1:3)

0　（181～184,188,193～196,198,201～203,205,206）　20cm　(1:4)

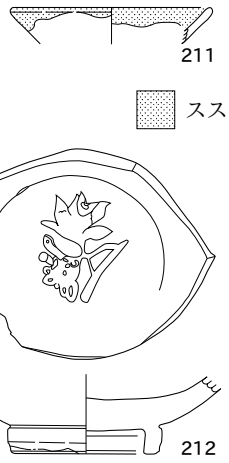
SE1086

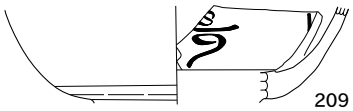


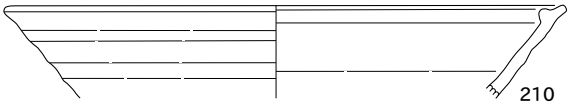
SE1399



SE882

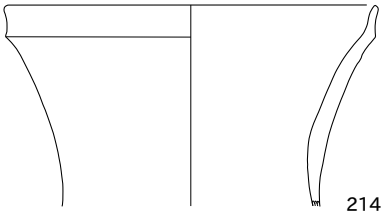


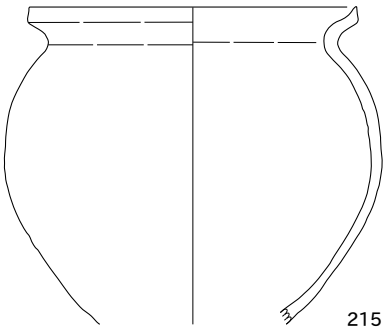




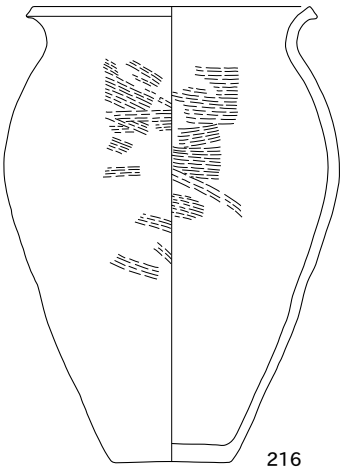
SE1060

SK603

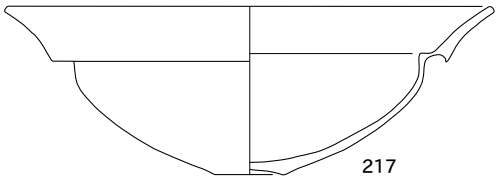


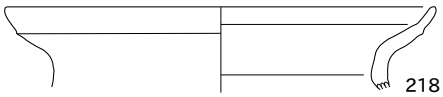


SK736

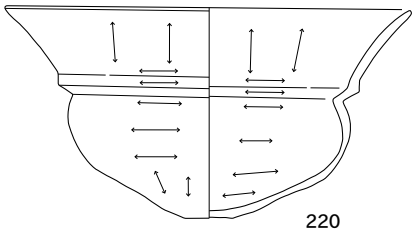


SK1541

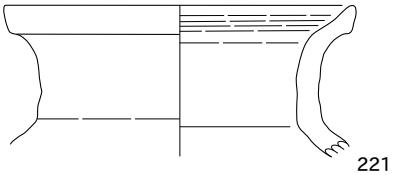


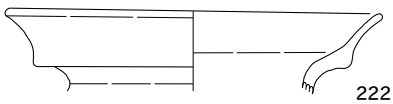


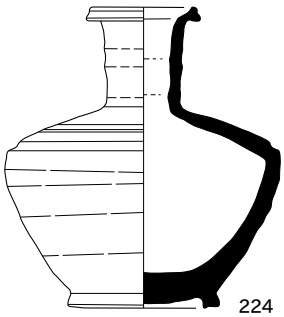
SK1614



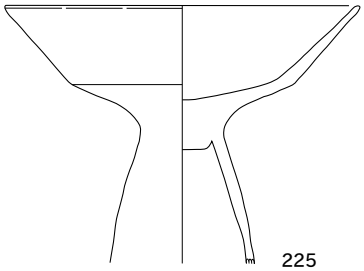
SK1505



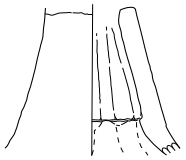




SK504



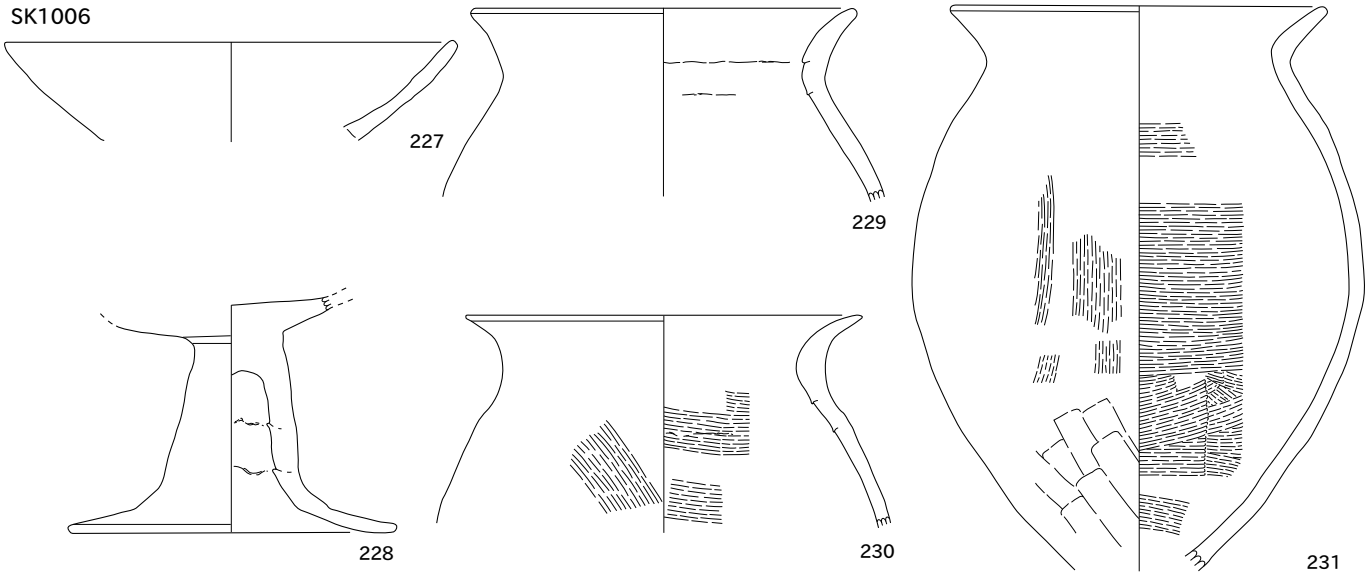
SK598



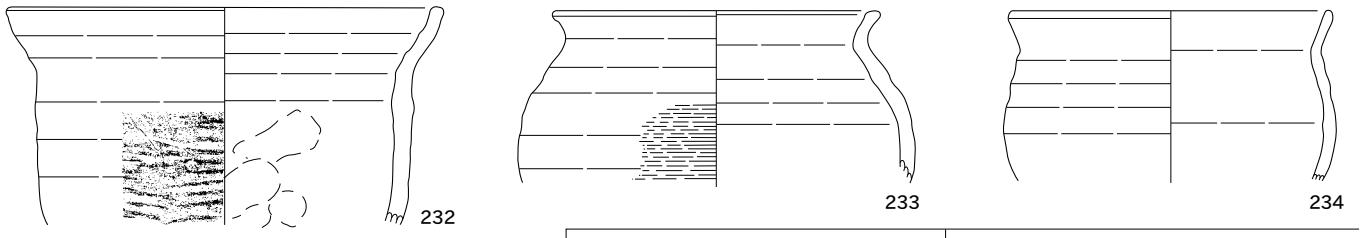
0　(207,209,211～215,218,219,221～226)　15cm (1:3)

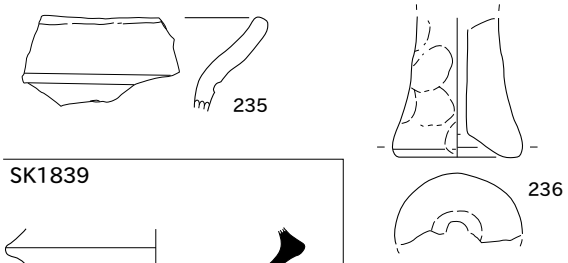
0　(208,210,216,217,220)　20cm (1:4)

SK1006

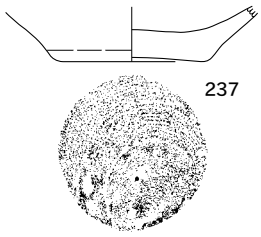


SK800

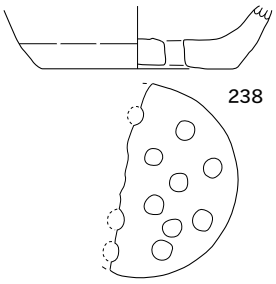




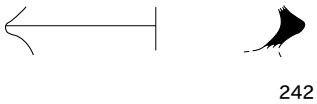
SK617



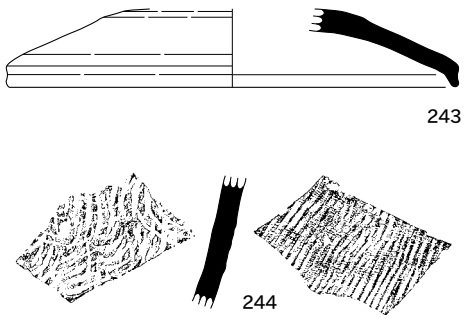
SK1822

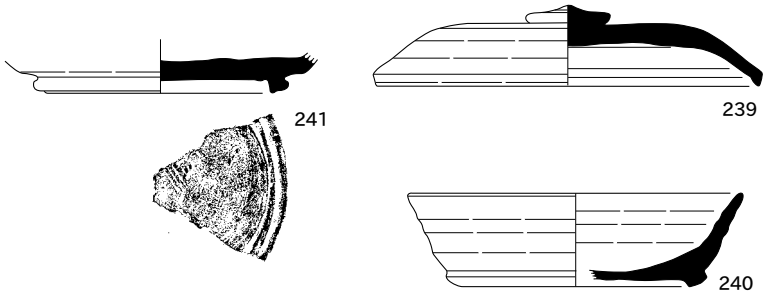


SK1839

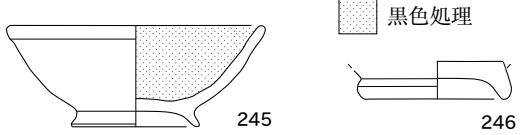


SK1559

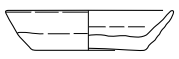




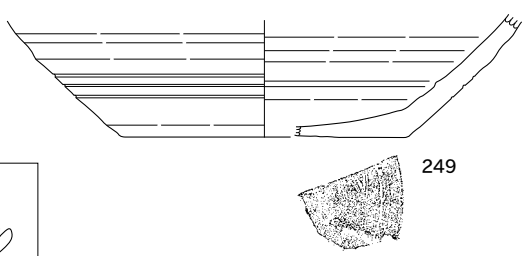
SK1508



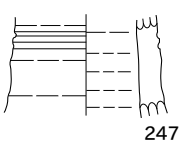
SK904



SK914・SD815

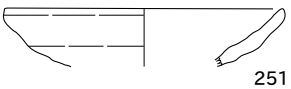


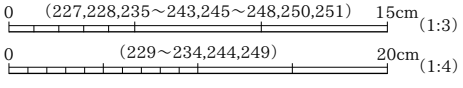
SK803



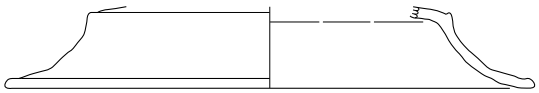
SK1187

SK94

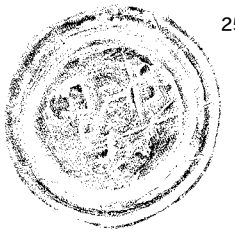




SX1369

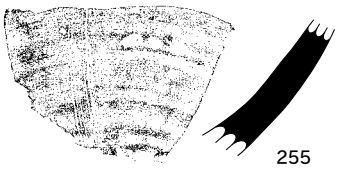

252

253



SX7

254

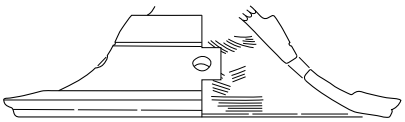

255

SX1404

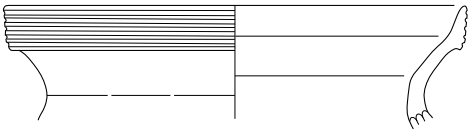
256

257

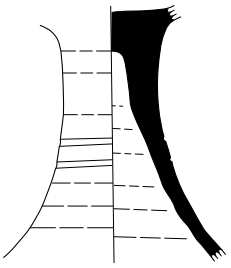
SD1370

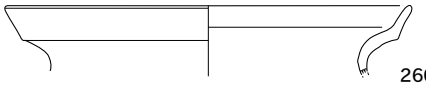

258

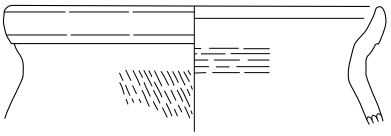
SD403


259

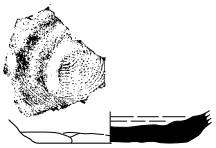
SD607


262


260

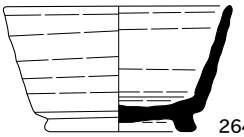

261

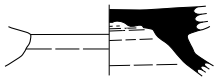
道（SD512）


269

SD357

263

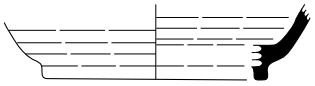

264


265

266

SD801

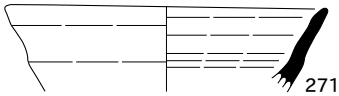
267


268

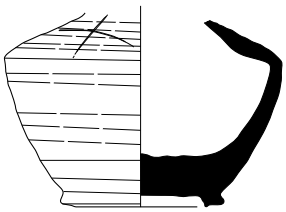
SD601

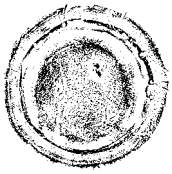
270

SD1296

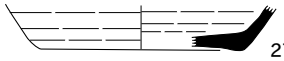

271

SD1502



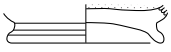

273

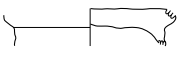
SD893

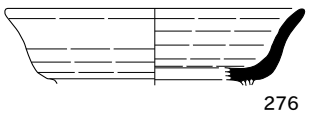

272

SD602

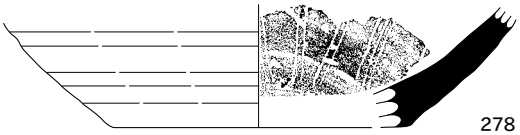
黒色処理


274


275


276

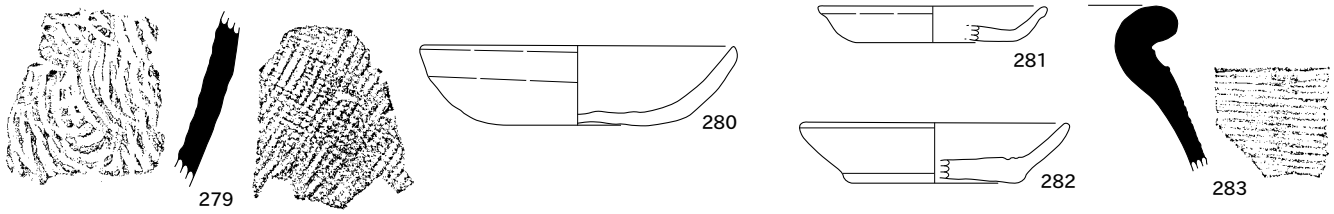
277

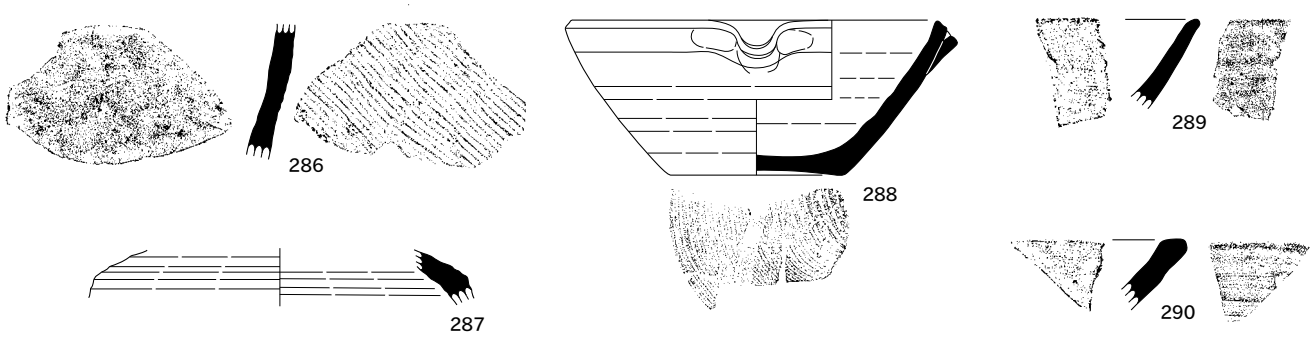

278

0　（253,254,256,257,259～277）　15cm　(1:3)

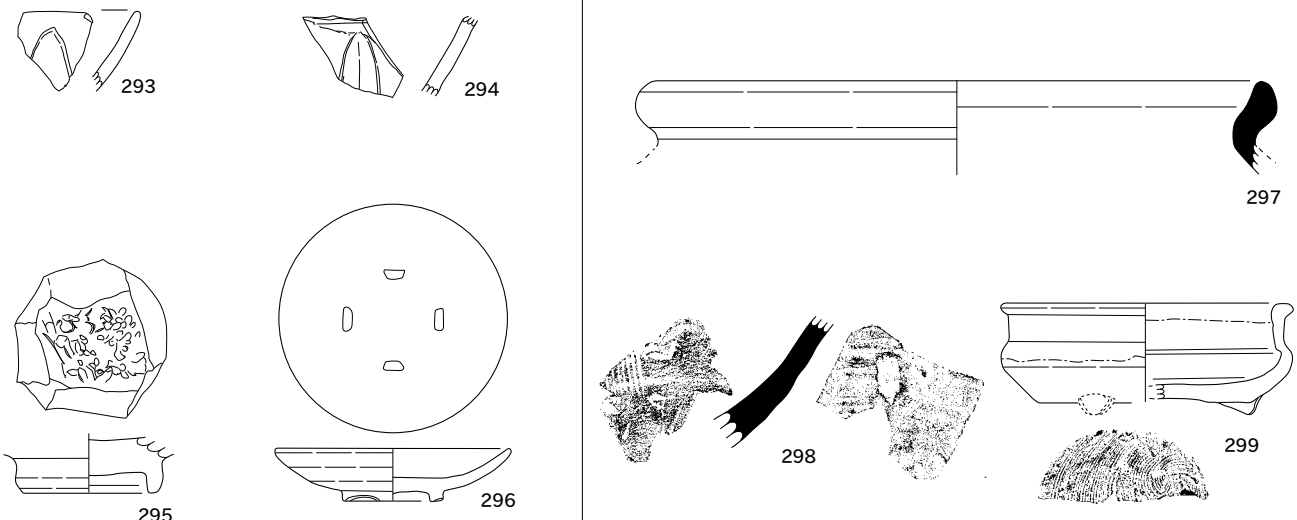
0　（252,255,258,278）　20cm　(1:4)

SD518・815





SD802

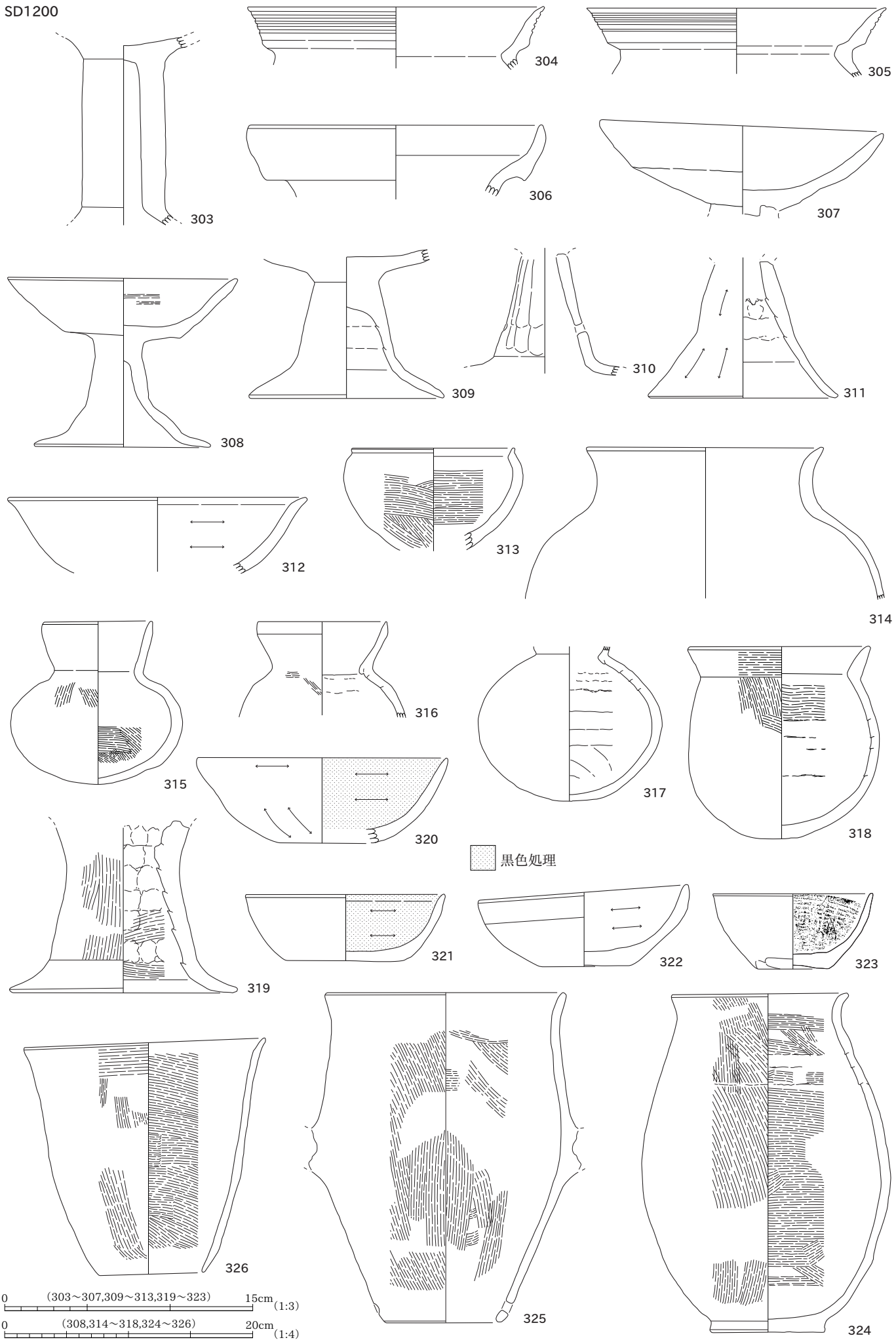


SD6

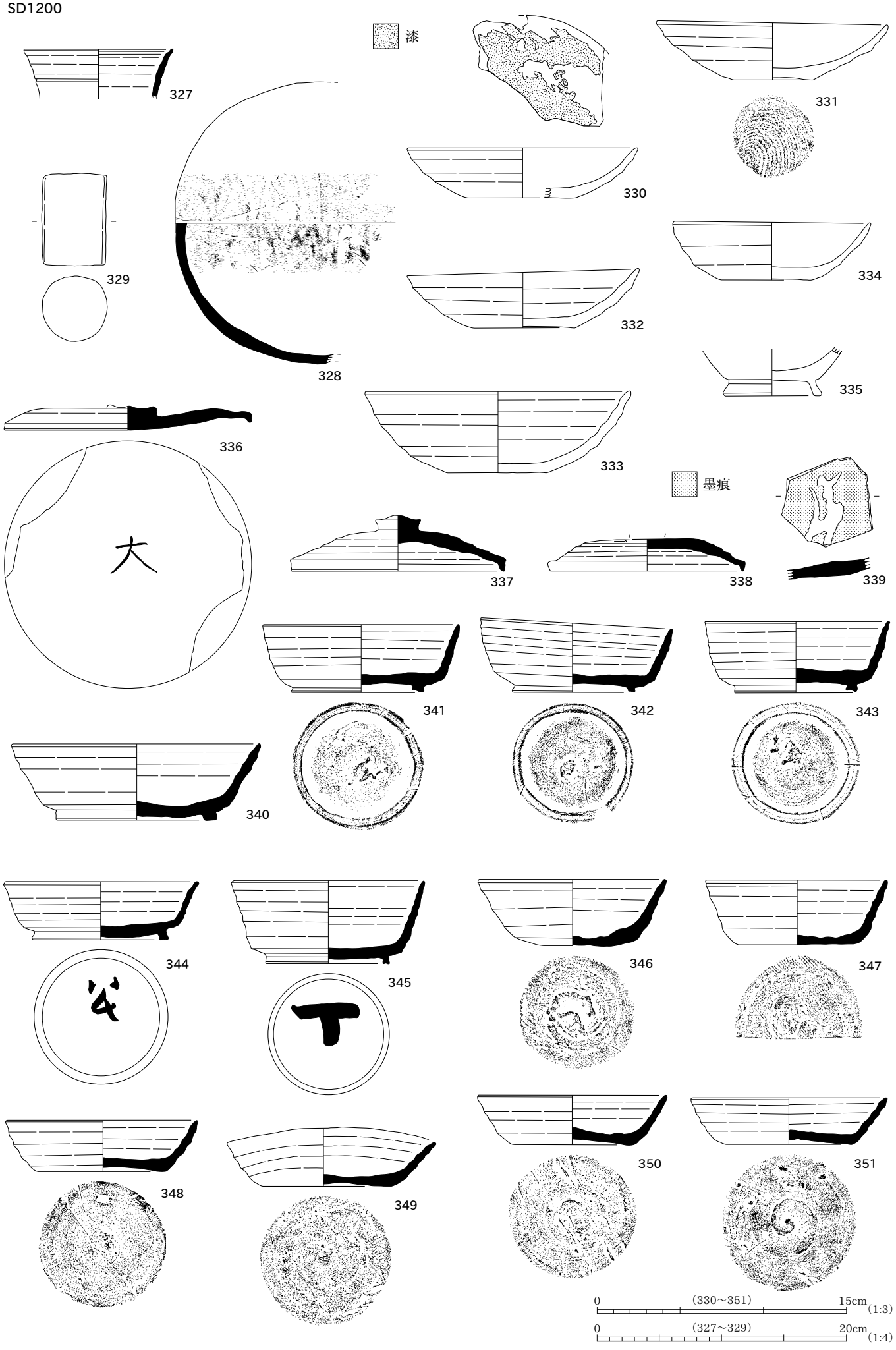
0　（279～282,289,290,292～296,299～302）　15cm　(1:3)

0　（283～288,291,297,298）　20cm　(1:4)

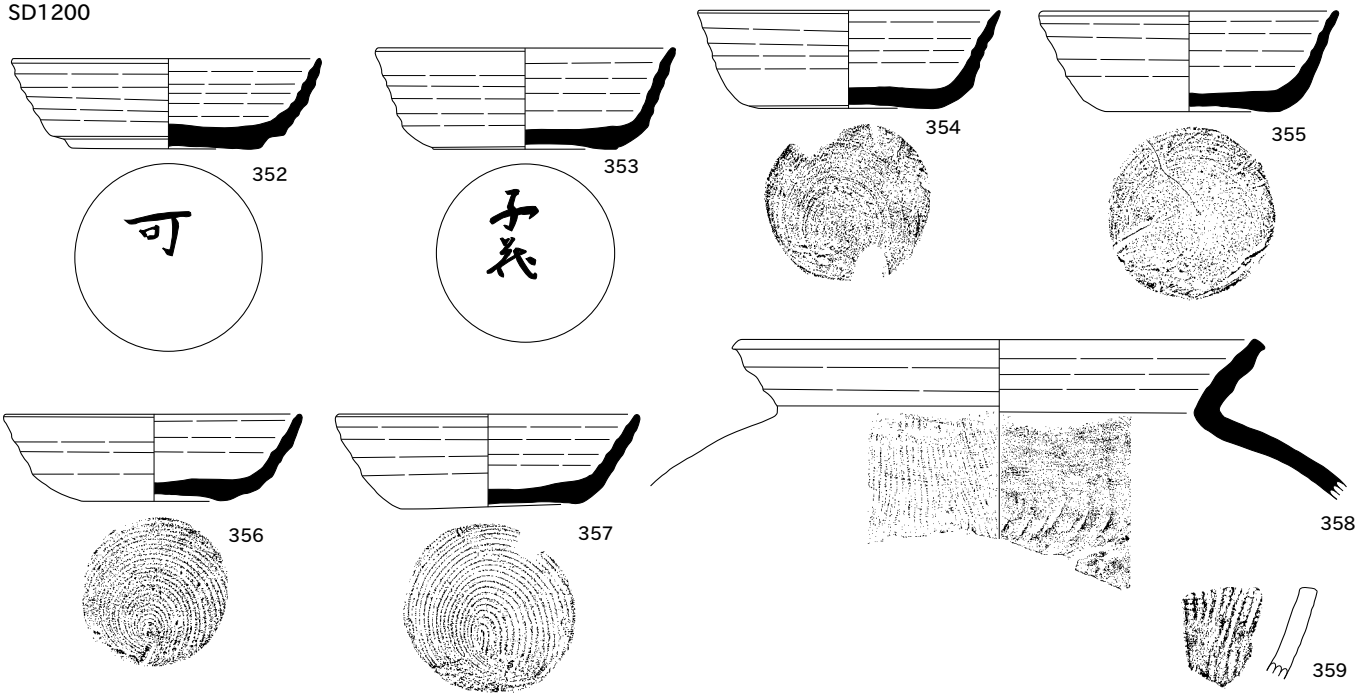
SD1200


303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
320
黒色処理
319
321
322
323
326
325
324
0 (303～307,309～313,319～323) 15cm (1:3)
0 (308,314～318,324～326) 20cm (1:4)

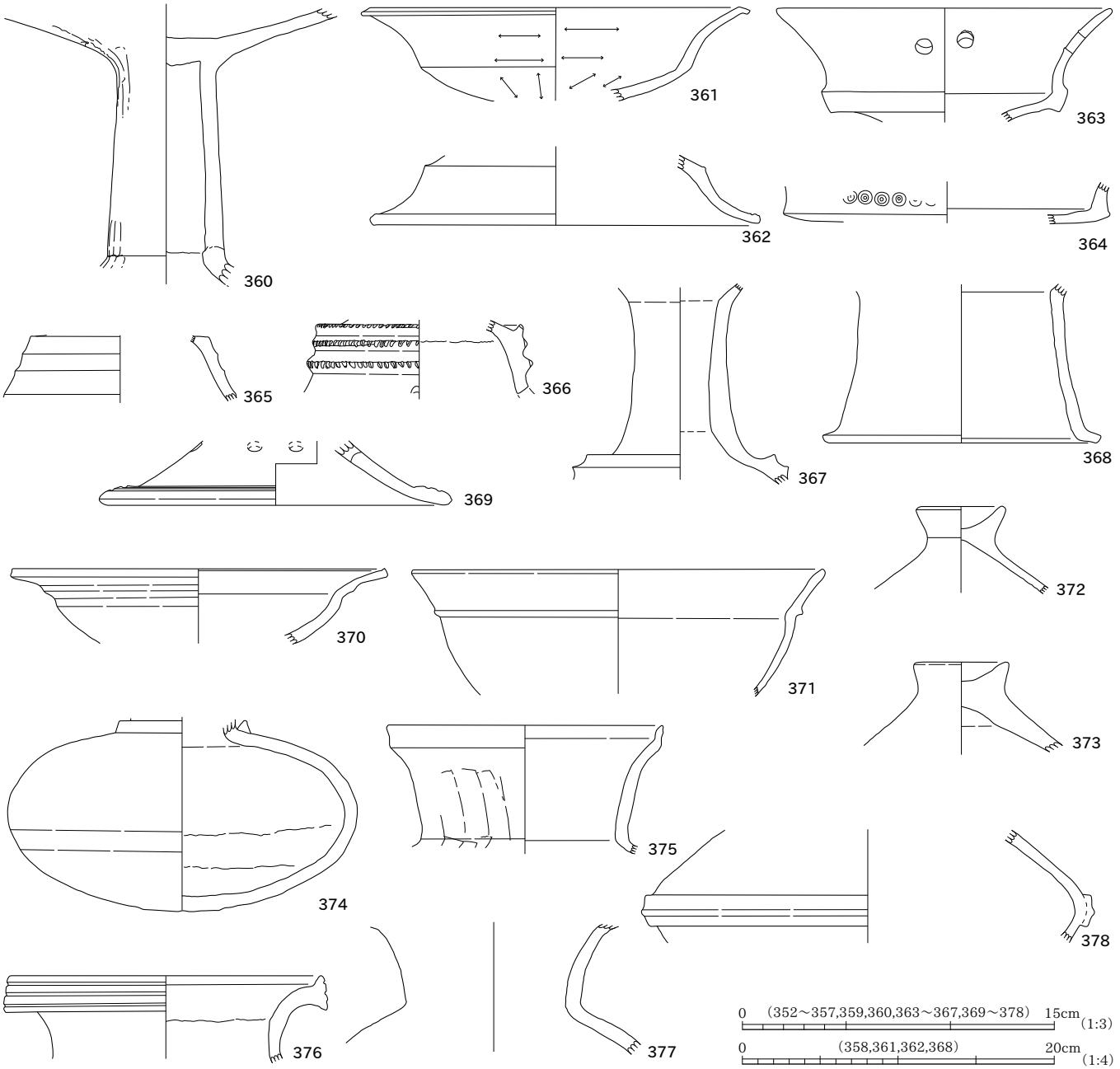
SD1200

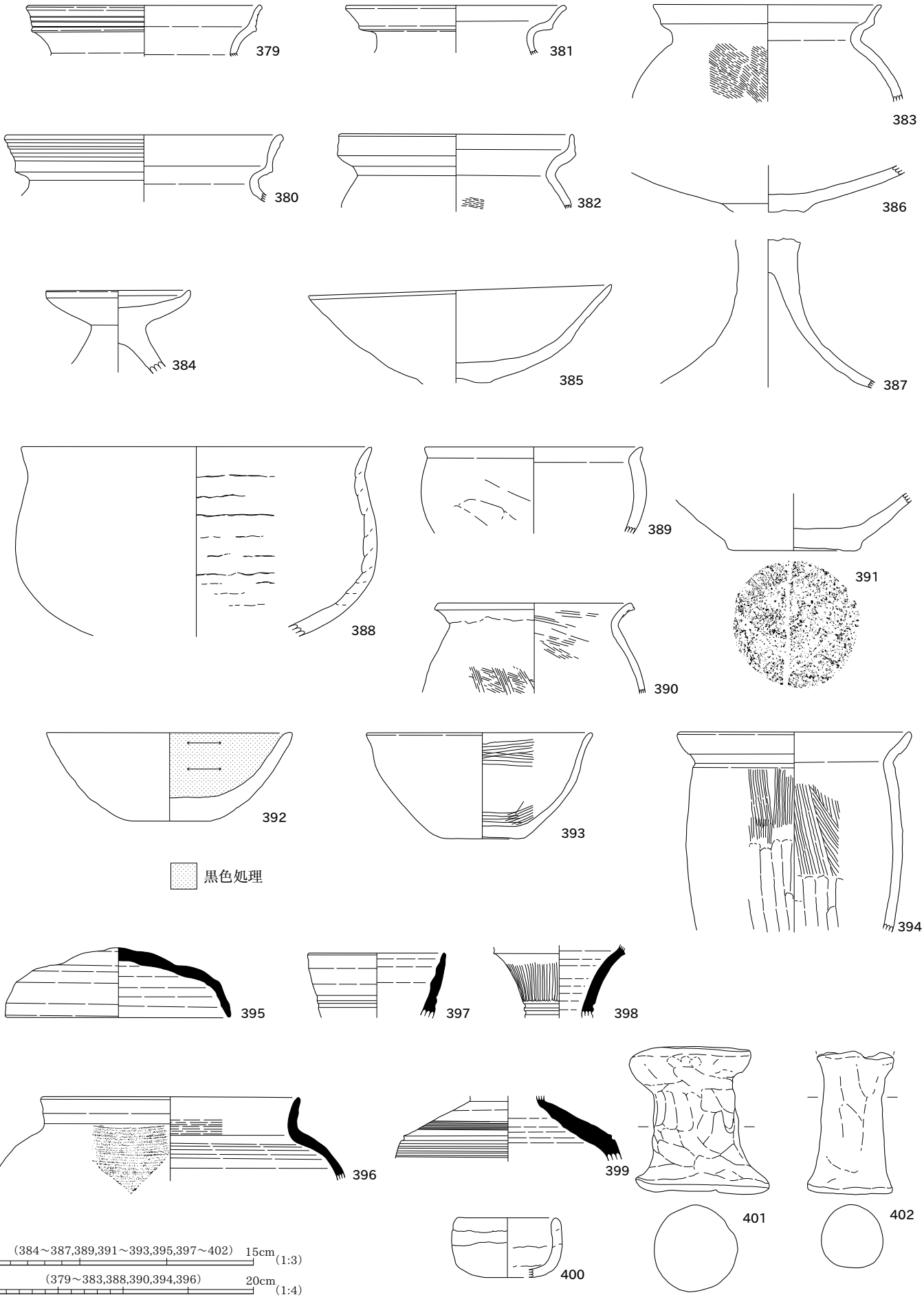

漆
墨痕
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
大
0 (330～351) 15cm (1:3)
0 (327～329) 20cm (1:4)

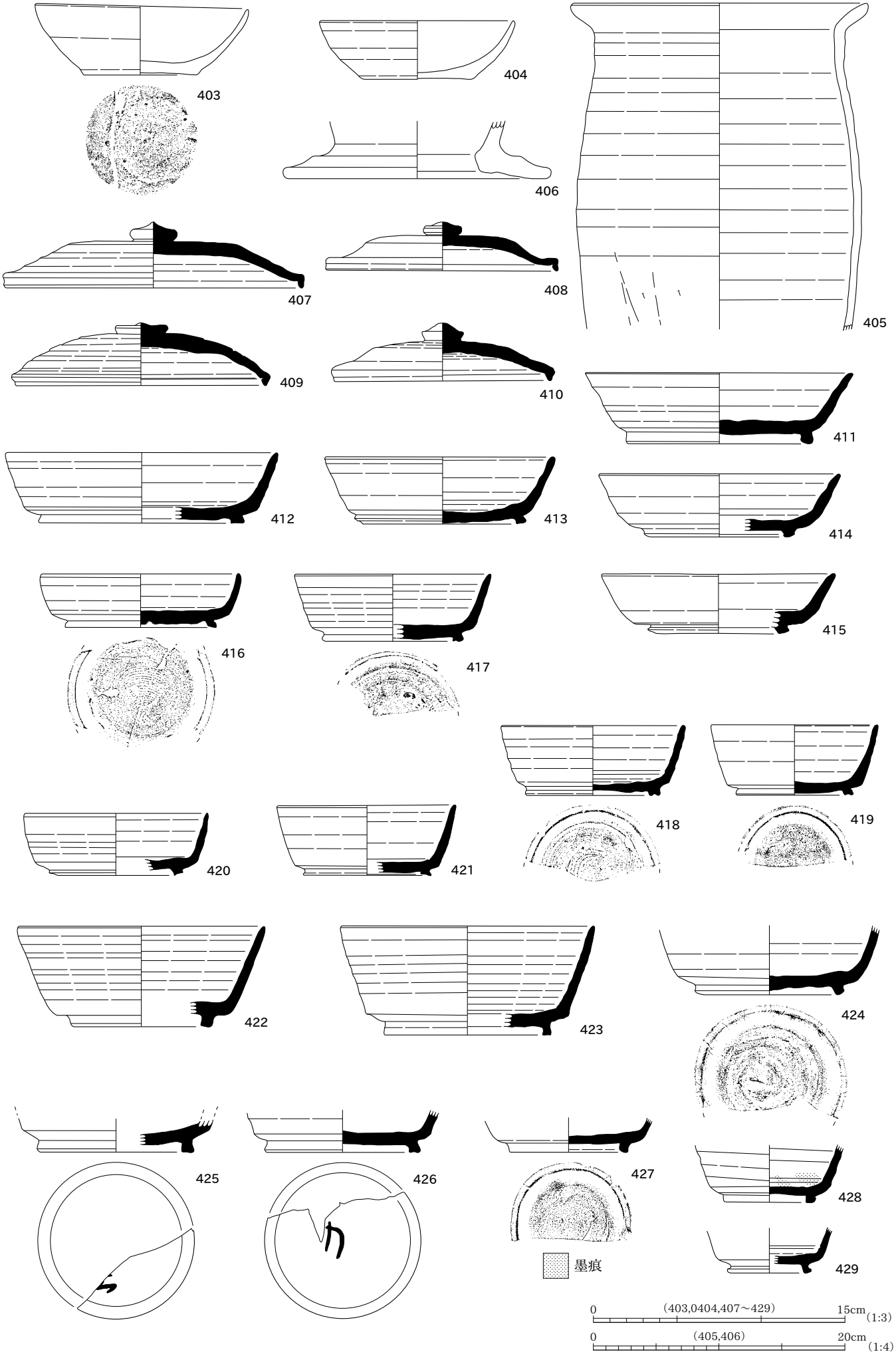
SD1200

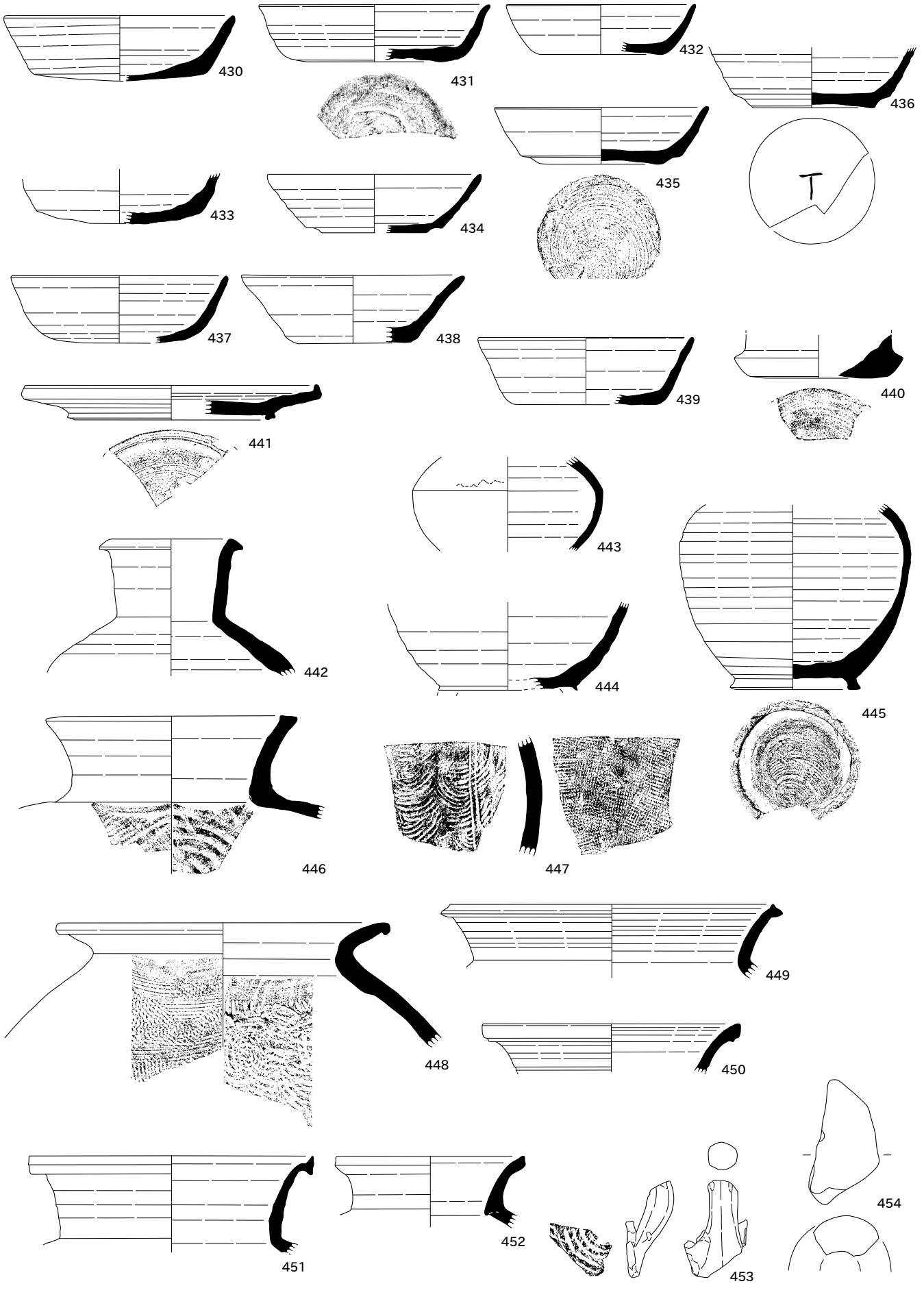

352
353
354
355
356
357
358
359

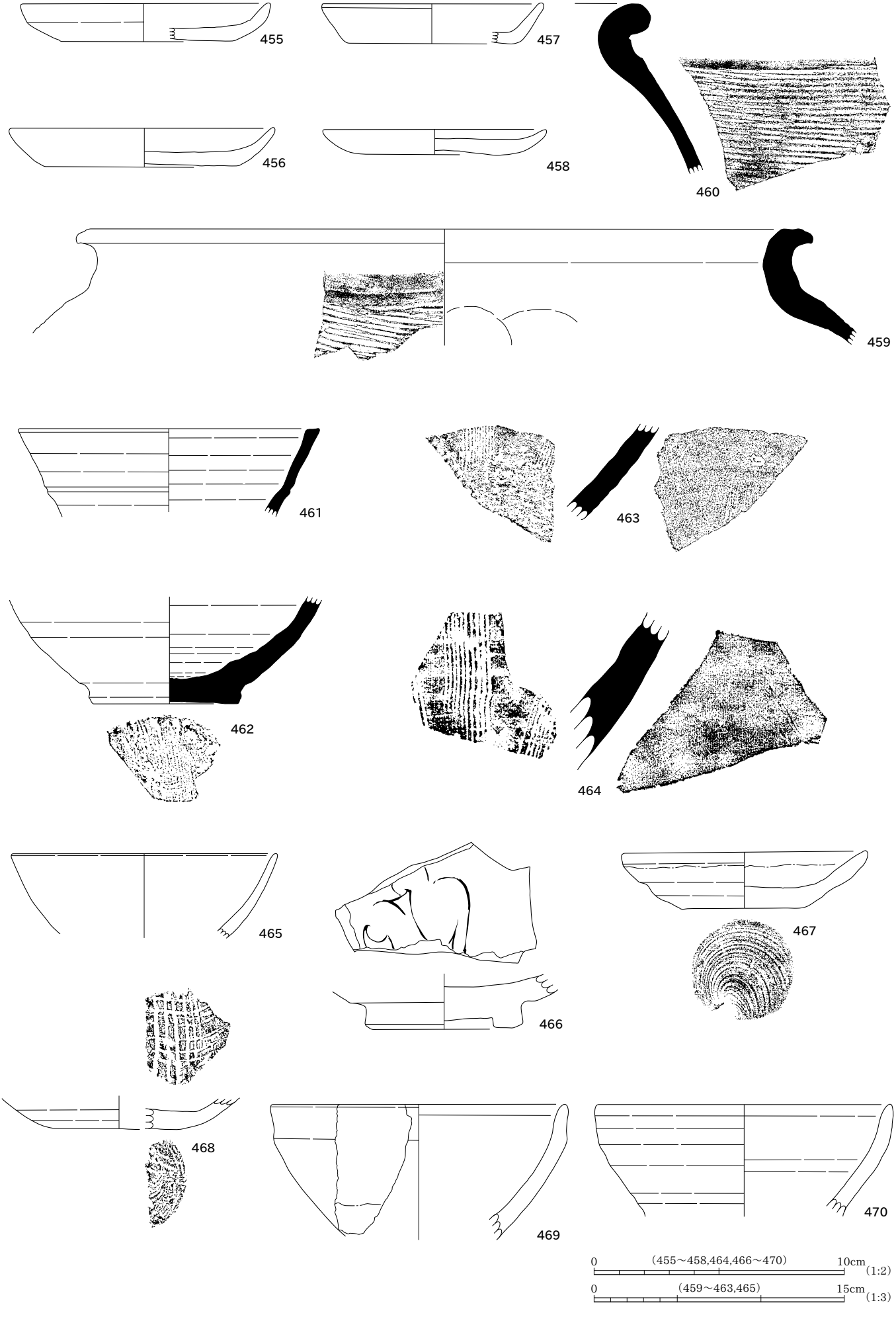
遺構外


360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
0 (352～357,359,360,363～367,369～378) 15cm (1:3)
0 (358,361,362,368) 20cm (1:4)

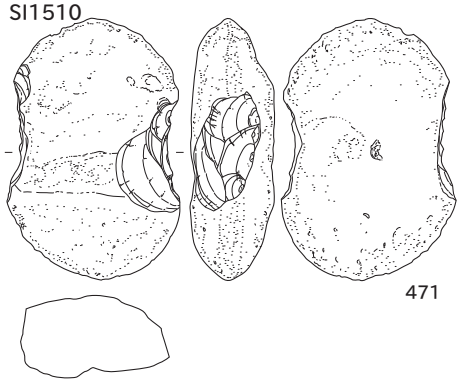

379
381
383
380
382
386
384
385
387
388
389
391
390
392
393
黒色処理
394
395
397
398
396
399
401
402
400
0 (384～387,389,391～393,395,397～402) 15cm (1:3)
0 (379～383,388,390,394,396) 20cm (1:4)

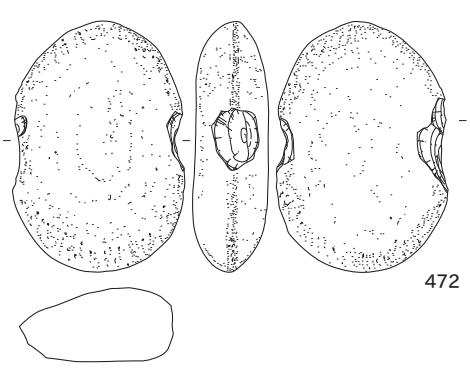

403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
墨痕
0 (403,0404,407～429) 15cm (1:3)
0 (405,406) 20cm (1:4)

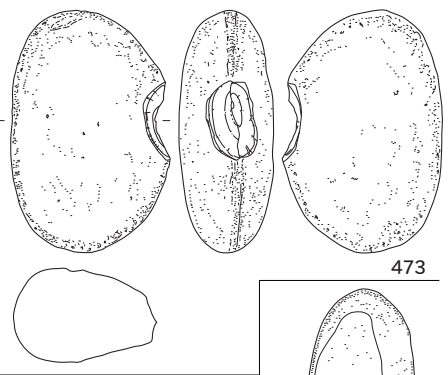

430
431
432
436
435
433
434
437
438
439
440
441
443
442
444
445
446
447
449
448
450
454
451
452
453
0 (430～446,452～454) 15cm (1:3)
0 (447～451) 20cm (1:4)


455
457
456
458
460
459
461
463
462
464
465
467
466
468
469
470
0　（455～458,464,466～470）　10cm　(1:2)
0　（459～463,465）　15cm　(1:3)

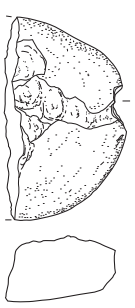
SI1510

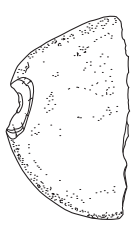

471

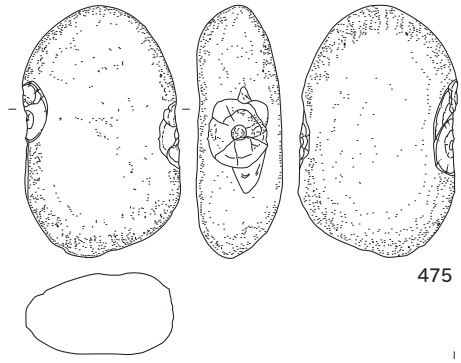

472

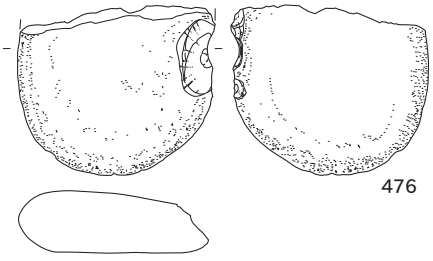

473

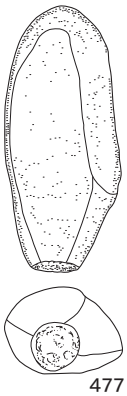
SI1604



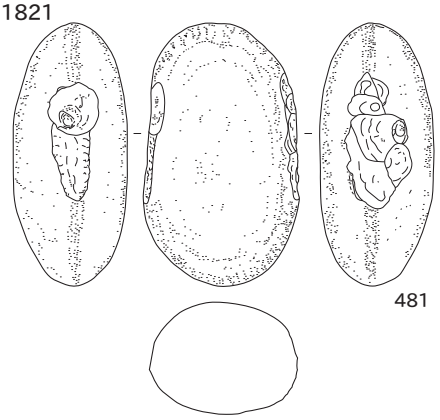

474

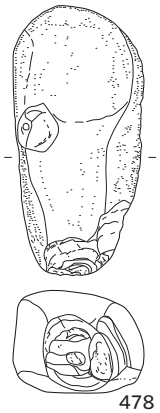

475

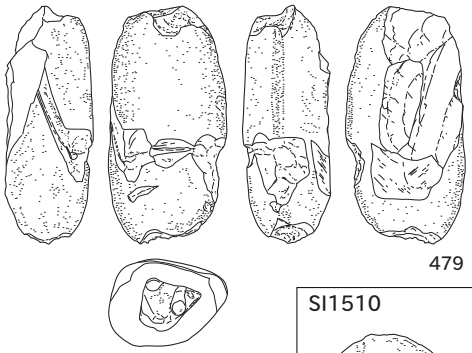

476

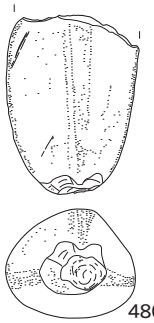

477

SI1821

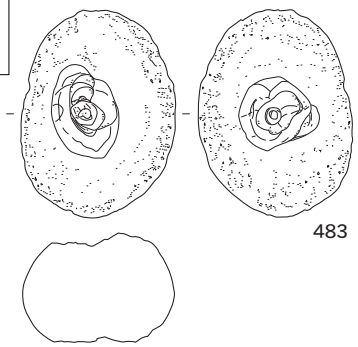

481

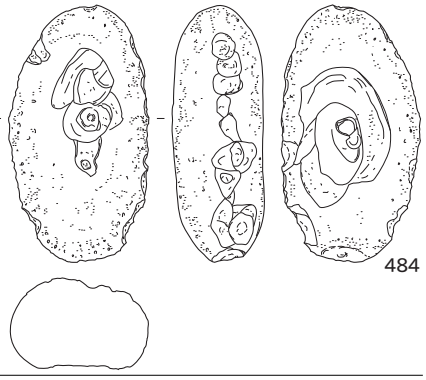

478


479

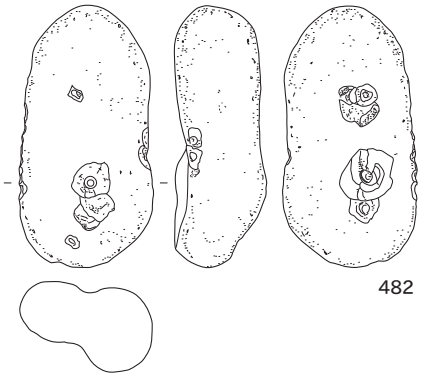

480

SI1510

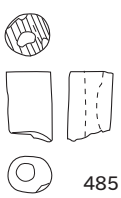

483


484

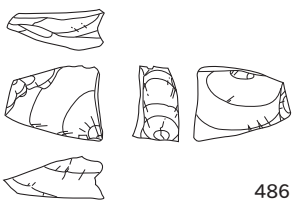
SI1305


482

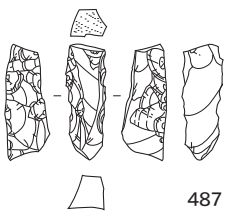
39M7


485

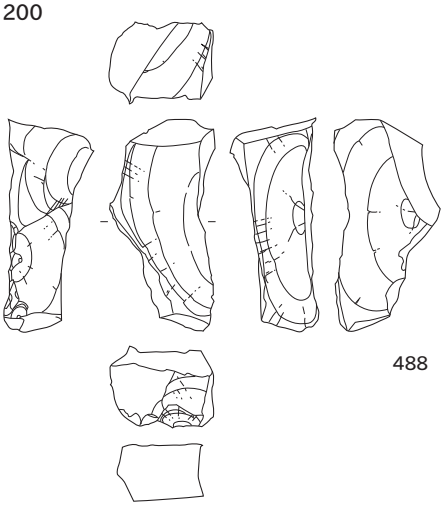
37K22


486

39L1

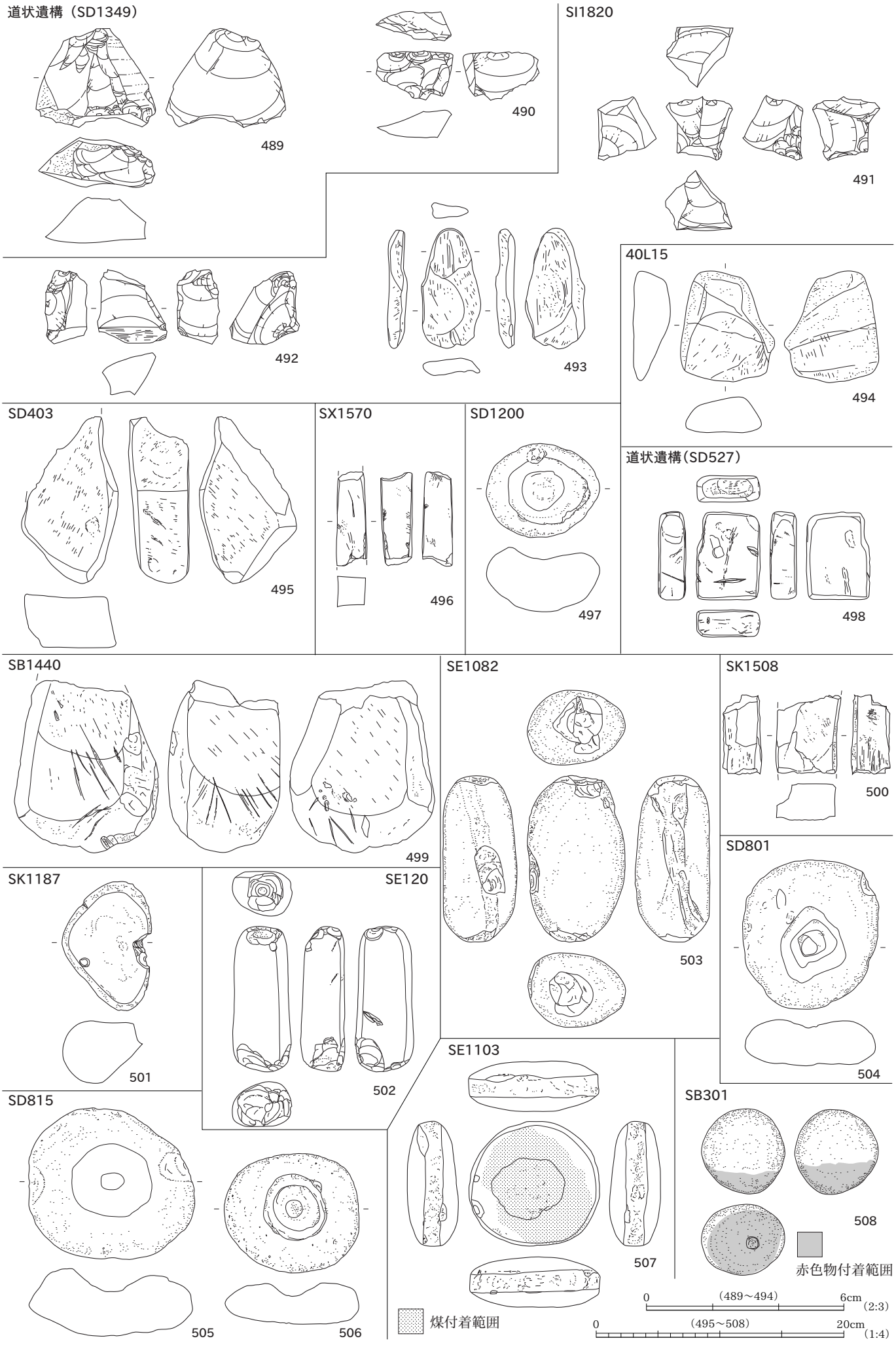

487

SD1200

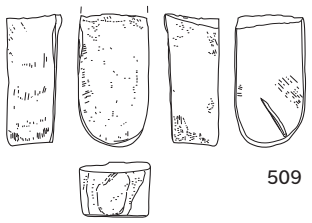

488

0　(485～488)　6cm (2:3)

0　(471～484)　20cm (1:4)


道状遺構（SD1349）
489
490
SI1820
491
492
493
40L15
494
SD403
495
SX1570
496
SD1200
497
道状遺構（SD527）
498
SB1440
499
SE1082
503
SK1508
500
SD801
504
SK1187
501
SE120
502
SE1103
507
SB301
508
SD815
505
506
煤付着範囲
赤色物付着範囲
0　(489～494)　6cm　(2:3)
0　(495～508)　20cm　(1:4)

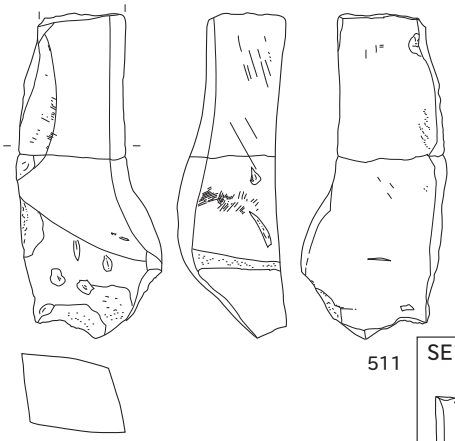
41J4



509

SD815

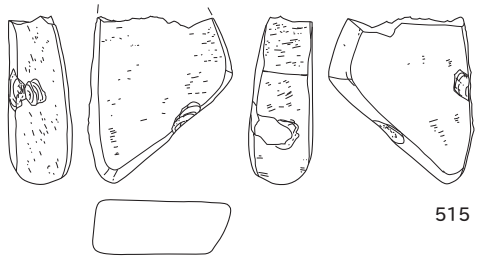
510



511

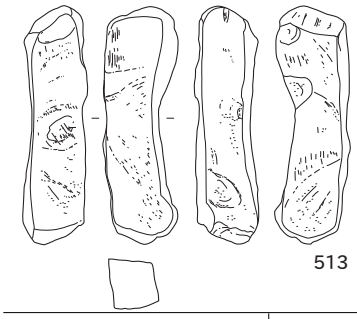
512

SE1102



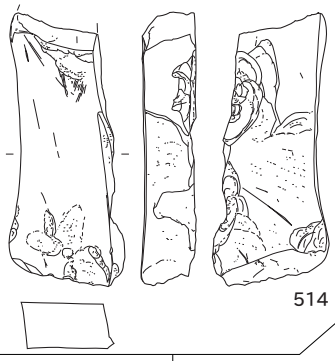
515

SE251



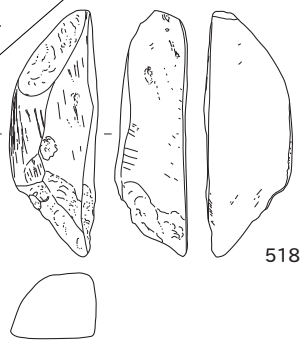
513

SE1085



514

SE903

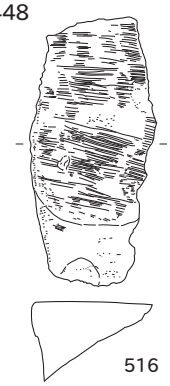


518

SK617

519

SE448

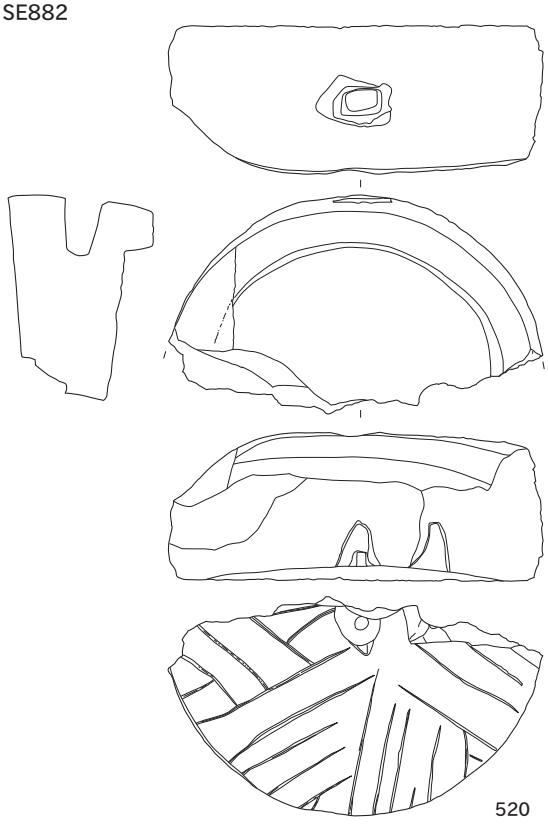


516

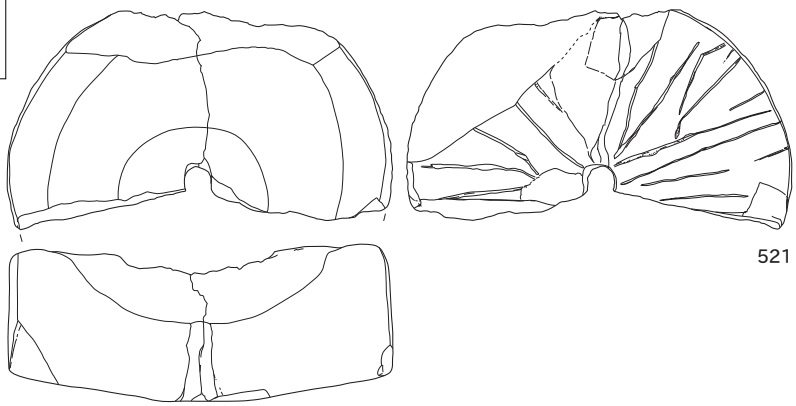
SE604

517

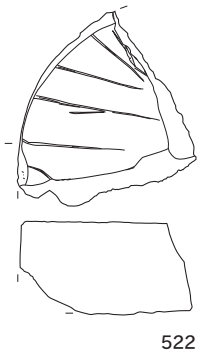
SE882



520

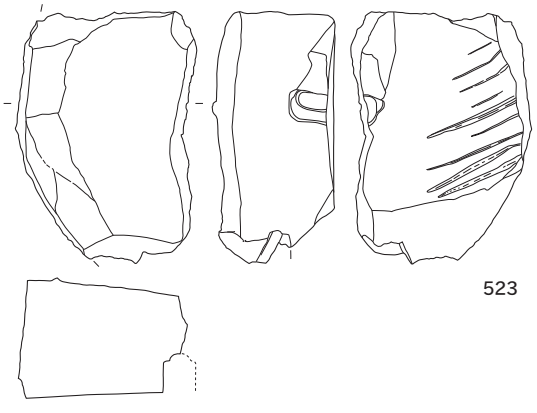


521

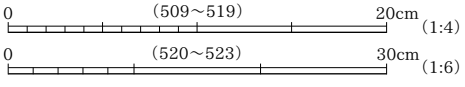


522

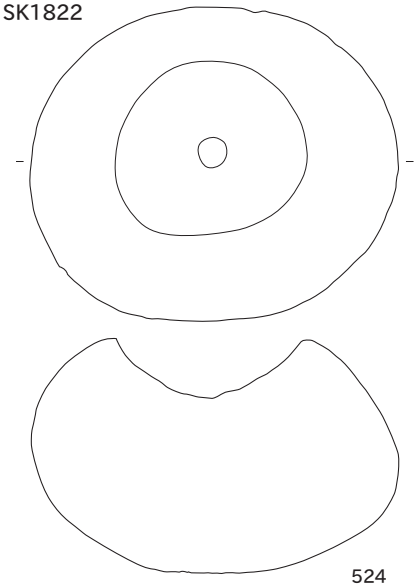
SE1853



523

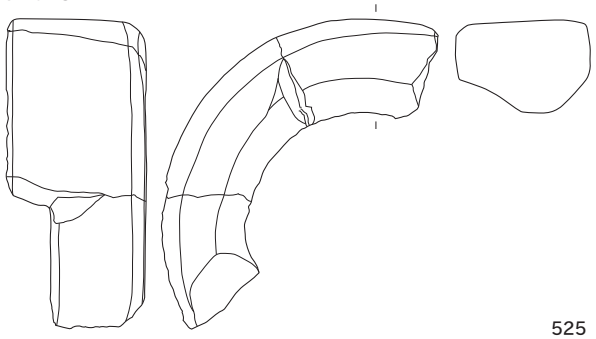


SK1822



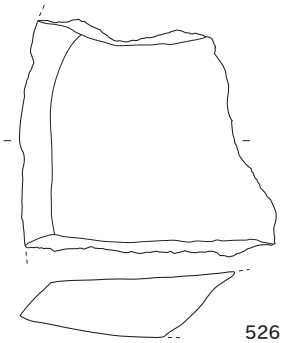
524

SD518



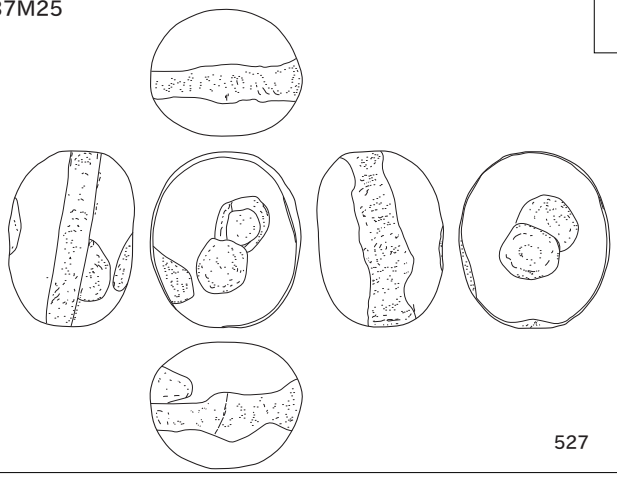
525

SE1399



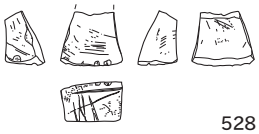
526

37M25



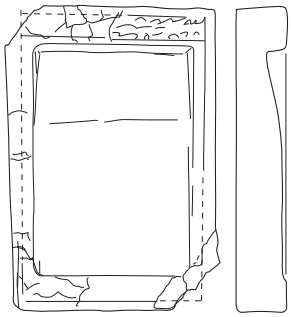
527

40L6



528

40M21

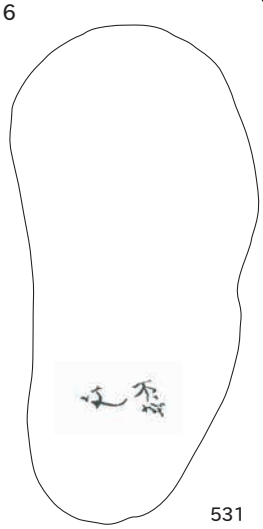


529

SE916

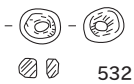
530

SE916



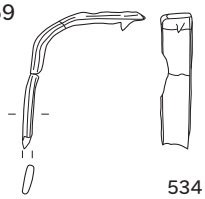
531

SD403



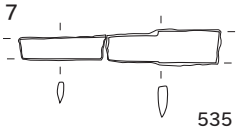
532

SE359



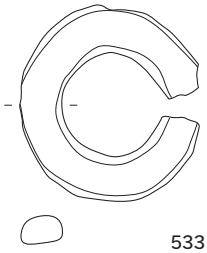
534

SK917



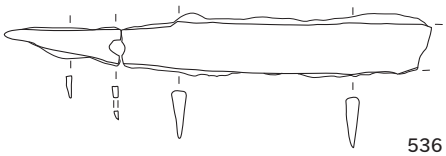
535

36J11



533

SE1102



536

SX1

537　538　539　540

(529) 0 10cm (1:2)

(537～540) 0 6cm (2:3)

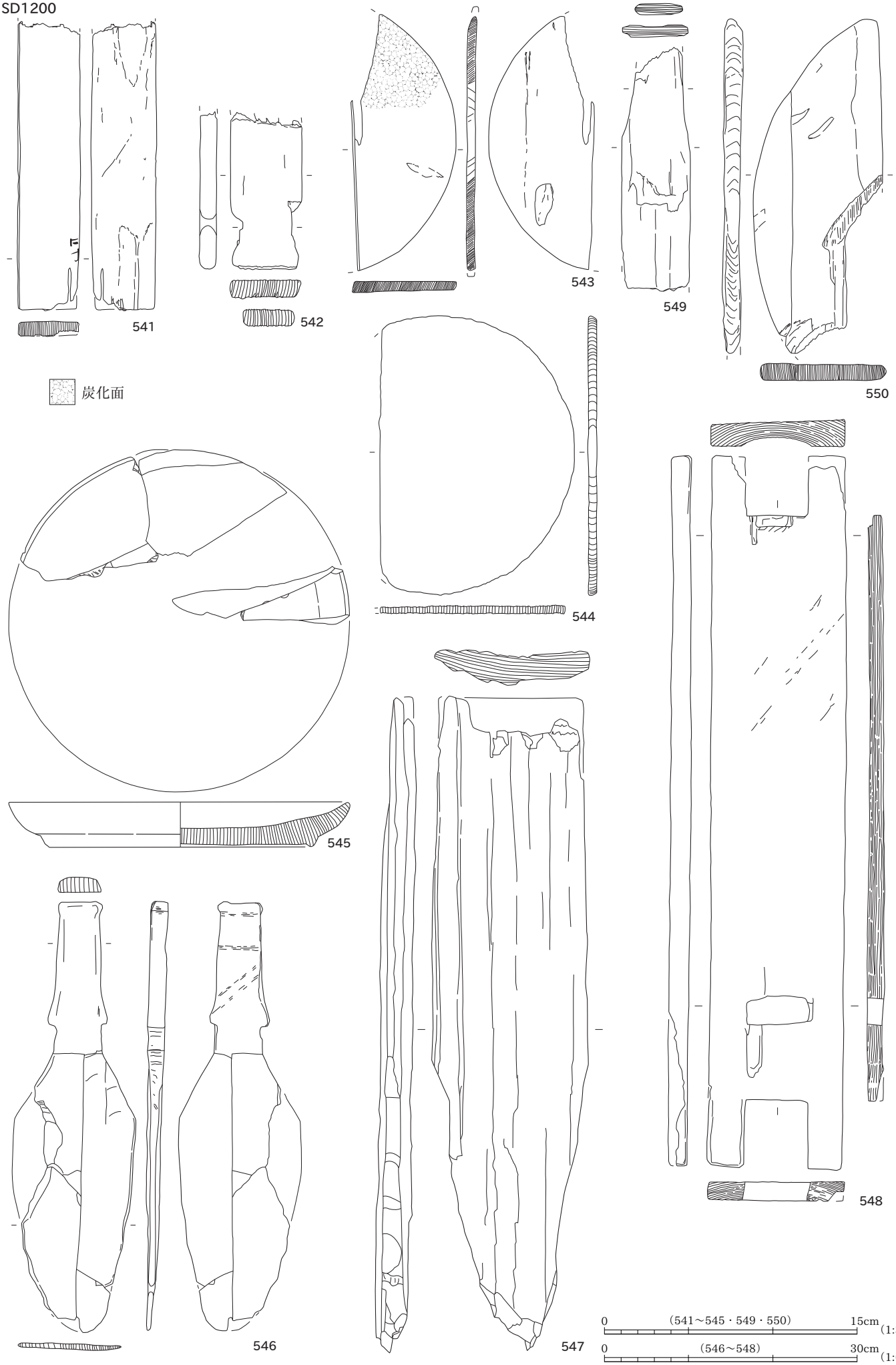
(532,533) 0 5cm (4:5)

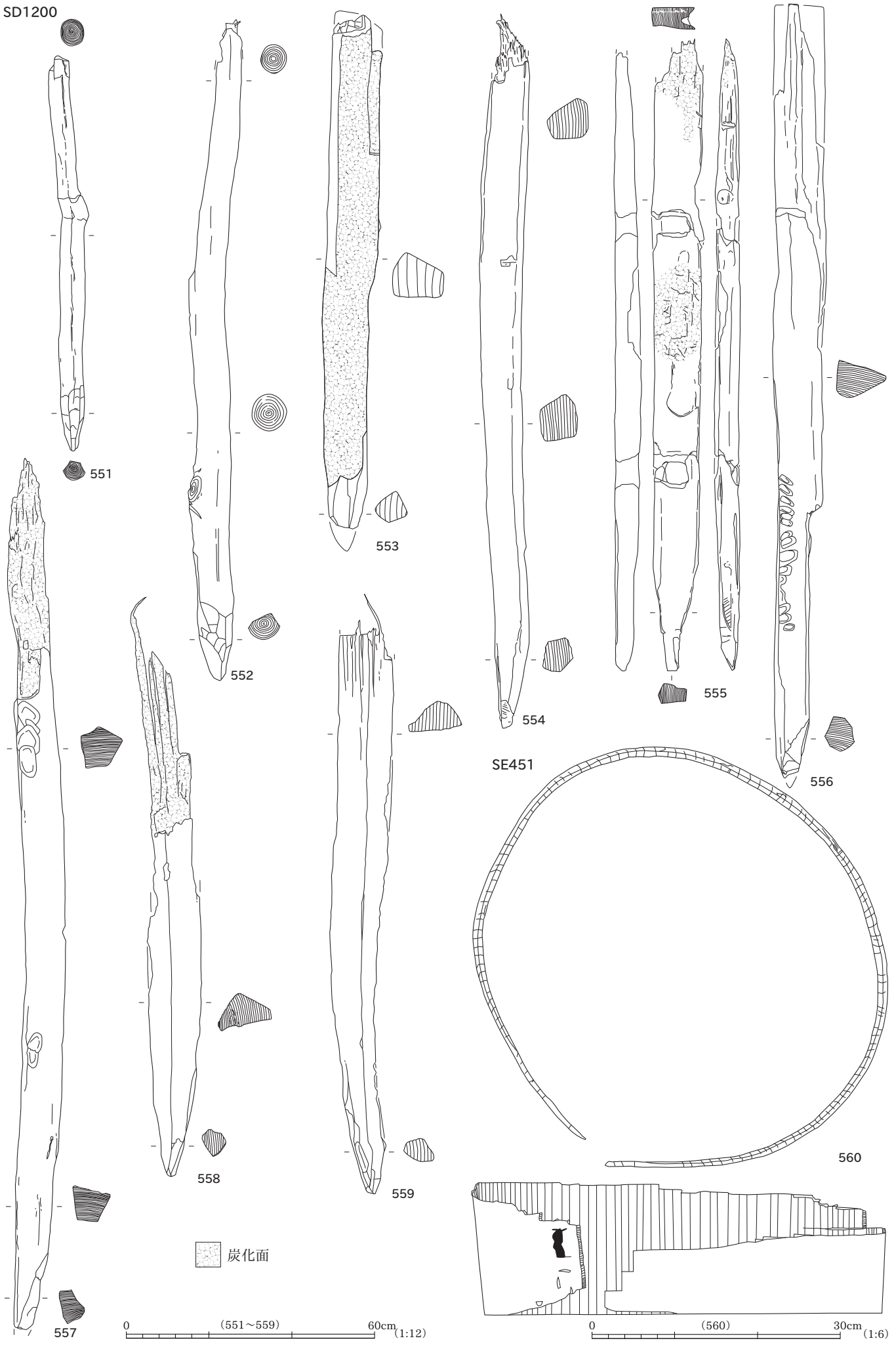
(530,531,534～536) 0 15cm (1:3)

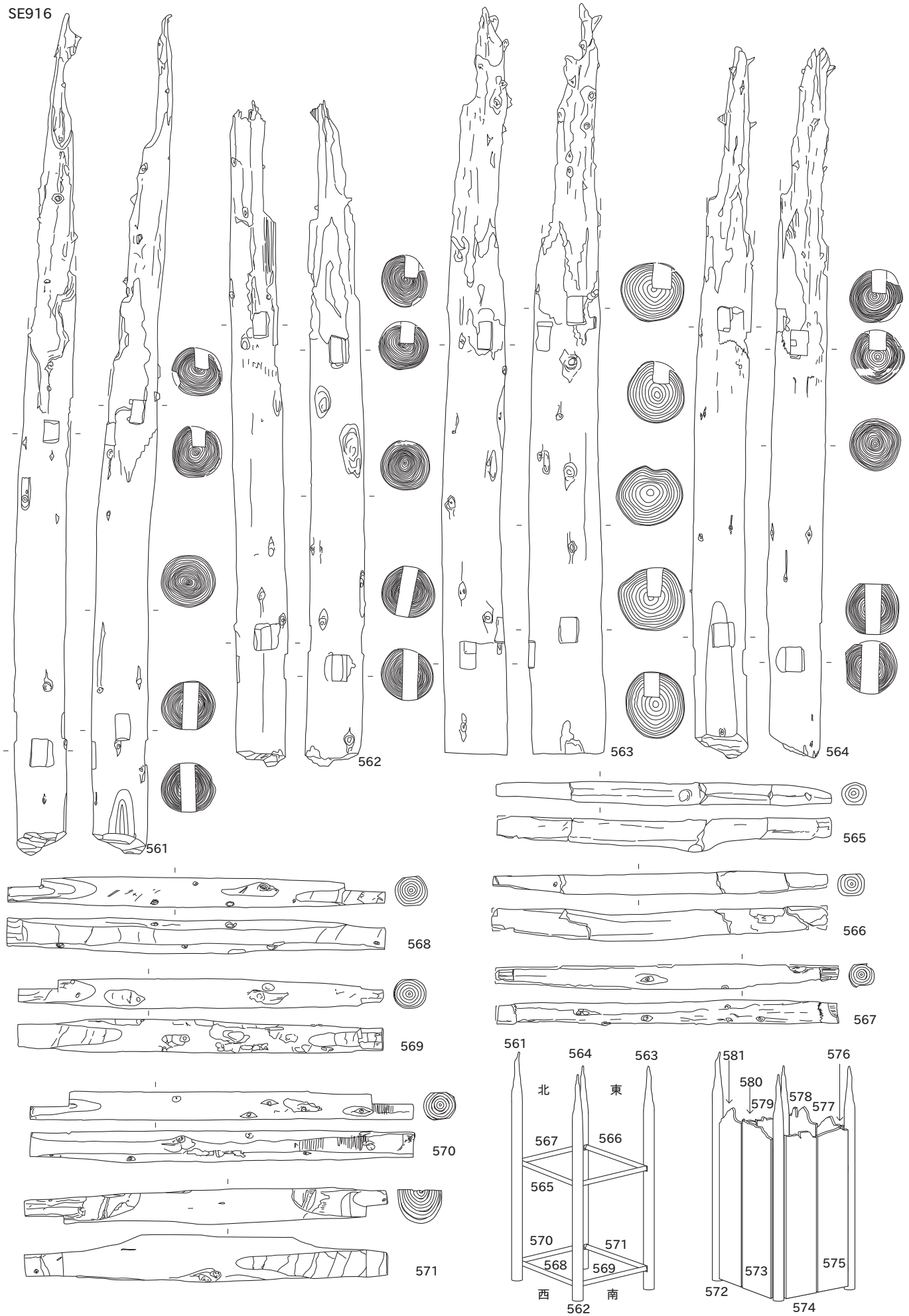
(526～528) 0 20cm (1:4)

(524,525) 0 30cm (1:6)

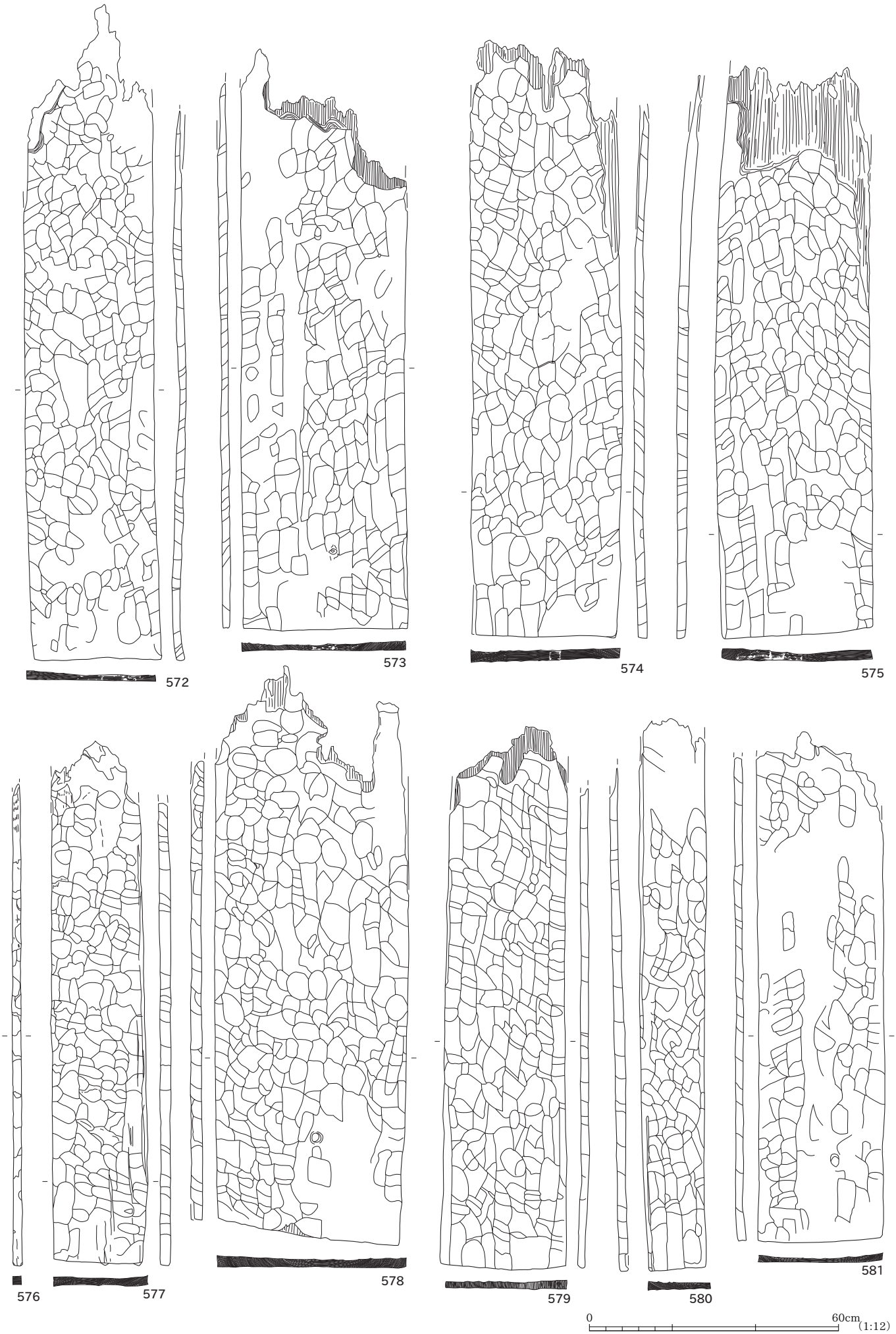
SD1200


541
542
543
549
550
炭化面
544
545
546
547
548
0　(541～545・549・550)　15cm　(1:3)
0　(546～548)　30cm　(1:6)


SD1200
551
552
553
554
555
556
557
558
559
SE451
560
炭化面
0
(551～559)
60cm
(1:12)
0
(560)
30cm
(1:6)

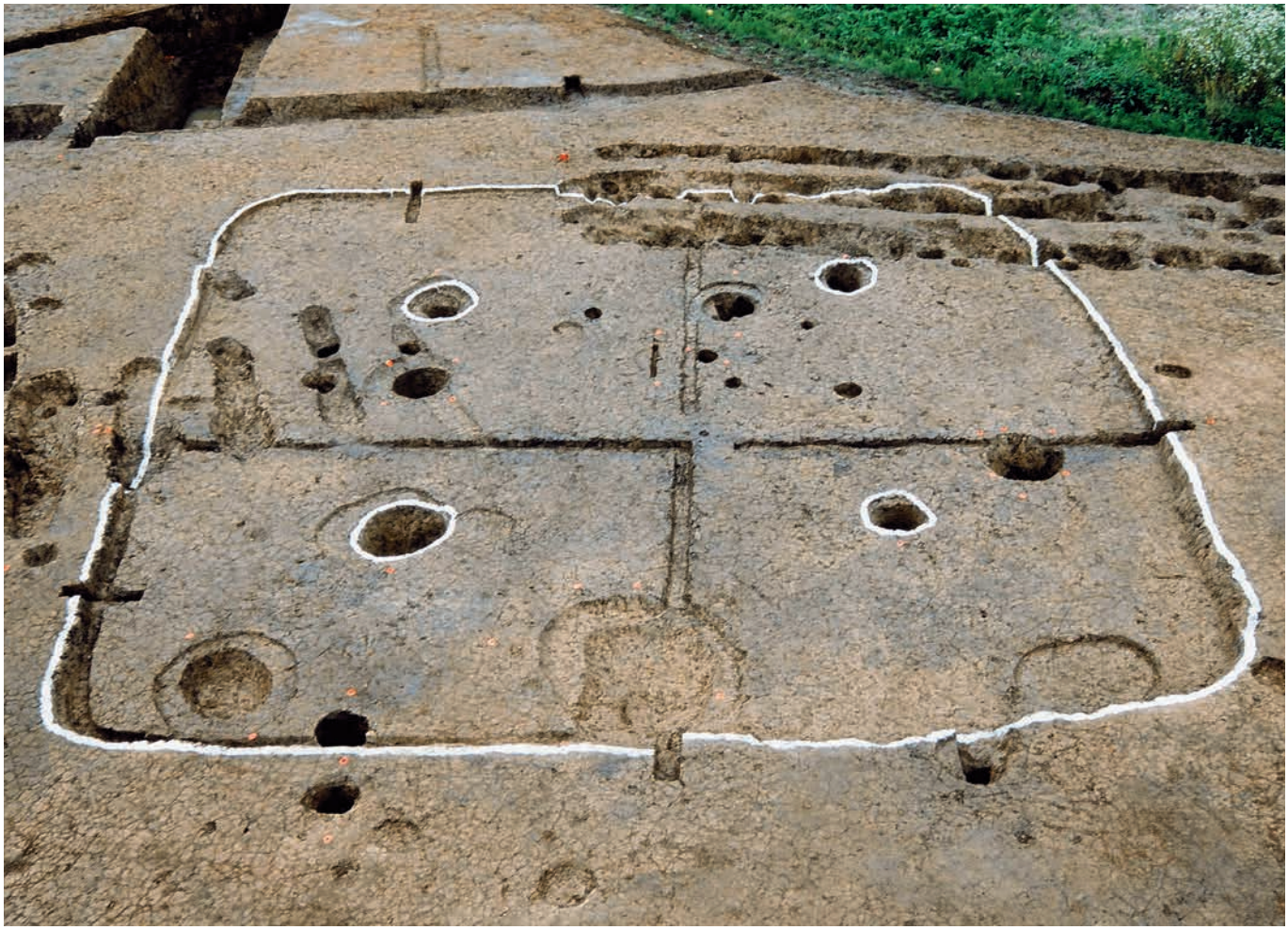


SE916　井戸側模式図

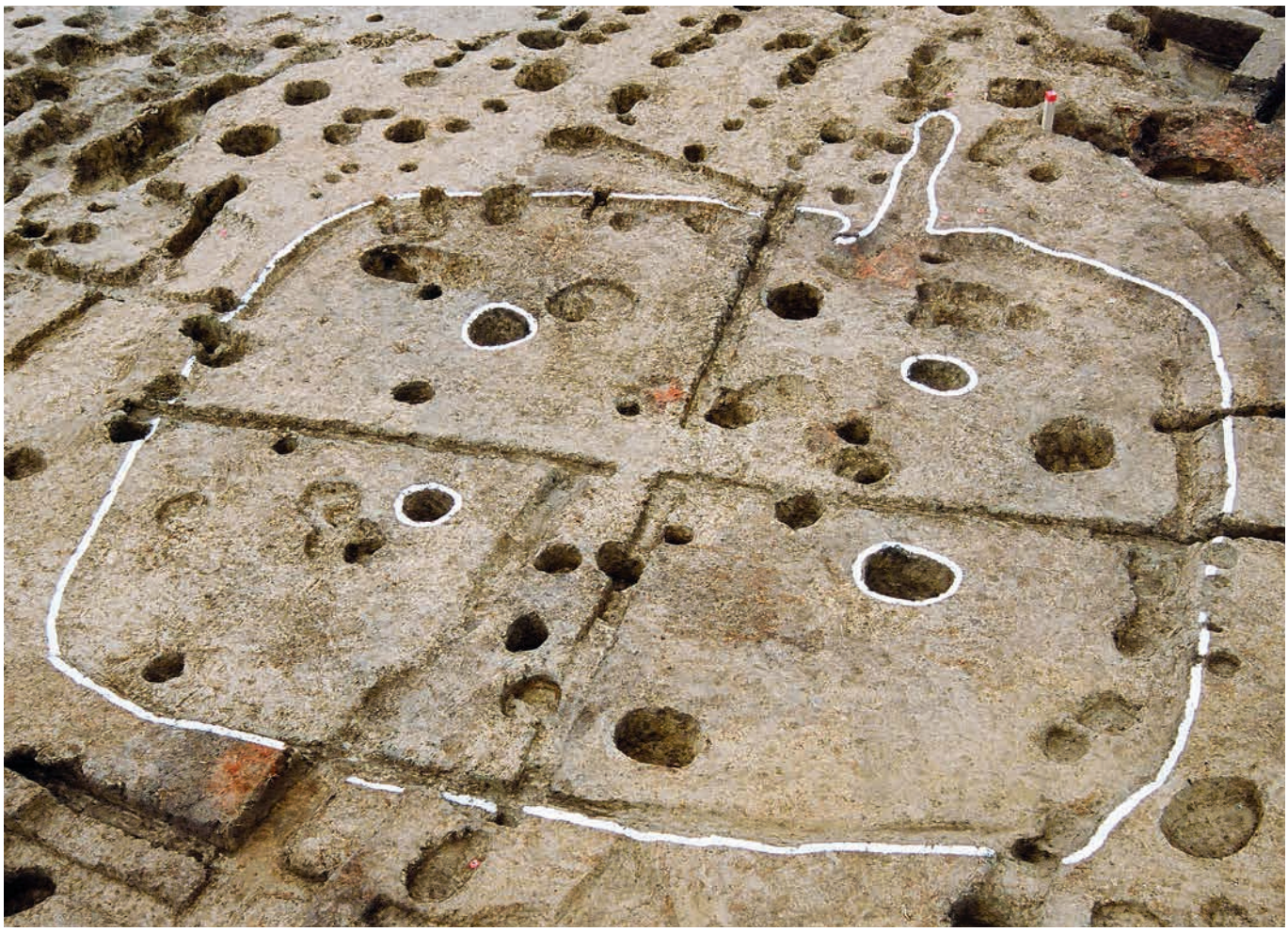

572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
0
60cm
(1:12)

調査区遠景（南東から）

調査区全景（上空から）



SI501　完掘（東から）



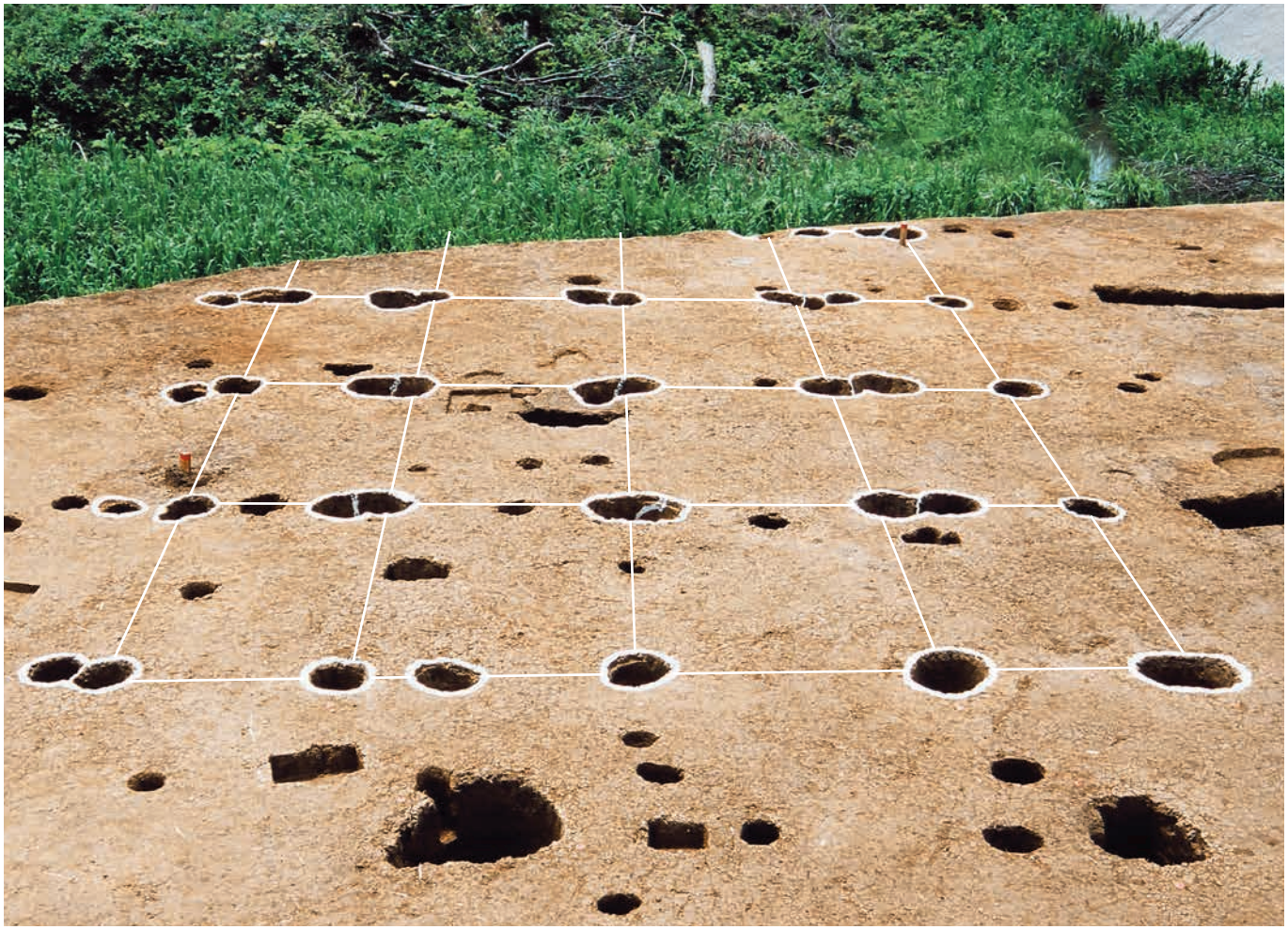
SI1305　完掘（南西から）

SI1604　遺物出土状況（西から）

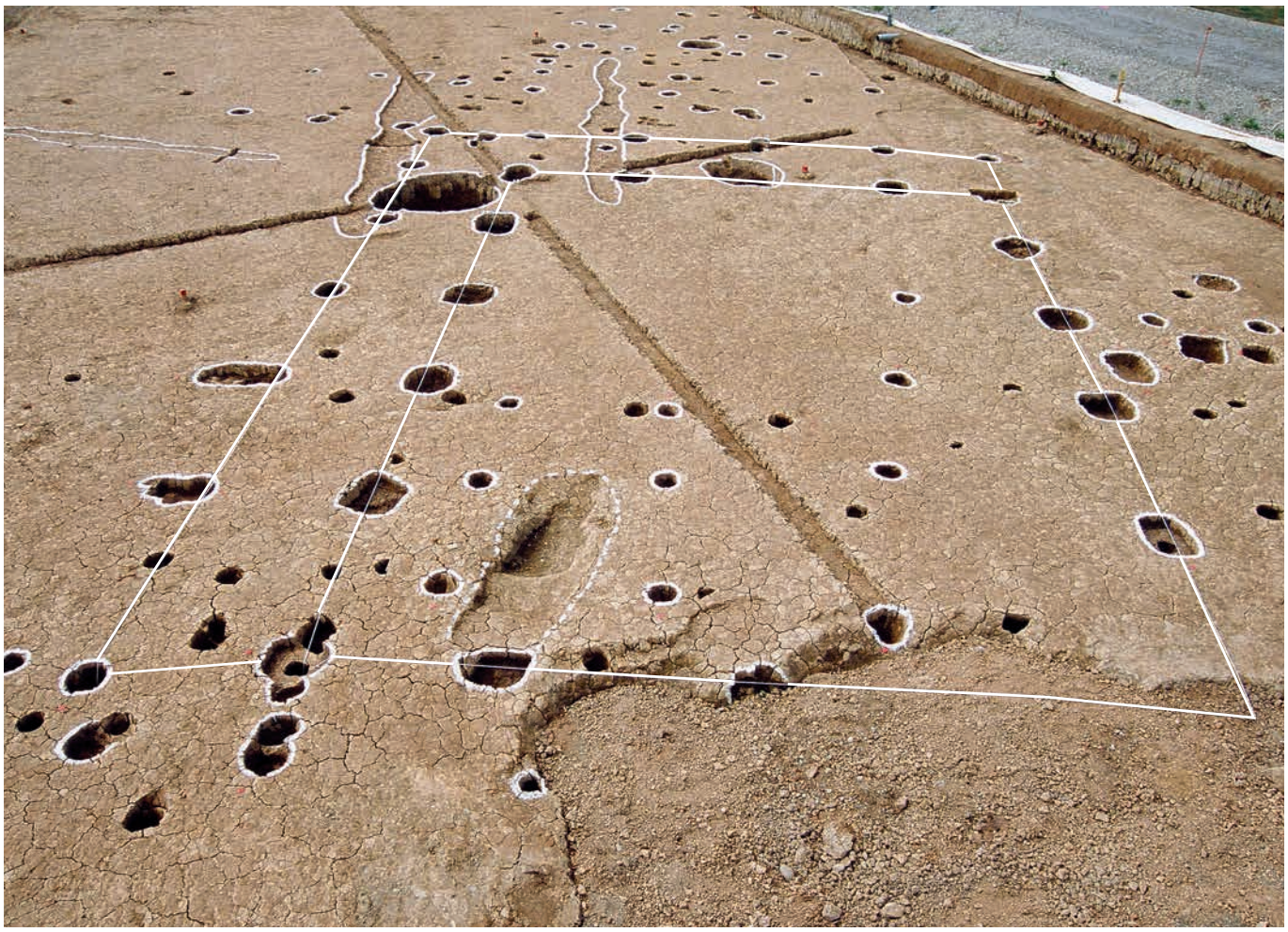
SI1604　カマド周辺遺物出土状況（西から）

SX1080　完掘（西から）

36・37Kグリッド周辺道　完掘（北から）



SB201　完掘（北から）



SB301　完掘（北から）

SE916　井戸側検出状況（南西から）

SD1200　土層断面（北東から）

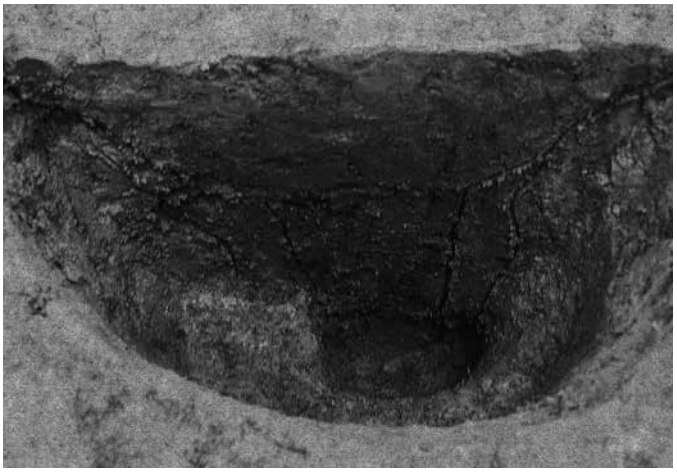
38H25グリッド　基本層序（南から）

40L1グリッド　基本層序（東から）

SI501-SK578　遺物出土状況（南から）

SI501-P560　遺物出土状況（北から）

SI501-P556　遺物出土状況（南から）



SI501-P557　土層断面（南から）

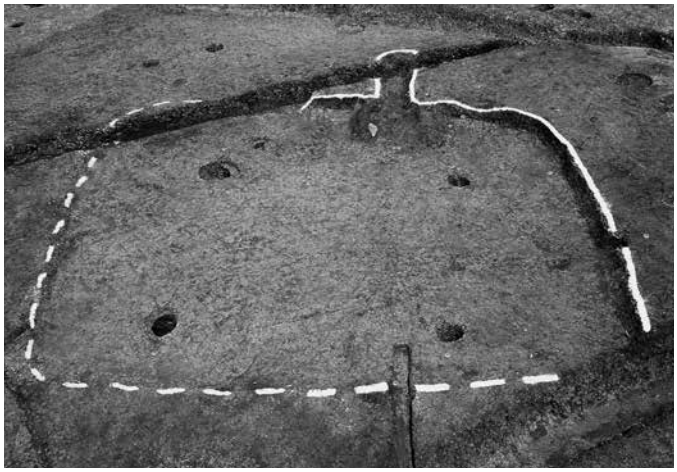
SI501-P561　遺物出土状況（北から）

SI501　間仕切り状の溝完掘（西から）

SI519　土層断面（西から）

SI519-P577　土層断面（北から）

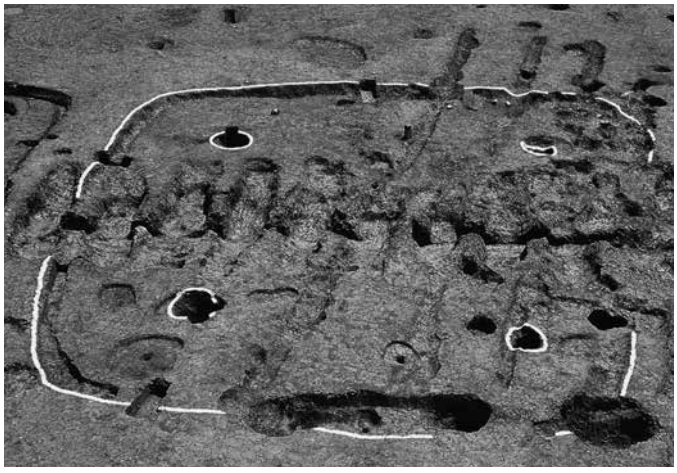
SI519　カマド遺物出土状況（西から）



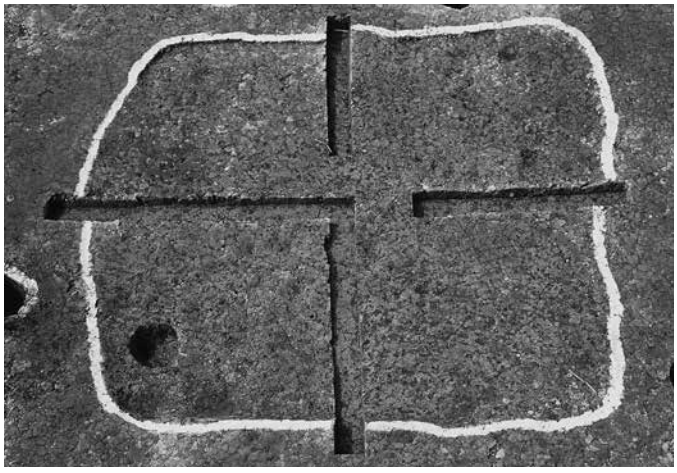
SI519　完掘（西から）

SI521-P547　土層断面（北から）

SI521　カマド完掘（西から）



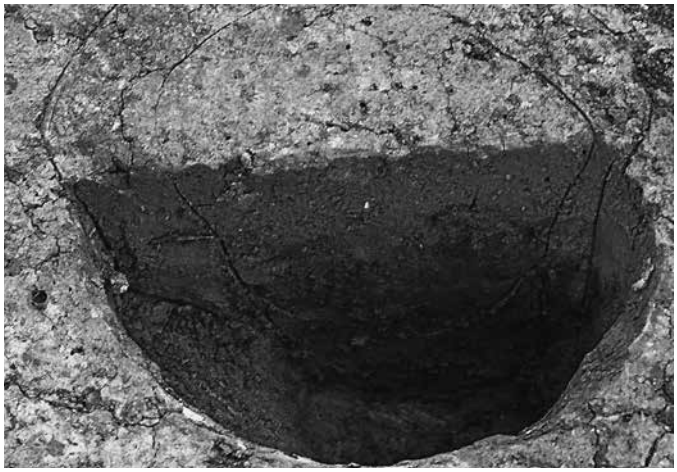
SI521　完掘（西から）



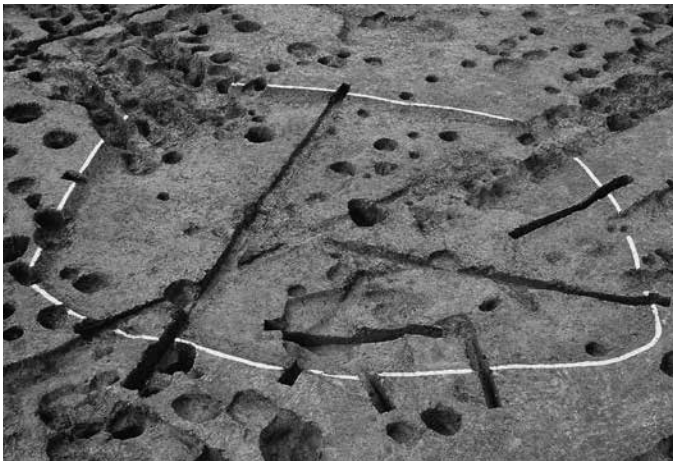
SI438　完掘（南から）

SI1356　遺物出土状況（南東から）

SI1356　完掘（東から）



SI1395-P1808　土層断面（北から）



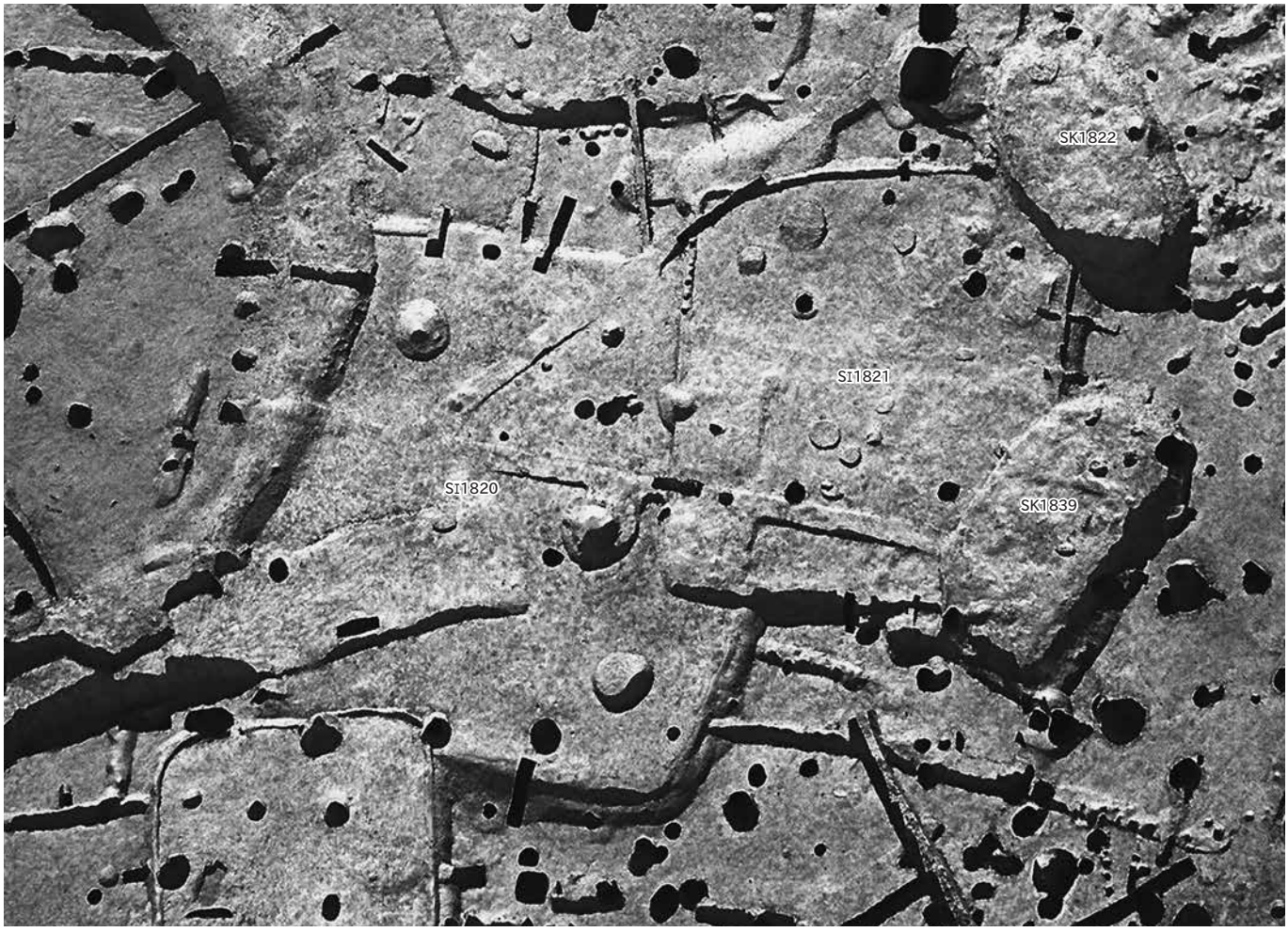
SI1395　完掘（東から）

SI1305　土層断面（西から）

SI1305　焼土・炭化物出土状況（西から）

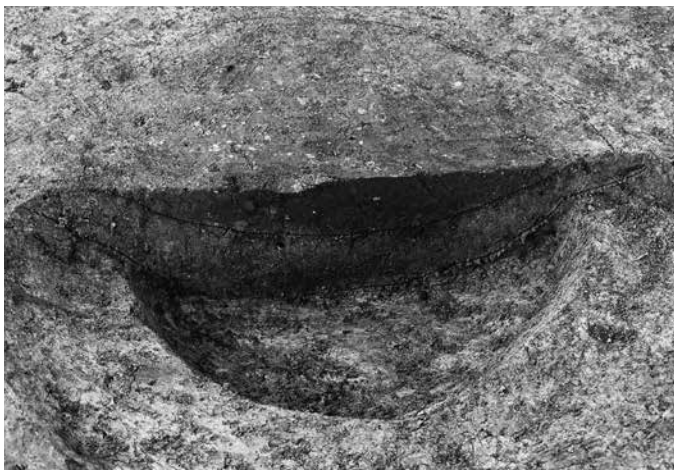
SI1305　カマド周辺遺物出土状況（西から）

SI1305　カマド完掘（西から）

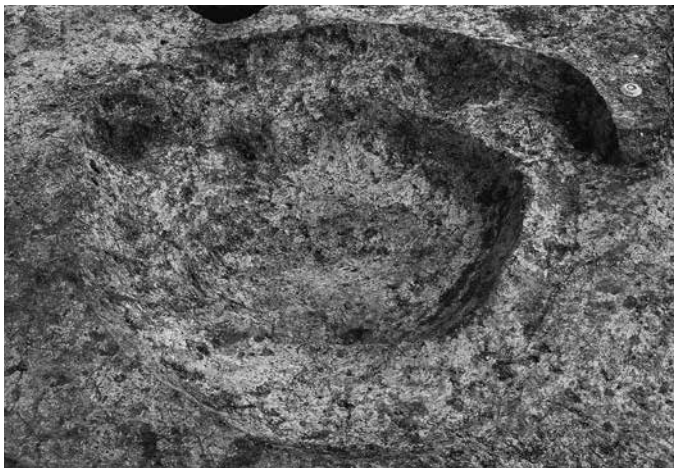


SI1820・1821、SK1822・1839　完掘（南から）

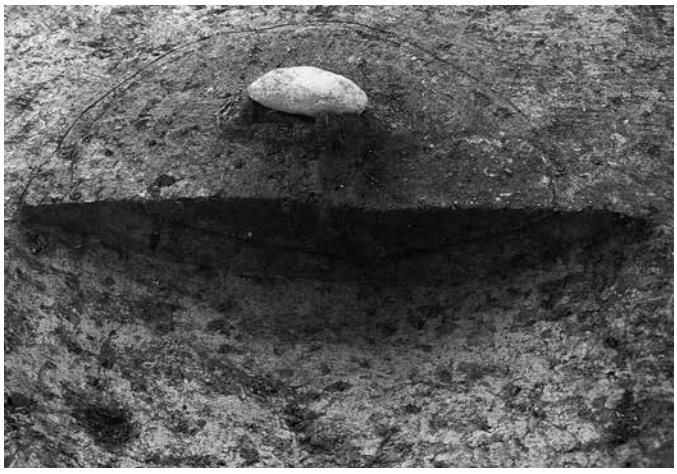
SI1820　土層断面（南から）



SI1820-SK1640　土層断面（北東から）



SI1820-SK1640　完掘（東から）

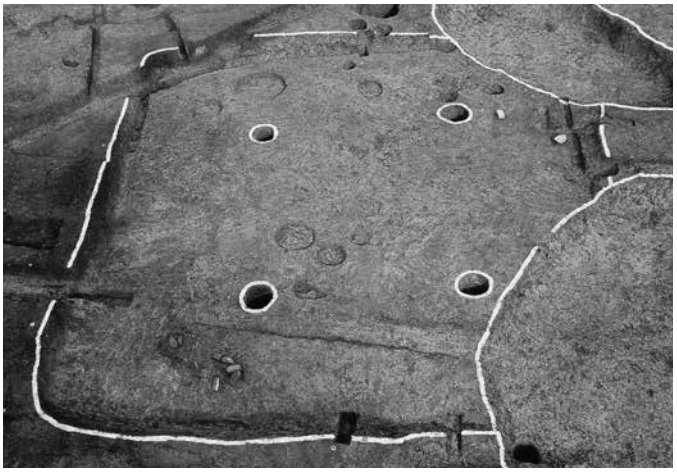


SI1820-P1641　土層断面（北から）

SI1821　土層断面（南から）

SI1821-P1855　土層断面（北から）

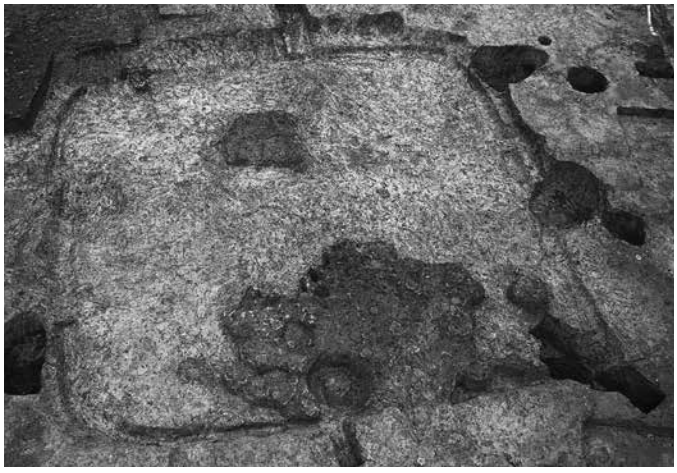
SI1821　遺物出土状況（南から）



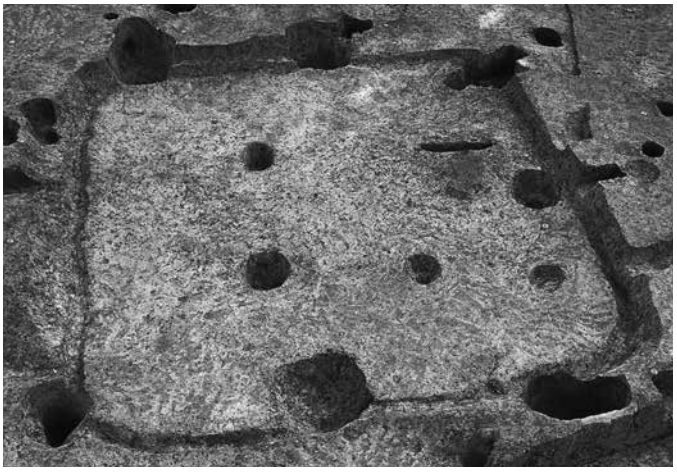
SI1821　完掘（南から）

SI1615　土層断面（西から）

SI1615　土層断面（南から）



SI1615　遺物出土状況（西から）



SI1615　完掘（北から）

SI900　土層断面（西から）

SI900　土層断面（南から）

SI900-P1518　土層断面（南から）

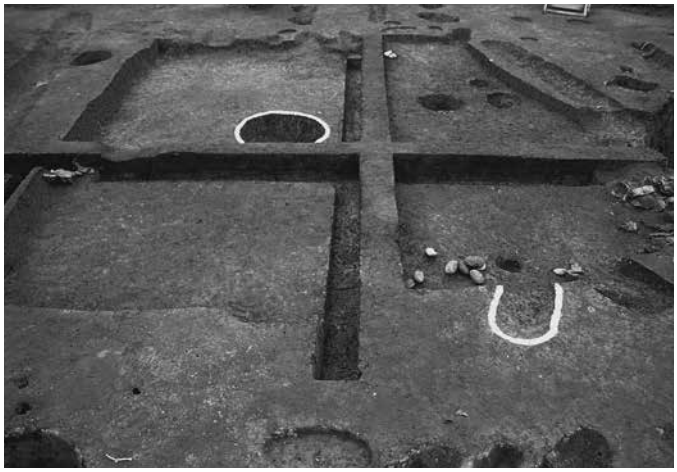
SI900　カマド土層断面（西から）

SI900　カマド土層断面（北から）

SI900　カマド周辺遺物出土状況（西から）

SI900　カマド周辺遺物出土状況（西から）

SI900　完掘（西から）



SI1510　土層断面（南から）

SI1510-SX1526　土層断面（東から）

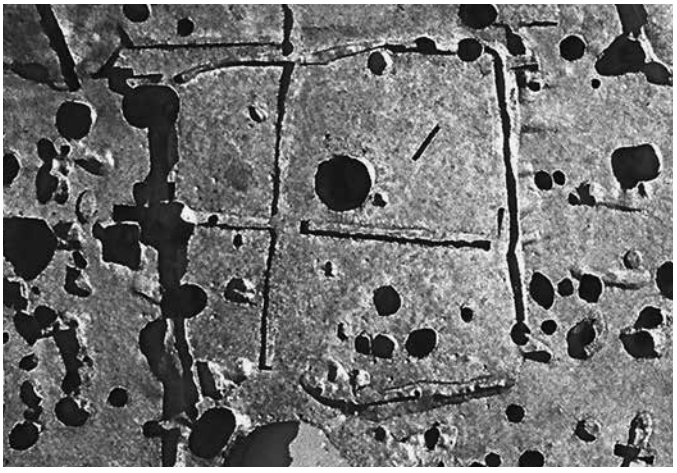
SI1510-SX1534　土層断面（南から）

SI1510　遺物出土状況（南東から）

SI1510　遺物出土状況（西から）

SI1510　遺物出土状況（南から）

SI1510　カマド土層断面（西から）



SI1510　完掘（東から）

SI1604　土層断面（北東から）

SI1604-P1617　断ち割り土層断面（北から）

SI1604　カマド1土層断面（西から）

SI1604　カマド1周辺遺物出土状況（北から）

SI1604　カマド1完掘（西から）

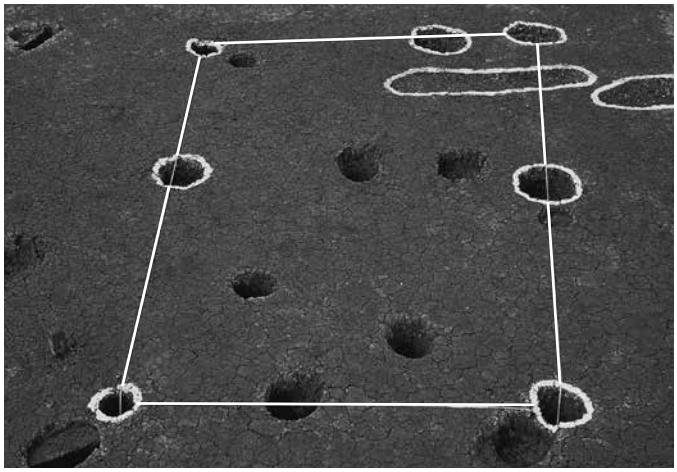
SI1604　カマド1断ち割り断面（西から）

SI1604　カマド2周辺遺物出土状況（西から）

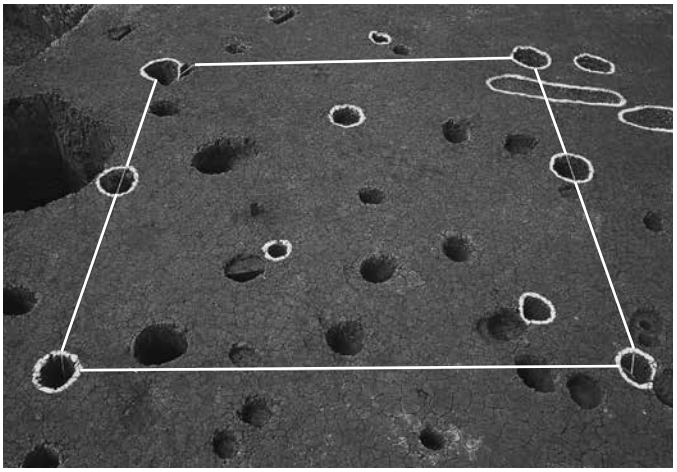
SI1604　完掘（西から）

SX1570　完掘（南西から）

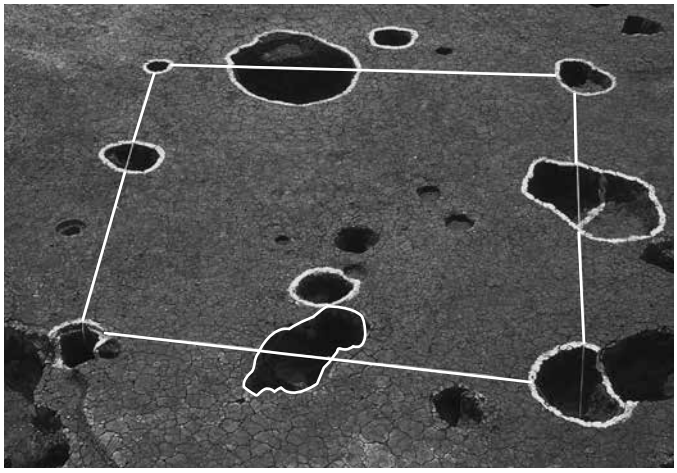
SB840　完掘（北から）



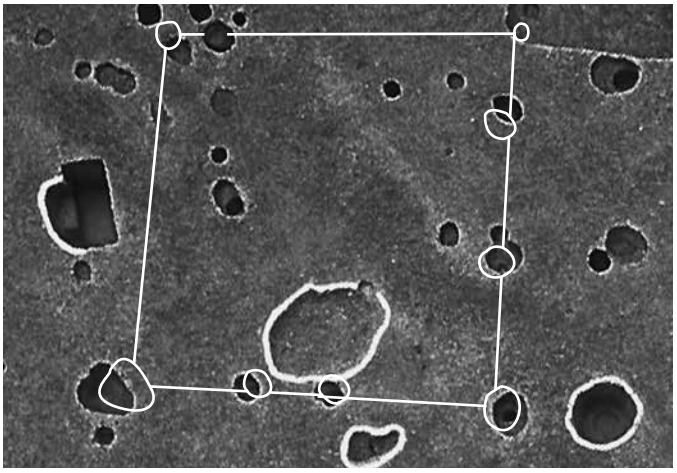
SB844　完掘（南から）



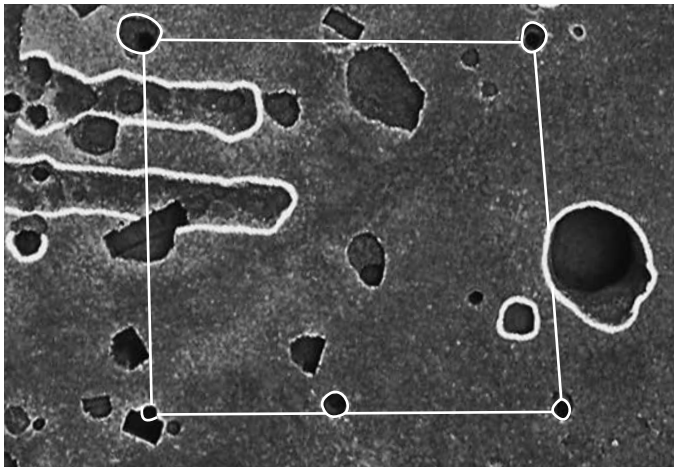
SB851　完掘（南から）



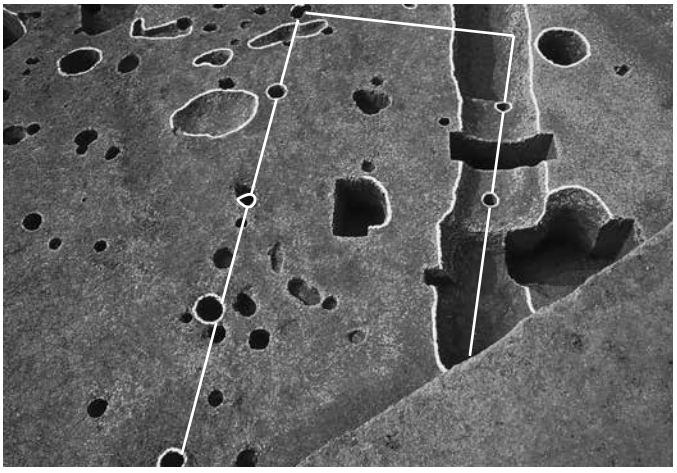
SB912　完掘（東から）



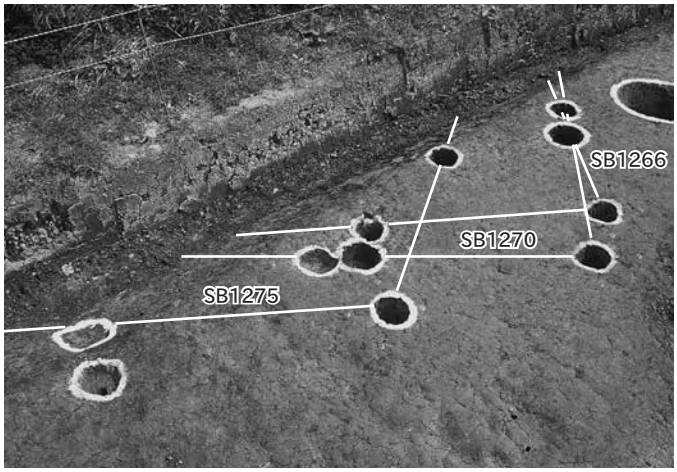
SB928　完掘（北から）



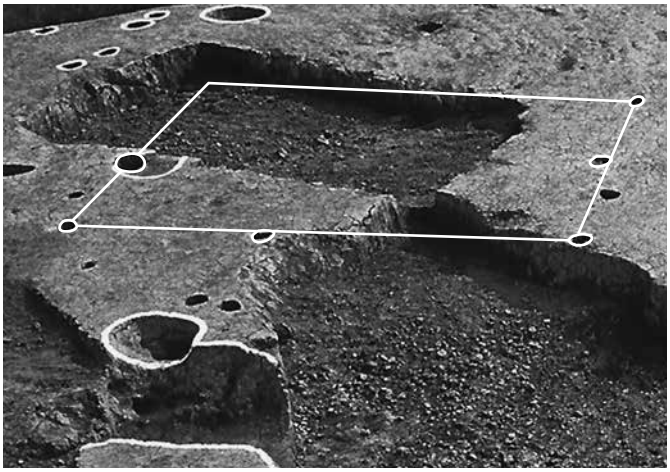
SB1716　完掘（西から）



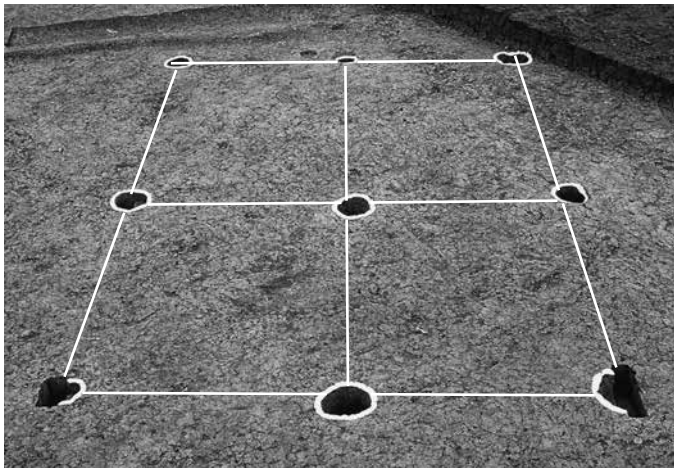
SB1201　完掘（南から）



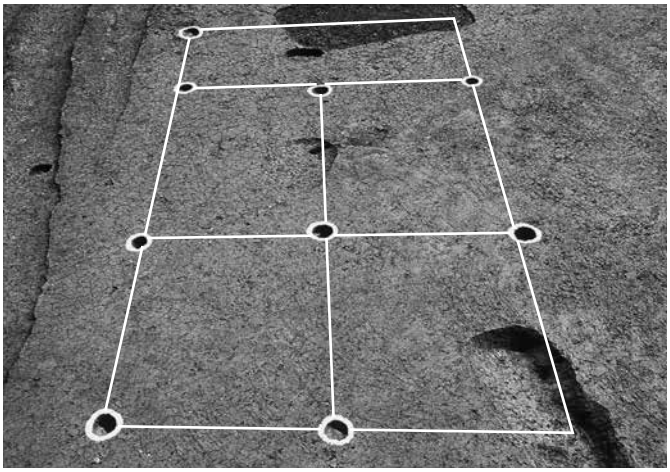
SB1266・1270・1275　完掘（西から）



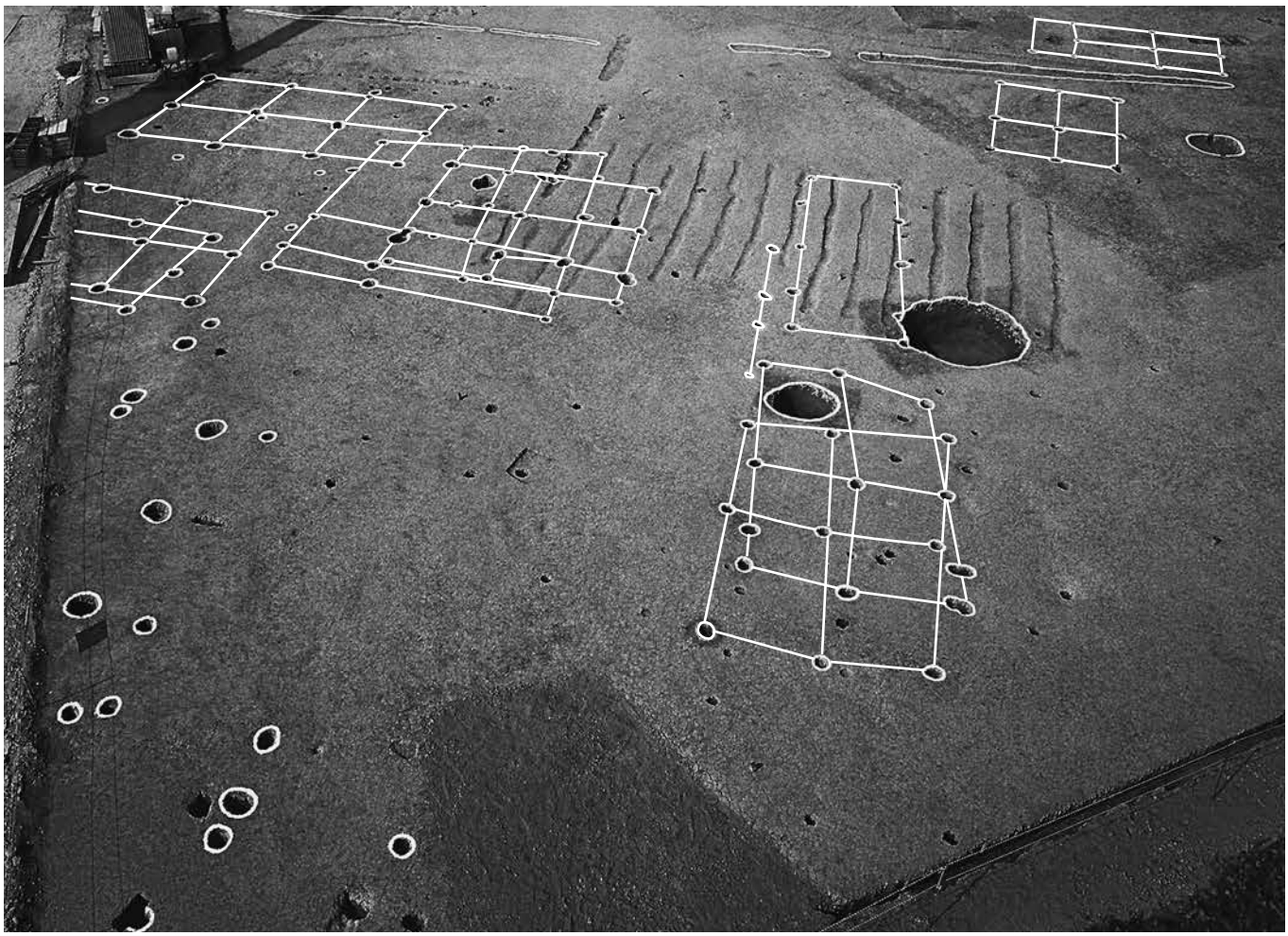
SB1701　完掘（西から）



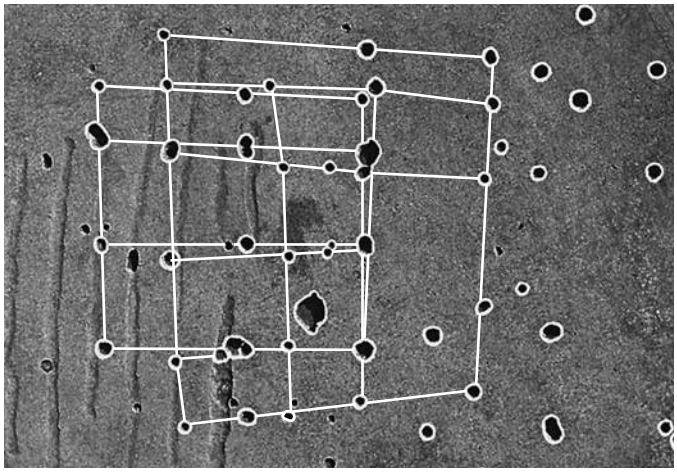
SB1104　完掘（東から）



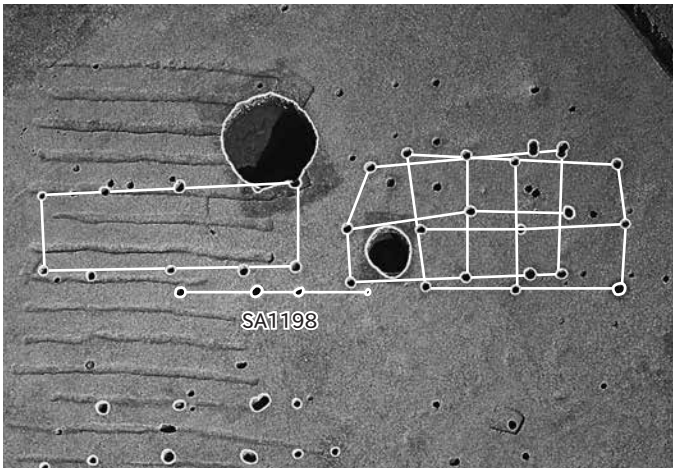
SB1160　完掘（北から）



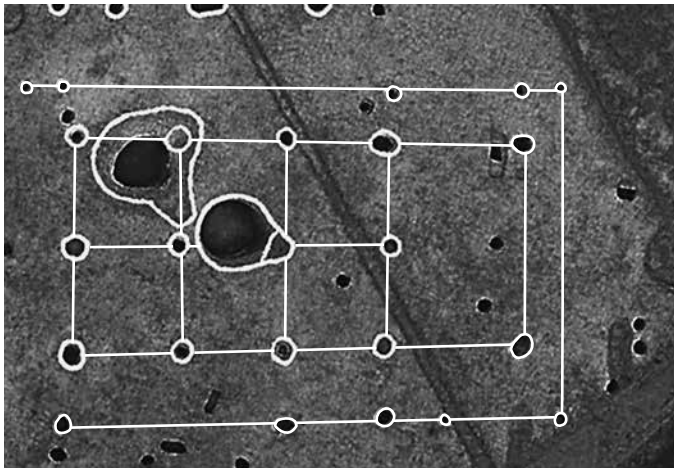
43E～G、44E～Gグリッド周辺　掘立柱建物跡群完掘（東から）



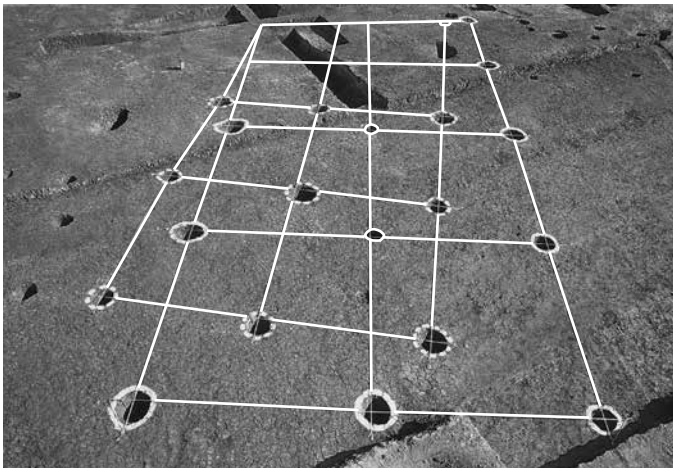
SB1215（右）・1230（左）　完掘（西から）



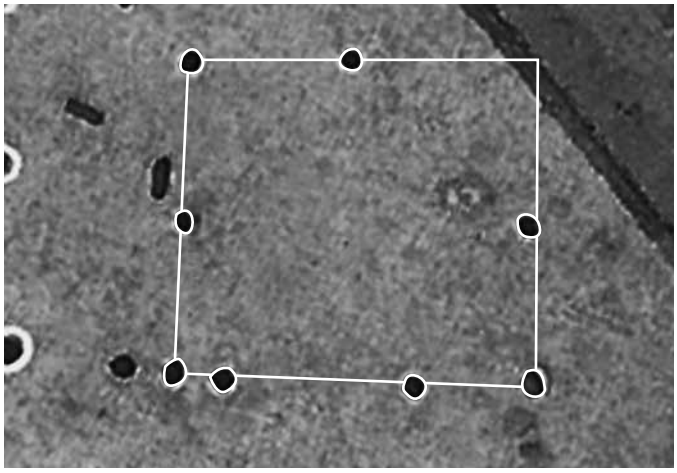
SB1114（右）・1154（中）・1155（左）、SA1198　完掘（南から）



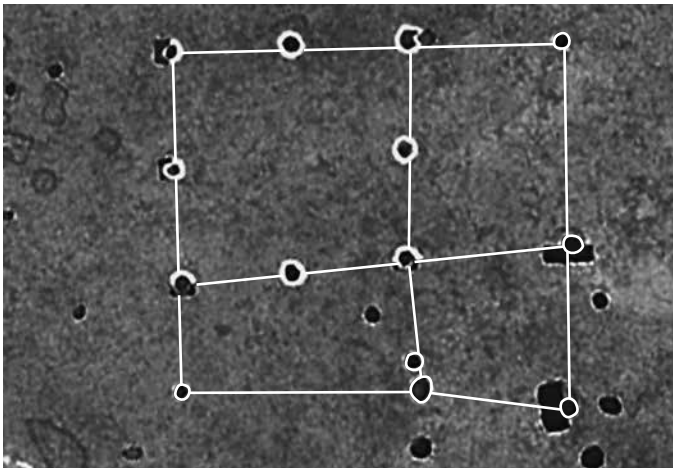
SB110　完掘（東から）



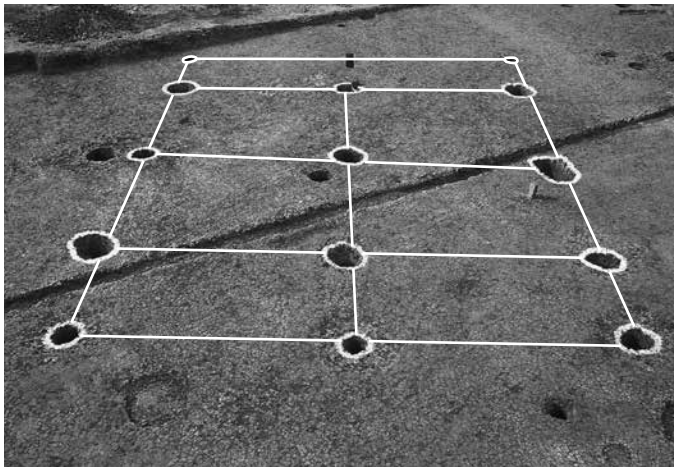
SB390（右）・701（左）　完掘（北から）



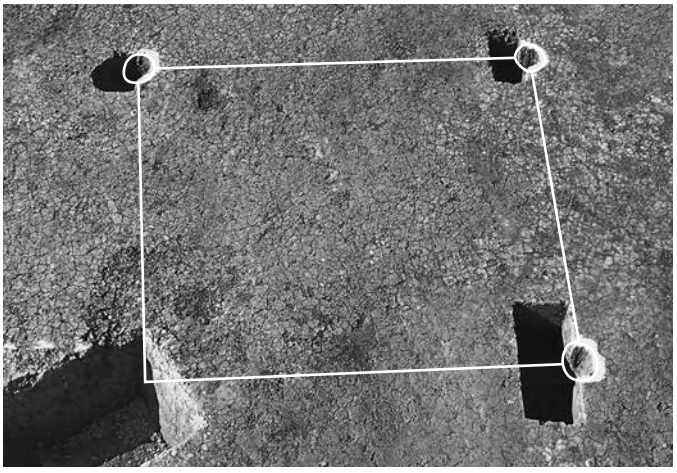
SB1918　完掘（南から）



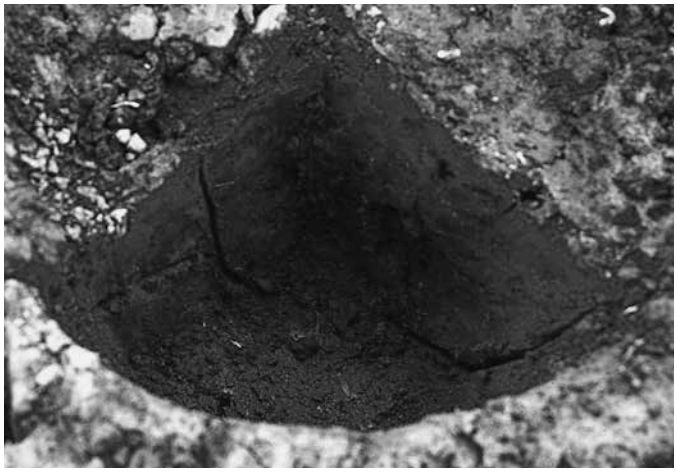
SB137　完掘（南から）



SB130　完掘（南から）



SB125　完掘（南から）



SB201-P205　土層断面（北東から）

SB201-P209　土層断面（北東から）

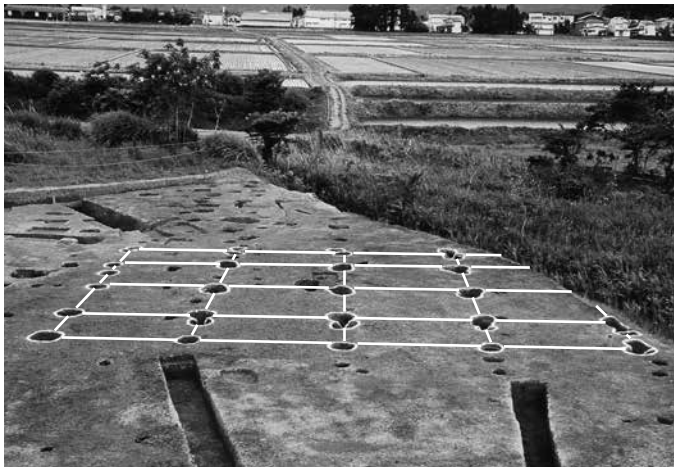
SB201-P213　土層断面（北東から）

SB201-P123　完掘（南から）

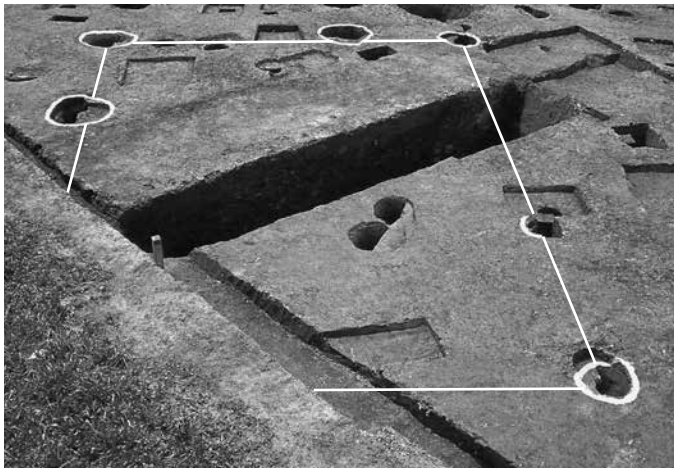
SB201-P217　土層断面（北東から）

SB201-P220　土層断面（北から）

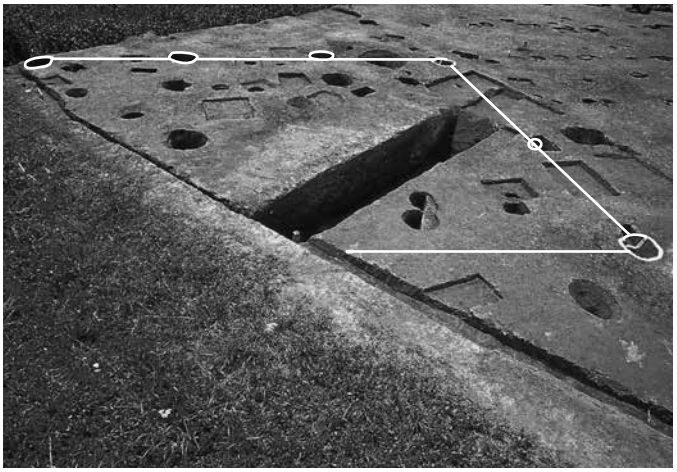
SB201-P221　土層断面（南西から）



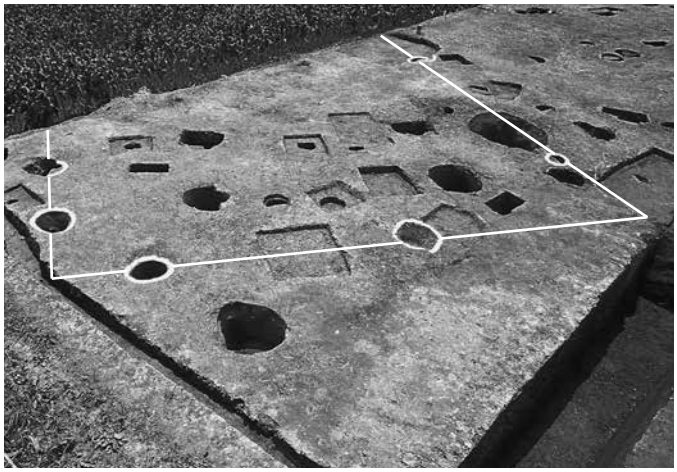
SB201　完掘（西から）



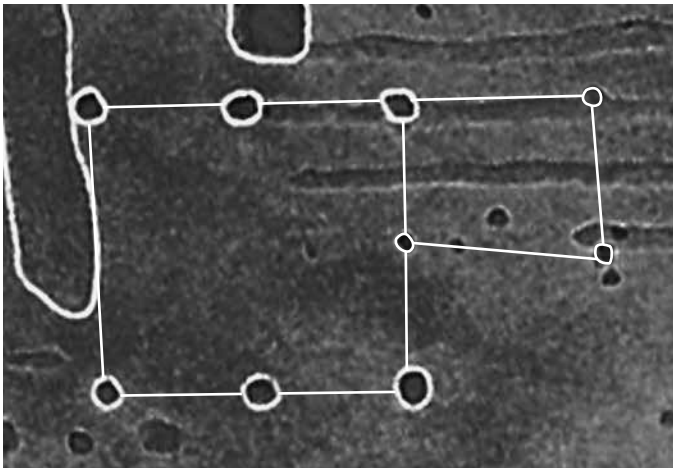
SB151　完掘（北から）



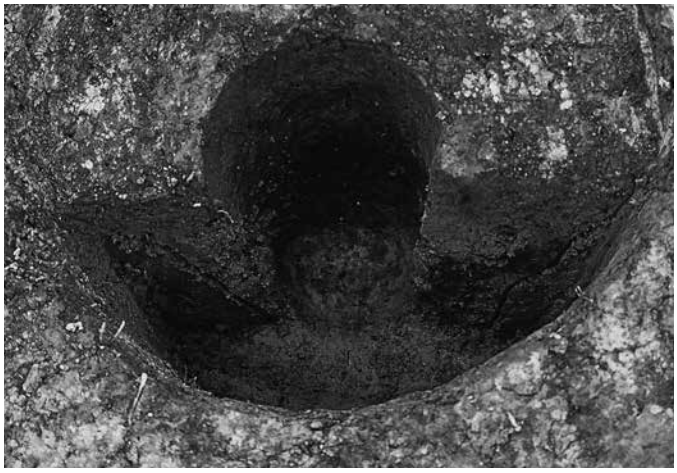
SB174　完掘（北から）



SB175　完掘（北から）

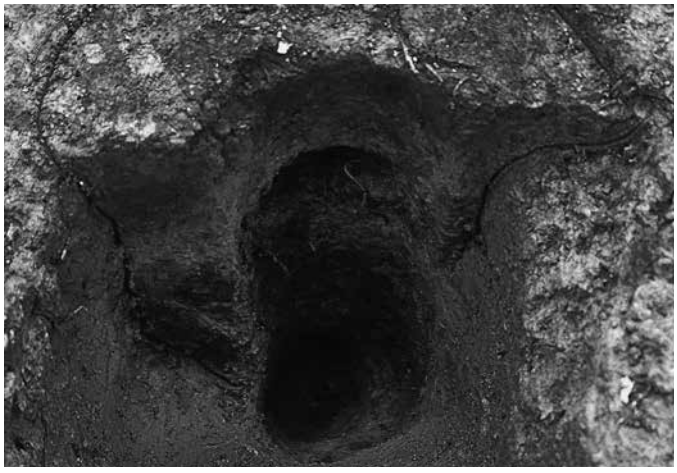


SB782　完掘（西から）

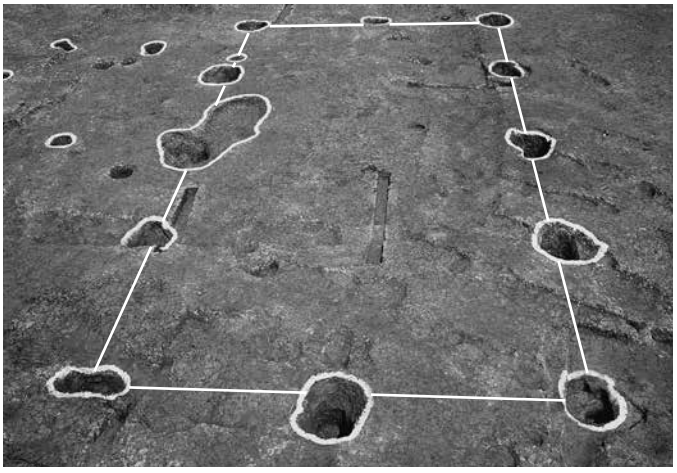


SB480-P481　土層断面（北から）

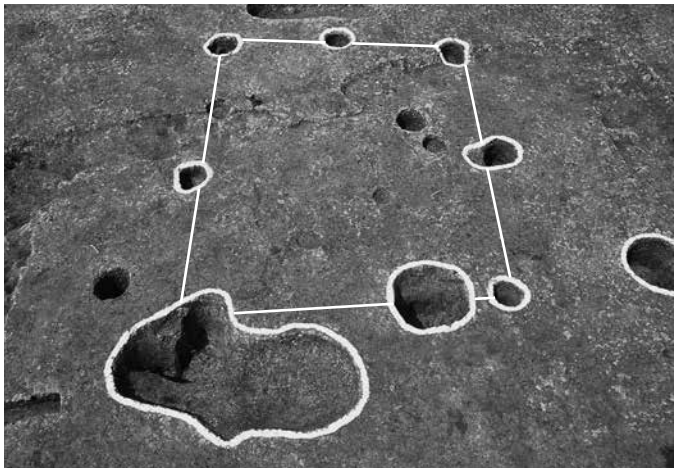
SB480-P483　土層断面（南から）



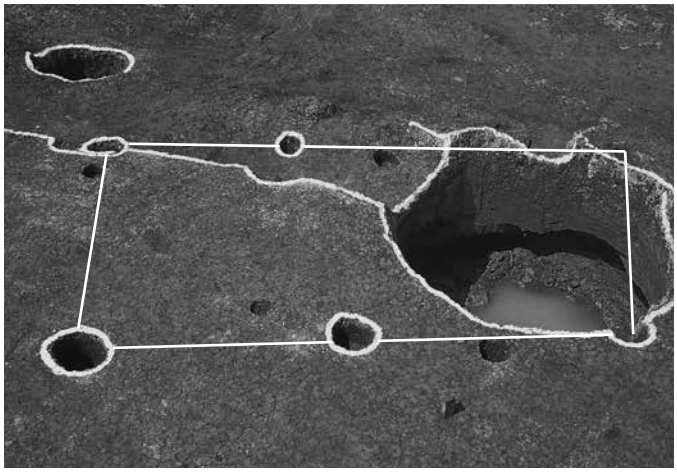
SB480-P488　土層断面（南から）



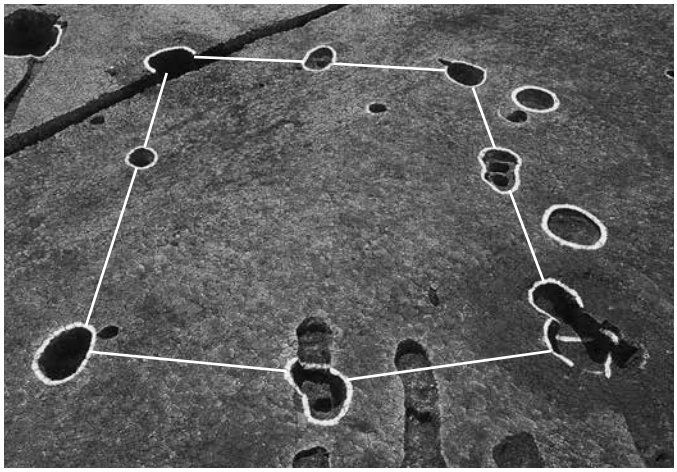
SB480　完掘（西から）



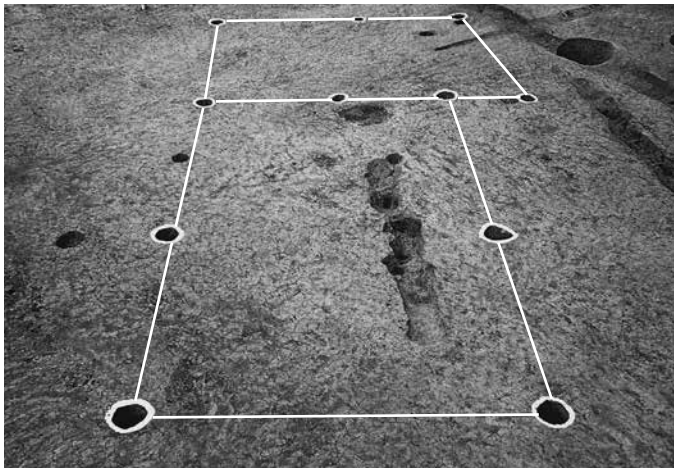
SB493　完掘（南から）



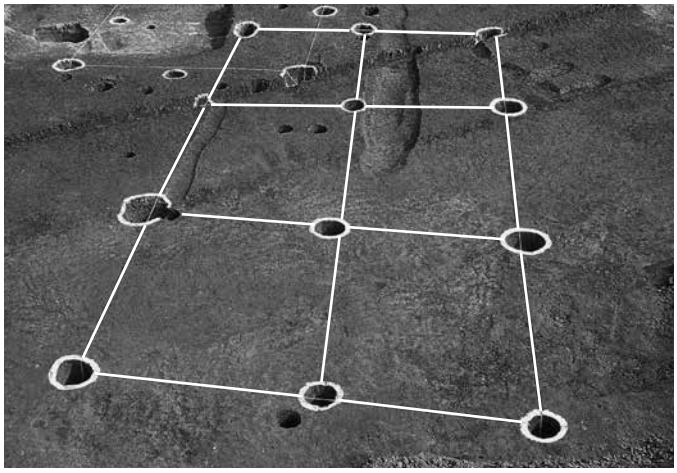
SB944　完掘（西から）



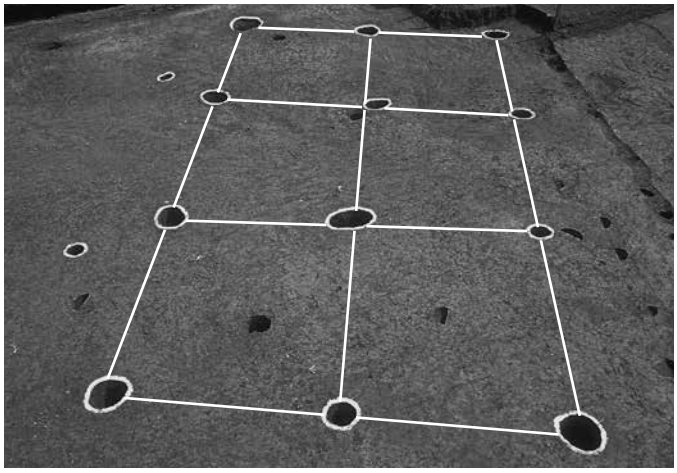
SB725　完掘（東から）



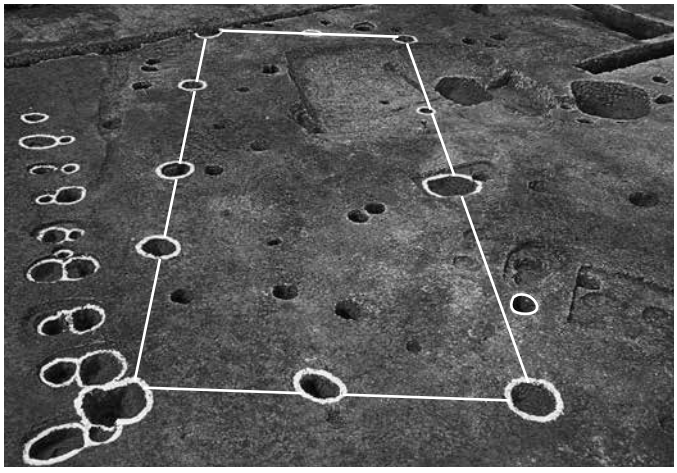
SB360・770　完掘（南から）



SB711　完掘（北から）



SB1940　完掘（北から）



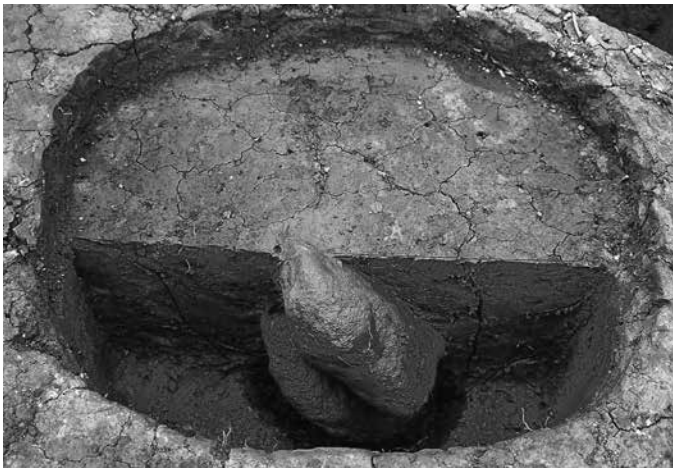
SB279　完掘（南から）

SB301周辺　作業風景（南西から）

SB301-P304　根石検出状況（東から）

SB301-P304　土層断面（南東から）

SB301-P305　土層断面（東から）

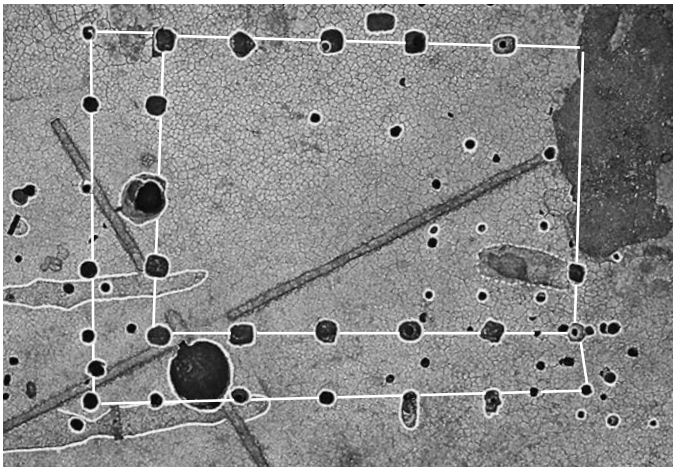


SB301-P306　土層断面（東から）

SB301-P316　土層断面（西から）

SB301-P316　柱痕完掘（西から）

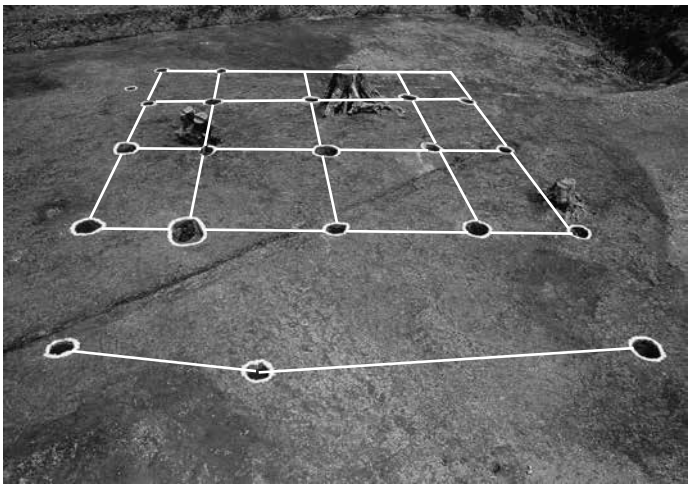
SB301-P328　土層断面（東から）



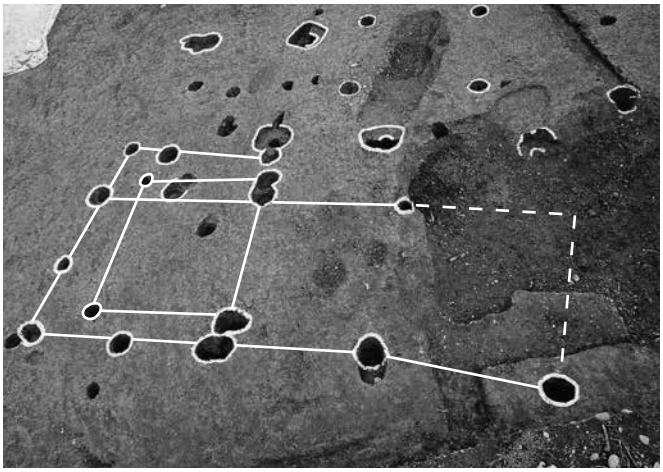
SB301　完掘（東から）

SB51-P53　土層断面（東から）

SB51-P63　土層断面（南から）



SB51　完掘（南から）

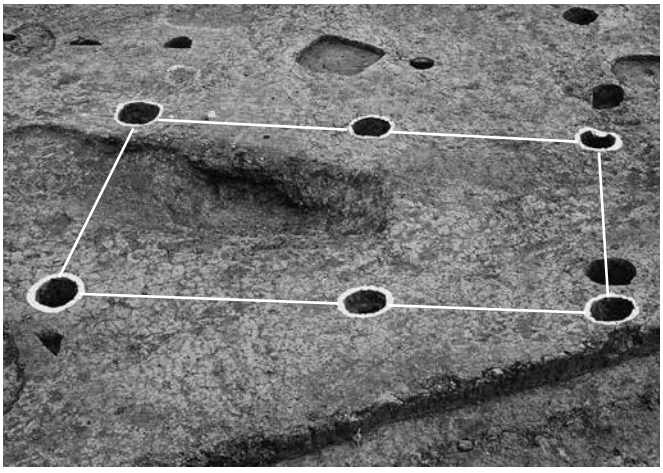


SB335（右）・1930（左）　完掘（北から）

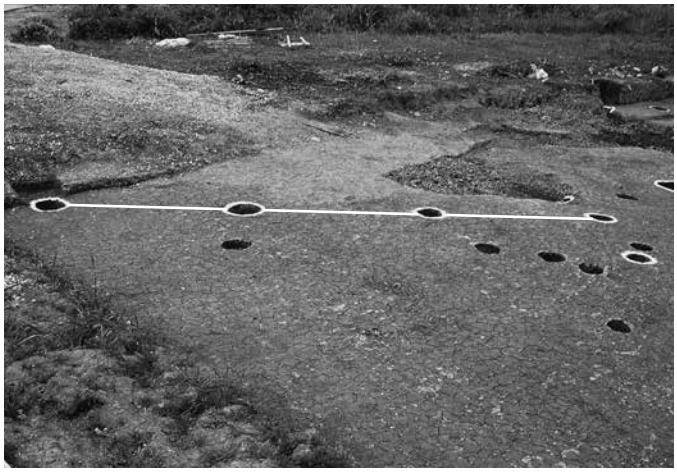
SB75-P76　土層断面（東から）

SB75-P77　土層断面（東から）

SB75-P81　土層断面（西から）

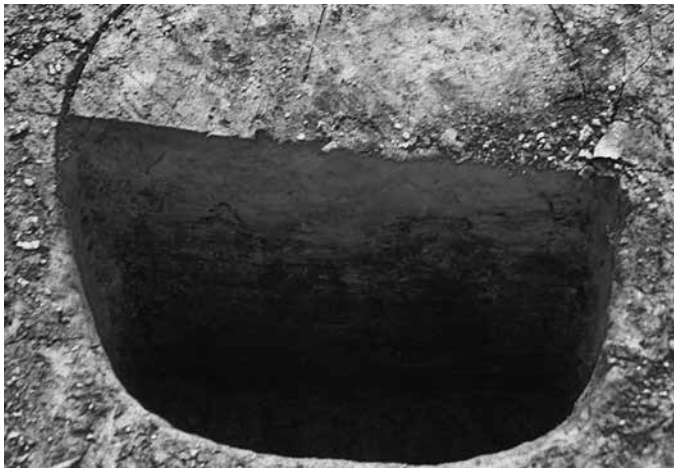


SB75　完掘（西から）

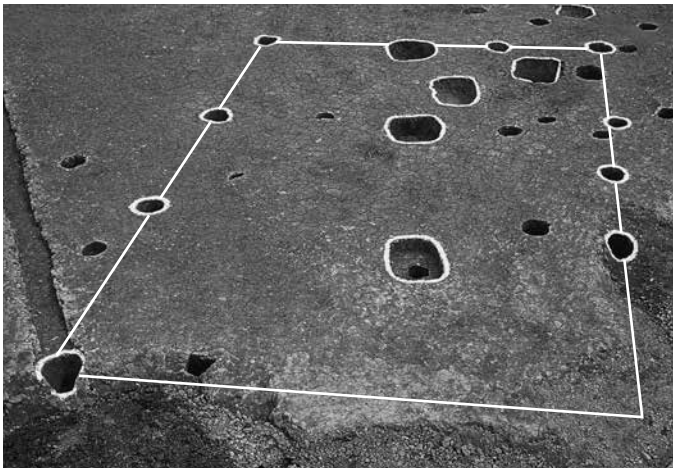


SB341　完掘（南から）

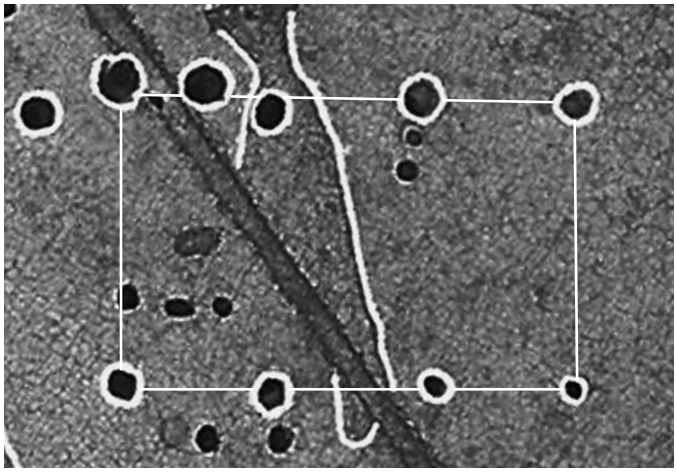
SB84-P85　土層断面（東から）



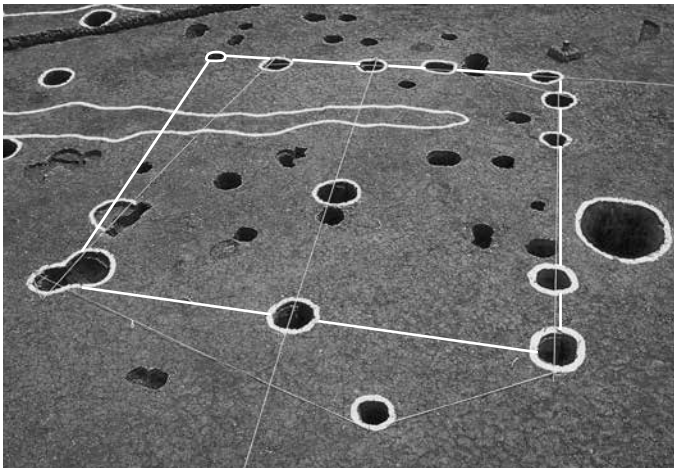
SB84-P87　土層断面（東から）



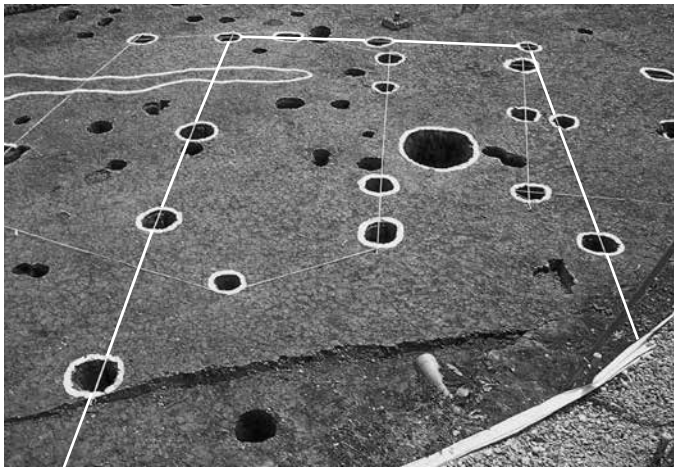
SB84　完掘（北から）



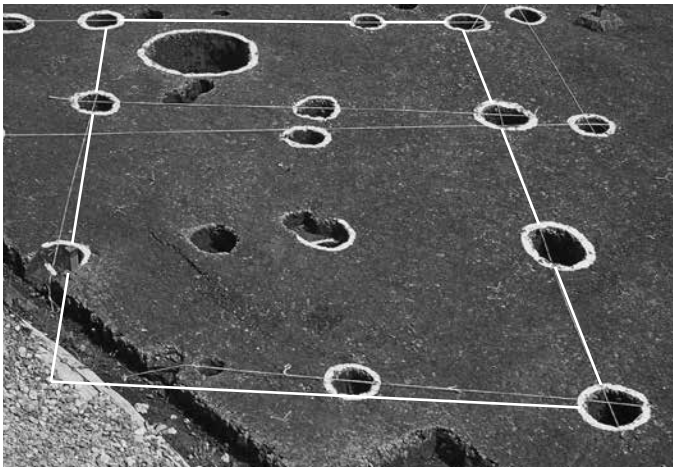
SB346　完掘（南から）



SB31　完掘（西から）

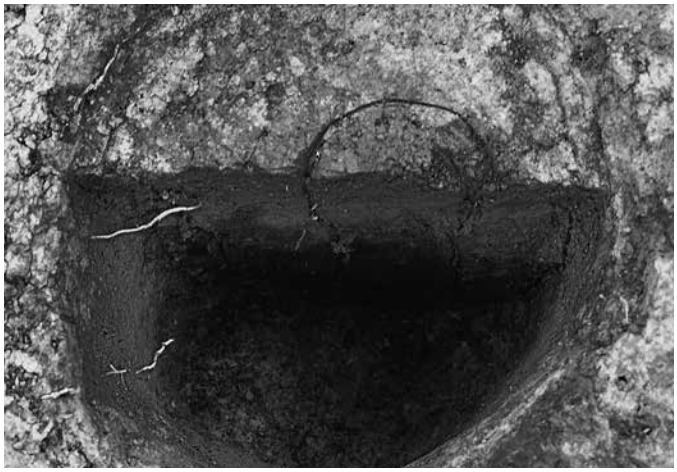


SB22　完掘（西から）



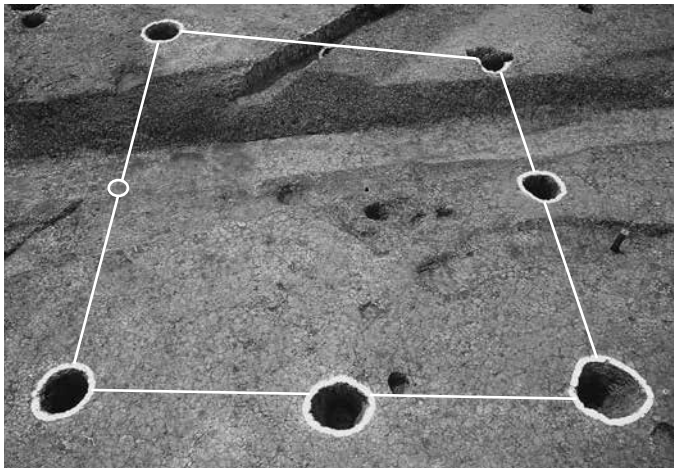
SB13　完掘（南から）

SB952-P956　土層断面（南から）



SB952-P957　土層断面（南から）

SB952-P958　土層断面（北から）

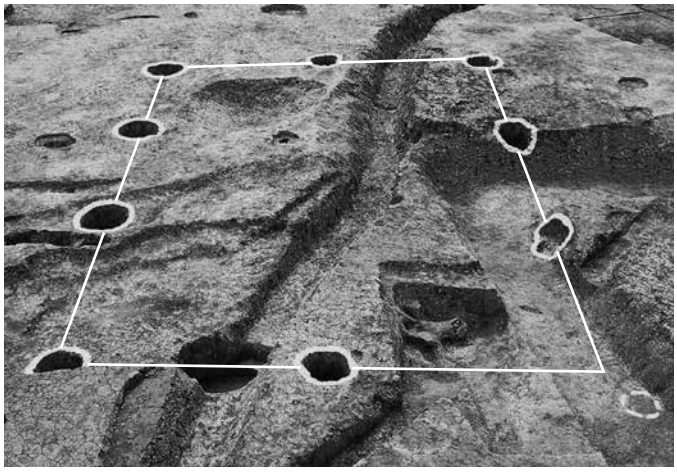


SB952　完掘（南から）

SB531-P535　土層断面（西から）

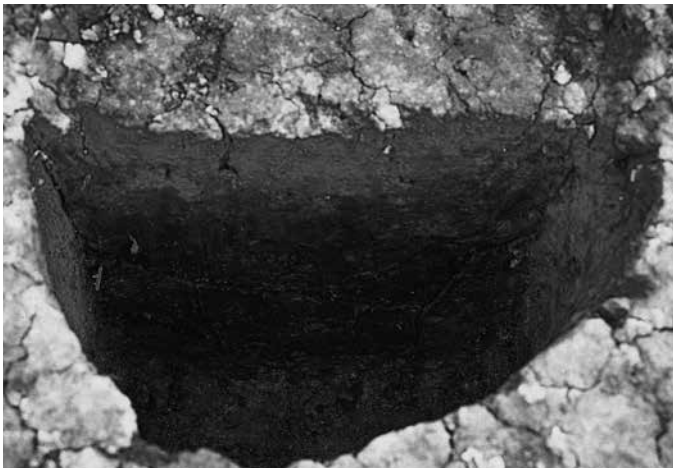
SB531-P536　土層断面（西から）

SB531-P538　土層断面（東から）

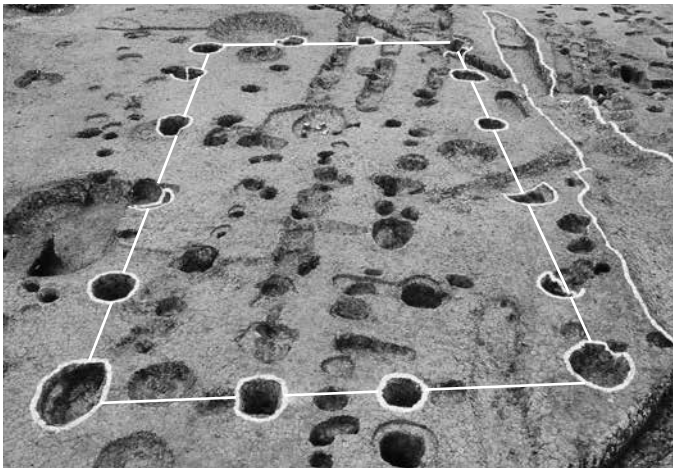


SB531　完掘（東から）

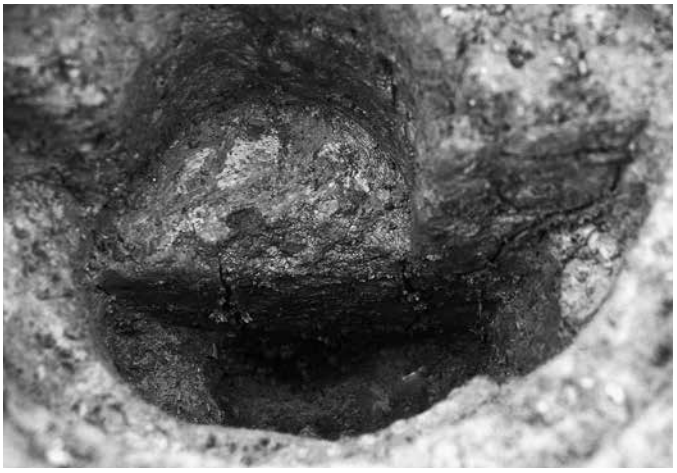
SB1057-P1013　土層断面（南から）


SB1057-P1016　土層断面（南から）

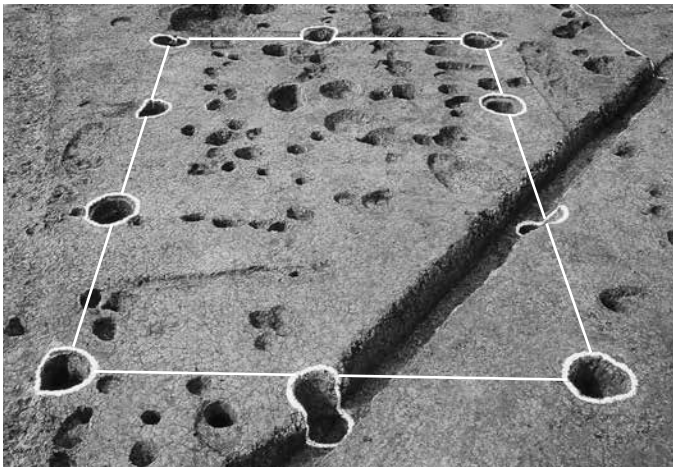
SB1057-P1021　土層断面（南から）

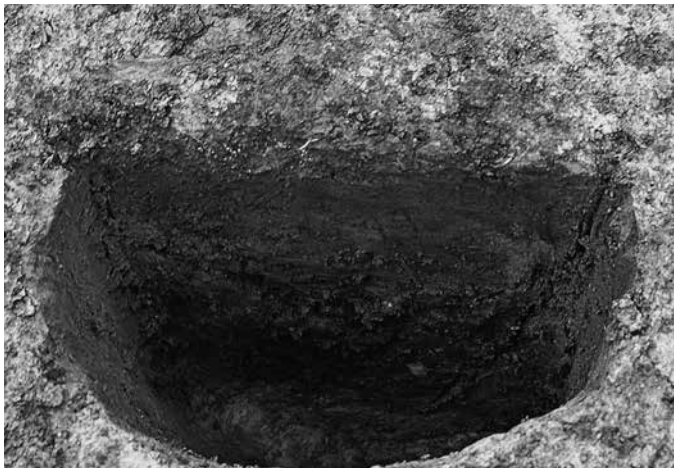

SB1057　完掘（南から）

SB681-P682　土層断面（西から）


SB681-P684　土層断面（西から）

SB681-P685　土層断面（西から）


SB681　完掘（南から）

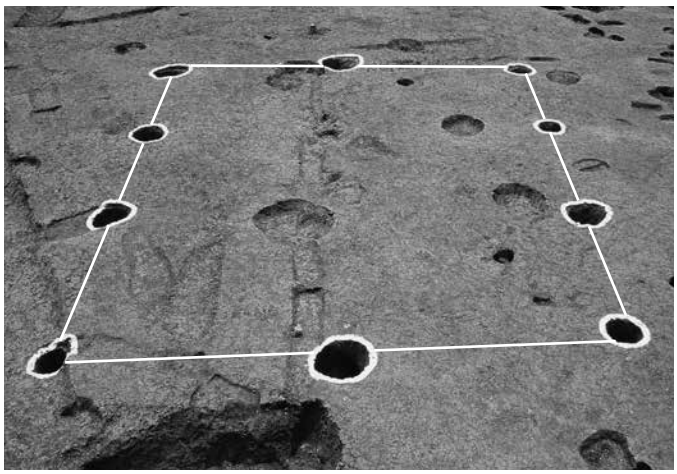


SB583-P586　土層断面（東から）

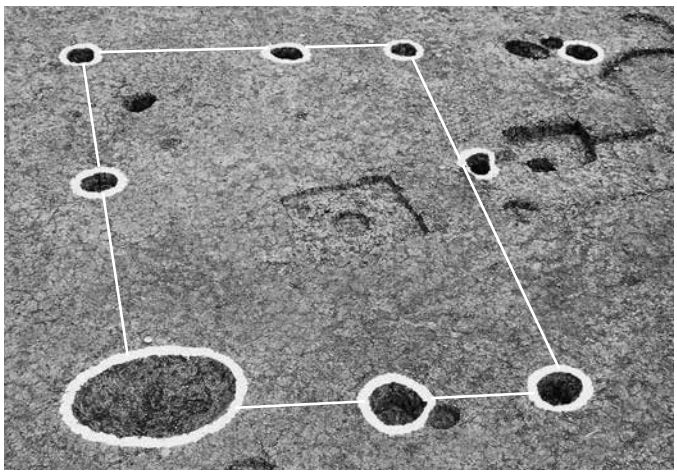
SB583-P588　土層断面（西から）

SB583-P590　土層断面（東から）

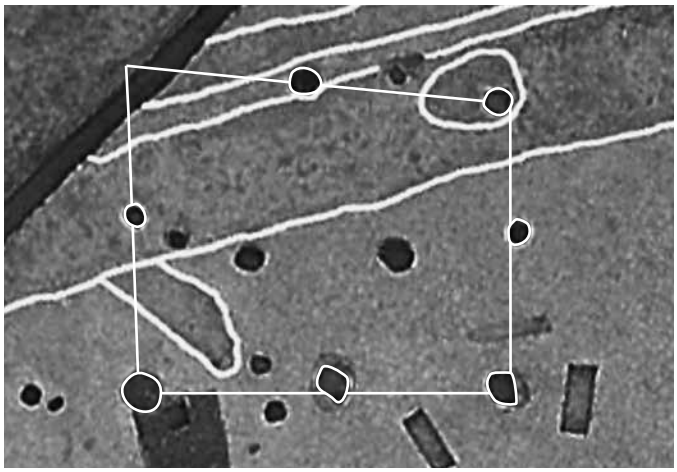
SB583-P593　土層断面（東から）



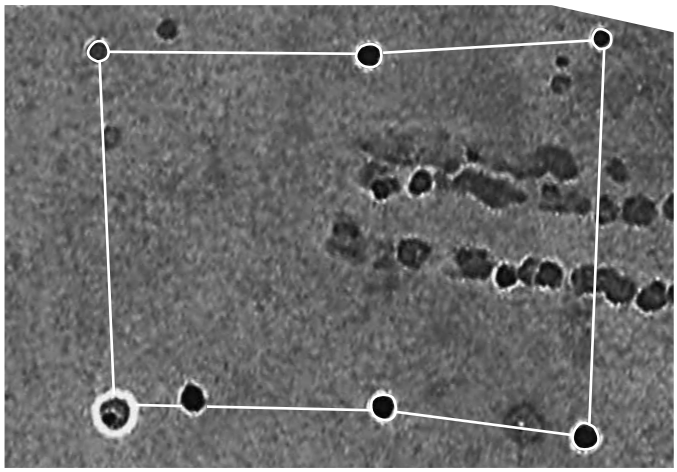
SB583　完掘（北から）



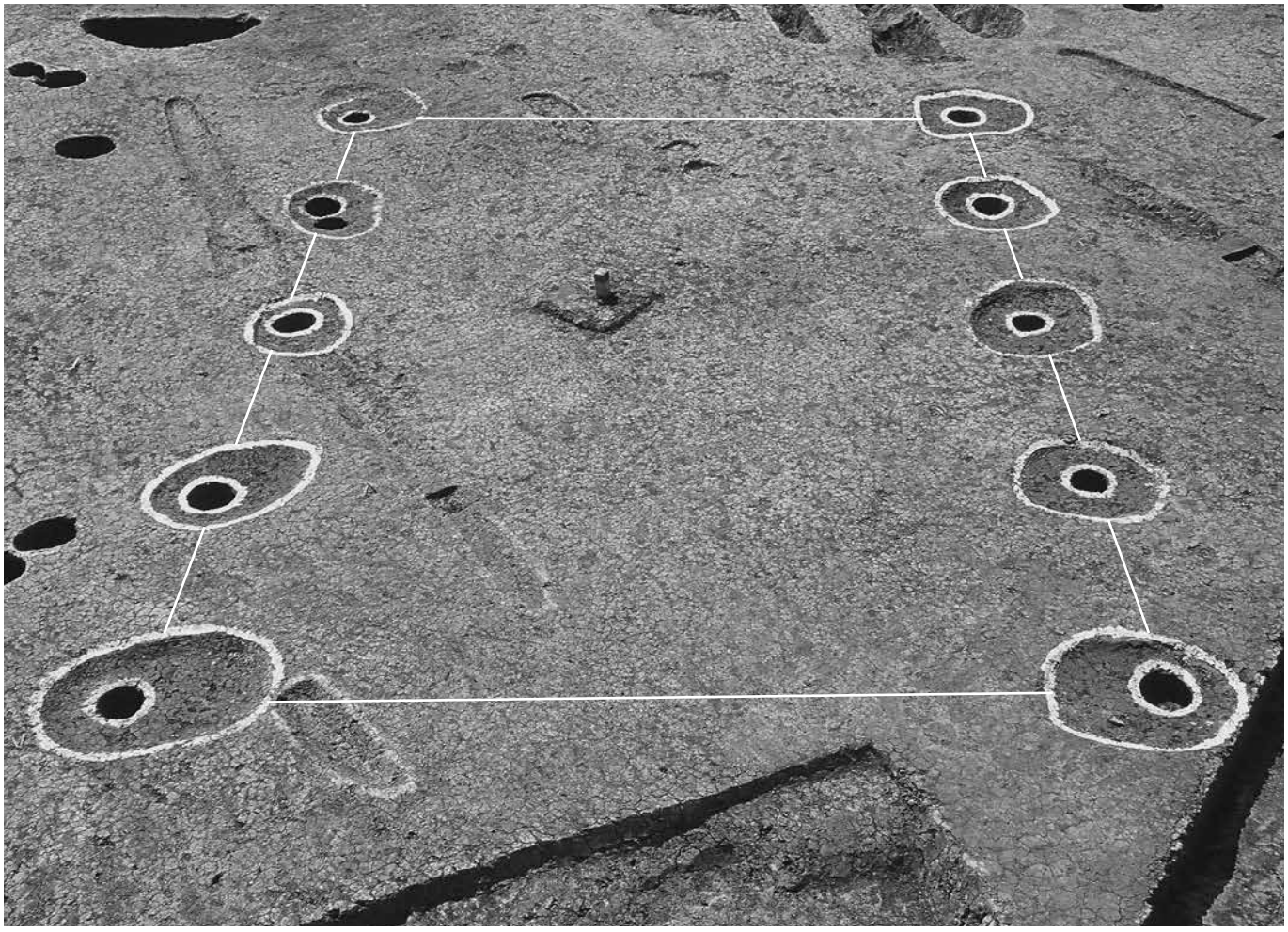
SB668　完掘（南から）



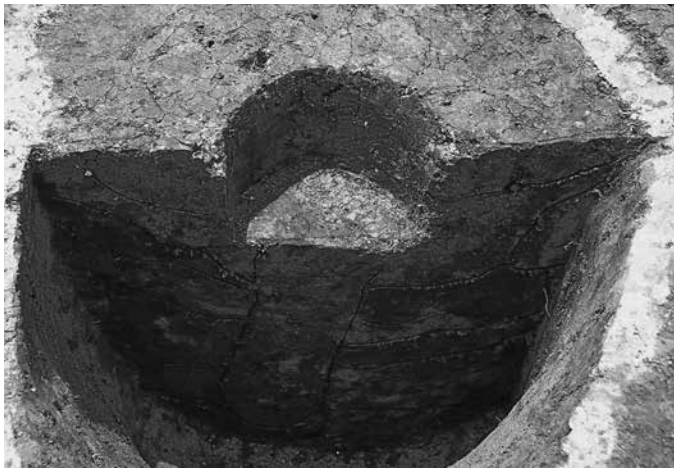
SB1715　完掘（東から）



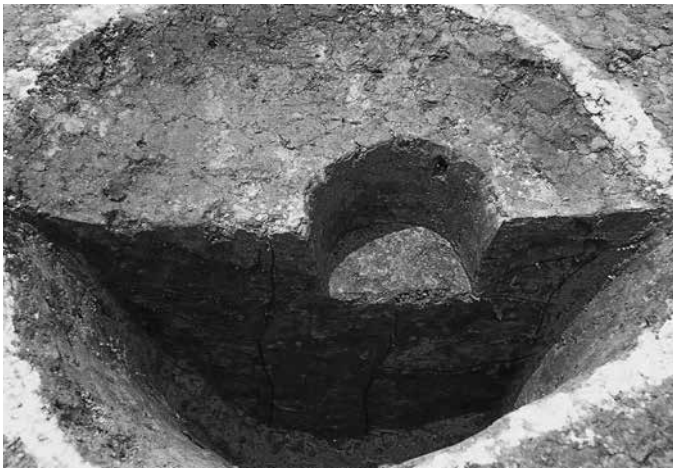
SB1708　完掘（東から）



SB377　柱痕完掘（東から）



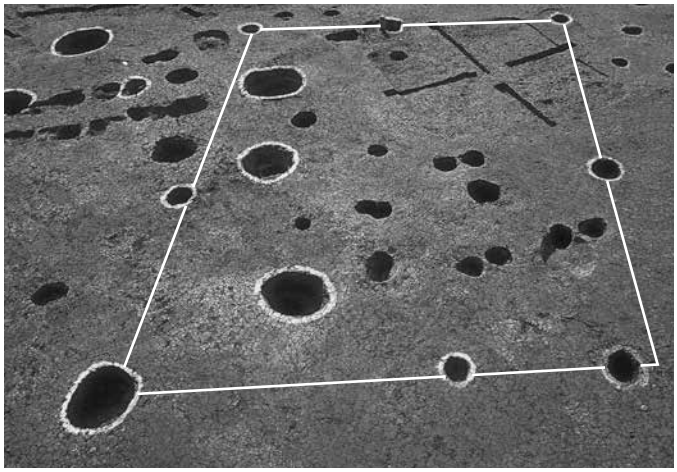
SB377-P378　土層断面（北から）



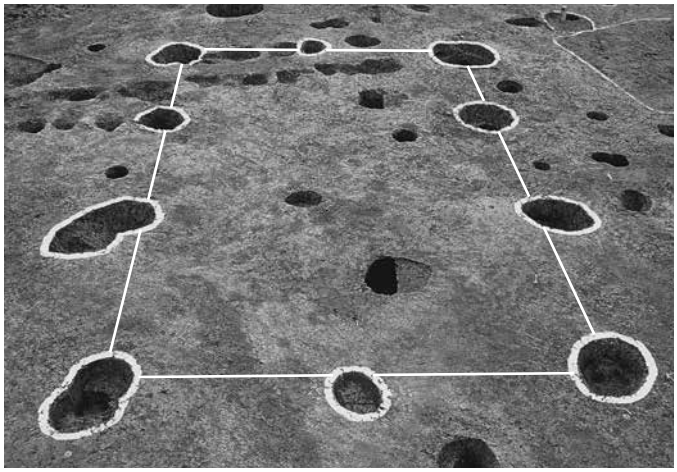
SB377-P379　土層断面（北から）

SB377-P380　土層断面（北から）

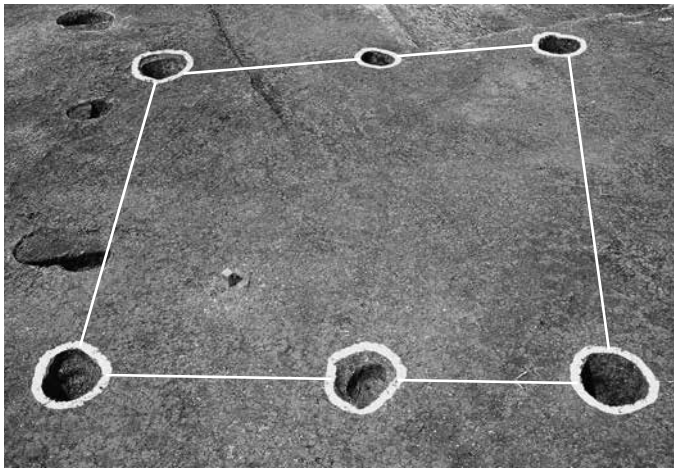
SB377-P383　土層断面（南から）



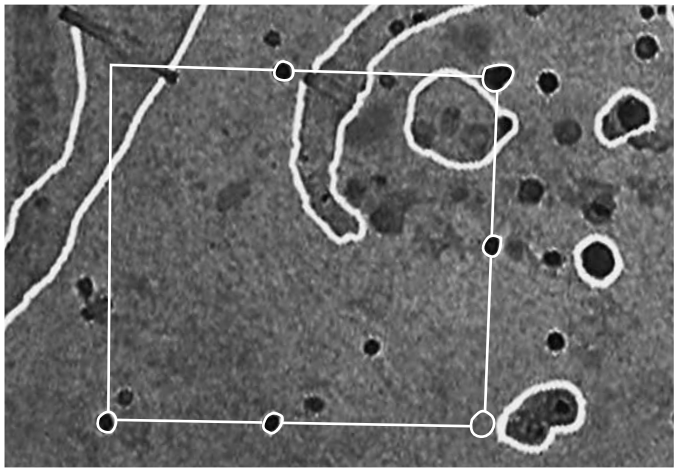
SB439　完掘（東から）



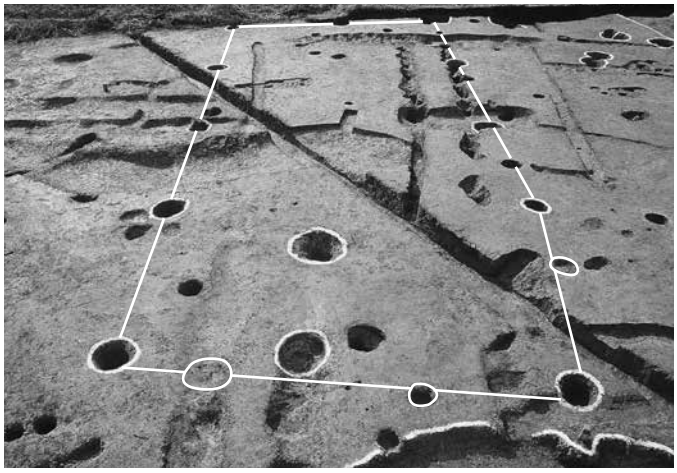
SB415　完掘（東から）



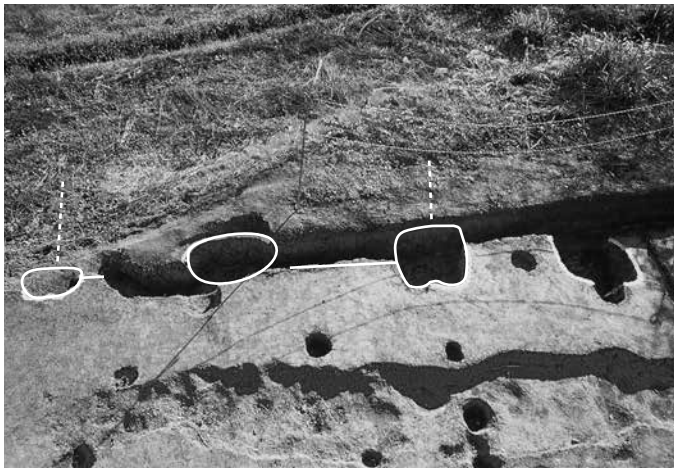
SB408　完掘（南から）



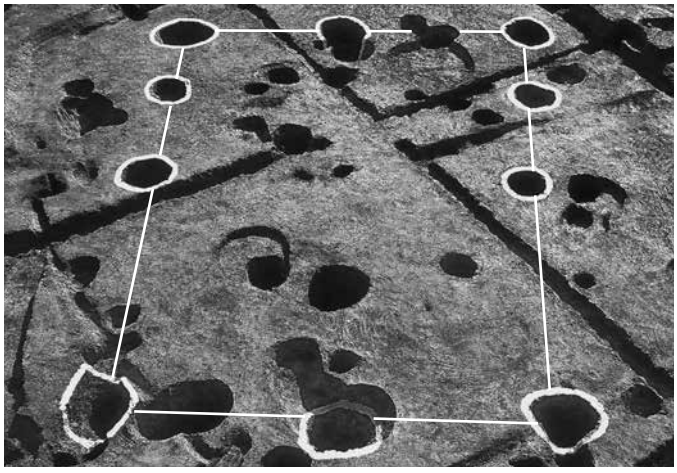
SB919　完掘（東から）



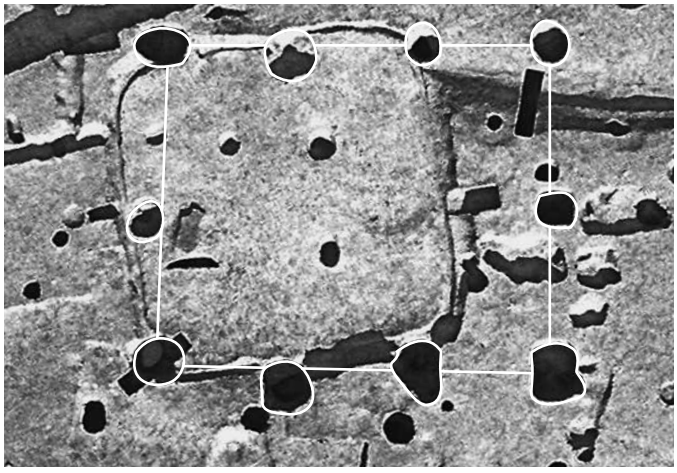
SB1414　完掘（北から）



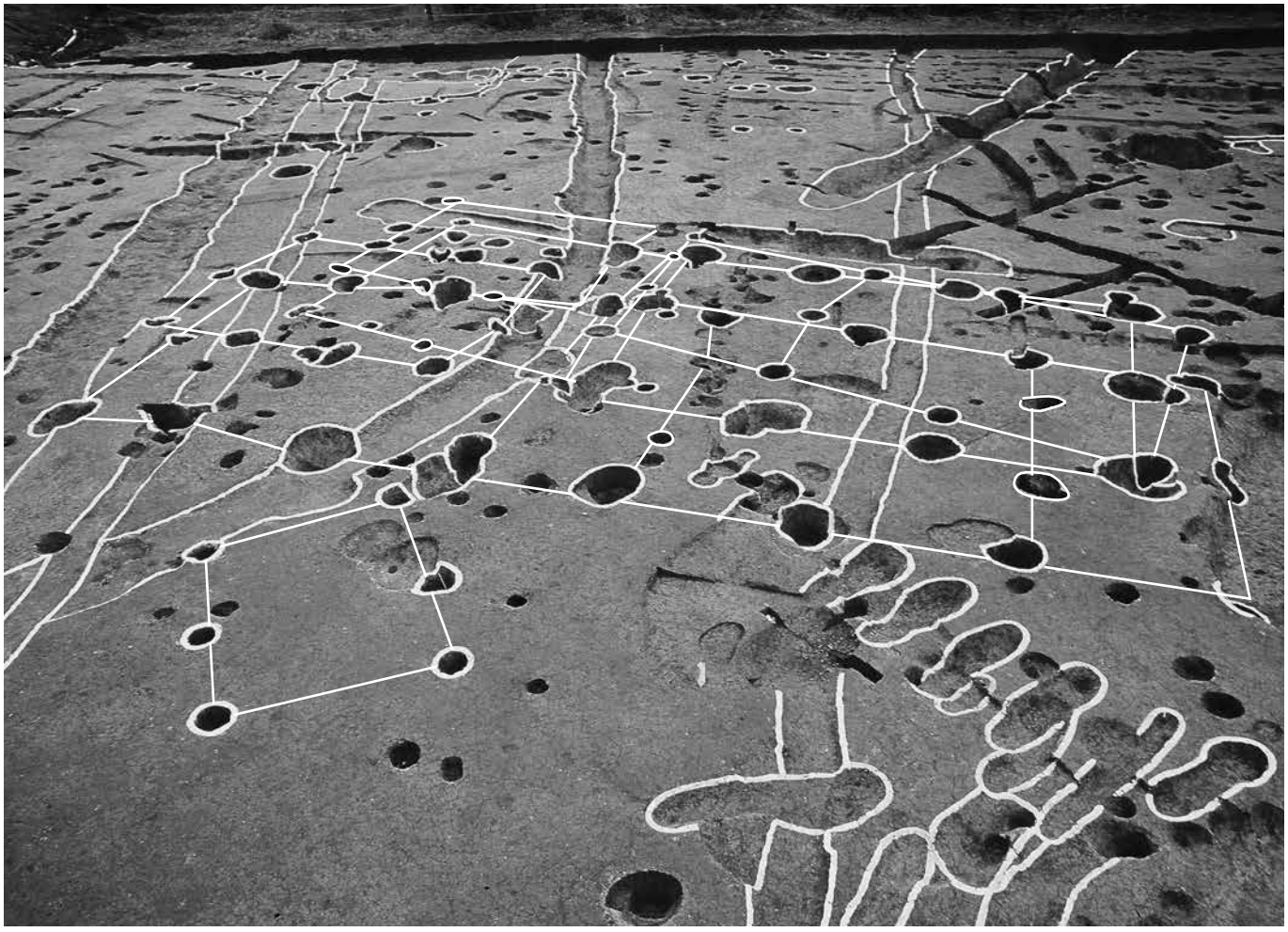
SB1782　完掘（北から）



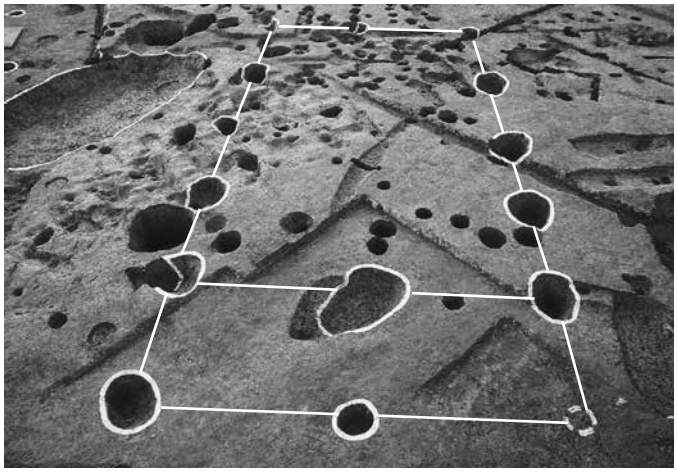
SB1840　完掘（北から）



SB1626　完掘（南から）

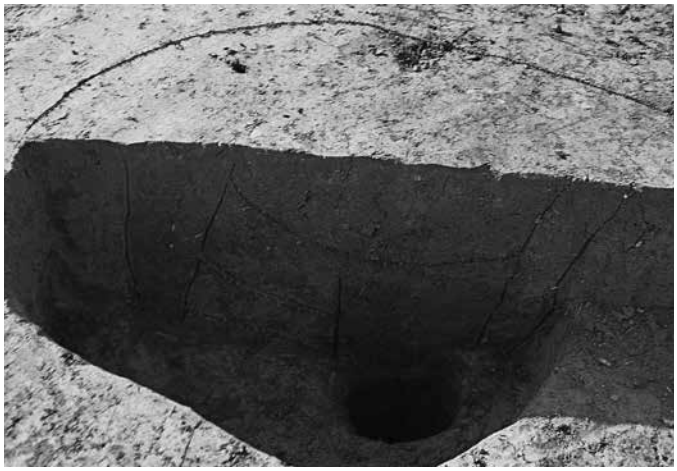


40L・Mグリッド付近掘立柱建物群（北から）

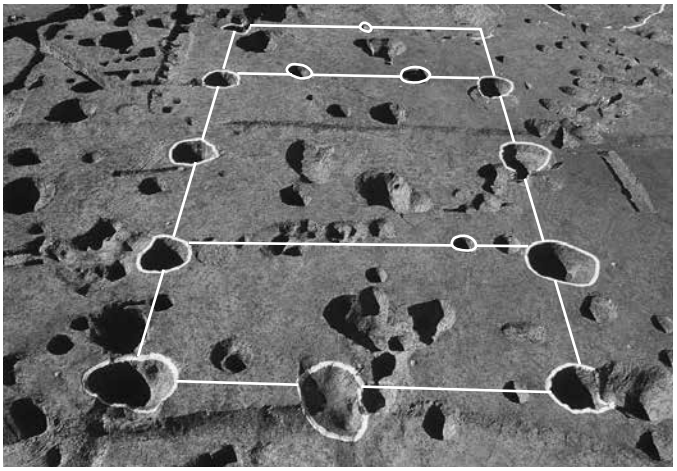


SB1887　完掘（東から）

SB1760-P1469　土層断面（東から）



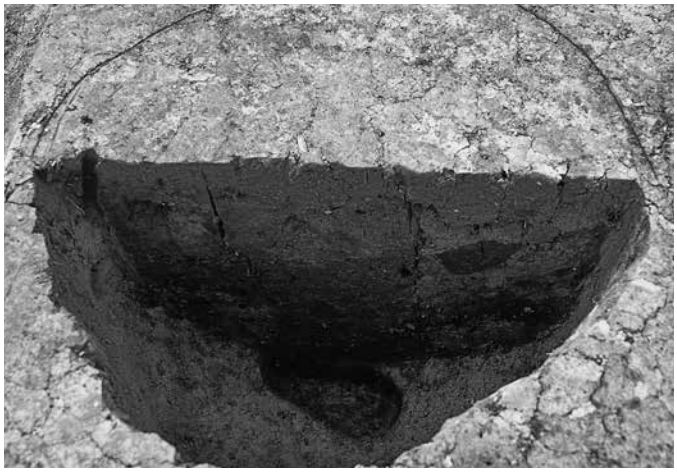
SB1760-P1749　土層断面（北から）



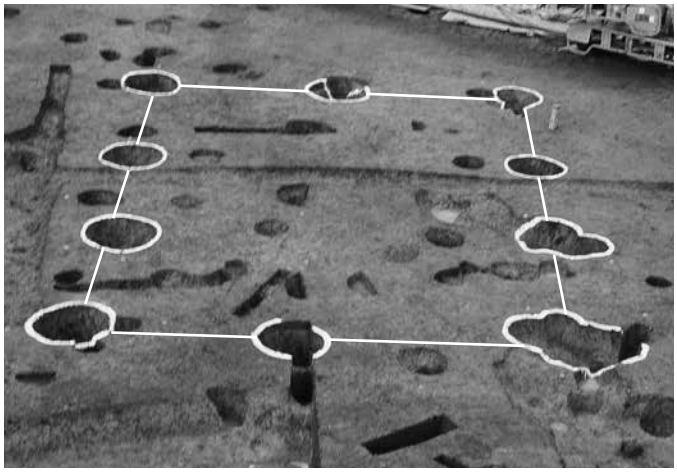
SB1760　完掘（東から）

SB1452-P1442　土層断面（西から）

SB1452-P1444　土層断面（南から）



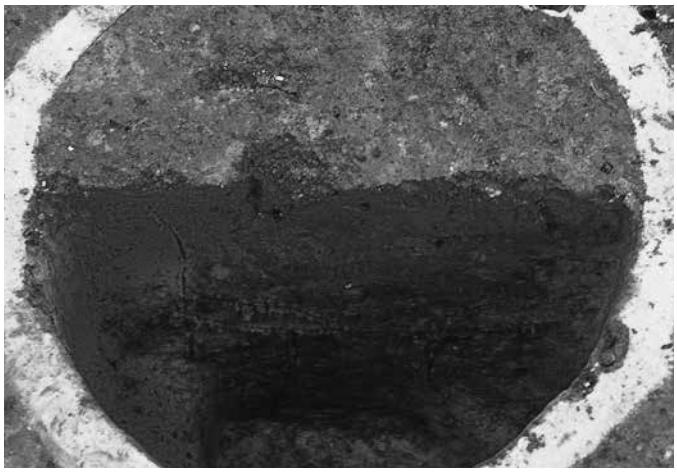
SB1452-P1448　土層断面（北から）



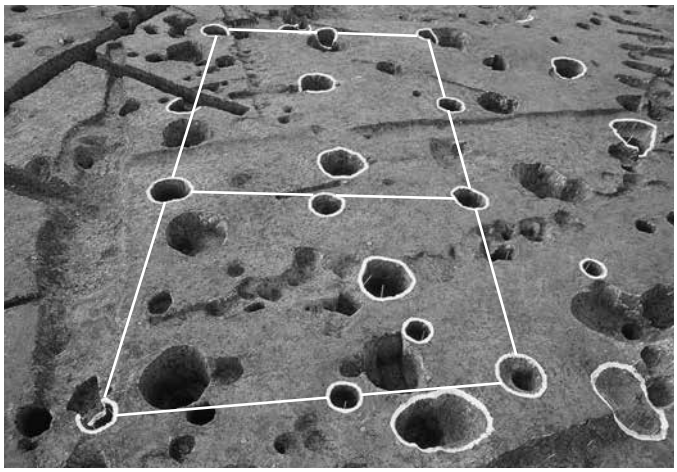
SB1452　完掘（東から）

SB1460-P1461　土層断面（南から）

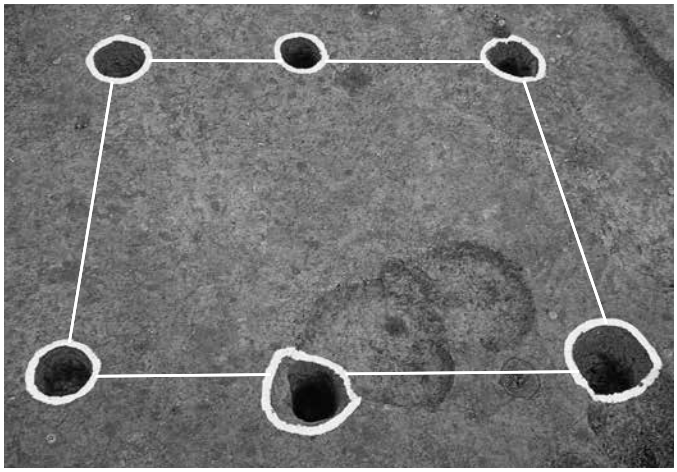
SB1460-P1465　土層断面（北から）



SB1460-P1774　土層断面（南から）

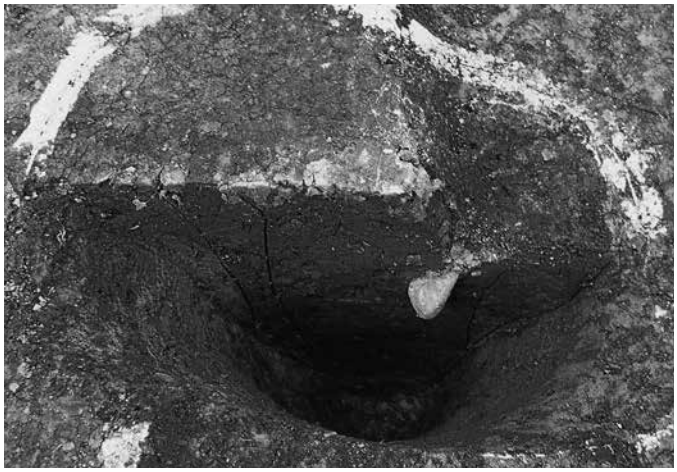


SB1460　完掘（東から）



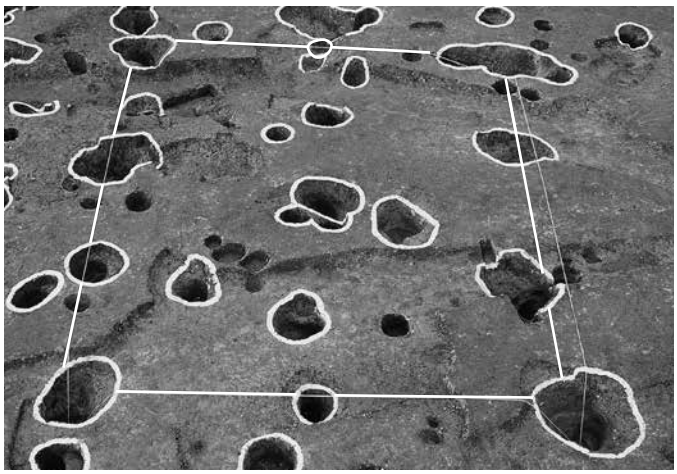
SB1482　完掘（西から）

SB1500-P1429　土層断面（南から）



SB1500-P1430　土層断面（南から）

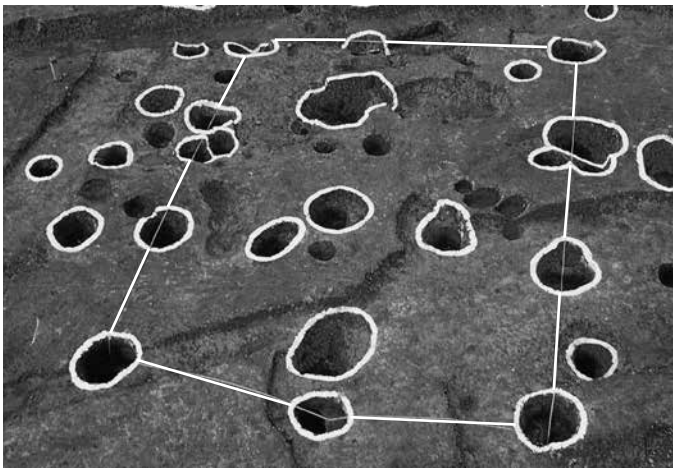
SB1500-P1431　土層断面（北から）



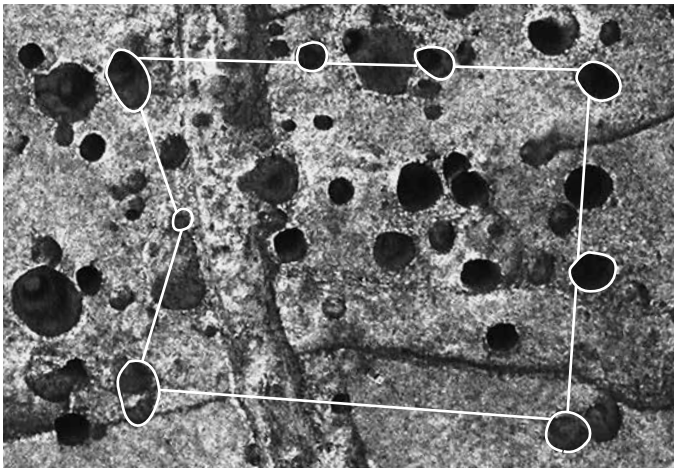
SB1500　完掘（東から）

SB1750-P1441　土層断面（北東から）

SB1750-P1459　土層断面（西から）



SB1750　完掘（東から）

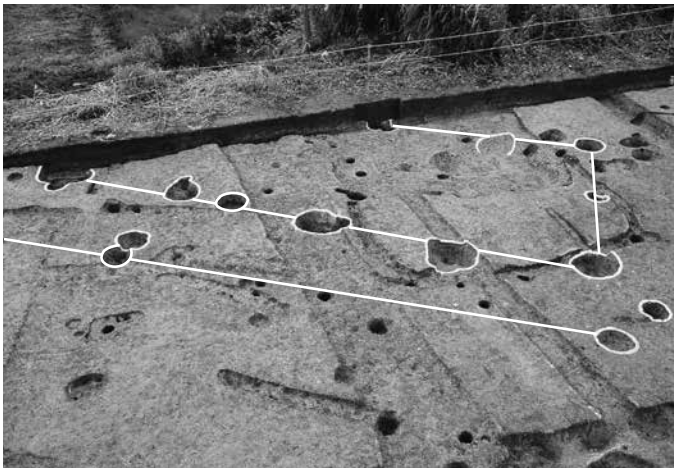


SB1761　完掘（南から）

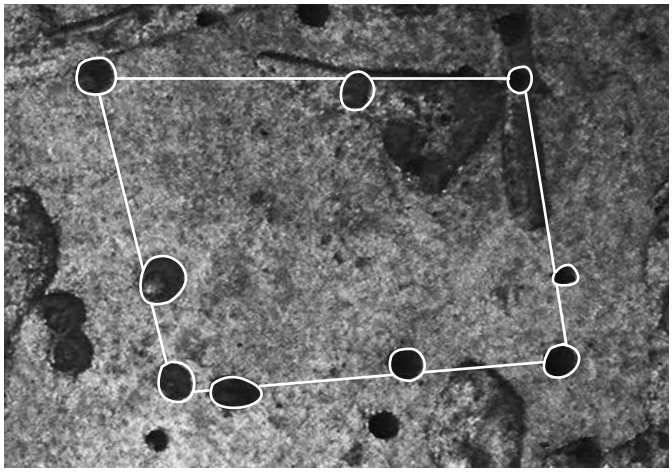
SB1470-P1477　土層断面（南から）

SB1470-P1478　土層断面（南から）

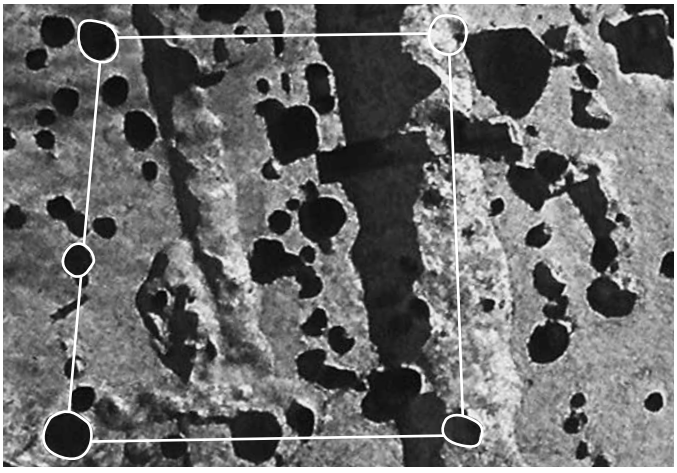
SB1470　完掘（北から）



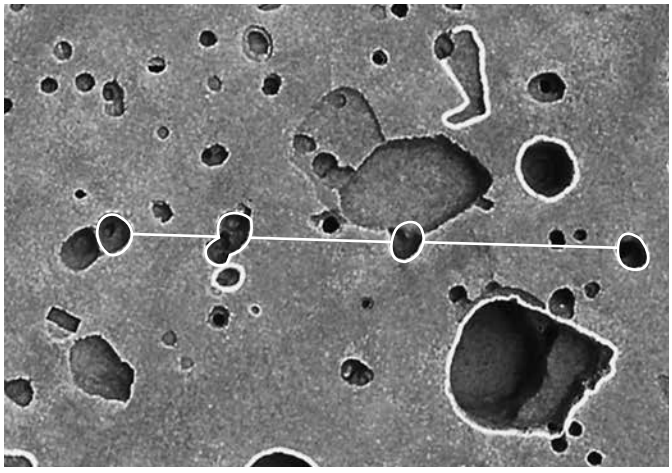
SB1440、SA1711　完掘（北から）



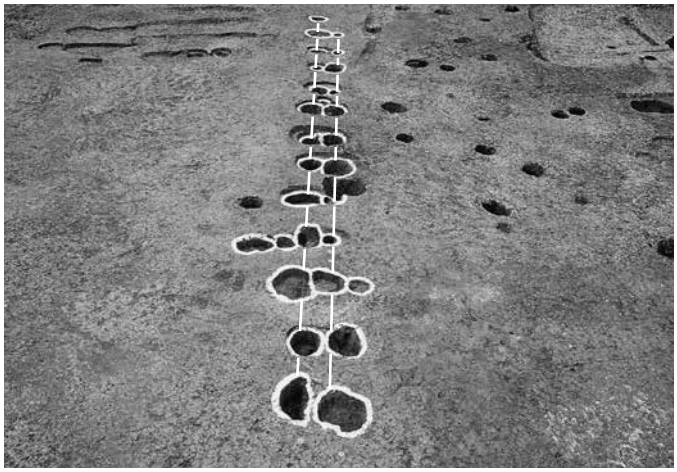
SB1905　完掘（西から）



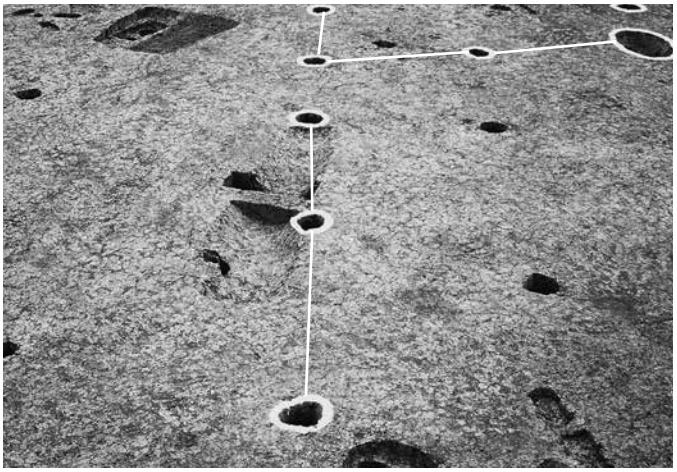
SB880　完掘（東から）



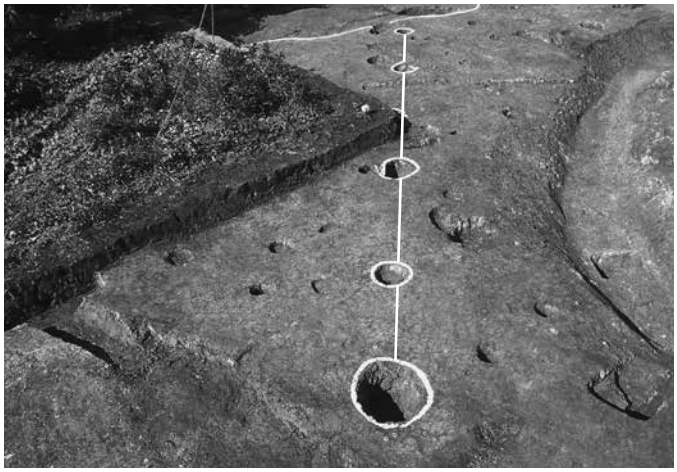
SA936　完掘（西から）



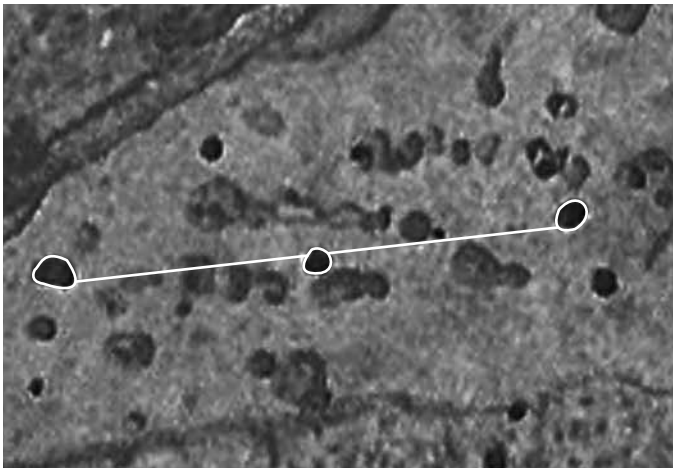
SA252（左）・266（右）　完掘（南から）



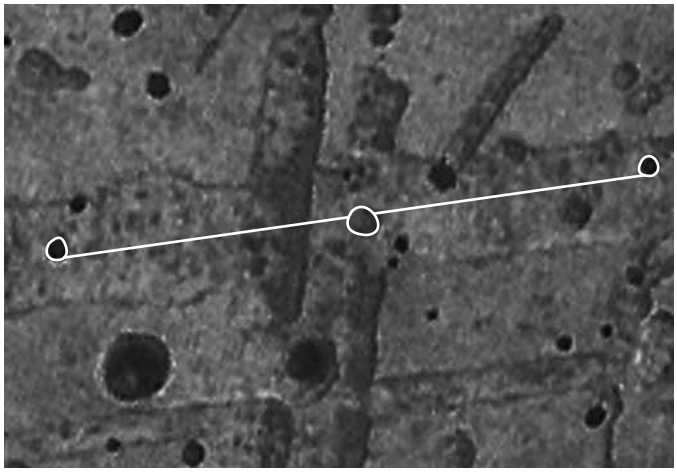
SA663　完掘（西から）



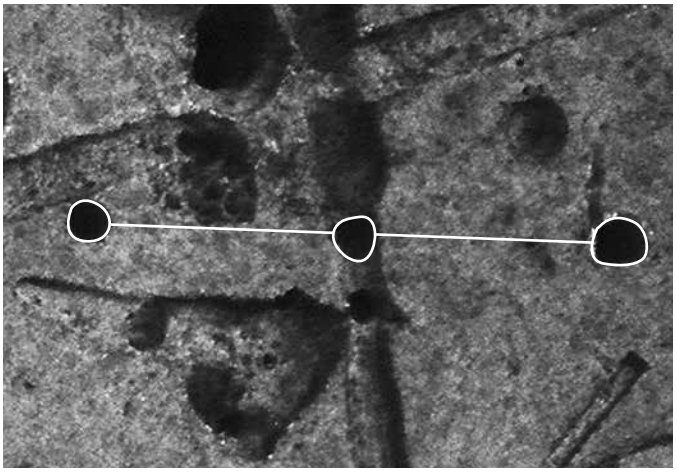
SA1302　完掘（南から）



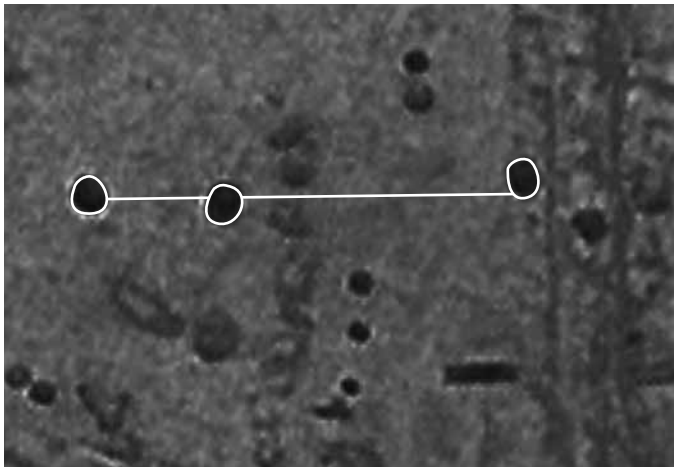
SA1281　完掘（西から）



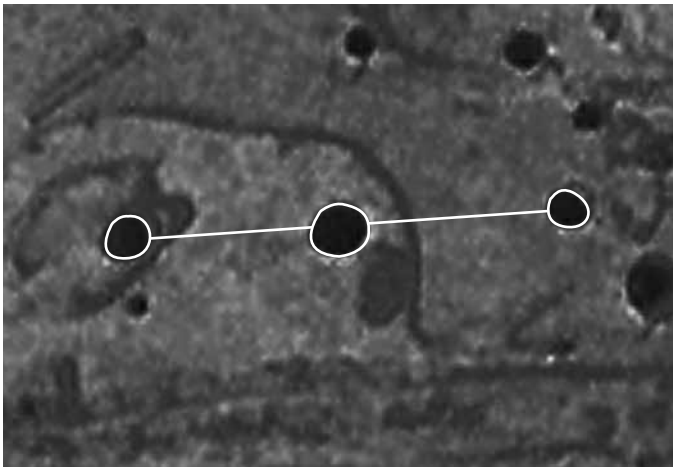
SA1797　完掘（西から）



SA1901　完掘（西から）

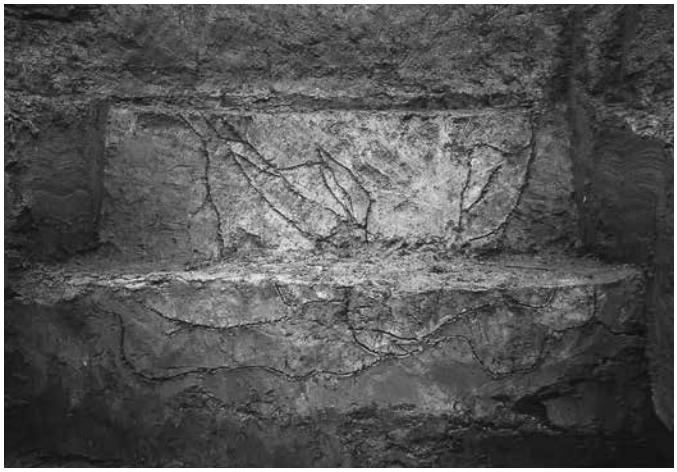


SA1265　完掘（南から）

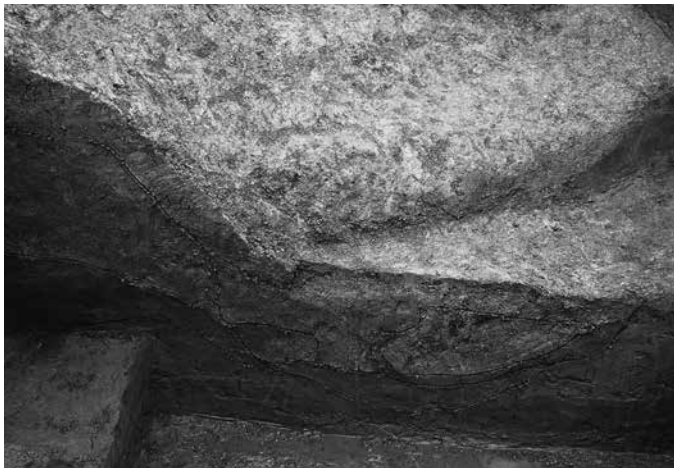


SA1423　完掘（西から）

SE797　完掘（北から）



SE797　断ち割り土層断面（南西から）



SE809　断ち割り土層断面（西から）

SE809断ち割り完掘（西から）

SE806　土層断面（西から）

SE806　完掘（東から）

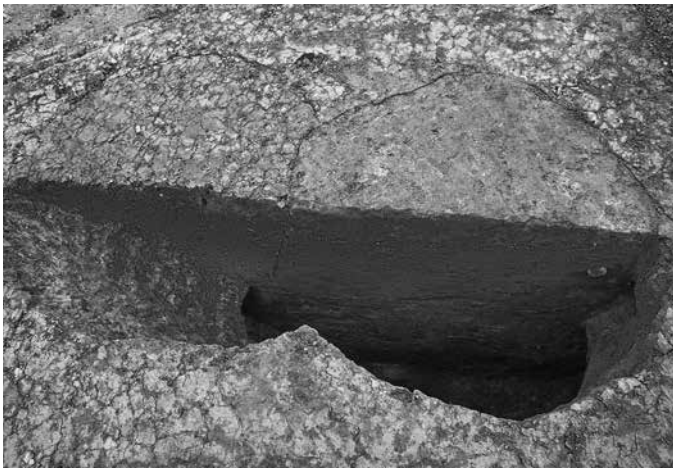
SE820　土層断面（南西から）

SE820　完掘（北東から）

SE817　断ち割り土層断面（南から）

SE901　土層断面（東から）

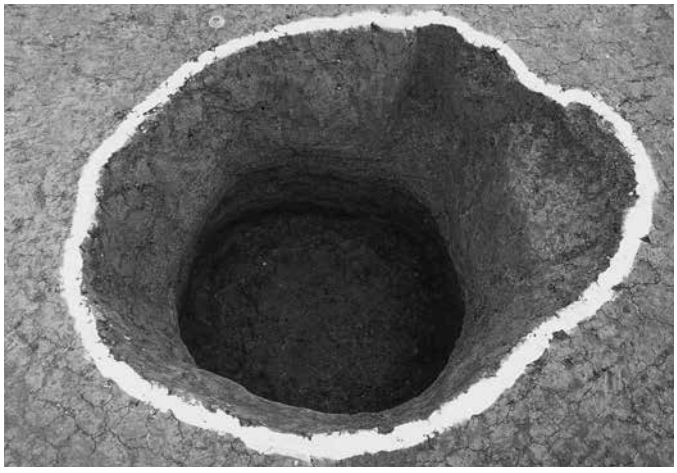
SE901　断ち割り土層断面（東から）



SE903（右）、SK904（左）　土層断面（北東から）

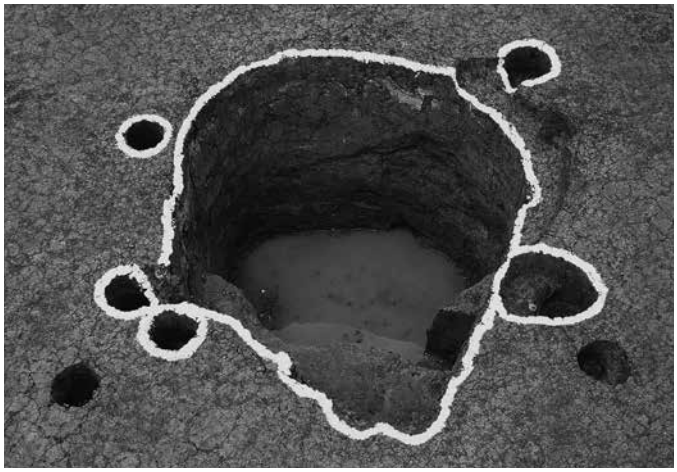
SE903、SK904　完掘（南西から）

SE903　断ち割り土層断面（南西から）



SE915　完掘（北から）

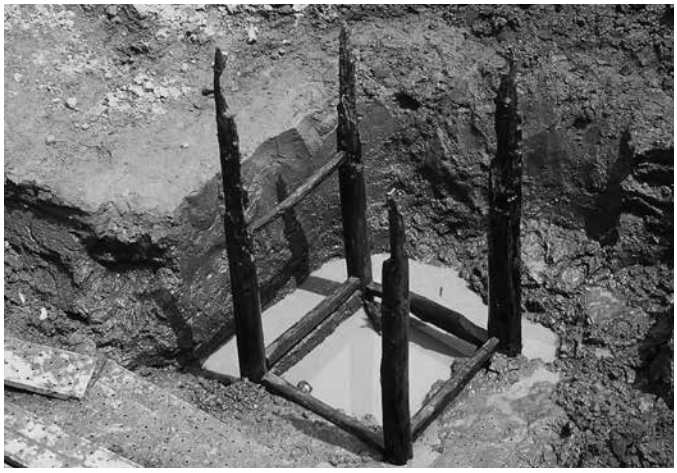
SE915　断ち割り土層断面（西から）

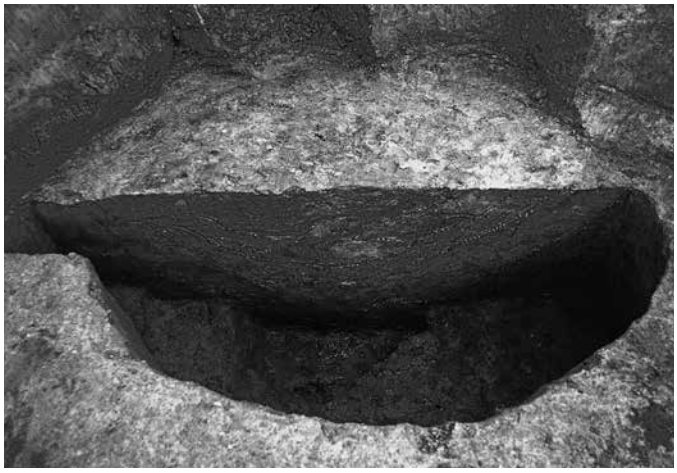

SE916・SB864　完掘（西から）

SE916　井戸側直上断ち割り土層断面（南西から）

SE916　井戸側検出状況（西から）

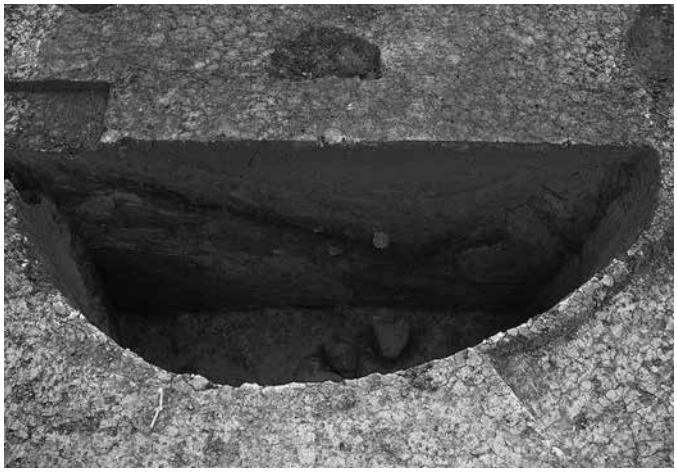
SE916　井戸側上部桟木検出状況（西から）


SE916　縦板除去後隅柱・下部桟木検出状況（南西から）


SE824　断ち割り土層断面（北から）

SE824　断ち割り完掘（北から）

SE1102　断ち割り完掘（南西から）

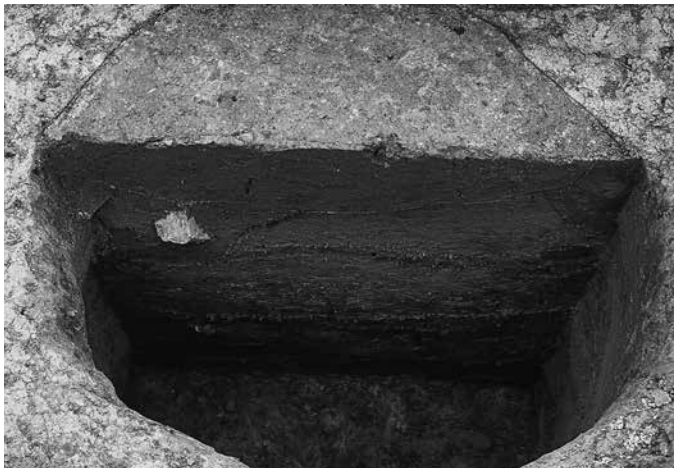


SE1103　土層断面（東から）

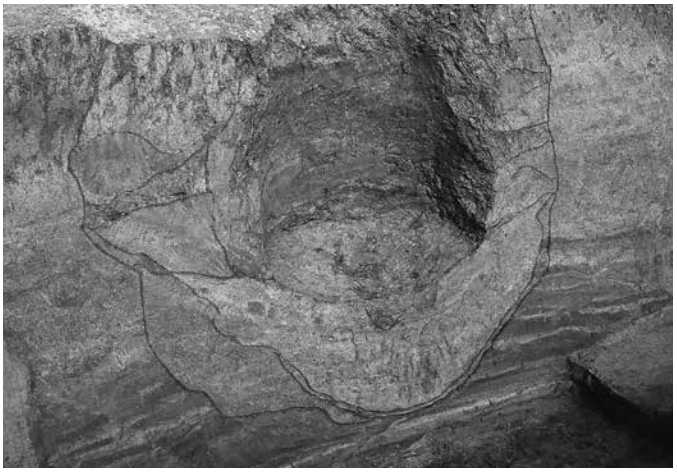
SE1103　断ち割り完掘（南西から）

SE120　断ち割り土層断面（東から）

SE120　断ち割り完掘（東から）



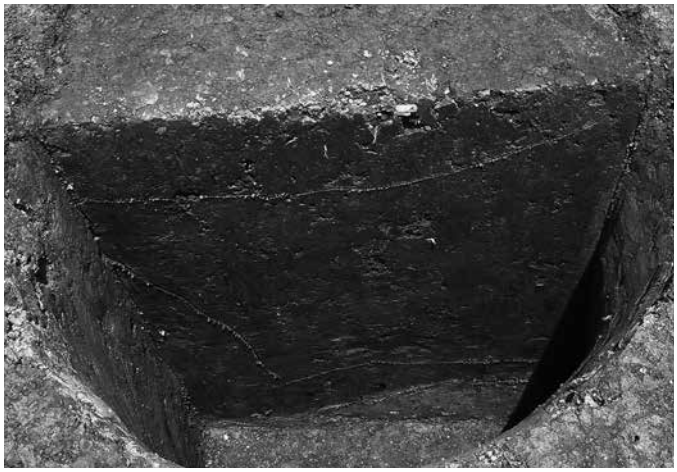
SE1101　上部土層断面（南東から）



SE1101　断ち割り土層断面（南西から）

SE159　上部土層断面（南から）

SE159　断ち割り完掘（南から）



SE163　上部土層断面（南から）

SE163　断ち割り土層断面（南から）

SE290　上部土層断面（北から）

SE290断ち割り完掘（南から）

SE671　断ち割り土層断面（南西から）

SE672　完掘（北西から）

SE799　上部土層断面（南から）

SE799　断ち割り土層断面（西から）

SE358　下部土層断面（南から）

SE358　完掘（南から）

SE359　下部土層断面（南から）

SE359　完掘（南から）

SE389　土層断面（西から）

SE389　断ち割り完掘（東から）

SE200　土層断面（南東から）

SE200　完掘（北東から）

SE251　断ち割り土層断面（南から）

SE251　断ち割り完掘（南から）

SE91　土層断面（南東から）

SE91　完掘（南から）

SE92　断ち割り土層断面（西から）

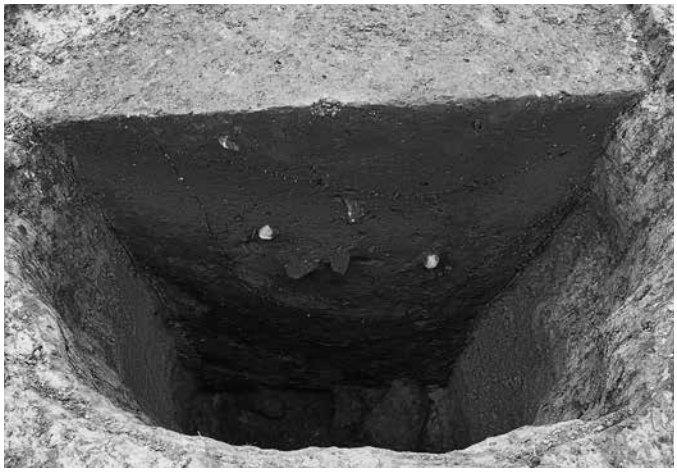
SE92　井戸側検出状況（北から）

SE12　中部土層断面（西から）

SE12　断ち割り土層断面（東から）

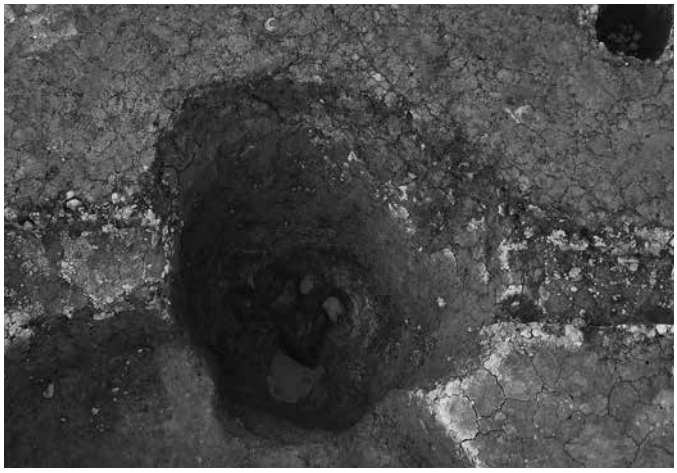
SE20　土層断面（南から）

SE20　断ち割り土層断面（北から）



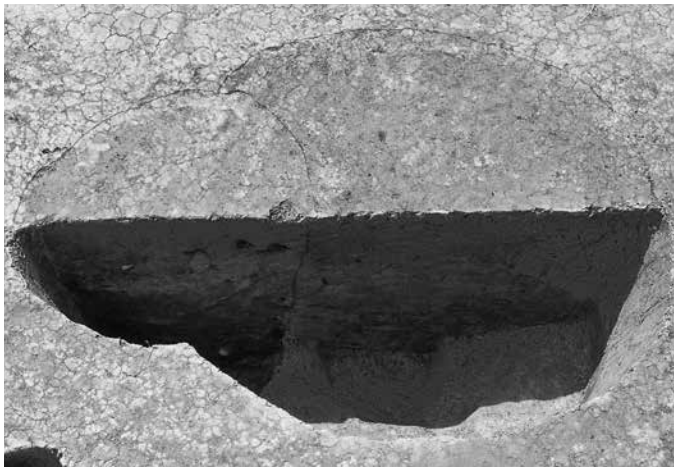
SE604　土層断面（南から）

SE604　遺物出土状況（南から）



SE605　遺物出土状況（南西から）

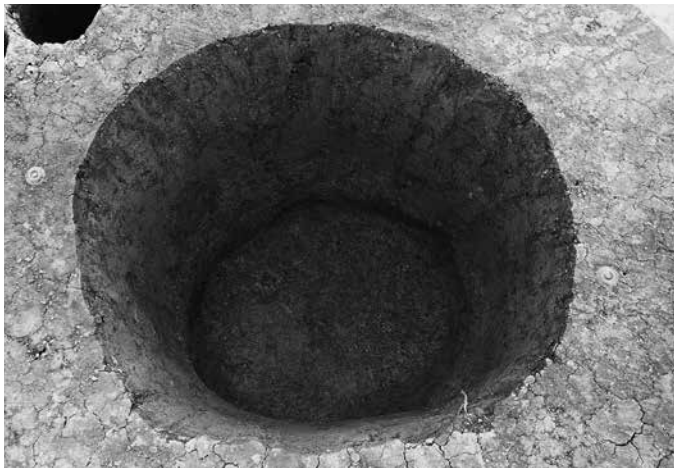
SE605　断ち割り完掘（北東から）



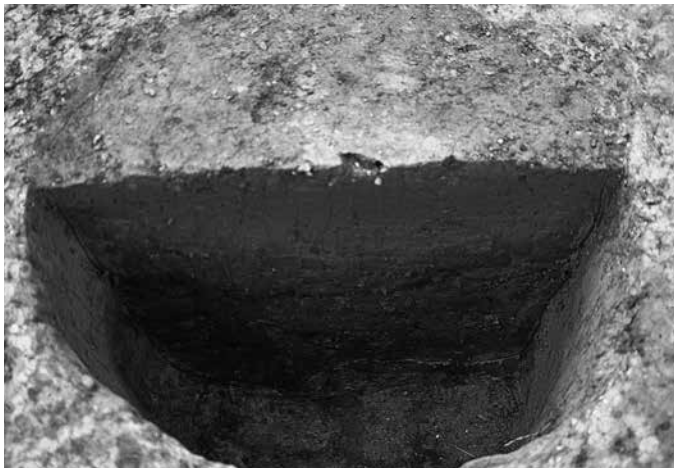
SE449（左）・451（右）　土層断面（東から）

SE451　井戸側検出状況（南から）

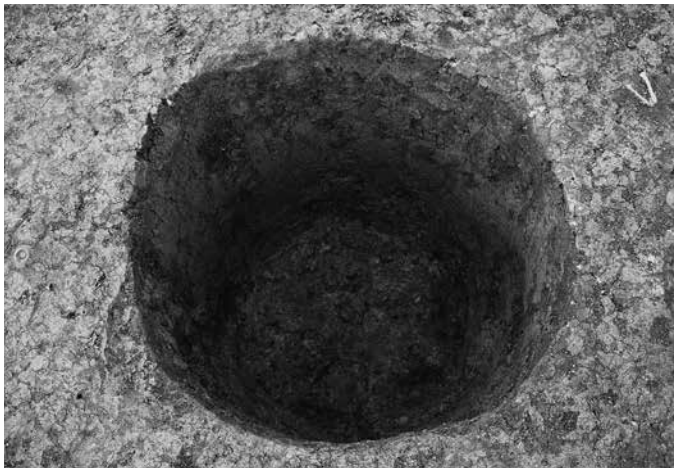
SE450　土層断面（西から）



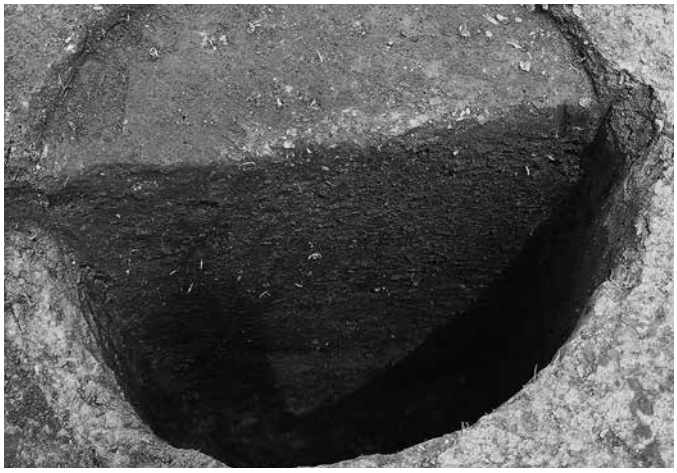
SE450　完掘（西から）



SE426　土層断面（北から）



SE426　完掘（西から）



SE427　土層断面（南から）

SE427　完掘（南から）

SE428　土層断面（南から）

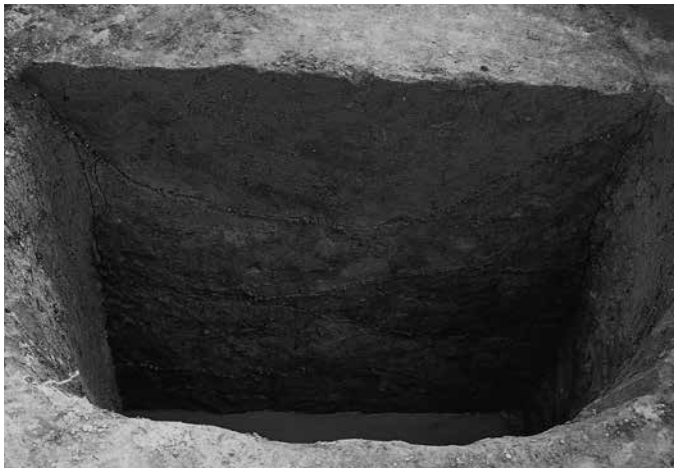
SE428　完掘（南から）

SE448　土層断面（南から）

SE448　完掘（西から）

SE1082　土層断面（東から）

SE1082　遺物出土状況（東から）



SE1086　上部土層断面（北から）

SE1086　断ち割り土層断面（北西から）

SE1399　断ち割り土層断面（北東から）

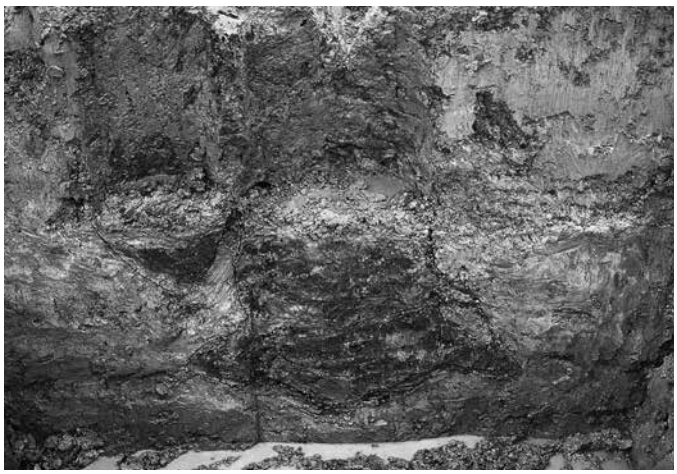
SE1399　断ち割り完掘（北東から）

SE1083　上部土層断面（南から）

SE1083　断ち割り完掘（南から）

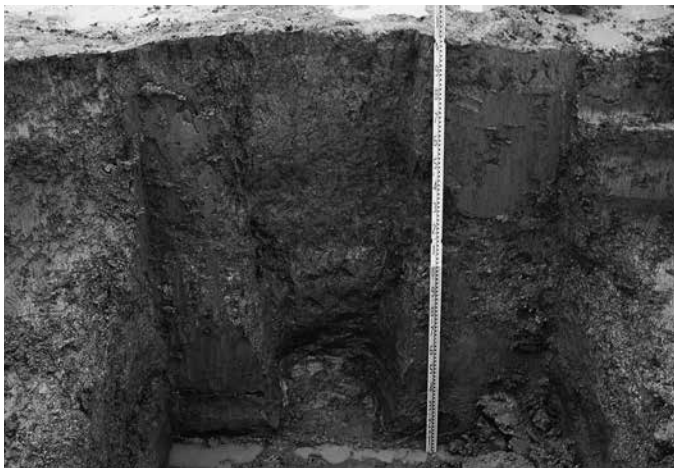
SE1085　土層断面（北から）

SE1085　完掘（北から）



SE1853（右）・1864（左）　断ち割り土層断面（西から）

SE1853・1864　断ち割り完掘（西から）



SE1854　断ち割り完掘（北から）

SE871　完掘（西から）

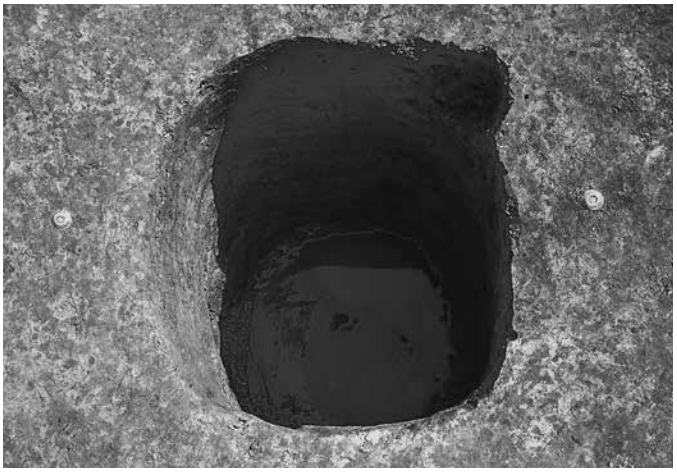
SE872　上部土層断面（東から）

SE872　断ち割り土層断面（東から）

SE882　上部土層断面（西から）

SE882　断ち割り土層断面（西から）

SE1060　土層断面（北から）



SE1060　完掘（北から）

SE1061　土層断面（東から）

SE1061　完掘（南から）

SE503　断ち割り土層断面（北から）

SE503　断ち割り完掘（北から）

SE1199　遺物出土状況（東から）

SE1199　断ち割り土層断面（北から）

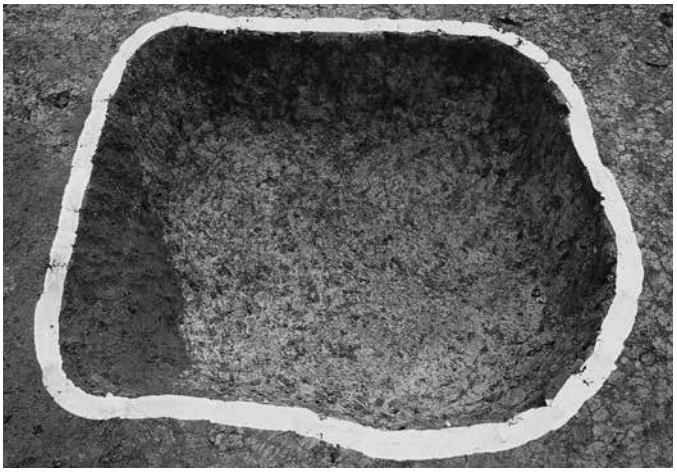
SE914　上部土層断面（南から）

SE914　断ち割り土層断面（西から）

SK803　断ち割り土層断面（東から）

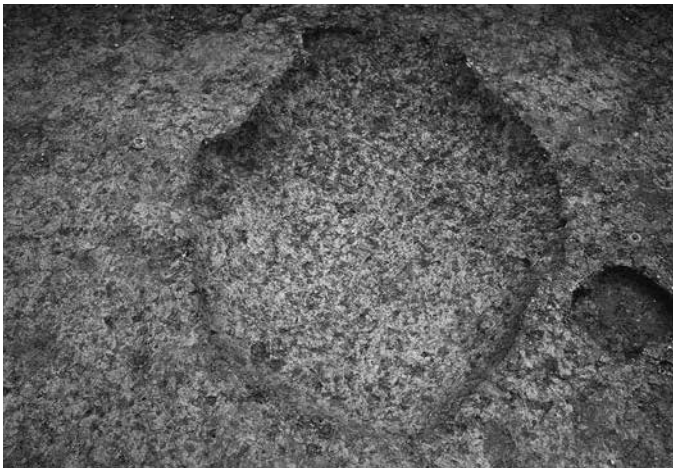
SK803　断ち割り完掘（東から）

SK816　土層断面（北から）



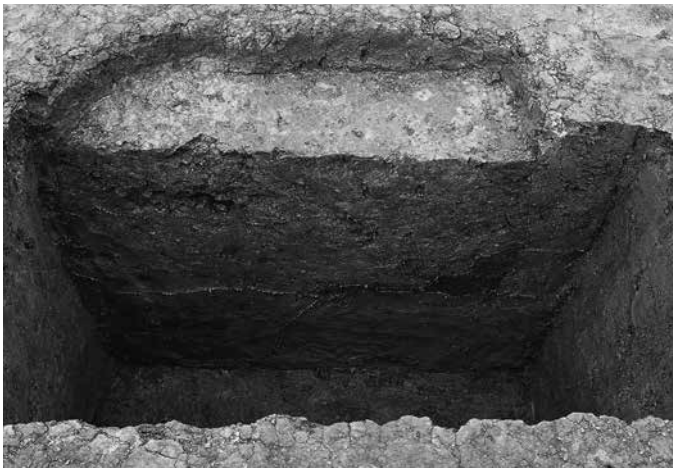
SK816　完掘（東から）

SK821　土層断面（東から）

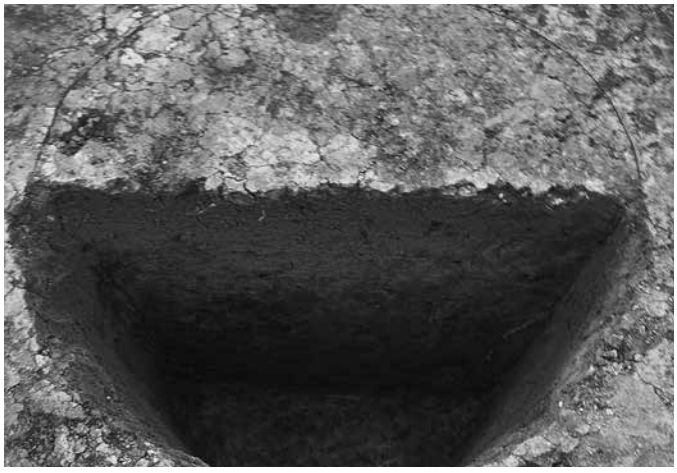


SK821　完掘（西から）

SK841　土層断面（北から）



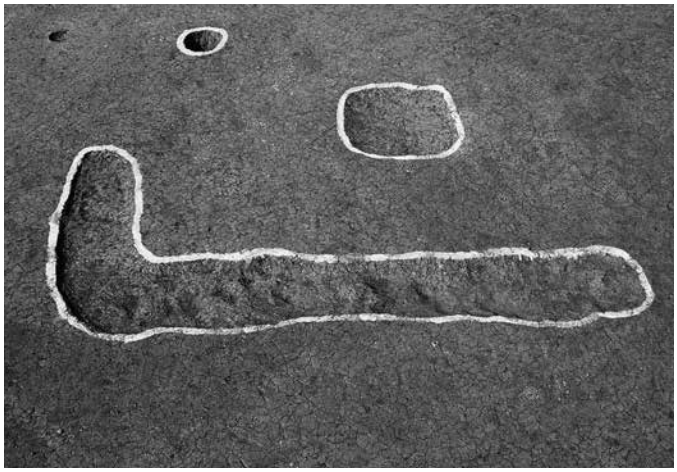
SK842　土層断面（西から）



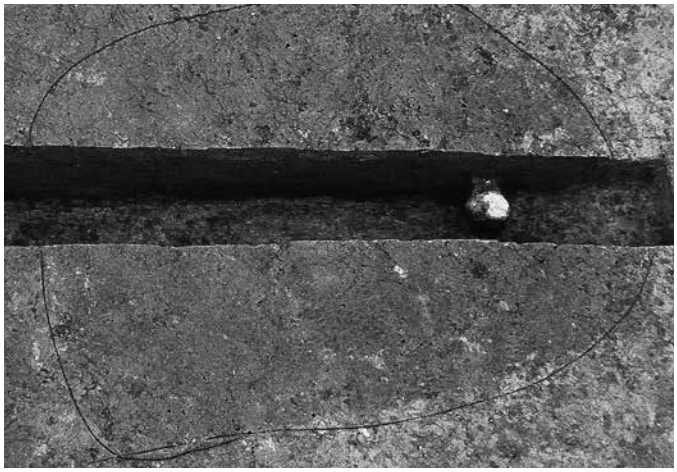
SK940　土層断面（南から）

SK940　完掘（南から）

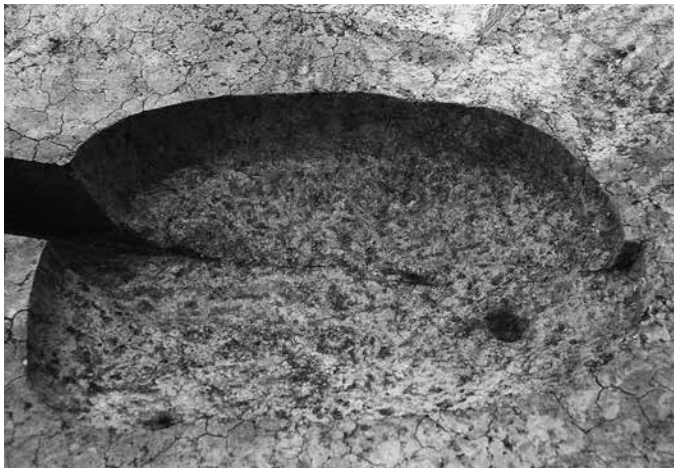
SK917　完掘（西から）



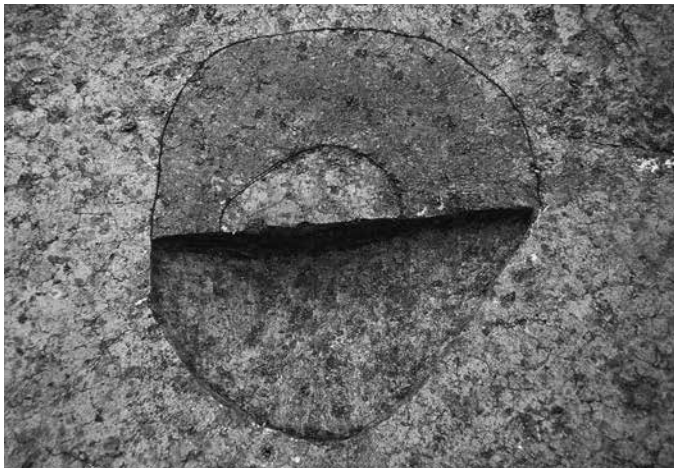
SK1181（上）・SD1180（下）　完掘（南から）



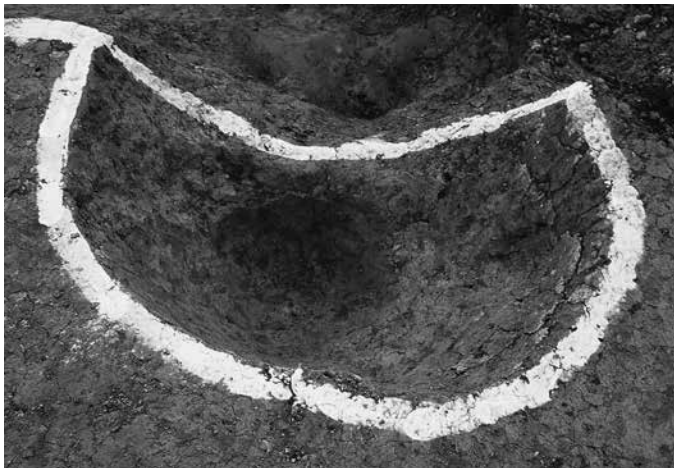
SK1187　土層断面（東から）



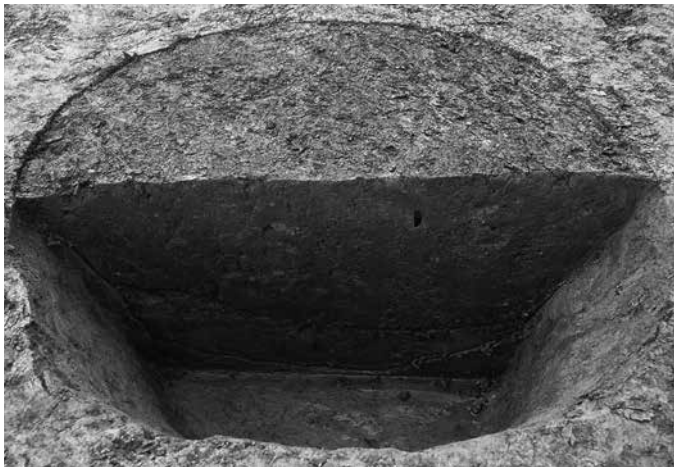
SK1187　完掘（東から）



SK1261　土層断面（南から）



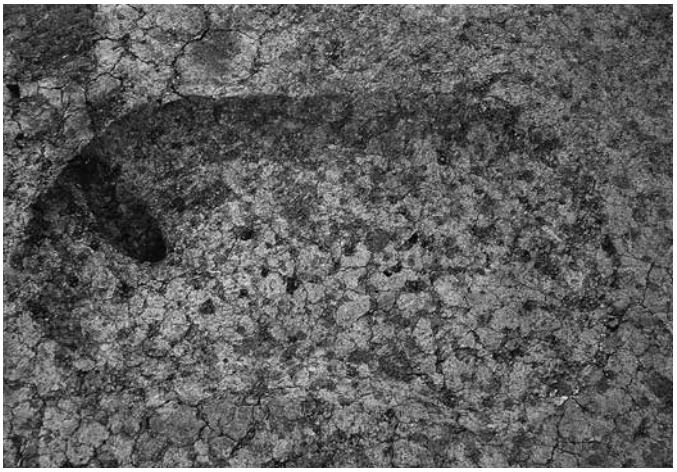
SK1280　完掘（東から）



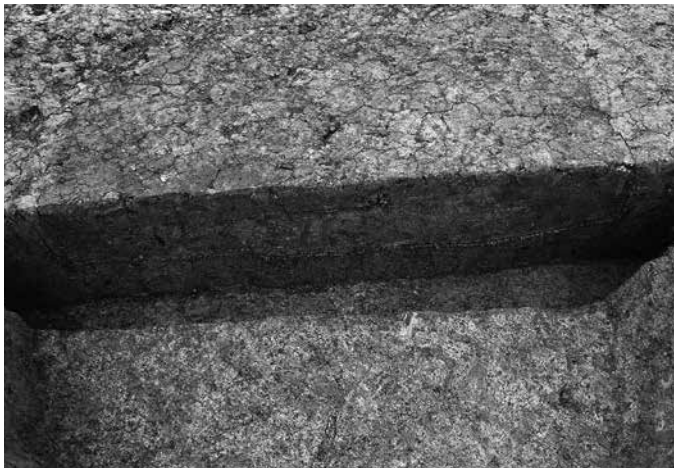
SK1264　土層断面（南東から）

SK1264　完掘（南東から）

SK1278　完掘（西から）

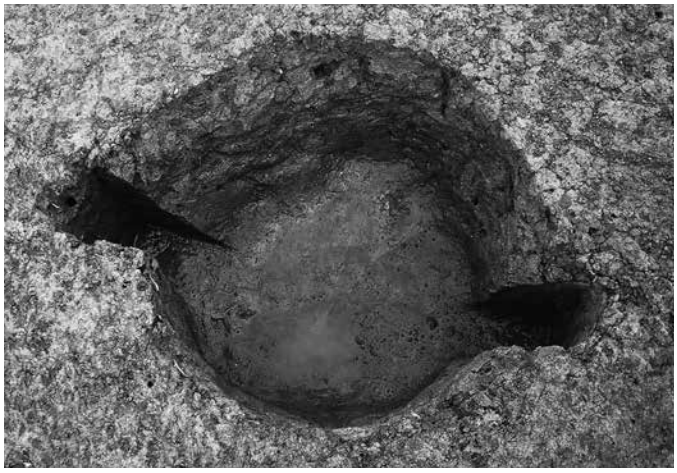


SK1171　完掘（東から）

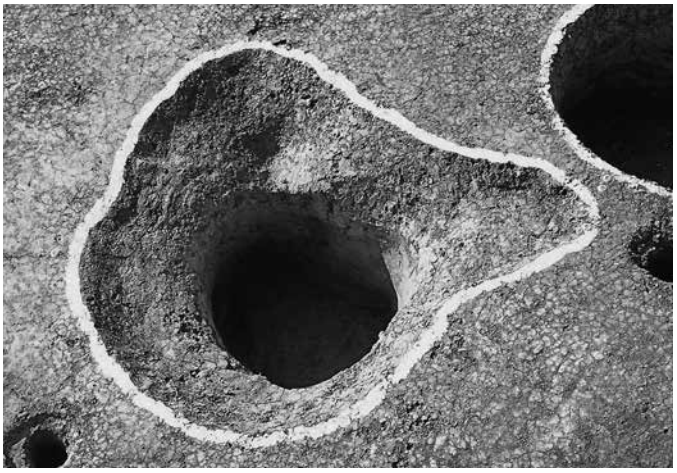


SK1170　土層断面（北から）

SK1170　完掘（北から）



SK1242　完掘（南から）



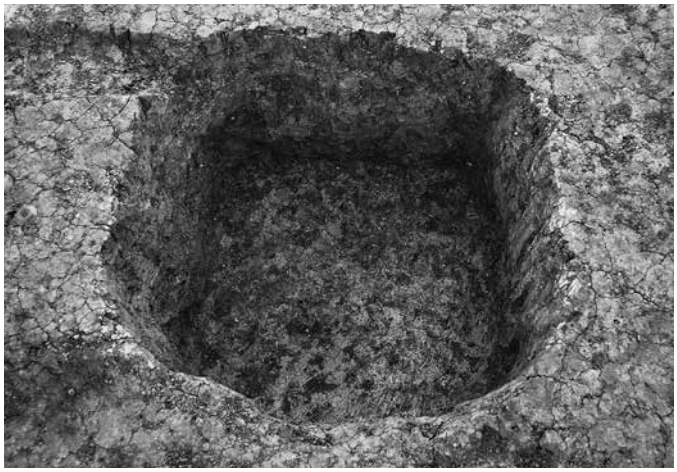
SK122　完掘（南東から）

SK105　土層断面（東から）

SK147　土層断面（東から）

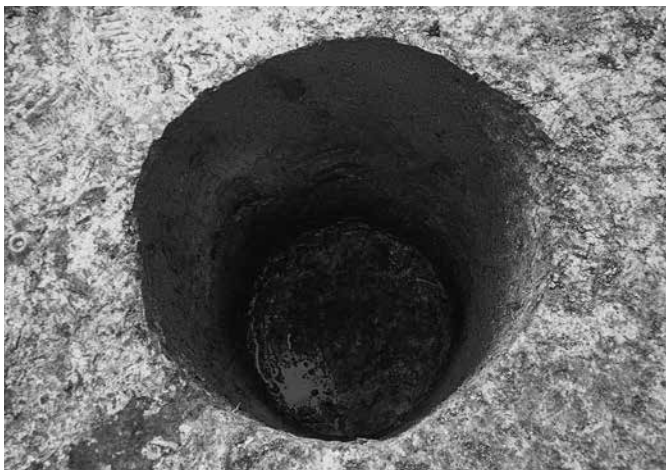
SE789　土層断面（南から）

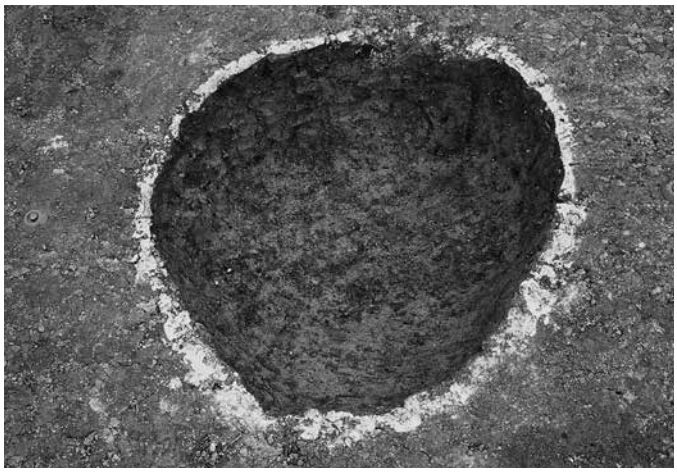
SE789　完掘（西から）

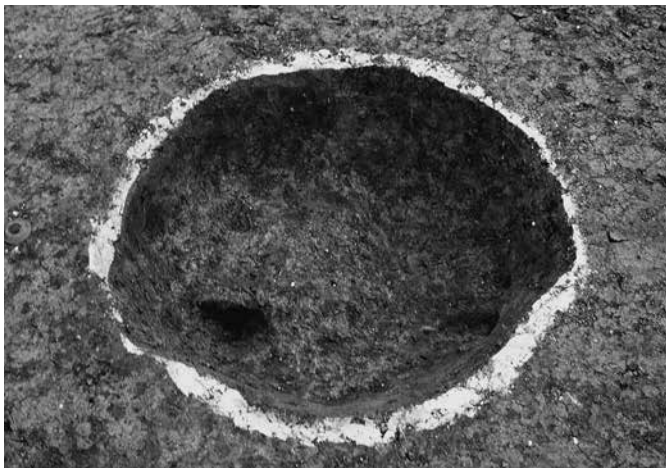

SK798　完掘（東から）

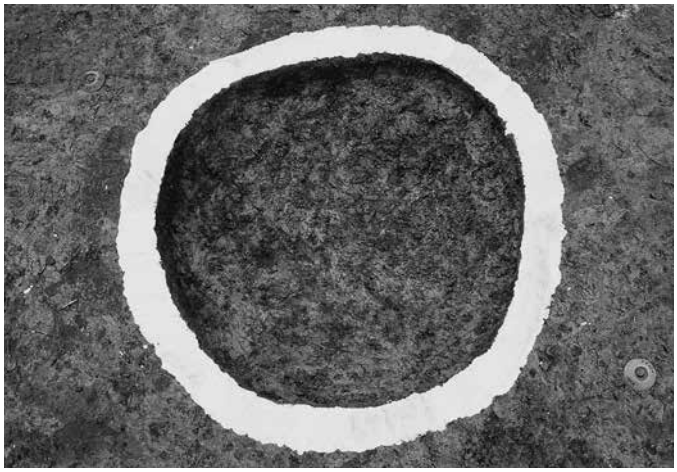
SK800　土層断面（北から）

SK800　完掘（東から）

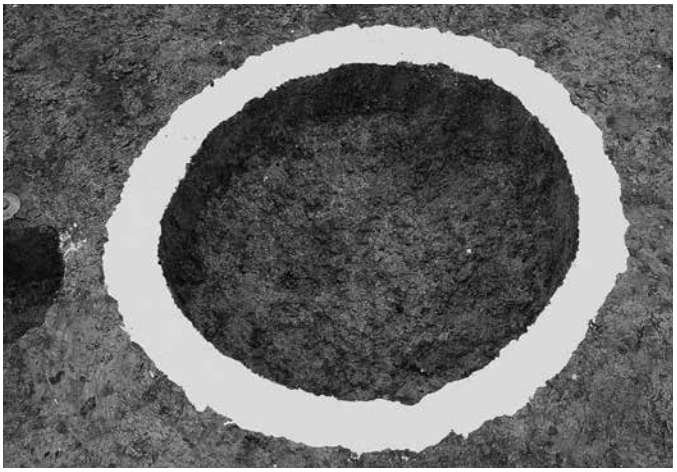

SE913　完掘（南から）


SK367　完掘（南から）

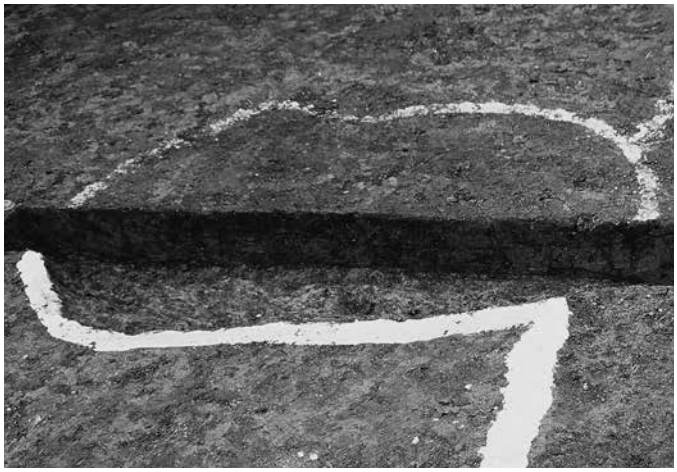

SK368　完掘（南から）



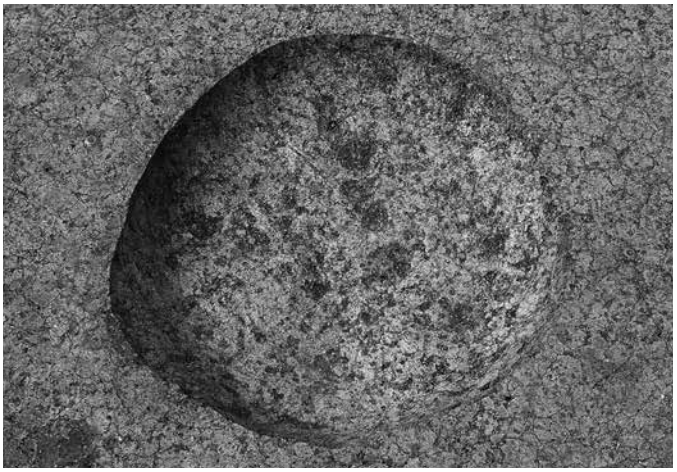
SK370　完掘（東から）



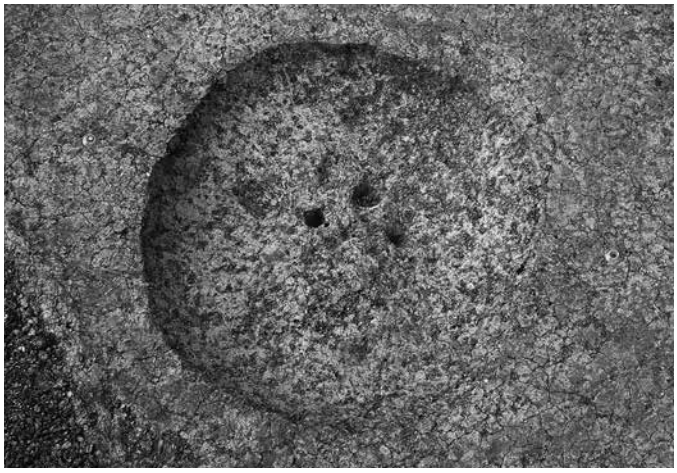
SK371　完掘（東から）



SK372　土層断面（南から）

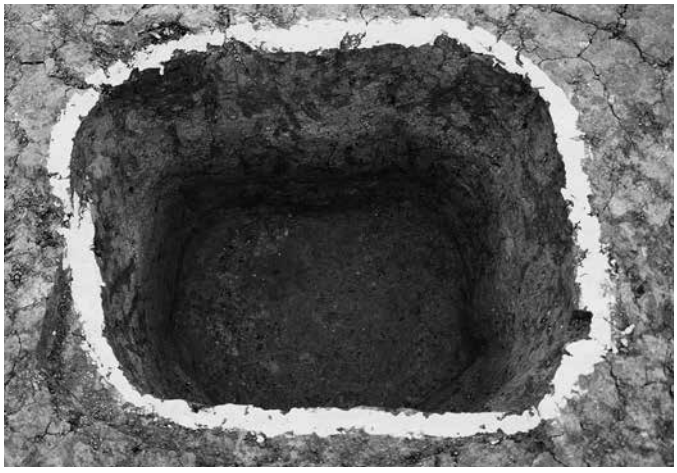


SK1184　完掘（南から）



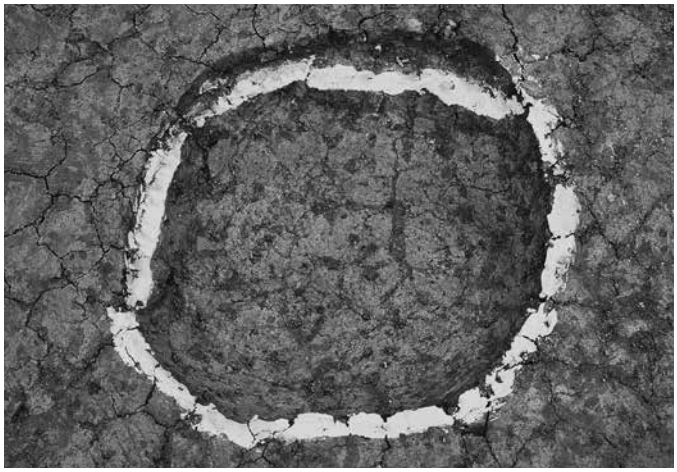
SK1185　完掘（南から）

SK94　土層断面（西から）

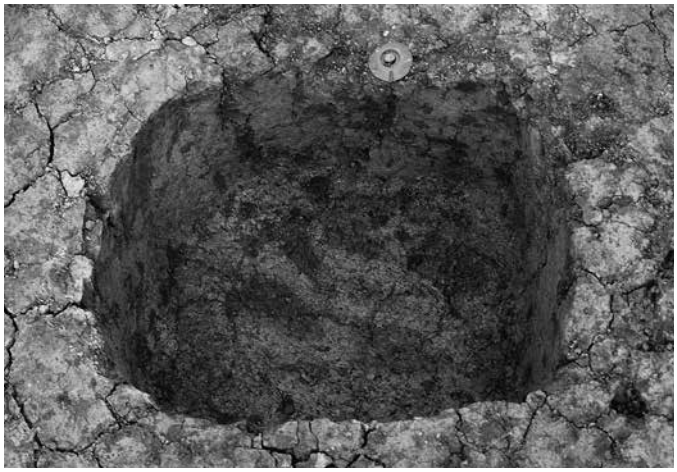


SK94　完掘（西から）

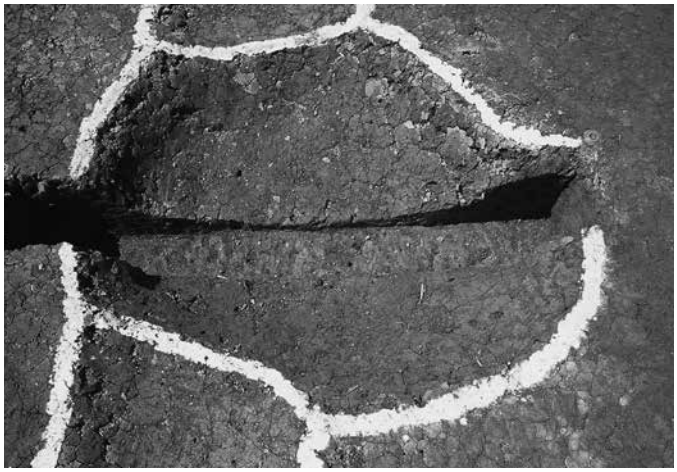
SK93　完掘（南から）



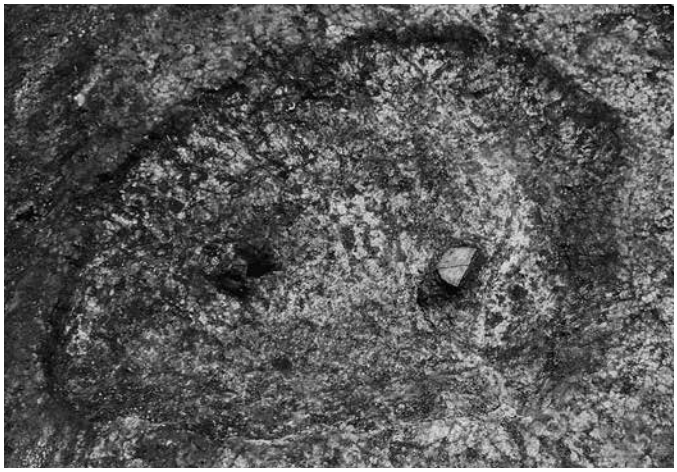
SK98　完掘（西から）



SK99　完掘（西から）



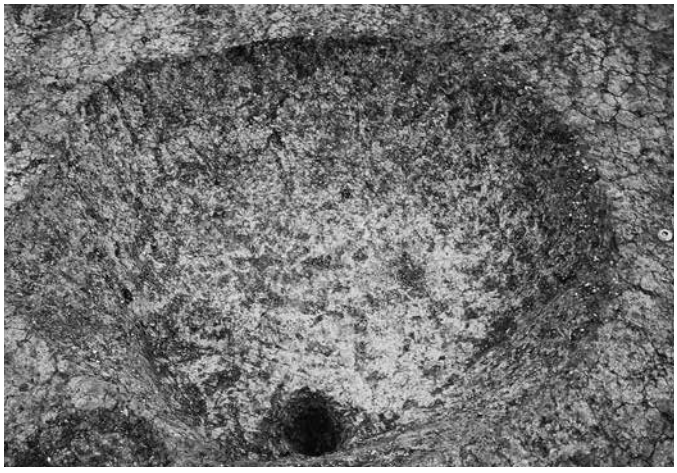
SK11　完掘（南から）



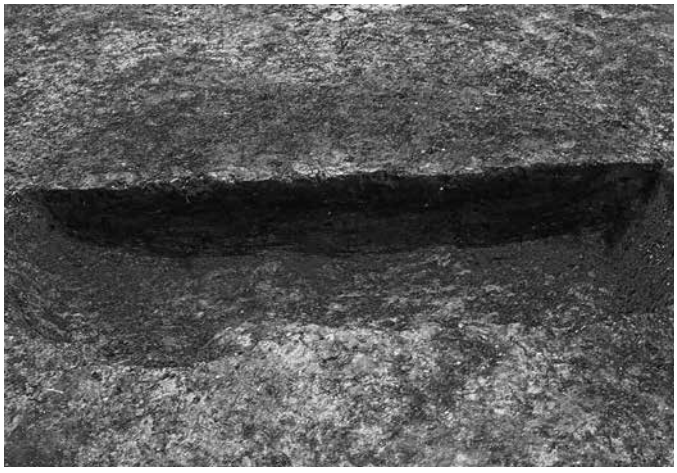
SK504　遺物出土状況（西から）

SK506　完掘（南から）

SK596　完掘（西から）



SK564　完掘（東から）



SK594　土層断面（東から）

SK598　遺物出土状況（北東から）

SK599・600　土層断面（北から）

SK599　遺物出土状況（北から）

SK698　完掘（西から）

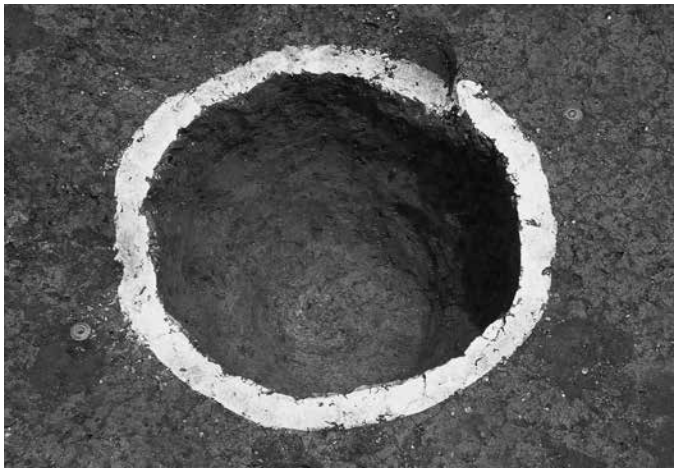
SK1054　遺物出土状況（東から）

SK1006　遺物出土状況（南西から）

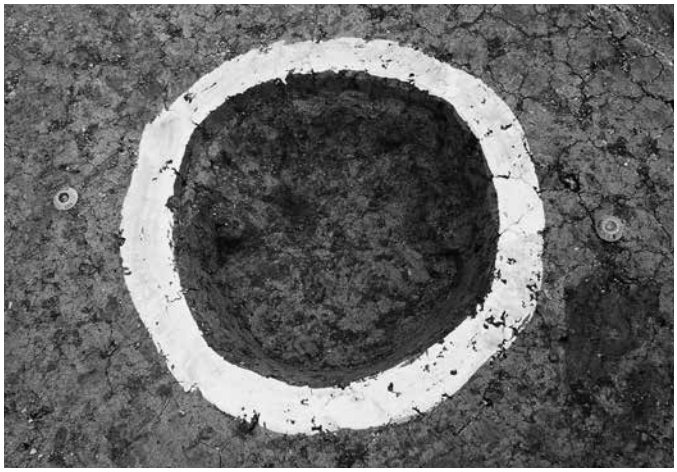
SK1393　完掘（南から）

SK603　遺物出土状況（北西から）

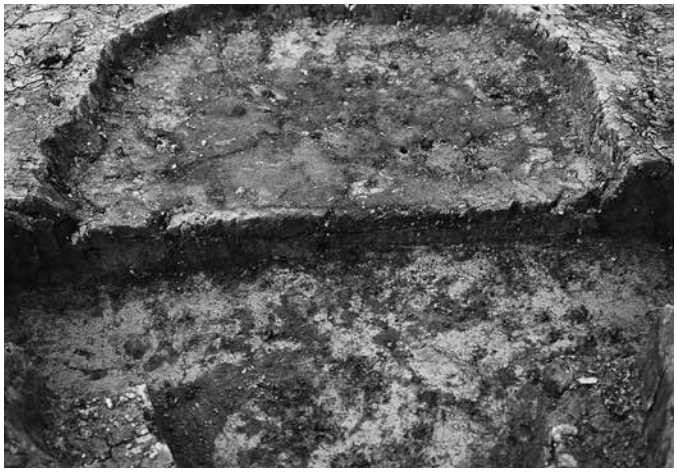
SK617　土層断面（南西から）



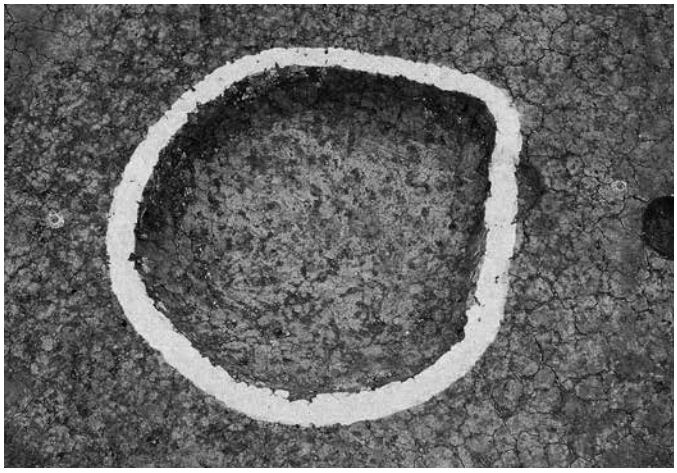
SK617　完掘（南西から）



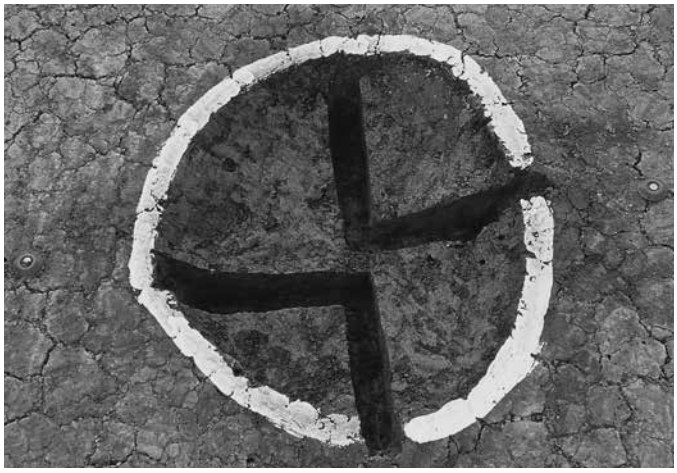
SK618　完掘（西から）



SK619　土層断面（南から）

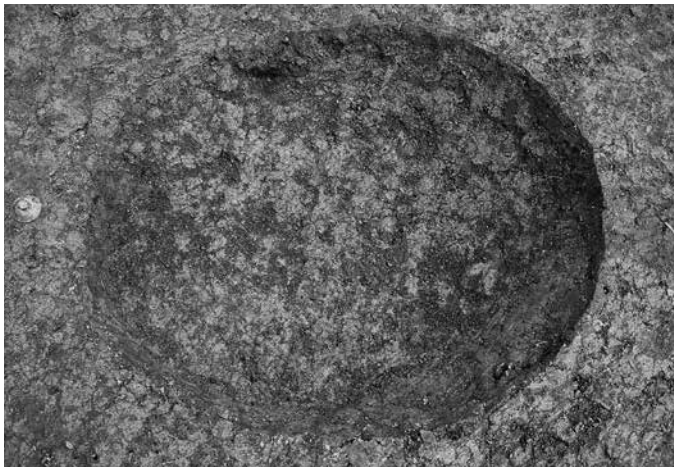


SK626　完掘（南西から）

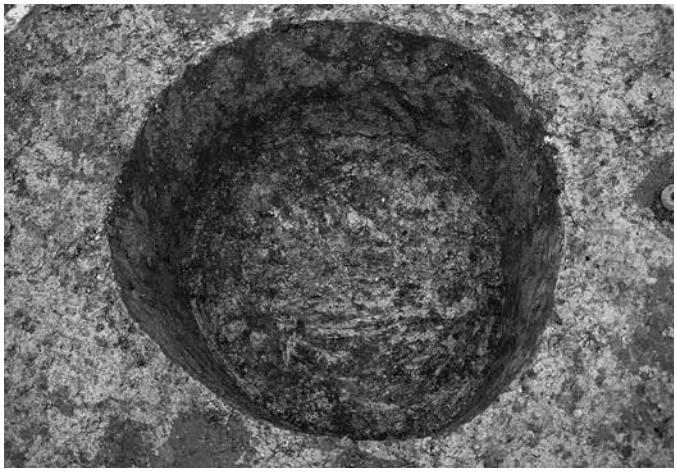


SK734　完掘（南から）

SK736　遺物出土状況（南から）



SK404　完掘（南から）

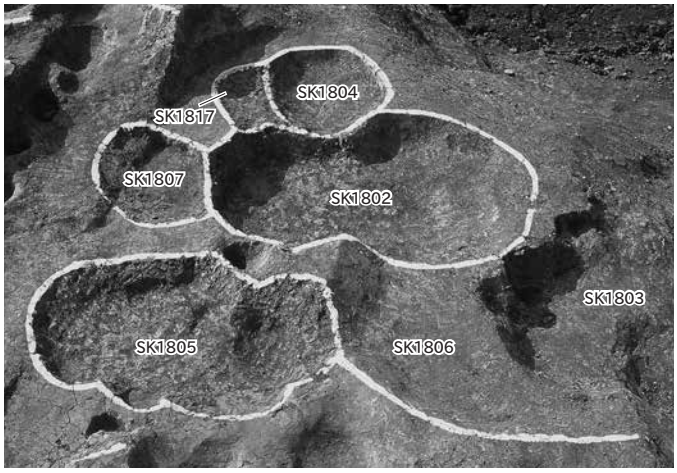


SK406　完掘（南から）

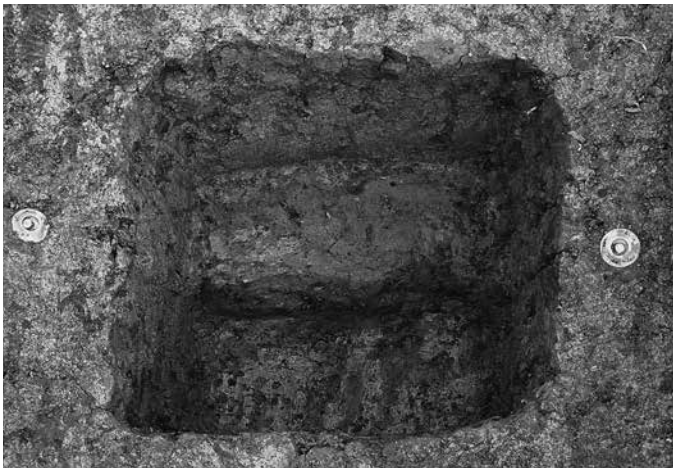
SK1401　土層断面（南から）

SK1401　完掘（南から）

SK1081　完掘（東から）

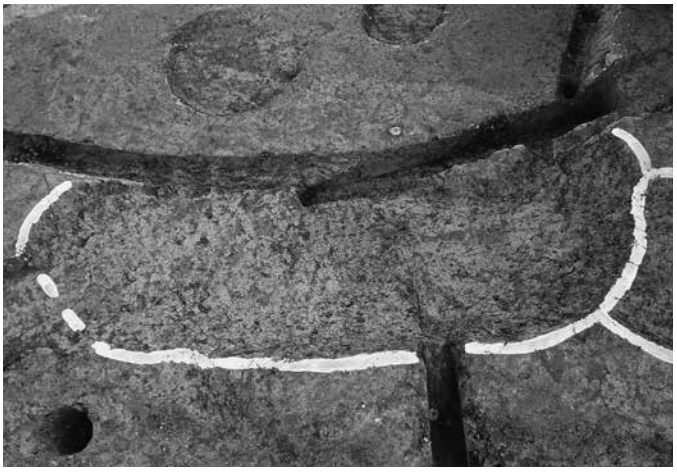


SK1802～1807・1817　完掘（北東から）



SK1084　完掘（南から）

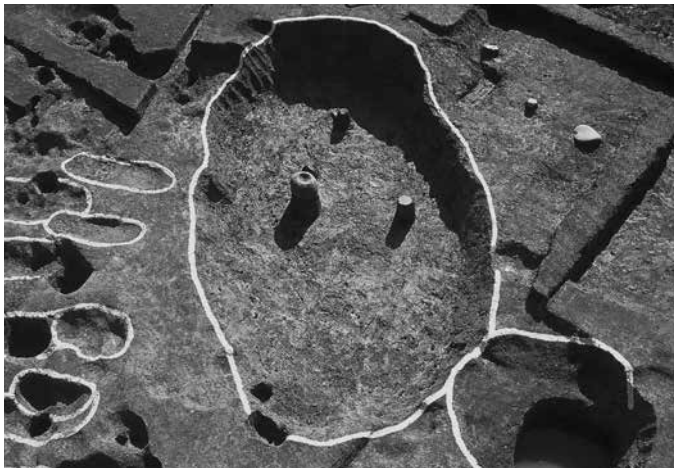
SK1839　土層断面（南から）



SK1886　完掘（北から）

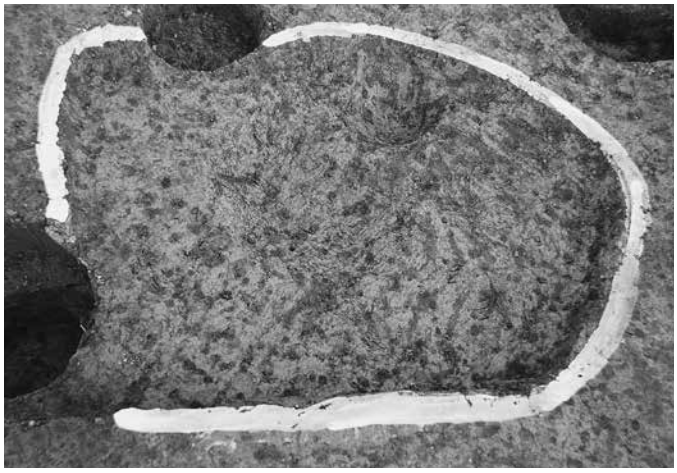
SK1824　完掘（南から）

SK1822　土層断面（東から）



SK1822　遺物出土状況（北西から）

SK1899　完掘（北東から）



SK1562　完掘（南から）

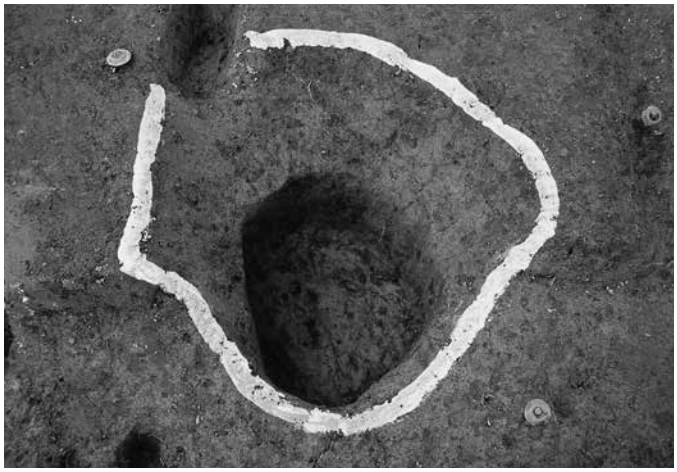
SK1620　土層断面（西から）

SK1285　土層断面（南から）

SK1285　完掘（南から）

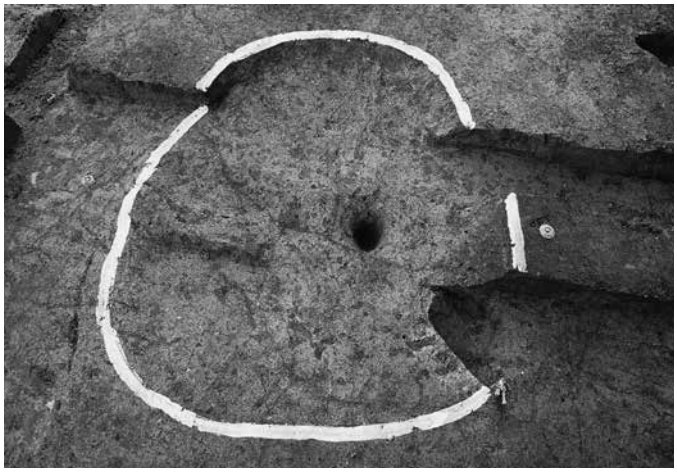
SK1293　土層断面（西から）

SK885　礫出土状況（西から）

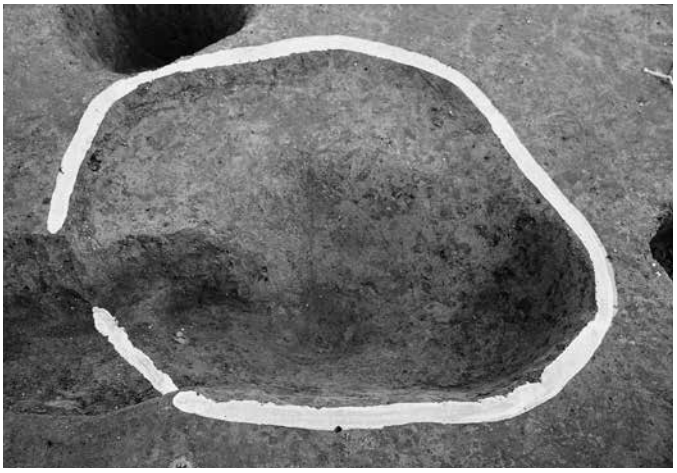


SK885　完掘（東から）

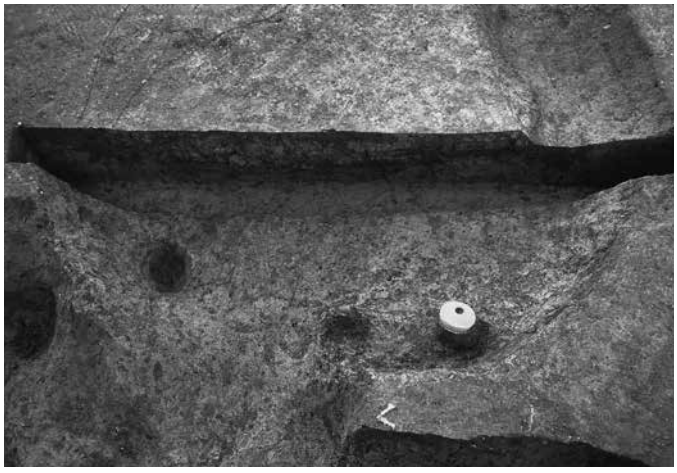
SK878　完掘（南から）



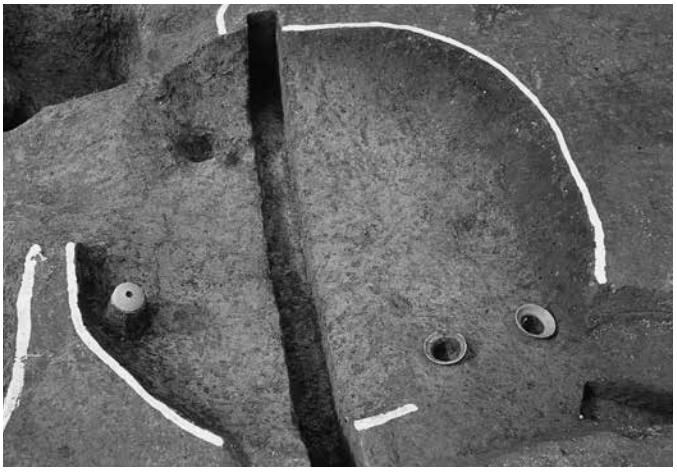
SK1559　完掘（西から）



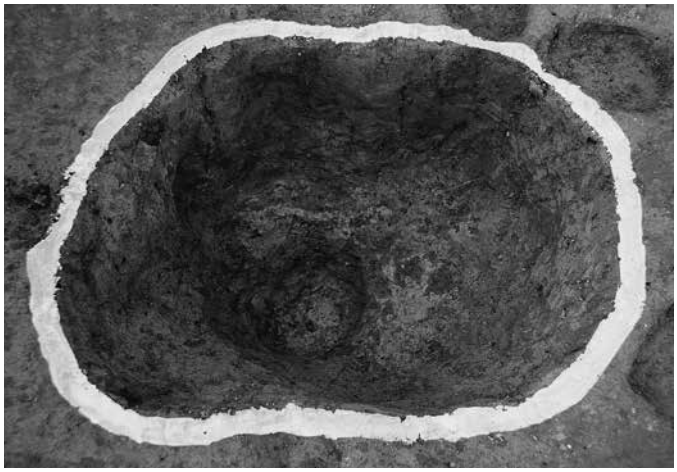
SK883　完掘（南から）

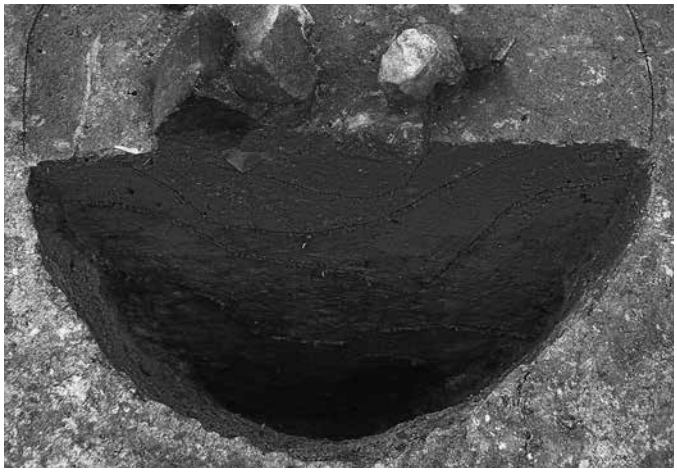


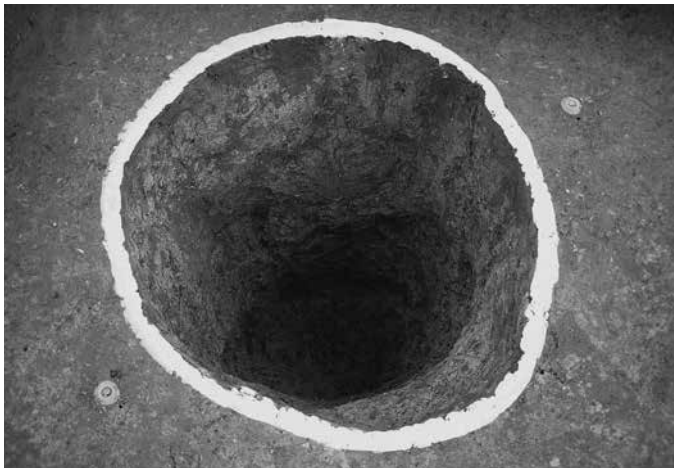
SK1505　土層断面（南から）

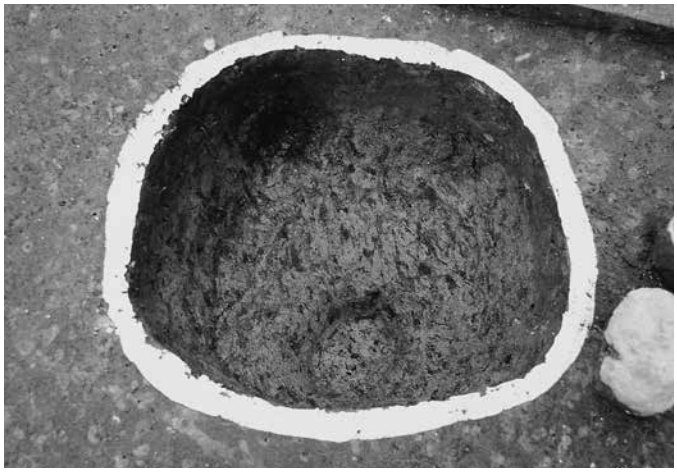


SK1505　遺物出土状況（東から）

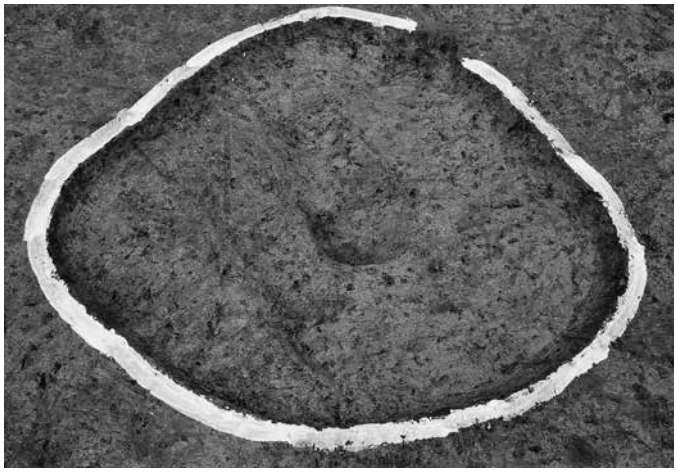

SK884　完掘（北から）


SK1508　土層断面（北から）

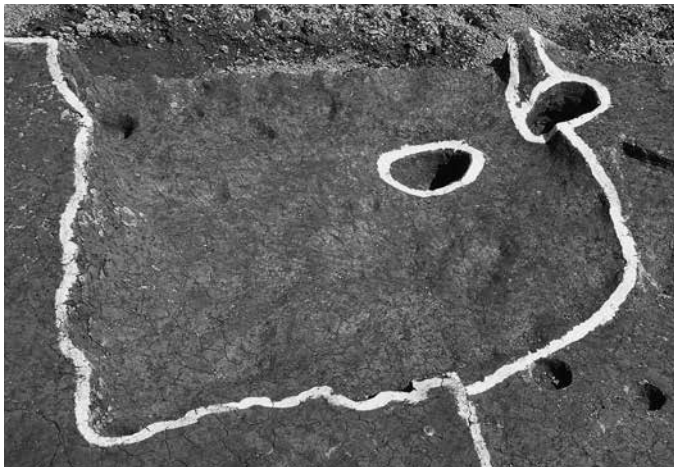

SK1508　完掘（北から）


SK1524　完掘（西から）

SK1541　遺物出土状況（東から）


SK1551　完掘（北から）

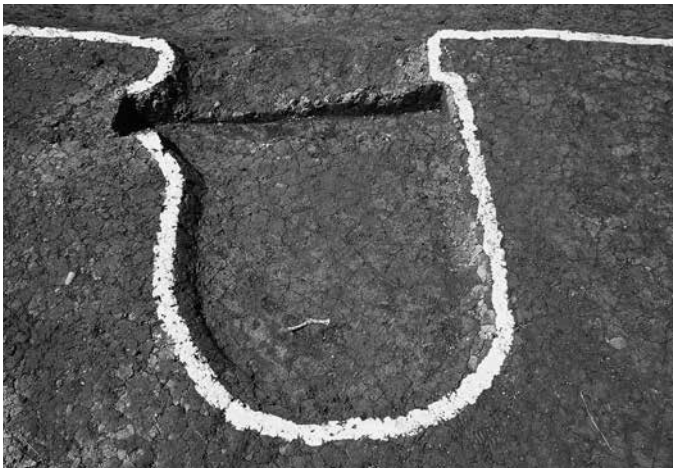
SK1614　遺物出土状況（南から）


SX1263　完掘（西から）

SX199　土層断面（西から）

SX199　完掘（西から）

SX951　完掘（北から）

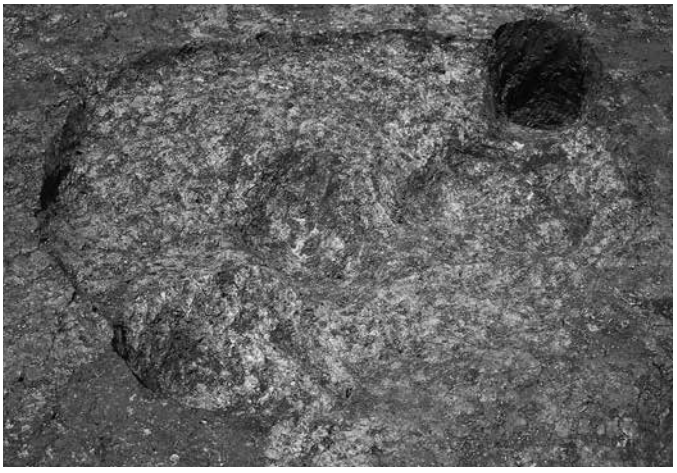


SX1　完掘（南から）

SX7　完掘（西から）

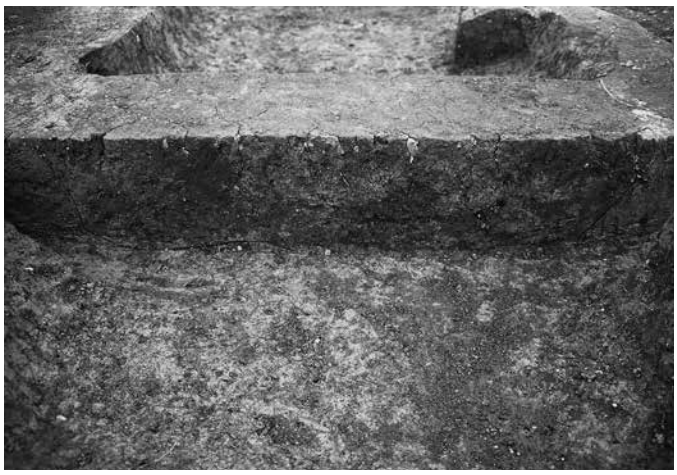
SX8　完掘（南から）

SX662　土層断面（南から）



SX407　完掘（南から）

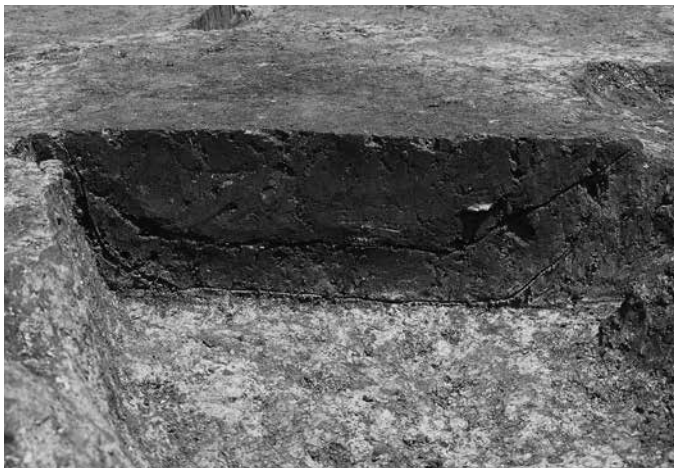
SX430（外）・431（内）　完掘（西から）



SX430　土層断面（西から）

SX430　土層断面（南から）

SX430-P434　土層断面（西から）



SX431　土層断面（南から）

SX1080　土層断面（南東から）

SX1080　土層断面（東から）

SX1080　遺物出土状況（南から）

SX1080　遺物出土状況（西から）

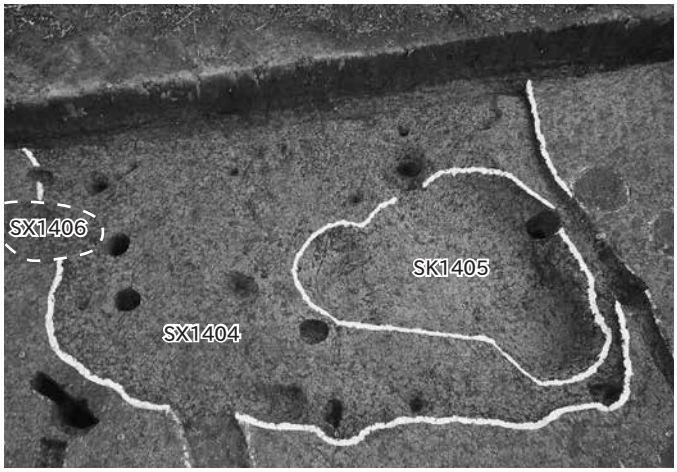
SX1339　土層断面（西から）

SX1339　完掘（南から）

SX1369　土層断面（西から）

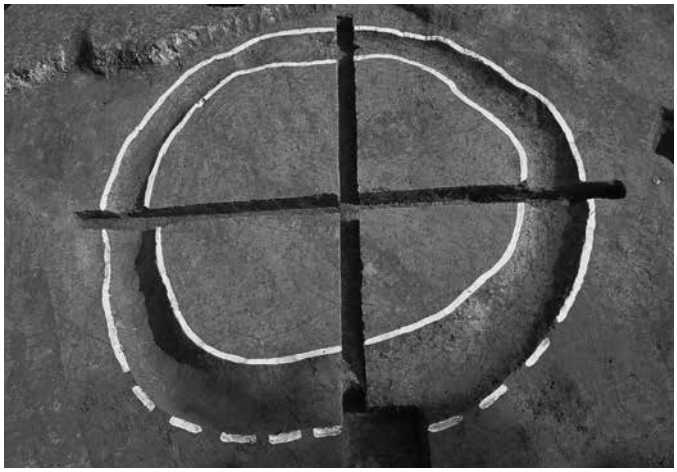
SX1336　土層断面（西から）

SX1823　完掘（南から）



SX1404・1406、SK1405　完掘（北から）

SX1801　土層断面（南西から）

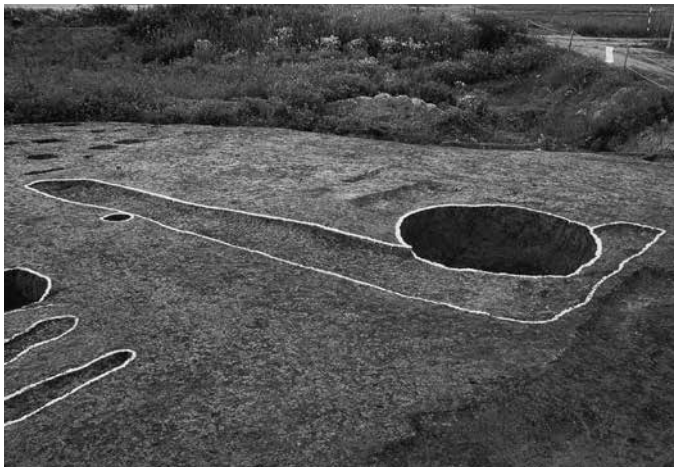


SX1801　完掘（南西から）

SD801　土層断面（西から）

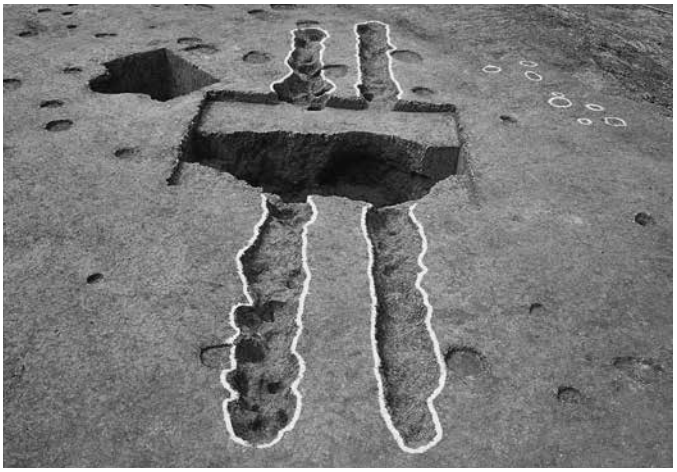
SD802（右）・814（左）　土層断面（東から）

SD801（左）・802（右）・814（中）　完掘（東から）



SD902　完掘（南から）

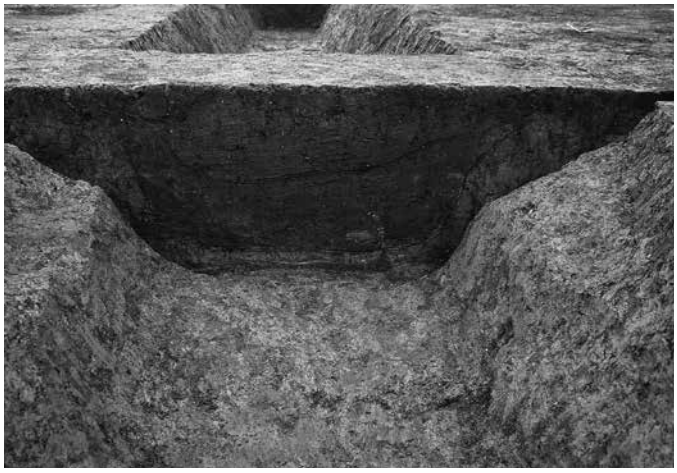
SD807（左）・808（右）　土層断面（北から）



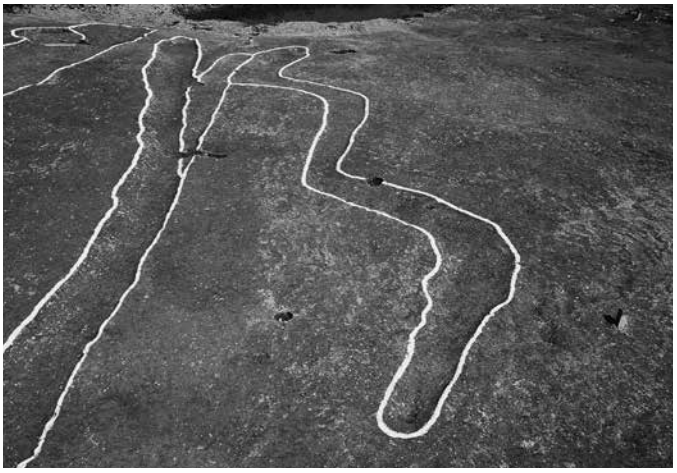
SD807・808　完掘（北から）

SD518　土層断面（西から）

SD518　土層断面（南から）

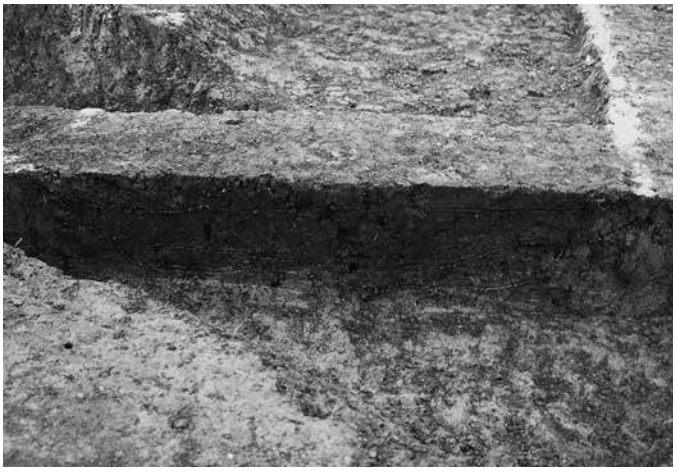


SD518　土層断面（東から）



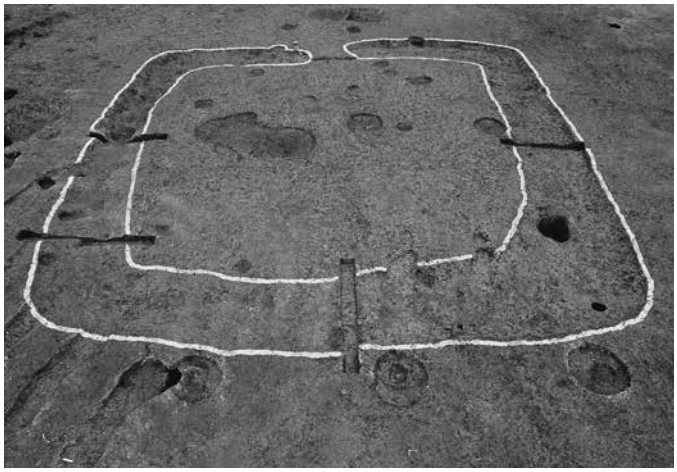
SD1192　完掘（西から）

SD1262　完掘（西から）



SD357（左）・369（右）　土層断面（南西から）

SD357　土層断面（東から）

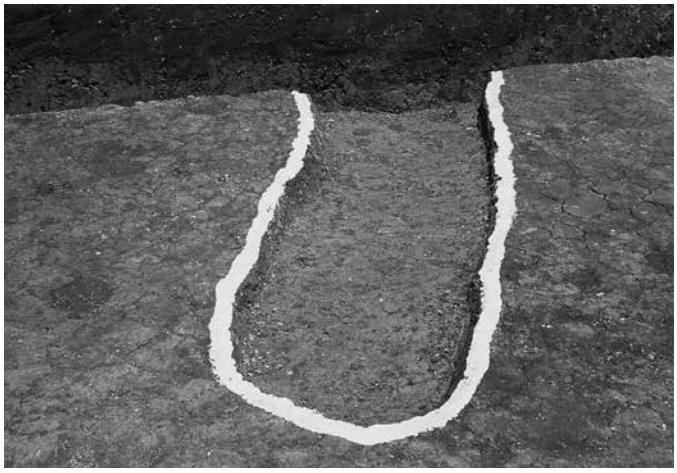


SD471　完掘（南から）

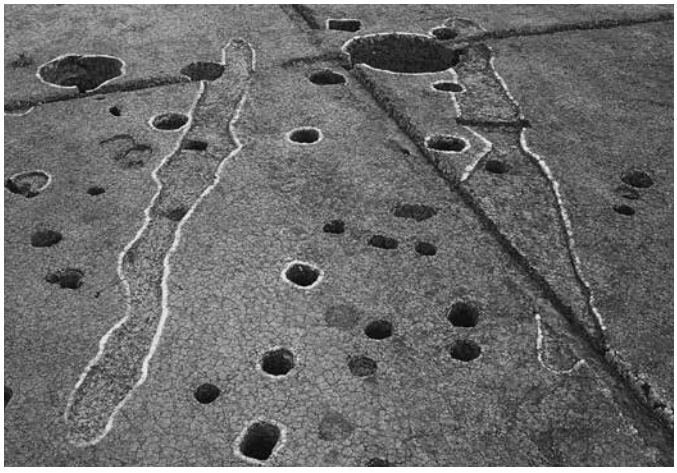
SD473　完掘（東から）

SD475（左）・478（右）　完掘（北から）

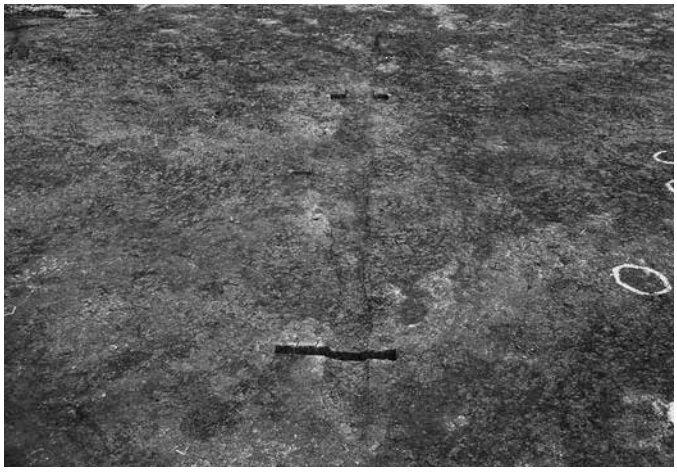
SD476（左）・477（右）　完掘（北から）



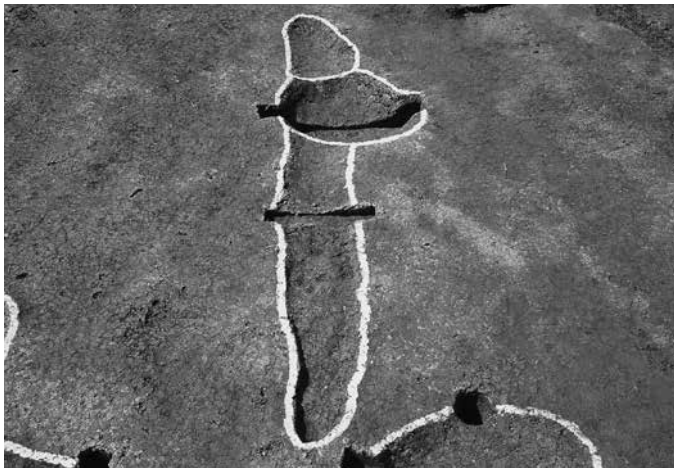
SD733　完掘（南から）



SD96（左）・97（右）　完掘（南から）

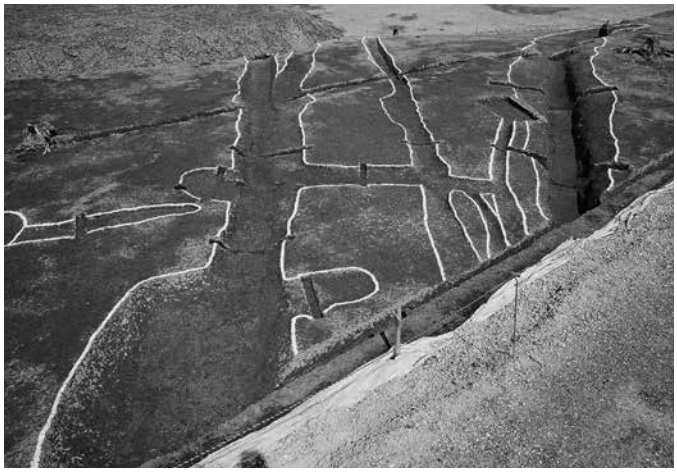


SD73　完掘（南から）



SD10、SK11　完掘（西から）

SD2　完掘（西から）



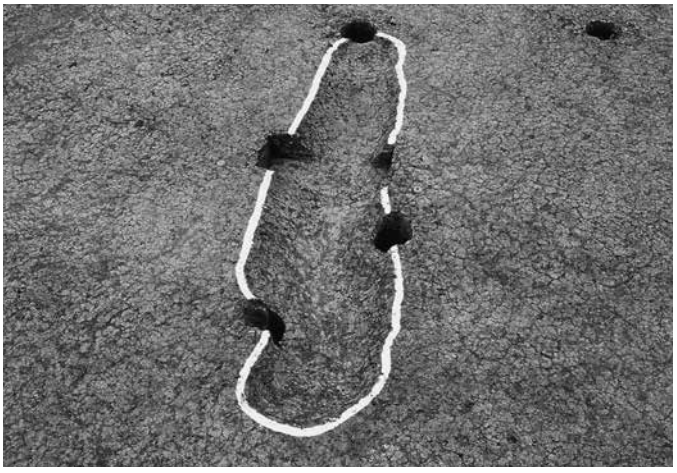
SD3～6・9・21　完掘（西から）

SD666　土層断面（南から）

SD1027　土層断面（北東から）

SD601　土層断面（南から）

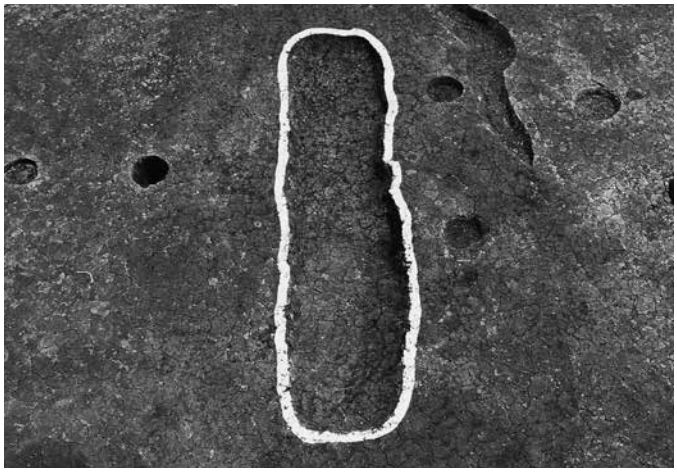
SD602　土層断面（南から）



SD665　完掘（西から）

SD607　土層断面（北から）

SD607　土層断面（北から）



SD606　完掘（北から）

SD437、P436　完掘（西から）

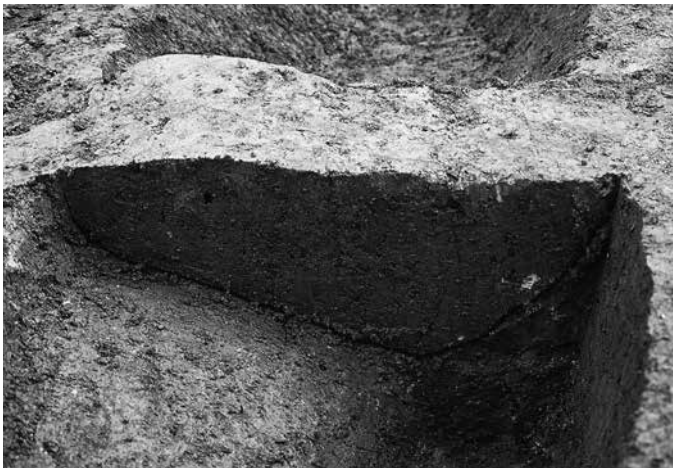
SD429　完掘（南東から）

SD403　完掘（東から）

SD1295　土層断面（東から）

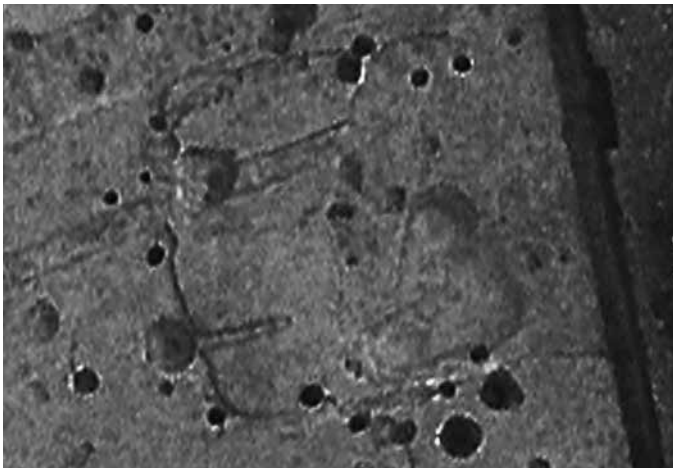
SD1370　遺物出土状況（北から）

SD1428　土層断面（西から）

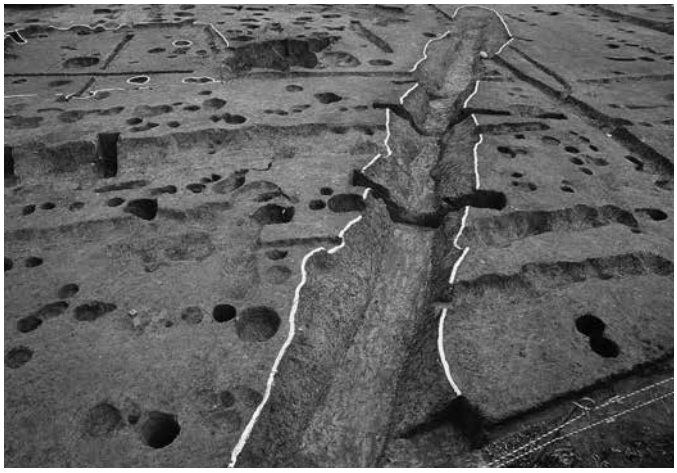


SD1601　土層断面（西から）

SD1602　土層断面（西から）

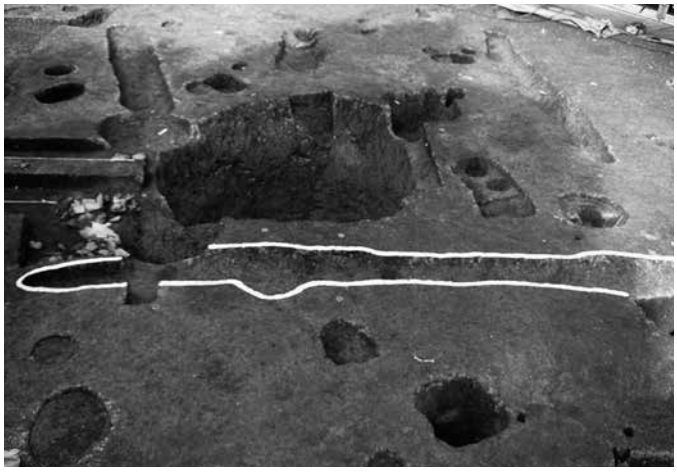


SD1409　完掘（西から）



SD879　完掘（南から）

SD893（左）、P894（右）　土層断面（北から）



SD1502　完掘（南から）

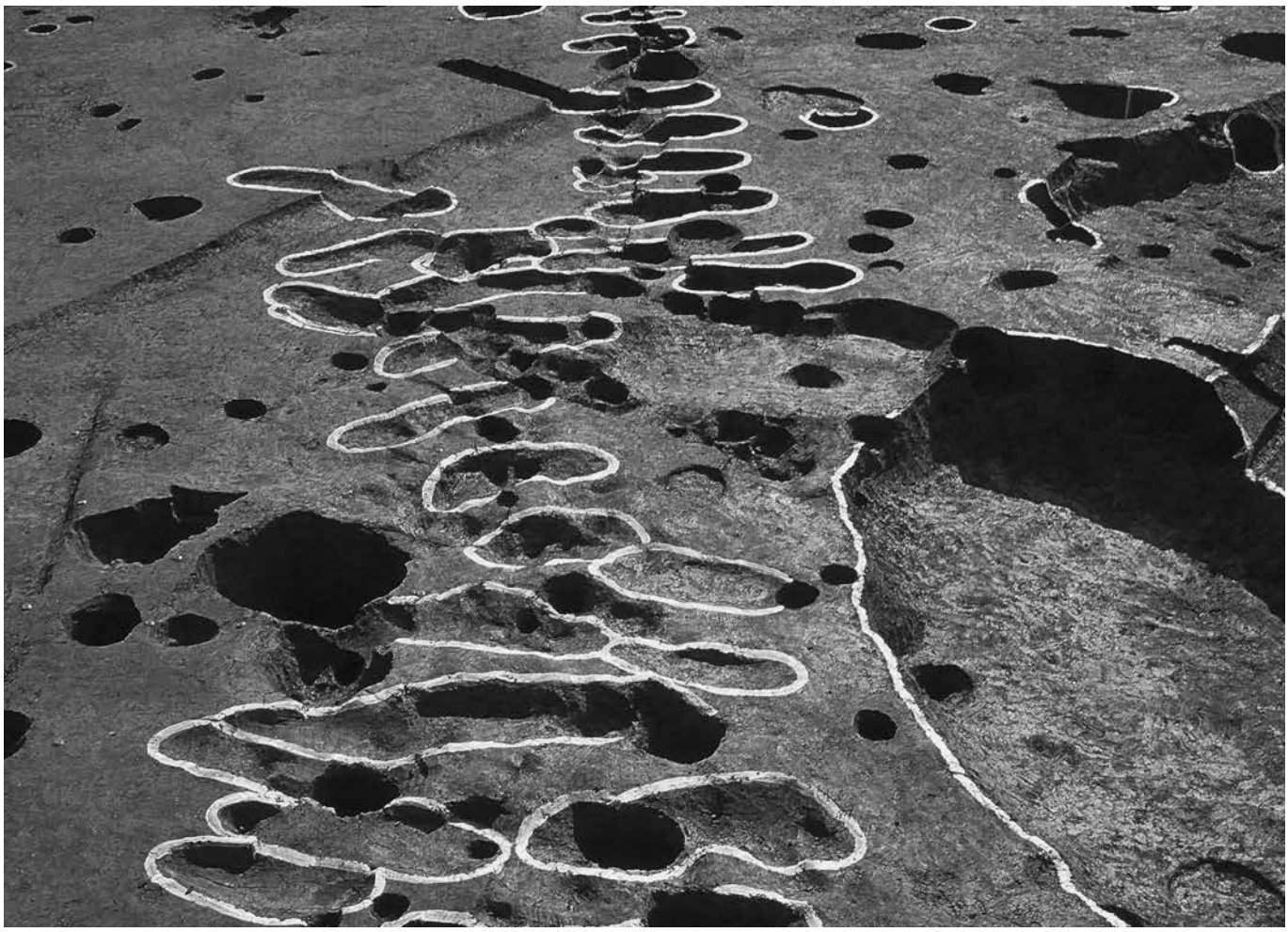
SD1503　土層断面（西から）

SD1613　土層断面（南から）

SD461～470　完掘（南から）

SD790～796・1724・1725　完掘（南から）

SD742～755　完掘（南から）



39・40Lグリッド付近道　完掘（北西から）

39Lグリッド付近道　土層断面（南西から）

39Lグリッド付近道　土層断面（西から）

37Kグリッド付近道　土層断面（南西から）

37Kグリッド付近道　完掘（南から）

SD1200　遺物出土状況（北から）

SD1200　遺物出土状況（南東から）

SD1200　墨書土器出土状況（南から）

SD1200　杭列検出状況（南から）

SD1200-杭961～964　断ち割り土層断面（北から）

SD1200-杭969　断ち割り土層断面（東から）

SD1200-杭971・972　断ち割り土層断面（南から）

SD1200-杭973　断ち割り土層断面（南から）

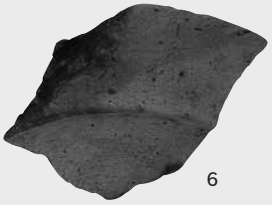
SD1200　作業風景（南西から）

1

2

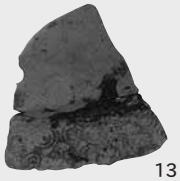
3

4

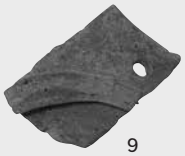

6

8

10


13

7


9

11

14

12

15

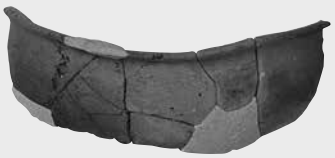
16

17

18

19

20

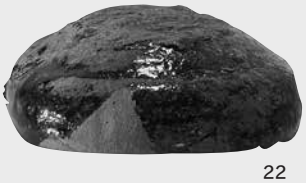


21

23

24

25


22

SI1356（1～5）・SI501（6～22）
SI1820（23～25）
S=1/3（1.2.5.6.8～13.15～22.24.25）
S=1/4（3.4.7.14.23）

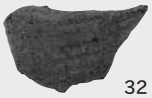
26

27

28

30

31


32

33

35

29

36

34

38

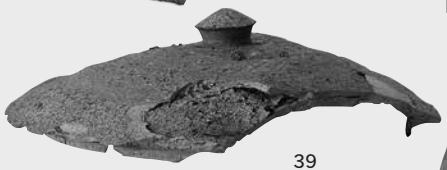
37

40

41

42

43


39

44

46

45

47

48

49

50

51

52

53

54

SI1820（26～33）・SI1395（34～35）
SI1821（36～42）・SI519（43～48）
SI521（49～54）
S=1/3（26～42・47～54）
S=1/4（43～46）

55

57

56

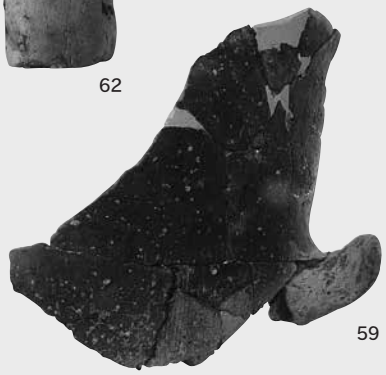
58

60

61

62

63


59

64

65

66

67

68

69

70

71

72

SI1305（55～62）・SI1615（63～69）・
SI900（70～72）
S=1/3（55.62.63.66～69）
S=1/4（56～61.64.65.70～72）

73

74

75

76

79

80

77

78

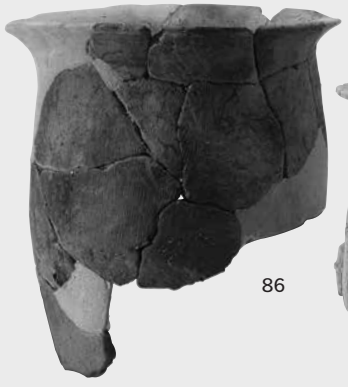
81

82

83

84

88


86

85

87

89

SI900（73～78）・SI1501（79～89）
S=1/3（78～80）　S=1/4（73～77.81～83.85～89）　S=1/5（84）

90

91

92

93

94

95

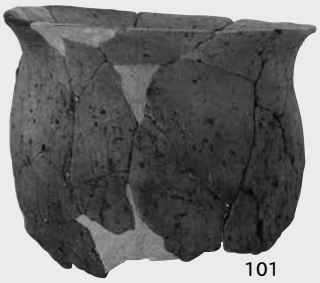
97

96

98

99

100


101

102

103

104

105

106

SI1510（90～93）・SI1604（94～106）・S=1/3（92～97）・S=1/4（90.91.98～106）

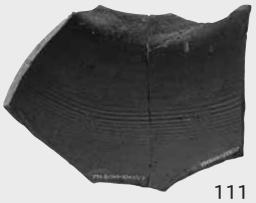
107

108

109

112

110


111

114

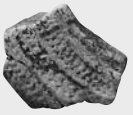
115

116

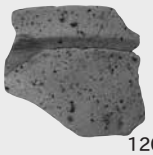
113

117

118


119

122


120

121

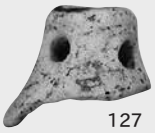
123

124

125

130

126


127

128

129

133

134

135

136

137

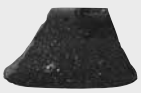
132

131

139

142

138


141

140

SI1604（107～116）・SX1080（117～133）
SB880（134.135）・SB1057（136.137）
SB408（138）・SB1840（139）
SB1452（140）・SB1460（141）
SB1760（142）
S=1/3（110.114～119.121～125.127～129.133～137.139～142）
S=1/4（107～109.111～113.120.126.130～132.138）

143

144

145

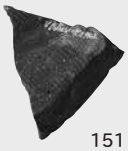
146

147

148

149

150


151

152

153

154

155

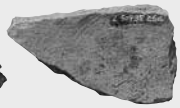
156

157

158

159

160



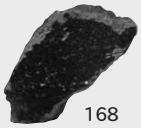
161

162

163

165

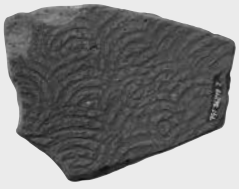
164

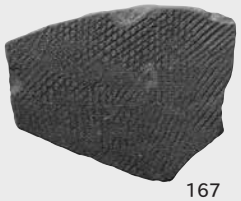

168

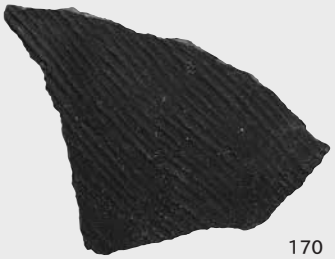
169

171

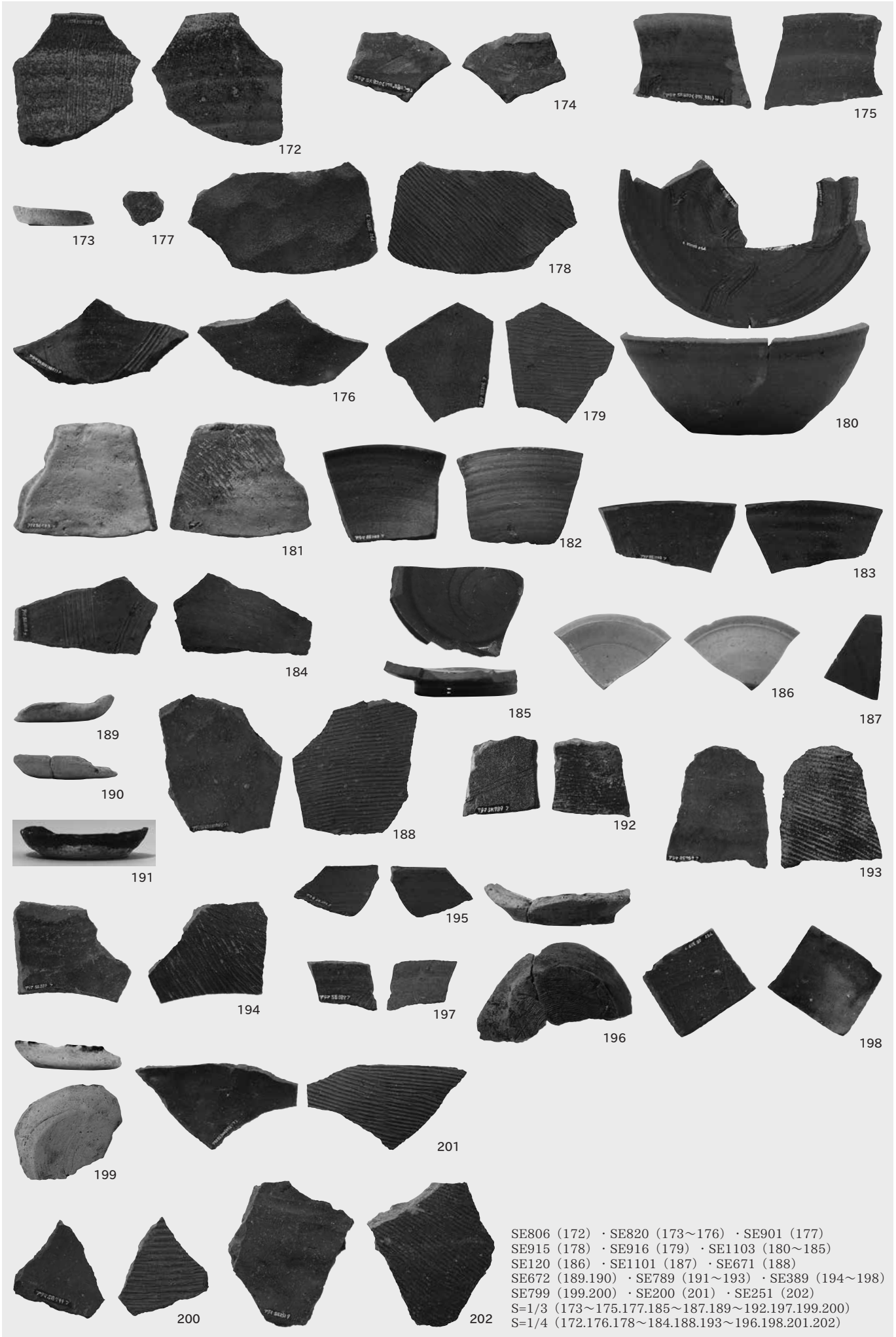
166




167


170

SB1750（143～145）・SB1782（146）・SB1626（147）・
SB1215（148）・SB110（149）・SB151（150）・SB174（151）・
SB201（152～154）・SB711（155）SB301（156）SB31（157）
SE605（158～161）・SE817（162.163）・SE451（164.165）・
SE1061（166）・SE1199（167.168）・SE809（169～171）
S=1/3（143～158.160.161.164～166.168.170.171）　S=1/4（159.162.163.167.169）



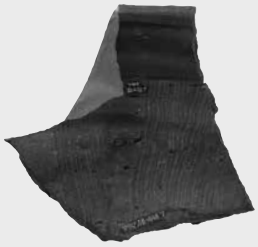
SE806（172）・SE820（173～176）・SE901（177）
SE915（178）・SE916（179）・SE1103（180～185）
SE120（186）・SE1101（187）・SE671（188）
SE672（189.190）・SE789（191～193）・SE389（194～198）
SE799（199.200）・SE200（201）・SE251（202）
S=1/3（173～175.177.185～187.189～192.197.199.200）
S=1/4（172.176.178～184.188.193～196.198.201.202）

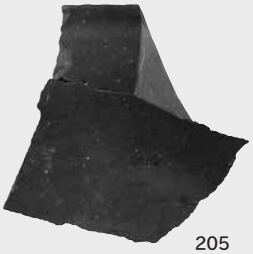
203

204

206

207




205

208

211

209

210

212

213

214

216

217

218

219

215

223

220

221

224

225

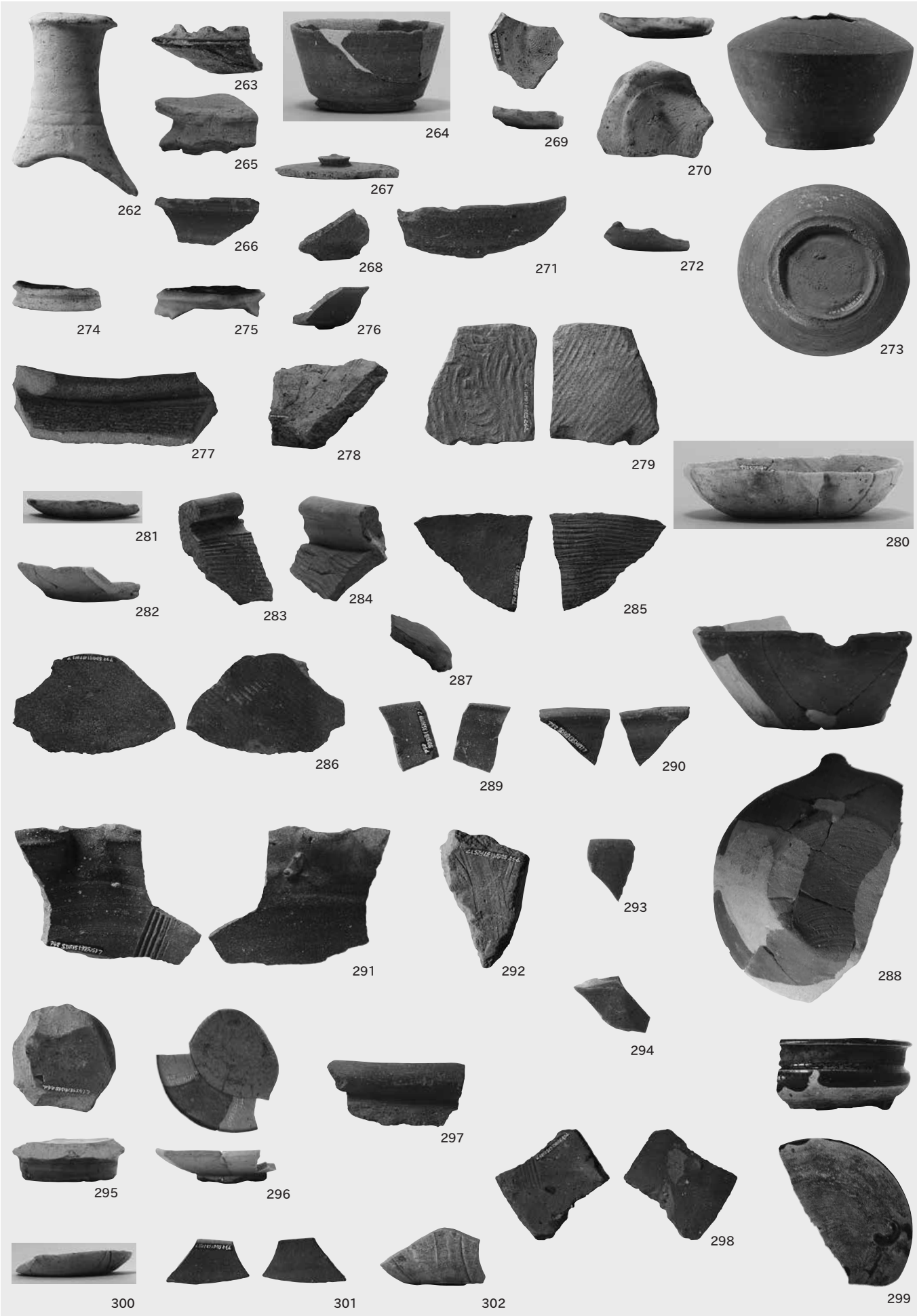
222

226

SE91（203.204）・SE448（205.206）・SE1086（207）・SE1399（208～210）・SE882（211.212）・SE1060（213）
SK603（214.215）・SK736（216）・SK1541（217～219）・SK1614（220）・SK1505（221～224）・SK504（225）・SK598（226）
S=1/3（204.207.209.211～215.218.219.221～226）
S=1/4（203.205.206.208.210.216.217.220）

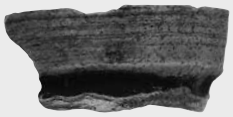
S=1/3（227.228.235～248.250.251.253.254.256.257.259～261）
S=1/4（229～234.249.252.255.258）

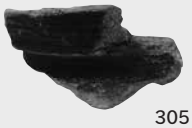
SK1006（227～231）・SK800（232～236）
SK617（237）・SK1822（238～241）
SK1839（242）
SK1559（243.244）・SK1508（245.246）
SK803（247）・SK904（248）・SK914（249）
SK904（250）
SK94（251）・SX1369（252.253）・SX7（254.255）
SX1404（256.257）・SD1370（258）
SD403（259～261）

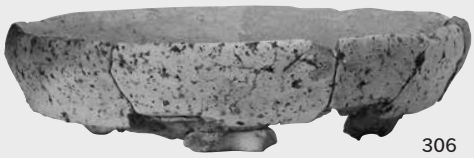


SD607（262）・SD357（263～266）・SD801（267.268）・SD512（269）・SD601（270）・SD1296（271）・SD893（272）・SD1502（273）・SD602（274～278）・SD518.815（279～296）・SD802（297～299）・SD6（300～302）
S=1/3（262～277.279～282.289～296.299～302）　S=1/4（278.283～288.297.298）

303


304


305


306

307

308

309

310

311

312

314

313

315

316

318

319

320

317

321

322

323

324

325

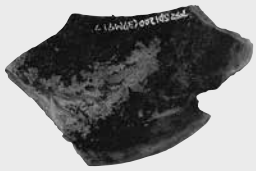
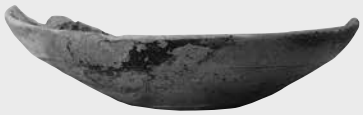
326

328

327

329

S=1/3（303～307.309～313.319～323）
S=1/4（308.314～318.324～329）

332

334

330

331

333

339

335

336

337

340

338

341

342

343

344

345

346

347

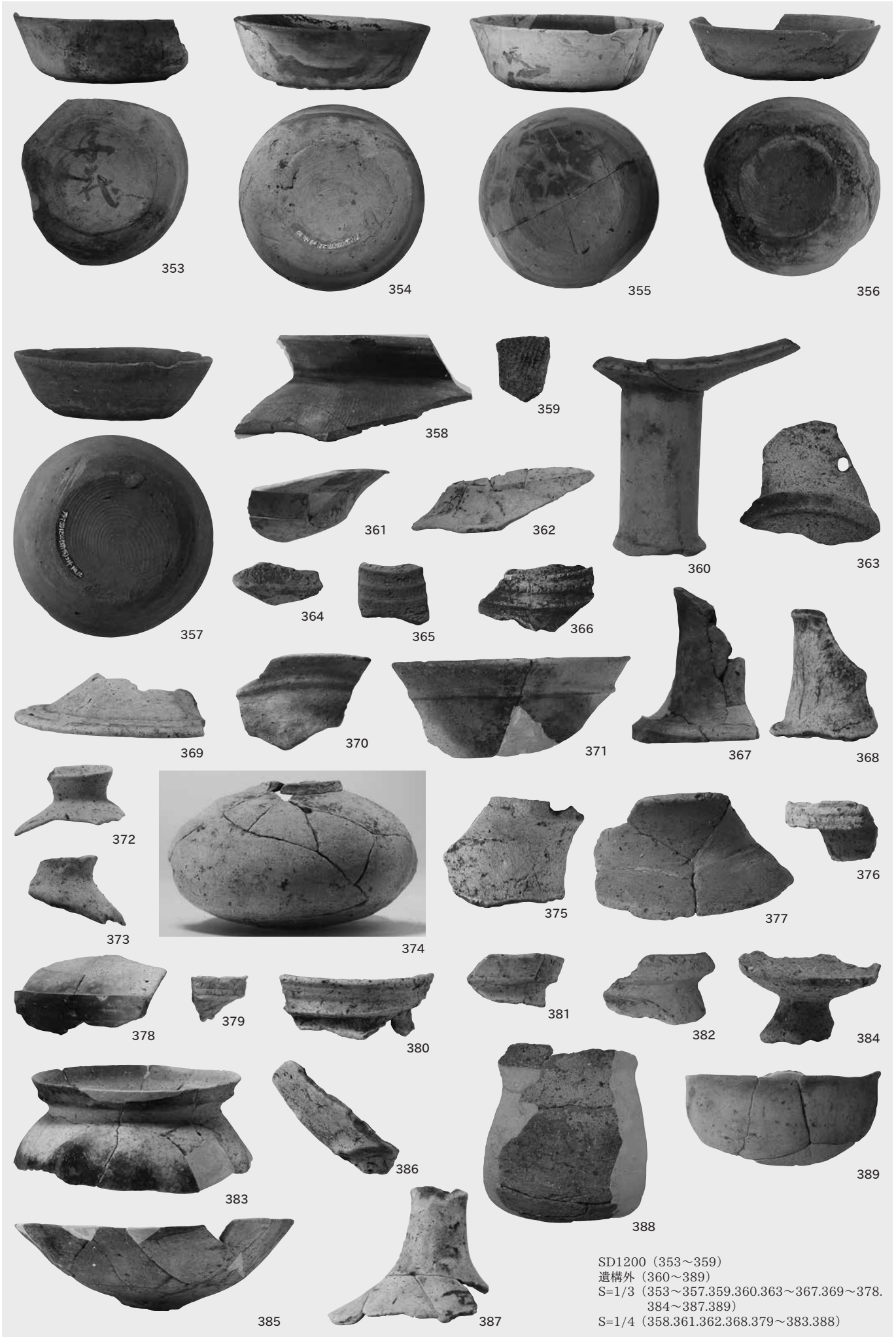
348

349

350
S=1/3（330～352）

351

352



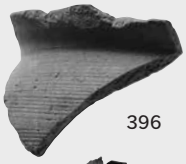
SD1200（353～359）
遺構外（360～389）
S=1/3（353～357.359.360.363～367.369～378.384～387.389）
S=1/4（358.361.362.368.379～383.388）

390

392

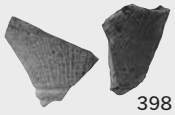
394

395


396

397

393


398

399

400

391

401

402

403

404

405

406

407

408

409

410

412

411

413

414

416

417

418

415

421

423

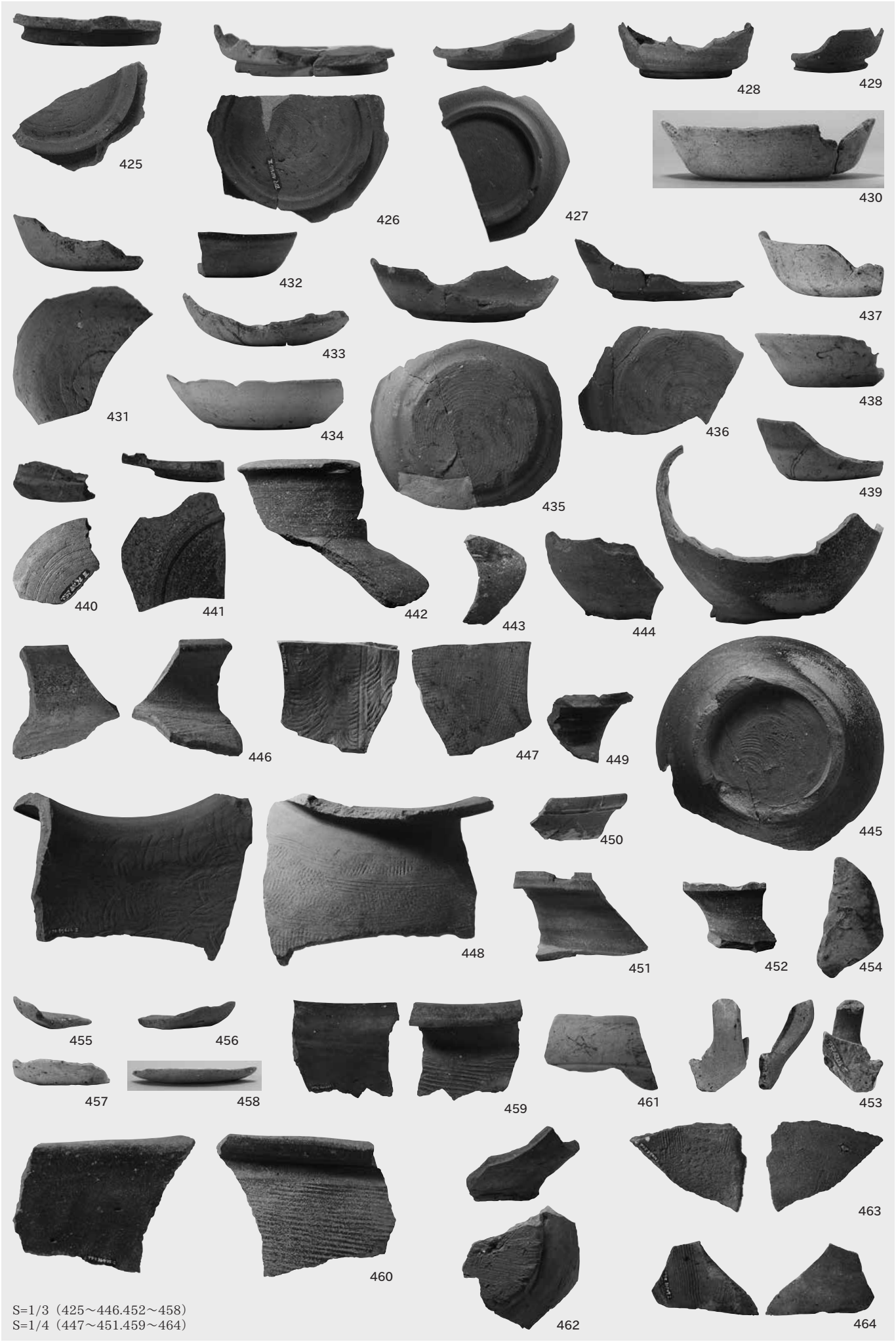
419

420

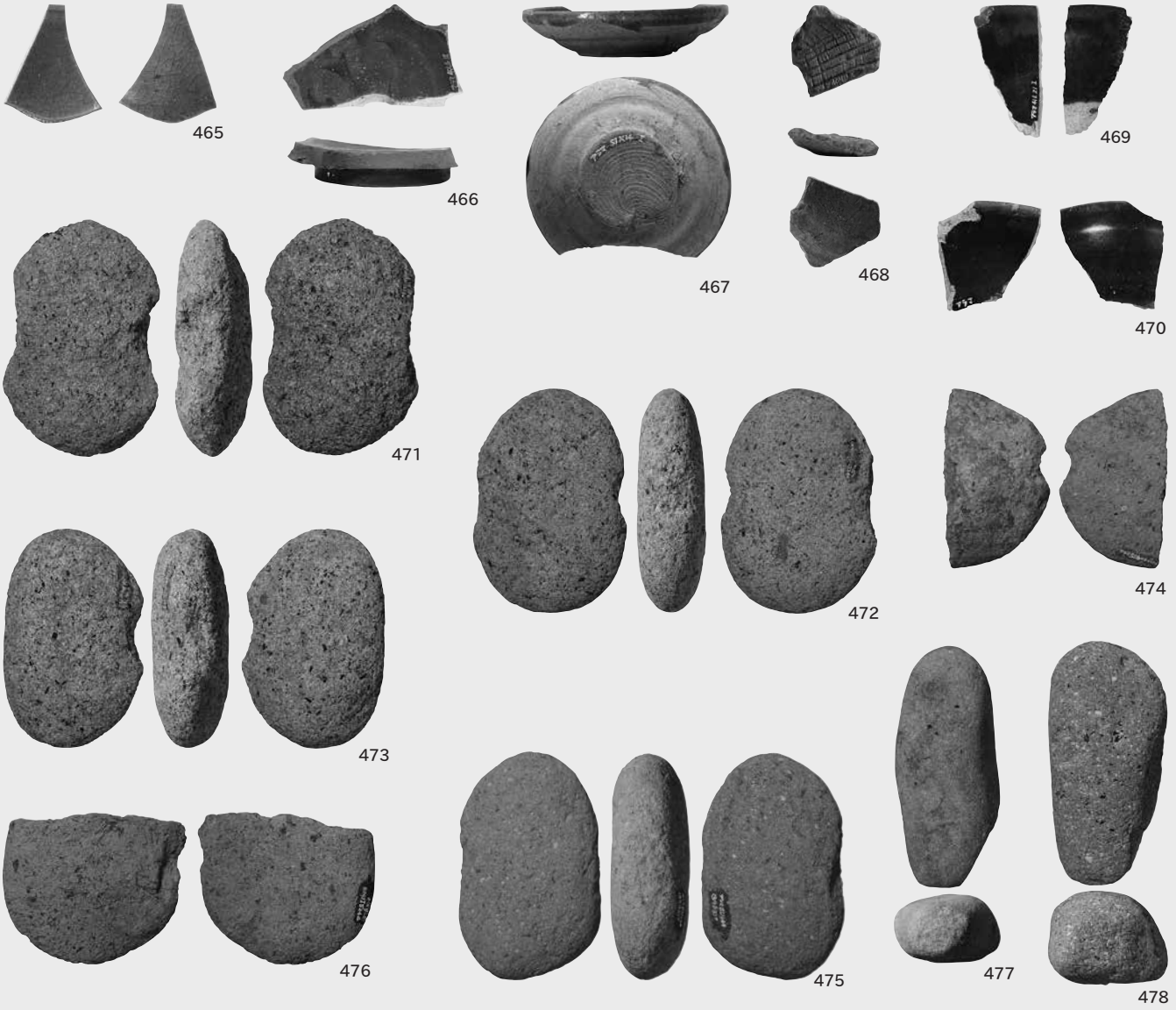
422

424

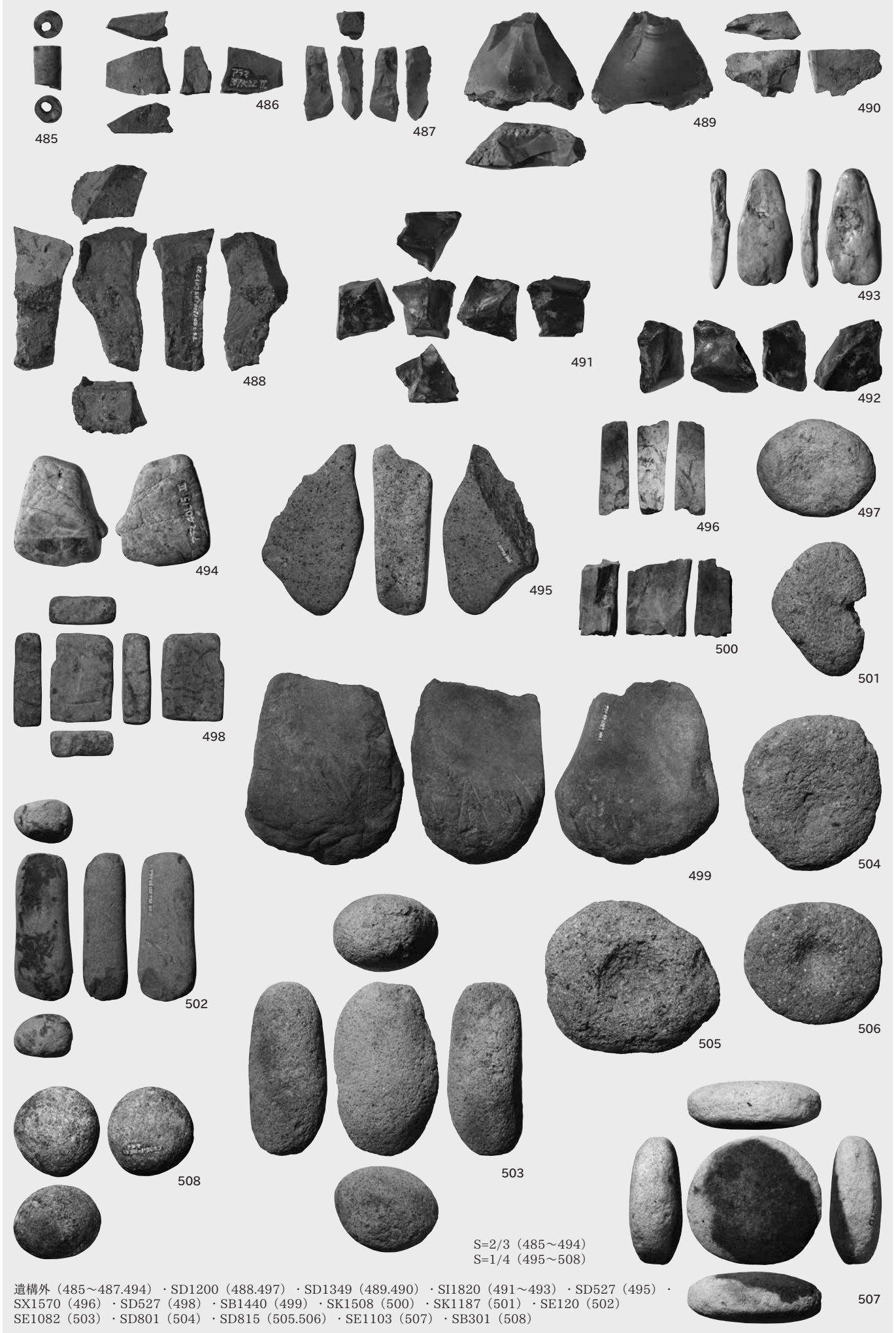
S=1/3（391～393.395.397～404.407～424）　S=1/4（390.394.396.405.406）



S=1/3（425～446.452～458）
S=1/4（447～451.459～464）



遺構外（465～470）・SI1510（471～473）・SI1604（474～480）・SI1821（481・484）・SI1305（482）・SI1510（483）
S=1/3（465～470）　S=1/4（471～484）



S=2/3（485～494）
S=1/4（495～508）

遺構外（485～487.494）・SD1200（488.497）・SD1349（489.490）・SI1820（491～493）・SD527（495）・SX1570（496）・SD527（498）・SB1440（499）・SK1508（500）・SK1187（501）・SE120（502）SE1082（503）・SD801（504）・SD815（505.506）・SE1103（507）・SB301（508）

509

510

511

512

513

514

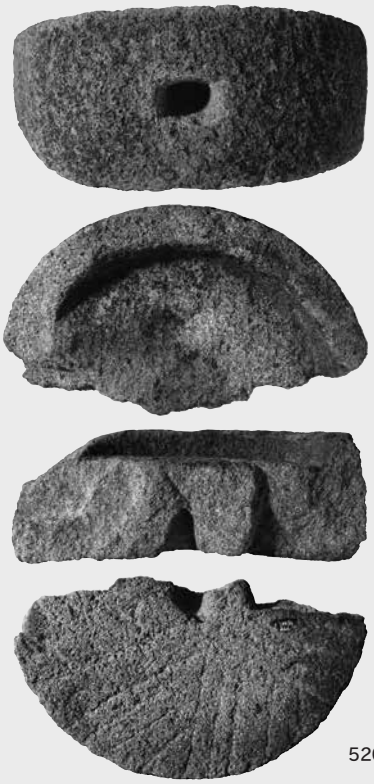
515

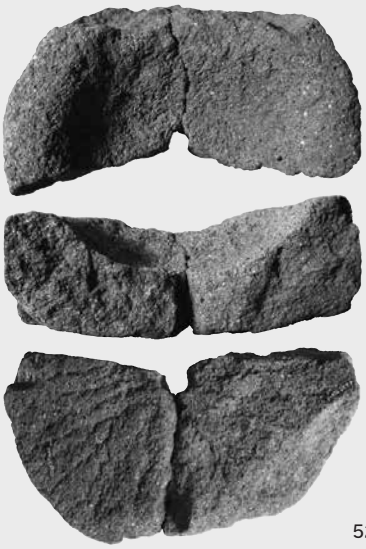
516

517

518

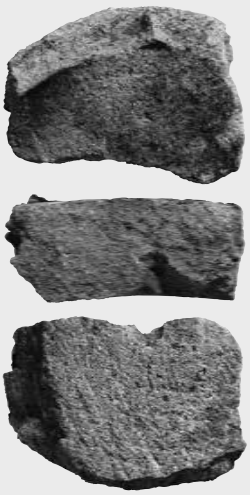
519


520


521

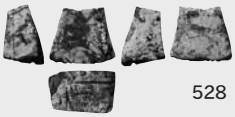
522

524

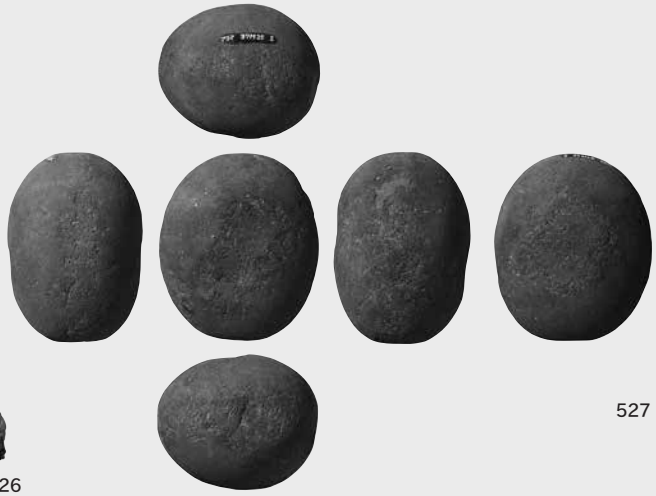

523

遺構外（509）・SD815（510～512）・SE251（513）・SE1085（514）・SE1102（515）・SE448（516）・SE604（517）・SE903（518）・SK617（519）・SE882（520～522）・SE1853（523）・SK1822（524）
S=1/4（509～519）・S=1/6（522）・S=1/7（520.523）・S=1/8（521.524）

525


528

526


527

529

530

531

532

533

534

535

536

537

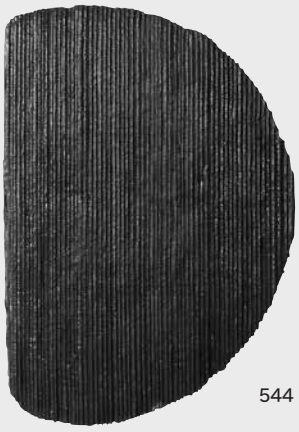
538

539

540

542

543

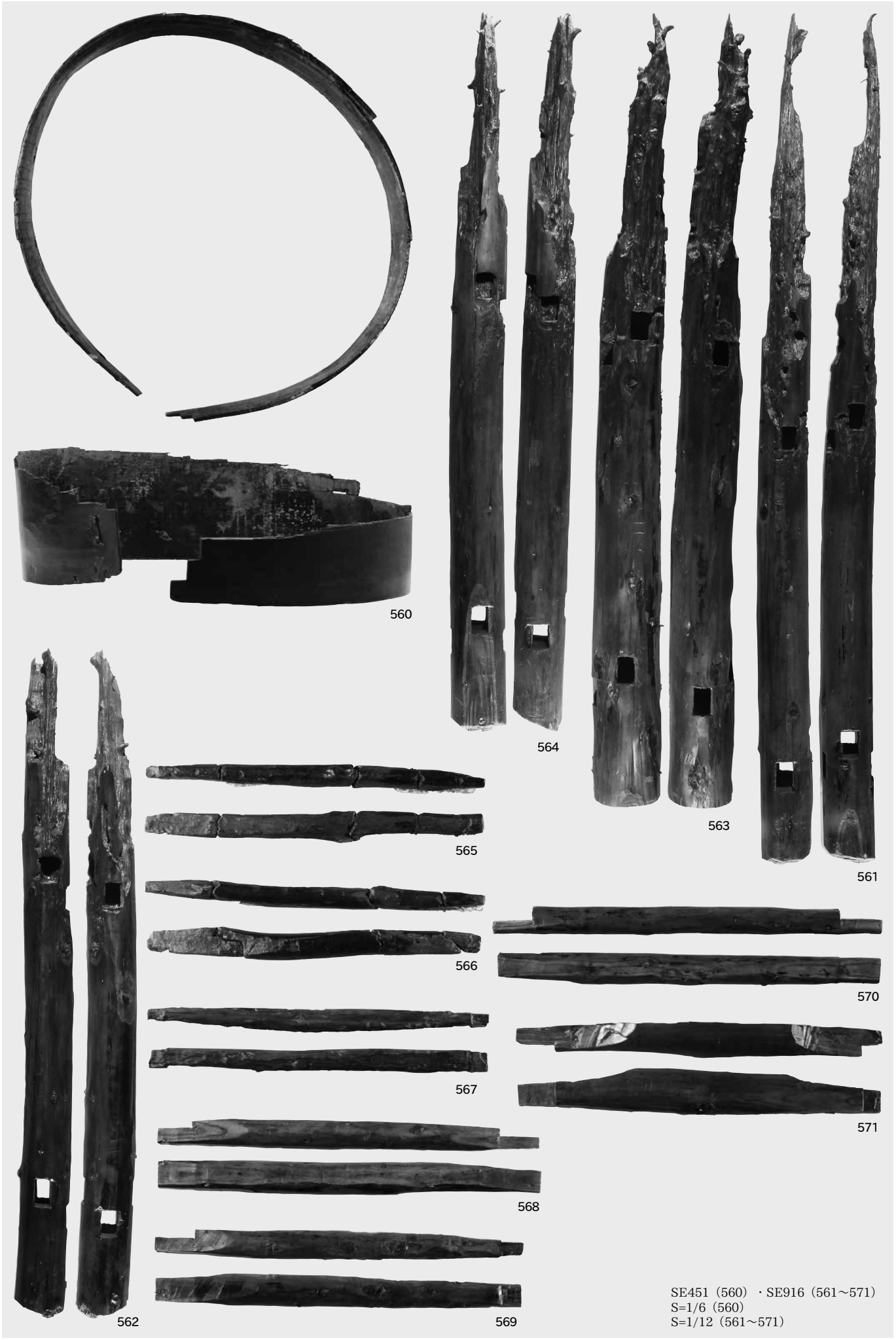

544

541

545

遺構外（527～529.533）・SD518（525）・SK917（535）
SE1102（536）・SX1（537～540）・SD1200（541～545）
S=1/2（529）　S=2/3（537～540）　S=4/5（532.533）
S=1/3（530.531.534～536.541～545）
S=1/4（526～528）　S=1/8（525）

SD1200（548～559）
S=1/3（549.550）
S=1/6（546～548）
S=1/12（551～559）



SE451（560）・SE916（561～571）
S=1/6（560）
S=1/12（561～571）

572

573

574

575

576 577

578

579

580

581

SE916（572～581）
S=1/12（572～581）

報告書抄録

ふりがな	あらまちみなみしんでんいせき
書名	荒町南新田遺跡
副書名	北陸新幹線関係発掘調査報告書
巻次	ＸＶ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 210 集
編著者名	金内　元・小村正之・宮　宏明・竹内順一・村端和樹（株式会社ノガミ）、千葉博俊・高橋　敦・斉藤崇人・松元美由紀（パリノ・サーヴェイ株式会社）、相沢　央（新潟市教育委員会）、前嶋　敏（新潟県立歴史博物館）、高橋保雄（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）
編集機関	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社ノガミ
所在地	〒 956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981 財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒 950-1136　新潟県新潟市江南区曽川甲 527-3　　TEL　025（280）6620 株式会社ノガミ
発行年月日	2010（平成 22）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
あらまちみなみしんでん 荒町南新田 いせき 遺跡	にいがたけんじょうえつしおお 新潟県上越市大 あざあらまちあざみなみしんでん 字荒町字南新田 286 番地ほか	15222	1504	37 度 05 分 14 秒	138 度 14 分 33 秒	20080417 ～ 20081128	12,021	北陸新幹線建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
荒町南新田遺跡	集落跡	弥生時代後期	竪穴住居 1 棟、平地建物 1 棟、土坑 12 基、溝 5 条、性格不明遺構 4 基	弥生土器、ガラス製小玉
	集落跡	古墳時代 （前期後半～中期、7 世紀前葉～中葉）	竪穴住居 11 棟、円形周溝状遺構・平地建物 4 棟、土坑 5 基、溝 1 条	土師器、須恵器、石錘、敲石、管玉、耳環、曲柄平鍬、杭
	集落跡	古代 （8 世紀前葉～中葉、9 世紀前葉～中葉）	掘立柱建物 26 棟、井戸 2 基、土坑 16 基、道 3 条、溝 7 条、性格不明遺構 5 基	土師器、須恵器、凹石、砥石
	集落跡	中世 （12 世紀末～ 13 世紀前半、14 世紀後半～ 15 世紀後半）	掘立柱建物 40 棟、井戸 40 基、土坑 17 基、溝 18 条、畑作溝 1 群、性格不明遺構 4 基	土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸美濃焼、砥石、石臼、刀子、銭貨、五輪塔、多字一石経、井戸側

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 210 集

北陸新幹線関係発掘調査報告書ＸＶ

荒町南新田遺跡

平成 22 年 3 月 30 日印刷　編集・発行　新潟県教育委員会

平成 22 年 3 月 31 日発行

〒 950-8570　新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒 956-0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 ハイングラフ

〒 950-2022　新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号
電話　025（233）0321